青森県埋蔵文化財調査報告書　第264集

野木遺跡 II

― 青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 ―

（第 2 分 冊）

1999年3月

青森県教育委員会

目　　次

（第１分冊）

序

例　言

目　次

第１章　調査の概要　（第１分冊～第３分冊）

第１節　調査に至る経過 …… 1

第２節　調査の要項 …… 3

第３節　調査の方法 …… 4

第４節　調査の経過 …… 4

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置 …… 5

第２節　基本層序 …… 6

第３章　東　区

第１節　古代の遺構と出土遺物 …… 16

1　竪穴住居跡　（301H～365H） …… 16

（第２分冊）

1　竪穴住居跡　（367H～497H） …… 233

（第３分冊）

2　土坑 …… 521

3　その他の遺構 …… 597

（1）焼土状遺構 …… 597

（2）溝状遺構 …… 603

（3）畝状遺構 …… 621

（4）掘立柱建物跡 …… 624

第２節　遺構外出土遺物 …… 625

（1）土師器 …… 625

（2）須恵器 …… 637
（3）その他の遺物 …… 637

（第４分冊）
第４章　西　区
第１節　検出遺構とその出土遺物 …… 657
1　竪穴住居跡 …… 657
2　土坑 …… 703
3　その他の遺構
（1）溝状遺構 …… 713
（2）焼土状遺構 …… 720
第２節　遺構外の出土遺物 …… 721

写真図版 …… 723

（第５分冊）
第５章　自然科学分析
第１節　土師器の蛍光Ｘ線分析 …… 745
第２節　放射性炭素年代測定 …… 752
第３節　プラント・オパール分析、花粉分析 …… 758

第６章　まとめ …… 777

写真図版 …… 779

引用参考文献 …… 1133

報告書抄録 …… 1135

第３章　東　区

第１節　古代の遺構と出土遺物

１　竪穴住居跡

第367号竪穴住居跡（図186～図190）

［位　置］　ＮＫ～ＮＭ－465～467グリッドに位置する。

［重　複］　第455号・第456号・第459号住居跡、第307号溝と重複し、第455号・第456号・第459号住居跡より新しく、第307号溝より古い。

［平面形・規模］　東壁７ｍ55cm、西壁７ｍ50cm、南壁７ｍ40cm、北壁７ｍ65cmのほぼ方形である。床面積は55.44㎡である。主軸方位はＮ－83°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁21cm、西壁72cm、南壁71cm、北壁16cmである。床面はほぼ平坦で、粘土と黒褐色土が混入している。

［周　溝］　幅10～37cm、深さ12～28cmの周溝が一巡する。北壁・東壁では壁直下を周溝が巡るのに対して、南壁・西壁では壁から３～31cm程度離れている。フク土の堆積状況と考え併せると、壁のやや内側に周溝を巡らせ、板材を建て壁面と板材の間に土を埋めたと推定される。

［ピット］　ピットは床面で36、貼床下から１つ検出されている。このうちピット１・ピット２・ピット３・ピット７・ピット９は柱穴の可能性がある。それぞれのピットの深さを図中に（　）で示す。

［カマド］　東壁やや南側に構築されている。礫を芯材とし、粘土で覆って築かれている。煙道は半地下式で、住居外に60cmのびる。煙道底面は煙出し方向に向かって緩やかに上昇する。

［その他の施設］　住居北側中央に径１ｍ、深さ80cmの円形のピット８が検出された。貼床下から検出されたピット10は１ｍ80cm×１ｍ60cm、深さ19cmの不整な楕円形である。

［堆積土］　15層に分層される。黒褐色土・暗褐色土を主体とし、全体的に粘土が混入する。自然堆積と考えられる。

［出土遺物］　土師器・須恵器の他に台石・刀子・お引金・棒状鉄製品・羽口が出土している。

［時　期］　出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

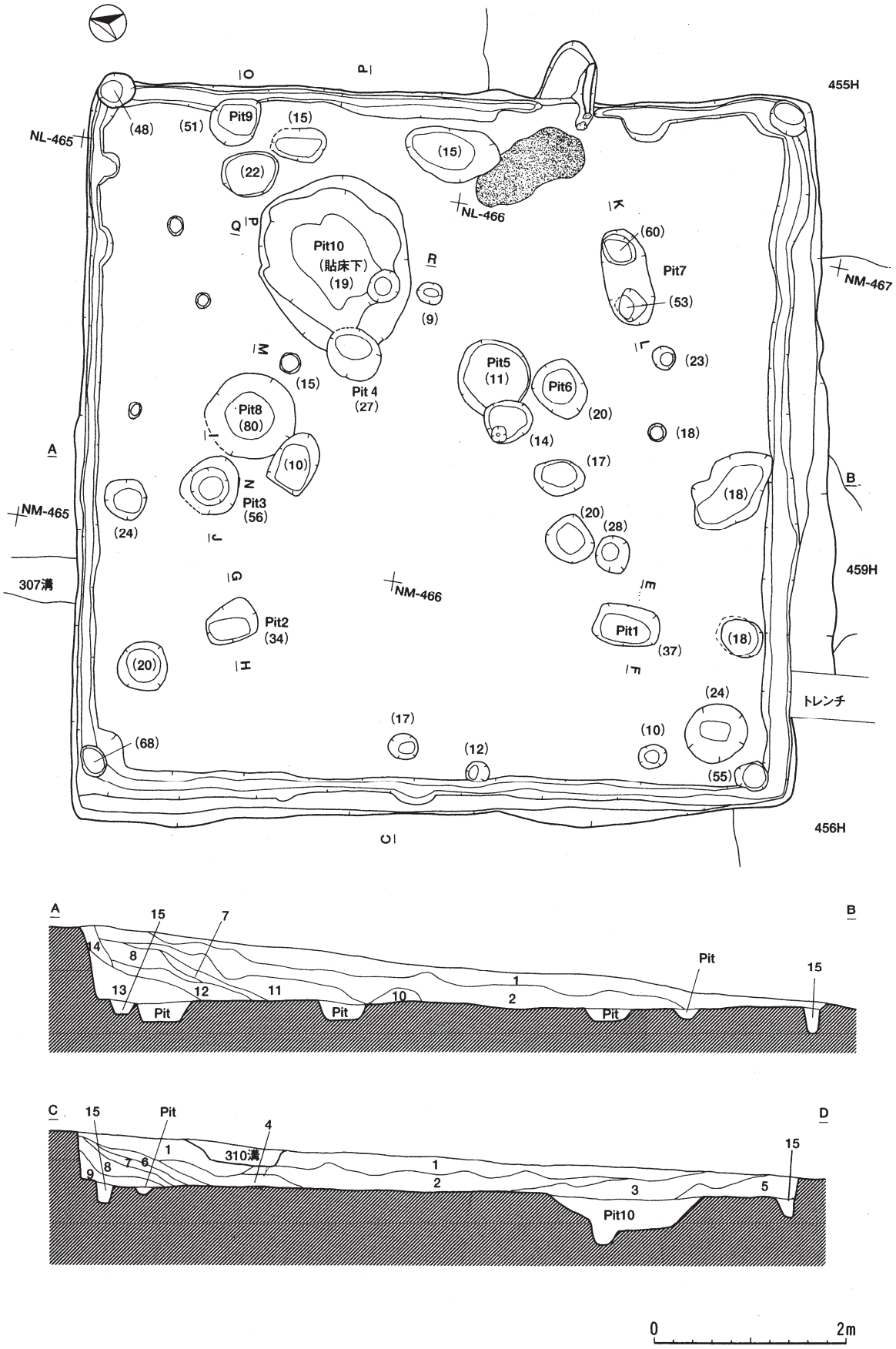
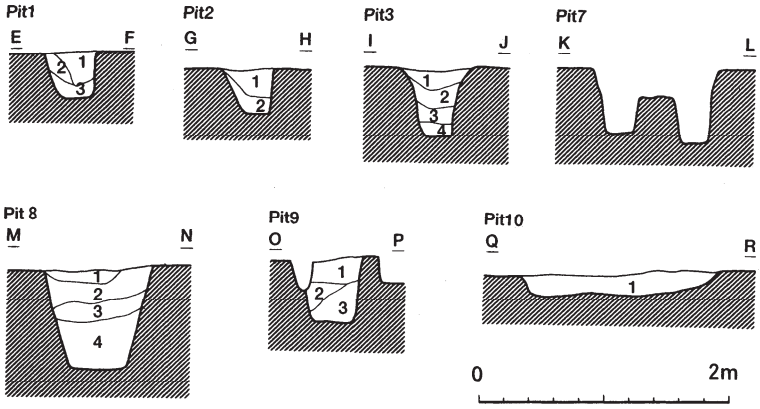


図186　第367号竪穴住居跡（1）



Pit 1

第１層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量
第２層	褐色土	10YR4/4	粘土粒多量
第３層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土ブロック層

Pit 2

第１層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量
第２層	黄褐色土	10YR5/6	ロームブロック層

Pit 3

第１層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・粘土粒微量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒微量
第３層	暗褐色土	10YR3/4	粘土粒中量
第４層	褐色土	10YR4/4	ローム粒多量　粘土粒中量

Pit 8

第１層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量　ローム粒少量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・粘土粒多量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・粘土粒多量
第４層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・粘土粒多量

Pit 9

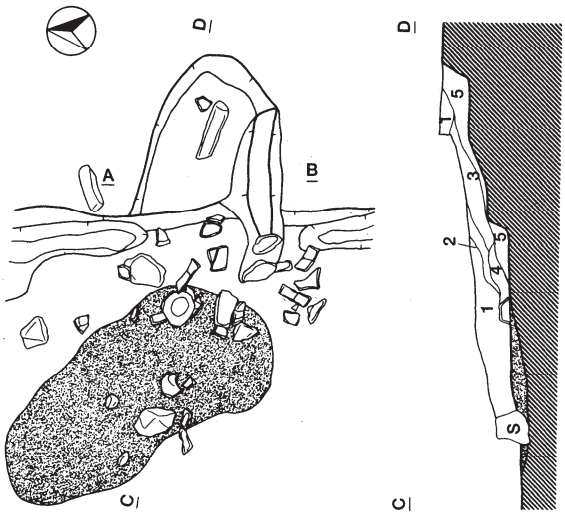
第１層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒中量　ローム粒微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒少量
第３層	暗褐色土	10YR3/4	粘土粒中量

Pit10

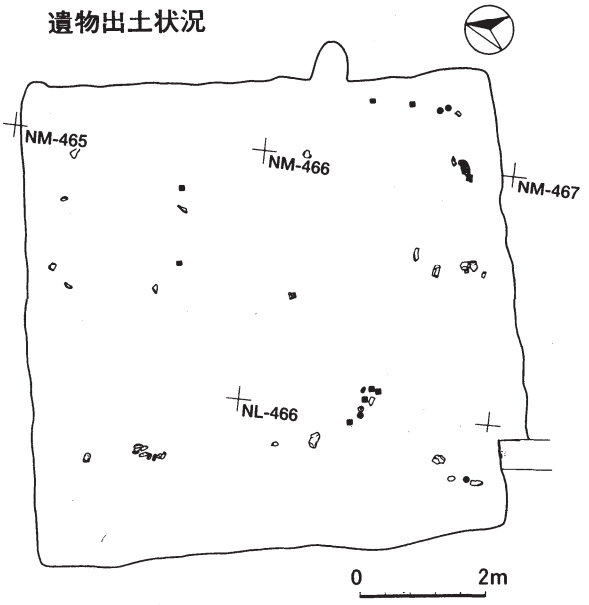
第１層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量　ローム粒中量

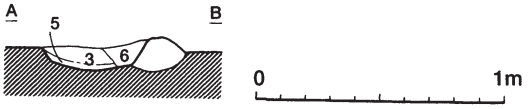
第367号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量　炭化物・粘土粒少量
第２層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量　ローム粒少量
第３層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・焼土粒少量
第４層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物中量　ローム粒・粘土粒少量
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・粘土粒少量
第６層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量　粘土粒少量　炭化物微量
第７層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒中量　ローム粒・粘土粒微量
第８層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒中量　ローム粒・炭化物微量
第９層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒中量　ローム粒微量
第10層	暗褐色土	10YR3/4	粘土層
第11層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量　ローム粒少量
第12層	暗褐色土	10YR3/4	粘土粒多量　炭化物少量
第13層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量
第14層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒少量
第15層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量　炭化物少量



遺物出土状況

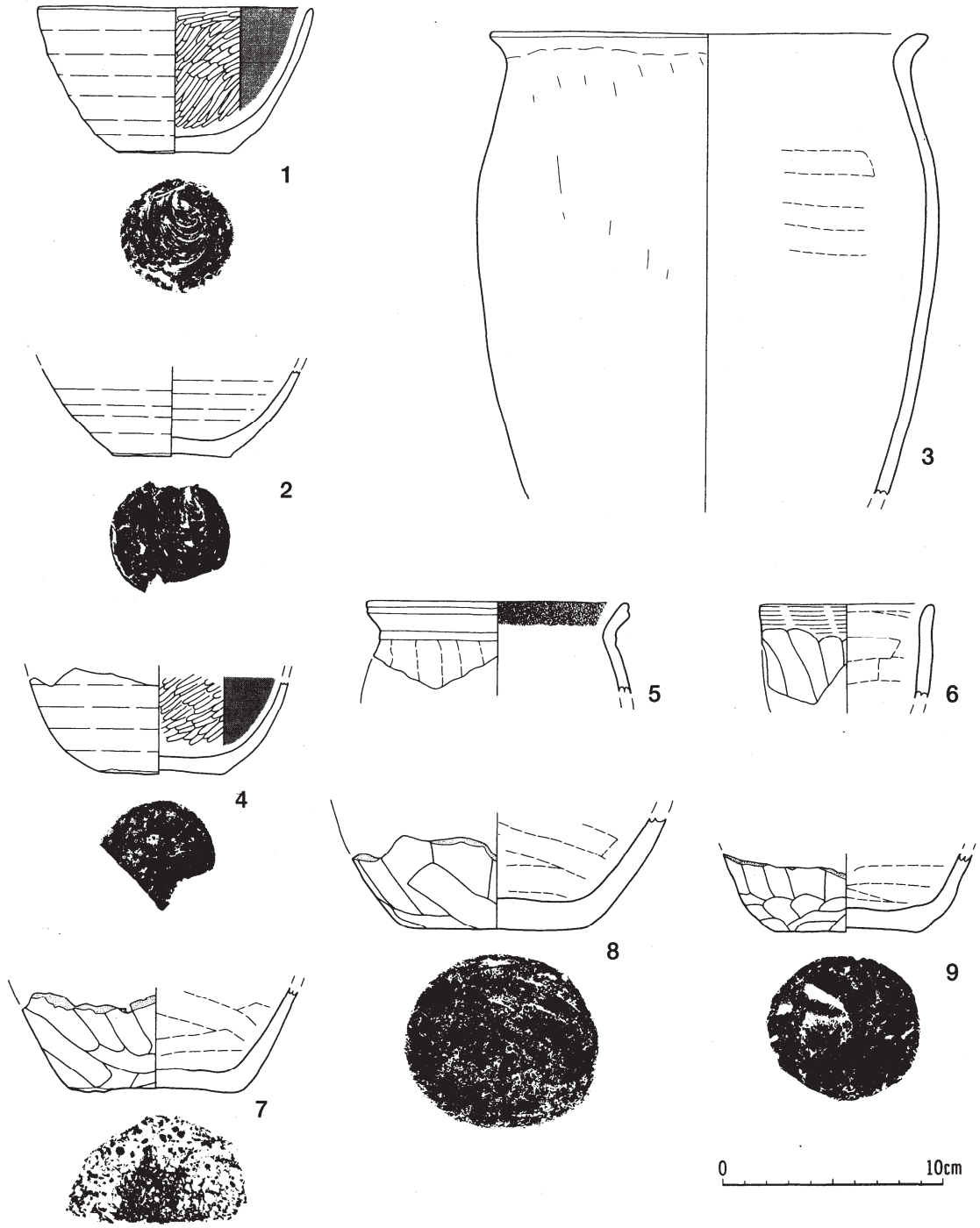




カマド

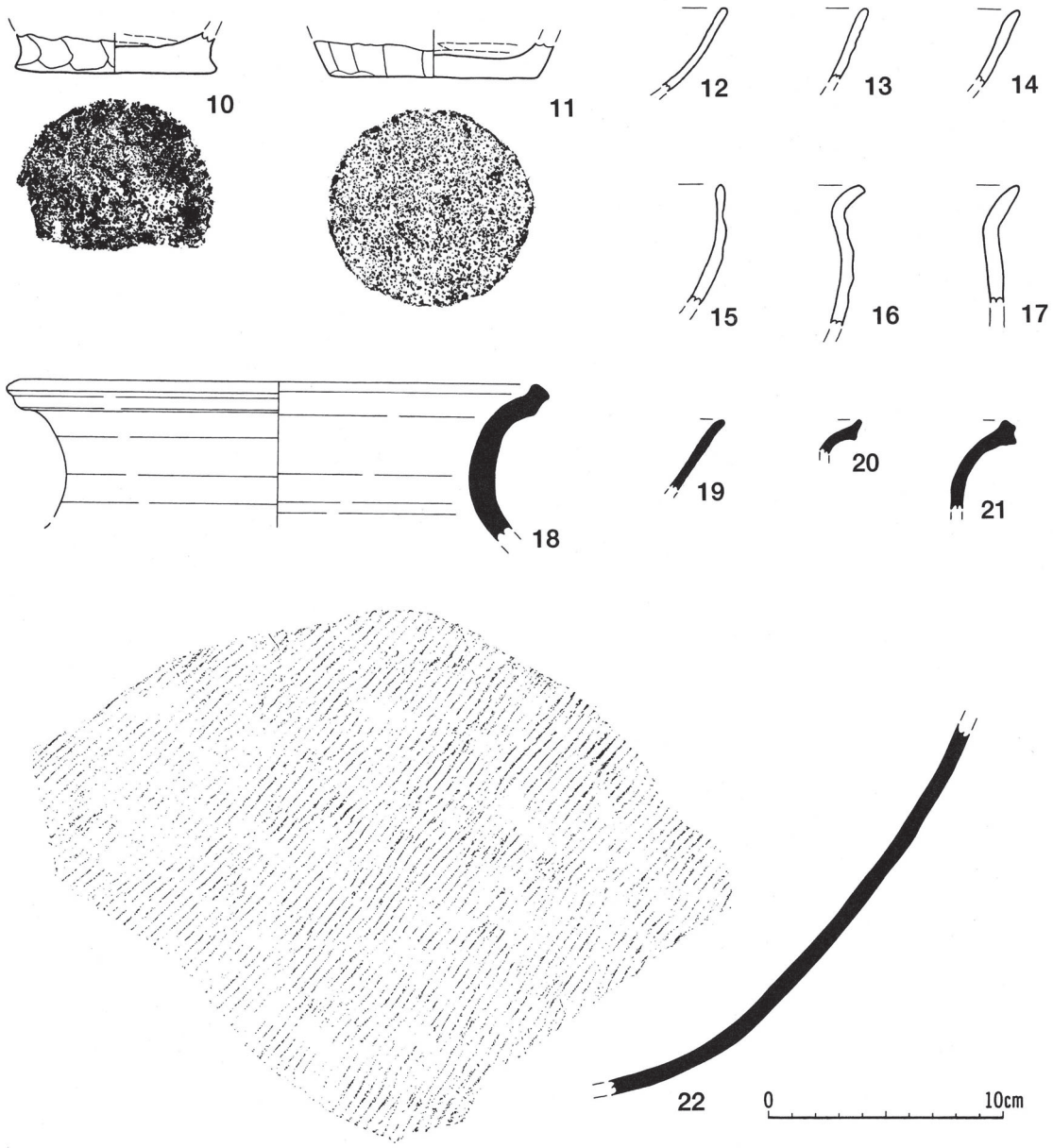
第１層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒少量	ローム粒微量
第２層	明褐色土	7.5YR5/6	焼土粒中量	
第３層	赤褐色土	5YR4/6	焼土層	
第４層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒多量	粘土粒中量
第５層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒中量	焼土粒少量
第６層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒多量	粘土粒中量

図187　第367号竪穴住居跡（２）



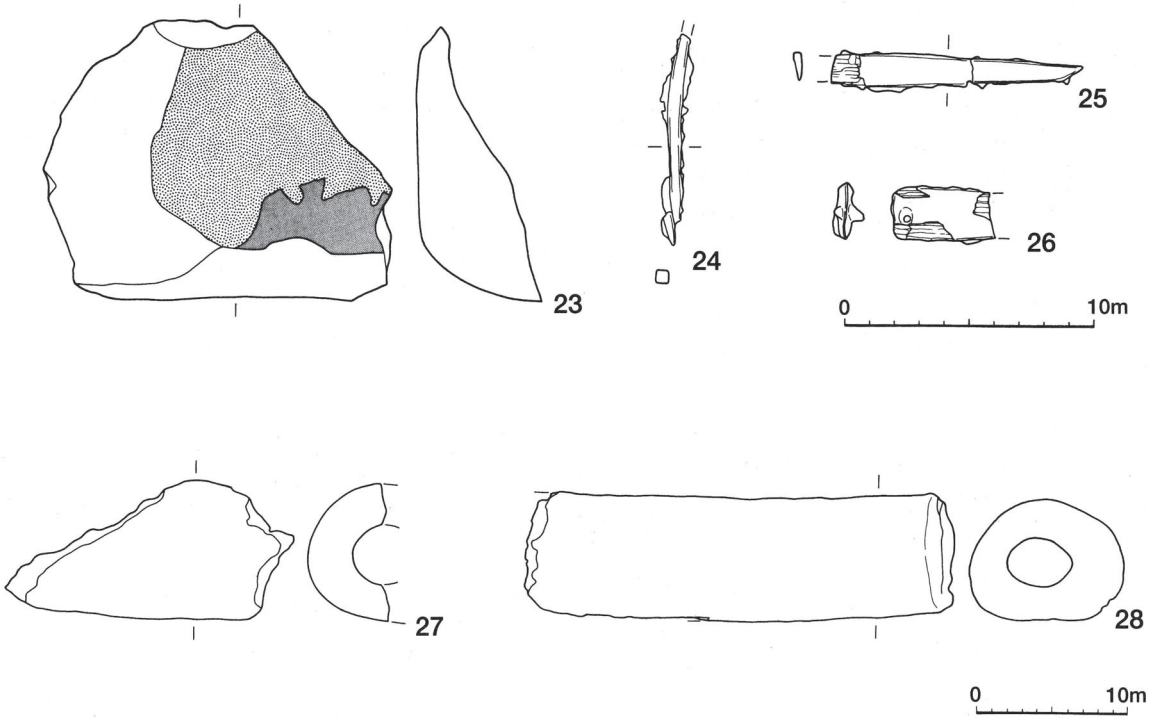
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	カマドフク土	12.8	6.7	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠb	内面黒色処理 P-501
2	土師器	坏	周溝	—	(4.0)	(5.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
3	土師器	甕	貼床下 カマドフク土	(20.0)	(21.0)	—	不明	不明	—	不明	ヘラナデ?	—	—	AⅠ	P-506、511、522
4	土師器	坏	フク土	—	(6.0)	(4.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理 P-13
5	土師器	甕	貼床下	(12.0)	(4.2)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	内面にススス状炭化物
6	土師器	甕	Pit3フク土	(8.0)	(4.4)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	AⅢ	
7	土師器	甕	貼床下	—	(4.8)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
8	土師器	甕	カマドフク土	—	(5.2)	8.6	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
9	土師器	甕	カマドフク土	—	(3.6)	(6.8)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	

図188　第367号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	カマド フク土	—	(1.7)	(8.4)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-509
11	土師器	甕	カマド フク土	—	(2.1)	9.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-510
12	土師器	坏	フク土	(12.0)	(3.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	ピット6、7 内面黒色処理
13	土師器	坏	フク土	(12.0)	(3.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	内面黒色処理
14	土師器	坏	フク土	—	(3.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	内面黒色処理
15	土師器	坏	フク土	(11.0)	(5.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	内面黒色処理 P-15
16	土師器	甕	フク土	(19.0)	(6.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	—	B	
17	土師器	甕	床直	(23.0)	(4.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
18	須恵器	甕	フク土	(23.2)	(6.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面繊維付着 P-7
19	須恵器	坏	床面		(3.1)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面火ダスキ痕
20	須恵器	壷	フク土		(1.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
21	須恵器	壷	フク土		(3.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-8
22	須恵器	甕	フク土		(18.5)	—	—	—	タタキ目	—	—	あて具痕	—	—	P-2

図189　第367号竪穴住居跡出土遺物（2）

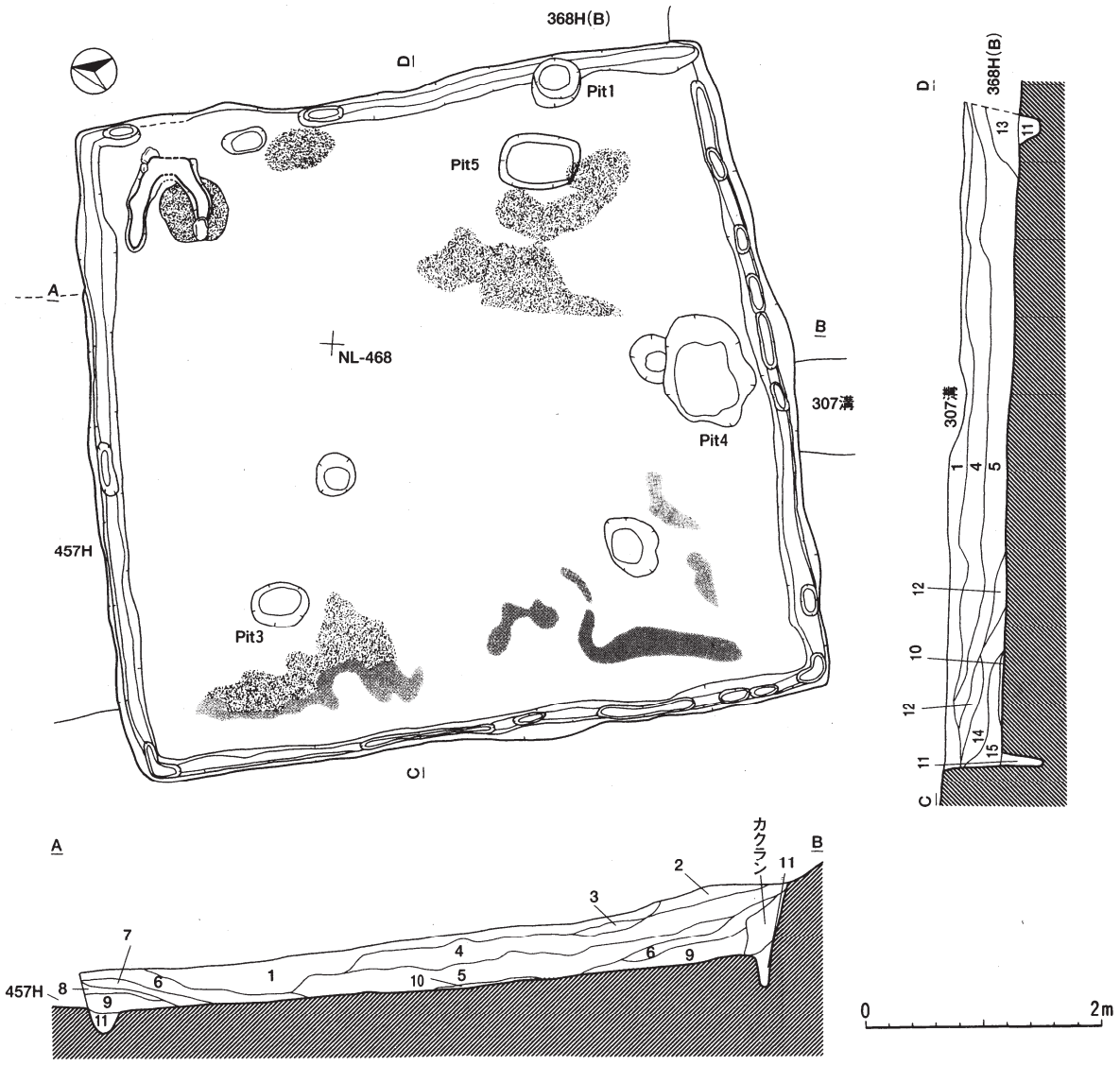


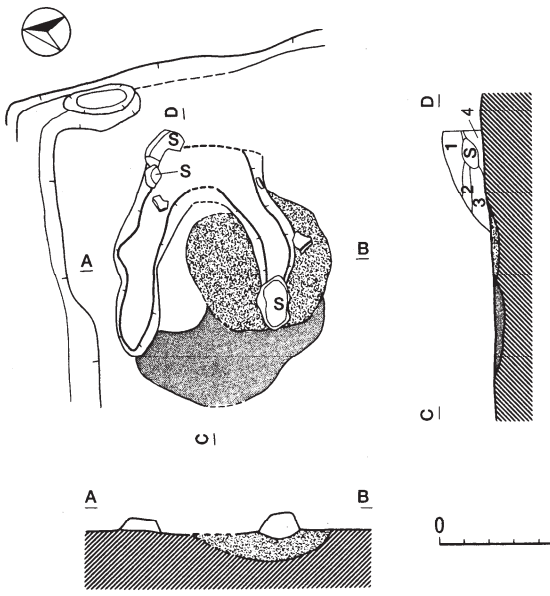
図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
23	フク土	10.8	13.5	4.8	790	安	台石	S-1　黒褐色物質付着

図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
24	フク土	8.5	0.6	0.5	5.1	棒状	Fe-12
25	フク土	10.0	1.2	0.3	12.5	刀子	Fe-7
26	フク土	4.1	2.3	1.2	7.2	苧引金	Fe-3　木質部残存

図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
27	フク土	(19.2)	(9.2)×(5.5)	—	(540)	不明		
28	カマドフク土	(28.7)	8.1×10.3	3.2×4.4	(2,160)	C	ケズリ	芯材

図190　第367号竪穴住居跡出土遺物（3）





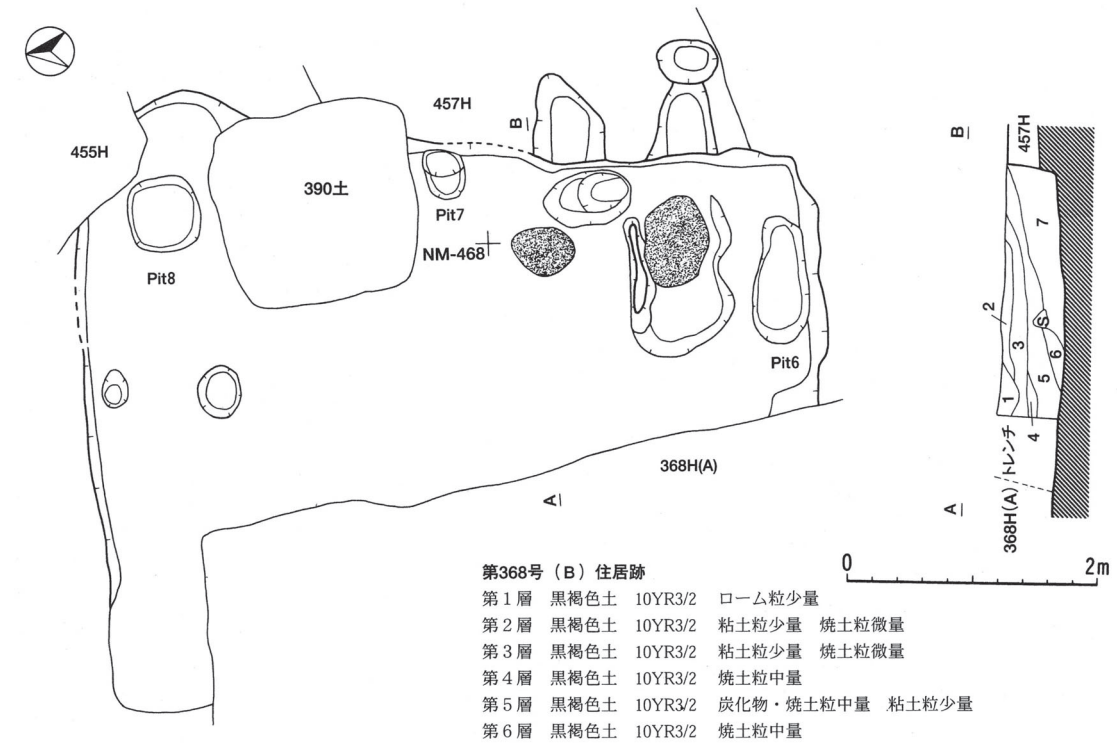
第368号（A）住居跡

第1層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒少量	焼土粒微量
第2層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	粘土層	しまりあり
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量	
第4層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒少量	焼土粒微量
第5層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	焼土粒微量
第6層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	炭化物・焼土粒少量
第7層	黒褐色土	7.5YR3/1	焼土粒多量	
第8層	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒多量	ローム粒中量
第9層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量	ローム粒中量
第10層	黒褐色土	7.5YR3/1	焼土粒多量	
第11層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量	
第12層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	ローム粒・焼土粒微量
第13層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	
第14層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量	ローム粒中量
第15層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	ローム粒中量

カマド

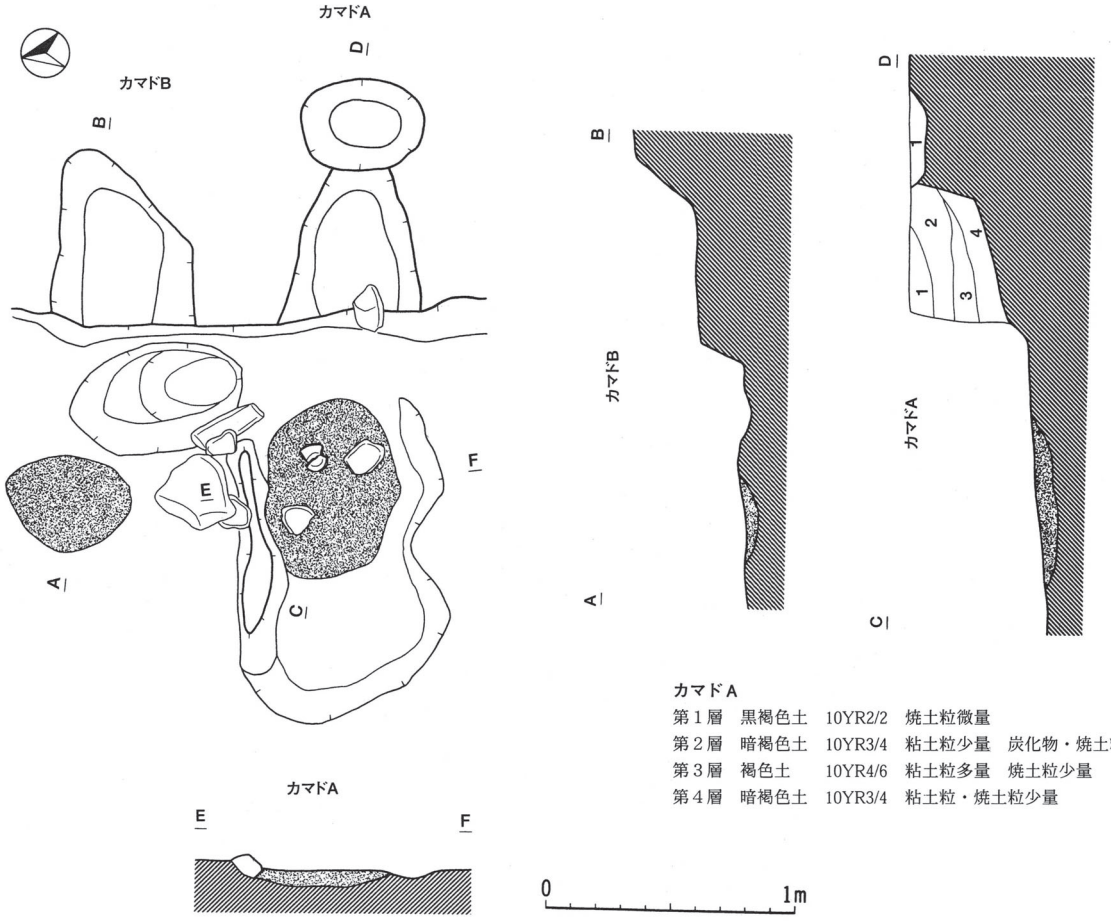
第1層	褐色土	7.5YR4/6	粘土層	
第2層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒多量	
第3層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土粒多量	ローム粒微量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒中量	炭化物少量

図191　第368号(A)竪穴住居跡（1）



第368号（B）住居跡

第１層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第２層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒少量　焼土粒微量
第３層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒少量　焼土粒微量
第４層　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒中量
第５層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物・焼土粒中量　粘土粒少量
第６層　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒中量
第７層　明褐色土　7.5YR5/6　焼土粒中量　ローム粒少量　炭化物微量

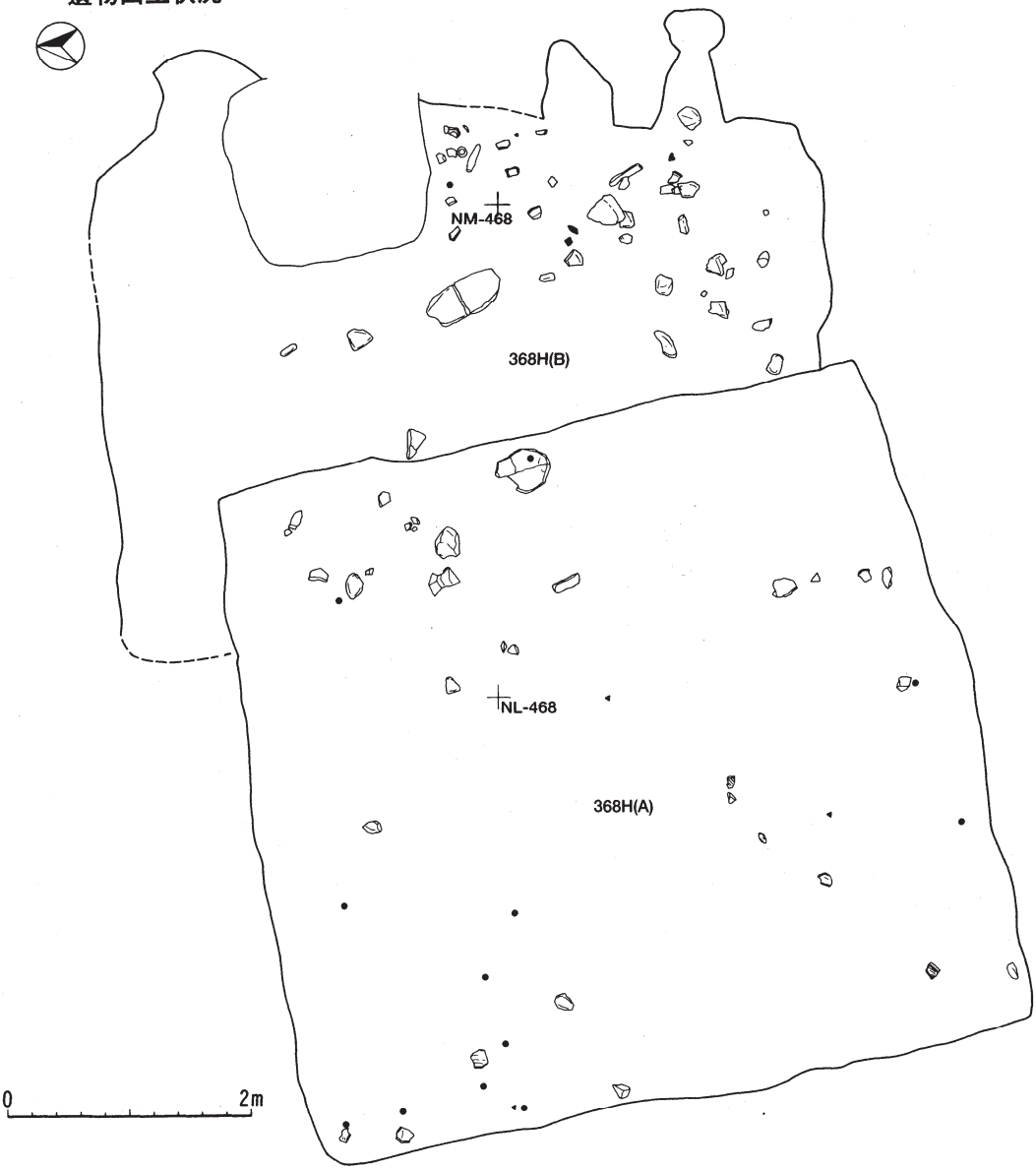


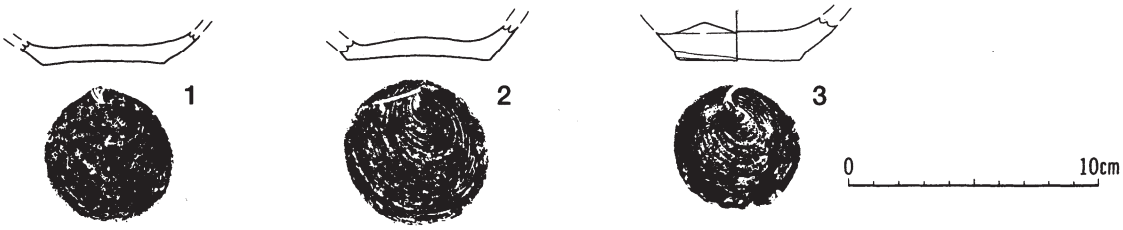
カマドA

第１層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒微量
第２層　暗褐色土　10YR3/4　粘土粒少量　炭化物・焼土粒微量
第３層　褐色土　10YR4/6　粘土粒多量　焼土粒少量
第４層　暗褐色土　10YR3/4　粘土粒・焼土粒少量

図192　第368号(B)竪穴住居跡（１）

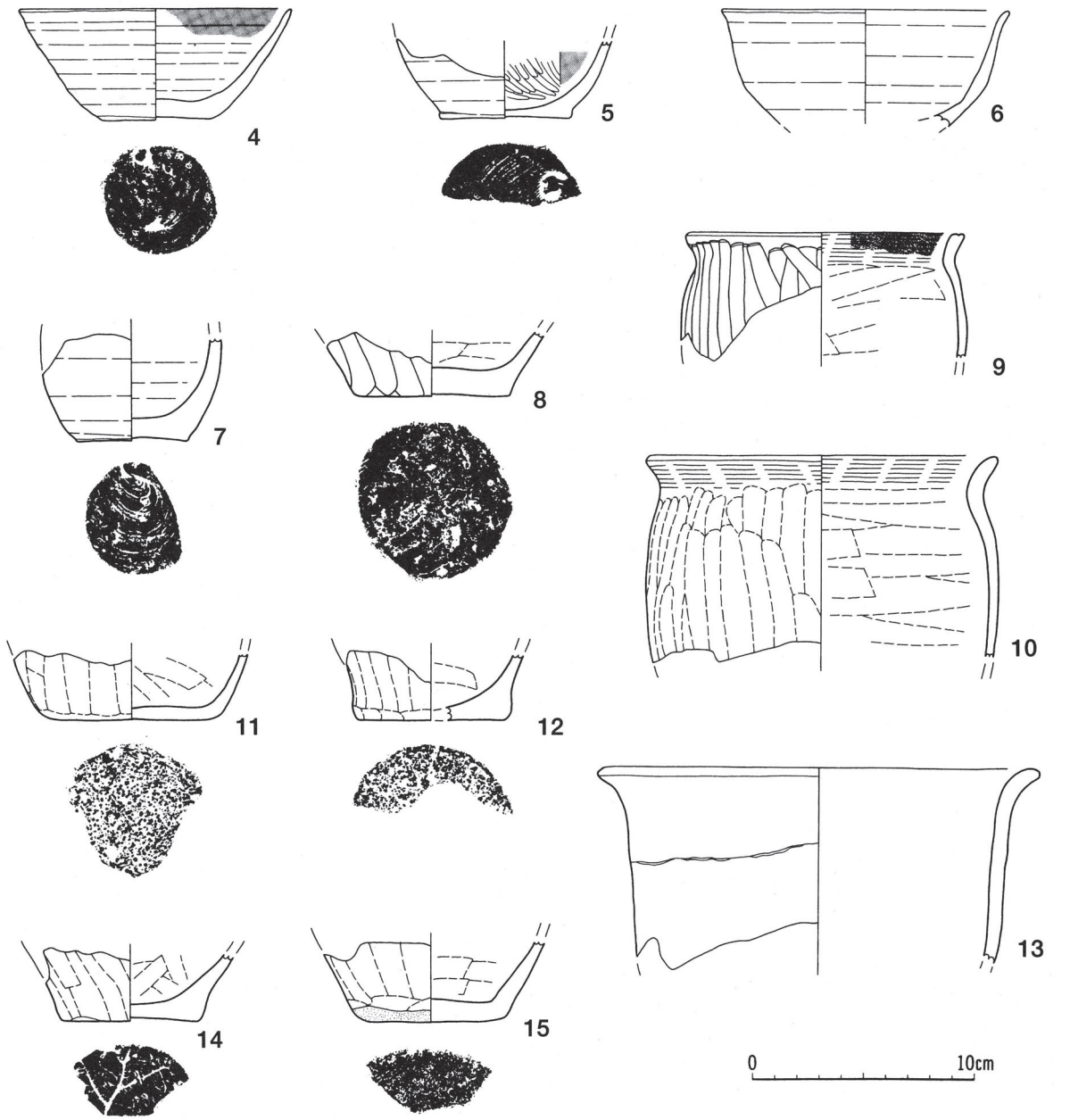
遺物出土状況





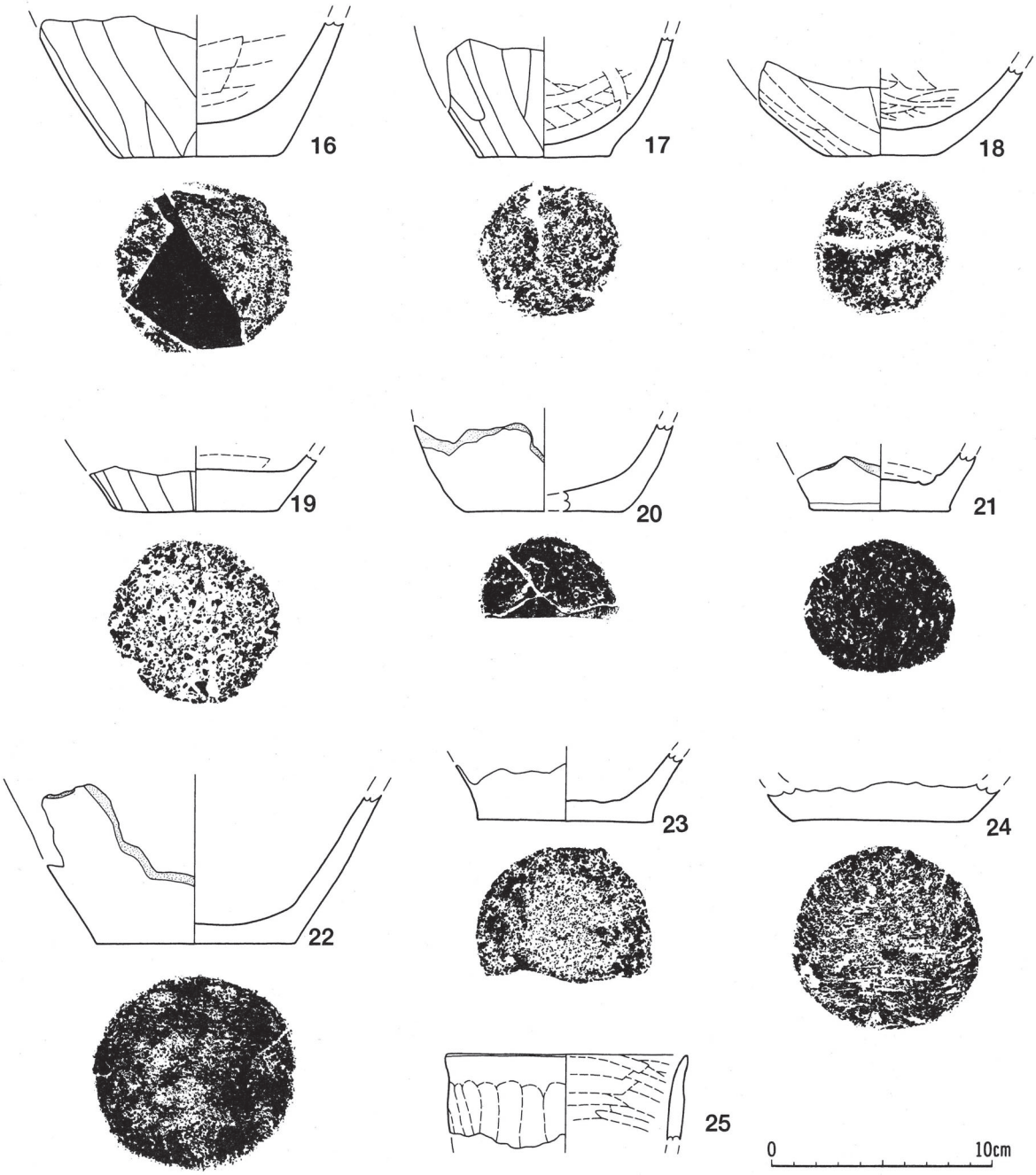
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	—	(1.2)	(5.0)	—	—	ロクロ？	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
2	土師器	坏	フク土	—	(1.4)	(5.8)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理
3	土師器	坏	フク土	—	(1.7)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	

図193　第368号竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）



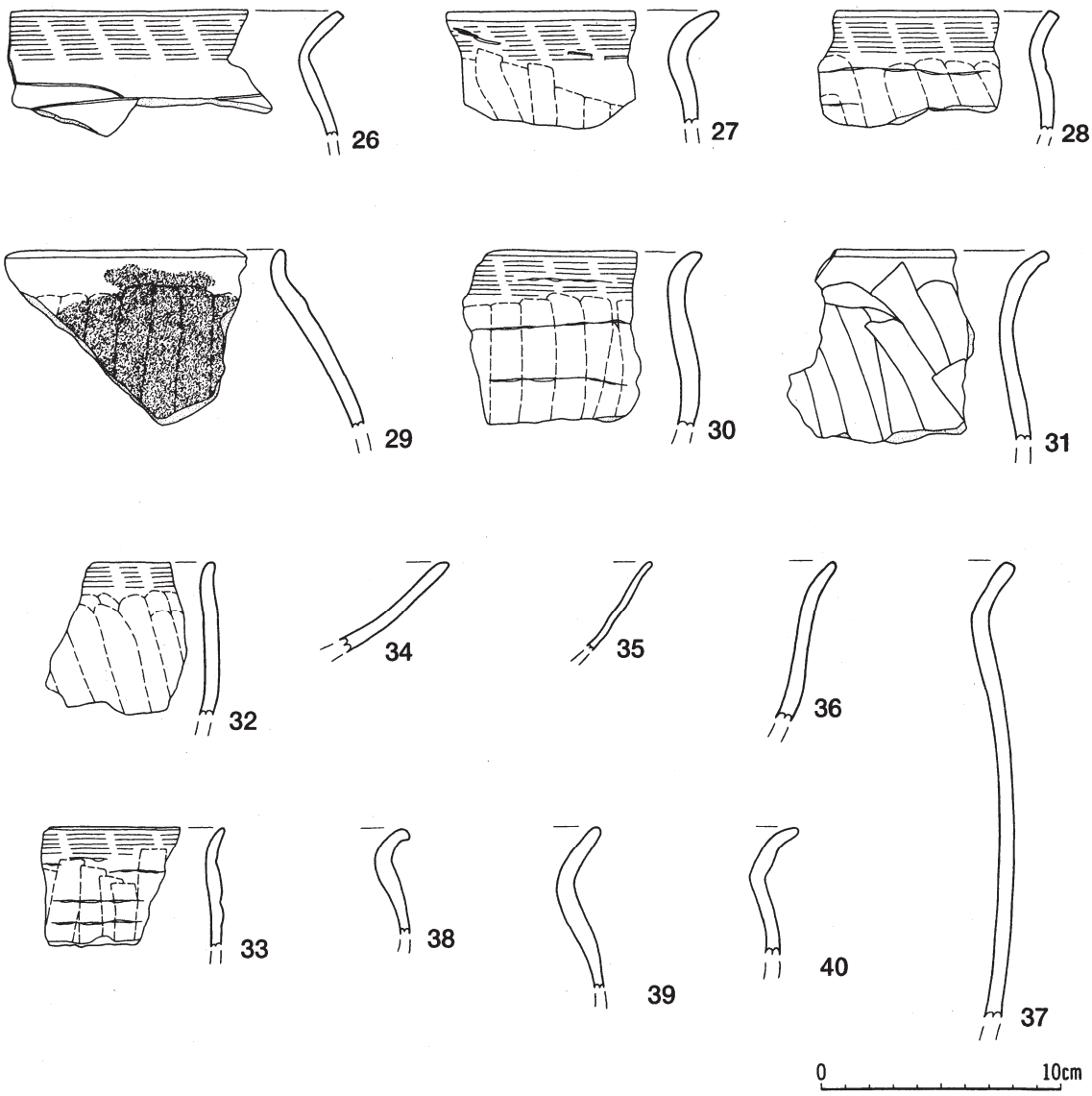
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
4	土師器	坏	フク土	(12.2)	5.0	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	
5	土師器	坏	フク土	—	(3.6)	(6.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理
6	土師器	坏	フク土	13.0	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
7	土師器	壷	フク土	—	(4.8)	5.0	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B	
8	土師器	甕	フク土	—	(3.9)	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
9	土師器	甕	カマド フク土	(12.5)	(5.8)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	口縁部スス状 炭化物付着 P-101
10	土師器	甕	フク土	15.9	(9.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-22
11	土師器	甕	フク土	—	(3.1)	(7.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-53
12	土師器	甕	フク土	—	(3.1)	(7.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ?	砂底	A	
13	土師器	甕	床面	(20.0)	(8.7)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪積痕 P-13、44
14	土師器	甕	フク土	—	(3.3)	(6.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	木葉痕	A	
15	土師器	甕	床面	—	(3.6)	6.0	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-32

図194　第368号竪穴住居跡出土遺物（2）



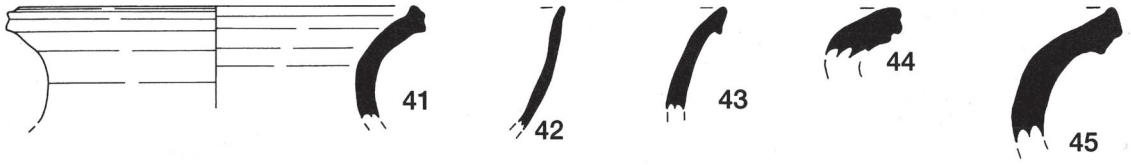
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
16	土師器	甕	フク土	—	(6.4)	7.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-1
17	土師器	甕	フク土	—	(5.2)	6.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
18	土師器	甕	カマドB火床面	—	(4.3)	5.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
19	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	8.2	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
20	土師器	甕	Pit1フク土	—	(4.0)	(7.0)	—	—	不明	—	—	不明	ナデツケ	A	P-54
21	土師器	甕	フク土	—	(2.6)	6.4	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
22	土師器	甕	床直	—	(3.1)	8.0	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A	P-6
23	土師器	甕	床直	—	(1.6)	(8.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-5
24	土師器	甕	床直	—	(7.2)	9.0	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A	P-83、P-26
25	土師器	甕	カマドフク土	(11.0)	(4.2)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	

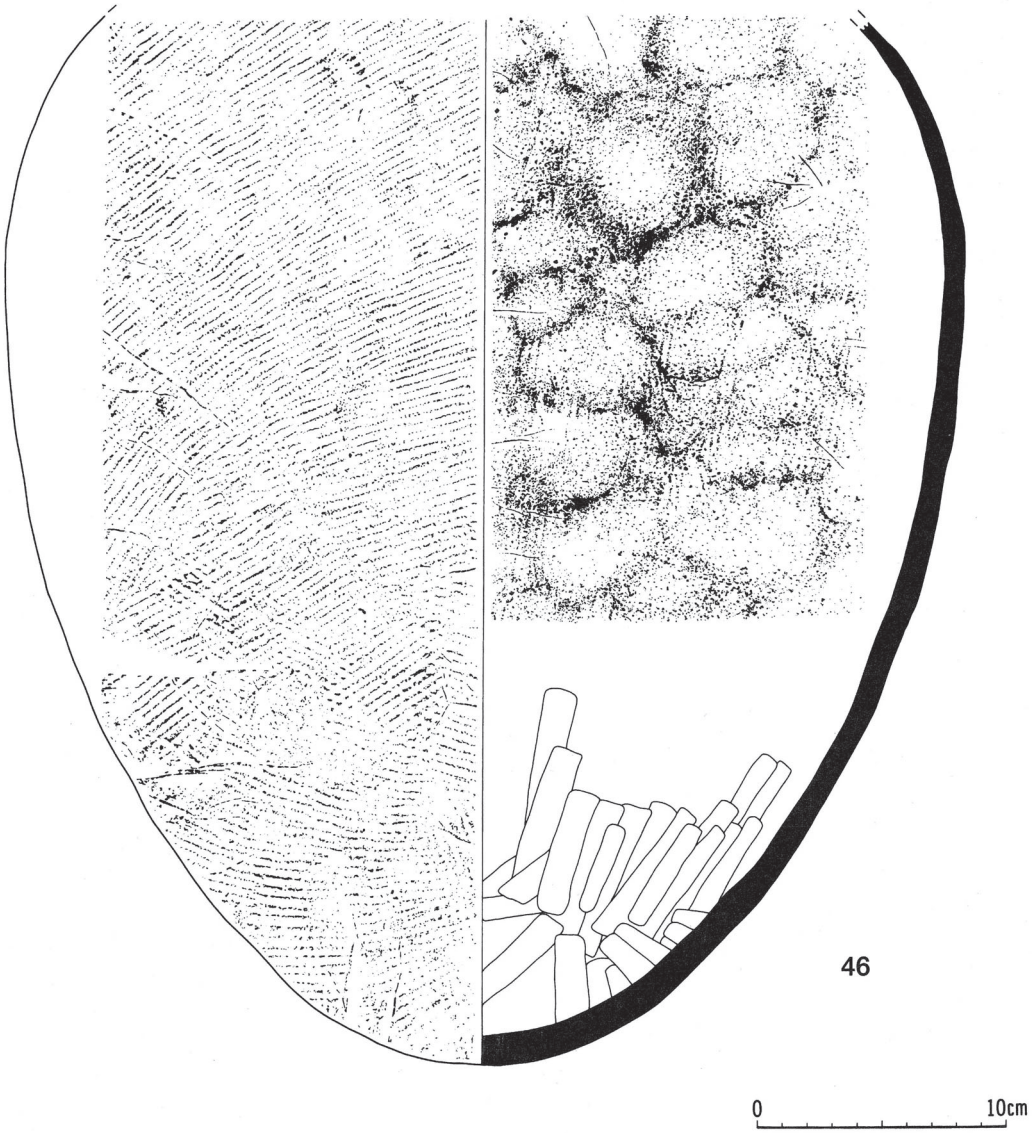
図195　第368号竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
26	土師器	甕	カマド袖	(24.0)	(5.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕　P-103
27	土師器	甕	フク土	(21.0)	(4.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	不明	不明	—	—	A	
28	土師器	甕	カマド袖	(15.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	不明	—	—	A	輪積痕　P-102
29	土師器	壷	Pit7 フク土	(26.0)	(7.3)	—	ヨコナデ?	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着　P-51
30	土師器	甕	カマド火床面	(18.0)	(7.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
31	土師器	甕	床面	(20.0)	(8.0)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	—	A	P-37
32	土師器	甕	床直	(12.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
33	土師器	甕	フク土	(24.0)	(4.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
34	土師器	坏	フク土	(15.0)	(5.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
35	土師器	坏	フク土	(12.8)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
36	土師器	坏	フク土	(20.0)	(6.9)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	B?	
37	土師器	甕	フク土	(17.2)	(18.5)	—	不明	ヘラケズリ	—	不明	ヘラナデ	—	—	A	
38	土師器	甕	カマドフク土	(16.0)	(4.5)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
39	土師器	甕	フク土	(20.0)	(6.8)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
40	土師器	甕	床直	(23.0)	(5.4)	—	ヨコナデ	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

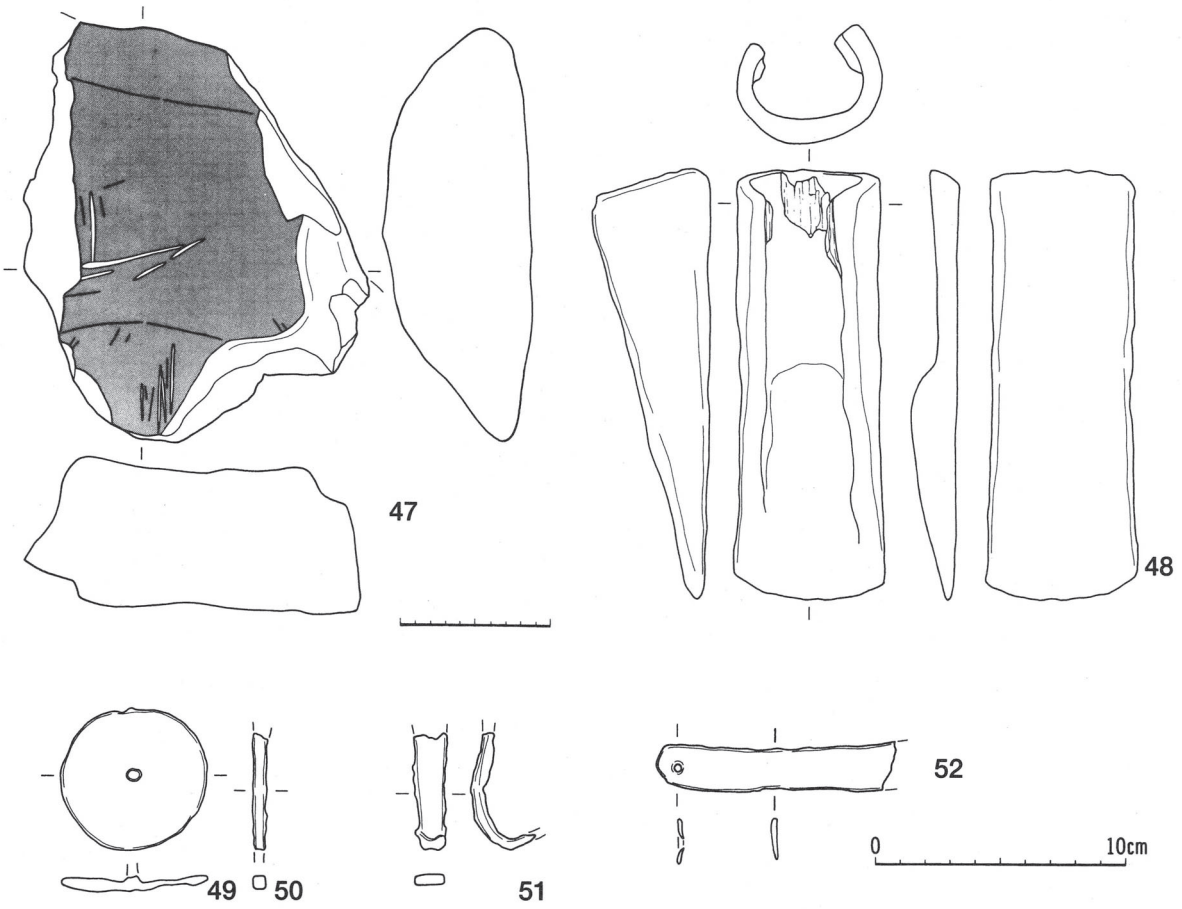
図196　第368号竪穴住居跡出土遺物（4）





図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
41	須恵器	甕	フク土	(15.8)	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
42	須恵器	坏	フク土	—	(4.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外面火ダスキ痕
43	須恵器	壺	フク土	—	(4.1)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
44	須恵器	甕	フク土	—	(2.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
45	須恵器	甕	フク土	—	(5.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	肩部ヘラナデ	—	—	—	P-9
46	須恵器	甕	床面	—	(41.8)	—	—	タタキ目	タタキ目	—	アテ具痕	ヘラケズリ	丸底	—	

図197　第368号竪穴住居跡出土遺物（5）



図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	石質	分類	備考
47	床直	27.5	22.5	9.7	7,690	流	砥石	S-9 被熱、炭化物付着

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
48	フク土	17.2	5.7	1.0	847.0	鉄斧	Fe-1 木質部残存
49	フク土	5.7	5.9	0.6	23.3	紡錘車	Fe-2
50	フク土	4.6	0.5	0.6	3.4	紡錘車	Fe-2
51	フク土	4.7	1.2	0.5	10.9	鉤状	Fe-4
52	床直	9.5	1.6	0.3	8.5	苧引金	Fe-3

図198　第368号竪穴住居跡出土遺物（６）

第368号（Ａ）竪穴住居跡（図191～図198）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ－467・468グリッドに位置する。

［重　複］　第368号（Ｂ）・第456号住居跡・第307号溝と重複し、第368号（Ｂ）・第456号住居跡より新しく、第307号溝より古い。本住居跡は第368号住居跡として調査していたが、床面で重複が確認されたため、本住居跡を368号（Ａ）住居跡とした。

［平面形・規模］　東壁５ｍ38cm、西壁５ｍ90cm、南壁５ｍ58cm、北壁５ｍ54cmのほぼ方形である。床面積は28.15㎡である。

［壁・床面］　東壁は重複により検出できなかった。壁高は、西壁46cm、南壁69cm、北壁40cmである。床面は、粘土とロームが混入した黒褐色土を踏みしめており、南から北に40cm傾斜している。

［周　溝］　幅９～34cm、深さ２～23cmの周溝がほぼ一巡する。本住居を一巡する周溝によって第368号（B）住居跡との重複が確認できた。

［ピット］　検出されたピットは８つで、このうちピット１・ピット２・ピット３が柱穴と考えられる。ピット１は径41cm、深さ68cmの円形で、ピット２は50×44cm、深さ32cmの不整な円形、ピット３は50×38cm、深さ23cmの楕円形である。

［カマド］　東壁北側に構築されている。礫を芯材とし、粘土で覆って築いている。第368号（B）住居跡と重複していたためカマドが設置されている東壁は検出できず、煙道・煙出しが確認できなかった。検出できた部分から、煙道は半地下式で、底面は煙出し方向に緩やかに上昇すると推定される。

［その他の施設］　南壁ほぼ中央に70cm、深さ10cmの不整楕円形のピット４が検出された。

［堆積土］　15層に分層される。黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が混入する。自然堆積である。

［出土遺物］　土師器の坏・甕・壷、須恵器の坏・壷・大甕のほか、砥石、鉄斧・紡錘車・お引金・鈎状鉄製品などの鉄製品が出土している。

［時　期］　出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

第368号（B）竪穴住居跡（図191～図198）

［位　置］　ＮＬ・ＮＭ－467・468グリッドに位置する。

［重　複］　第368号（A）・第455号・第456号住居跡・第387号土坑・第307号溝と重複し、第456号住居跡より新しく、第368号（A）・第455号住居跡・第387号土坑・第307号溝より古い。本住居跡は第368号住居跡として調査していたが、床面で重複が確認されたため、本住居跡を第368号（B）住居跡とした。

［平面形・規模］　西壁は第368号（A）住居跡との重複により残存せず、南壁は２ｍ残存する。東壁５ｍ50cm、北壁５ｍである。床面積は16.20㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁14cm、南壁77cm、北壁12cmである。床面は地山粘土を堅く踏みしめており、ほぼ平坦で、かなり堅緻である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　ピットは６つ検出されたが、柱穴とは考えられない。

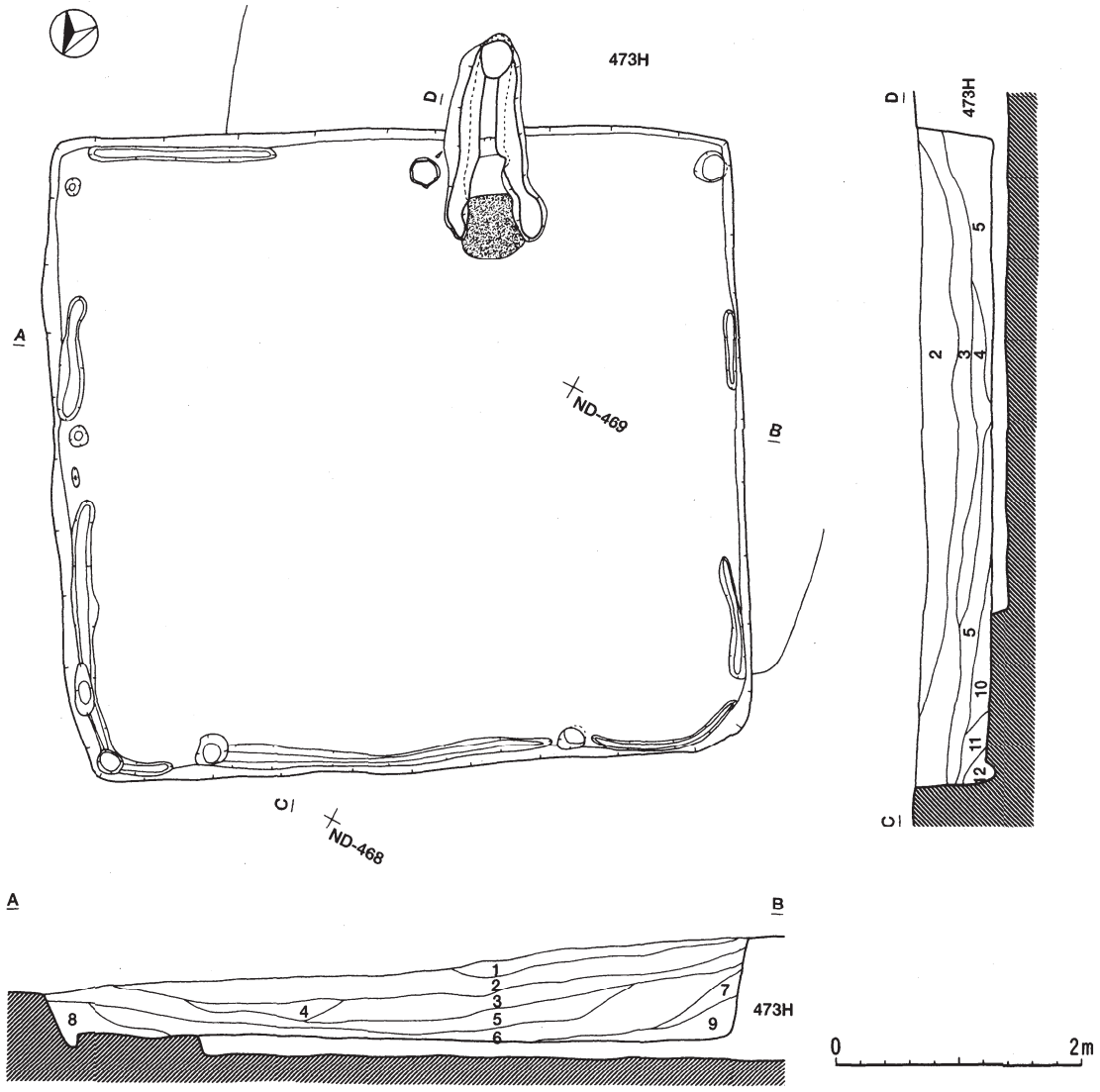
［カマド］　東壁南側に２つのカマドが検出された。南側のカマドＡは袖は粘土で築かれている。芯材に用いたと考えられる礫が出土している。カマドの周辺は床面より６～７cm低く掘りくぼめられている。北側のカマドＢは火床面のみ検出され、袖は残存しなかった。このことからカマドＡがカマドＢより新しいことがわかる。２つのカマドの煙道・煙出しは、第457号住居跡と重複しているため、明確には検出できなかったが、第457号住居跡の床面に溝状の掘り込みがみとめられ、これが本住居跡の煙道の底面と考えられる。

［その他の施設］　南壁直下に１ｍ４cm×44cm、深さ20cmの不整な楕円形のピット６、東壁中央に40×31cm、深さ19cmの不整な楕円形のピット７、北東隅に一辺60cm、深さ17cmの方形のピット８が検出された。

［堆積土］　７層に分層される。黒褐色土を主体とするが、７層は粘土質土である。

［時　期］　重複関係から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

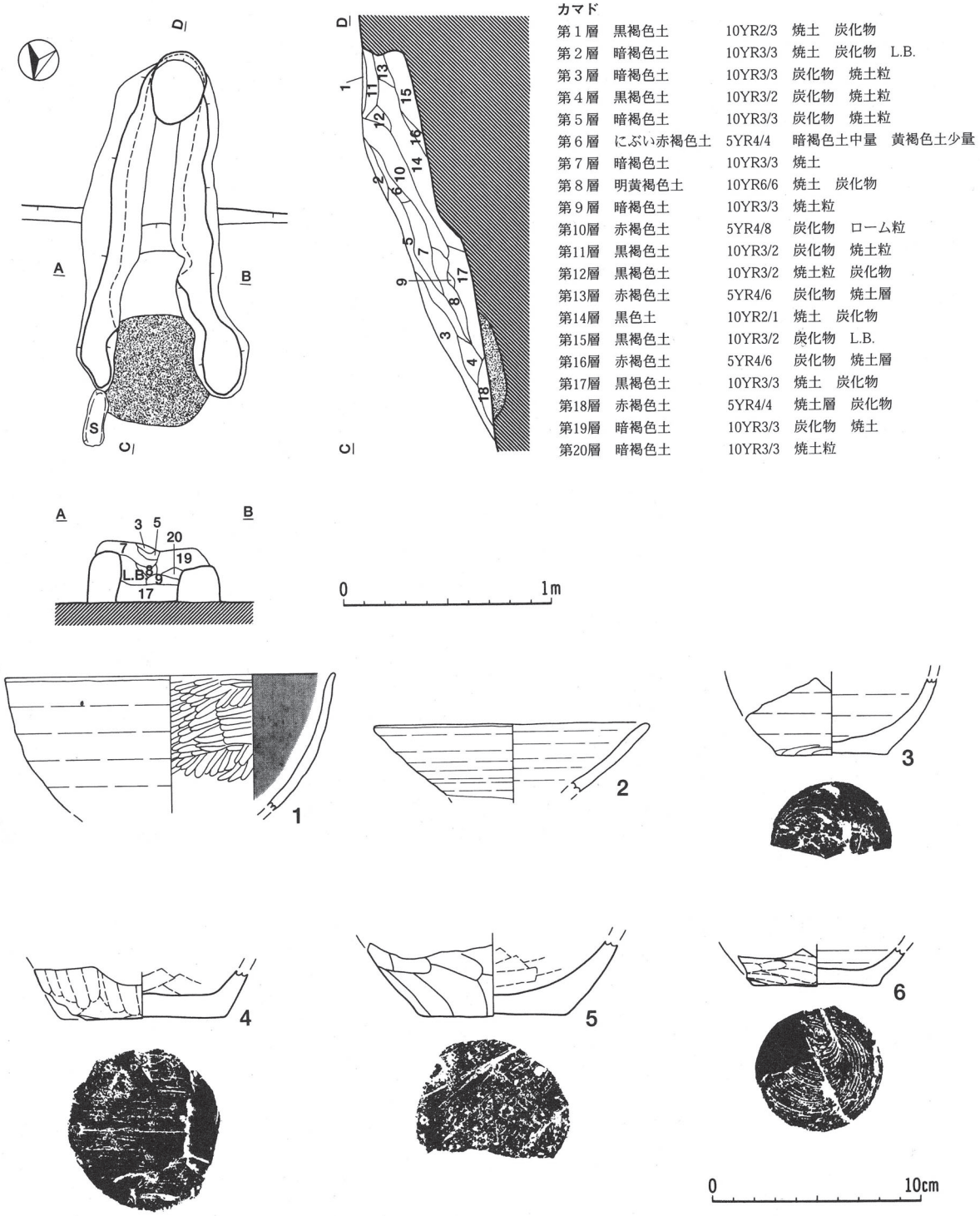
（田中珠美）



第369号住居跡

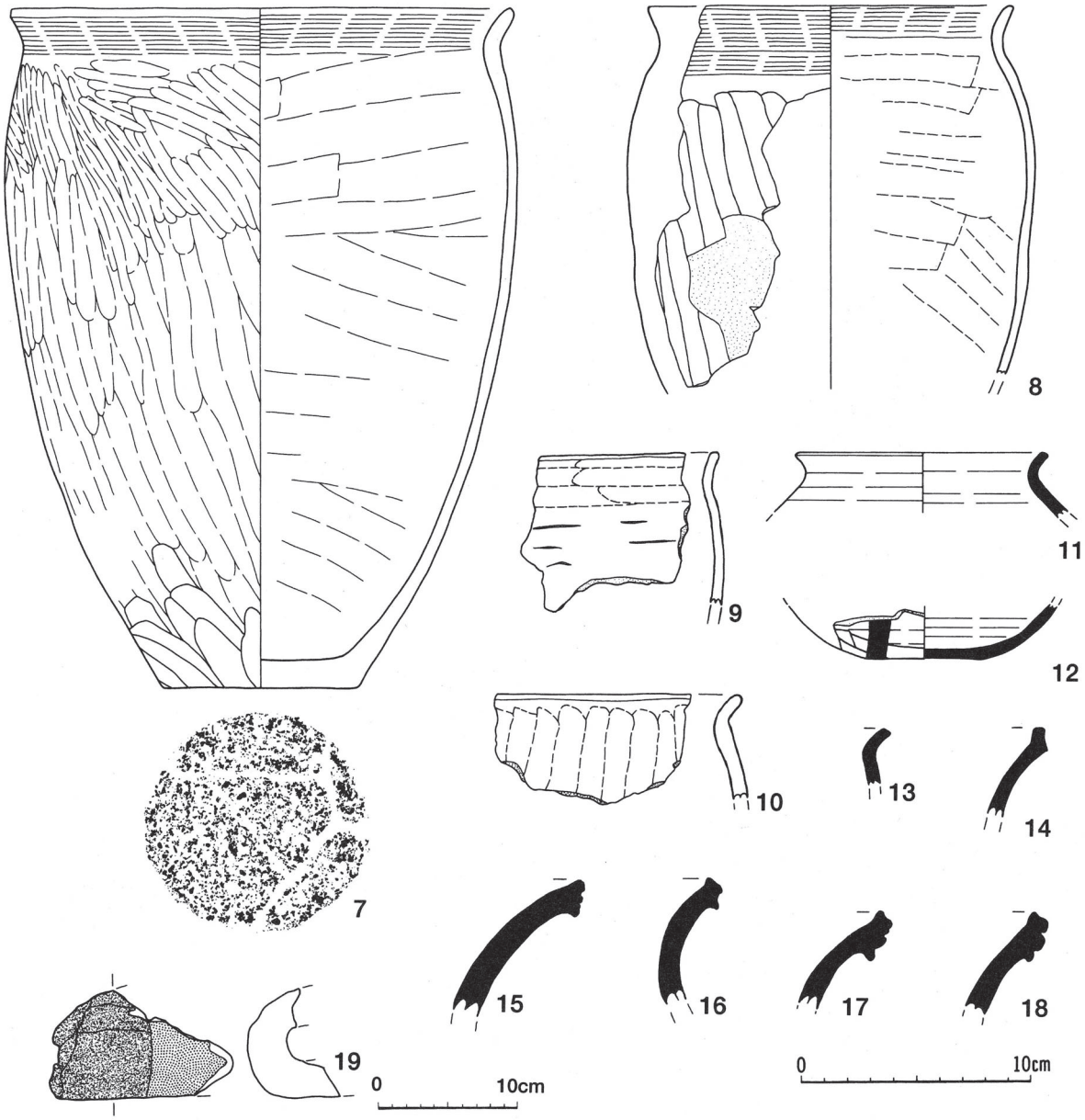
第１層　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒　L.B.　炭化物　To-a混入
第２層　黒色土　10YR3/1　焼土L.B.
第３層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物　焼土粒　L.B.
第４層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物　焼土　L.B.
第５層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物　焼土　L.B.　B-Tm混入
第６層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物　焼土　L.B.
第７層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物　焼土　L.B.　To-a混入
第８層　黒褐色土　10YR3/2　焼土　L.B.　炭化物
第９層　暗褐色土　10YR3/3　L.B.　炭化物
第10層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物　焼土
第11層　黒褐色土　10YR2/3　焼土　炭化物　L.B.
第12層　褐色土　10YR4/4　炭化物　焼土

図199　第369号竪穴住居跡（１）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(16.0)	(6.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	内面黒色処理
2	土師器	皿	フク土	—	(3.6)	(13.2)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	BⅡ	P-3、9
3	土師器	坏	床直	—	(3.7)	(5.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-6
4	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
5	土師器	甕	床直	—	(7.0)	(3.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-5
6	土師器	坏	床面	—	(1.8)	(6.2)	—	—	ヘラナデ	—	—	ロクロ	回転糸切り	A	

図200　第369号竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
7	土師器	甕	床面	22.1	29.7	8.6	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	AⅠd	P-3
8	土師器	甕	床面	(16.0)	(16.7)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅡ	P-3
9	土師器	甕	フク土	(14.0)	(6.8)	—	ヘラナデ	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内外面輪積痕
10	土師器	甕	フク土	(16.0)	(4.8)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
11	須恵器	甕	フク土	(10.4)	(2.8)	—	ロクロ		—	ロクロ	—	—	—	—	
12	須恵器	坏	フク土	—	(2.4)	(5.0)	—	—	ロクロ 一部ケズリ	—	—	ロクロ	切離し後ヘラケズリ	—	外面火ダスキ痕
13	須恵器	甕	フク土	—	(2.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
14	須恵器	壺	フク土	(12.0)	(4.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
15	須恵器	甕	フク土	—	(6.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
16	須恵器	甕	フク土	(19.4)	(6.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	輪積痕
17	須恵器	甕	フク土	—	(3.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
18	須恵器	甕	フク土	—	(4.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
19	床直	(13.5)	(7.8)×(6.8)	—	(320)	B	—	羽口-1

図201　第369号竪穴住居跡出土遺物（２）

第369号竪穴住居跡（図199～図201）

［位　置］　ＮＣ～ＮＥ－469グリッドに位置する。

［重　複］　第473号・第495号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］　東壁５ｍ20cm、西壁４ｍ85cm、南壁５ｍ50cm、北壁５ｍ35cmで北西隅が丸い方形である。床面積は21.07㎡である。主軸方位はＮ－154°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁42cm、西壁78cm、南壁63cm、北壁34～72cmである。床面は東側にやや凸凹する面があるが、ほぼ平坦である。

［周　溝］　幅７～21cm、深さ１～18cmの周溝が断片的にみられる。

［ピット］　検出されたピットは６個である。いずれも浅く柱穴とは考えられない。

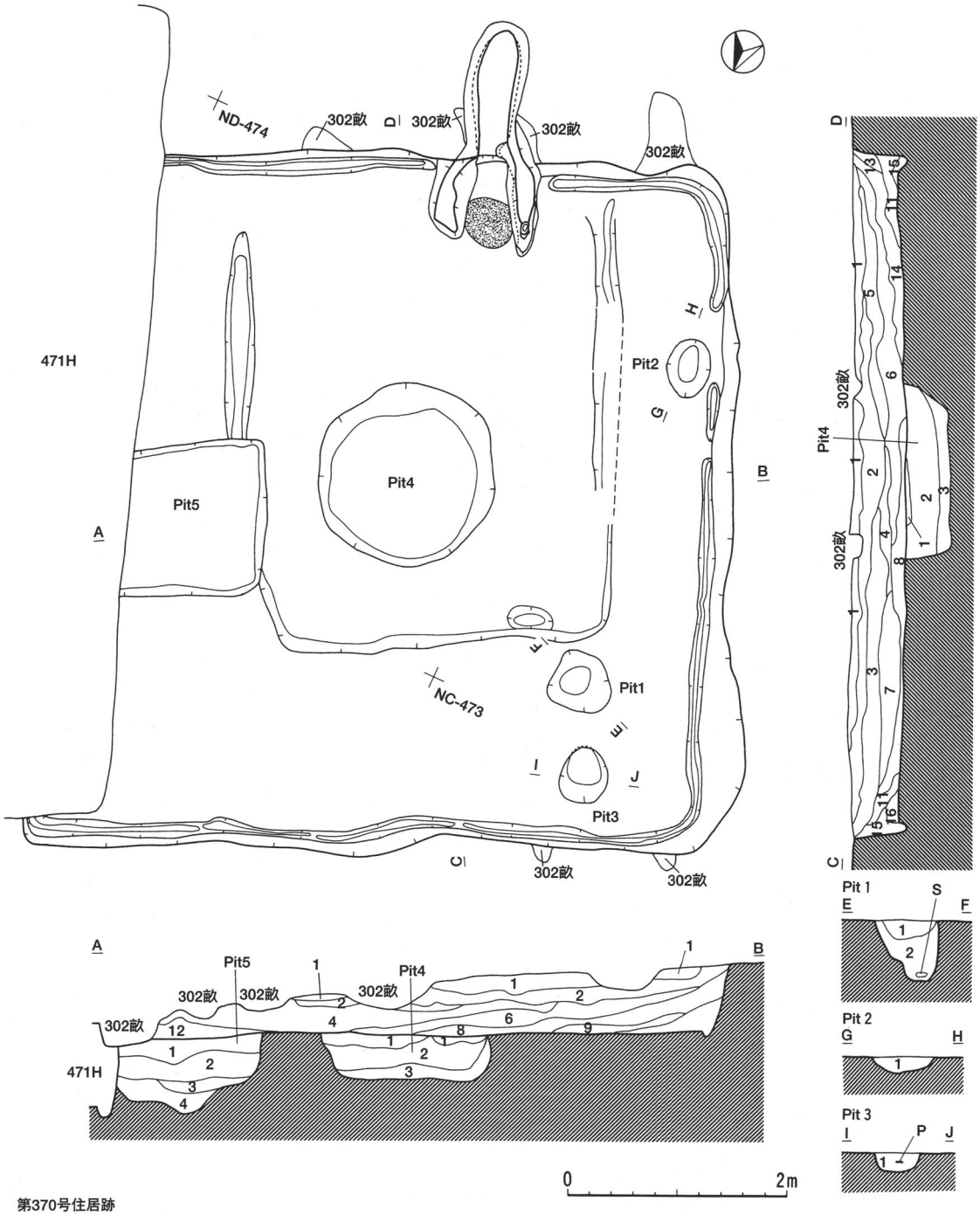
［カマド］　南壁西側に構築されている。礫を芯材に転用し、粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で住居跡外に78cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は12層に分層され、１、７層にＴｏ－ａ、５層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。自然堆積と考える。

［出土遺物］　床面及び床面直上から土師器の坏、甕や羽口が出土しているほか、覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏、甕、壺が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第370号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物・焼土粒・ローム粒少量　B-Tm多量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・焼土粒・ローム粒少量
第３層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・ローム粒中量　焼土粒少量
第４層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物少量　焼土粒・ローム粒中量
第５層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物・焼土粒・ローム粒少量
第６層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・ローム粒中量　焼土粒少量
第７層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物・ローム粒中量　焼土粒少量
第８層　褐色土　10YR4/6　炭化物・焼土粒・ローム粒少量
第９層　黒色土　10YR2/1　炭化物・焼土粒・ローム粒微量
第10層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量　炭化物少量
第11層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物・ローム粒中量　焼土粒少量
第12層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物微量　ローム粒中量
第13層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・ローム粒・焼土粒微量
第14層　褐色土　10YR4/6　炭化物中量　焼土粒微量　ローム粒多量
第15層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物・ローム粒少量
第16層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物少量　ローム粒中量

Pit 1

第１層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　粘土粒多量
第２層　褐色土　10YR4/4　粘土粒多量
第３層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　粘土ブロック層

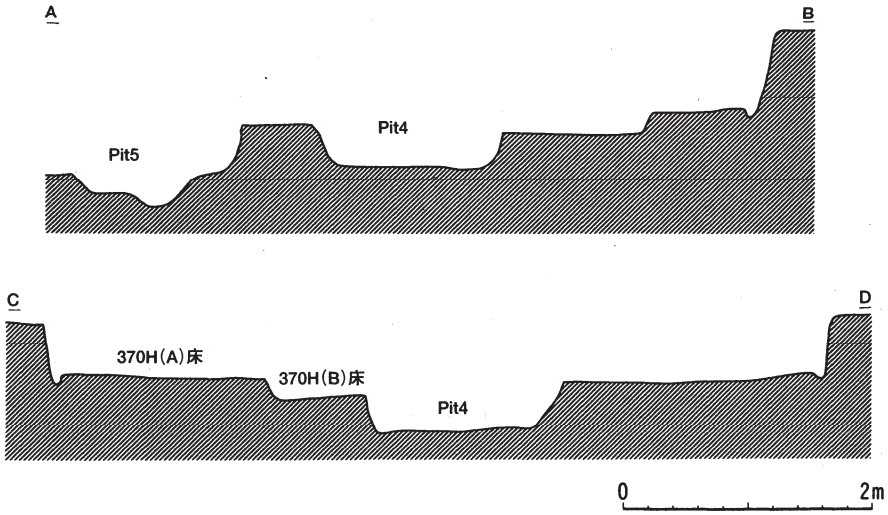
Pit 2

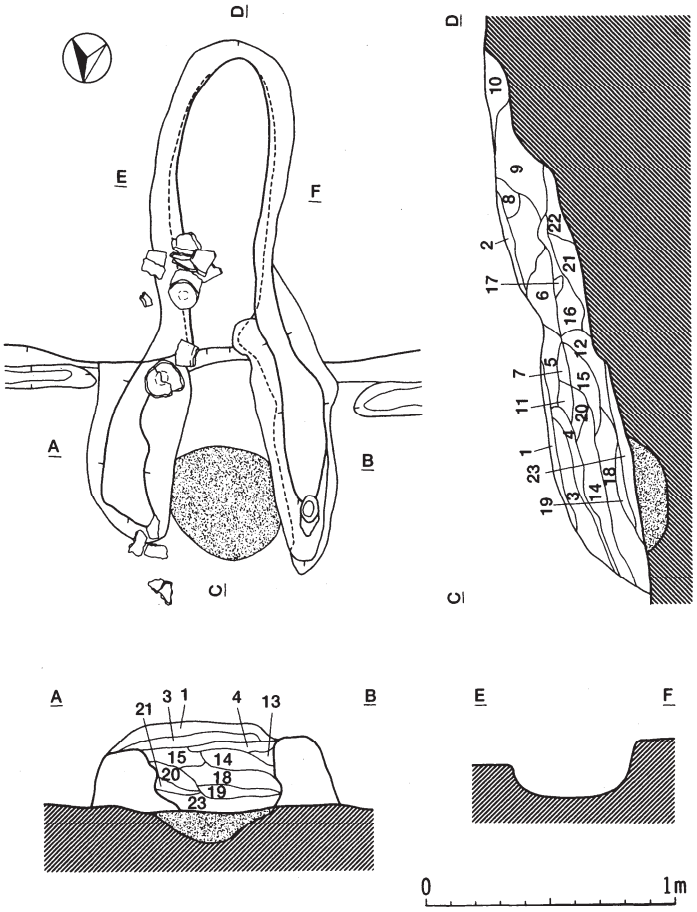
第１層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第２層　黄褐色土　10YR5/6　L.B.層

Pit 3

第１層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・粘土粒微量
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量
第３層　暗褐色土　10YR3/3　粘土粒中量
第４層　褐色土　10YR4/4　ローム粒多量　粘土粒中量

図202　第370号竪穴住居跡（１）

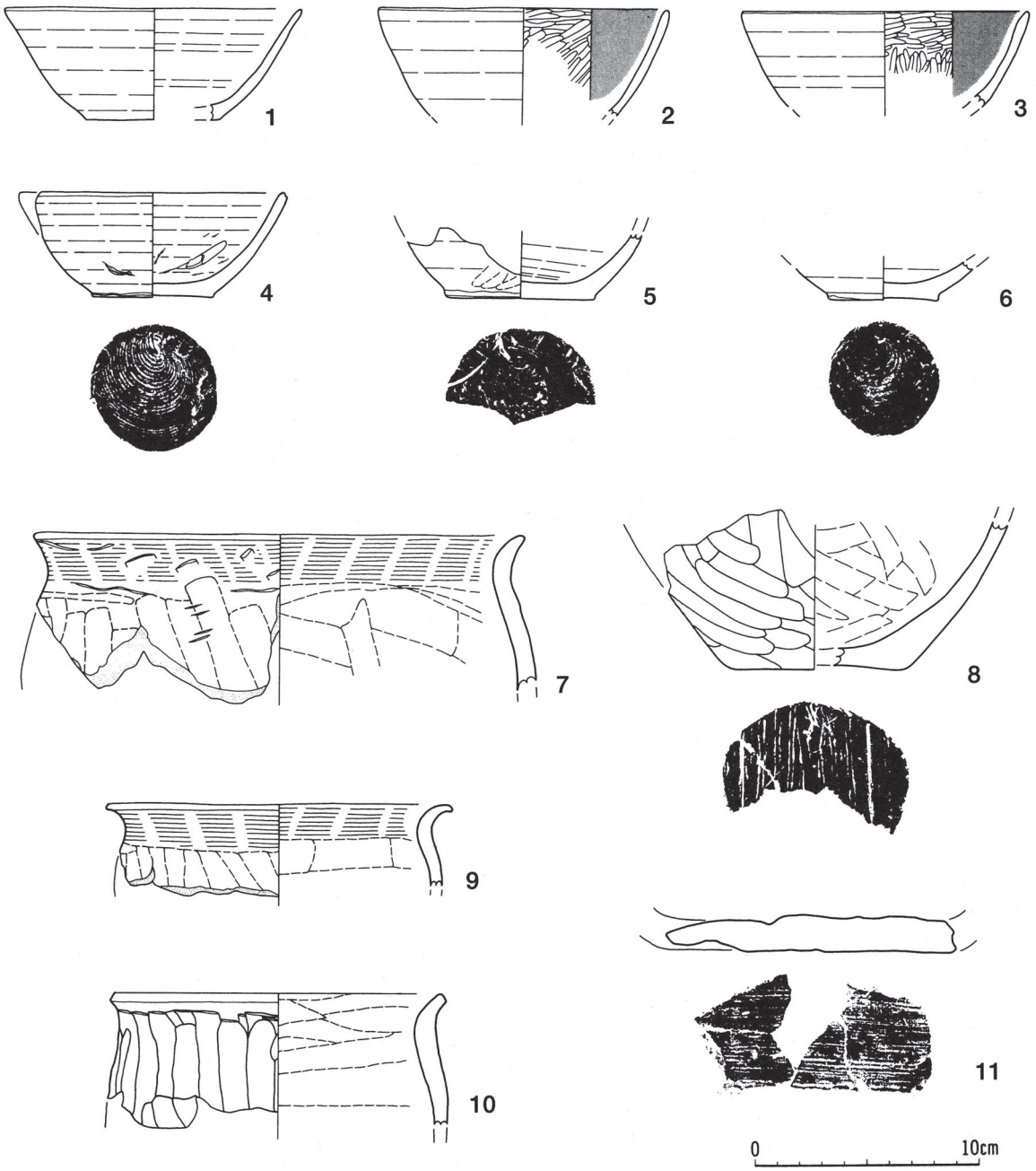




カマド

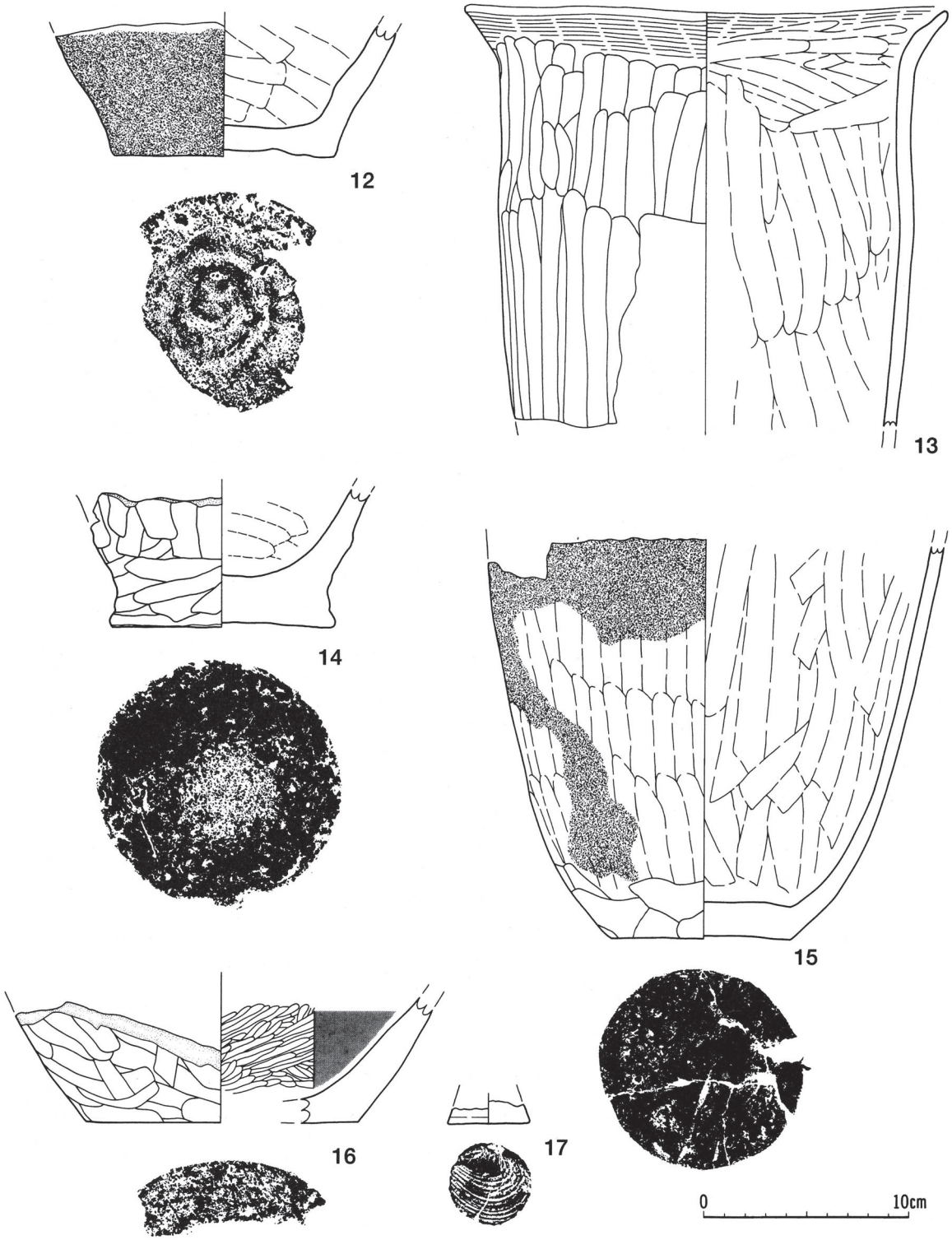
第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒　焼土粒少量 炭化物微量
第２層	褐色土	10YR4/4	ローム質土　焼土粒少量 焼土ブロック
第３層	褐色土	7.5YR4/4	ローム質土　軽石
第４層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒・ローム粒多量 炭化物微量
第５層	褐色土	7.5YR4/4	ローム質土　軽石少量
第６層	にぶい赤褐色土	5YR4/4	ローム質土　焼土
第７層	褐色土	7.5YR4/4	ローム質土　焼土粒少量
第８層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量　焼土粒少量
第９層	暗褐色土	10YR3/4	ローム質土　焼土ブロック 焼土粒少量
第10層	暗褐色土	10YR3/4	焼土ブロック　L.B.・ 軽石微量
第11層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒中量
第12層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒中量　焼土粒・ 炭化物微量
第13層	褐色土	7.5YR4/6	ローム質土　焼土粒微量
第14層	暗赤褐色土	5YR3/6	焼土ブロック
第15層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム質土　砂礫
第16層	赤褐色土	2.5YR4/6	焼土ブロック
第17層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・焼土粒・ 炭化粒少量
第18層	褐色土	10YR4/4	黒色土
第19層	赤褐色土	5YR4/6	L.B.
第20層	褐色土	7.5YR4/4	ローム質土　焼土ブロック・ 焼土粒少量　炭化物微量
第21層	赤褐色土	5YR4/6	L.B.
第22層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	L.B.・炭化物微量 ローム質土
第23層	暗褐色土	7.5YR3/3	焼土粒少量

図203　第370号竪穴住居跡（２）



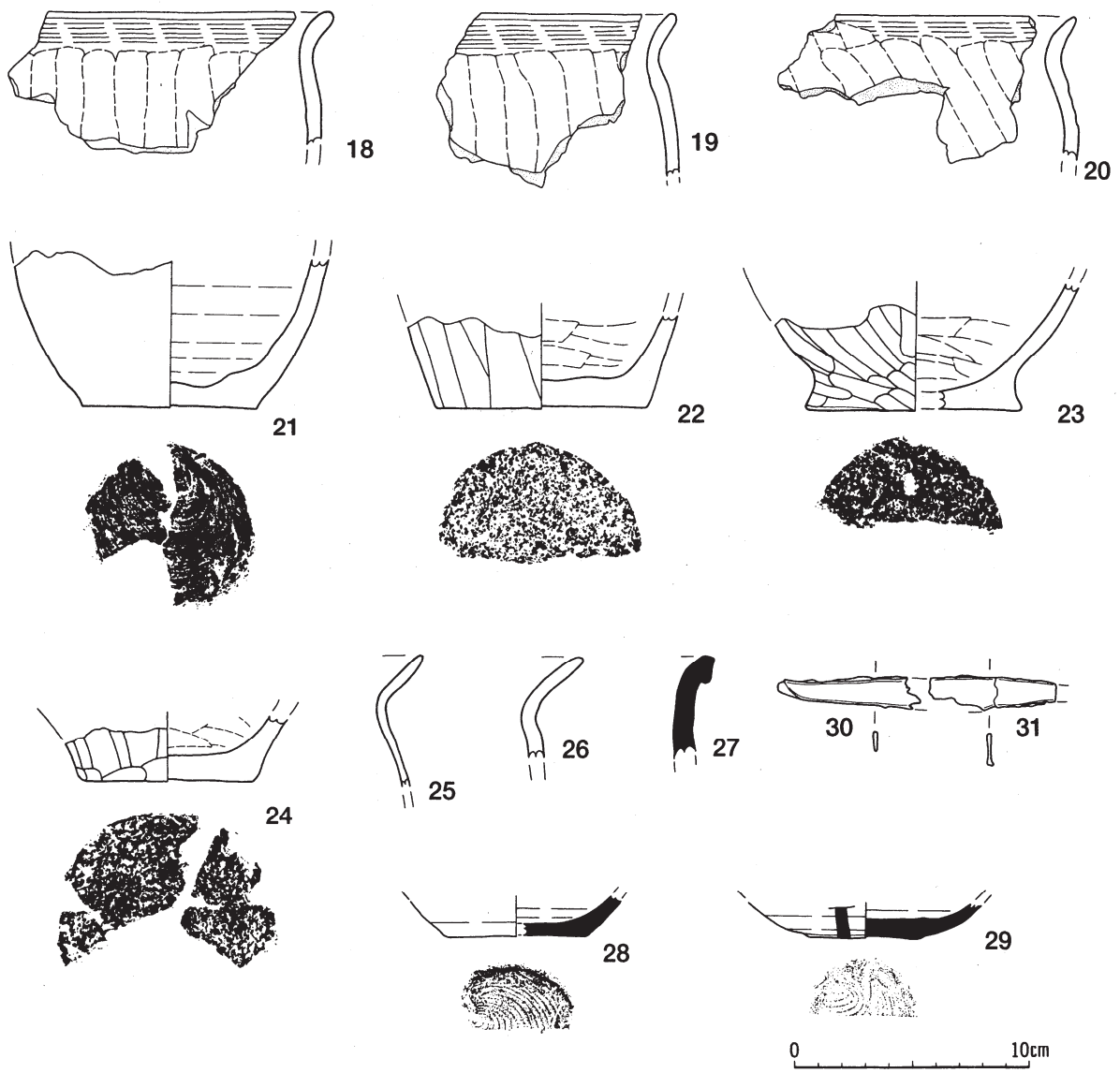
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(13.2)	5.0	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
2	土師器	坏	フク土	(13.0)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	内面黒色処理
3	土師器	坏	フク土	(13.0)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	内面黒色処理
4	土師器	坏	フク土	(12.0)	4.7	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
5	土師器	坏	フク土	—	(3.1)	(6.6)	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
6	土師器	坏	フク土	—	(1.7)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
7	土師器	甕	フク土	(22.0)	(7.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内面輪積痕
8	土師器	甕	フク土	—	(7.2)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り (ヘラナデ)	A	
9	土師器	甕	フク土	(15.6)	(4.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
10	土師器	甕	フク土	15.0	(6.0)	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	
11	土師器	甕	フク土	—	—	(13.0)	—	—	—	—	—	—	板目底	—	製塩土器

図204　第370号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
12	土師器	坏	フク土	—	(6.5)	10.8	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底	A	粘土付着
13	土師器	甕	カマドフク土 床直	23.6	(20.6)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P-6
14	土師器	甕	カマド煙道部 フク土	—	(6.5)	11.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底 →ナデツケ	A	外面一部スス状炭化物付着 P-4
15	土師器	甕	カマド煙道部 フク土	—	(19.5)	8.8	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	AⅠ	外面粘土付着 P-3
16	土師器	甕	フク土	—	(5.8)	(13.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラミガキ	砂底	A	内面黒色処理
17	土師器	小型土器	フク土	—	—	4.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	柱状高台付坏

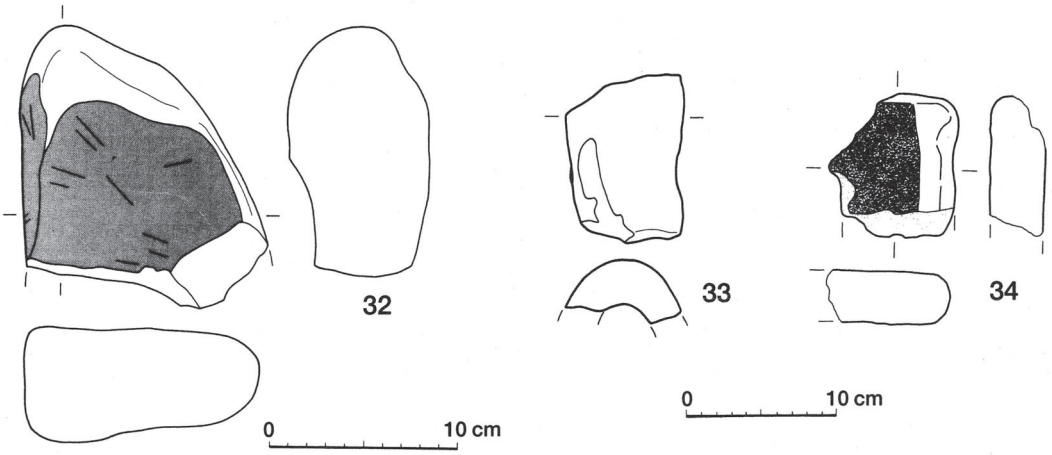
図205　第370号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
18	土師器	甕	フク土	(16.2)	(5.6)	—	不明	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	
19	土師器	甕	フク土	(21.0)	(7.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
20	土師器	甕	フク土	(22.0)	(6.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
21	土師器	甕	カマド煙道部フク土	—	(6.6)	7.6	—	—	不明	—	—	ロクロ	回転糸切り	B	外面剥落 P-7
22	土師器	甕	フク土	—	(3.9)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
23	土師器	甕	フク土	—	(5.5)	(9.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
24	土師器	甕	フク土	—	(2.8)	7.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ?	A	
25	土師器	甕	フク土	(16.2)	(5.6)	—	不明	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	
26	土師器	甕	フク土	(21.8)	(4.4)	—	ヨコナデ	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	
27	須恵器	甕	フク土	—	(4.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	輪積痕 P-13、44
28	須恵器	坏	フク土	—	(1.7)	(6.0)	—	—	ロクロ 一部ヘラナデ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	自然釉
29	須恵器	坏	フク土	—	(1.4)	4.8	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	火ダスキ痕

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
30	床直	6.0	1.2	0.5	4.3	刀子	Fe-1 刀子
31	床直	5.5	1.4	0.3	8.3	刀子	Fe-1 刀子

図206 第370号竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
32	床直	13.4	12.6	6.0	1,630	流	砥石	S-4

図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
33	カマドフク土	(11.3)	(7.8)×(4.3)	—	(307)	不明	ナデ	羽口-2

図版番号	種類	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
34	焼成粘土板	カマドフク土	(8.4)	(9.6)	3.5	—		

図207　第370号竪穴住居跡出土遺物（４）

第370号竪穴住居跡（図202～図207）

［位　置］　ＮＢ～ＮＤ－472～474グリッドに位置する。

［重　複］　第471号住居跡・第２号畝状遺構と重複し、第２号畝状遺構が第471号住居跡と本住居跡より新しく、第471号住居跡が本住居跡より新しい。

［平面形・規模］　東壁が第471号住居跡に切られて削平されているが、西壁６ｍ28cm、南壁５ｍ10cm、北壁６ｍ30cmで、残存する部分から方形と推定する。床面積は33.01㎡で、主軸方位はＮ－157°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は西壁69cm、南壁49cm、北壁13～44cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　残存する部分から幅６～19cm、深さ１～51cmの周溝がほぼ一巡すると推定される。

［ピット］　検出されたピットは６個である。柱穴はピット１（56cm）で、第471号住居跡に切られている部分にも柱穴があると推定される。

［カマド］　カマドは、南壁西側に構築され、羽口、土師器を芯材として用い粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に123cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。また、煙道から芯材に使われたと思われる土師器、羽口が出土した。

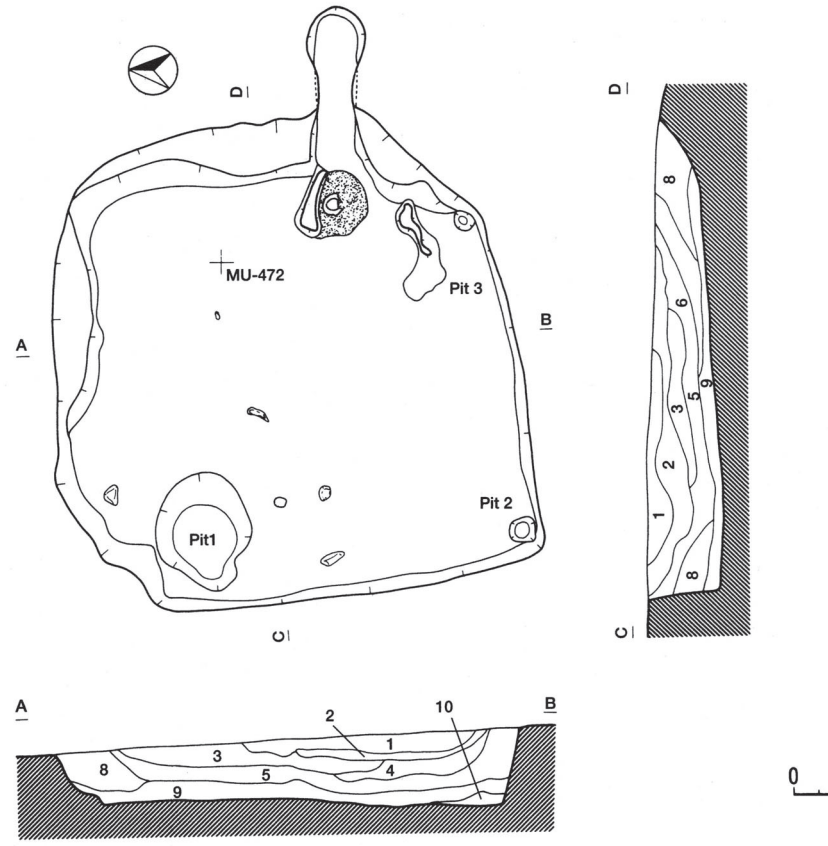
［その他の施設］　住居跡中央に、径170cm、深さ41cmのピット４、東壁中央に、径138cm、深さ68cmで方形と推定されるピット５を検出した。中央から東側に、長さ３ｍ70cm、西側に、長さ４ｍ26cm、北側に、長さ２ｍ86cmの溝を検出した。検出状況から、拡張前に構築された周溝と考える。

［堆積土］　堆積土は、16層に分層される。１層にＢ－Ｔｍ火山灰が多量に混入している。

［出土遺物］　覆土中から、土師器の坏、甕、小型土器や須恵器の坏、甕が出土しているほか、刀子や砥石、羽口、焼成粘土板などが出土している。

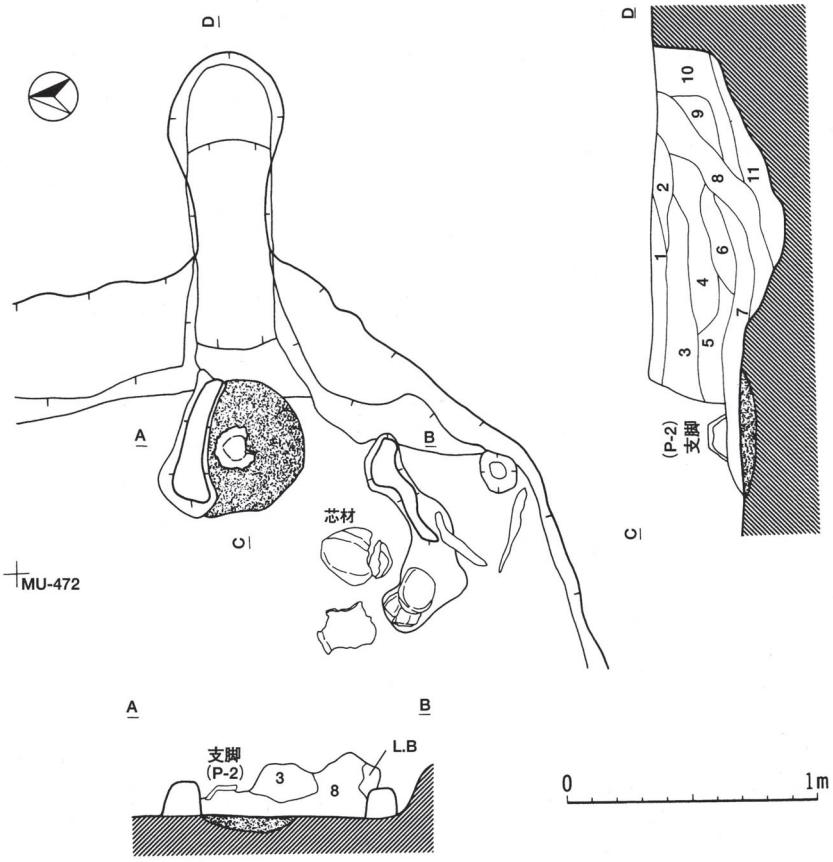
［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第371号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・焼土粒・ローム粒中量
第２層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土粒・ローム粒多量
第３層	暗褐色土	7.5YR3/4	ローム質土 焼土粒・炭化物多量
第４層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物・焼土粒多量 B-Tm
第５層	黒褐色土	7.5YR2/2	炭化物・焼土粒・ローム粒多量 B-Tm 焼土ブロック少量
第６層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒・炭化物少量 L.B多量
第７層	暗褐色土	7.5YR3/4	ローム質土 炭化物・焼土粒中量
第８層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物中量 ローム粒中量 B-Tm混入
第９層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒・炭化物
第10層	褐色土	10YR4/4	



カマド

第１層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・ローム粒少量 LB・焼土粒中量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・ローム粒少量 焼土粒微量
第３層	暗褐色土	7.5YR4/4	炭化物・ローム粒微量 焼土粒多量
第４層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・ローム粒中量 焼土粒少量
第５層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物少量 焼土粒中量 ローム粒多量
第６層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物・焼土粒微量 ローム粒多量
第７層	極暗褐色土	7.5YR2/3	炭化物・ローム粒・焼土粒少量
第８層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量 焼土粒少量 ローム粒多量
第９層	褐色土	10YR4/4	炭化物・ローム粒中量 焼土粒少量
第10層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒微量 炭化物少量 ローム粒中量
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・焼土粒少量 炭化物中量

図208　第371号竪穴住居跡（１）

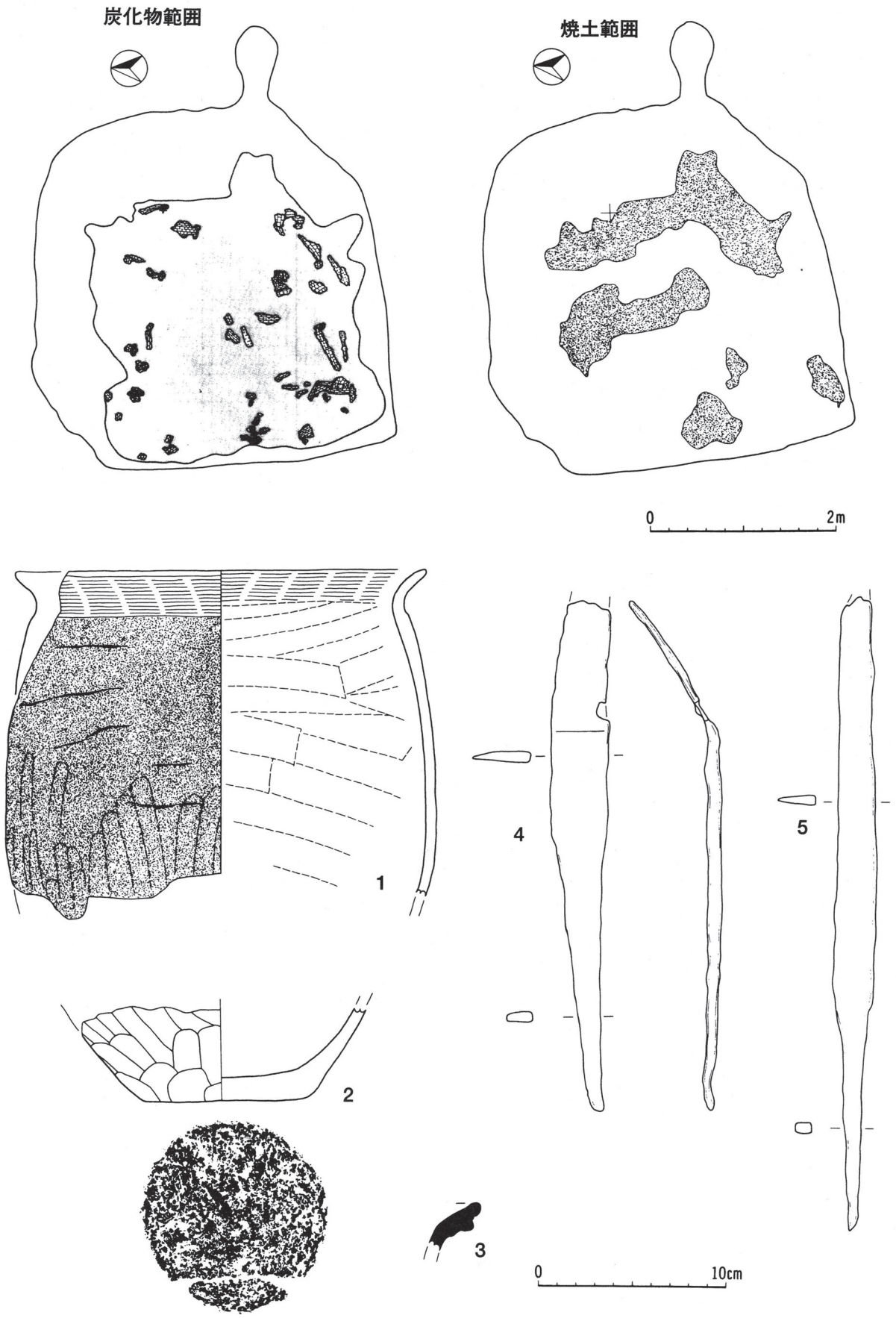


図209　第371号竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）

図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(22.0)	(18.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	輪積痕 P-1
2	土師器	甕	フク土	—	(5.2)	8.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	不明	ヘラナデ?	A	
3	須恵器	甕	フク土	—	(2.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
4	床直	17.4	3.1	0.6	*56.3	鉋	Fe-1
5	カマドフク土	34.0	2.0	0.5	*71.7	小刀	Fe-2

図210　第371号竪穴住居跡出土遺物（2）

第371号竪穴住居跡（図208～図210）

［位　置］　ＭＴ・ＭＵ－471・472グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁３ｍ30cm、西壁３ｍ20cm、南壁２ｍ95cm、北壁３ｍ65cmで、北壁が北側へ広がり、南東隅の壁が内側に入る不正方形である。床面積は10.31㎡で、主軸方位はＮ－92°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁28cm、西壁51cm、南壁61cm、北壁33cmで、東壁が緩やかに立ち上がる。床面は東側がやや上昇し、南側がややくぼむ。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは２個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　東壁南側に構築されている。礫を芯材として用い粘土を覆って築いている。焚き口には、土師器が伏せた状態で置かれ、支脚としていた。煙道は半地下式で、住居跡外に84cmのびる。煙道底面は煙道中央までは緩やかに下降し、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。ソデ付近から鉄製品が出土した。

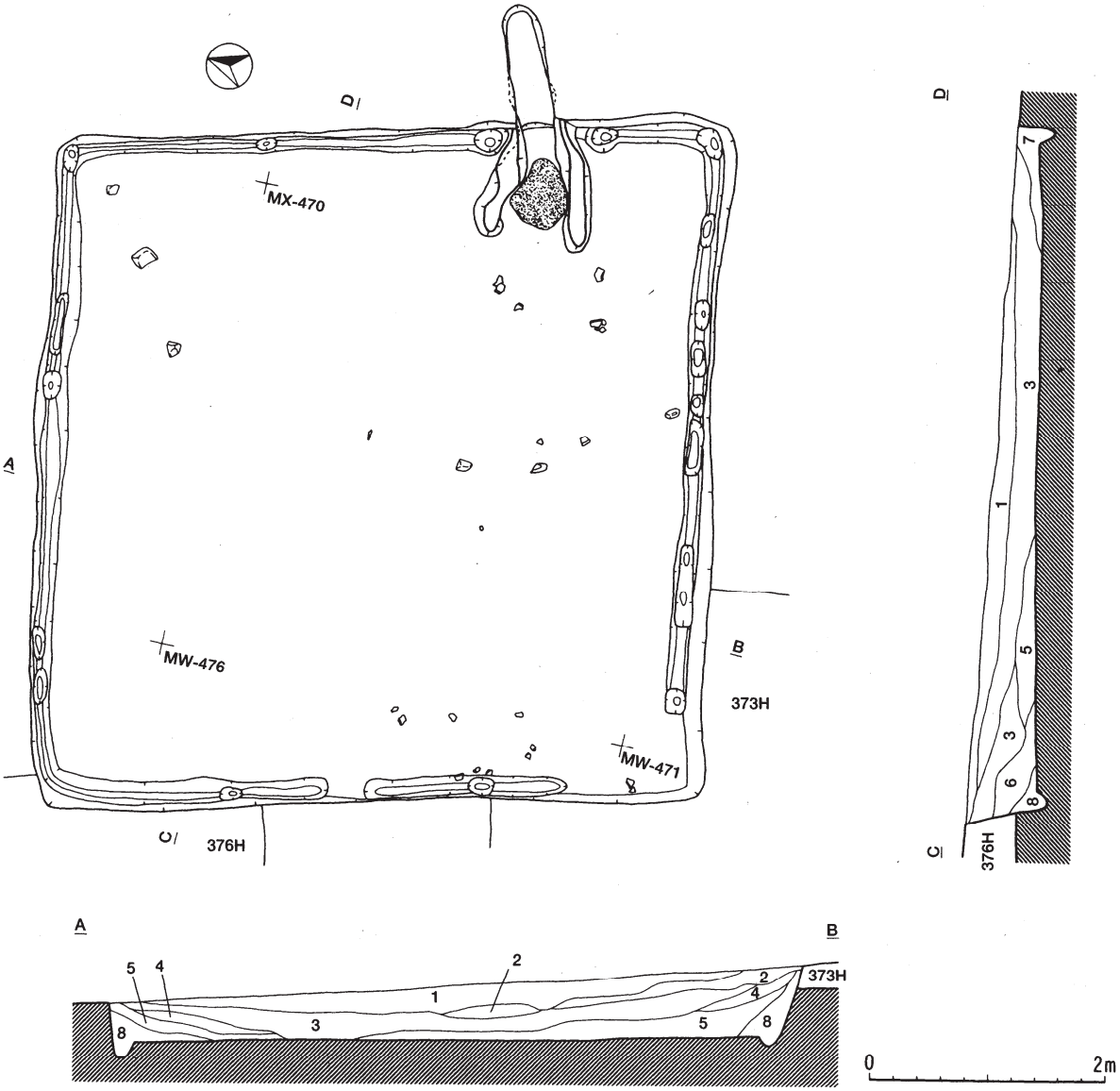
［その他の施設］　北西隅に、長軸96cm、短軸76cmのピット１を検出した。４、５，８層にＢ－Ｔｍが混入している。

［堆積土］　堆積土は、10層に分層され、４，５，８層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。また、床面から炭化材と焼土が検出された。検出状況から、焼失家屋と考える。

［出土遺物］　覆土中から、土師器の甕や須恵器の甕が出土しているほかに、床面直上から、小刀、鉋が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第372号住居跡

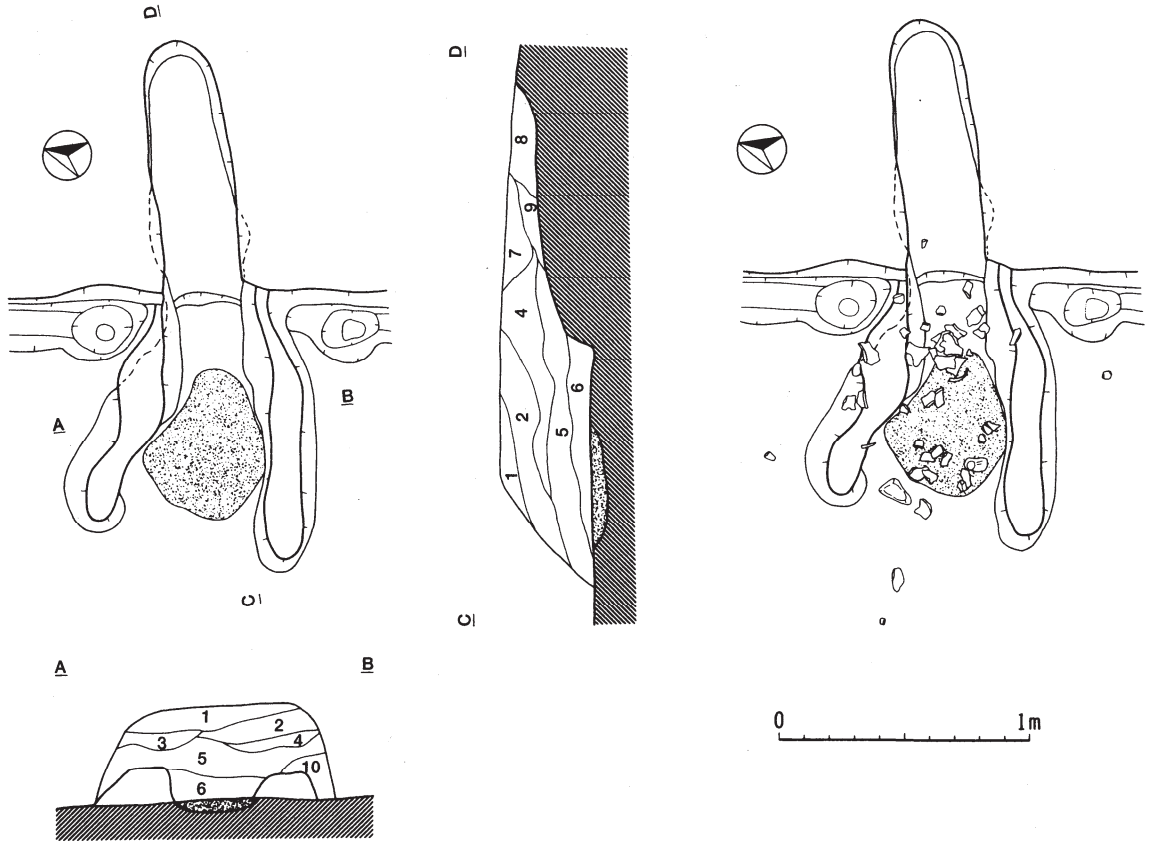
第1層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒・焼土粒・炭化物微量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・焼土粒・炭化物微量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・焼土粒・炭化物少量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物少量　ローム粒多量
第5層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒少量　ローム粒・炭化物粒中量
第6層	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒・炭化物少量　ローム粒多量
第7層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土粒少量　ローム粒多量
第8層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量

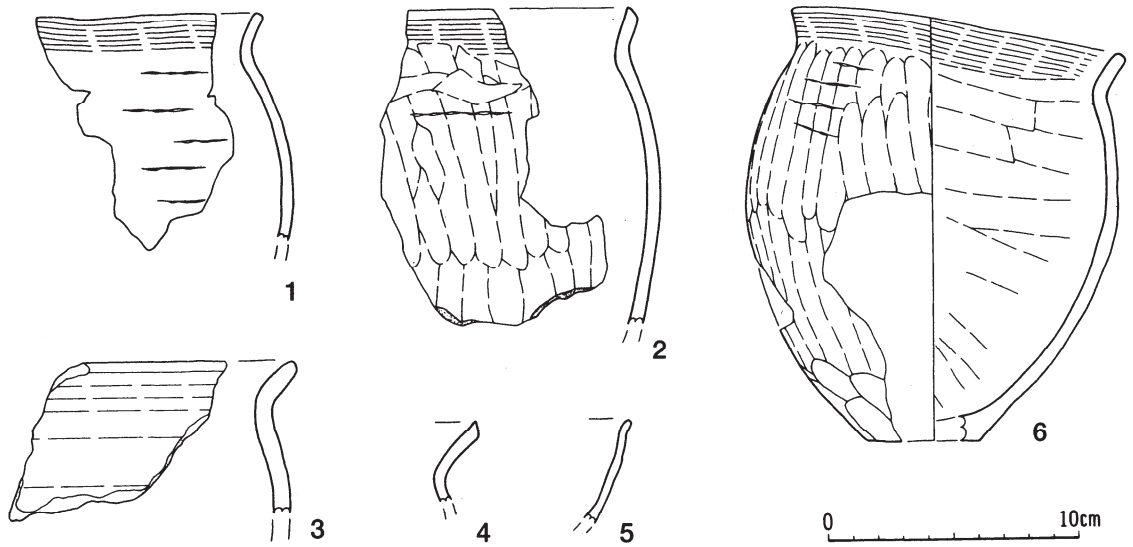
カマド

第1層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物少量　ローム粒多量
第2層	褐色土	10YR4/4	焼土粒・炭化物中量　ローム粒多量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物・L.B中量
第4層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物少量　焼土粒中量　ローム質土
第5層	赤褐色土	5YR4/6	炭化物粒少量
第6層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒・炭化物中量
第7層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物中量　ローム粒多量
第8層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物少量　ローム粒多量
第9層	暗褐色土	10YR3/3	焼土ブロック・炭化物少量　ローム粒多量
第10層	褐色土	7.5YR4/6	焼土ブロック少量

図211　第372号竪穴住居跡（1）

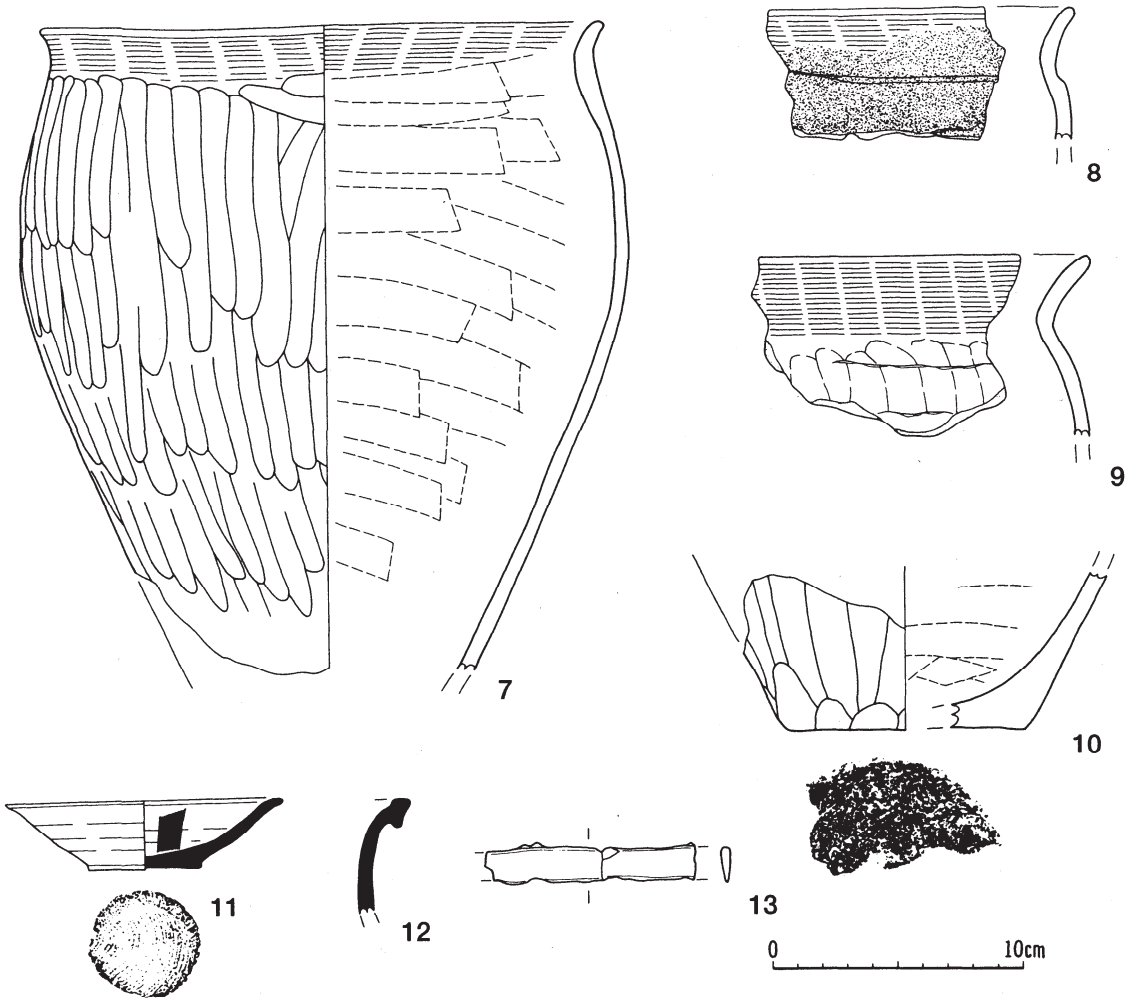
カマド遺物出土状況





図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	カマド フク土	(14.0)	(9.1)	—	ヨコナデ	不明	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	—	—	A	輪積痕 P-12
2	土師器	甕	カマド フク土	(14.0)	(12.6)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-12 P-31
3	土師器	甕	床面	(11.0)	(6.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラナデ	ヨコナデ	—	—	B	P-39
4	土師器	甕	フク土	(24.0)	(4.1)	—	ヨコナデ	—	—	ヘラケズリ	—	—	—	A	P-14
5	土師器	坏	フク土	—	(4.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	BⅡ	
6	土師器	甕	床直	13.4	17.4	(4.4)	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	AⅡe	輪積痕 P-6

図212　第372号竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
7	土師器	甕	カマド床面	(22.6)	(26.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	Ale	P-38
8	土師器	甕	カマド	—	(5.3)	—	ヨコナデ	不明	—	不明	不明	—	—	A	P-12
9	土師器	甕	フク土	(22.0)	(7.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-8
10	土師器	甕	カマド	—	(6.2)	(9.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-9、10
11	須恵器	皿	床下	(11.0)	2.8	4.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ→ミガキ?	回転糸切り	—	内面に滑面有り 内面に火だすき痕
12	須恵器	壺	フク土	—	(4.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
13	フク土	8.4 / 3.2	1.1 / 1.0	0.4 / 1.0	8.9 / 3.1	刀子	

図213　第372号竪穴住居跡出土遺物（2）

第372号竪穴住居跡（図211～図213）

［位　置］　MV～MX－469～471グリッドに位置する。

［重　複］　第373号・第376号住居跡と重複し、本住居跡が最も新しい。

［平面形・規模］　東壁5m75cm、西壁5m62cm、南壁5m80cm、北壁5m70cmの方形である。床面積は31.32㎡で、主軸方位はN－76°－Eである。

［壁・床面］　壁高は、東壁17cm、西壁63cm、南壁47cm、北壁29cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅10～21cm、深さ６～26cmの周溝がほぼ一巡する。

［ピット］　検出されたピットは18個で全て壁柱穴である。

［カマド］　東壁南側に構築されている。礫と土師器を芯材として使い、粘土で覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に103mのびる。煙道底面は緩やかに立ち上がる。焚き口から多量の土師器、礫が出土した。

［堆積土］　堆積土は、８層に分層される。

［出土遺物］　床面から、土師器の坏、甕や刀子が出土しているほか、覆土から、須恵器の甕や皿、礫が出している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第373号竪穴住居跡（図214～図218）

［位　置］　ＭＶ～ＭＷ－470～472グリッドに位置する。

［重　複］　第372号・第374号住居跡、第373号土坑、第314号溝と重複し、本住居跡は第372号住居跡、第373号土坑、第314号溝より古く、第374号住居跡より新しい。

［平面形・規模］西壁４m95cm、南壁４m35cm、北壁東側、東壁北側が第372号住居跡に切られ、西壁が第314号溝に切られている。残存する東壁は２m68cm、北壁は２m90cmである。残存部分からほぼ方形と推定する。床面積は18.08㎡で、主軸方位はＮ－168°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁15cm、西壁54cm、南壁54cm、北壁33cmである。床面は平坦である。

［周　溝］　幅８～20cm、深さ２～20cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　ピットが２個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に構築されている。羽口、礫を芯材として転用し、この上に粘土を覆って本体を築いている。焚口には底部を上にした状態で土師器が２個検出され、支脚としていた。煙道は半地下式で住居跡外に58cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道から多量の土師器や芯材に使われたと思われる礫が出土した。

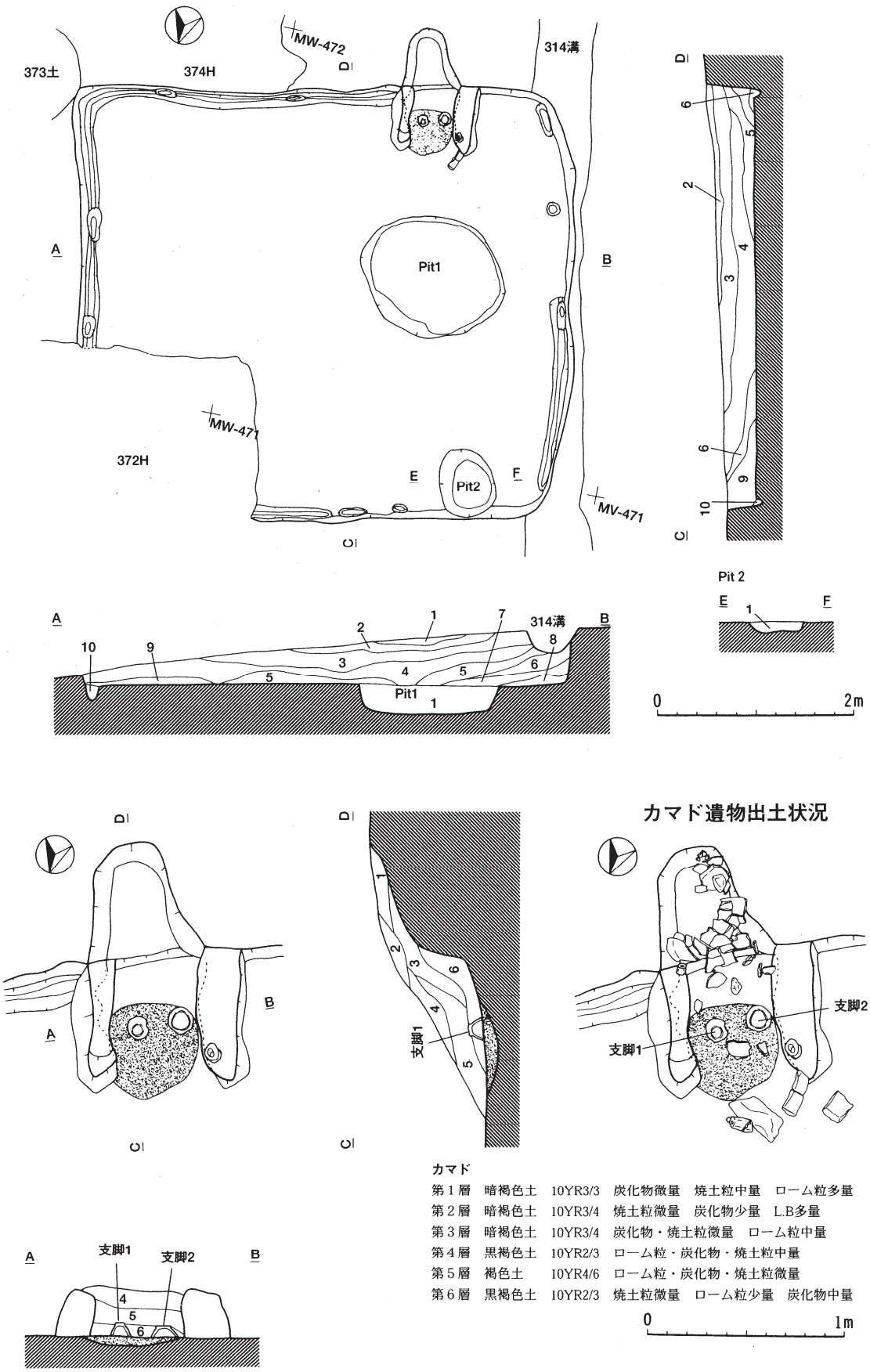
［その他の施設］　中央から西側に径145cm、深さ26cmのピット１を検出した。

［堆積土］　堆積土は10層に分層され、１，２層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。

［出土遺物］　覆土から、土師器の坏、甕、鍋や須恵器の小型甕や壺が出土している。また、カマドから芯材に使われた礫や羽口のほか土製品が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



カマド

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量	焼土粒中量	ローム粒多量
第2層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒微量	炭化物少量	L.B多量
第3層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土粒微量	ローム粒中量	
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物・焼土粒中量		
第5層	褐色土	10YR4/6	ローム粒・炭化物・焼土粒微量		
第6層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒微量	ローム粒少量	炭化物中量

図214　第373号竪穴住居跡（1）

第373号住居跡

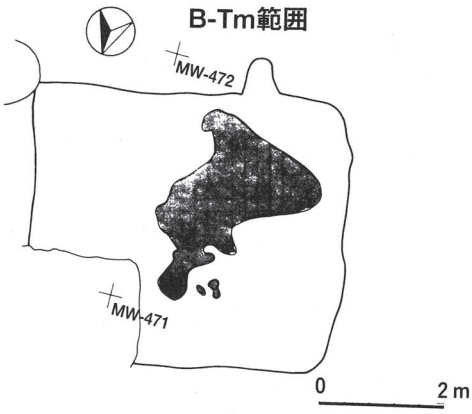
第１層	暗褐色土	10YR3/3	小礫・焼土粒・炭化物微量　B-Tm
第２層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物・B-Tm多量 ローム粒少量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物多量
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・焼土粒・炭化物多量
第５層	黒褐色土	10YR2/1	ローム粒・焼土粒・炭化物粒多量
第６層	褐色土	10YR4/4	ローム質土　焼土粒・炭化物中量
第７層	暗褐色土	10YR3/4	ローム質土　焼土粒・炭化物中量
第８層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物少量　焼土ブロック多量 ローム質土
第９層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒・炭化物少量　ローム粒多量
第10層	黒褐色土	7.5YR2/3	焼土粒・炭化物微量　ローム粒中量

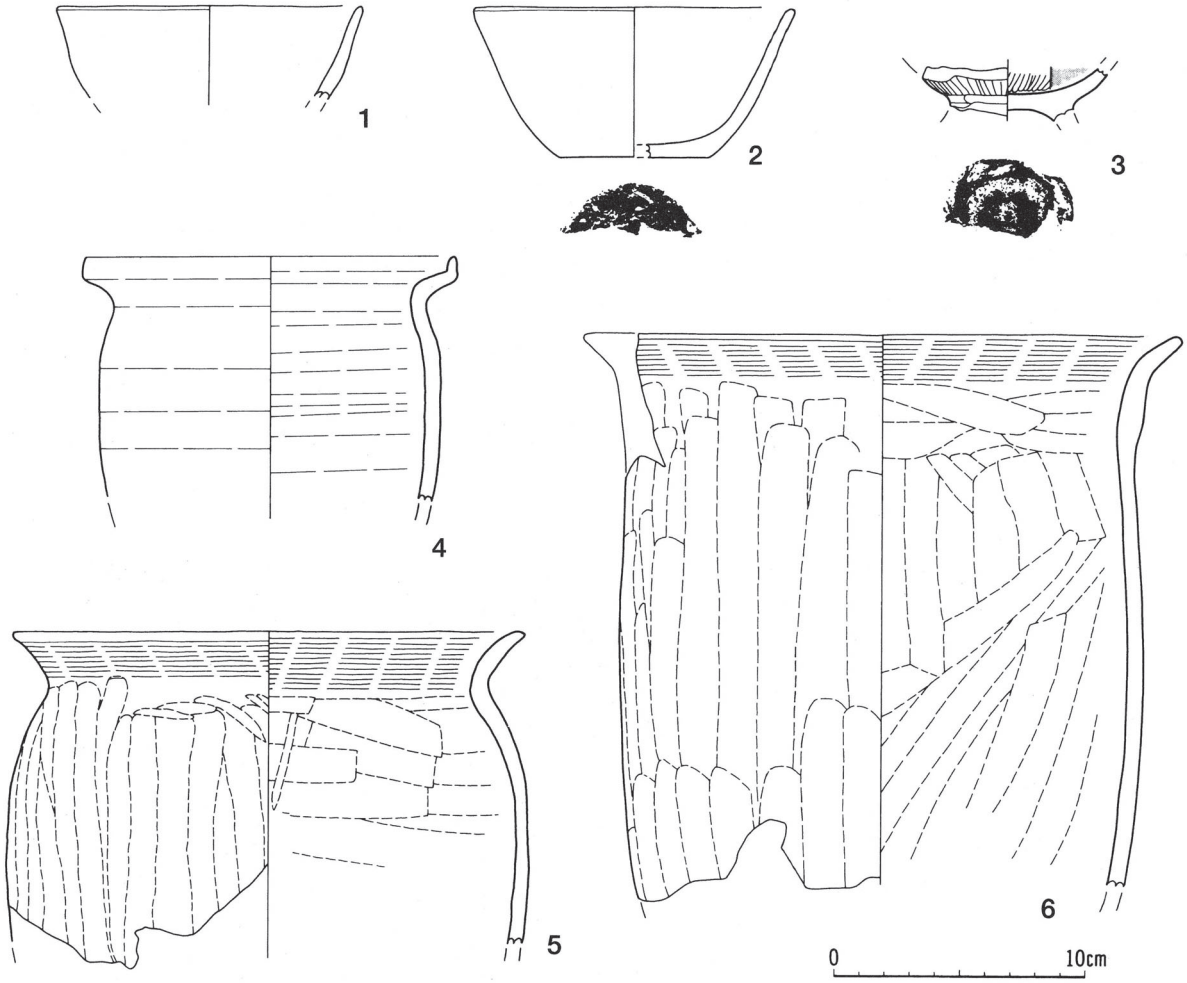
Pit 1

第１層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒多量

Pit 2

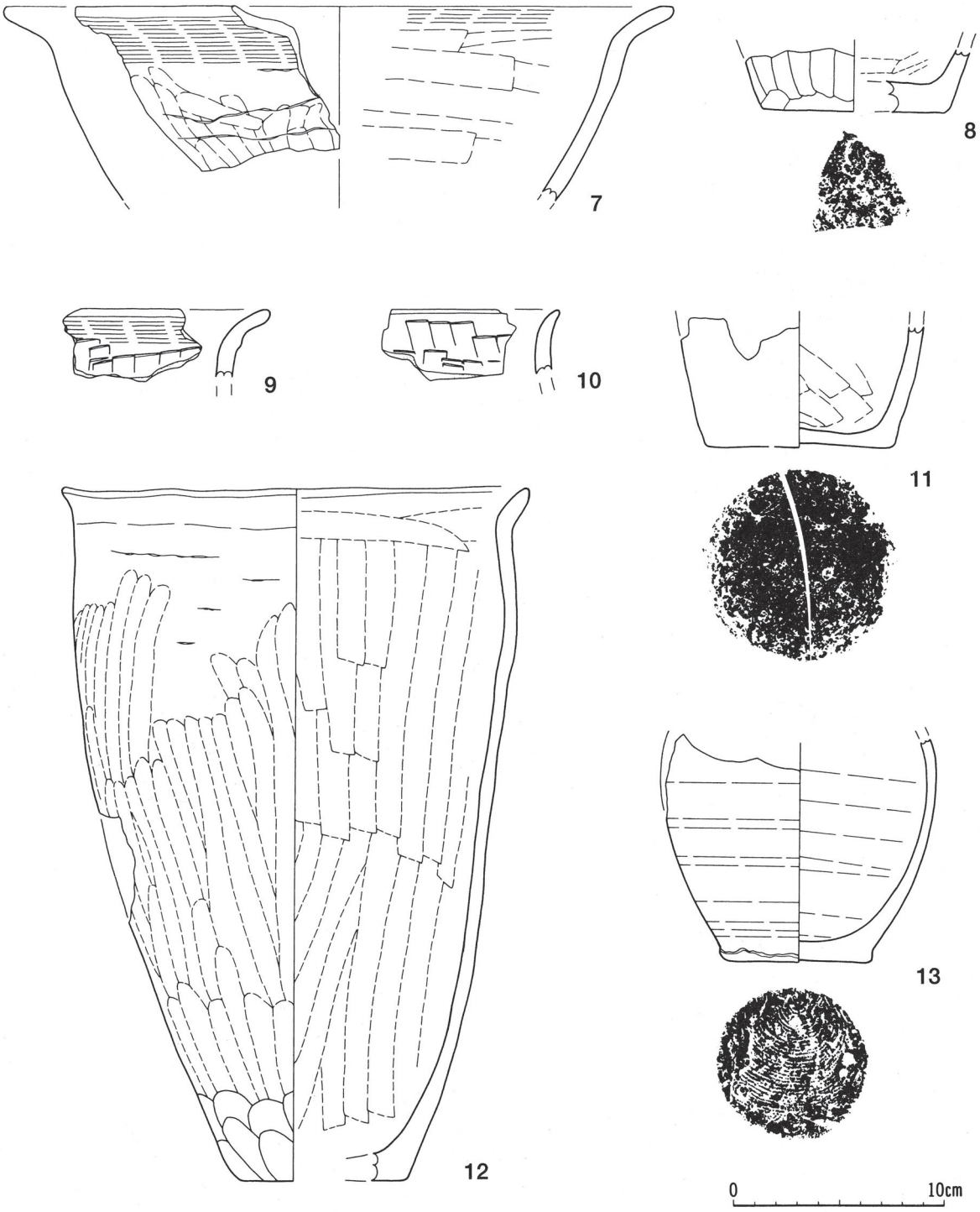
第１層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物微量
第２層	褐色土	10YR4/6	





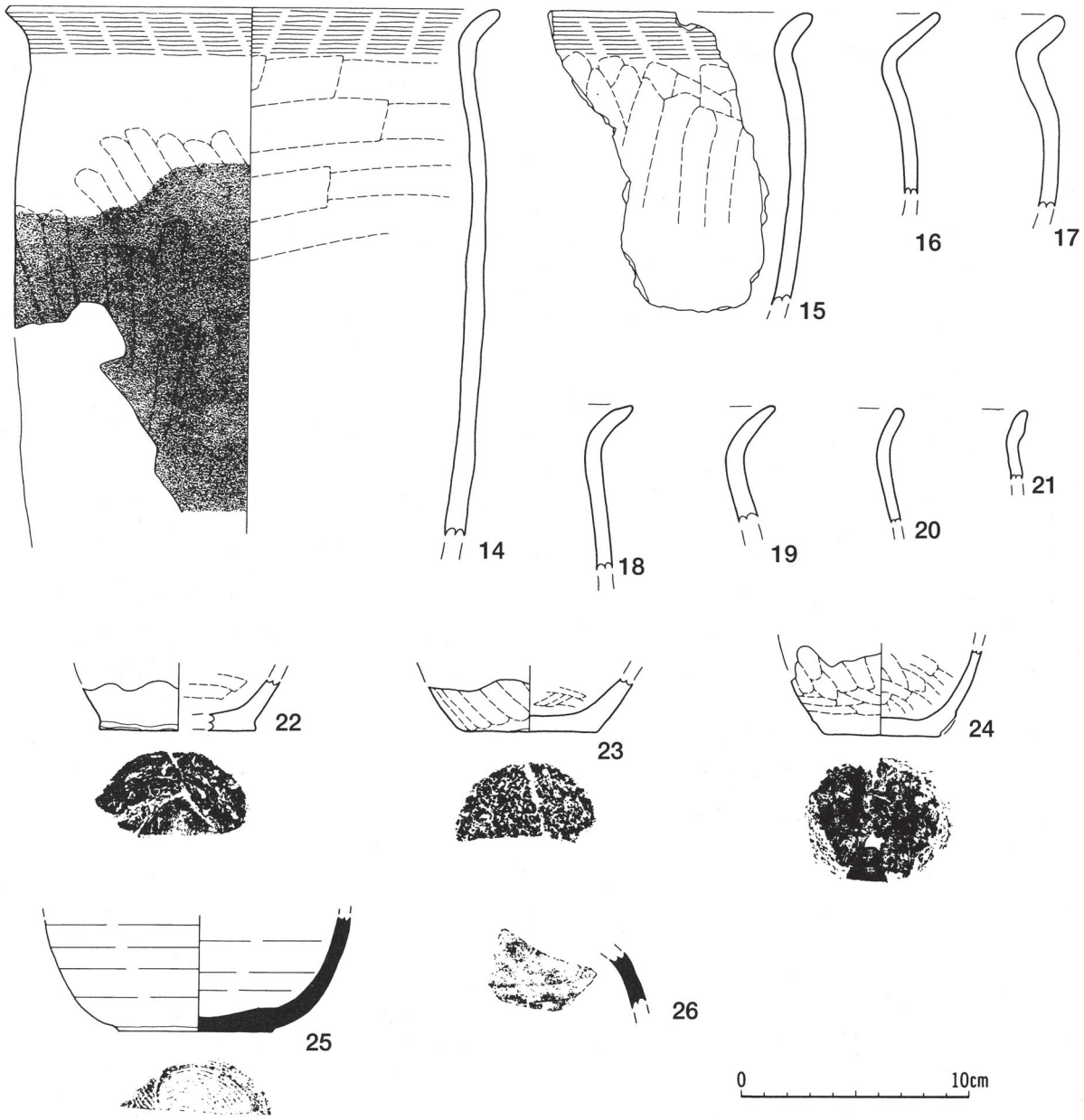
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(12.4)	(3.7)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	B?	
2	土師器	坏	フク土	12.5	6.0	(6.0)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	B?	
3	土師器	高台付坏	フク土	—	(2.0)	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	内面黒色処理
4	土師器	甕	フク土 床面	(15.0)	(9.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
5	土師器	甕	カマド フク土	(20.4)	(13.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P-5
6	土師器	鍋	カマド フク土	(24.0)	(22.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P-3

図215　第373号竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）



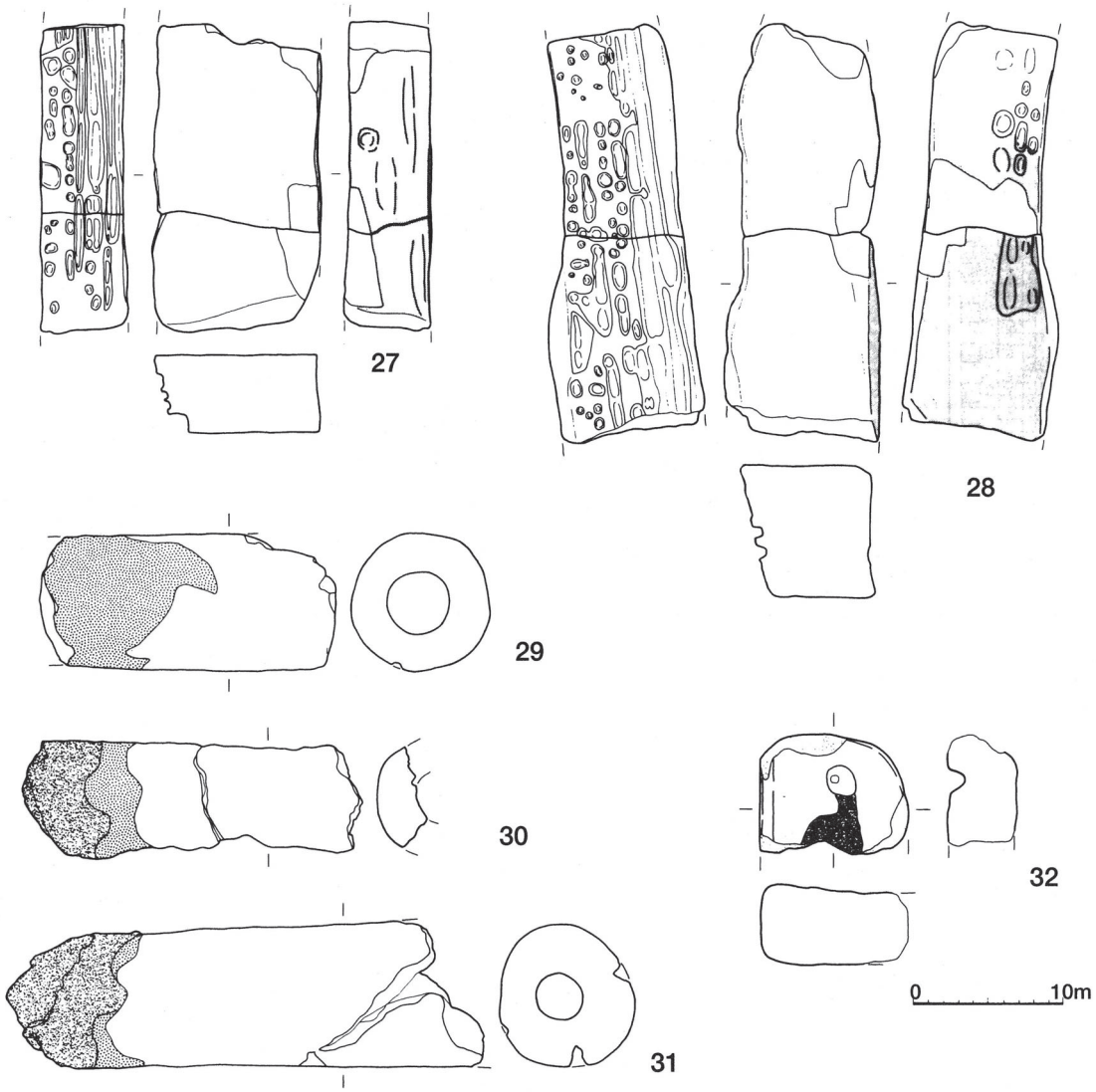
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	土師器	塝	フク土	(32.0)	(9.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	輪積痕 Pit1
8	土師器	甕	フク土	—	(3.4)	(8.7)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
9	土師器	甕	フク土	(14.0)	(3.5)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
10	土師器	甕	カマドフク土	(12.0)	(3.4)	—	ヘラケズリ?	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	
11	土師器	甕	カマドフク土	—	(6.1)	9.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	支脚-2
12	土師器	甕	カマドフク土	22.2	33.1	(8.0)	ナデ?	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ?	A I e	P-2
13	土師器	壷	カマドフク土	—	(10.8)	7.0	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	糸切り	B	支脚-1

図216　第373号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
14	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(23.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1e	P-3
15	土師器	甕	フク土	(22.0)	(13.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
16	土師器	甕	フク土	(20.0)	(8.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
17	土師器	甕	カマド フク土	(15.0)	(8.7)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	輪積痕
18	土師器	甕	床直 フク土	(23.0)	(7.6)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	輪積痕
19	土師器	甕	カマド フク土	(20.0)	(5.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1
20	土師器	甕	床面	(12.0)	(5.0)	—	不明	—	—	不明	—	—	—	A?	
21	土師器	甕	フク土	(9.0)	(3.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A?	
22	土師器	甕	フク土	—	(2.2)	(7.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
23	土師器	甕	フク土	—	(2.3)	(6.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ?	A	
24	土師器	甕	床面	—	(3.9)	(5.4)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
25	須恵器	小甕?	フク土	—	(5.1)	(7.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切	—	自然釉
26	須恵器	壺?	フク土	—	(2.3)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面刻書

図217　第373号竪穴住居跡出土遺物（3）

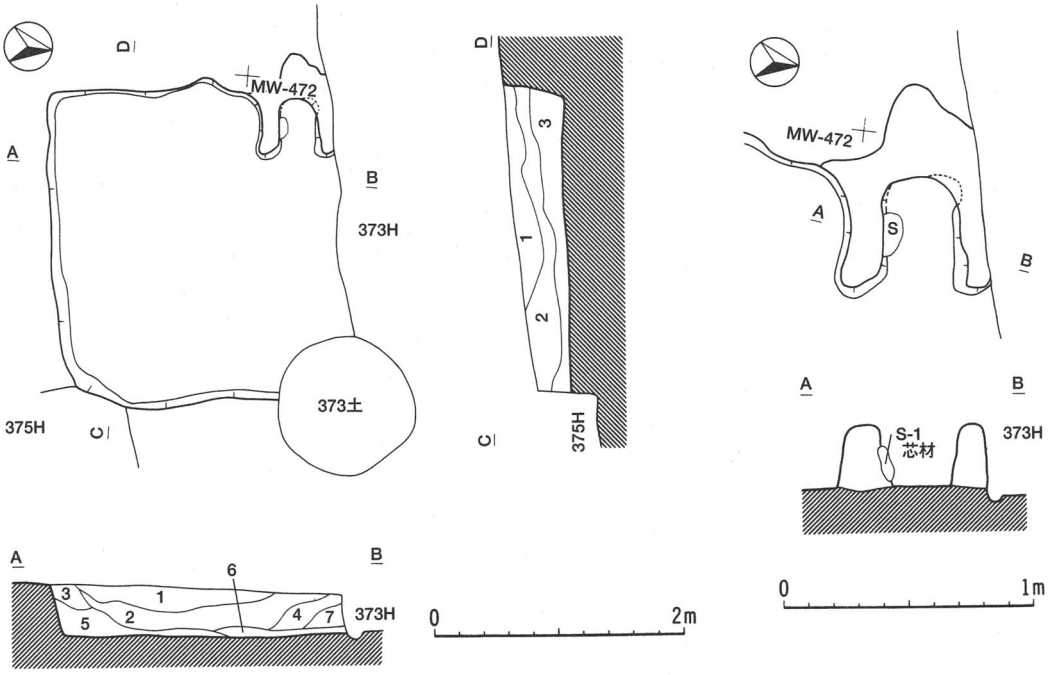


図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
27	カマド芯材	20.2	11.2	5.5	1,475	安	磨	
28	カマド芯材	27.8	10.5	8.8	2,194	安	磨	

図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
29	カマド芯材	(19.7)	9.3	4.2	(1,490)	B		羽口-4
30	カマド芯材	(22.7)	(6.7)×(3.3)	—	(482)	不明	ナデ	
31	Pit1フク土	(32.0)	9.4×9.1	3.1	(2,230)	B	ナデ	

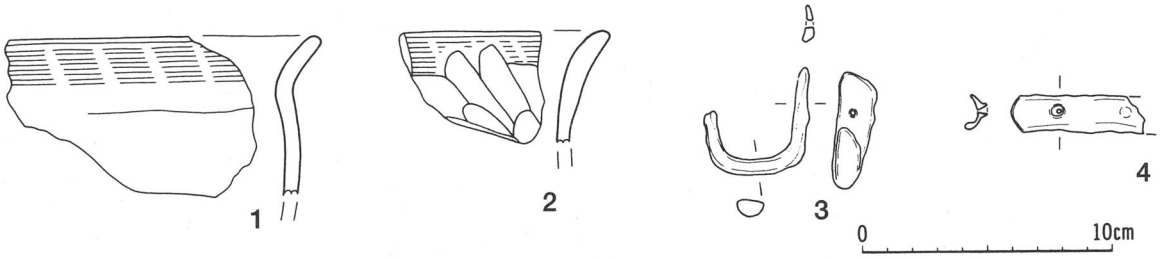
図版番号	種類	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
32	土製品	カマド芯材	(7.4)	(9.8)	4.7	401	スス付着	

図218　第373号竪穴住居跡出土遺物（4）



第374号住居跡

第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量
第３層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量
第４層　暗褐色土　10YR4/4
第５層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量
第６層　暗褐色土　7.5YR3/3
第７層　暗褐色土　10YR3/3



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フク土	(21.0)	(6.4)	—	ヨコナデ	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1
2	土師器	甕	フク土	(18.0)	(4.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
3	フク土	4.6	1.5	0.7	*9.2	鈎状	貫通孔
4	フク土	5.4	1.4	0.2	*6.8	板状	貫通孔

図219　第374号竪穴住居跡・出土遺物

第374号竪穴住居跡（図219）

［位　置］　ＭＶ・ＭＷ－471・472グリッドに位置する。

［重　複］　第373号・第375号住居跡、第373号土坑と重複し、本住居跡は、第373号住居跡、第373号土坑より古く、第375号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　北壁が第373号住居跡と第373号土坑に、西壁北側が第373号住居跡に、東壁北側が第373号土坑に切られており、東壁１ｍ65cm、西壁２ｍ25cm、南壁２ｍ40cmである。平面形は不明で、床面積は4.93㎡である。主軸方位はＮ－99°－Ｗである。

［壁・床面］　壁高は、東壁23cm、西壁39cm、南壁34cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　西壁北側に構築されているが、北側のソデの一部が第373号住居跡に切られている。ソデは礫を芯材として転用し、粘土で覆って構築している。煙道は半地下式で住居跡外に38cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は７層に分層される。

［出土遺物］覆土から、土師器の甕や鉄製品が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第375号竪穴住居跡（図220・図221）

［位　置］　ＭＶ～ＭＸ－472・473グリッドに位置する。

［重　複］　第374号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　東壁２ｍ60cm、西壁２ｍ70cm、南壁３ｍ10cm、北壁３ｍ30cmでほぼ長方形である。床面積は7.57㎡で、主軸方位はＮ－166°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁35cm、西壁47cm、南壁46cm、北壁36cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは１個である。柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に構築されている。火床面と煙道のみが残存し、煙道は地下式で住居跡外に112cmのびる。煙道底面は煙出し方向にほぼ水平に掘り込まれ、煙出しで立ち上がる。

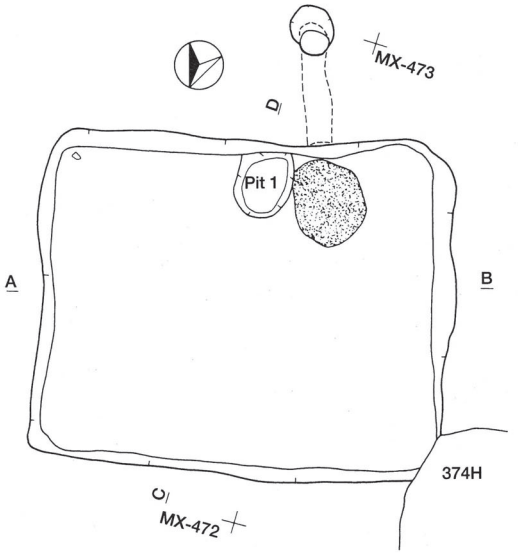
［その他の施設］　カマドの東側に、長軸52cm、短軸46cm、深さ32cmのピット１を検出した。

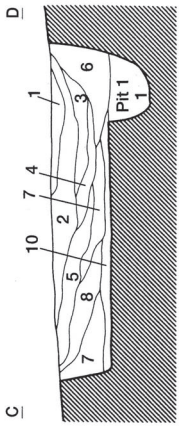
［堆積土］　堆積土は10層に分層され、10層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。床面のほぼ中央部分から炭化材と焼土が検出されていることから、焼失家屋と考えられる。

［出土遺物］　覆土から、土師器の坏、甕が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）





第375号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/3
焼土粒・炭化物・ローム粒中量

第２層　黒褐色土　10YR2/3
焼土粒・炭化物・ローム粒多量

第３層　黒褐色土　10YR2/2
焼土粒・炭化物・ローム粒中量

第４層　黒褐色土　10YR2/2
焼土粒・炭化物中量　ローム粒多量

第５層　黒褐色土　10YR2/2
焼土粒・炭化物微量　ローム粒多量

第６層　暗褐色土　10YR3/4
炭化物・L.B少量　ローム質土

第７層　黒褐色土　10YR2/3
焼土粒・炭化物微量

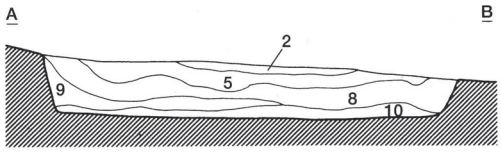
第８層　黒褐色土　10YR2/2
焼土粒・炭化物・ローム粒多量

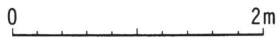
第９層　黒褐色土　10YR2/3
焼土粒微量　炭化物中量　ローム粒多量

第10層　黒褐色土　10YR2/3
炭化物・B-Tm微量　ローム粒中量
L.B・炭化物微量

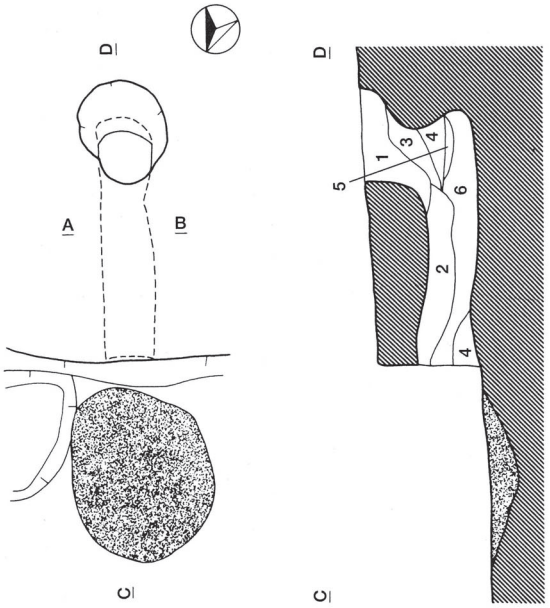
Pit 1

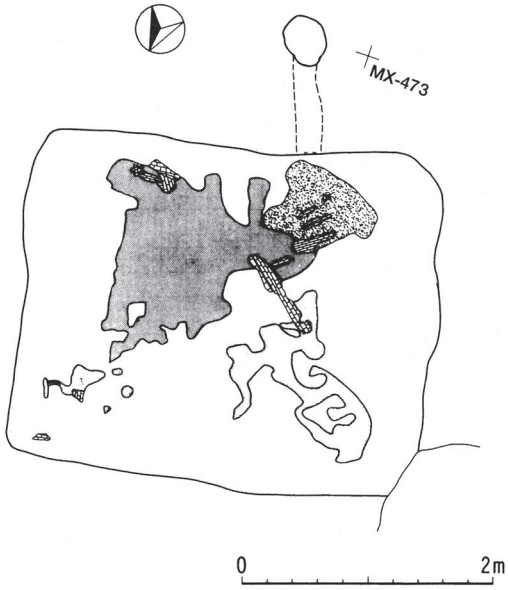
第１層　黒褐色土　10YR2/2
ローム粒微量　炭化物多量

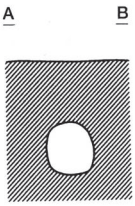




炭化物・焼土範囲



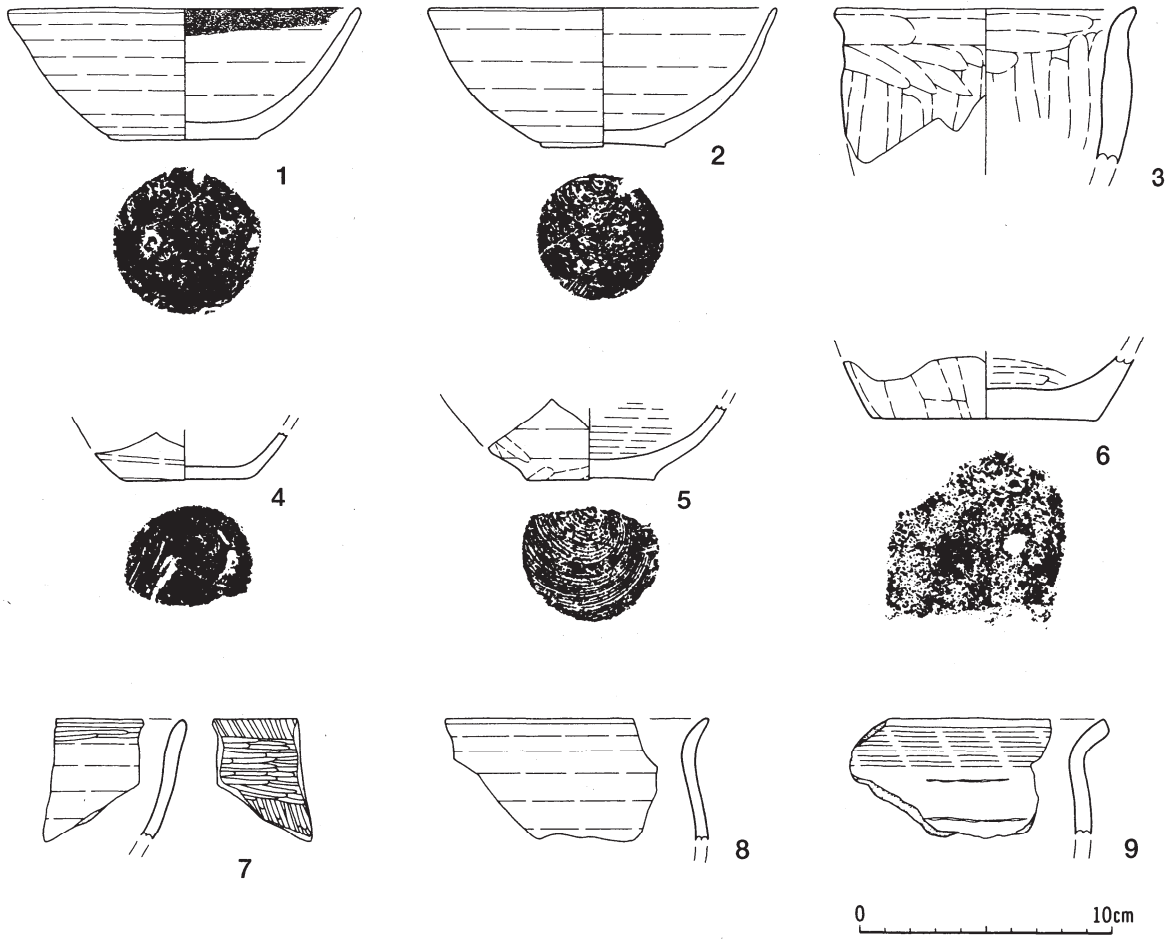




カマド

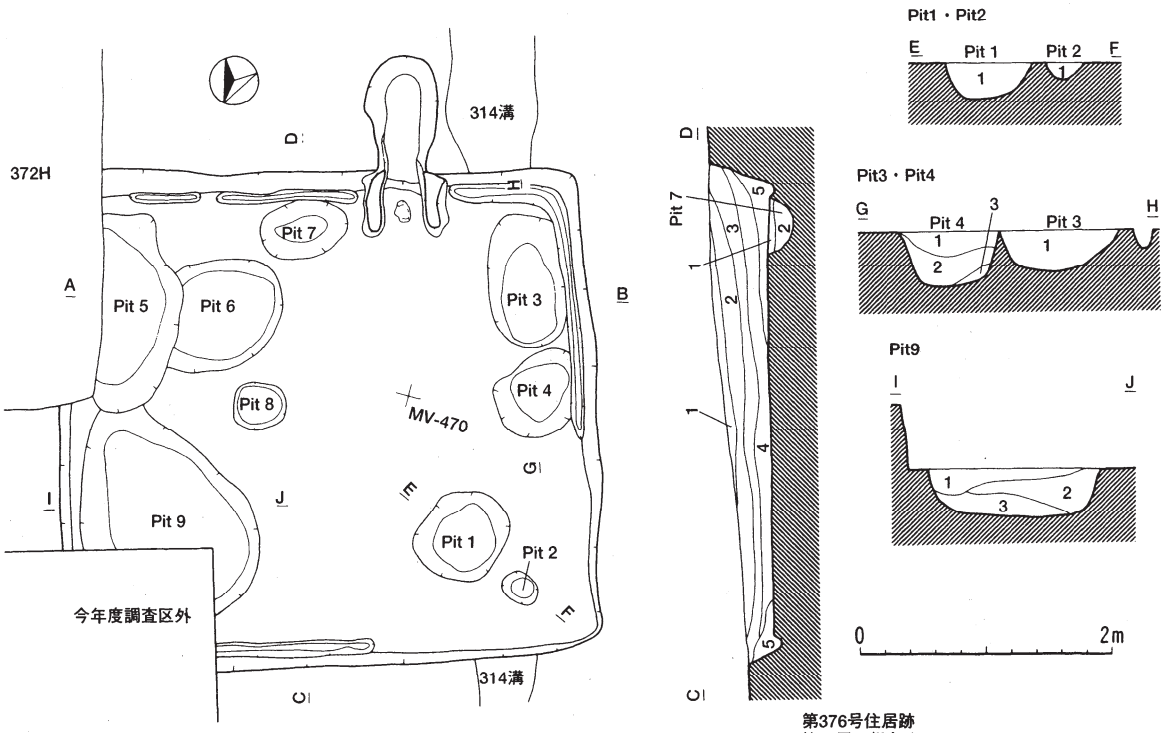
第１層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・焼土粒少量　ローム粒中量
第２層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・ローム粒微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・焼土粒微量　炭化物中量
第４層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物微量　焼土粒少量 ローム粒中量
第５層	黒色土	10YR2/1	炭化物・ローム粒微量
第６層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒微量　炭化物少量 ローム粒中量

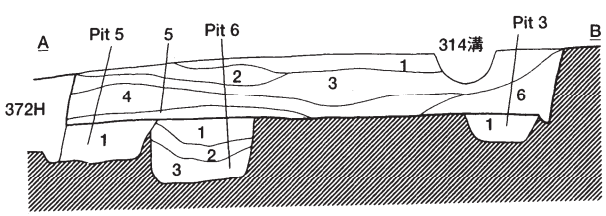
図220　第375号竪穴住居跡

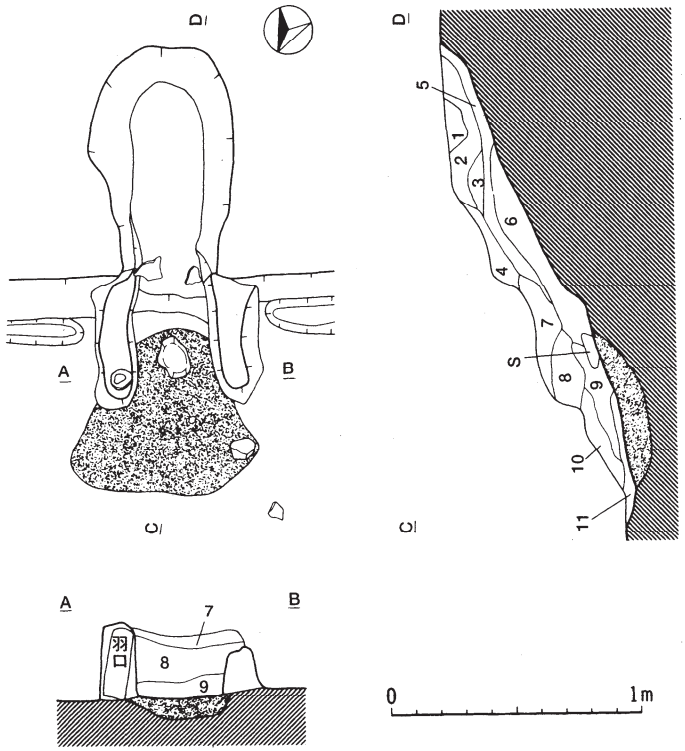


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フク土	14.0	5.8	5.3	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り→ヘラナデ	BⅡb	P-2
2	土師器	坏	フク土	14.0	5.6	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	
3	土師器	鉢	フク土	(12.0)	(6.8)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
4	土師器	坏	カマドフク土	—	(1.5)	(5.0)	—	—	ロクロ？	—	—	不明	回転糸切り	BⅡ	
5	土師器	坏	ソク土	—	(3.2)	5.2	—	—	ロクロヘラナデ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
6	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	9.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底→ナデツケ	A	
7	土師器	坏	フク土	(14.0)	(4.8)	—	ヘラミガキ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅡ	内面黒色処理
8	土師器	甕	フク土	(13.0)	(4.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B	P-1
9	土師器	甕	フク土	(18.0)	(4.9)	—	ヨコナデ	ナデ？	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕

図221　第375号竪穴住居跡出土遺物







第376号住居跡
第１層　褐色土　10YR4/4
第２層　褐色土　10YR4/4
第３層　褐色土　10YR4/4
第４層　褐色土　10YR4/4
第５層　褐色土　10YR4/4
第６層　褐色土　10YR4/4

Pit 1
第１層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物微量
　　焼土粒少量　LB多量

Pit 2
第１層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒・炭化物少量
　　ローム粒多量

Pit 3
第１層　暗褐色土　7.5YR3/3　ローム質土・焼土・
　　炭化物多量

Pit 4
第１層　黒褐色土　10YR2/3　LB多量　焼土粒微量
第２層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒微量
第３層　褐色土

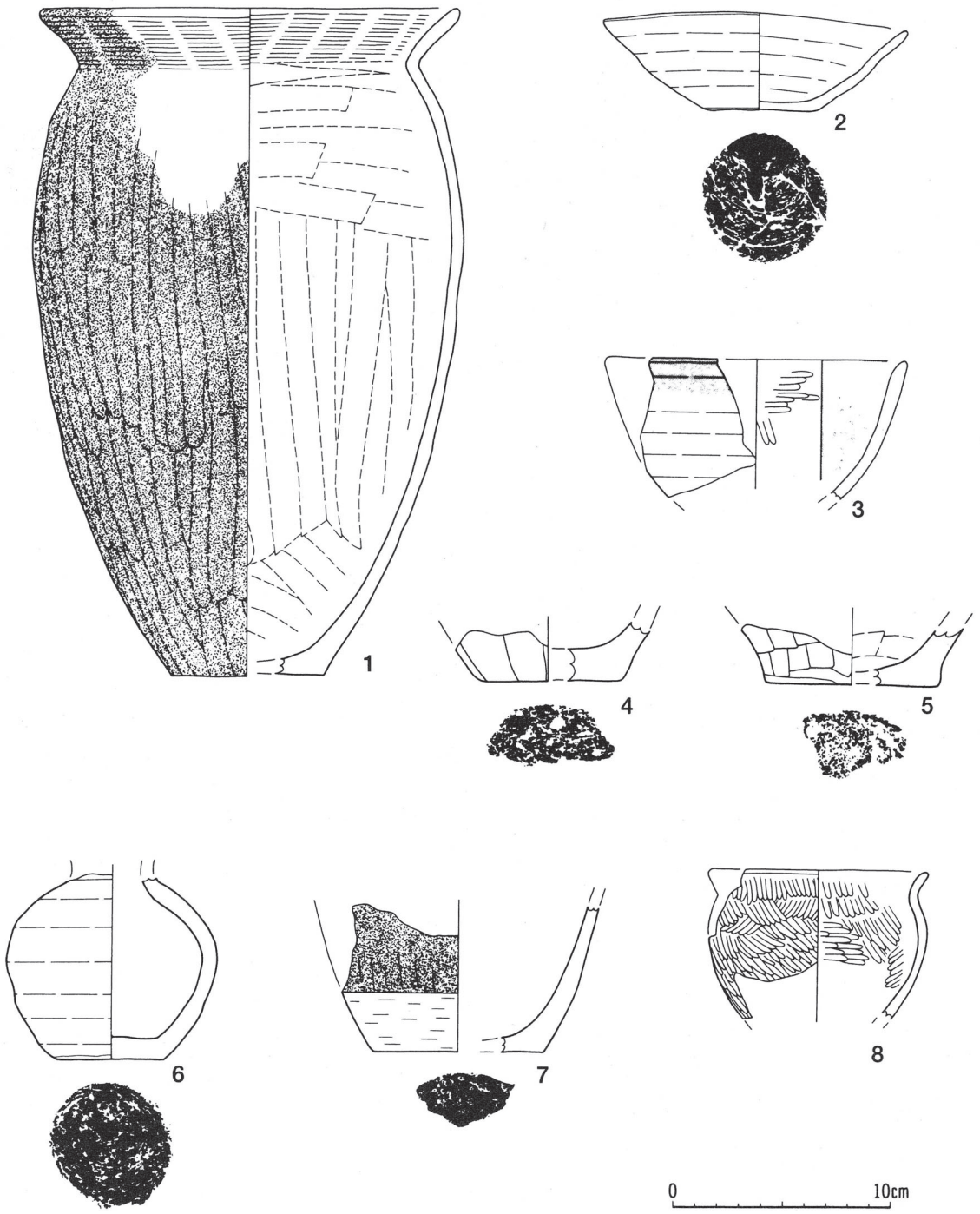
Pit 5
第１層　褐色土　10YR4/4

Pit 6
第１層　褐色土　10YR4/4
第２層　褐色土　10YR4/4
第３層　褐色土　10YR4/4

Pit 9
第１層　褐色土　10YR4/4
第２層　褐色土　10YR4/4
第３層　褐色土　10YR4/4

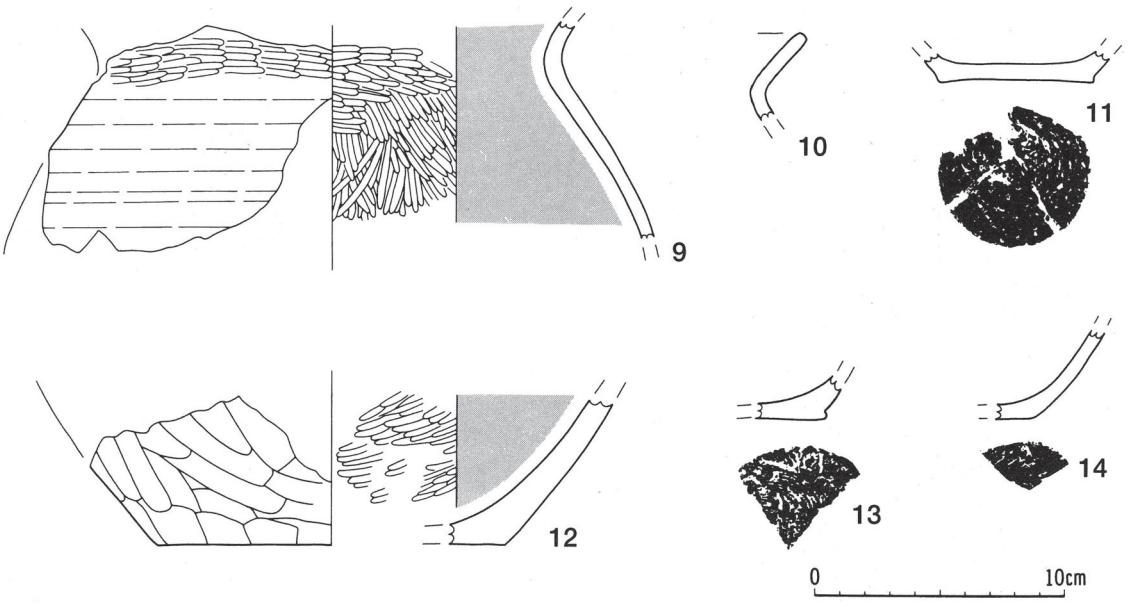
カマド
第１層　褐色土　7.5YR4/4　焼土粒・ローム粒・
　　炭化物微量　ローム質土
第２層　黒色土　10YR1.7/1　焼土ブロック・
　　ローム粒微量
第３層　黒褐色土　10YR2/3　焼土ブロック・
　　L.B少量　炭化物微量　ローム質土
第４層　赤褐色土　5YR4/6　焼土粒・炭化物・
　　ローム粒少量
第５層　赤褐色土　5YR4/6　焼土ブロック
第６層　褐色土　7.5YR4/4　ローム質土
　　焼土ブロック　L.B
第７層　褐色土　7.5YR4/4　ローム粒・小礫
第８層　暗褐色土　7.5YR3/4　焼土ブロック多量
　　ローム質土微量　炭化物粒・小礫微量
第９層　黒褐色土　10YR2/2　L.B・炭化物粒微量
第10層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・ローム粒・
　　焼土粒
第11層　褐色土　7.5YR4/4　ローム粒・炭化物・
　　焼土粒微量

図222　第376号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド フク土	19.4	30.8	7.0	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	AⅠa	P-7，8，12、13 外面粘土付着
2	土師器	坏	フク土	14.1	4.5	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ		BⅡb	
3	土師器	坏	Pit3 フク土	(14.0)	(6.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	内面黒色処理
4	土師器	甕	フク土	—	(2.7)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	不明	ナデツケ	A	
5	土師器	甕	Pit2 フク土	—	(2.7)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
6	土師器	壷	フク土	—	(8.6)	5.0	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	B	P-10
7	土師器	甕	Pit5 フク土	—	(6.7)	(8.0)	—	ナデ	ヘラケズリ	—	不明	不明	ナデツケ？	A?	内面黒色処理
8	土師器	甕	Pit2 フク土	10.2	(6.9)	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	A	

図223　第376号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
9	土師器	甕	床面	—	(9.9)	—	ヘラミガキ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B	内面黒色処理 P-7
10	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(3.5)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
11	土師器	坏	フク土	—	(1.3)	(6.0)	—	—	不明	—	—	ロクロ？	回転糸切り	B	
12	土師器	甕	フク土	—	(5.0)	(14.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラミガキ	ナデツケ？	B	内面黒色処理
13	土師器	坏	フク土	—	(1.9)	(6.8)	—	—	不明	—	—	ロクロ？	糸切り？	B	
14	土師器	坏	フク土	—	(3.7)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	ナデツケ	B	

図224　第376号竪穴住居跡出土遺物（２）

第376号竪穴住居跡（図222～図224）

［位　置］　ＭＵ・ＭＶ－469・470グリッドに位置する。

［重　複］　第372号住居跡、第314号溝と重複し、本住居跡が最も古い。

［平面形・規模］　東壁は調査区外にかかる部分と第372号住居跡に切られ、南壁は、第372号住居跡と第314号溝に、北壁は、調査区外にかかる部分と第314号溝に切られている。残存する東壁１ｍ16cm、西壁３ｍ78cm、南壁３ｍ78cm、北壁３ｍ12cmで、ほぼ方形と推定する。床面積は13.89㎡で、主軸方位はＮ－165°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、西壁49cm、南壁54cm、北壁28cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅７～15cm、深さ２～12cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは６個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に構築されている。羽口を芯材としてこの上に粘土を覆って築いている。焚口には礫を使用して支脚としている。煙道は半地下式で、住居外へ92cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

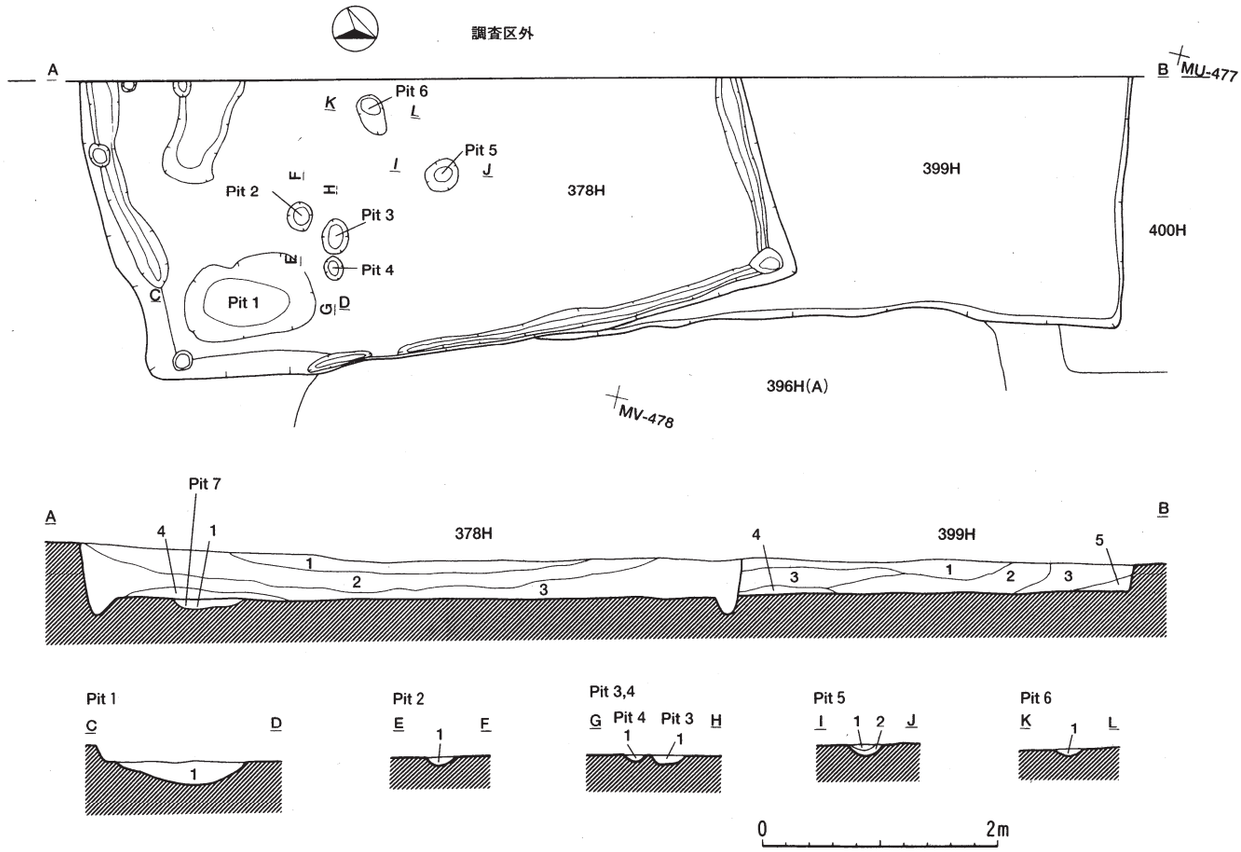
［その他の施設］　長軸108cm、短軸60cm、深さ34cmのピット３、径158cm、深さ32cmのピット５、径142cm、深さ38cmのピット９が検出された。

［堆積土］　堆積土は６層に分層される。

［出土遺物］　覆土から、土師器の坏、甕、小型土器が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀前半～後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第378号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第2層	黒色土	10YR1.7/1	炭化物・焼土粒少量　ローム粒微量
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・炭化物・焼土粒中量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物少量　焼土粒微量

第399号住居跡

第1層	褐色土	10YR4/4	ローム粒中量　炭化物微量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	L.B中量　炭化物・焼土粒微量
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	暗褐色土（10YR3/3）混入 炭化物・焼土粒微量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	L.B少量　炭化物・焼土粒極微量
第5層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	にぶい黄褐色土（10YR5/4）混入

Pit 1

第1層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	にぶい黄褐色土（10YR4/3）混入 L.B・炭化物・焼土粒混入

Pit 2

第1層	褐色土	10YR4/4	にぶい黄褐色土（10YR4/3）混入 炭化物・焼土粒混入

Pit 3

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒混入

Pit 4

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒混入

Pit 5

第1層	黒褐色土	10YR3/2	黄褐色土（10YR5/4）混入 炭化物・焼土粒混入
第2層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	炭化物・焼土粒混入

Pit 6

第1層	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土（10YR5/6）混入 炭化物・焼土粒混入

Pit 7

第1層	暗褐色土	10YR3/3	にぶい黄褐色土（10YR5/4）混入 炭化物・焼土粒混入

図225　第378号・第399号竪穴住居跡

第378号竪穴住居跡（図225）

［位　置］　ＭＴ・ＭＵ－477～479グリッドに位置する。

［重　複］　第396号・第399号住居跡、第320号溝、第321号溝と重複し、本住居跡は、第396号住居跡、第320号・第321号溝より古く、第399号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　西壁が調査区外にかかり、東壁が第396号住居跡に切られる。残存する東壁５m50cm、南壁２m62cm、北壁１m88cmで、平面形は不明で、床面積は12.09㎡である。

［壁・床面］　壁高は東壁48cm、南壁50cm、北壁34cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　北壁と東壁の一部に幅８～26cm、深さ１～９cmの周溝を検出した。

［ピット］　検出されたピットは12個である。いずれも柱案とは考えられない。

［カマド］　西壁が調査区外にかかり未調査のため、不明である。

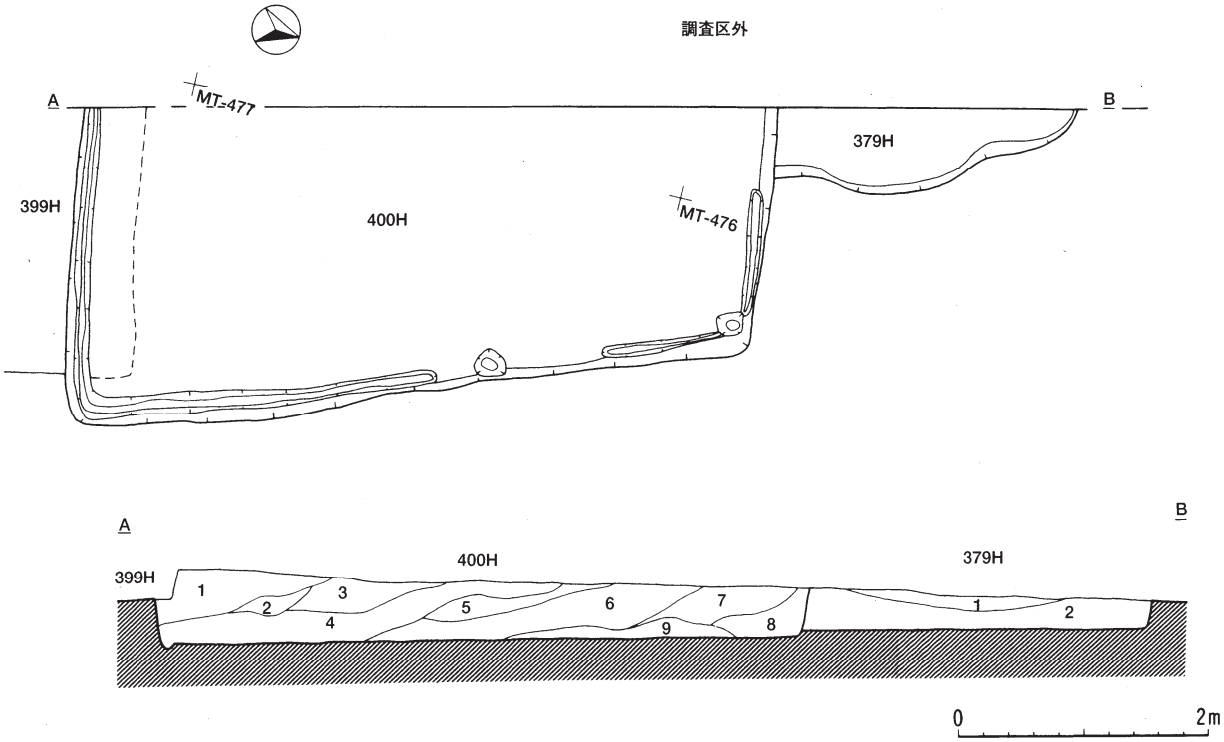
［その他の施設］　南東隅に、長軸110cm、短軸68cm、深さ18cmのピット１、南壁北側に、径88cmのピット７を検出した。

［堆積土］　堆積土は４層に分層される。全体的に炭化物、焼土を含む。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

［時　期］　時期は不明である。

（相馬良仁）



第379号住居跡

第１層	褐色土	10YR4/4	ローム粒少量
第２層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土混入 ローム粒少量

第400号住居跡

第１層	褐色土	10YR4/6	ローム粒多量　炭化物・焼土粒少量
第２層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土粒少量
第３層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・焼土粒少量・炭化物微量
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物少量
第５層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量
第６層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒多量・焼土粒少量
第７層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量
第８層	褐色土	10YR4/6	ローム粒少量
第９層	褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物少量

図226　第379号・第400号竪穴住居跡

第379号竪穴住居跡（図226）

［位　置］　ＭＳ－475グリッドに位置する。

［重　複］　第400号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　本住居跡は東壁の一部を検出したが、第400号住居跡に切られ、残りは調査区外にかかるため、平面形及び規模は不明である。床面積は5.63㎡である。

［壁・床面］　壁高は東壁36cm、北壁27cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

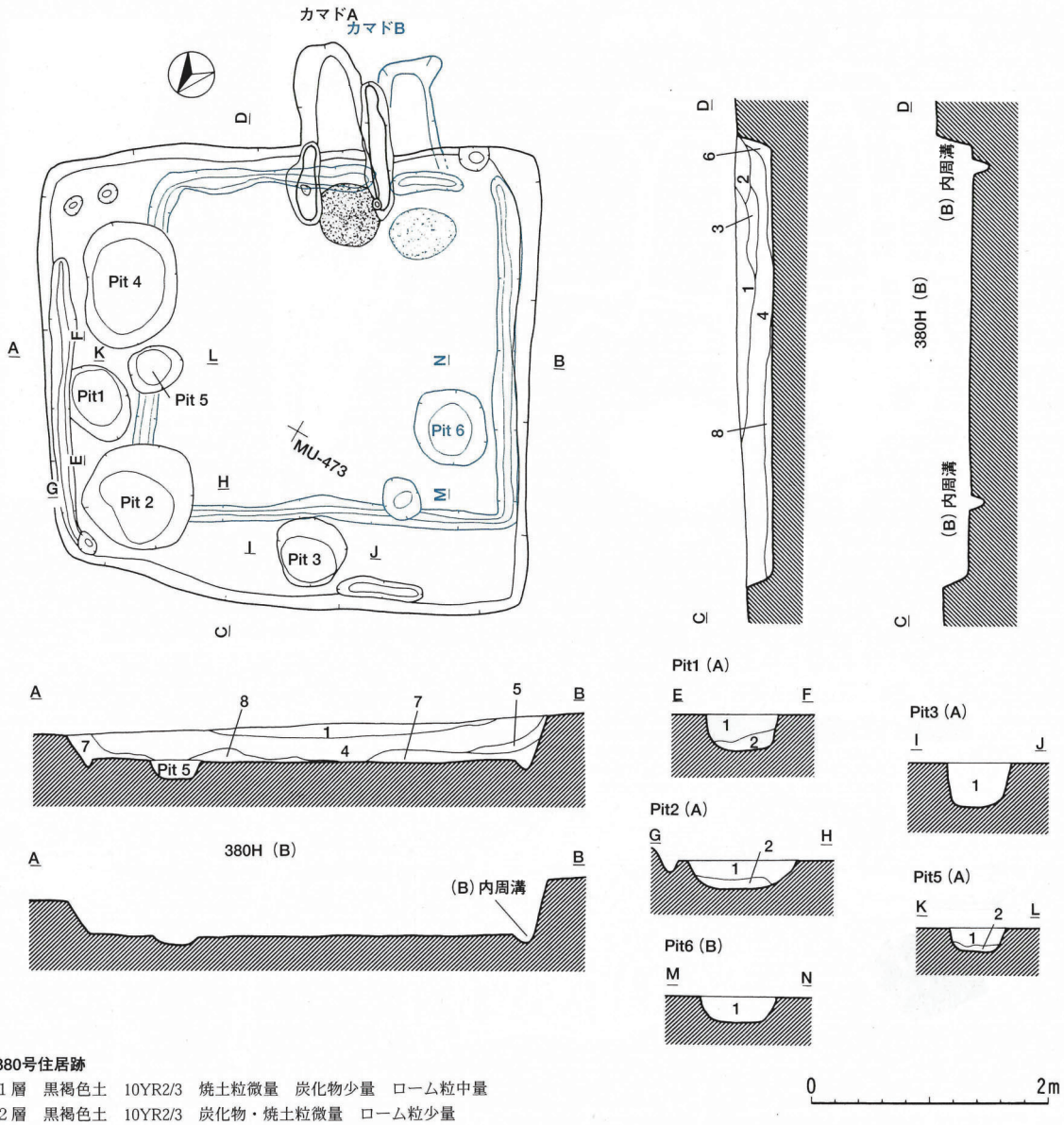
［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　検出されなかった。

［堆積土］　堆積土は２層に分層される。

［時　期］　時期は不明である。

（相馬良仁）



第380号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒微量　炭化物少量　ローム粒中量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物・焼土粒微量　ローム粒少量
第３層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒少量　炭化物・ローム粒中量
第４層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒微量　炭化物中量　ローム粒多量
第５層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物少量　ローム粒・焼土粒中量
第６層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物少量　ローム粒中量
第７層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量　ローム粒中量
第８層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒微量　炭化物少量　ローム粒中量

カマドA

第１層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒・炭化物・ローム粒中量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒・炭化物・ローム粒微量
第３層　黒褐色土　10YR2/3　To-a・L.B・炭化物微量
第４層　褐色土　10YR4/4　焼土粒・炭化物微量
第５層　褐色土　7.5YR4/4　ローム質土
第６層　赤褐色土　5YR4/6　ローム質土　焼土ブロック多量　炭化物微量
第７層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒・炭化物微量　ローム粒多量

カマドB

第１層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒・炭化物・ローム粒中量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒・炭化物・ローム粒微量
第３層　黒褐色土　10YR2/3　To-a　L.B・炭化物微量

Pit 1

第１層　暗褐色土　7.5YR3/4　ローム粒・炭化物少量　焼土ブロック
第２層　黒褐色土　10YR2/3

Pit 2

第１層　暗褐色土　10YR3/4　L.B少量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒・ローム粒少量

Pit 3

第１層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒・炭化物微量

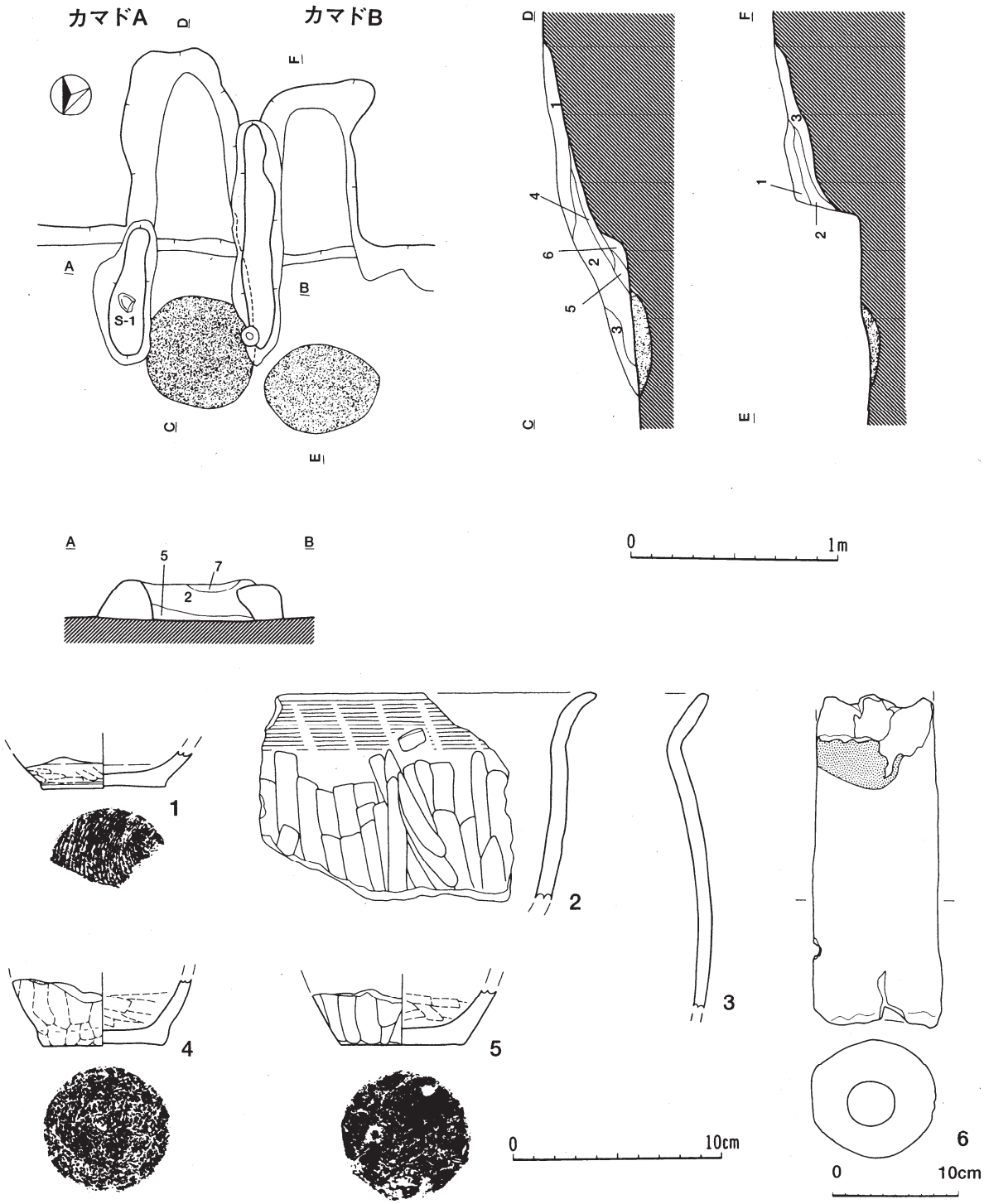
Pit 5

第１層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒・炭化物微量
第２層　暗褐色土　10YR3/4

Pit 6

第１層　黒褐色土　10YR4/4

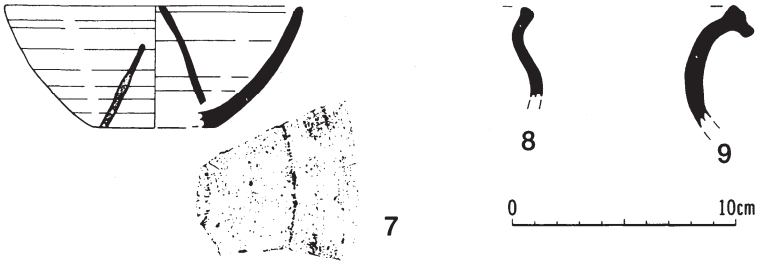
図227　第380号竪穴住居跡（１）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	カマド	—	(1.7)	(6.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
2	土師器	甕	フク土	(22.0)	(10.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
3	土師器	甕	Pit6 カマド	(19.0)	(15.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
4	土師器	甕	Pit6 フク土	—	(3.3)	6.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底→ナデツケ	A	
5	土師器	甕	フク土	—	(2.7)	6.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	—	A	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
6	カマドAフク土	(26.6)	10.0×9.5	3.8	(2,160)	B	ナデ、指痕	羽口-201

図228　第380号竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	須恵器	坏	床面	(13.2)	5.3	(5.4)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	—	火だすき痕 P-2
8	須恵器	甕	カマド	—	(3.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	自然釉
9	須恵器	甕	カマド	—	(5.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図229　第380号竪穴住居跡出土遺物（２）

第380号（Ａ）竪穴住居跡（図227～図229）

［位　置］　ＭＴ・ＭＵ－472・473グリッドに位置する。

［重　複］　本住居跡は第380号（Ｂ）住居跡を拡張したと考える。

［平面形・規模］　東壁３ｍ40cm、西壁３ｍ90cm、南壁４ｍ15cm、北壁３ｍ90cmで、北壁東側がやや内側に入る方形である。床面積は、13.99㎡で、主軸方位はＮ－149°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁31cm、西壁40cm、南壁31cm、北壁23cmで、床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅10～23cm、深さ４～10cmの周溝が東壁と北壁の一部に断片的に検出された。

［ピット］　ピットは６個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に構築され、袖は粘土で築いており、礫、羽口を芯材として使い、本体を構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に91cmのびる。煙道部底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［その他の施設］　北東隅に、長軸94cm、短軸88cm、深さ24cmのピット２、東壁南側に、長軸106cm、短軸76cmのピット４を検出した。

［堆積土］　堆積土は８層に分層され、４層には炭化物が、５層には焼土がそれぞれ中量混入している。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕、坏や須恵器の甕、坏、羽口が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半～後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第380号（Ｂ）竪穴住居跡（図227～図229）

［位　置］　ＭＴ・ＭＵ－472・473グリッドに位置する。

［重　複］　第380号（Ａ）住居跡は、本住居跡を拡張したものと考える。

［平面形・規模］　西壁２ｍ96cm、南壁２ｍ94cm、東壁と北壁東側が、第380号（Ａ）住居跡ピット２、ピット４、ピット５に切られており残存する北壁は２ｍ68cmで、ほぼ方形と推定する。床面積は

9.52㎡で、主軸方位はN－150°－Eである。

［壁・床面］　拡張のため、壁は残存しない。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅12～24cm、深さ１～18cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは２個である。柱穴とは考えられない。

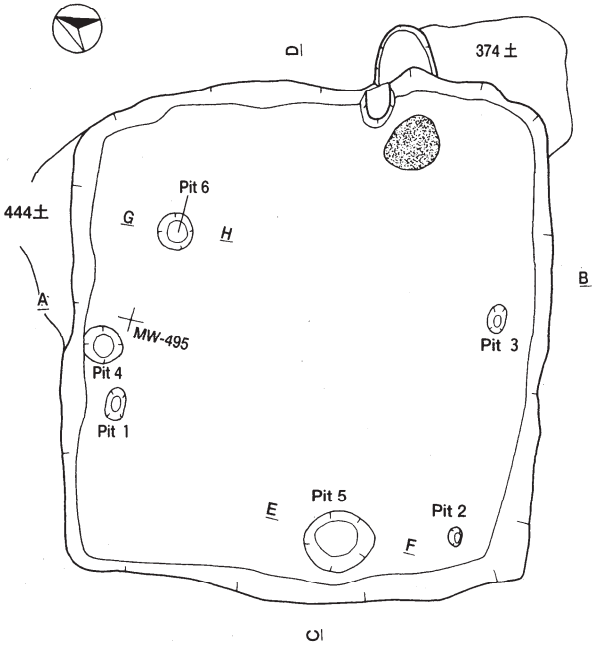
［カマド］　南壁西側に構築されている。火床面と煙道部のみ残存し、煙道は半地下式で、住居跡外に82cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

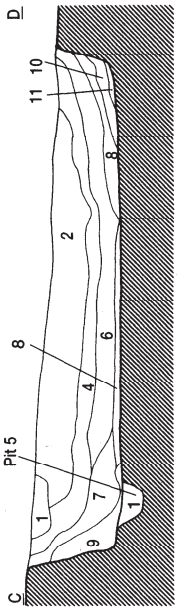
［堆積土］　第380号（A）住居跡と重複しているため、確認できなかった。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

［時　期］　重複関係から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）





第381号住居跡

第１層　暗褐色土　10YR3/3
焼土・炭化物微量　ローム粒中量

第２層　暗褐色土　10YR3/3
焼土・炭化物・ローム粒中量

第３層　暗褐色土　10YR3/4
L.B.少量　焼土・炭化物中量

第４層　黒褐色土　10YR2/2
焼土微量　L.B.少量　炭化物多量

第５層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
焼土・炭化物微量　ローム質土
L.B.多量

第６層　褐色土　10YR4/4
L.B.中量

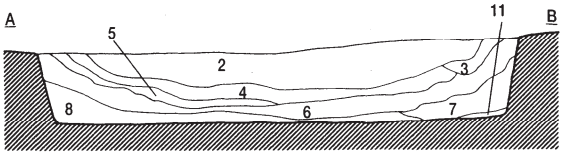
第７層　黒褐色土　10YR2/3
ローム・L.B.少量

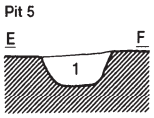
第８層　黒褐色土　10YR3/2

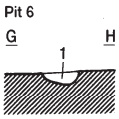
第９層　暗褐色土　7.5YR3/3
ローム・焼土微量

第10層　明褐色土　7.5YR5/6
粘土　焼土・炭化物微量

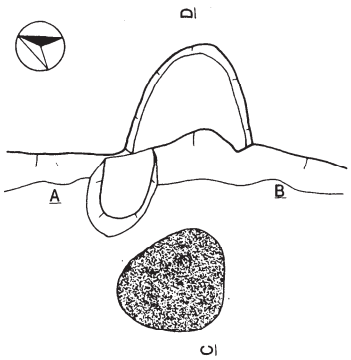
第11層　黒褐色土　10YR2/3
粘土

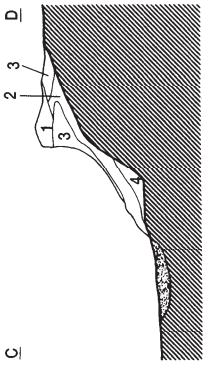






0　2m





Pit 5

第１層　褐色土　10YR4/4　ローム微量　炭化物・焼土少量

Pit 6

第１層　暗赤褐色土　5YR3/6　炭化物少量

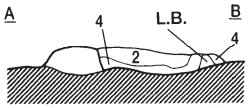
カマド

第１層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　炭化物・焼土微量
ローム粒・灰微量

第２層　褐色土　7.5YR4/6　ローム粒・灰微量
炭化物少量　焼土中量

第３層　暗褐色土　7.5YR3/4　炭化物・ローム・灰微量
焼土少量

第４層　黒褐色土　7.5YR3/2　炭化物・焼土中量
ローム・灰中量



0　1m

図230　第381号竪穴住居跡

第381号竪穴住居跡（図230・図231）

［位　置］　ＭＵ・ＭＶ－473・474グリッドに位置する。

［重　複］　第374号・第444号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］　東壁３ｍ58cm、西壁３ｍ54cm、南壁３ｍ60cm、北壁３ｍ34cmの方形である。床面積は12.89㎡で、主軸方位はＮ－77°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁46cm、西壁70cm、南壁64cm、北壁58cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　６個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

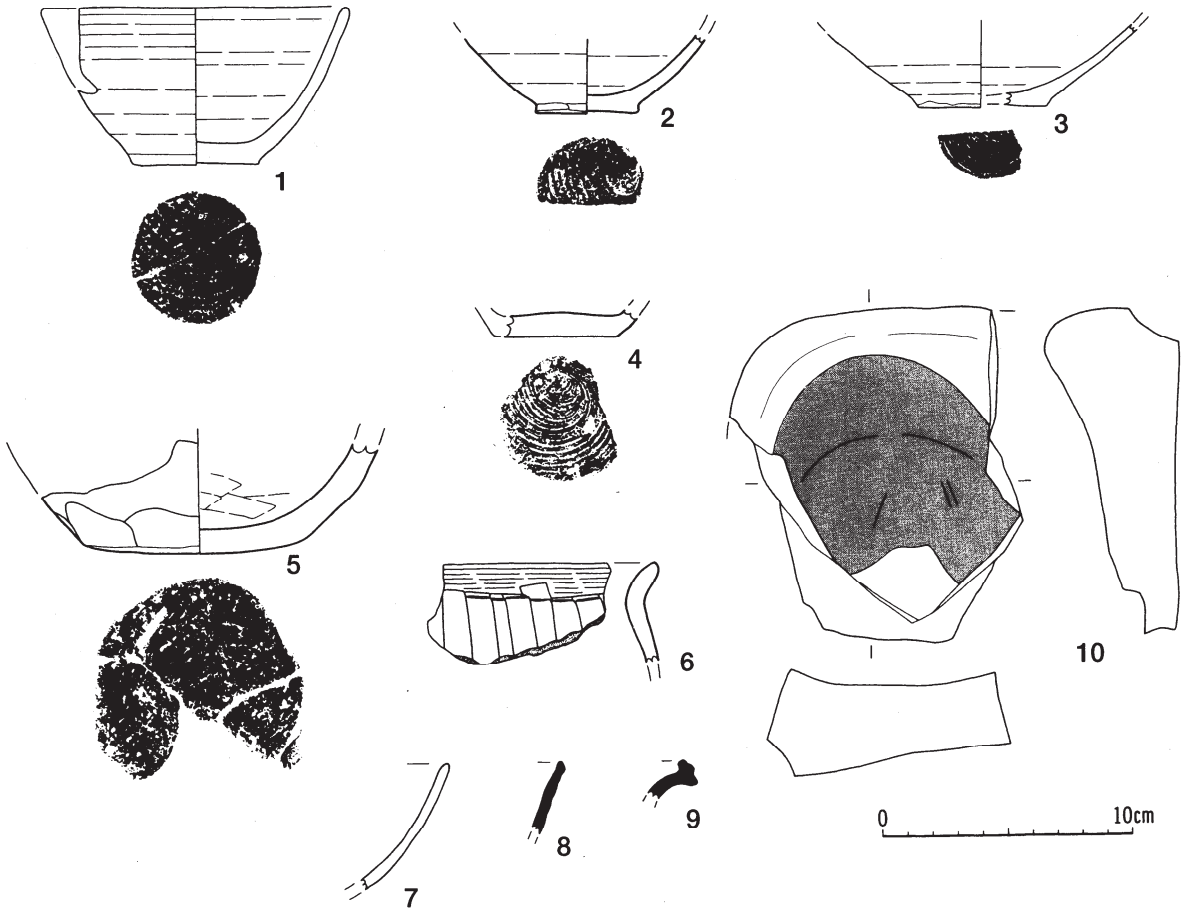
［カマド］　東壁南側に構築されているが残存状態が不良で、焚き口は火床面と北側のソデが残存するのみである。煙道は半地下式で、住居跡外に40cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は11層に分層され、４層に炭化物が多量に混入している。

［出土遺物］　覆土から、土師器の甕、坏や須恵器の坏、壺のほか、砥石が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

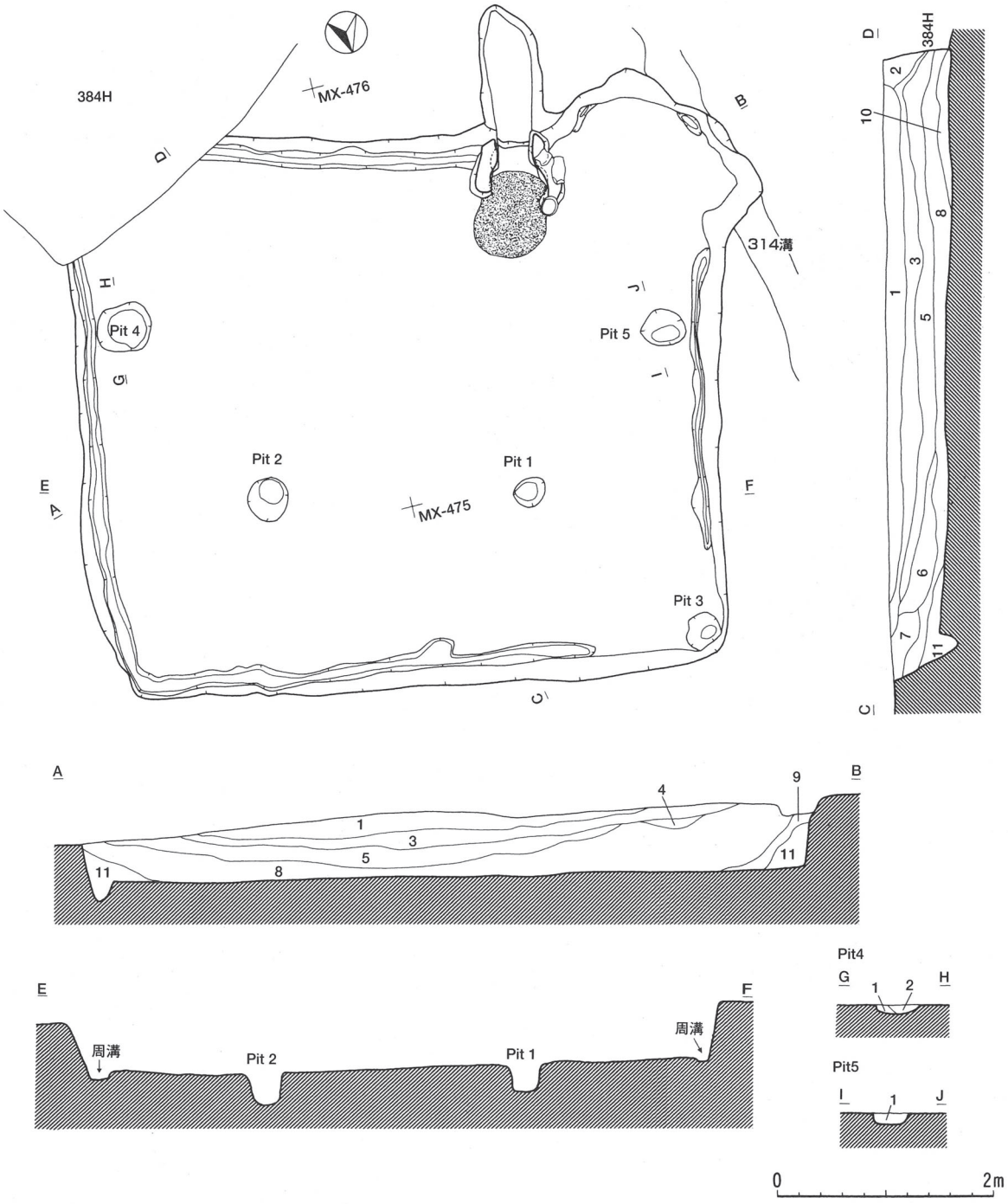
（相馬良仁）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フク土	12.4	6.3	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り？	BⅡb	
2	土師器	坏	フク土	—	(3.1)	(4.2)	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ロクロ	糸切り？	BⅡ	
3	土師器	坏	フク土	—	(3.2)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
4	土師器	坏	フク土	—	(1.1)	(5.0)	—	—	不明	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理
5	土師器	甕	フク土	—	(4.5)	(8.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
6	土師器	甕	フク土	(14.0)	(4.0)	—	ヨコナデ ヘラケズリ	—	—	ヨコナデ ヘラナデ	—	—	—	A	
7	土師器	坏	フク土	(12.0)	(5.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	BⅡ	
8	須恵器	坏	フク土	—	(2.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
9	須恵器	壷	フク土	—	(1.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
10	フク土	13.4	10.7	4.3	750	凝灰岩	砥石	炭化物付着

図231　第381号竪穴住居跡出土遺物



第382号(A)住居跡

第1層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒・炭化物・焼土粒中量
第2層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物少量　ローム粒・焼土粒微量
第3層　暗褐色土　10YR3/3　B-Tm混入　ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第4層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量　炭化物・焼土粒微量
第5層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量　炭化物・焼土粒微量
第6層　暗褐色土　10YR3/4　黒褐色土（10YR2/3）混入　ローム粒中量　炭化物・焼土
第7層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量　炭化物・焼土粒微量
第8層　黒褐色土　10YR2/3　黒褐色土（10YR2/2）混入　ローム粒中量　炭化物・焼土粒微量
第9層　黒褐色土　10YR2/2　暗褐色土（10YR3/3）混入
第10層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物少量　焼土粒微量
第11層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒極微量

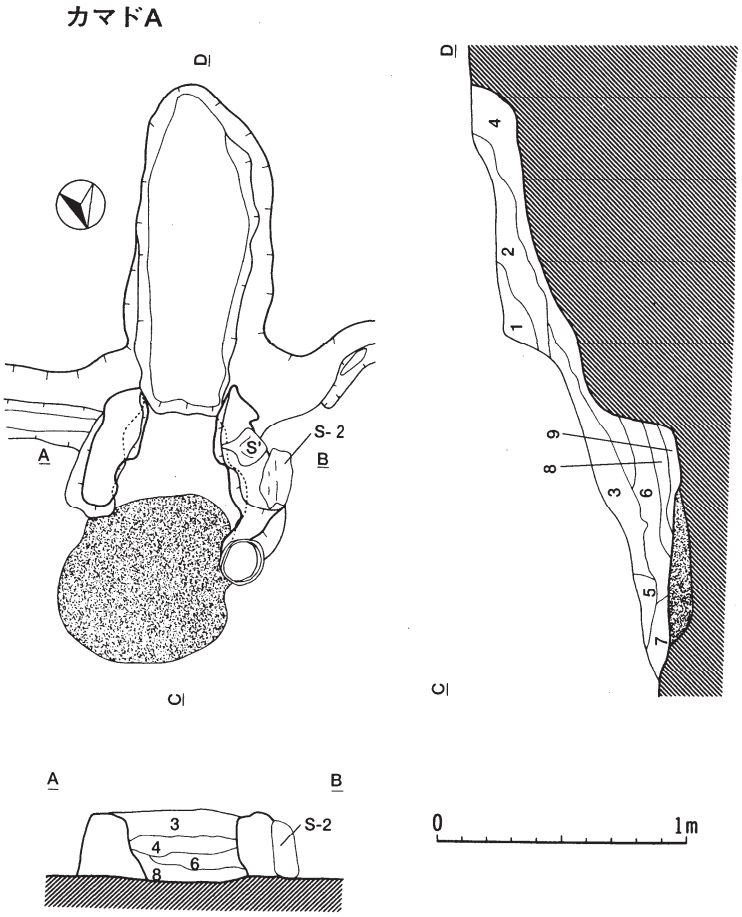
Pit 4

第1層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物・焼土粒微量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR5/4

Pit 5

第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　焼土粒微量　炭化物極微量

図232　第382号(A)竪穴住居跡（1）



カマド（A）

第１層	にぶい黄褐色土 炭化物微量　ローム粒少量	10YR4/3
第２層	褐色土 炭化物・ローム粒中量	7.5YR4/4
第３層	暗赤褐色土 炭化物微量　焼土多量	5YR3/6
第４層	暗褐色土 炭化物・焼土中量	7.5YR3/4
第５層	赤褐色土 焼土多量	5YR4/8
第６層	明褐色土 焼土中量	7.5YR5/8
第７層	褐色土 炭化物多量	7.5YR4/4
第８層	褐色土 炭化物微量　焼土多量	7.5YR4/6
第９層	赤褐色土 焼土多量	5YR4/8

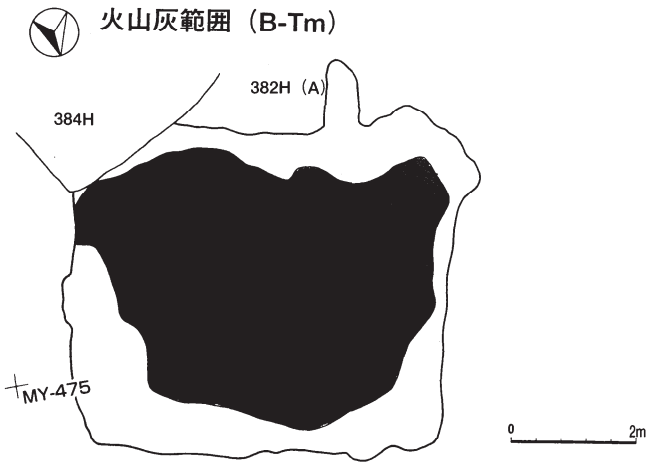


図233　第382号(A)竪穴住居跡（２）

第382号（Ａ）竪穴住居跡（図232～図237）

［位　置］　ＭＷ・ＭＸ－474・475グリッドに位置する。

［重　複］　第384号住居跡、第314号溝と重複し、本住居跡は第384号住居跡、第314号溝より古い。また、本住居跡は第382号（Ｂ）住居跡を拡張したものと考える。

［平面形・規模］　北壁５m34cm、東壁北側と南壁東側が第384号住居跡に切られ、南西隅の貼り出し部が第314号溝に切られており、残存する東壁３m96cm、西壁３m82cm、南壁３m38cmで、ほぼ長方形と推定される。床面積は27.73㎡で、主軸方位はN－169°－Wである。

［壁・床面］壁高は、東壁32cm、西壁54cm、南壁63cm、北壁15cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅６～22cm、深さ１～15cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは５個である。柱穴はピット１（23cm）、ピット２（31cm）と考える。

［カマド］　南壁西側に構築される。礫と土師器を芯材に転用し、粘土で覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に126cmのびる。煙道底面は緩やかに立ち上がる。

［その他の施設］　北東隅に長軸１m72cm、短軸78cmで南西に突き出す張り出しを検出した。径34cmのピット３、長軸50cm、短軸42cm、深さ８cmのピット４、長軸42cm、短軸34cm、深さ10cmのピット５を検出した。

［堆積土］　堆積土は11層に分層され、３層にB－Tm火山灰が混入する。

［出土遺物］　土師器の甕、坏や須恵器の甕、砥石が出土した。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第382号（B）竪穴住居跡（図232～図237）

［位　置］　MW・MX－474・475グリッドに位置する。

［重　複］　第382号（A）住居跡は、本住居跡を拡張したものと考える。

［平面形・規模］　東壁南側と西壁南側は確認されなかった。北壁４m30cm、残存する東壁２m60cm、西壁１m98cmである。平面形は不明で、床面積は19.3㎡である。

［壁・床面］　残存する壁高は、東壁12cm、西壁10cm、北壁８cmで、床面はほぼ平坦で、主軸方位はN－169°－Wである。

［周　溝］　幅10～22cm、深さ４～26cmの周溝が北壁、東壁、西壁の一部に検出された。

［ピット］　検出されたピットは８個である。いずれも柱穴とは考えられない。

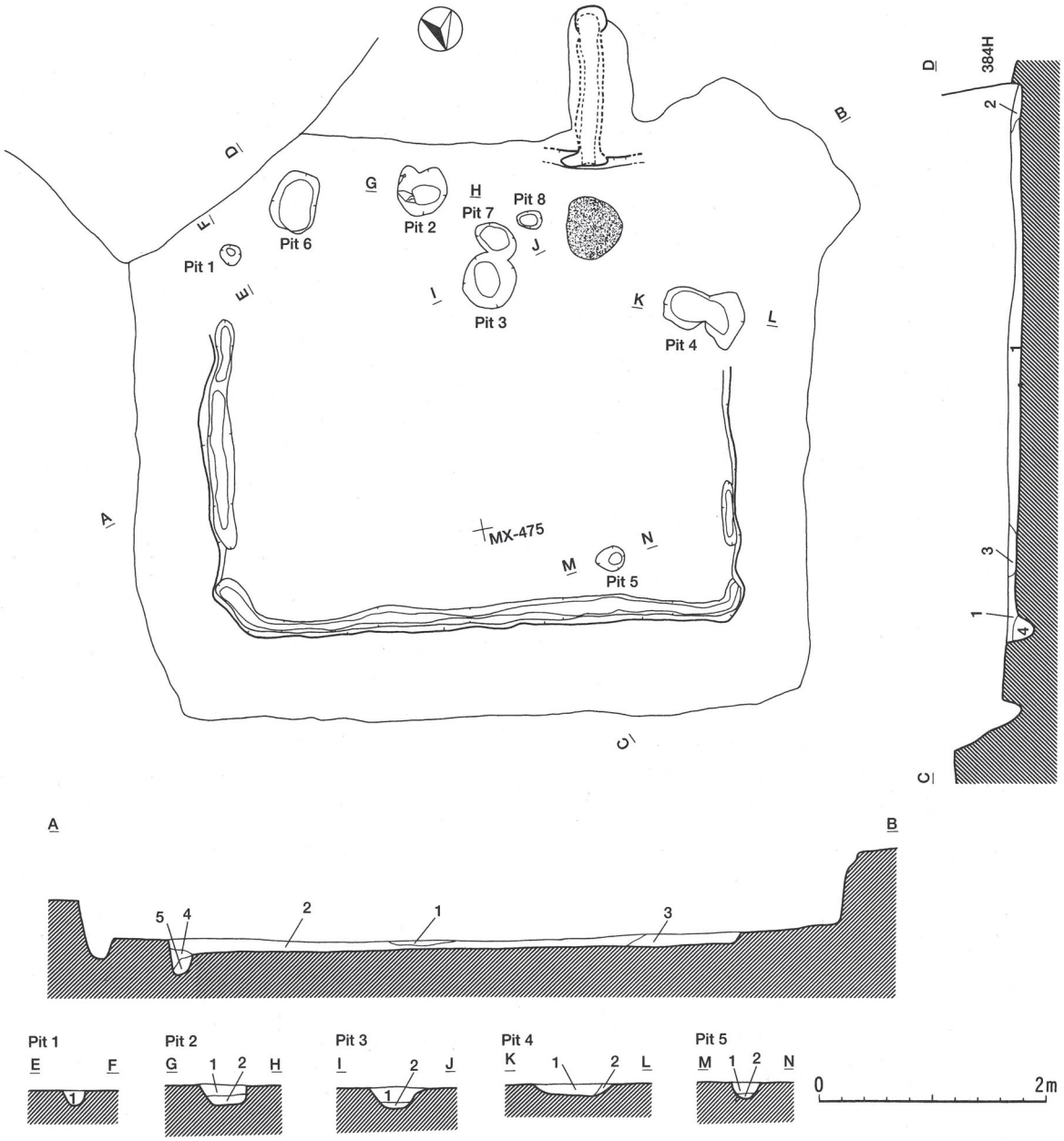
［カマド］　南壁西側に構築されており、火床面と煙道のみ残存する。煙道は地下式で、住居跡外に138cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに下降する。

［その他の施設］　南東隅に、径18cm、深さ12cmのピット１、南壁中央に、径44cm、深さ18cmのピット２、南壁中央に、径50cm、深さ18cmのピット３、西壁南側に、径72cm、深さ10cmのピット４、北壁西側に、径14cm、深さ14cmのピット５、南東隅に、長軸52cm、短軸38cmのピット６が検出された。

［堆積土］　堆積土は５層に分層される。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第382号(B)住居跡

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物・焼土粒・ローム粒少量
第2層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒・炭化物・ローム粒中量
第3層	暗赤褐色土	5YR3/6	炭化物微量　焼土粒多量
第4層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土粒中量
第5層	赤褐色土	5YR4/8	焼土粒

Pit 1

第1層	褐色土	7.5YR4/4	焼土・炭化物微量

Pit 2

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土・炭化物微量
第2層	褐色土	10YR4/4	焼土微量

Pit 3

第1層	黒褐色土	10YR2/2	焼土・炭化物微量
第2層	褐色土	10YR4/4	

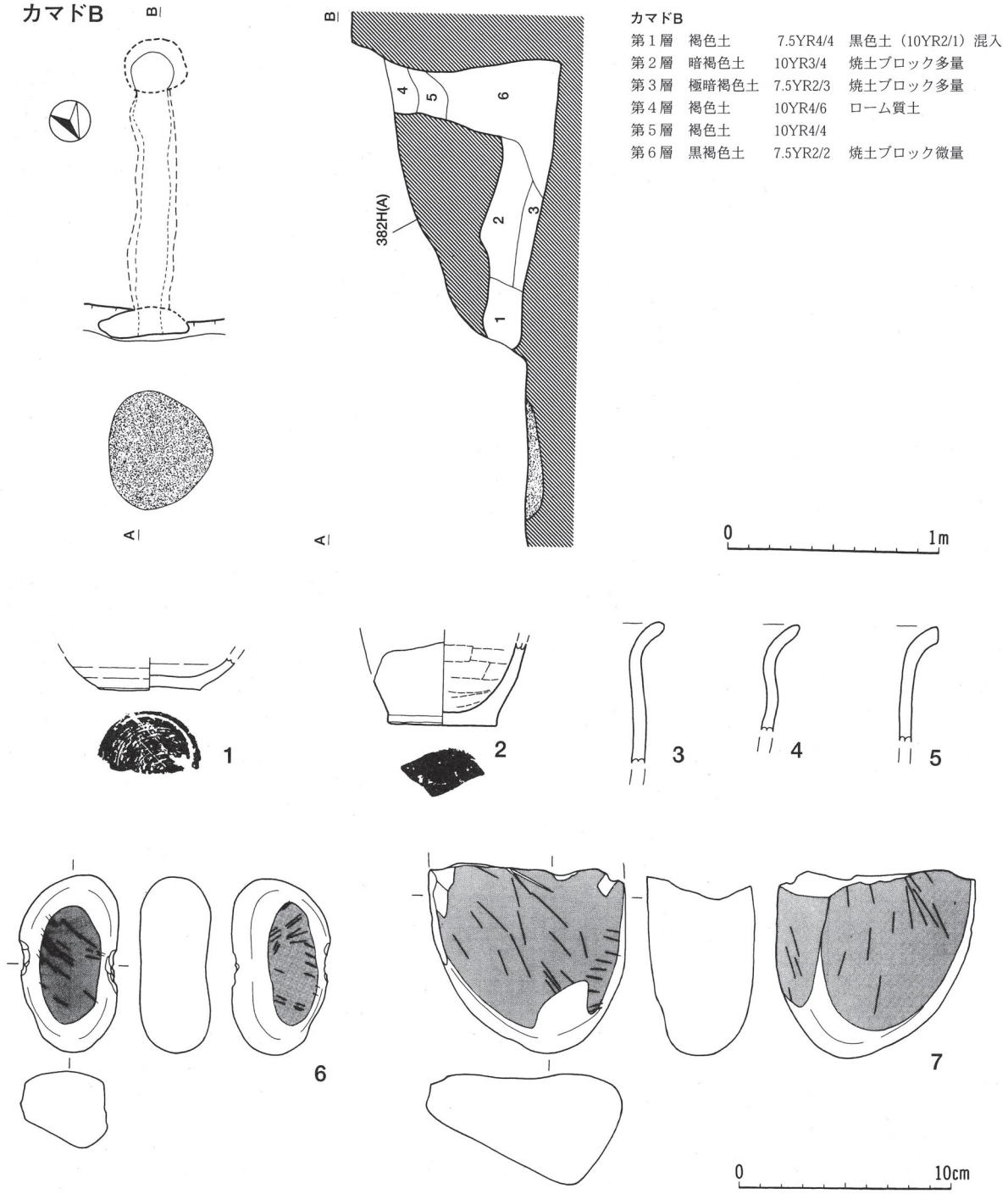
Pit 4

第1層	明褐色土	10YR5/6	炭化物・焼土微量
第2層	褐色土	10YR4/4	

Pit 5

第1層	黒褐色土	10YR2/2	焼土微量　炭化物中量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	

図234　第382号(B)竪穴住居跡（1）



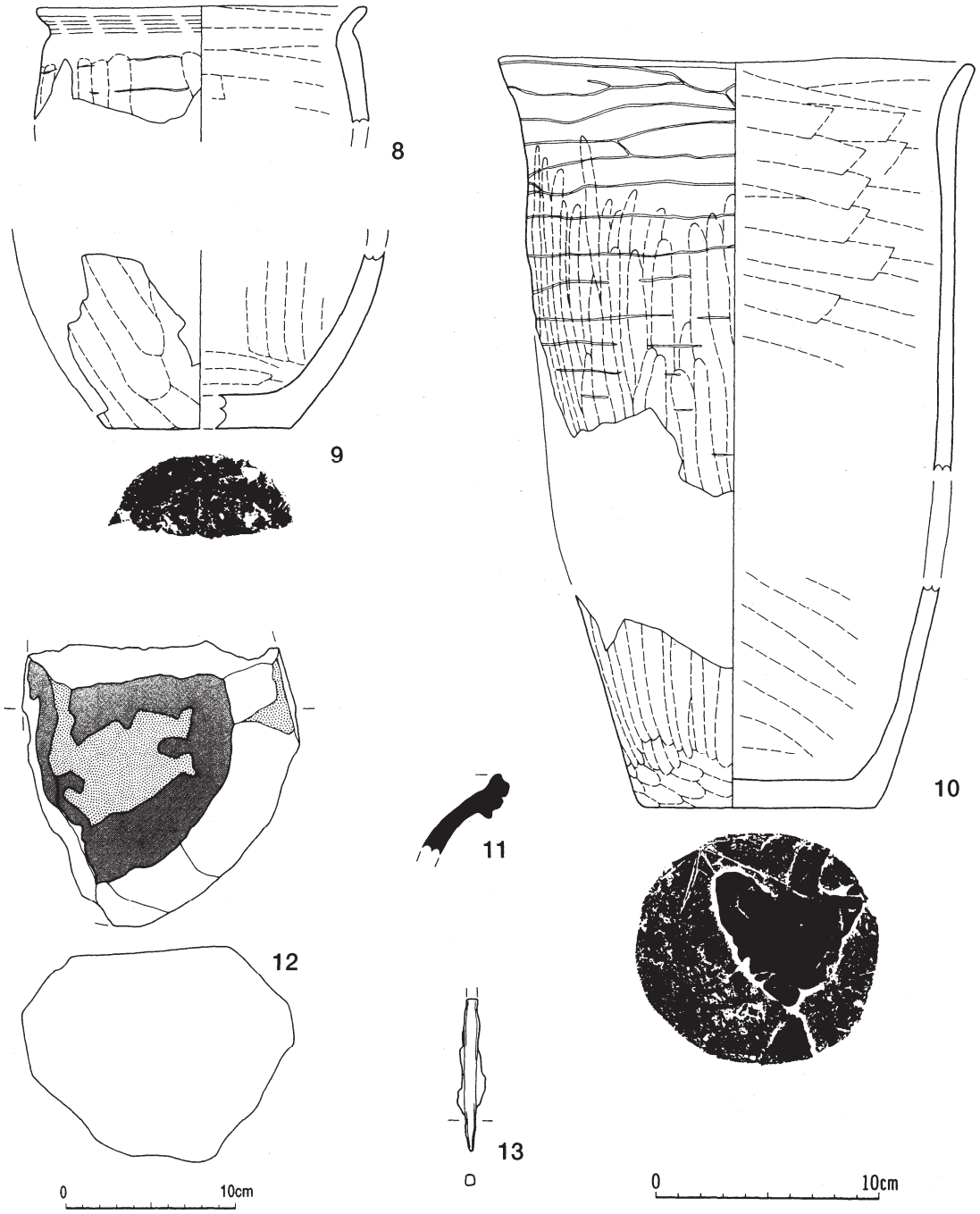
カマドB

第１層	褐色土	7.5YR4/4	黒色土（10YR2/1）混入
第２層	暗褐色土	10YR3/4	焼土ブロック多量
第３層	極暗褐色土	7.5YR2/3	焼土ブロック多量
第４層	褐色土	10YR4/6	ローム質土
第５層	褐色土	10YR4/4	
第６層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土ブロック微量

図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フク土	—	(1.5)	(4.8)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
2	土師器	鉢	フク土	—	(3.9)	(5.2)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
3	土師器	甕	Pit10 フク土	(23.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
4	土師器	甕	フク土	(16.0)	(5.1)	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
5	土師器	甕	フク土	(24.0)	(5.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
6	貼床下	8.4	4.3	3.3	120	細凝	砥石	
7	貼床下	8.6	9.4	5.3	465	流	砥石	

図235　第382号(B)竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）

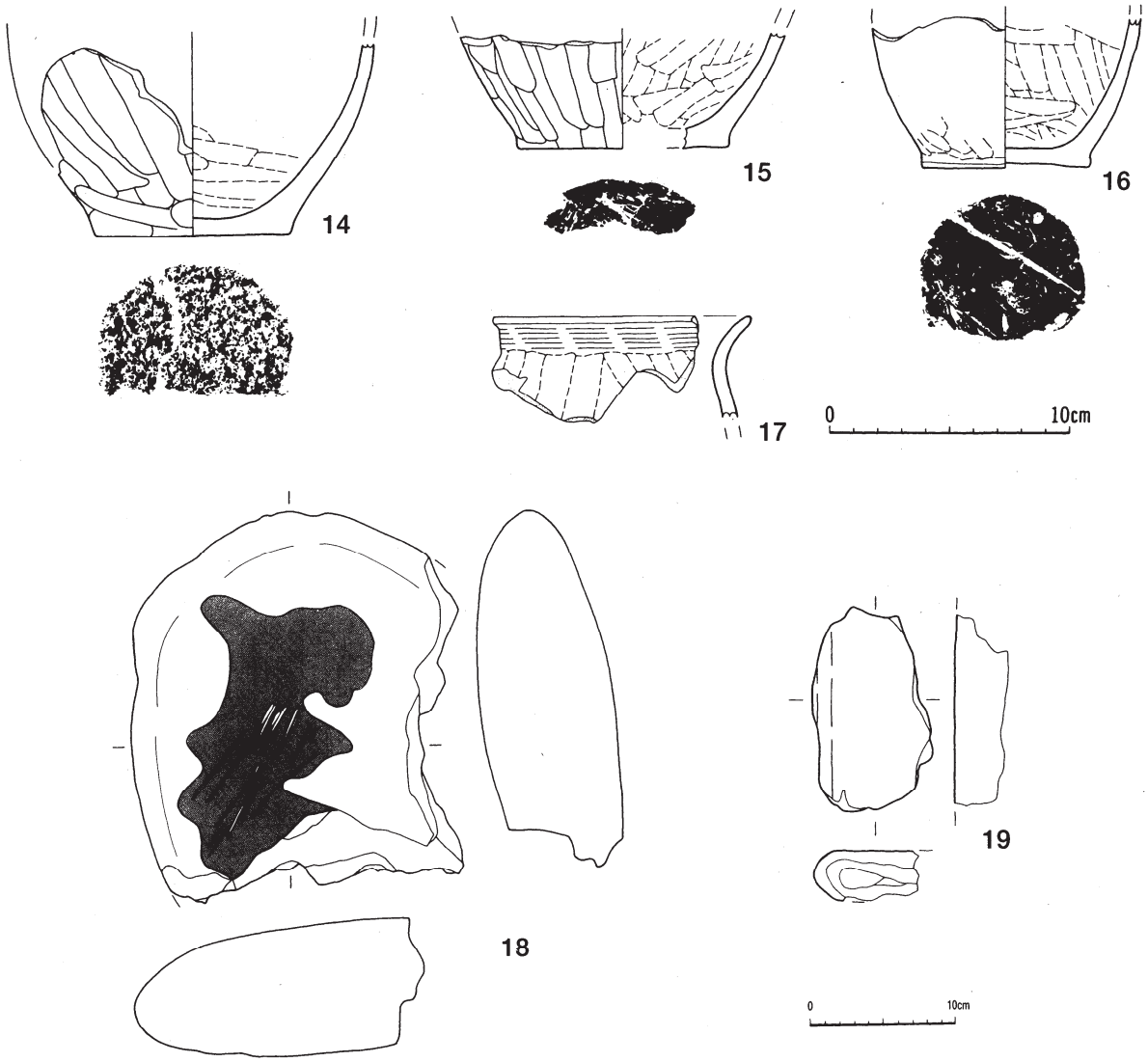


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
8	土師器	甕	カマドフク土	(15.0)	(5.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕P-2
9	土師器	甕	フク土	—	(7.9)	(18.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
10	土師器	甕	カマドフク土	21.4	(33.8)	10.4	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A1e	外面輪積痕　P-3
11	須恵器	甕	フク土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
12	カマドフク土	16.6	16.2	12.2	3,310	安	台石	S-1

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
13	フク土	6.9	0.4	0.5	8.4	棒状	

図236　第382号竪穴住居跡出土遺物（2）

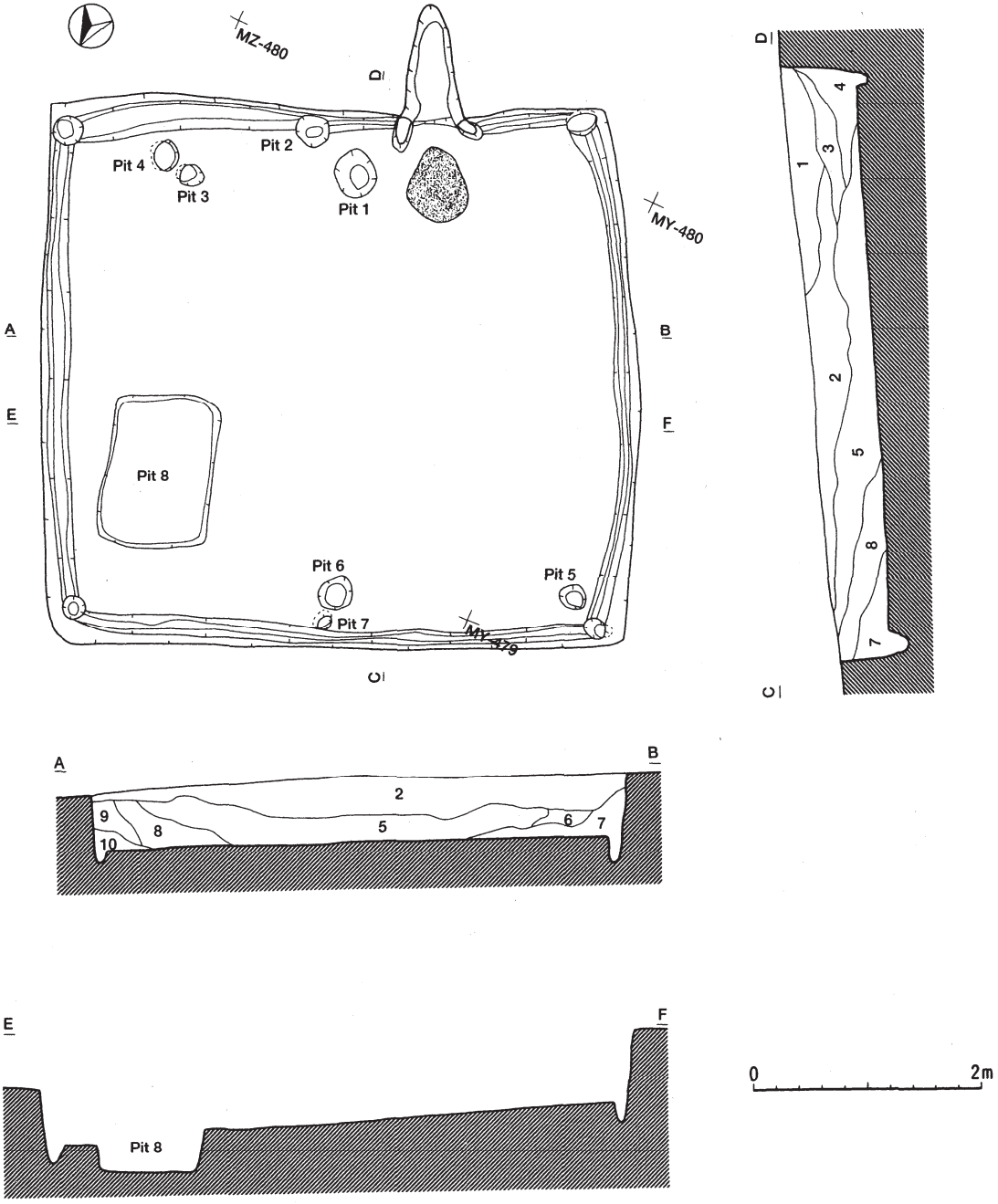


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
14	土師器	甕	カマド フク土	—	(7.9)	8.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-4
15	土師器	甕	フク土	—	(4.7)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
16	土師器	甕	Pit1フク土 貼床下	—	(6.3)	7.0	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	外面剥落 P-1
17	土師器	甕	フク土 貼床下	(16.0)	(4.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
18	カマドフク土	25.5	20.2	8.8	8,700	安	砥石	

図版番号	種類	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	特徴	備考
19	焼成粘土板	Pit4フク土	(14.3)	(7.4)	(3.8)	403	ヘラナデ調整	

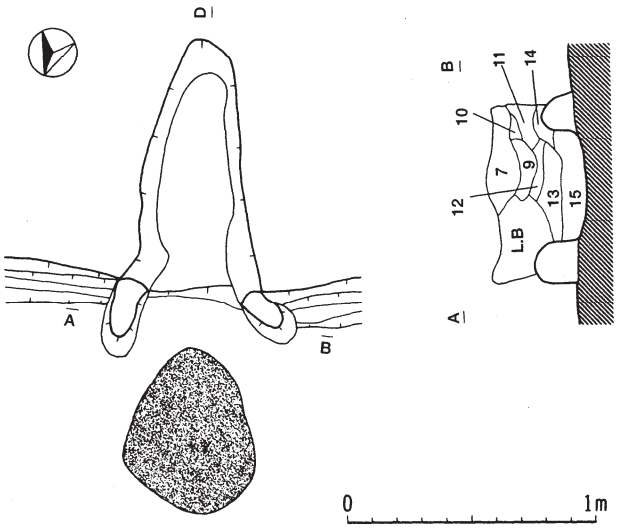
図237　第382号竪穴住居跡出土遺物（3）



第383号住居跡

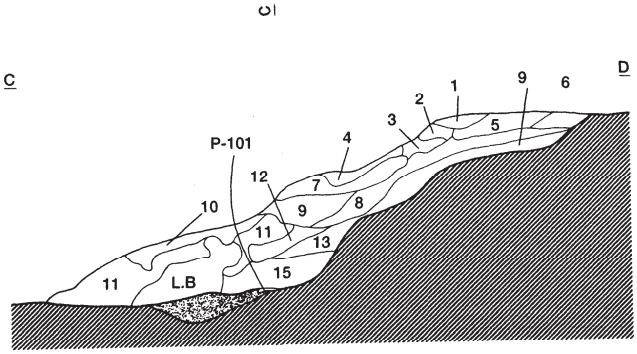
第１層　黒褐色土　10YR2/2　焼土・炭化物微量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　焼土微量
第３層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量
第４層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物微量
第５層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒多量　焼土・炭化物微量
第６層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量
第７層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量　焼土・炭化物微量
第８層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・焼土・炭化物微量
第９層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量
第10層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量

図238　第383号竪穴住居跡（１）



カマド

第１層	黒褐色土	10YR2/2	焼土微量
第２層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土中量
第３層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土粒微量
第４層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物微量
第５層	赤褐色土	5YR4/6	焼土
第６層	黒褐色土	7.5YR3/2	炭化物微量　焼土粒中量
第７層	暗赤褐色土	5YR3/4	粘土微量
第８層	褐色土	7.5YR2/1	焼土少量
第９層	褐色土	7.5YR4/4	
第10層	暗褐色土	7.5YR3/3	粘土微量　軽石少量
第11層	黒褐色土	10YR2/1	
第12層	褐色土	7.5YR4/4	焼土微量
第13層	黒褐色土	5YR2/2	焼土少量
第14層	黒褐色土	7.5YR2/2	炭化物微量　焼土粒少量
第15層	黒褐色土	5YR3/1	焼土微量



遺物出土状況

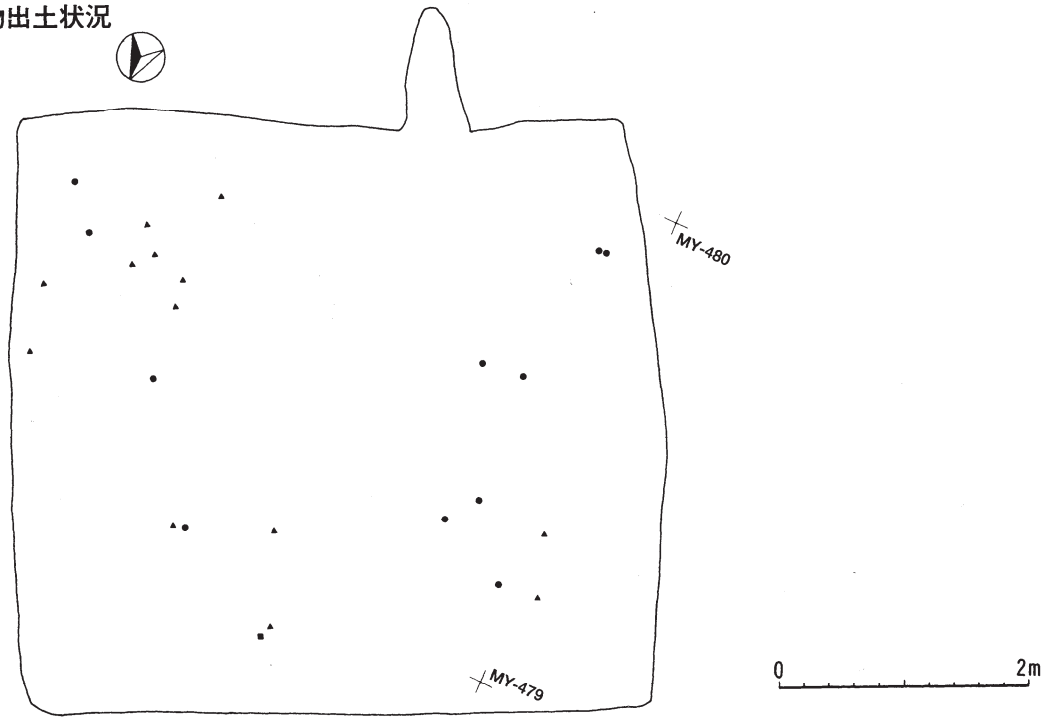
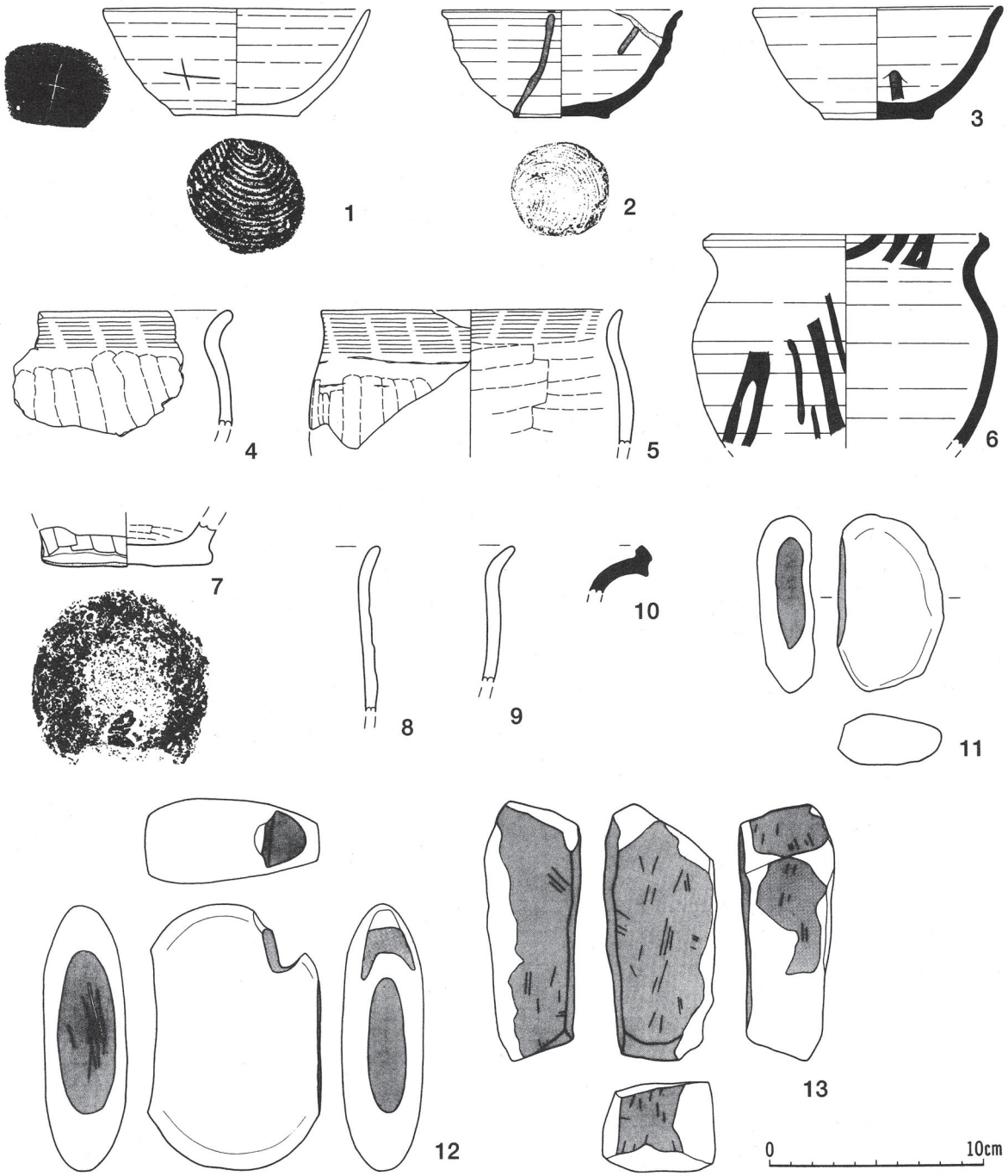


図239　第383号竪穴住居跡（２）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(12.5)	5.0	5.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	刻書+or×側面
2	須恵器	坏	フク土	(11.2)	5.0	4.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	—	内外面火だすき痕
3	須恵器	坏	フク土	(11.6)	5.2	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り→ヘラケズリ	—	内面火だすき痕 P-7
4	土師器	甕	フク土	(14.0)	(5.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
5	土師器	甕	フク土	(14.0)	(6.2)	—	ヘラナデ ナデ	—	—	ナデ	—	—	—	A	輪積痕
6	須恵器	甕	フク土	(12.6)	(9.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	内外面火だすき痕
7	土師器	甕	フク土	—	8.0	(1.9)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底→ナデツケ		P-8
8	土師器	甕	フク土	(23.0)	(7.8)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	輪積痕
9	土師器	甕	フク土	(14.0)	(6.3)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
10	須恵器	壺	フク土	—	(2.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—		—	

図240　第383号竪穴住居跡出土遺物（1）

図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
11	フク土	8.8	4.9	2.4	140	流	砥石	S-12
12	フク土	12.3	8.0	3.8	460	凝	砥石	S-13
13	フク土	11.7	5.2	4.0	400	凝	砥石	S-7

図241　第383号竪穴住居跡出土遺物（２）

第383号竪穴住居跡（図238～図241）

［位　置］　ＭＸ～ＭＺ－478～480に位置する。

［重　複］　確認されなかった。

［平面形・規模］　東壁４ｍ80cm、西壁４ｍ70cm、南壁４ｍ90cm、北壁５ｍ10cmの方形である。床面積は23.23㎡で、主軸方位はＮ－157°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁38cm、西壁59cm、南壁58cm、北壁60cmである。床面は東側へ緩やかに傾斜する。

［周　溝］　幅９～29cm、深さ４～30cmの周溝が一巡する。

［ピット］　検出されたピットは12個である。柱穴は、ピット２（21cm）、５（24cm）、６（30cm）、７（33cm）、10（21cm）、11（36cm）と考える。

［カマド］　南壁西側に構築されている。煙道は半地下式で、住居跡外に100cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［その他の施設］　東壁北側に、長軸134cm、短軸94cm、深さ38cmの長方形のピット12を検出した。

［堆積土］　堆積土は10層に分層される。

［出土遺物］　覆土から、土師器の甕、坏や須恵器の甕、壺のほか、砥石が出土している。

［時　期］　出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第384号竪穴住居跡（図242～図245）

［位　置］　ＭＷ～ＭＹ－475～477グリッドに位置する。

［重　複］　第382号・第392号住居跡と重複し、本住居跡が第382号・第392号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　東壁６ｍ66cm、西壁６ｍ80cm、南壁５ｍ５cm、北壁５ｍ25cmの方形と考える。主軸方位はＮ－143°－Ｅである。床面積は33.17㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁45cm、西壁75cm、南壁58cm、北壁69cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅７～39cm、深さ６～11cmの周溝が一巡する。

［ピット］　検出されたピットは20個である。柱穴は、ピット12（34cm）、ピット13（28cm）、ピット18（35cm）、ピット19（30cm）と考えられる。

［カマド］　南壁西側に構築されている。煙道は地下式で、住居跡外に120cmのびる。煙道は、煙出し方向に緩やかに下降する。

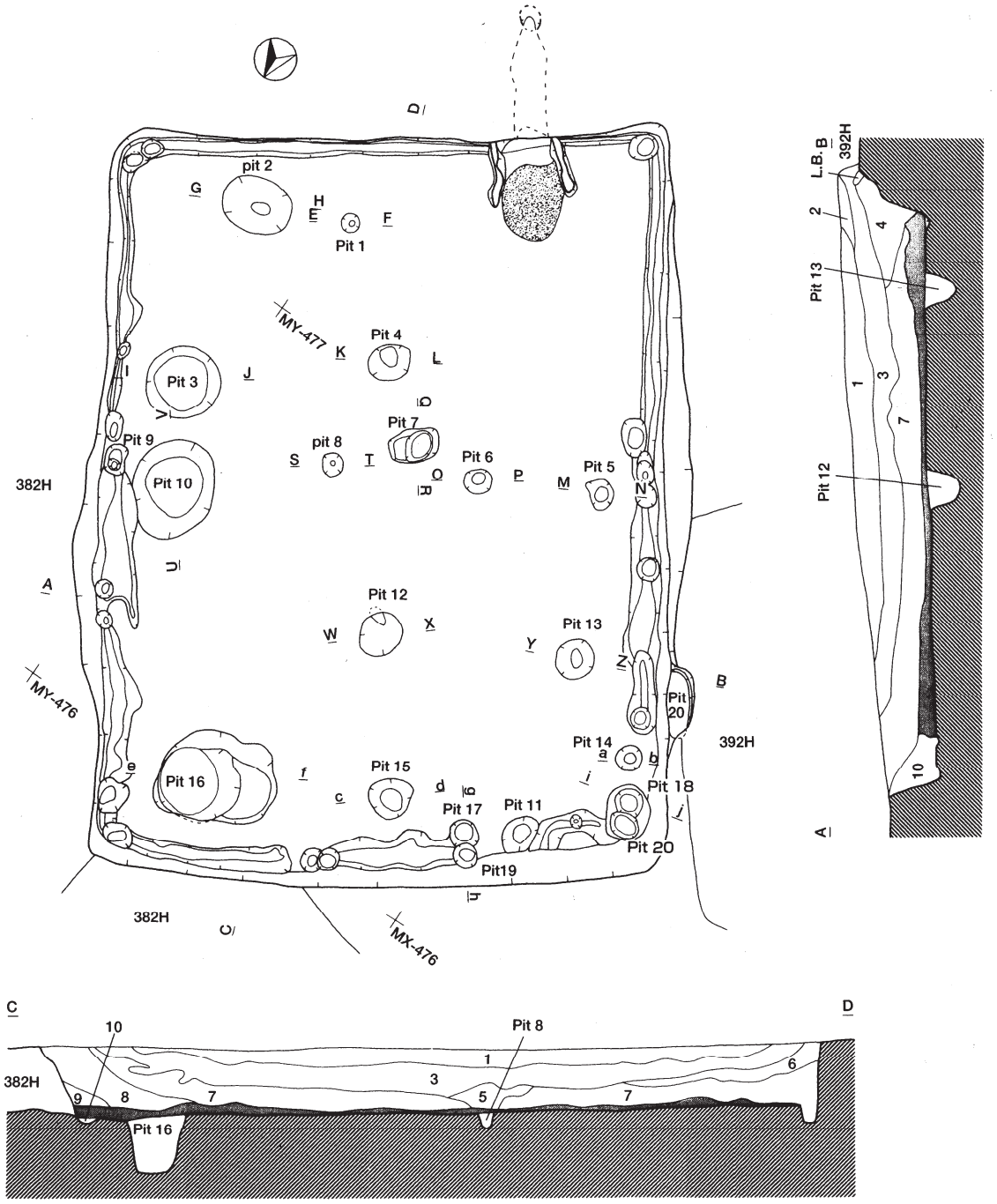
［その他の施設］　北東隅に、長軸108cm、短軸80cm、深さ72cmのピット16を検出した。

［堆積土］　堆積土は10層に分層される。カマド周辺から北壁にかけて炭化材を検出したことから、焼失家屋と考える。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕、坏や須恵器の甕、壺のほか、鎌が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀後半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

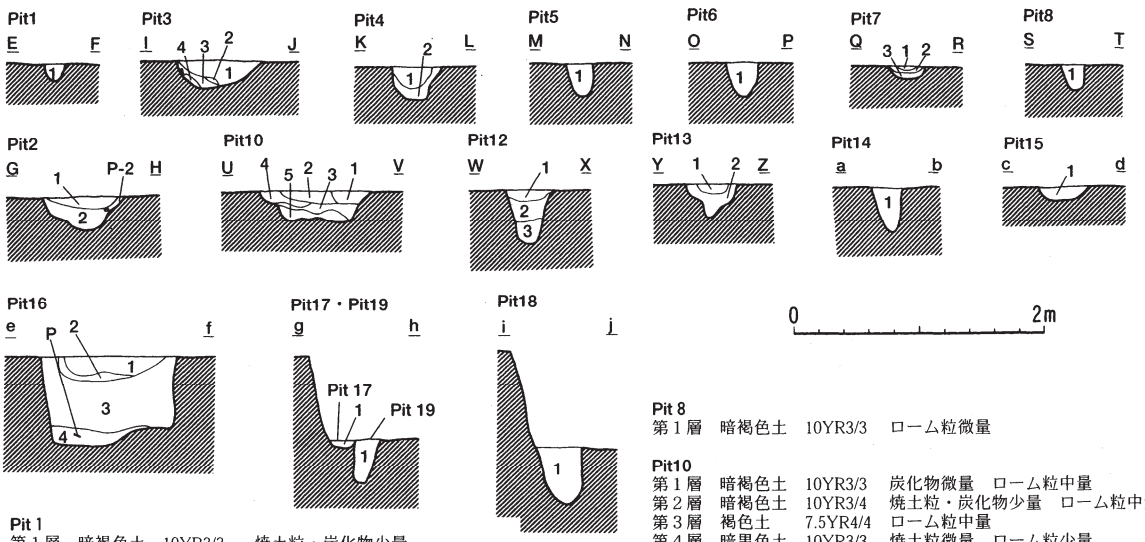


第384号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR1.7/1	焼土・炭化物微量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム質土　L.B.・焼土・炭化物少量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム質土　L.B.・焼土・炭化物少量
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム質土　焼土・炭化物微量
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム質土　焼土・炭化物・L.B.中量
第６層	暗褐色土	10YR3/4	ローム質土　焼土・炭化物・小礫微量
第７層	褐色土	10YR4/4	ローム質土　焼土・炭化物微量
第８層	暗褐色土	10YR3/3	焼土・炭化物少量
第９層	褐色土	10YR4/4	焼土・炭化物微量　ローム質土
第10層	暗褐色土	10YR3/3	焼土・炭化物少量

0　2m

図242　第384号竪穴住居跡（１）



Pit 1
第１層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒・炭化物少量

Pit 2
第１層　黒褐色土　7.5YR3/2　炭化物少量
第２層　暗褐色土　7.5YR3/3　焼土粒　炭化物　ローム多量

Pit 3
第１層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物少量　ローム粒中量
第２層　黒褐色土　7.5YR3/1　炭化物多量
第３層　明褐色土　7.5YR5/6　炭化物微量　焼土粒多量
第４層　黒色土　10YR1.7/1　炭化物中量

Pit 4
第１層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒微量　炭化物中量
第２層　褐色土　10YR4/4

Pit 5
第１層　黒褐色土　7.5YR3/2　炭化物微量　ローム粒少量

Pit 6
第１層　黒褐色土　7.5YR3/2　ローム粒微量　炭化物少量

Pit 7
第１層　明褐色土　7.5YR5/6　炭化物・焼土少量
第２層　褐色土　7.5YR4/4　焼土多量
第３層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物微量

Pit 8
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量

Pit10
第１層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物微量　ローム粒中量
第２層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒・炭化物少量　ローム粒中量
第３層　褐色土　7.5YR4/4　ローム粒中量
第４層　暗黒色土　10YR3/3　焼土粒微量　ローム粒少量
第５層　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒・炭化物微量　ローム粒少量

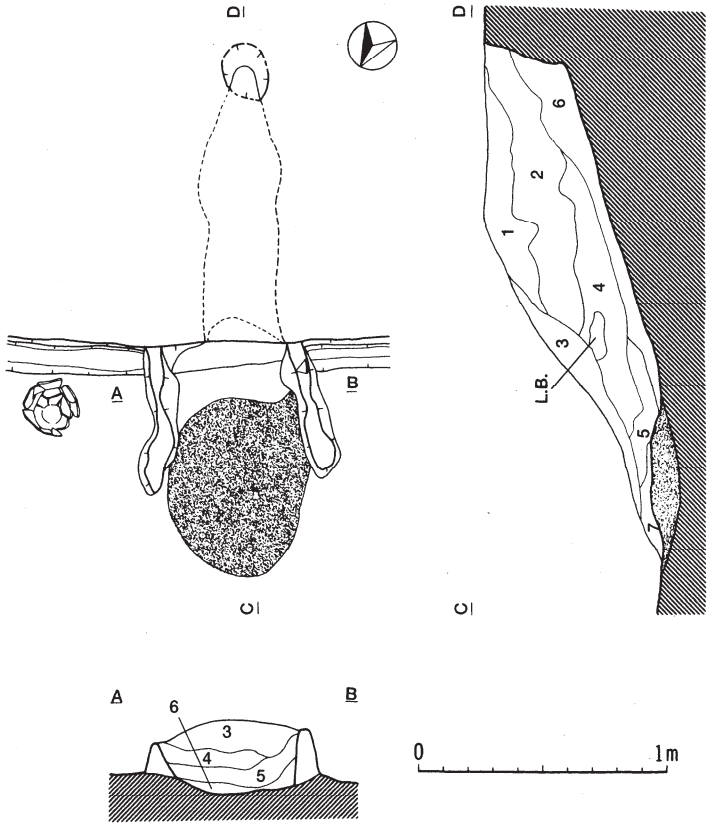
Pit12
第１層　黒褐色土　7.5YR3/2　焼土粒・ローム粒微量
第２層　黒褐色土　7.5YR3/2　ローム粒少量
第３層　明褐色土　7.5YR5/6　炭化物微量

Pit13
第１層　黒褐色土　7.5YR3/2　炭化物・焼土多量
第２層　褐色土　7.5YR4/3　ローム粒少量　炭化物極微量

Pit14
第１層　褐色土　7.5YR3/2　炭化物極微量

Pit15
第１層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物中量

Pit16
第１層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物少量
第２層　暗褐色土　7.5YR3/3　ローム粒微量　炭化物少量
第３層　黒褐色土　7.5YR3/2　炭化物少量　ローム粒多量
第４層　褐色土　7.5YR4/3　ローム粒微量



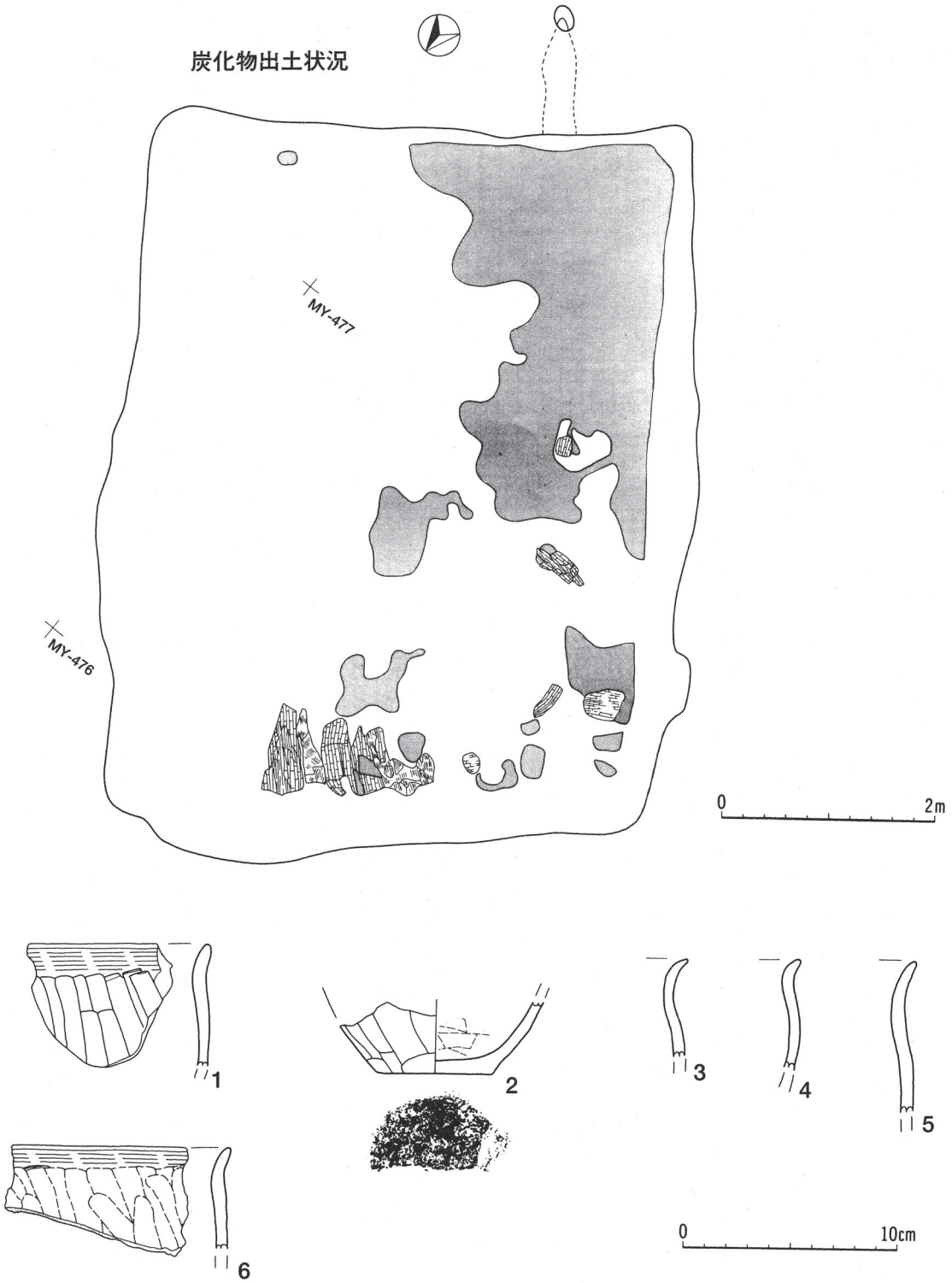
Pit17
第１層　褐色土　7.5YR4/4
炭化物微量　ローム粒少量

Pit18
第１層　黒褐色土　7.5YR4/6

Pit19
第１層　黒褐色土　7.5YR3/2
ローム粒中量　炭化物微量

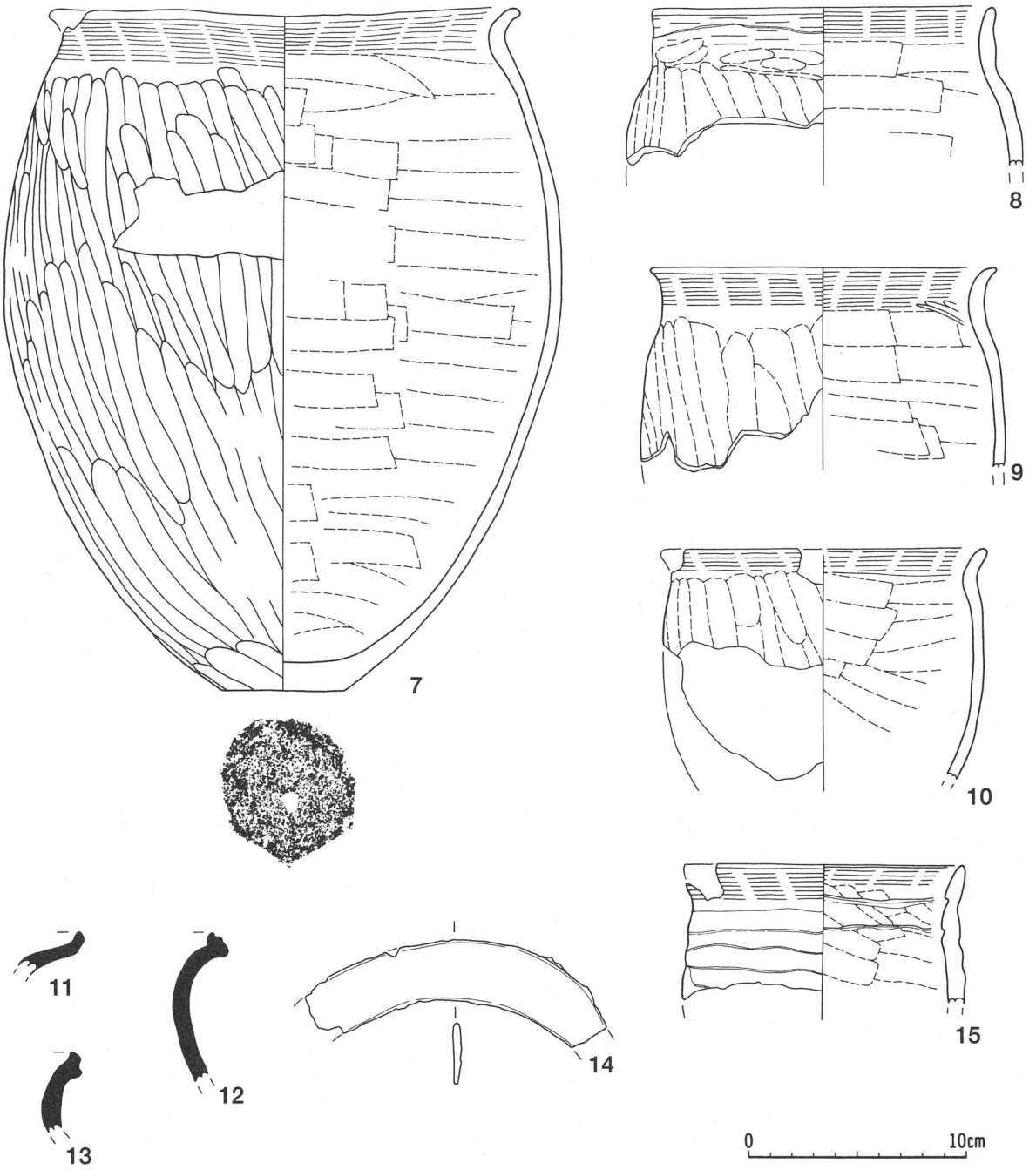
カマド
第１層　暗褐色土　10YR3/4
焼土・炭化物微量
第２層　黒褐色土　7.5YR3/2
焼土・炭化物少量
第３層　褐色土　7.5YR4/4
炭化物微量　焼土・ローム粒少量
第４層　暗褐色土　7.5YR3/4
焼土・ローム粒少量
第５層　赤褐色土　5YR4/6
炭化物中量　焼土多量
第６層　黒褐色土　7.5YR3/2
炭化物少量　焼土中量
第７層　暗褐色土　7.5YR3/3
焼土・炭化物中量

図243　第384号竪穴住居跡（２）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フク土	(12.0)	(5.7)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
2	土師器	甕	フク土	—	(3.5)	(6.0)	—	—	ヘラケズリ?	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	Pit10
3	土師器	甕	フク土	(22.0)	(4.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	不明	不明	—	—	A	
4	土師器	甕	カマドフク土	(15.0)	(5.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内面スス状炭化物付着
5	土師器	甕	フク土	(16.0)	(7.1)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
6	土師器	甕	フク土	(18.0)	(5.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

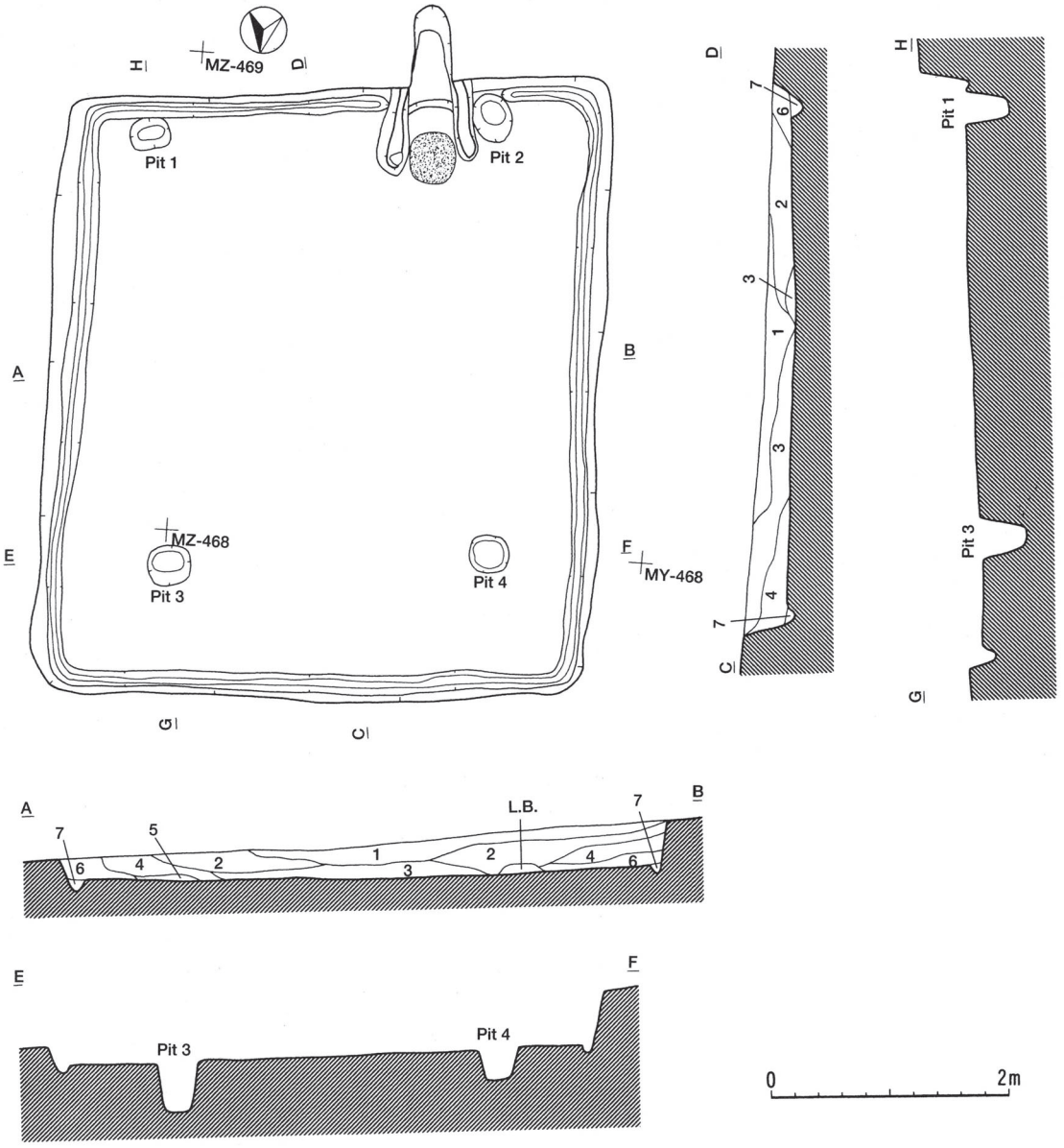
図244　第384号竪穴住居跡（3）・出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
7	土師器	甕	フク土 床面	(21.8)	31.5	5.8	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A I d	P-104 P- 埋設
8	土師器	甕	カマド フク土	(16.0)	(7.2)	—	ナデ？	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
9	土師器	甕	フク土	(16.0)	(9.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
10	土師器	甕	フク土	(15.0)	(10.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
11	須恵器	壷	フク土	—	(2.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
12	須恵器	甕	不明	—	(6.9)	—	ロクロ	—	—	頸部下部 ロクロ→ヘラナデ	—	—	—	—	
13	須恵器	壷	フク土	—	(3.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
15	土師器	壷	フク土	(13.0)	(7.0)	—	ヨコナデ	ナデ？	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内外面輪積痕

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
14	床面直上	14.0	2.8	0.5	38.7	鎌	Fe-1

図245　第384号竪穴住居跡出土遺物（2）



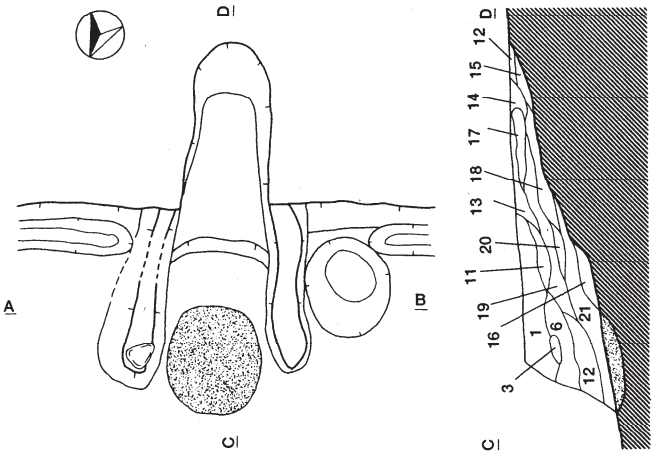
第385号住居跡

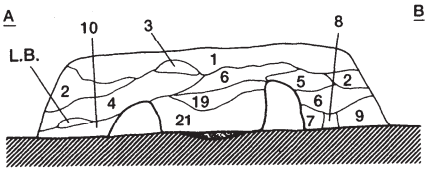
第１層　黒褐色土　10YR2/3
　　ローム粒中量　焼土・炭化物多量
第２層　黒褐色土　10YR2/3
　　焼土　炭化物
第３層　黒褐色土　10YR2/2
　　焼土・炭化物多量　L.B.
第４層　暗褐色土　10YR3/4
　　焼土・炭化物少量　ローム質土
第５層　黒褐色土　10YR2/3
　　焼土・炭化物少量　ローム粒中量
第６層　暗褐色土　10YR3/4
　　焼土・炭化物少量　ローム粒多量
第７層　褐色土　10YR4/4

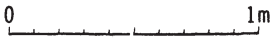
カマド

第１層	黒褐色土	10YR2/3	焼土微量　炭化物・ローム粒少量　To-a少量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	焼土微量　炭化物少量　ローム粒多量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	焼土・炭化物微量　ローム粒多量
第４層	暗褐色土	10YR3/3	焼土微量　炭化物中量　ローム粒多量
第５層	褐色土	10YR4/4	焼土・炭化物微量
第６層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土微量　炭化物・ローム粒少量
第７層	褐色土	10YR4/4	焼土・炭化物微量
第８層	黒褐色土	10YR3/2	L.B.多量
第９層	暗褐色土	10YR3/3	焼土・炭化物微量　ローム粒多量
第10層	暗褐色土	10YR3/3	焼土・炭化物少量　ローム粒多量
第11層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物少量　焼土粒・ローム粒中量
第12層	黒褐色土	10YR2/2	焼土・炭化物少量　ローム粒中量
第13層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量　焼土・炭化物少量
第14層	黒褐色土	7.5YR3/2	ローム粒微量　炭化物中量　焼土多量
第15層	暗褐色土	7.5YR3/3	ローム粒微量　焼土・炭化物少量
第16層	暗褐色土	7.5YR3/3	焼土・炭化物・ローム粒多量
第17層	赤褐色土	5YR4/6	L.B.多量
第18層	褐色土	7.5YR4/4	焼土・炭化物少量
第19層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物微量　焼土ブロック多量
第20層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・焼土粒・炭化物多量
第21層	褐色土	7.5YR4/4	ローム・焼土粒微量

図246　第385号竪穴住居跡（１）







遺物出土状況

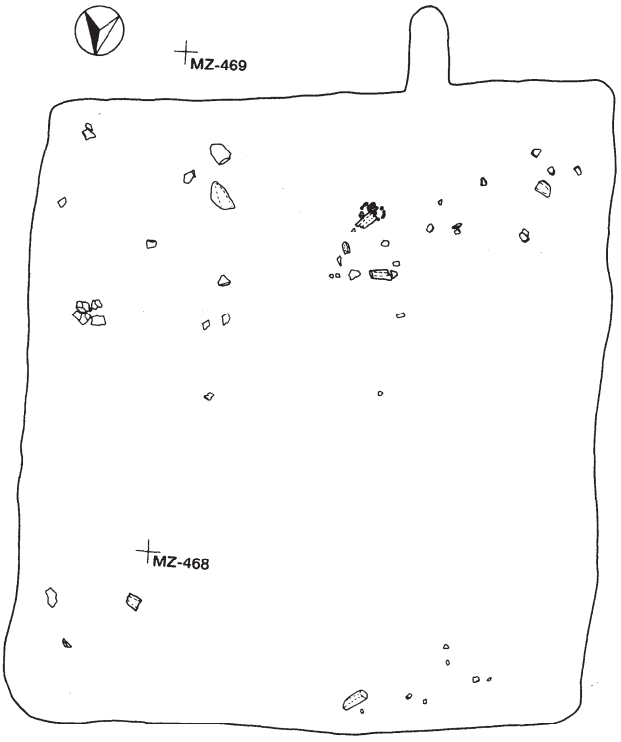


図247　第385号竪穴住居跡（２）

第385号竪穴住居跡（図247～図249）

［位　置］　ＭＹ・ＭＺ－467～469グリッドに位置する。

［重　複］　確認されなかった。

［平面形・規模］　東壁４ｍ95cm、西壁５ｍ15cm、南壁４ｍ53cm、北壁４ｍ55cmの方形である。床面積は21.7㎡で、主軸方位はＮ－176°－Ｗである。

［壁・床面］　壁高は、東壁10～20cm、西壁39cm、南壁33cm、北壁6～27cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅９～20cm、深さ１～19cmの周溝が一巡する。

［ピット］　検出されたピットは４個である。柱穴は、ピット１（29cm）、ピット２（25cm）、ピット３（32cm）、ピット４（26cm）である。

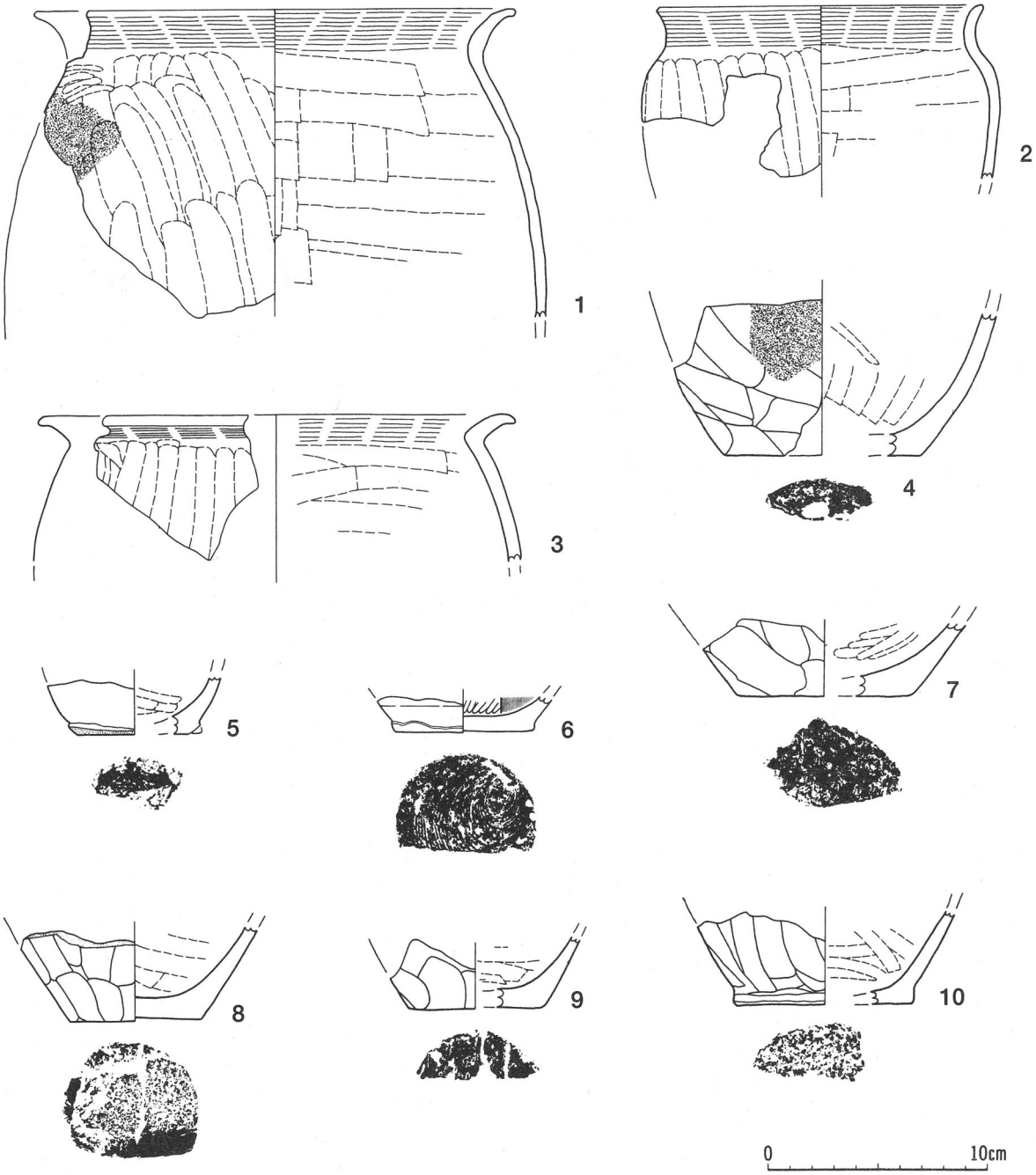
［カマド］　南壁西側に構築されている。礫を芯材として用い、粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に71cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は７層に分層される。

［出土遺物］　床面から、土師器の甕、鉢や須恵器の坏のほか、羽口、礫が出土している。

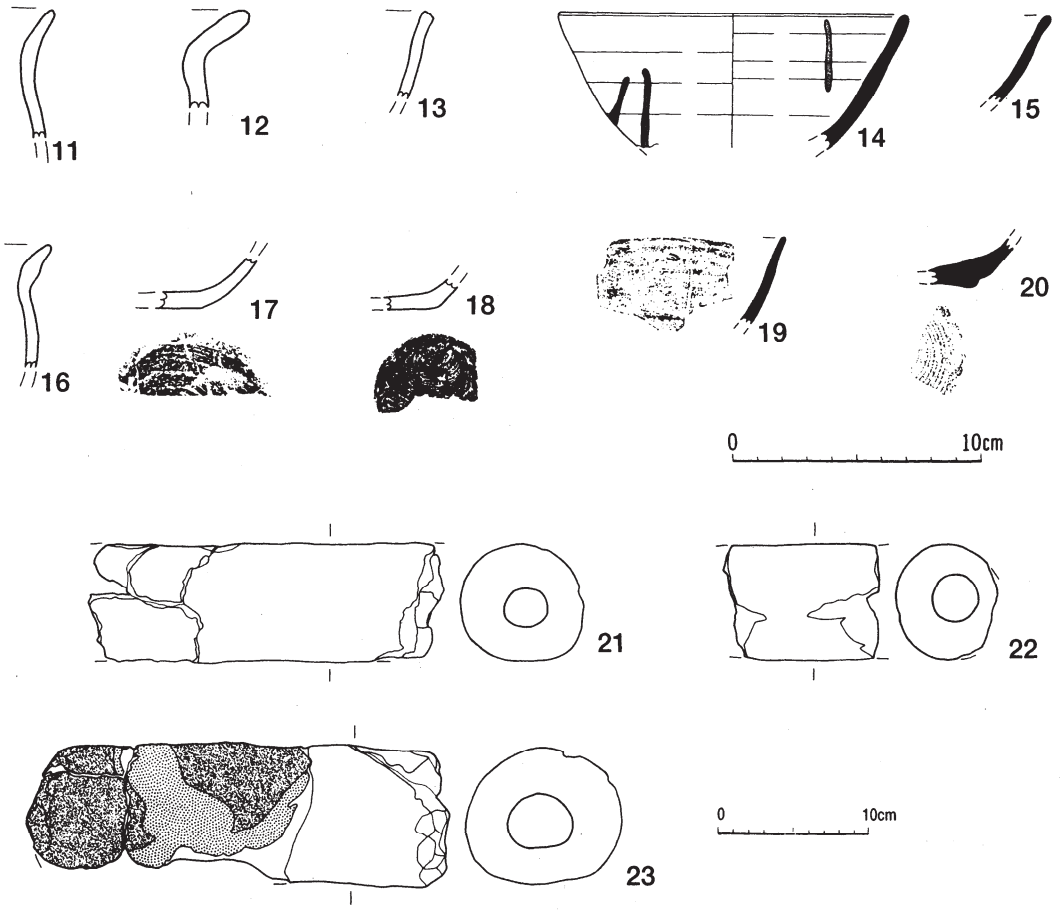
［時　期］　出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	床面	(22.0)	(14.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	外面粘土付着 P-26
2	土師器	甕	床面	(15.0)	(7.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-27
3	土師器	甕	床面	(22.0)	(6.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-20
4	土師器	甕	フク土	—	(7.1)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-24
5	土師器	甕	フク土	—	(2.2)	(5.2)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
6	土師器	坏	フク土	—	(1.7)	6.0	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	B I	内面黒色処理 P-32
7	土師器	甕	フク土	—	(8.0)	(3.5)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
8	土師器	甕	カマドフク土	—	(4.2)	(6.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
9	土師器	甕	フク土	—	(3.3)	(6.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-13
10	土師器	甕	フク土	—	(4.2)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	Pit

図248　第385号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
11	土師器	甕	フク土	(16.0)	(5.2)	—	不明	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	内外面輪積痕
12	土師器	甕	床面	—	(3.8)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-31
13	土師器	鉢?	フク土	(9.0)	(3.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B	P-7
14	須恵器	坏	フク土	(13.8)	(5.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	内外面火だすき痕 P-9
15	須恵器	坏	フク土	—	(3.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-11
16	土師器	甕	貼床	(12.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
17	土師器	坏	フク土 2層	—	(2.1)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り	BⅡ	P-1
18	土師器	坏	フク土	—	(1.2)	(5.0)	—	—	不明	—	—	不明	回転糸切り	B?	
19	須恵器	坏	フク土	—	(3.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外刻書　繊維付着 内外面火だすき痕
20	須恵器	坏	フク土	(2.1)	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	内外面火だすき痕

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
21	床面	(23.9)	7.8×8.3	2.6	(1,290)	B	ナデ	羽口-3
22	床直	(10.5)	7.6×(6.8)	3.1	(420)	不明	ナデ	羽口-1
23	Pit4フク土	28.5	9.2×10.4	3.7×4.4	(1,640)	B		

図249　第385号竪穴住居跡出土遺物（2）

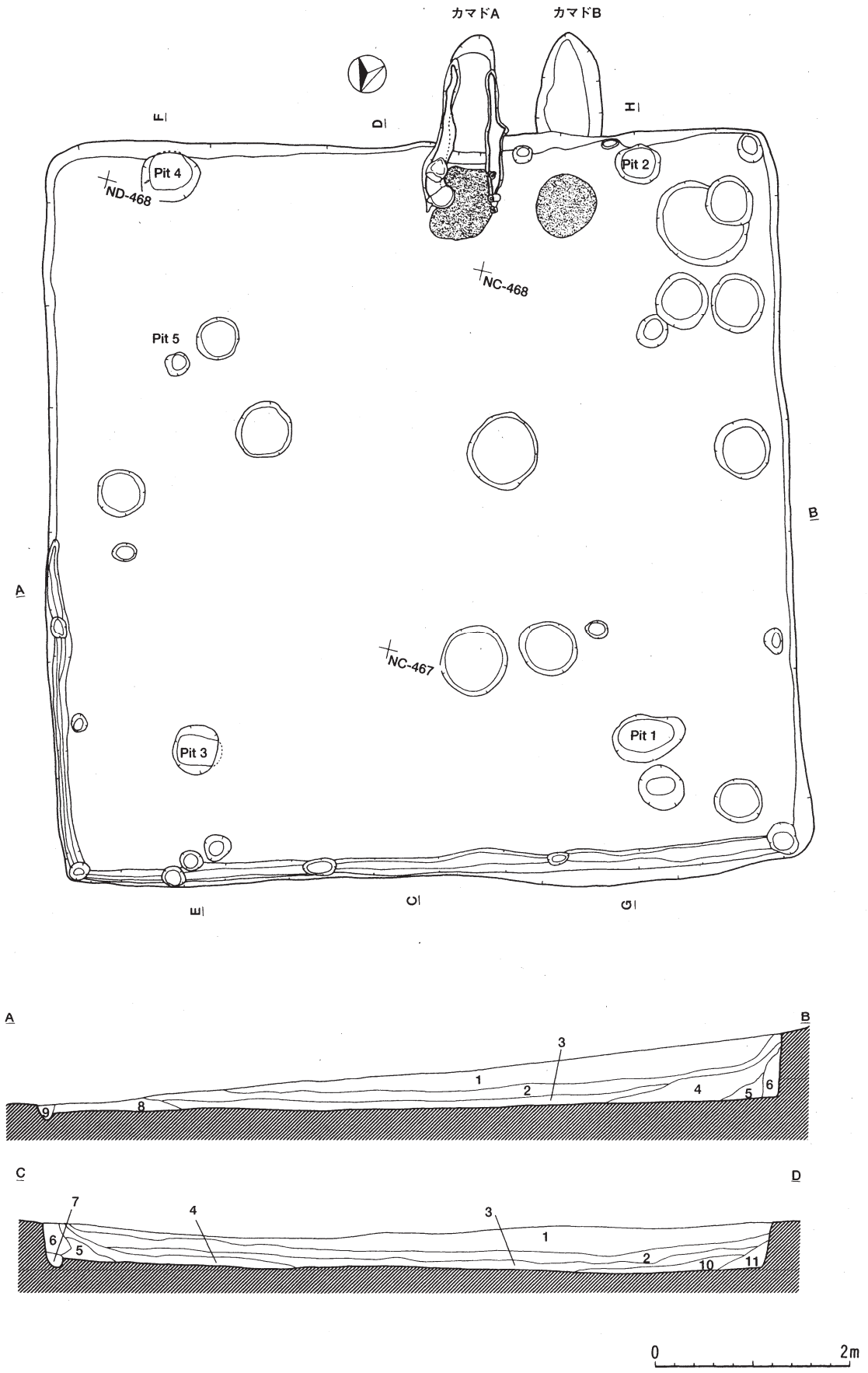
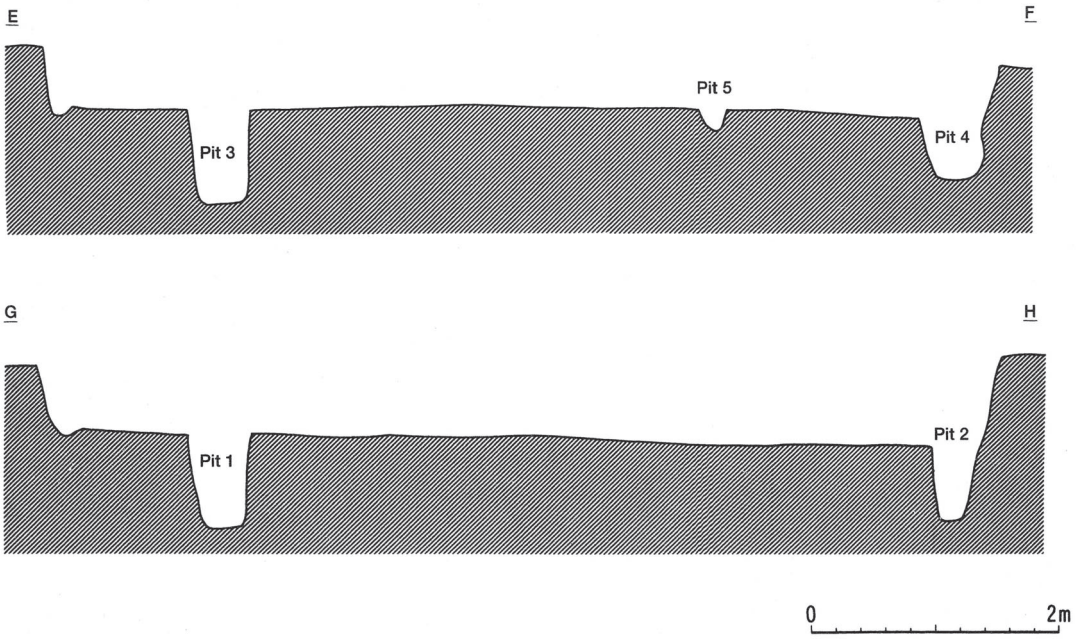
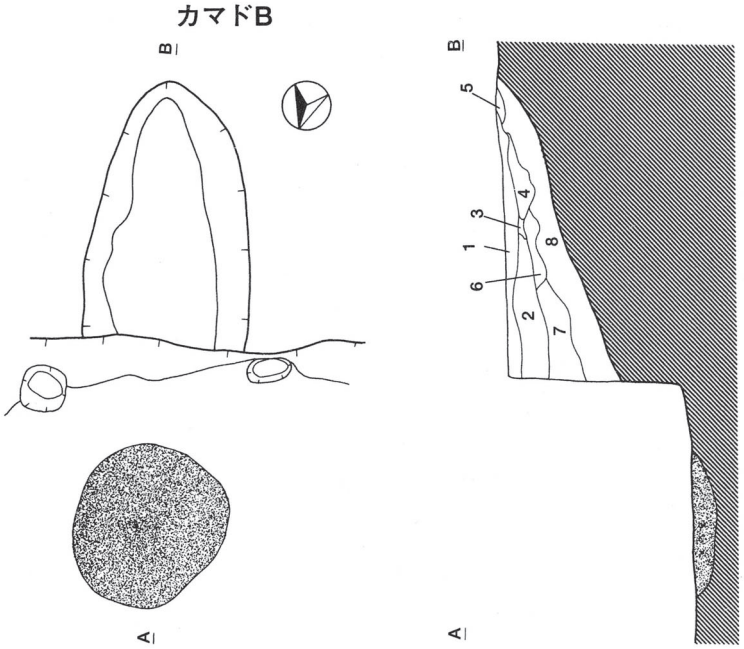


図250　第386号竪穴住居跡（1）



第386号住居跡

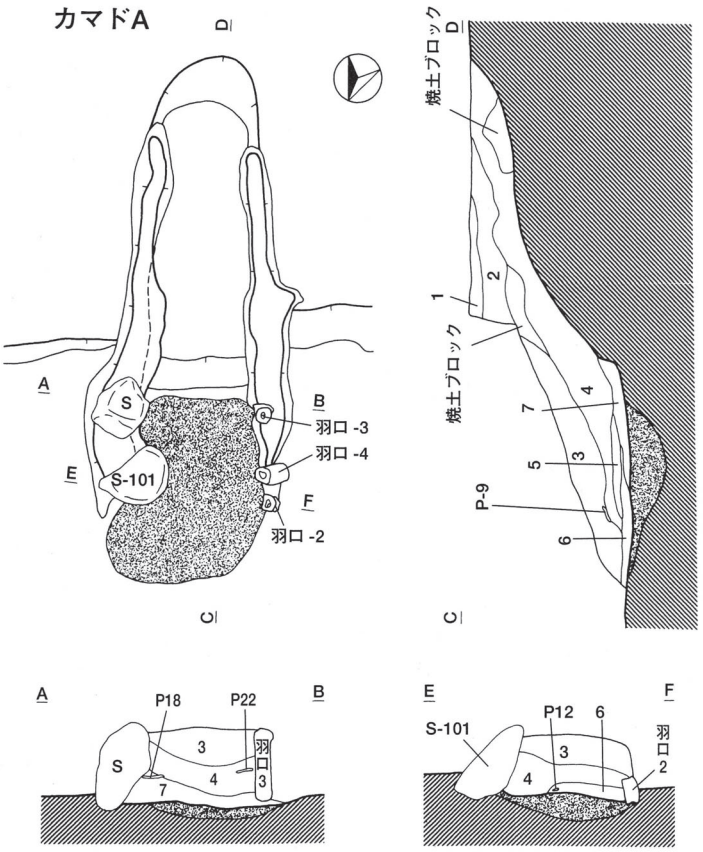
第１層	黒褐色土	10YR2/2	B-Tm混入	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第２層	黒褐色土	10YR2/3	B-Tm混入	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量	炭化物・焼土粒微量
第４層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量	炭化物・焼土粒微量
第５層	黒色土	10YR2/1	ローム粒多量	
第６層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量	
第７層	黒色土	10YR2/1	ローム粒多量	L.B.少量
第８層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量	炭化物・焼土粒微量
第９層	黒褐色土	10YR2/1	ローム粒少量	炭化物・焼土粒微量
第10層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量	炭化物微量
第11層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量	焼土粒少量　炭化物微量



カマドB

第１層	暗褐色土	10YR3/3	L.B.・焼土微量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	焼土微量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	B-Tm少量
第４層	暗褐色土	10YR3/3	B-Tm多量
第５層	赤褐色土	5YR4/6	焼土層
第６層	褐色土	10YR4/4	
第７層	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒少量
第８層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量

図251　第386号竪穴住居跡（２）

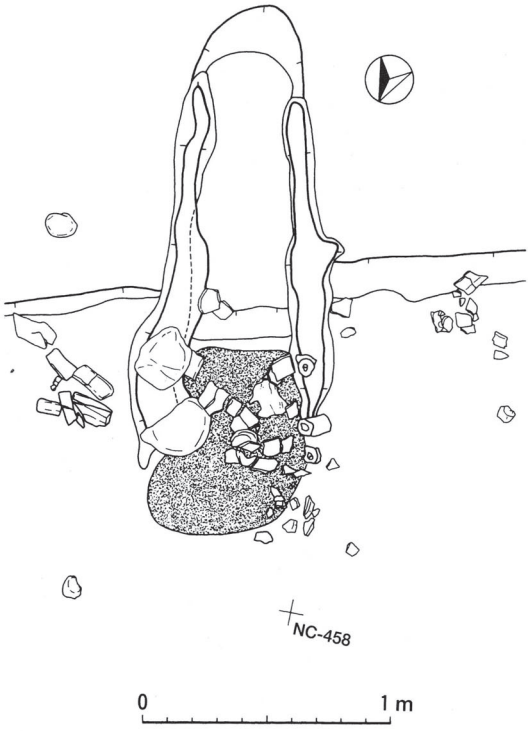


カマドA

第１層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒少量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	To-a混入　炭化物・焼土粒微量
第３層	にぶい黄色	10YR5/4	炭化物・焼土粒少量
第４層	赤褐色土	2.5YR4/6	被熱したL.B.層 黒褐色土（7.5YR2/2）混入
第５層	褐色土	10YR4/4	
第６層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒微量
第７層	極暗赤褐色土	5YR3/6	被熱したローム層

0　1m

カマドA遺物出土状況



火山灰範囲

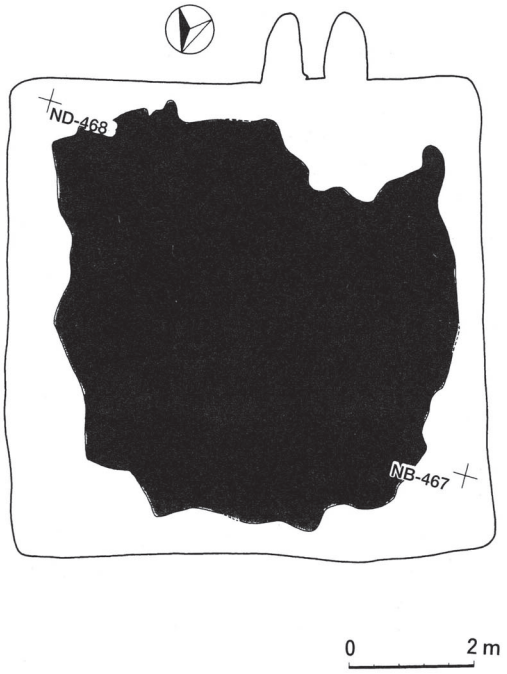
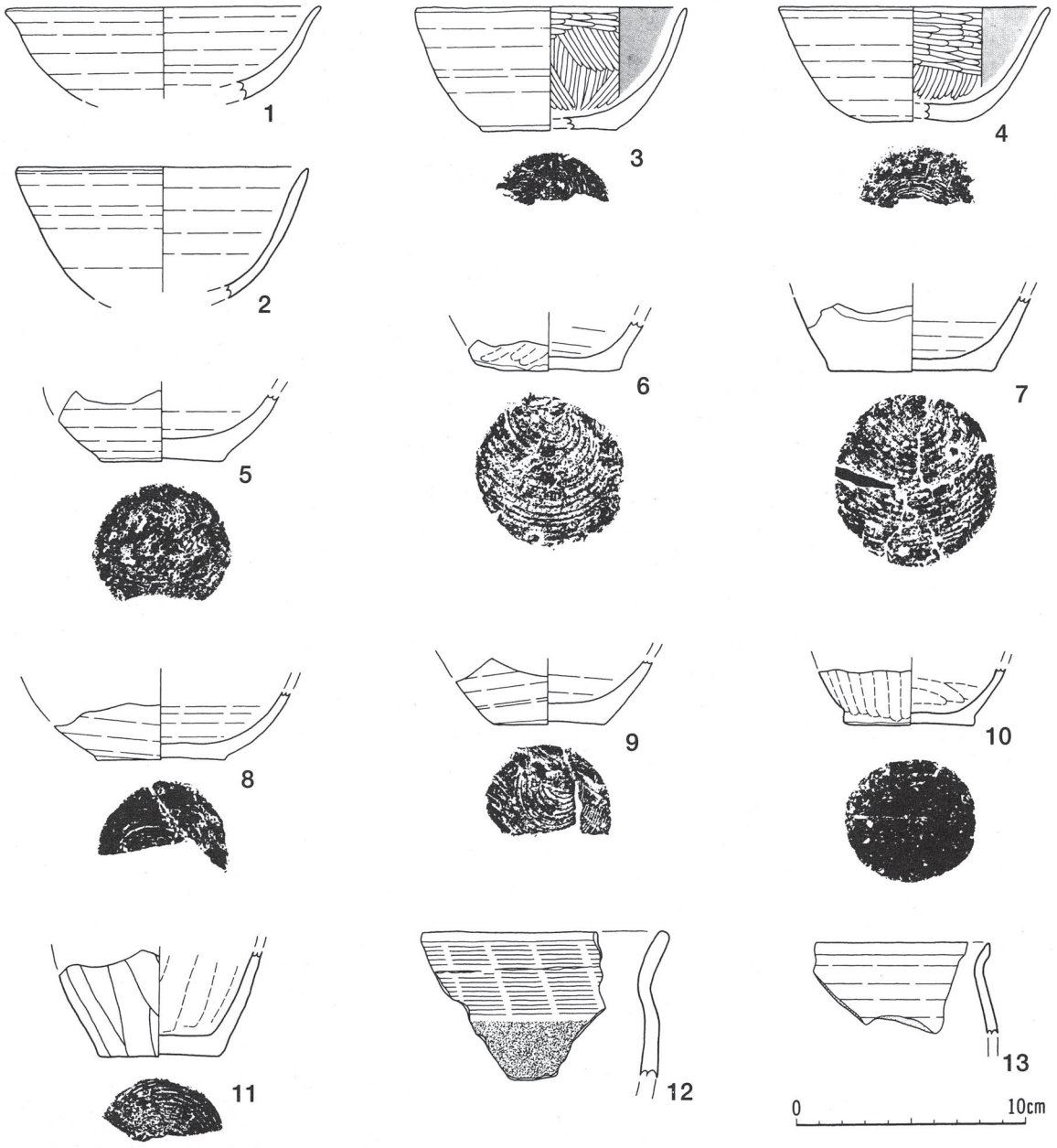
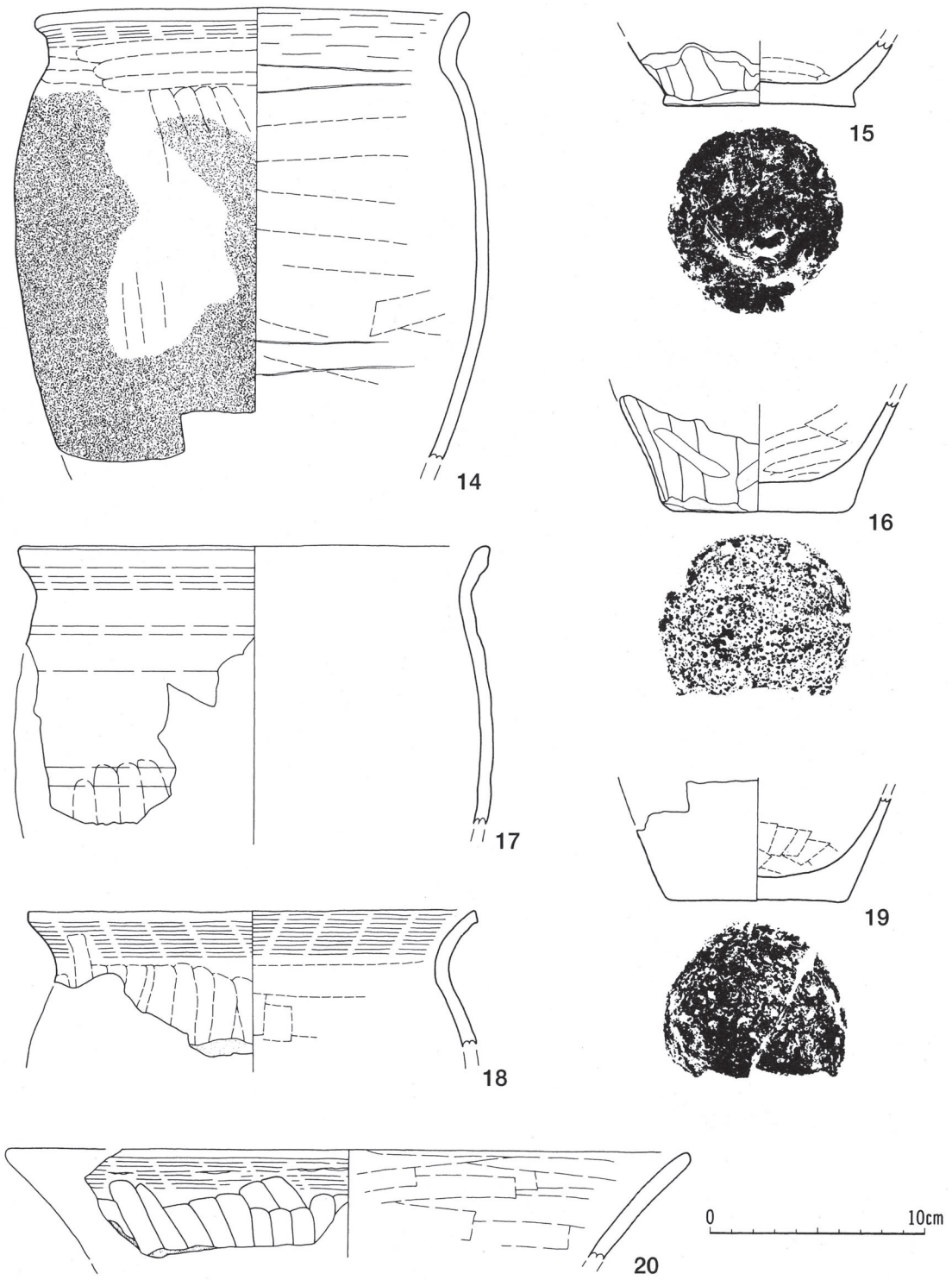


図252　第386号竪穴住居跡（３）



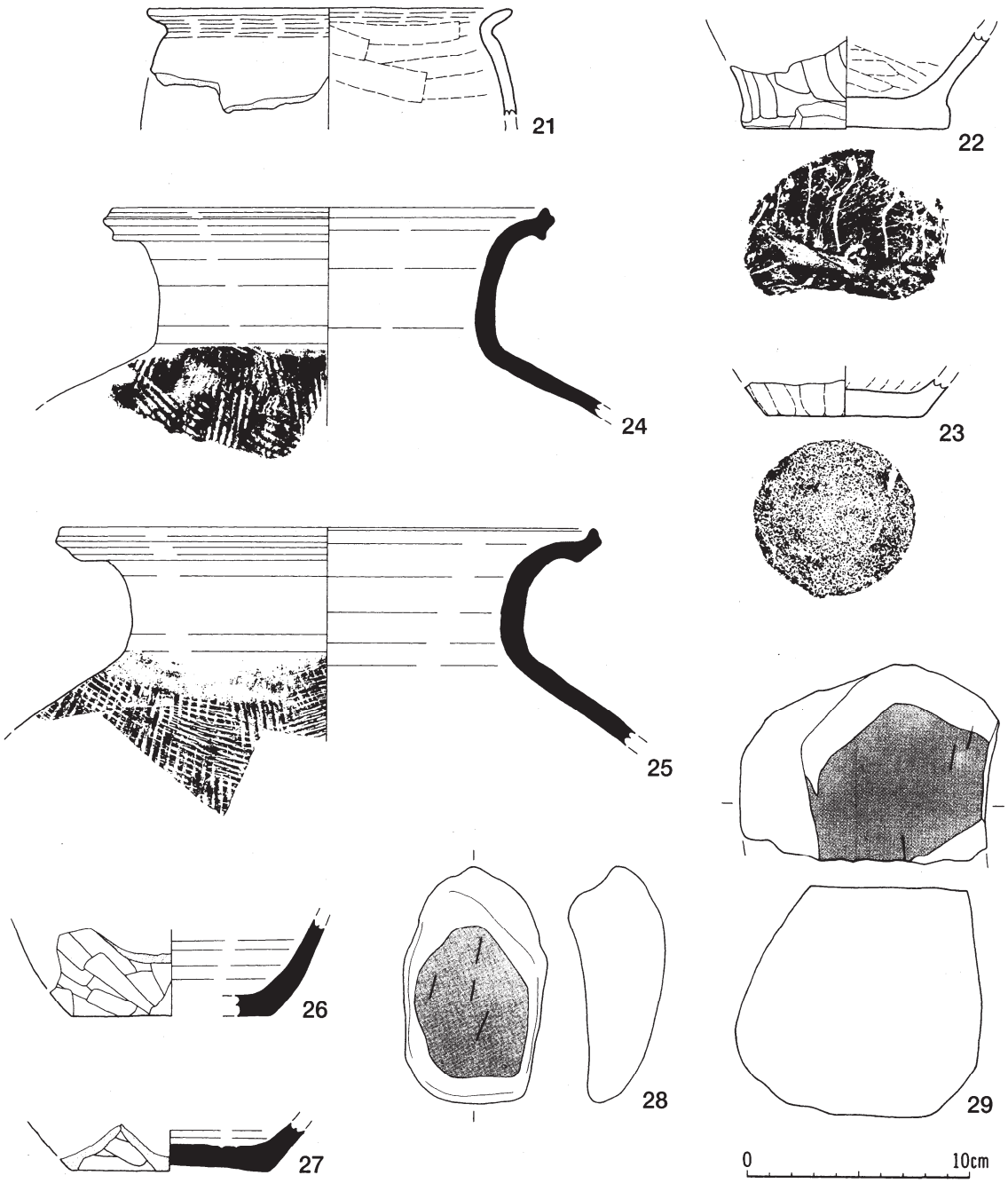
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	火山灰上	(13.8)	(4.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
2	土師器	坏	フク土	(13.0)	(5.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
3	土師器	坏	火山灰中	(12.0)	5.4	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	糸切り	BⅠb	内面黒色処理
4	土師器	坏	火山灰中	(12:0)	5.0	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠb	内面黒色処理
5	土師器	坏	床面	—	(3.2)	(5.6)	—	—	ロクロ？	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	外面磨滅、P-33
6	土師器	坏	火床面下	—	(2.5)	(6.2)	—	—	ナデ？	—	—	ロクロ	糸切り	BⅡ	P-35
7	土師器	鉢	カマド フク土	—	(3.3)	(7.2)	—	—	不明	—	—	ロクロ？	糸切り	B	P-4、P-6
8	土師器	坏	フク土	—	(2.5)	5.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り	BⅡ	外面磨滅
9	土師器	甕？	火山灰中上	—	(3.9)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り →ヘラナデ	BⅡ	Pit33、P-204
10	土師器	甕	床面	—	(2.6)	(5.4)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
11	土師器	坏	火山灰中	—	(1.3)	(5.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	糸切り	B	
12	土師器	甕	火山灰上	(19.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 粘土付着
13	土師器	甕	火山灰上	(10.0)	(4.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B	

図253　第386号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	カマド フク土	(20.4)	(21.0)	—	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ?	ヘラナデ	—	—	A I	P-8、9　外面粘土付着 P-10他内面輪積痕
15	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.3)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ナデ	ナデツケ	A	外面スス状痕 P-14
16	土師器	甕	フク土	—	(5.0)	(9.0)	—	—	ヘラナデ ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
17	土師器	甕	床面	(22.0)	(13.0)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B I	
18	土師器	甕	Pit2 底面	(21.0)	(6.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-202
19	土師器	坏	床面	—	(3.2)	(5.6)	—	—	ロクロ？	—	—	ヘラナデ	糸切り	B	外面磨滅 P-36
20	土師器	鍋	Pit2 底面	(32.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	

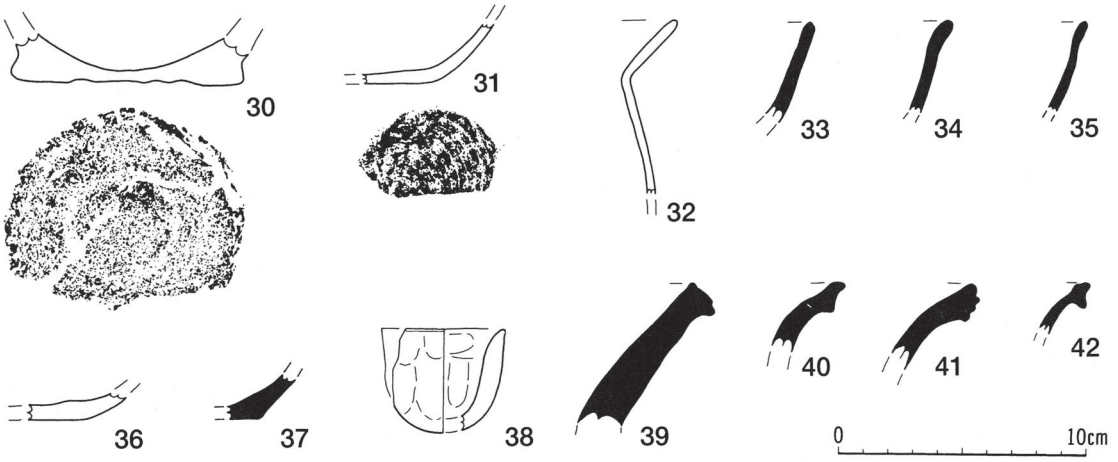
図254　第386号竪穴住居跡出土遺物（2）

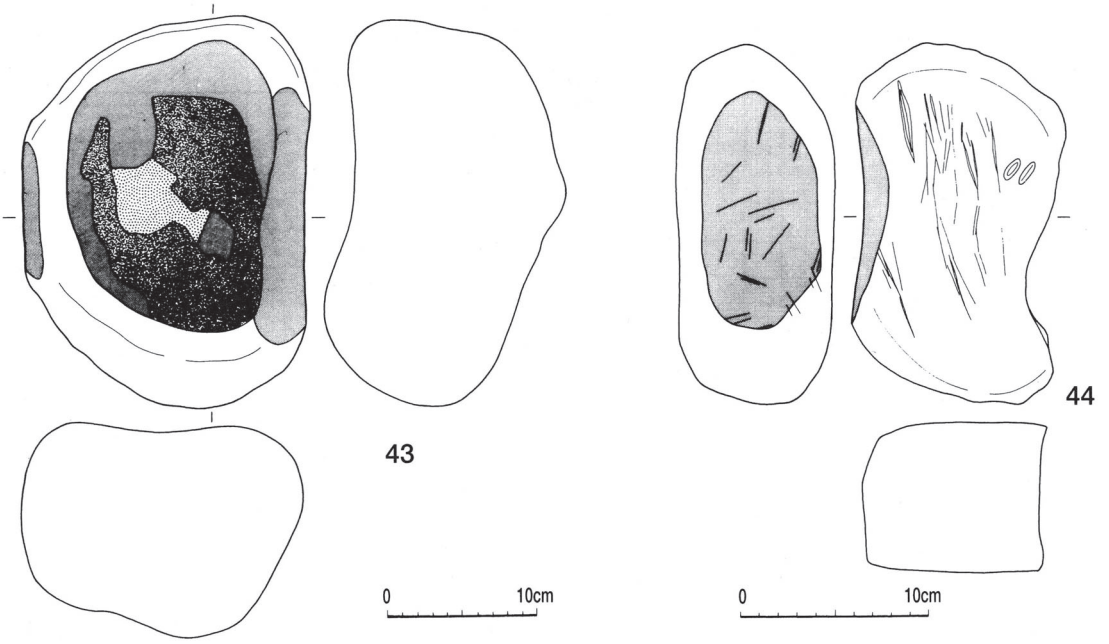


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
21	土師器	甕	カマドフク土	(16.6)	(4.7)	—	ヨコナデ	不明	—	ヨコナデ	不明	—	—	A	P-20
22	土師器	甕	床面	—	(5.2)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	木葉痕ヘラナデ	A	
23	土師器	甕	火山灰中	—	(1.8)	(7.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ナデ?	砂底	A	
24	須恵器	甕	火山灰中	(19.6)	(9.5)	—	ロクロ	タタキ目	—	ロクロ	あて具痕	—	—	—	自然釉
25	須恵器	甕	火山灰中	—	(9.9)	—	ロクロ	タタキ目	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	—	
26	須恵器	壷	フク土	—	(3.8)	(9.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切離し後ヘラケズリ	—	
27	須恵器	壷	火山灰中	—	(2.2)	(9.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切離し後ヘラケズリ	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
28	火山灰上	10.6	6.4	4.2	340	凝	砥石	
29	床面	8.1	11.1	10.4	1,310	流	砥石	

図255　第386号竪穴住居跡出土遺物（3）

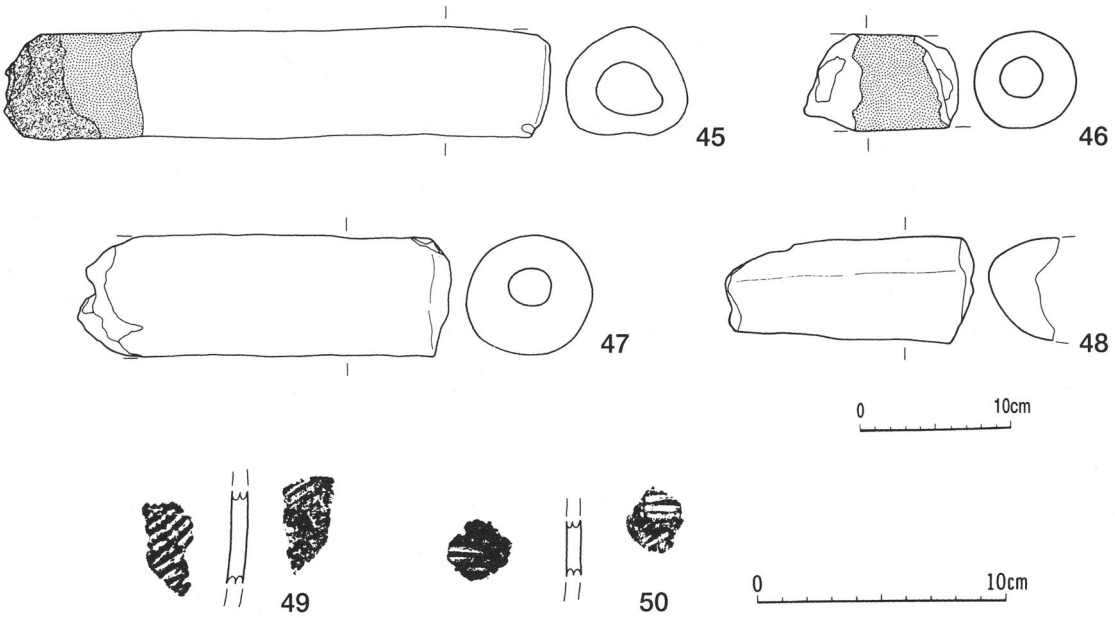




図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
30	土師器	甕	カマドフク土	—	(2.4)	(9.6)	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A?	P-11、P-13
31	土師器	坏	火床面下	—	(2.3)	(5.0)	—	—	ロクロ？	—	—	ロクロ	糸切り	BⅡ	外面磨滅 P-36
32	土師器	甕	カマド火床面下	(14.0)	(6.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
33	須恵器	坏	床面	—	(4.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面火だすき痕
34	須恵器	坏	火山灰上	—	(3.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	外面火だすき痕
35	須恵器	坏	フク土	—	(3.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	外面火だすき痕
36	土師器	坏	火山灰中	—	(1.3)	(5.6)	—	—	ロクロ？	—	—	ロクロ？	糸切り	BⅡ	
37	須恵器	坏	床直	—	(1.8)	(5.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	外面火だすき痕
38	土師器	小型土器	火山灰	(5.0)	(4.2)	(2.0)	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	—	
39	須恵器	甕	火山灰上	—	(5.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
40	須恵器	甕	火山灰中	—	(2.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
41	須恵器	甕	火山灰上	—	(3.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
42	須恵器	壺	フク土	—	(2.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
43	床面	26.2	19.1	13.9	8,700	安	台石	S-1　スス状炭化物付着
44	床面	18.6	9.9	8.3	2,370	凝	砥石	S-10

図256　第386号竪穴住居跡出土遺物（4）



図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
45	カマド芯材	36.6	7.3×8.2	3.5×4.0	(2,250)	C	ナデ	羽口-3
46	カマド芯材	(10.5)	7.8×8.3	2.6	(313)	B	ナデ	羽口-2
47	カマド芯材	(25.0)	8.0×8.4	2.5	(1,590)	B	ナデ	羽口-1
48	カマドフク土	(16.7)	(6.9)×(4.8)	—	(425)	不明	ナデ・指痕	羽口-2

図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
49	土師器	甕	火山灰上	—	—	—	—	タタキ目	—	—	アテ具痕	—	—	—	
48	土師器	甕	火山灰中	—	—	—	—	タタキ目	—	—	アテ具痕	—	—	—	

図257　第386号竪穴住居跡出土遺物（５）

第386号竪穴住居跡（図250～図257）

［位　置］　ＮＡ～ＮＤ－466～468グリッドに位置する。

［重　複］　確認されなかった。

［平面形・規模］　東壁４ｍ20cm、西壁４ｍ16cm、南壁３ｍ98cm、北壁４ｍ31cmである。主軸方位はＮ－165°－Ｅで、床面積は56.32㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁16cm、西壁64cm、南壁30～60cm、北壁48cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅10～26cm、深さ３～18cmの周溝が東壁・北壁の一部から検出された。

［ピット］　検出されたピットは34個である。柱穴は、ピット１（38cm）、ピット２（43cm）、ピット３（46cm）、ピット４（41cm）である。

［カマド］　南壁西側に２つ構築されている。東側をカマドＡ、西側をカマドＢとし、カマドＡが新しい。カマドＡは、礫、羽口を芯材としてこの上に粘土を覆って築いている。焚き口部とその周辺から、多量の土師器、羽口が出土した。煙道は半地下式で、住居跡外に115cmのびる。カマドＢは火床面と煙道のみ残存する。煙道は半地下式で、住居跡外に104cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩

やかに立ち上がる。また、覆土３、４層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。

［その他の施設］　南壁西側でカマド付近に、長軸18cm、短軸10cmのピット33と径20cmのピット34を検出した。

［堆積土］　堆積土は11層に分層され、１、２層にＢ－Ｔｍ火山灰が堆積している。床面のほぼ全面に炭化材が検出されたことから、焼失家屋と考える。

［出土遺物］　土師器の甕、坏、堝、小型土器や須恵器の坏、甕、壺のほかに、砥石、台石、羽口などが出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀前半～後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第388号竪穴住居跡（図258～図262）

［位　置］　ＭＺ～ＮＢ－476～478グリッドに位置する。

［重　複］　確認されなかった。

［平面形・規模］　東壁３ｍ90cm、西壁４ｍ５cm、南壁４ｍ40cm、北壁４ｍ25cmの方形である。床面積は16.28㎡で、主軸方位はＮ－146°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁15cm、西壁57cm、南壁36cm、北壁23cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅６～21cm、深さ１～19cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは13個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に構築されている。礫、土師器を芯材としてこの上に粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に94cmのびる。１、２、５、６層にＴｏ－ａ火山灰が混入している。

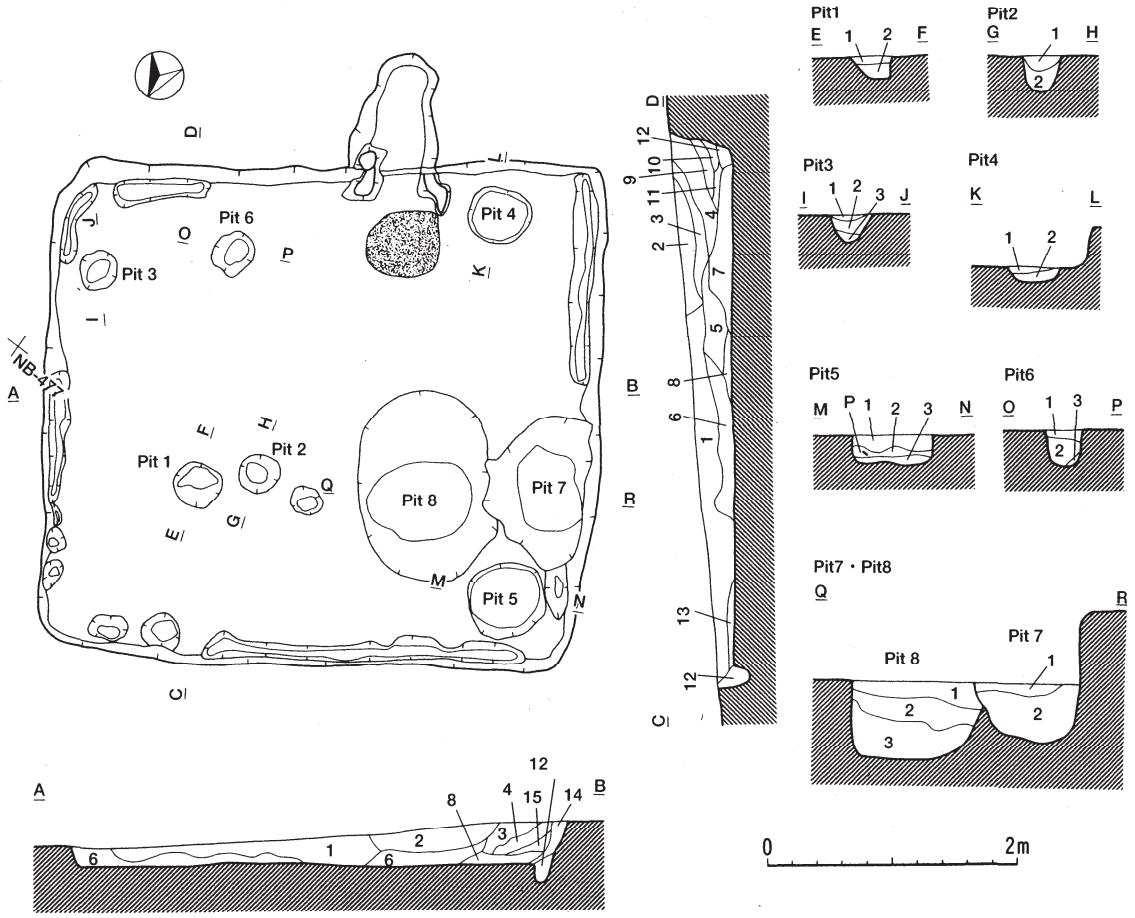
［その他の施設］　西壁北側に、長軸120cm、短軸98cm、深さ45cmのピット７、径150cm、深さ58cmのピット８を検出した。

［堆積土］　堆積土は15層に分層され、１～５、８～15層にＴｏ－ａ火山灰が混入していた。また、ピット１の１・２層、ピット３の１・２層、ピット５の３層、ピット６の２層、ピット７の１層、ピット８の１層にもＴｏ－ａ火山灰が混入していた。

［出土遺物］　床面及び床面直上から、土師器の坏、甕、覆土からは多数の土師器の坏、甕や砥石が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築したと考えられる。

（相馬良仁）



第388号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR2/2	To-a混入　焼土粒混入　炭化物微量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	To-a混入　炭化物・焼土粒微量
第３層	黒褐色土	10YR3/2	To-a混入　焼土粒微量　炭化物極微量
第４層	黒褐色土	10YR3/1	To-a混入　にぶい黄褐色土（10YR5/4）
第５層	褐色土	10YR4/4	To-a混入　炭化物微量
第６層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物・焼土粒微量
第７層	黒褐色土	10YR2/2	黒色土（10YR1.7/1）混入　焼土粒微量 炭化物極微量
第８層	黒褐色土	10YR2/3	To-a混入　にぶい黄褐色土（10YR5/4）混入 炭化物微量
第９層	暗褐色土	10YR3/3	To-a混入　炭化物・焼土粒微量
第10層	黒褐色土	10YR2/2	To-a混入　炭化物・焼土粒微量
第11層	黒褐色土	10YR2/2	To-a混入　炭化物・焼土粒微量
第12層	黒褐色土	10YR2/3	褐色土（10YR4/6）混入　炭化物微量
第13層	黒色土	10YR2/1	To-a混入　黒褐色土（10YR3/2）混入 炭化物・焼土粒極微量
第14層	黒色土	10YR2/1	To-a混入　明黄褐色土（10YR6/6）混入 炭化物・焼土微量
第15層	黒褐色土	10YR3/2	To-a混入　明黄褐色土（10YR6/6）混入 炭化物微量

Pit 1

第１層	暗褐色土	10YR3/3	To-a混入　明黄褐色土（10YR7/6）混入 焼土粒微量
第２層	明黄褐色土	10YR6/6	To-a混入　黒褐色土（10YR3/2）混入 焼土粒微量

Pit 2

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒混入　炭化物微量　浮石極微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒混入　焼土粒微量

Pit 3

第１層	黒褐色土	10YR2/2	To-a混入　炭化物・焼土粒極微量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	To-a混入　ローム粒微量
第３層	明黄褐色土	10YR6/6	浮石微量

Pit 4

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物微量
第２層	赤褐色土	5YR4/8	暗褐色土（7.5YR3/4）混入 焼土ブロック混入　炭化物極微量

Pit 5

第１層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒混入　炭化物・焼土粒微量
第２層	暗褐色土	7.5YR3/3	黄褐色土(10YR5/6)・赤褐色土(5YR4/8) 混入　炭化物少量　焼土微量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	To-a混入　ローム粒・粘土粒混入 炭化物・焼土粒微量

Pit 6

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒混入　炭化物・焼土粒微量
第２層	黒色土	10YR2/1	To-a混入　黄橙色土（10YR7/8）
第３層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物微量　焼土粒極微量

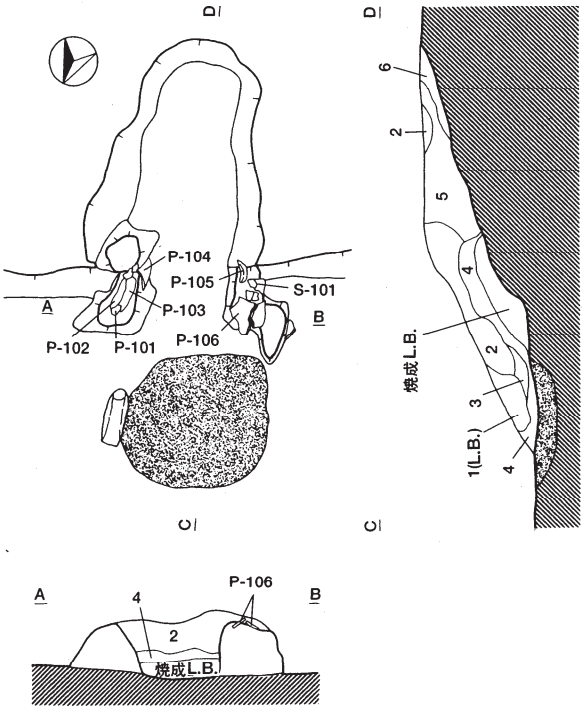
Pit 7

第１層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	To-a混入　黄橙色土（10YR7/8）混入 粘土粒混入　焼土微量
第２層	黒色土	10YR2/1	ローム粒混入　炭化物中量 焼土粒極微量

Pit 8

第１層	黒褐色土	10YR2/2	焼土微量　炭化物少量　To-a中量
第２層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・焼土微量
第３層	褐色土	7.5YR4/4	焼土微量　炭化物極微量

図258　第388号竪穴住居跡（１）



カマド

第１層	にぶい黄褐色	10YR5/3 To-a混入　炭化物・焼土粒極微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3 To-a混入　焼土粒少量　炭化物微量
第３層	にぶい黄褐色	10YR5/4 赤褐色土（5YR4/6）混入　焼土粒微量
第４層	褐色土	7.5YR4/6 黄褐色土（10YR5/6）・褐色土（7.5YR4/4）混入　浮石微量
第５層	にぶい黄褐色	10YR4/3 To-a混入　褐色土（7.5YR4/6）混入 焼土粒極微量
第６層	褐色土	7.5YR4/4 To-a混入　黒色土（10YR1.7/1）混入 炭化物微量

0　1m

遺物出土状況

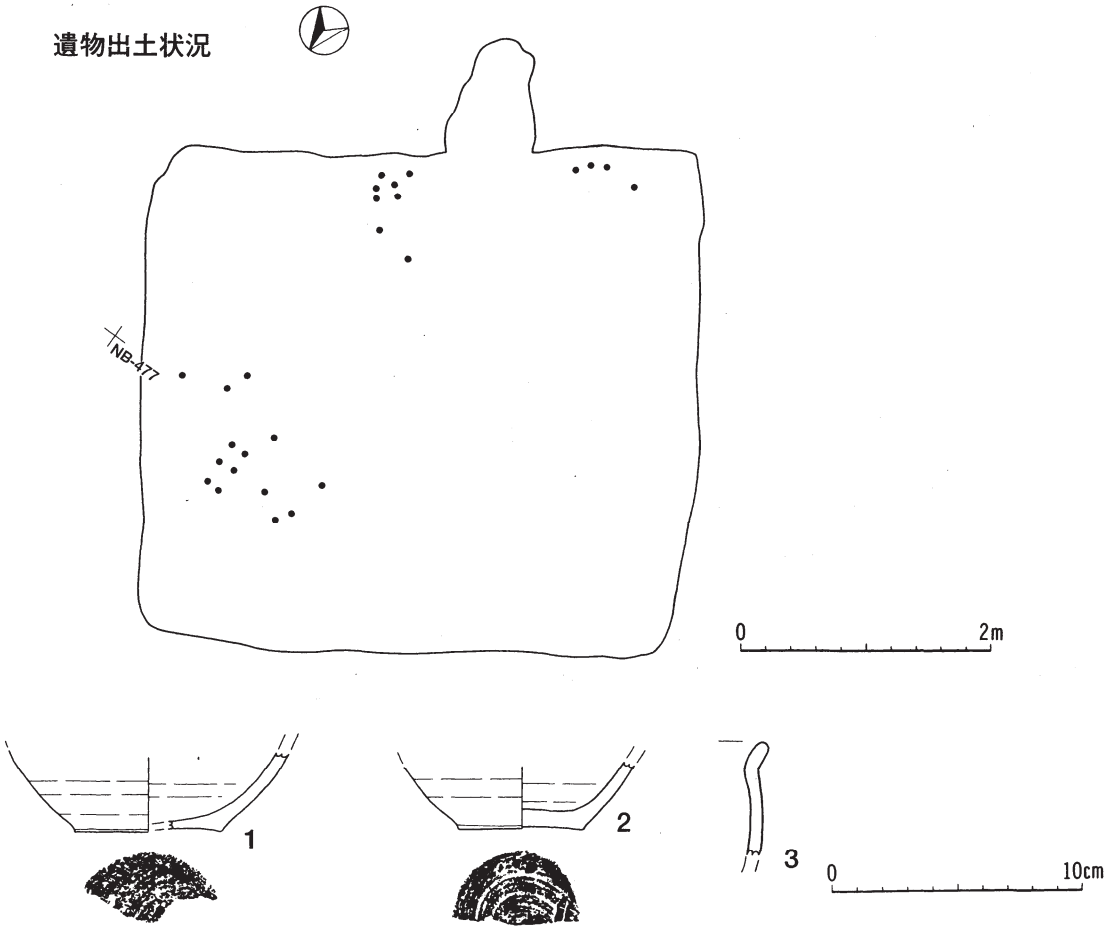
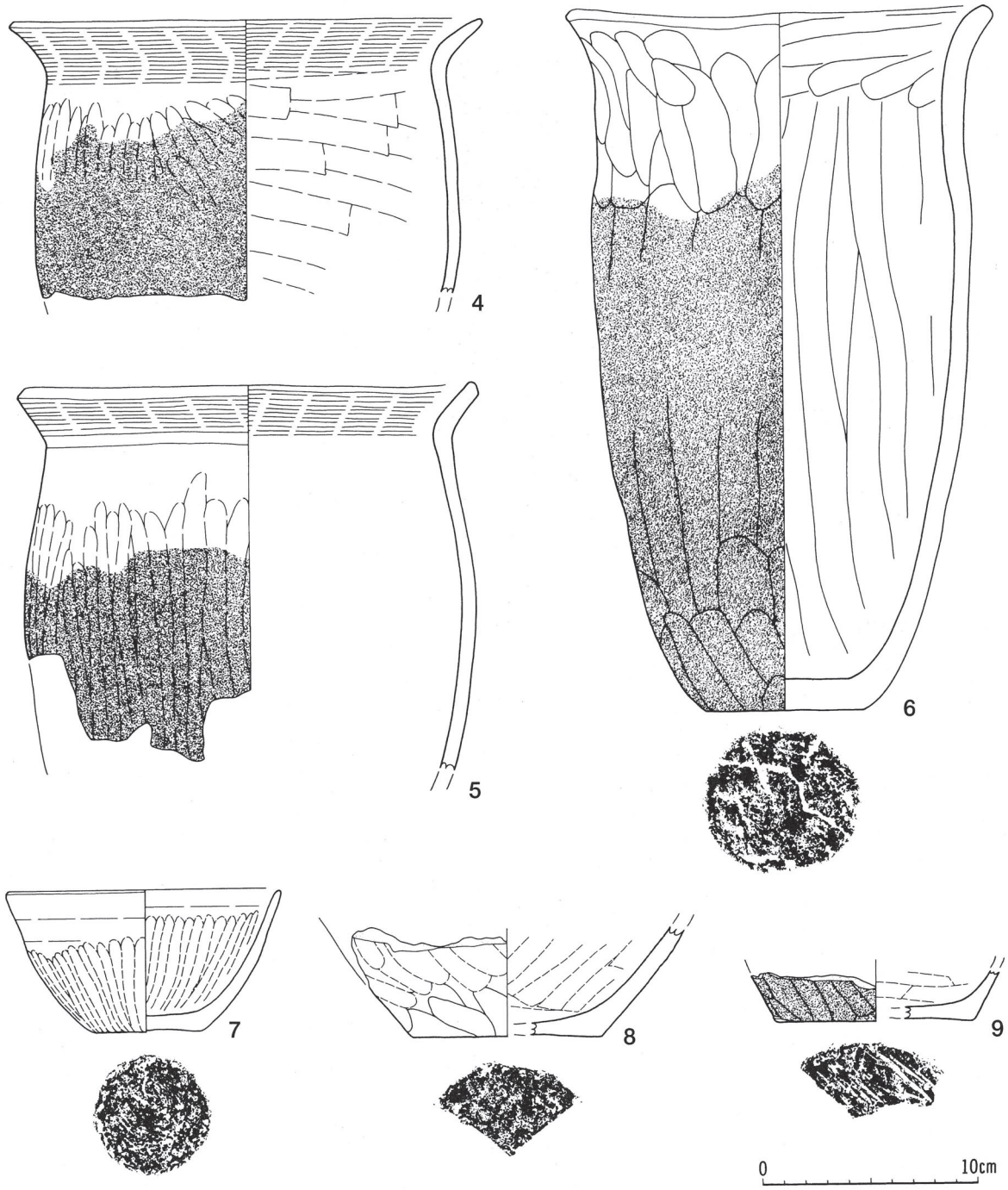
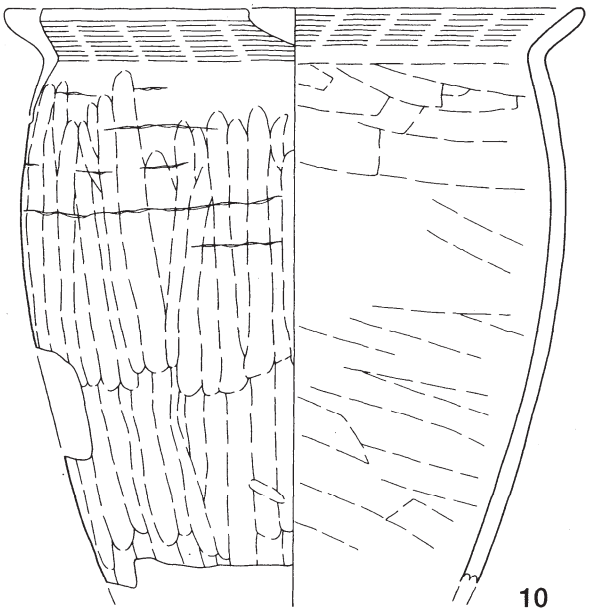


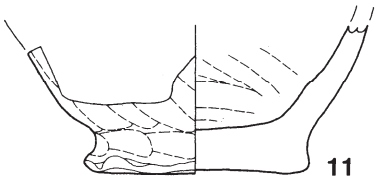
図259　第388号竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）

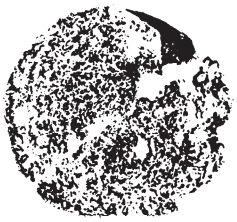


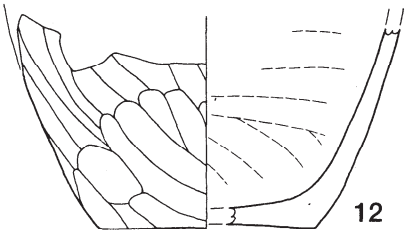
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フク土	—	(3.7)	(6.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り？	BⅡb	
2	土師器	坏	床直	—	(2.8)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	P-12
3	土師器	甕	カマド	(10.8)	(4.8)	—	不明	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面剥落
4	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(13.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P-103 外面粘土付着
5	土師器	甕	床直	21.0	(17.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	不明	—	—	AⅠ	P-19 外面粘土付着
6	土師器	甕	カマド	(20.0)	32.8	7.4	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ？	ヘラケズリ？	ヘラケズリ？	ヘラケズリ？	AⅠe	P-105、P-107 外面粘土付着
7	土師器	坏	床直	12.8	6.6	5.0	ロクロ	ヘラナデ？	ヘラナデ？	ロクロ	ヘラナデ？	ヘラナデ？	糸切り？	BⅠa	P-22
8	土師器	甕	フク土	—	(5.4)	(8.6)	—	—	ヘラケズリ ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	外面粘土付着
9	土師器	甕	フク土	—	(2.2)	(9.4)	—	—	ヘラナデ？	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ？	A	外面粘土付着

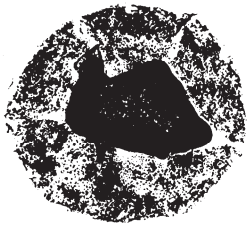
図260　第388号竪穴住居跡出土遺物（2）

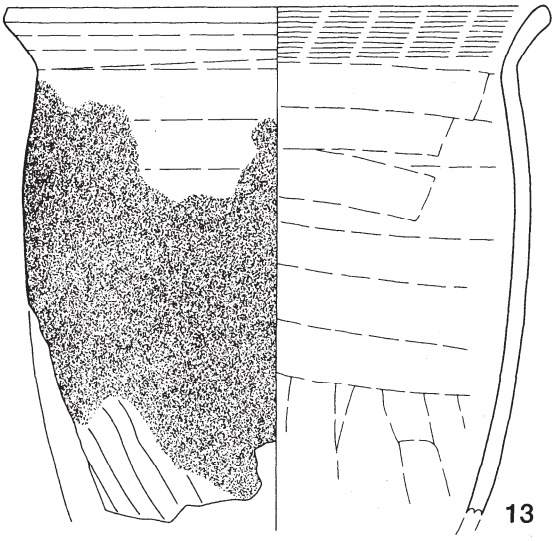


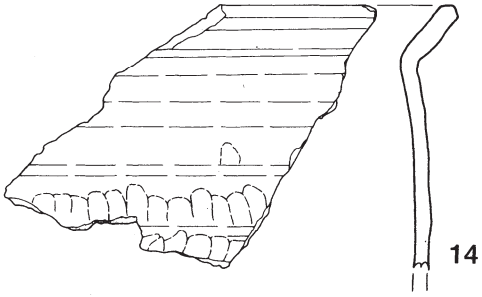


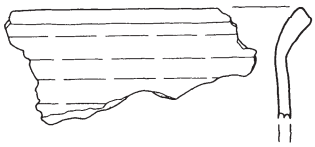








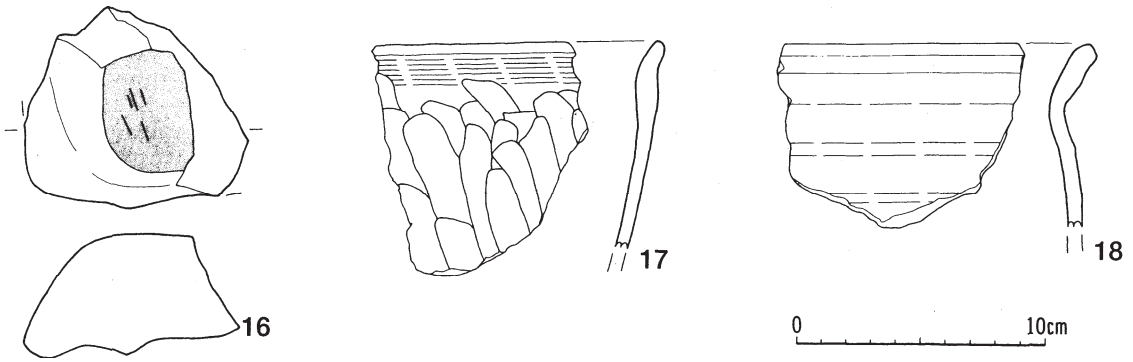




0　10cm

図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	床直	(23.0)	(23.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I c	P-5　P-8 P-2輪積痕
11	土師器	甕	フク土	—	(6.0)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底→ナデツケ	A I c	
12	土師器	甕	カマドフク土	—	(8.6)	(8.8)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底→ナデツケ	A	P-106
13	土師器	甕	カマドフク土	(22.0)	(20.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-104　P-102 外面粘土付着
14	土師器	甕	床直	(24.0)	(10.2)	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-11
15	土師器	甕	フク土	(20.0)	(4.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	

図261　第388号竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
17	土師器	甕	床直	(18.0)	(9.3)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1
18	土師器	甕	フク土	(22.0)	(7.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
16	フク土	8.9	8.0	4.8	440	流	砥石	炭化物付着

図262　第388号竪穴住居跡出土遺物（4）

第389号竪穴住居跡（図263～図265）

［位　置］　ＮＢ・ＮＣ－476・477グリッドに位置する。

［重　複］　確認されなかった。

［平面形・規模］　東壁３ｍ42cm、西壁３ｍ30cm、南壁３ｍ38cm、北壁３ｍ47cmの方形である。床面積は10.51㎡で、主軸方位はＮ－162°－Ｗである。

［壁・床面］　壁高は、東壁31cm、西壁50cm、南壁57cm、北壁38cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは2個である。いずれも柱穴とは考えられない。

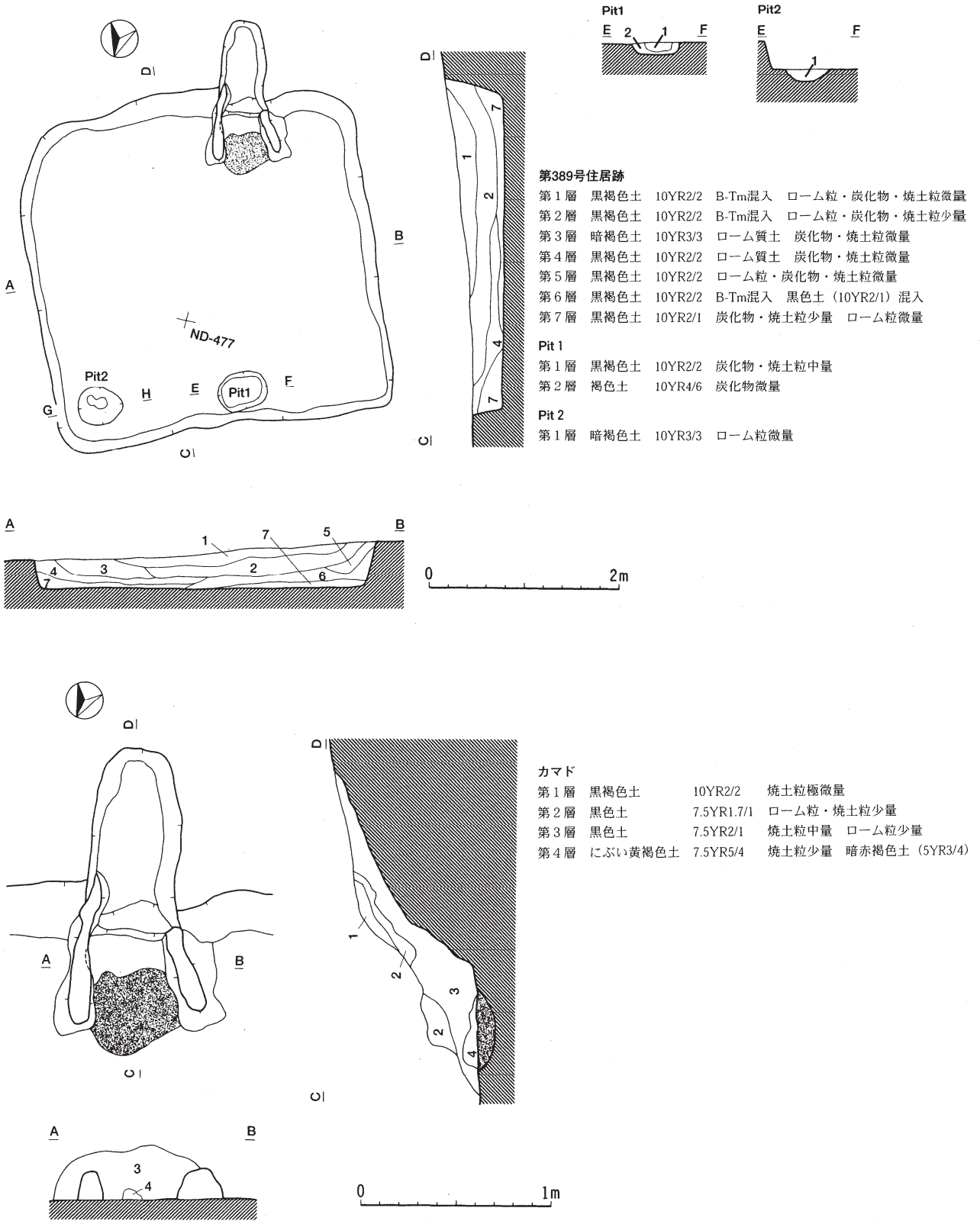
［カマド］　南壁西側に構築されている。ソデは、芯材を使わず、粘土を用いて構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に74cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は７層に分層され、１、２、６層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。

［出土遺物］　床面から、土師器の甕、小型土器や須恵器の鉢、壺が出土し、覆土からは、土師器の甕や砥石が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第389号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/2　B-Tm混入　ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　B-Tm混入　ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ローム質土　炭化物・焼土粒微量
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム質土　炭化物・焼土粒微量
第５層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第６層　黒褐色土　10YR2/2　B-Tm混入　黒色土（10YR2/1）混入
第７層　黒褐色土　10YR2/1　炭化物・焼土粒少量　ローム粒微量

Pit 1

第１層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・焼土粒中量
第２層　褐色土　10YR4/6　炭化物微量

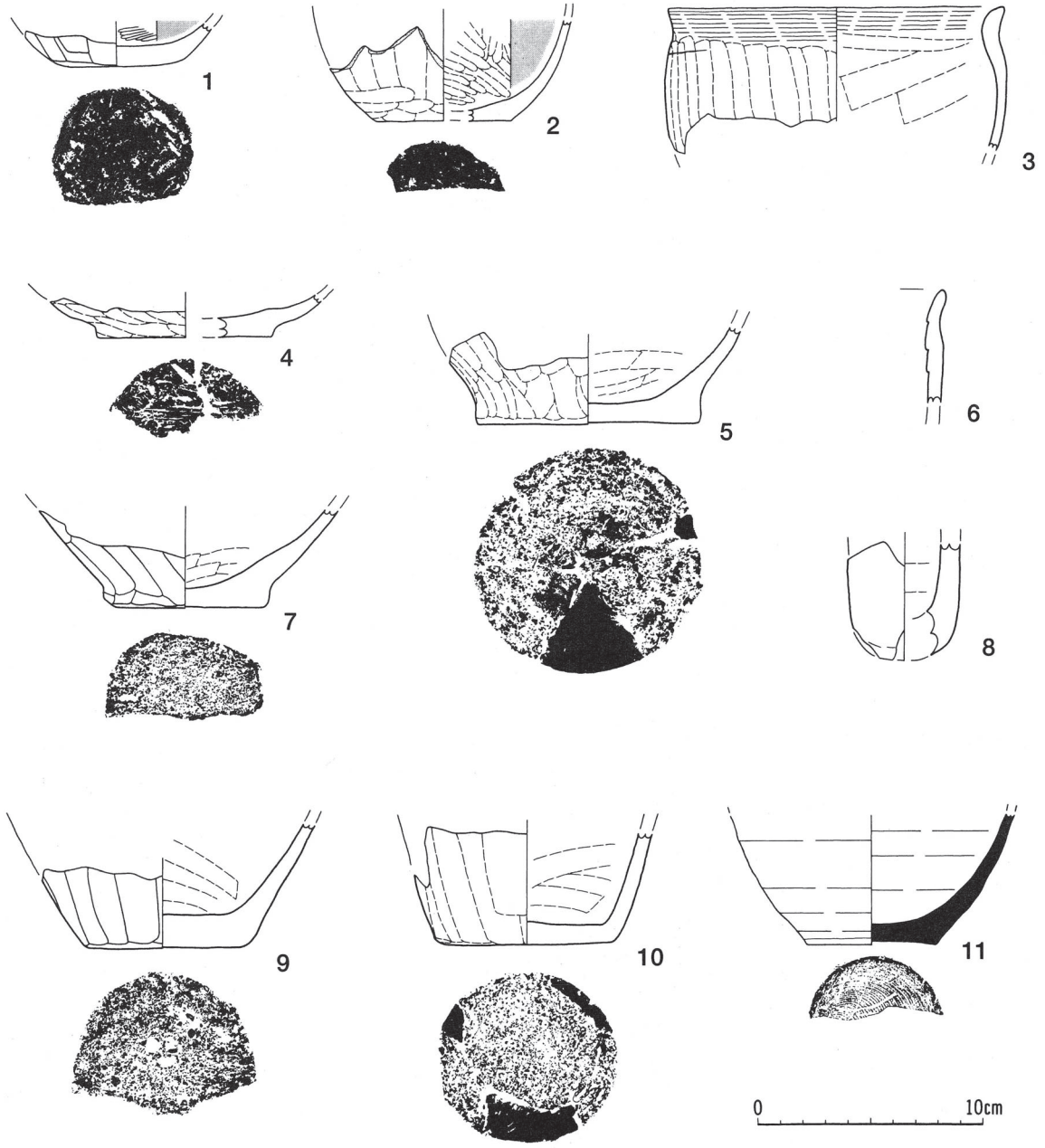
Pit 2

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量

カマド

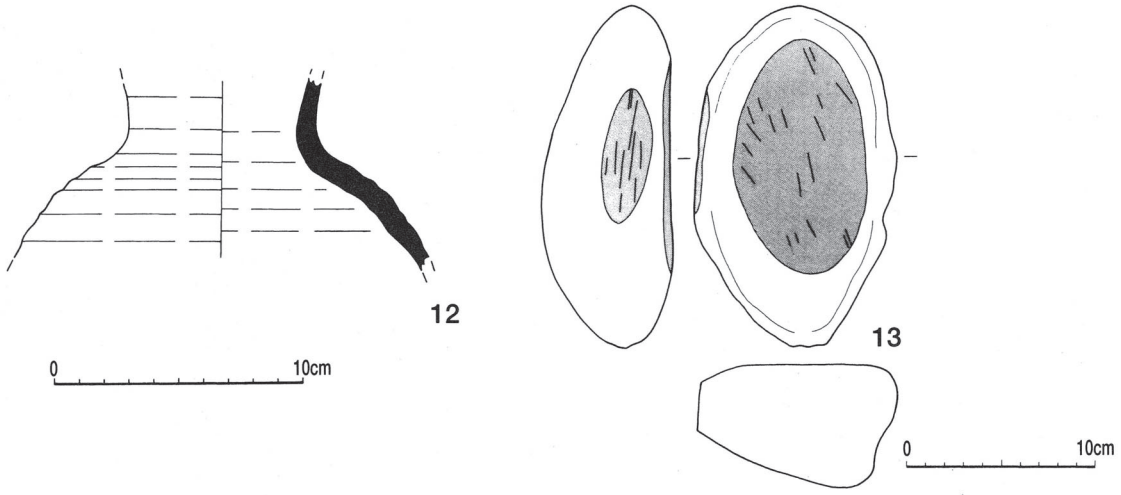
第１層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒極微量
第２層　黒色土　7.5YR1.7/1　ローム粒・焼土粒少量
第３層　黒色土　7.5YR2/1　焼土粒中量　ローム粒少量
第４層　にぶい黄褐色土　7.5YR5/4　焼土粒少量　暗赤褐色土（5YR3/4）

図263　第389号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フク土	—	(2.8)	5.0	—	—	ヘラケズリ?	—	—	ヘラミガキ?	ヘラナデ	A	内面黒色処理
2	土師器	甕	フク土	—	(4.2)	(6.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラミガキ	ナデツケ	A	内面黒色処理
3	土師器	甕	床面	(15.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
4	土師器	坏?	フク土	—	(7.8)	(1.8)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
5	土師器	甕	フク土	—	(4.2)	10.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
6	土師器	甕	フク土	(15.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面剥落 内面輪積痕
7	土師器	甕	フク土	—	(4.3)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
8	土師器	小型土器	フク土	—	(5.2)	(3.0)	—	不明	不明	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	—	—	外面磨滅
9	土師器	甕	フク土	—	(5.4)	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
10	土師器	甕	床面	—	(5.2)	(7.6)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
11	須恵器	鉢?	フク土	—	(5.8)	(5.8)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	

図264　第389号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計　測　値（cm）			外　面　調　整			内　面　調　整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
12	須恵器	壷	フク土	—	(7.8)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	

図版番号	出土層位	計　測　値（cm）			重さ(g)	石　質	分　類	備　考
		長　さ	幅	厚　さ				
13	床面	18.1	10.7	6.6	1650	流	砥石	

第265　第389号竪穴住居跡出土遺物（２）

第390号竪穴住居跡（図266～図270）

［位　置］　ＮＢ・ＮＣ－477・478グリッドに位置する。

［重　複］　第376号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］　東壁５ｍ10cm、西壁５ｍ20cm、南壁４ｍ90cm、北壁５ｍ15cmの方形である。床面積は25.26㎡で、主軸方位はＮ－77°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁20～30cm、西壁52cm、南壁67cm、北壁30cmである。床面は北側に緩やかに傾斜する。

［周　溝］　幅８ｍ～12cm、深さ７～22cmの周溝がほぼ一巡する。

［ピット］　検出されたピットは13個である。柱穴は、ピット７（28cm）、ピット８（33cm）、ピット11（27cm）、ピット13（25cm）と考える。

［カマド］　東壁西側に構築されている。礫をソデや天井部の芯材として転用し、この上に粘土を覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に83cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。焚き口及び周辺から、多量の土師器や礫が出土している。

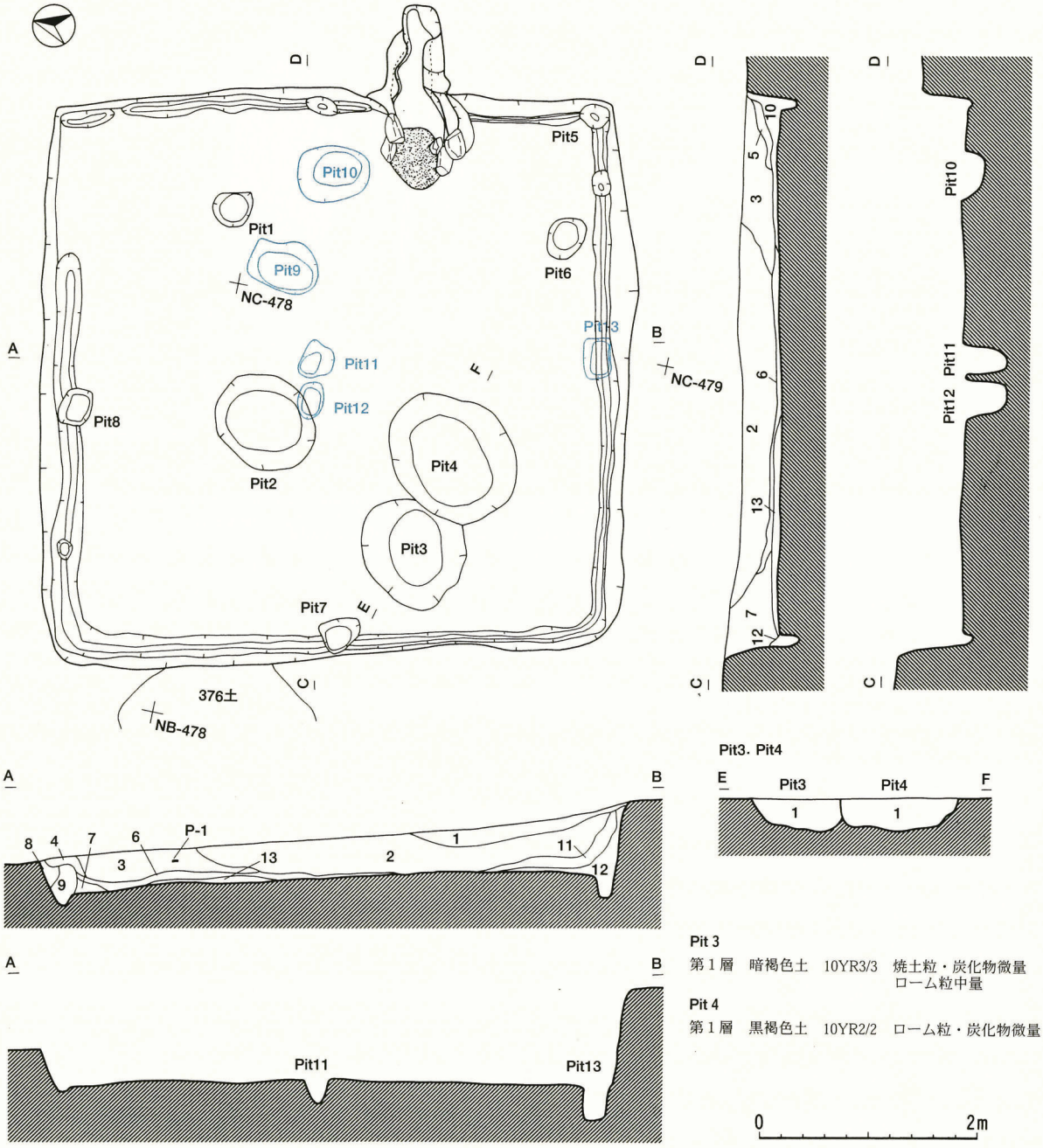
［その他の施設］　南西隅付近に、径96cm、深さ30cmのピット３と長軸130cm、短軸106cmのピット４、中央やや北側に、長軸96cm、短軸80cmのピット２を検出した。

［堆積土］　堆積土は13層に分層され、６層は、炭化物層である。

［出土遺物］　床面及び床面直上から、土師器の坏、甕や小刀、鉄製紡錘社が出土し、覆土から土師器の坏、甕が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築したと考えられる。

（相馬良仁）



Pit 3
第１層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒・炭化物微量
ローム粒中量

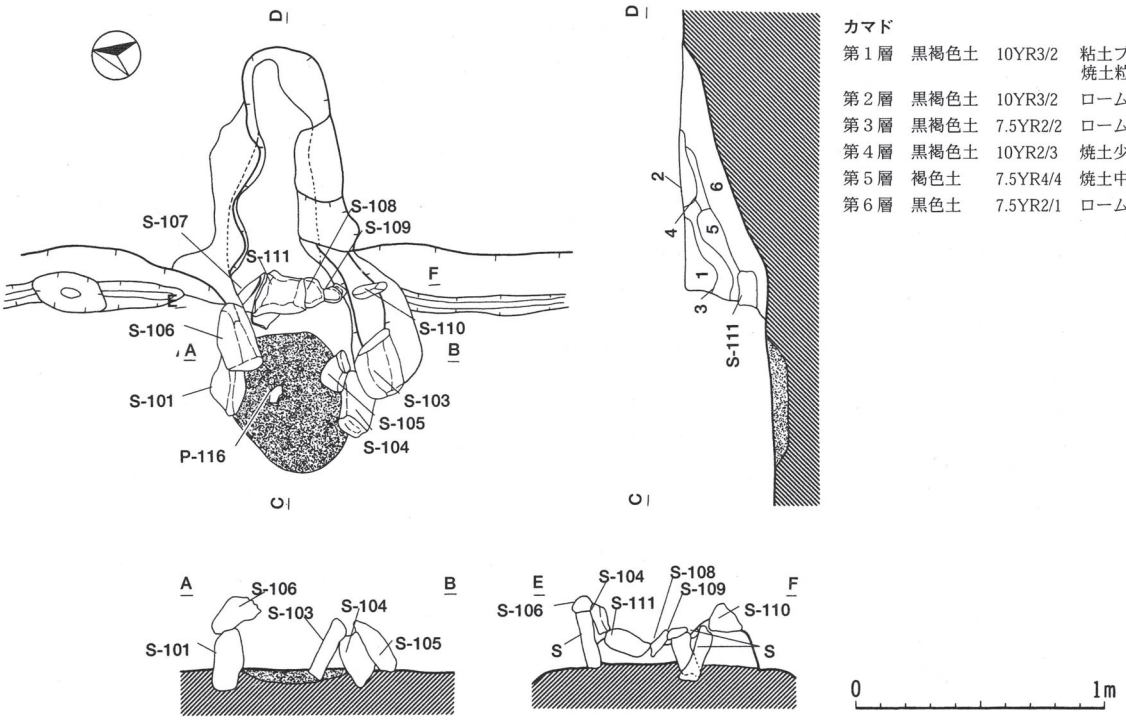
Pit 4
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物微量

0　2m

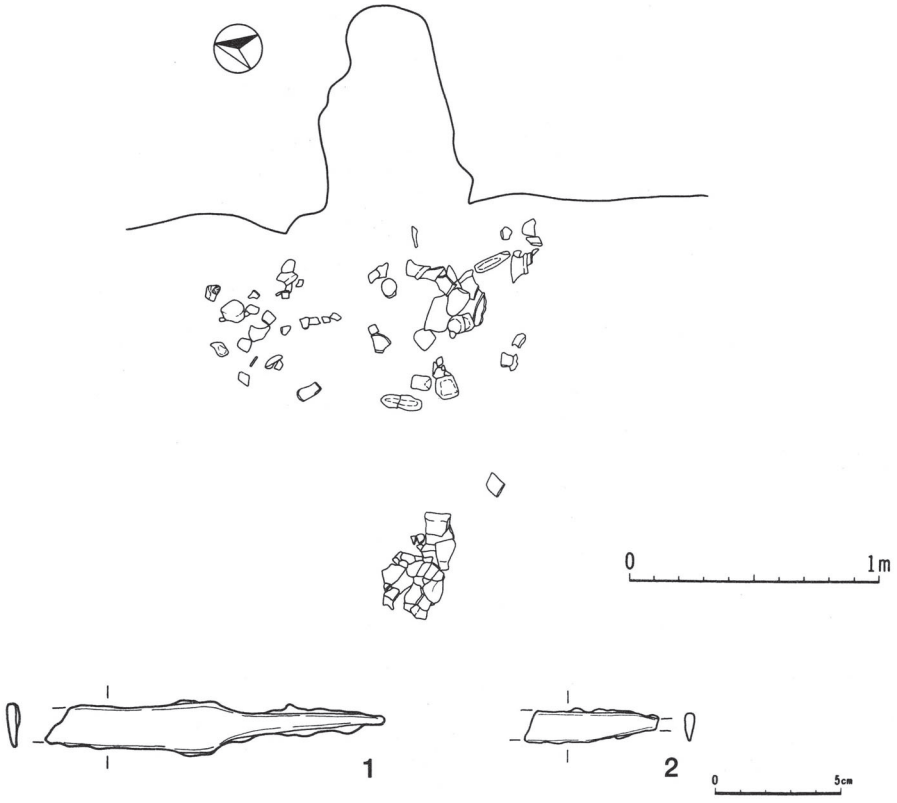
第390号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量　炭化物極微量
第２層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量　炭化物極微量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量　炭化物極微量
第４層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒極微量
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量
第６層	黒色土	10YR1.7/1	炭化物層
第７層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土極微量　ローム粒少量
第８層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量
第９層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量　炭化物微量
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒極微量　炭化物微量
第11層	暗褐色土	10YR3/3	粘土極微量　炭化物極微量
第12層	褐色土	10YR4/4	ローム粒少量　粘土中量
第13層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒中量　炭化物極微量

図266　第390号竪穴住居跡（１）

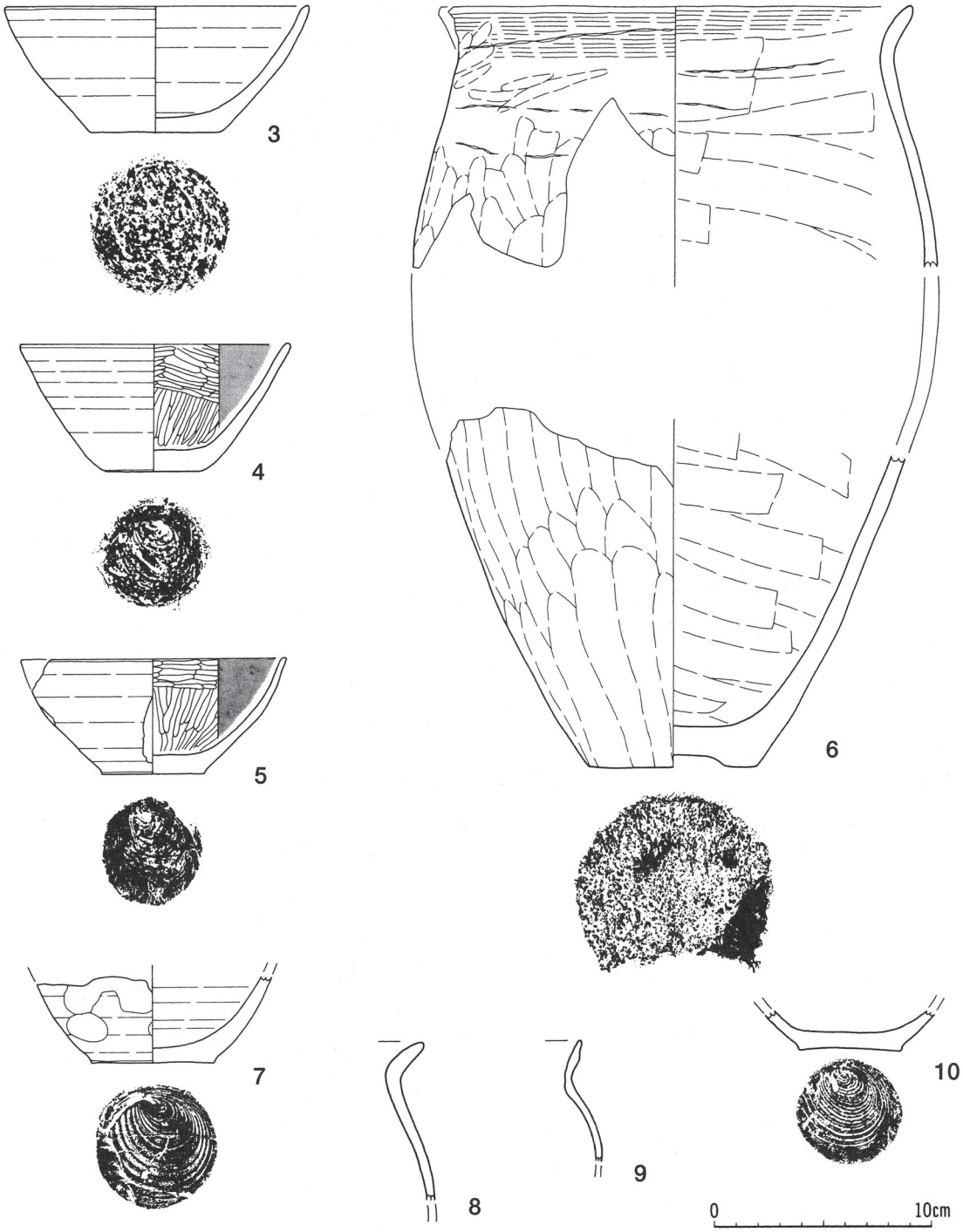


カマド　遺物出土状況



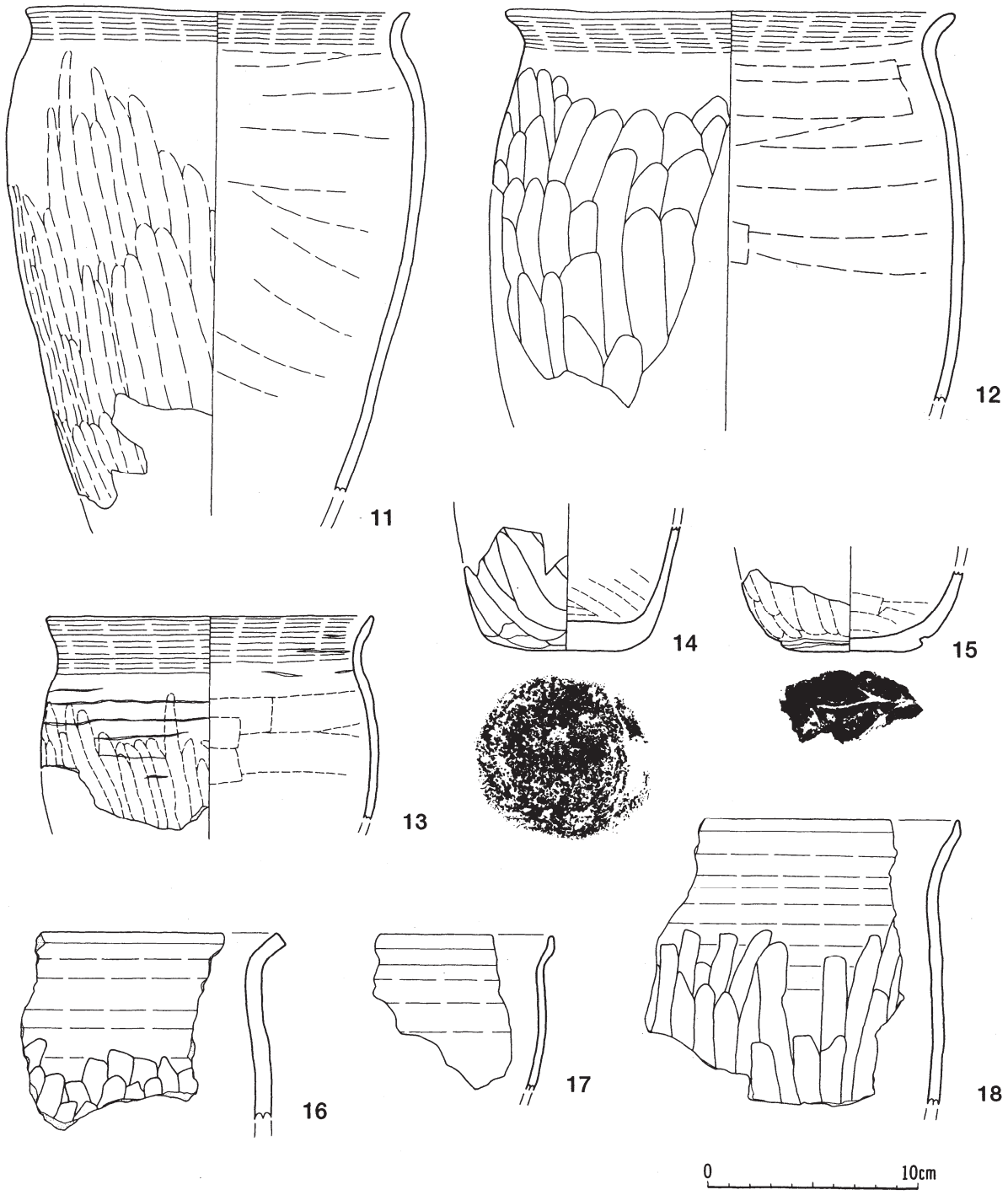
図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
1	床直	13.6	1.7	0.5	29.8	小刀	Fe-2
2	カマド	5.2	1.1	0.4	4.4	刀子	Fe-1

図267　第390号竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）



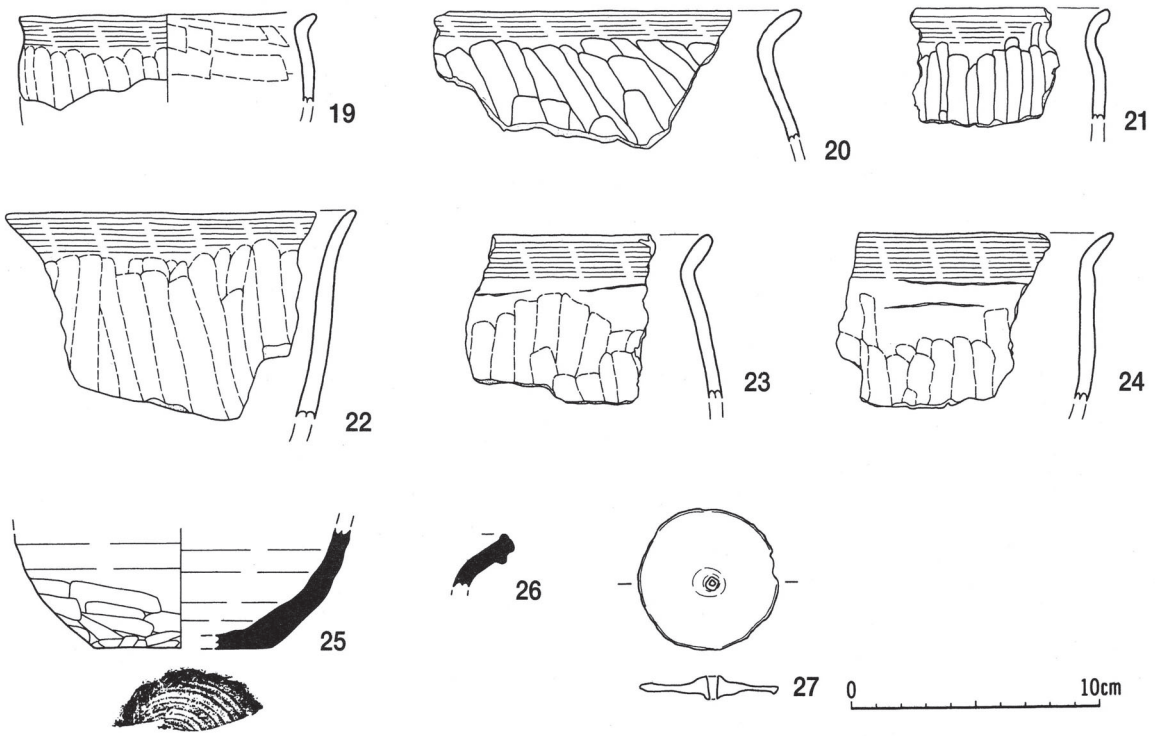
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
3	土師器	坏	カマド	(14.1)	(5.7)	(6.0)	ロクロ	ロクロ	不明	ロクロ	ロクロ	ロクロ	不明	BⅡb	P-13
4	土師器	坏	フク土	(12.6)	(5.9)	(4.4)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	糸切り→ヘラナデ	BⅠb	内面黒色処理 P-2
5	土師器	坏	床直	(13.0)	(5.4)	(4.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	糸切り→ヘラナデ	BⅠb	内面黒色処理
6	土師器	甕	床直 カマド	22.0	(35.0)	7.6	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	AⅠc	輪積痕
7	土師器	坏	フク土	—	(4.5)	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-120
8	土師器	甕	カマド	(22.0)	(7.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	—	A	P-122
9	土師器	坏	カマド	(14.0)	(5.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	—	A	外面スス付着 P-150
10	土師器	坏	フク土	—	(1.8)	(4.8)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理

第268　第390号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
11	土師器	甕	床面	18.2	(28.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	—	AIc	P-3、8、9
12	土師器	甕	カマド	21.6	(19.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	P-101、111、139
13	土師器	甕	カマド	15.6	(9.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ ナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕、P-146
14	土師器	甕	カマド	—	(6.8)	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-134、118
15	土師器	甕	カマドフク土	—	(3.9)	(7.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ?	A	
16	土師器	甕	カマド	(20.0)	(9.5)	—	ロクロ	ヘラケズリ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	P-102
17	土師器	甕	フク土	(13.0)	(7.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
18	土師器	甕	カマド	(22.0)	(13.7)	—	ロクロ	ヘラケズリ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	P-156

図269　第390号竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
19	土師器	甕	カマドフク土	(12.0)	(3.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
20	土師器	甕	カマドフク土	(20.0)	(5.5)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-115
21	土師器	甕	Pit 4	(13.0)	(4.8)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-201
22	土師器	甕	カマドフク土	(23.0)	(8.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-154
23	土師器	甕	フク土	(19.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
24	土師器	甕	フク土	(12.0)	(6.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
25	須恵器	壺?	カマドフク土	—	(4.6)	(7.7)	—	—	ロクロ→ケズリ	—	—	ロクロ	回転糸切り(一部ヘラケズリ)	—	底部の周りをケズル
26	須恵器	壺	フク土	—	(2.1)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
27	床面直上	5.1	5.6	0.9	16.9	紡錘車	Fe-3

図270　第390号竪穴住居跡出土遺物（4）

第391号竪穴住居跡（図271・図272）

［位　置］　ＭＺ・ＮＡ－475・476グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁３ｍ６㎝、西壁３ｍ12㎝、南壁３ｍ54㎝、北壁３ｍ９㎝で南東隅がやや広がる方形である。床面積は9.95㎡で、主軸方位はＮ－173°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁８㎝、西壁48㎝、南壁29㎝、北壁24㎝である。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは５個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に構築されているものをカマドＡ、東壁南側に構築されているものをカマドＢとし、カマドＡが新しい。カマドＢは火床面と煙道のみ残存する。カマドＡは焚口に土師器の底部を２つ重ねて伏せた状態に置き、支脚としていた。煙道は半地下式で、住居跡外に80㎝のびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。カマドＢの煙道は残存分から地下式と推定され、住居跡外に94㎝のびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに下降する。

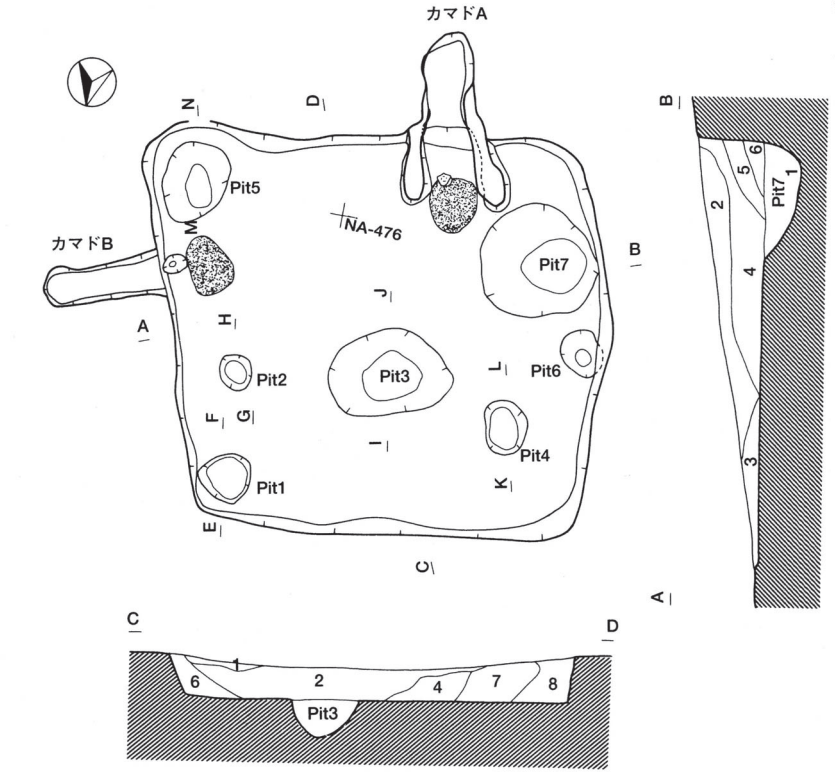
［その他の施設］　中央に、長軸96㎝、短軸66㎝、深さ20㎝のピット３、南西隅付近に、径92㎝のピット７を検出した。

［堆積土］　堆積土は９層に分層され、１層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入する。

［出土遺物］　覆土から、土師器の坏、甕が出土している。

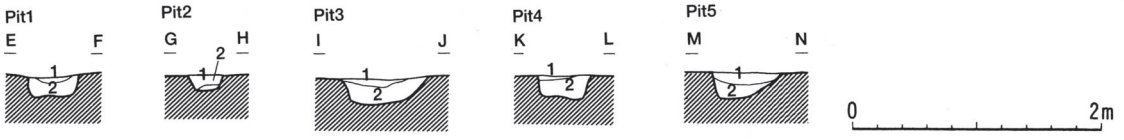
［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第391号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR3/2	B-Tm混入 炭化物・焼土粒少量
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒混入 炭化物極微量
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量
第６層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒微量
第７層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量
第８層	黒色土	10YR2/1	暗褐色土混入
Pit 1			
第１層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物・ 焼土粒微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒混入 炭化物極微量
Pit 2			
第１層	黒褐色土	10YR3/2	B-Tm混入 ローム粒混入
第２層	黄橙色	10YR7/8	
Pit 3			
第１層	黒色土	10YR1.7/1	粘土粒混入 炭化物・焼土粒極微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・ 粘土粒混入
Pit 4			
第１層	黒褐色土	10YR2/2	B-Tm混入 ローム粒混入炭化物極微量
第２層	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘土ブロック 混入
Pit 5			
第１層	黒褐色土	10YR2/2	B-Tm混入 粘土ブロック 混入 炭化物・焼土粒極微量
第２層	明黄褐色土	10YR6/6	L.B.混入 炭化物極微量
Pit 7			
第１層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量



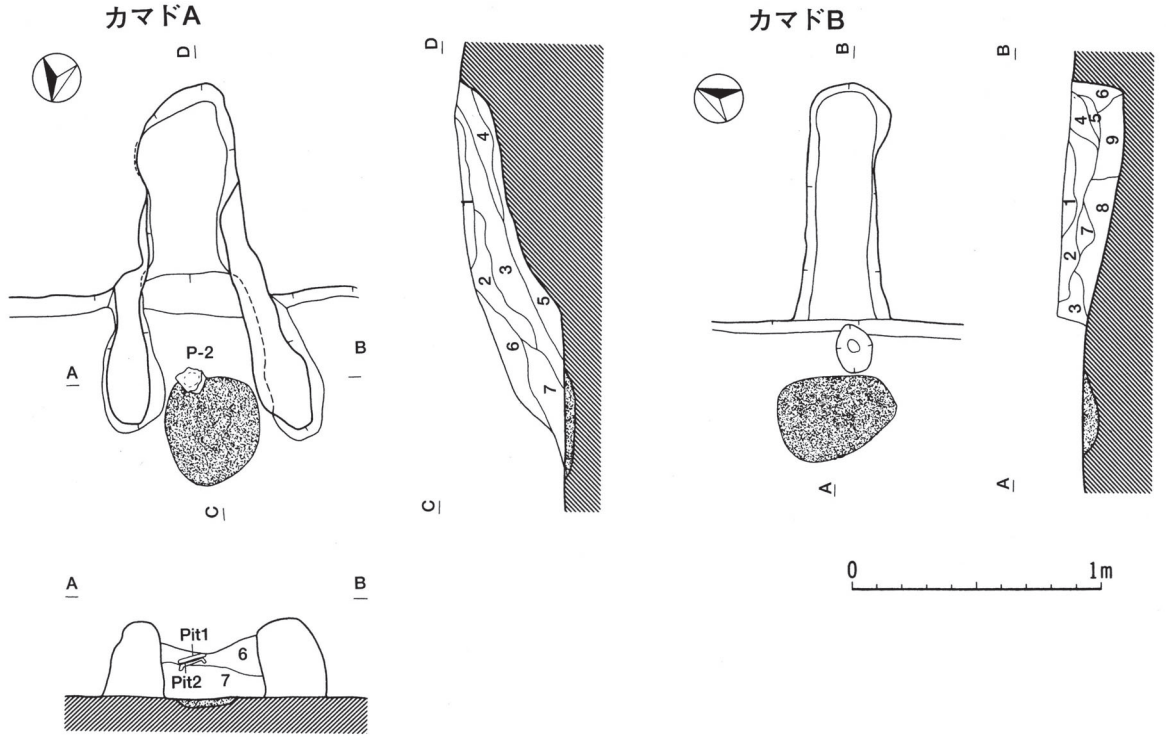


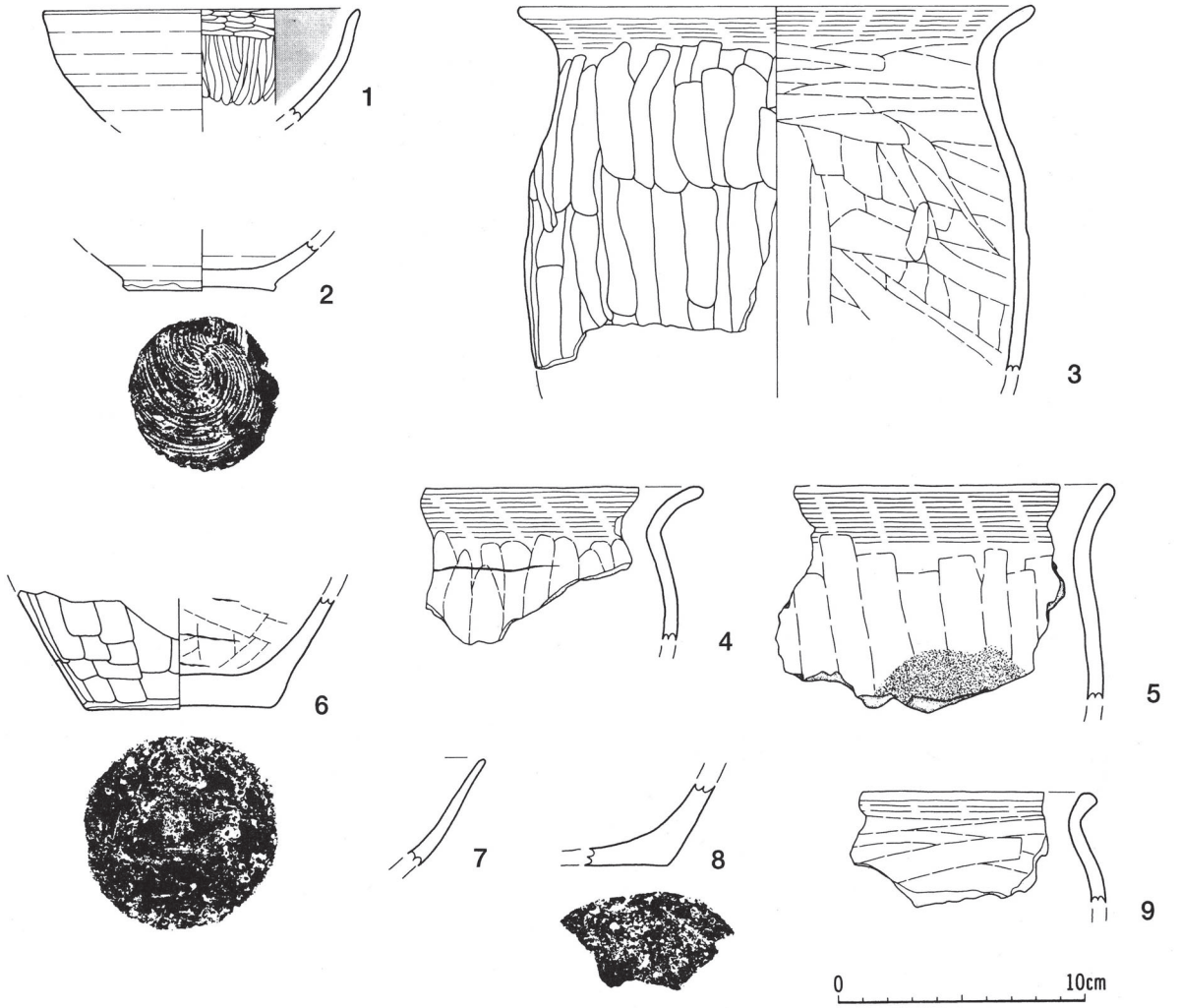
図271　第391号竪穴住居跡

カマドA

第1層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量
第2層　褐色土　7.5YR4/4
第3層　褐色土　7.5YR4/4　砂礫多量　ローム質土
第4層　褐色土　7.5YR4/3　ローム質土
第5層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物微量
第6層　褐色土　10YR4/6　ローム質土
第7層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒少量

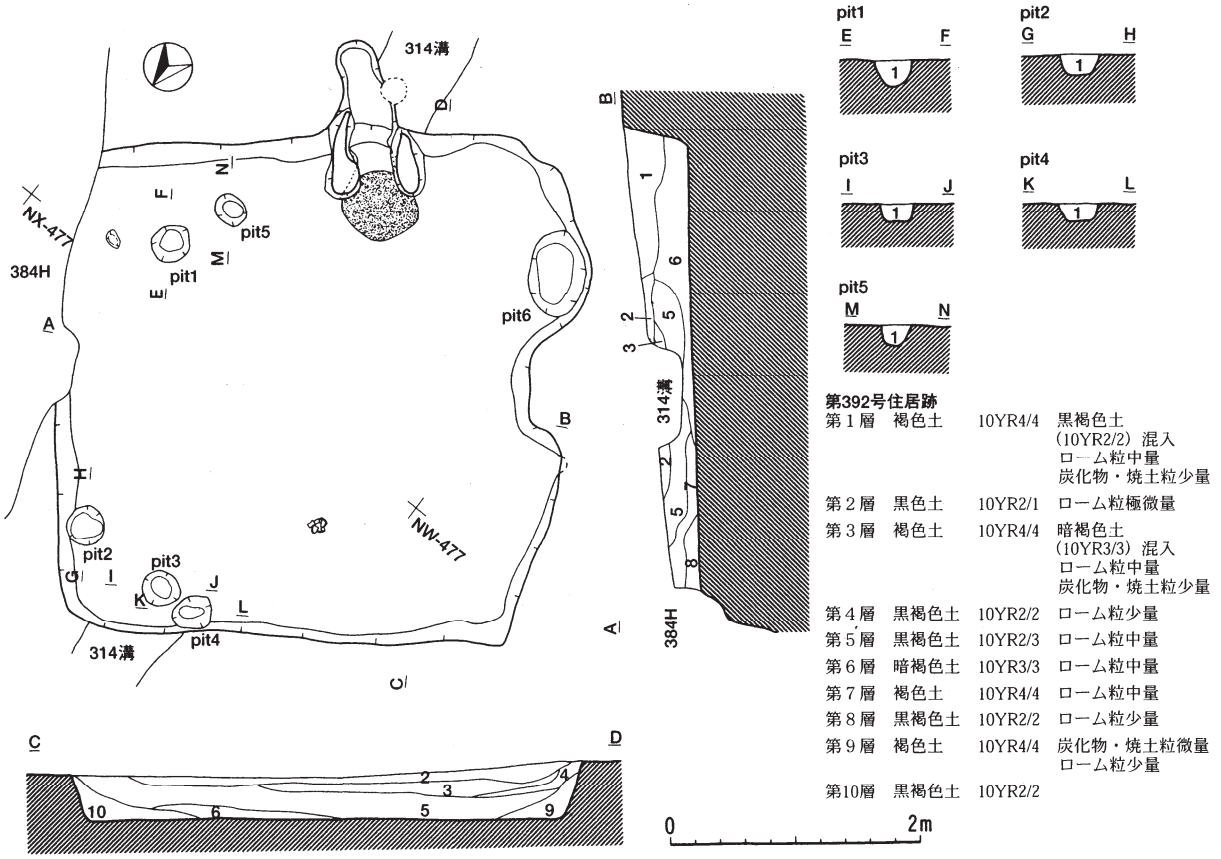
カマドB

第1層　黒褐色土　10YR2/3　焼土・炭化物・浮石微量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・焼土・炭化物微量
第3層　褐色土　7.5YR4/4　焼土・炭化物微量
第4層　黒褐色土　10YR2/2　焼土・炭化物微量
第5層　明褐色土　7.5YR5/6　炭化物微量
第6層　黒褐色土　10YR2/2　焼土微量
第7層　明褐色土　7.5YR5/6
第8層　暗褐色土　10YR3/3　浮石・焼土・炭化物微量
第9層　黒色土　7.5YR2/1　焼土微量　ローム粒極微量



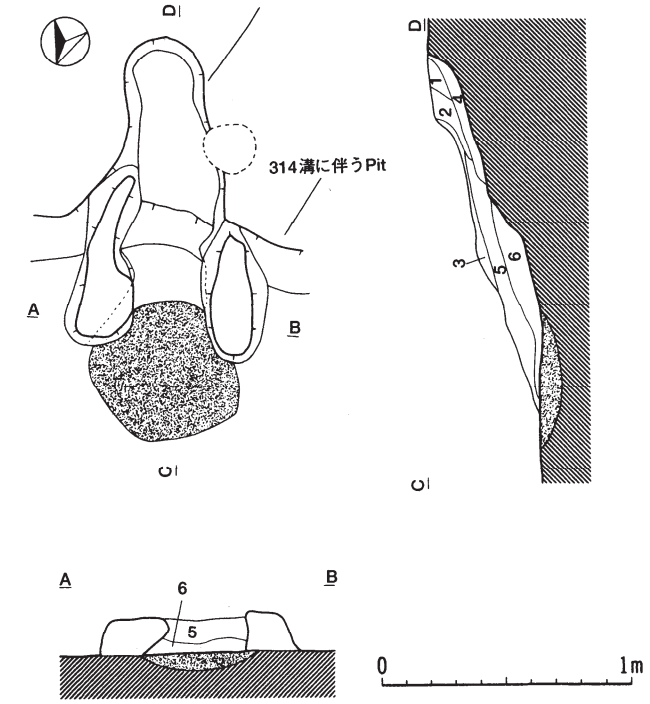
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フク土	(13.0)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	内面黒色処理
2	土師器	坏	フク土	—	(2.0)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
3	土師器	甕	カマドフク土	(21.0)	(15.7)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	輪積痕
4	土師器	甕	Pitフク土	(26.0)	(6.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	—	—	—	A	
5	土師器	甕	カマドフク土	(24.0)	(8.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2、外面粘土付着
6	土師器	甕	カマド	—	(4.6)	8.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	輪積痕、P-2
7	土師器	坏	フク土	(14.0)	(4.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
8	土師器	甕	カマド	—	(3.4)	(9.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
9	土師器	甕	フク土	(20.0)	(4.6)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図272　第391号竪穴住居跡出土遺物



第392号住居跡

第１層	褐色土	10YR4/4	黒褐色土（10YR2/2）混入 ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量
第２層	黒色土	10YR2/1	ローム粒極微量
第３層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土（10YR3/3）混入 ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第５層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量
第６層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量
第７層	褐色土	10YR4/4	ローム粒中量
第８層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第９層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土粒微量 ローム粒少量
第10層	黒褐色土	10YR2/2	



Pit 1

第１層	黒褐色土	10YR3/2	B-Tm　L.B.少量

Pit 2

第１層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	B-Tm　L.B.中量　焼土粒微量

Pit 3

第１層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	炭化物・焼土粒極微量

Pit 4

第１層	褐色土	7.5YR4/6	ローム粒多量

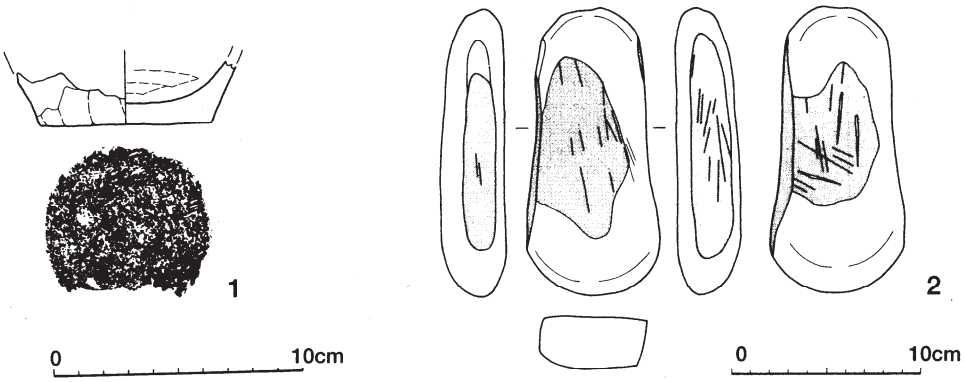
Pit 5

第１層	明褐色土	7.5YR5/6	黒色土（7.5YR2/1）混入 ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量

カマド

第１層	褐色土	7.5YR4/4	灰褐色土（7.5YR4/2）混入
第２層	明褐色土	7.5YR5/6	明赤褐色土（5YR5/8）混入　焼土粒中量
第３層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物少量
第４層	明褐色土	7.5YR5/6	炭化物少量
第５層	明褐色土	7.5YR5/6	炭化物微量
第６層	褐色土	7.5YR4/4	明赤褐色土（5YR5/6）混入

図273　第392号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	床面	—	(2.5)	7.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-201、籾痕(内面)

図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
2	確認面	15.2	7.0	2.9	444	流	砥石	炭化物付着

図274　第392号竪穴住居跡出土遺物

第392号竪穴住居跡（図273・図274）

［位　置］　MV・MW－476・477グリッドに位置する。

［重　複］　第384号住居跡、第314号溝と重複し、本住居跡が最も古い。

［平面形・規模］　東壁南側部分が第384号住居跡に切られ、南壁東側部分から南壁中央部分にかけて第314号溝に切られており、残存する東壁３m80cm、西壁４m５cm、南壁３m70cm、北壁４m10cmで、西壁がややふくらむ方形である。床面積は14.07㎡で、主軸方位はN－139°－Eである。

［壁・床面］　壁高は、東壁20cm、西壁52cm、南壁31cm、北壁35cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは６個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁ほぼ中央に構築されている。ソデは芯材を使わず、粘土で構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に74cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

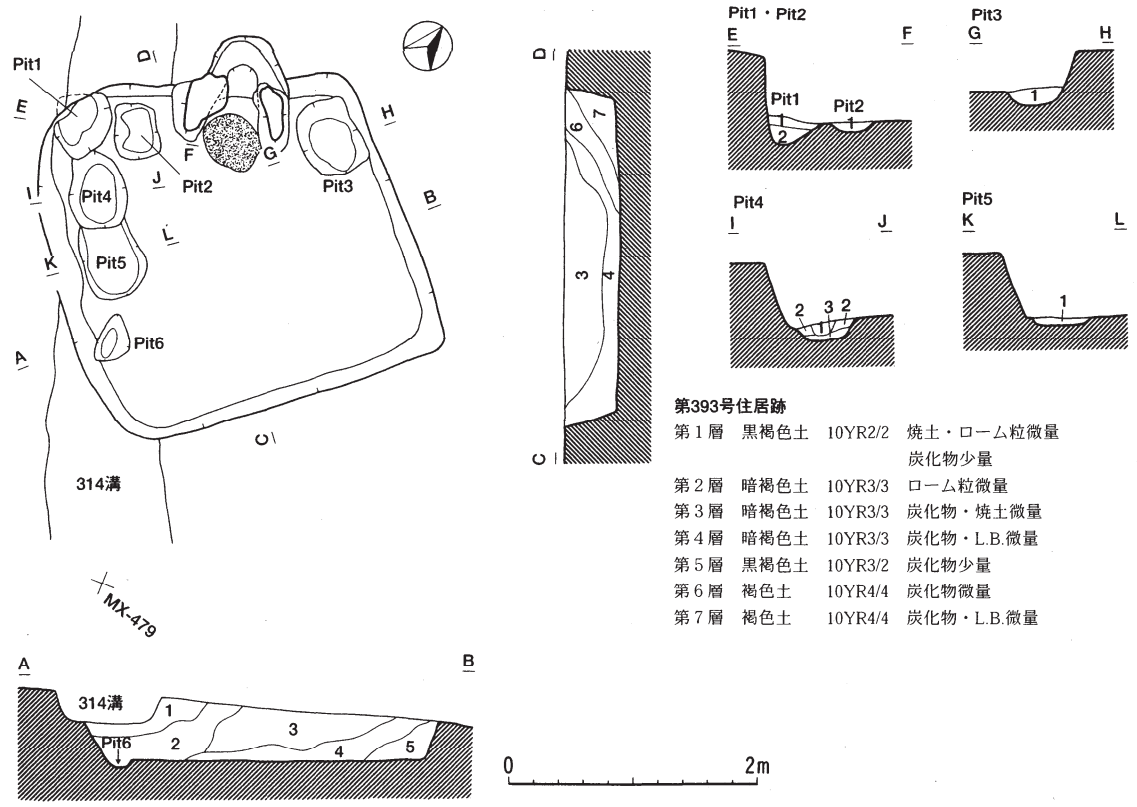
［その他の施設］　西壁中央が、幅105cmで、住居跡に48cm半円状に入り込んでいる。用途等については不明である。

［堆積土］　堆積土は10層に分層される。また、ピット１・ピット２の１層にはそれぞれB－Tm火山灰が混入している。

［出土遺物］　床面から土師器の甕が、確認面からは砥石が出土している。

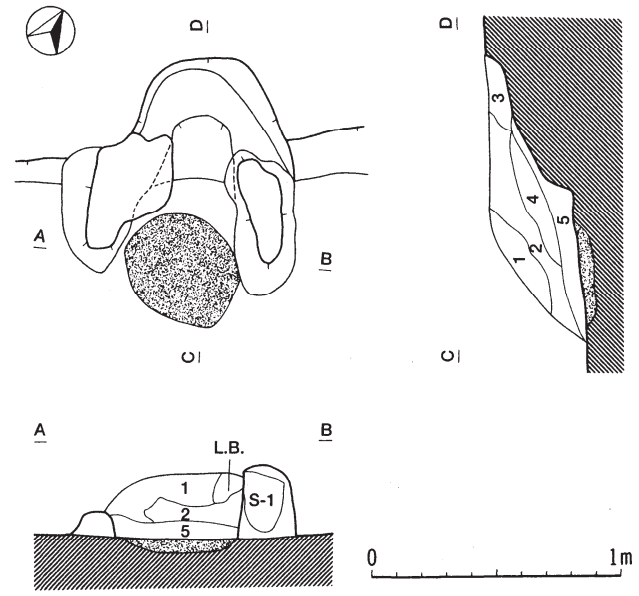
［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第393号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR2/2	焼土・ローム粒微量 炭化物少量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土微量
第４層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・L.B.微量
第５層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物少量
第６層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量
第７層	褐色土	10YR4/4	炭化物・L.B.微量



Pit 1

第１層	暗赤褐色土	5YR3/3	焼土多量　炭化物少量
第２層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物少量　焼土微量

Pit 2

第１層	暗褐色土	7.5YR3/3	焼土中量　炭化物微量

Pit 3

第１層	暗褐色土	7.5YR3/3	暗褐色土　焼土少量 炭化物微量

Pit 4

第１層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物中量
第２層	暗褐色土	10YR3/4	焼土・炭化物少量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	焼土少量　炭化物中量

Pit 5

第１層	褐色土	7.5YR4/4	焼土・炭化物多量

カマド

第１層	黒褐色土	10YR2/2	焼土・炭化物微量
第２層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム質土　焼土多量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	焼土中量
第４層	暗褐色土	7.5YR3/4	ローム質土　焼土多量
第５層	褐色土	10YR4/4	

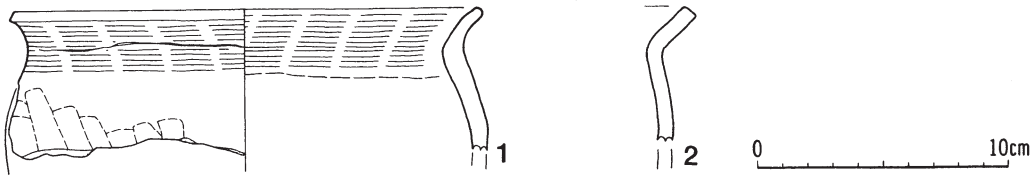
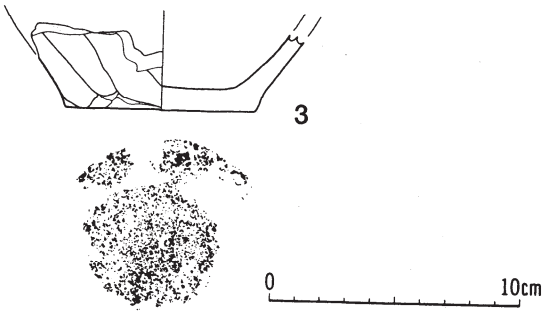


図275　第393号竪穴住居跡・出土遺物（１）



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計　測　値（cm）			外　面　調　整			内　面　調　整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(19.0)	(5.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	不明	—	—	A	外面輪積痕
2	土師器	甕	フク土	(16.0)	(5.4)	—	不明	不明	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
3	土師器	甕	Pit5フク土	—	(4.3)	7.6	—	—	ヘラケズリ	—	—	不明	砂底	A	P-1

図276　第393号竪穴住居跡出土遺物（2）

第393号竪穴住居跡（図275・図276）

［位　置］　MW・MX－477・478グリッドに位置する。

［重　複］　第314号溝と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　東壁２m40cm、西壁２m70cm、南壁２m70cm、北壁２m50cmの方形である。床面積は6.06㎡で、主軸方位はN－25°－Wである。

［壁・床面］　壁高は、東壁28cm、西壁16～54cm、南壁40cm、北壁26cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは２個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　北壁東側に構築されている。礫を芯材として用い、粘土を覆って本体を構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に35cmほどのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

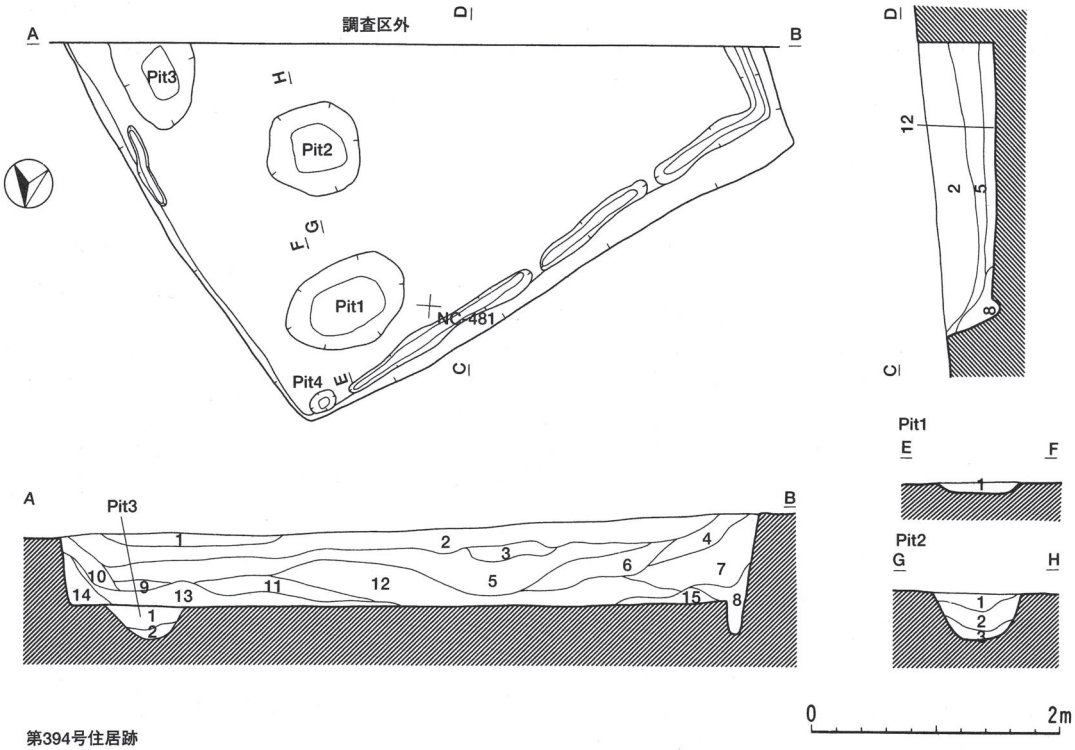
［その他の施設］　北東隅に、径52cm、深さ22cmで壁を14cm掘り込んだピット１、北東隅に、長軸62cm、短軸46cm、深さ12cmのピット３、西壁北側に、径46cm、深さ16cmのピット４、西壁中央に、径46cm、深さ６cmのピット５を検出した。

［堆積土］　堆積土は7層に分層される。

［出土遺物］覆土から土師器の甕が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第394号住居跡

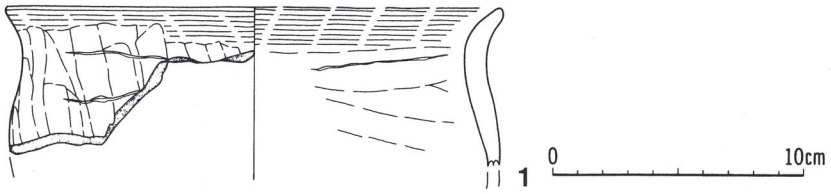
第１層	褐色土	10YR4/4	炭化物極微量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	黒色土（10YR2/1）混入 ローム粒・炭化物極微量
第３層	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物極微量
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物極微量
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物少量
第６層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第７層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物少量　焼土粒極微量
第８層	褐色土	10YR4/6	黒褐色土（10YR2/3）混入　炭化物少量
第９層	褐色土	10YR4/6	褐色土（7.5YR4/6）混入　炭化物極微量
第10層	暗褐色土	10YR3/3	焼土ブロック混入
第11層	明褐色土	7.5YR5/6	褐色土（10YR4/4）混入　焼土粒少量
第12層	暗褐色土	10YR3/3	黒色土（10YR2/1）・黒褐色土（10YR2/2）混入　ローム粒・炭化物微量
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物微量
第14層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒少量　炭化物微量
第15層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物微量

Pit 1

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・焼土粒少量　炭化物微量

Pit 2

第１層	明褐色土	7.5YR5/6	褐色土（10YR4/4）混入　焼土粒中量　ローム粒・炭化物少量
第２層	褐色土	10YR4/4	ローム粒微量
第３層	褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物微量



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	Pit2フク土	(20.0)	(6.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕

図277　第394号竪穴住居跡・出土遺物（１）

第394号竪穴住居跡（図277・図278）

［位　置］　ＮＢ・ＮＣ－480・481グリッドに位置する。

［重　複］　確認されなかった。

［平面形・規模］　南壁と東壁・西壁の南側が調査区外にかかり、残存する東壁３ｍ55cm、西壁95cm、北壁４ｍ54cmである。床面積は9.78㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁33cm、西壁84cm、北壁53cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅８～21cm、深さ１～28cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは２個である。

［カマド］　本住居跡の南側部分は、調査区外にかかり未調査のため、不明である。

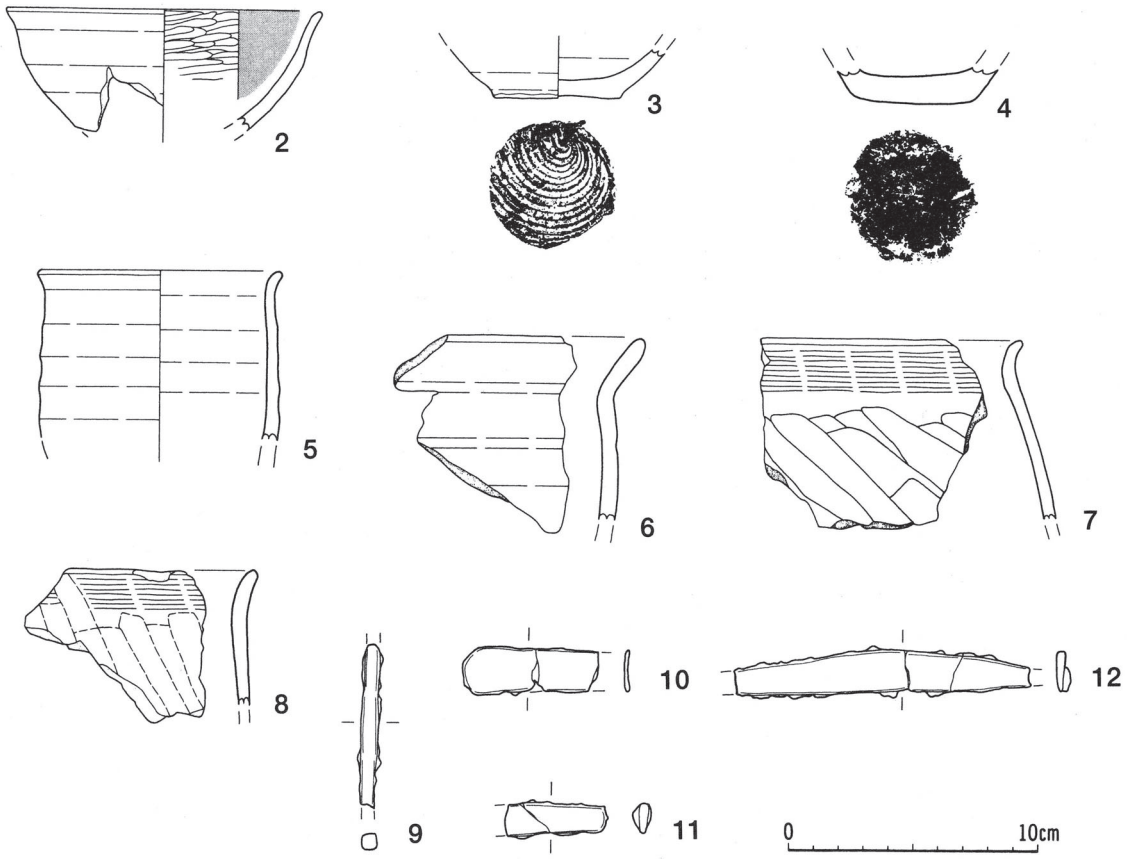
［その他の施設］　北東隅に、長軸102cm、短軸70cm、深さ８cmの楕円形のピット１、東壁北側に、径76cm、深さ56cmのピット２を検出した。

［堆積土］　堆積土は15層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕、坏や刀子、お引金が、床直からは棒状の鉄製品が出土している。

［時　期］　出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
2	土師器	坏	フク土	12.8	(4.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	内面黒色処理
3	土師器	坏	Pitフク土	—	(1.7)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
4	土師器	甕	フク土	—	(1.5)	(5.0)	—	—	不明	—	—	不明	ナデツケ	A	
5	土師器	甕	Pitフク土	(10.0)	(6.7)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅢ	
6	土師器	甕	フク土	(18.0)	(7.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	不明	不明	—	—	B	内面磨滅
7	土師器	甕	フク土	(20.0)	(7.6)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
8	土師器	甕	フク土	(20.0)	(5.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
9	床直	6.5	0.6	0.7	11.4	棒状	Fe-1
10	フク土	5.5	1.7	0.2	12.8	お引金	
11	フク土	4.1	1.2	0.8	3.3	刀子	
12	フク土	11.8	1.6	0.6	14.2	刀子	

図278　第394号竪穴住居跡出土遺物（2）

第395号（Ａ）竪穴住居跡（図279～図281）

［位　置］　ＭＺ・ＮＡ－481グリッドに位置する。

［重　複］　本住居跡は第395号（Ｂ）住居跡を拡張したと考えられる。ただ本住居跡の南側が調査区外にかかり未調査のため、全容は確認できなかった。

［平面形・規模］　北壁５ｍ92cm、南側大半が調査区外にかかり、残存する東壁１ｍ18cm、西壁48cmである。平面形は残存部分が少ないため推定できない。床面積は4.7㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁56cm、西壁70cm、北壁64cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　調査区外にかかり、未調査のため、不明である。

［堆積土］　堆積土は６層に分層される。

［時　期］　重複関係から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第395号（Ｂ）竪穴住居跡（図279～図281）

［位　置］　ＭＹ～ＮＡ－480・481グリッドに位置する。

［重　複］　第377号土坑、第379号土坑と重複し、本住居跡は第377号土坑より古く、第379号土坑より新しい。また第395号（Ａ）住居跡は本住居跡を拡張したものと考える。

［平面形・規模］　南側部分が調査区外にかかり、第395号（Ａ）住居跡が本住居の南側部分を切っている。また第379号土坑が西北側と北壁西側を切っている。東壁５ｍ86cm、北壁６ｍ４cm、残存する西壁４ｍ６cmであり、方形と推定する。床面積は4.69㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁76cm、西壁14cm、北壁44cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅５～20cm、深さ１～29cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは２個である。柱穴はピット２（23cm）、ピット４（29cm）と考える。

［カマド］　南側部分が調査区外にかかり、未調査のため不明である。

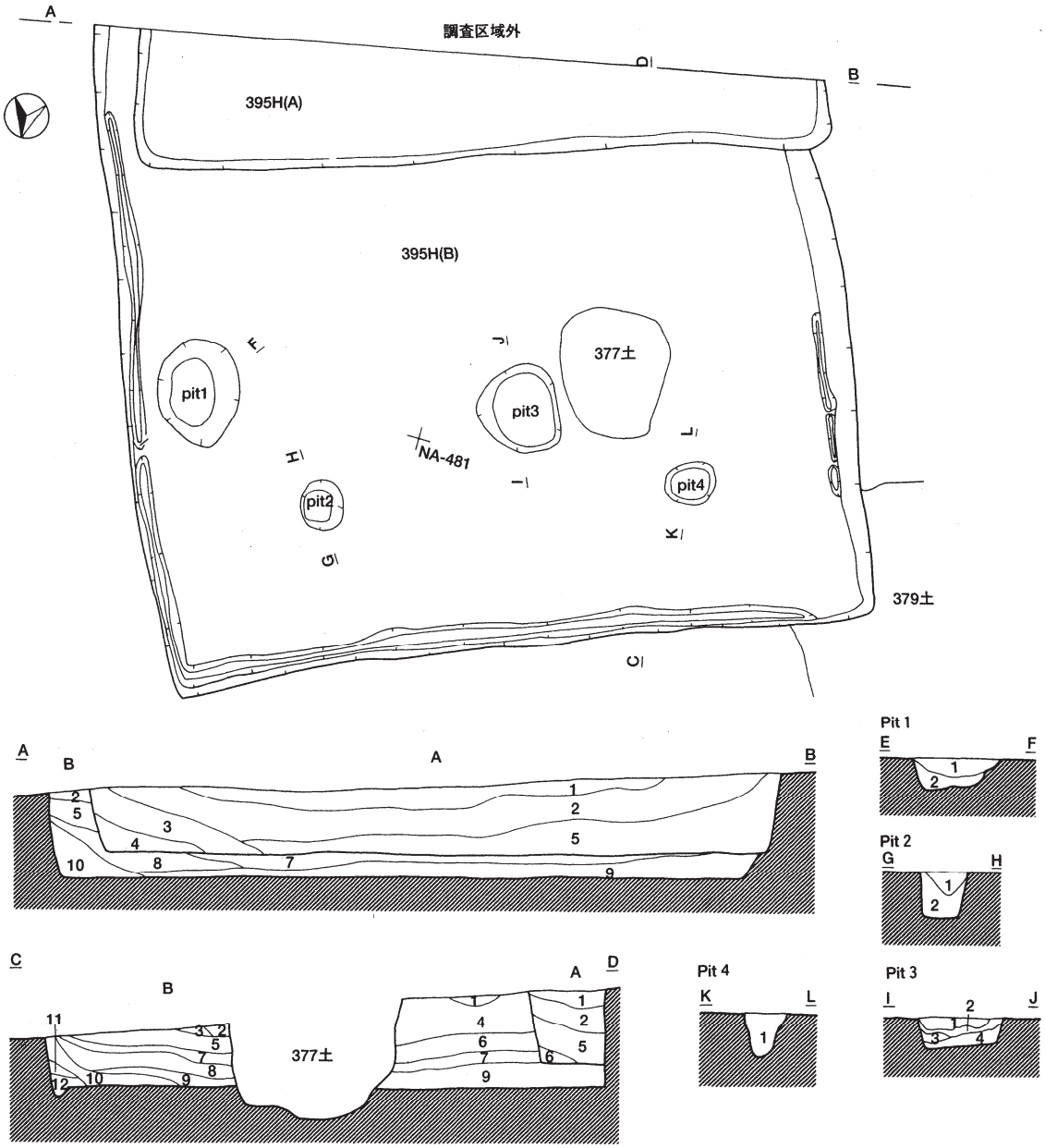
［その他の施設］　東壁北側に、長軸94cm、短軸72cm、深さ16cmのピット１、北壁中央からやや南側に、径76cm、深さ16cmのピット３を検出した。

［堆積土］　堆積土は12層に分層され、７層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕、坏、鉢や須恵器の坏のほか、刀子、砥石、台石などが出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第395号（B）住居跡

第１層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒中量　炭化物少量　焼土粒極微量
第２層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物中量　ローム粒微量　焼土粒極微量
第３層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　炭化物中量　ローム粒少量　焼土粒微量
第４層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・炭化物中量　焼土粒少量
第５層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒中量　炭化物少量　焼土粒極微量
第６層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・炭化物・焼土粒中量
第７層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　B-Tm混入　ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第８層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量
第９層　黒褐色土　10YR2/2　黒色土（10YR1.7/1）混入　ローム粒少量　炭化物微量
第10層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物極微量
第11層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　L.B.中量　炭化物極微量
第12層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量

第395号（A）住居跡

第１層　褐色土　10YR4/4　ローム粒・焼土粒中量　炭化物少量
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第３層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量
第４層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量　炭化物・焼土粒微量
第５層　褐色土　10YR4/4　黒褐色土（10YR3/2）混入　ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量
第６層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　黒褐色土（10YR3/2）混入　ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量

Pit 1

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量
第２層　褐色土　7.5YR4/4

Pit 2

第１層　黒色土　7.5YR2/1　ローム粒微量
第２層　にぶい褐色土　7.5YR5/2

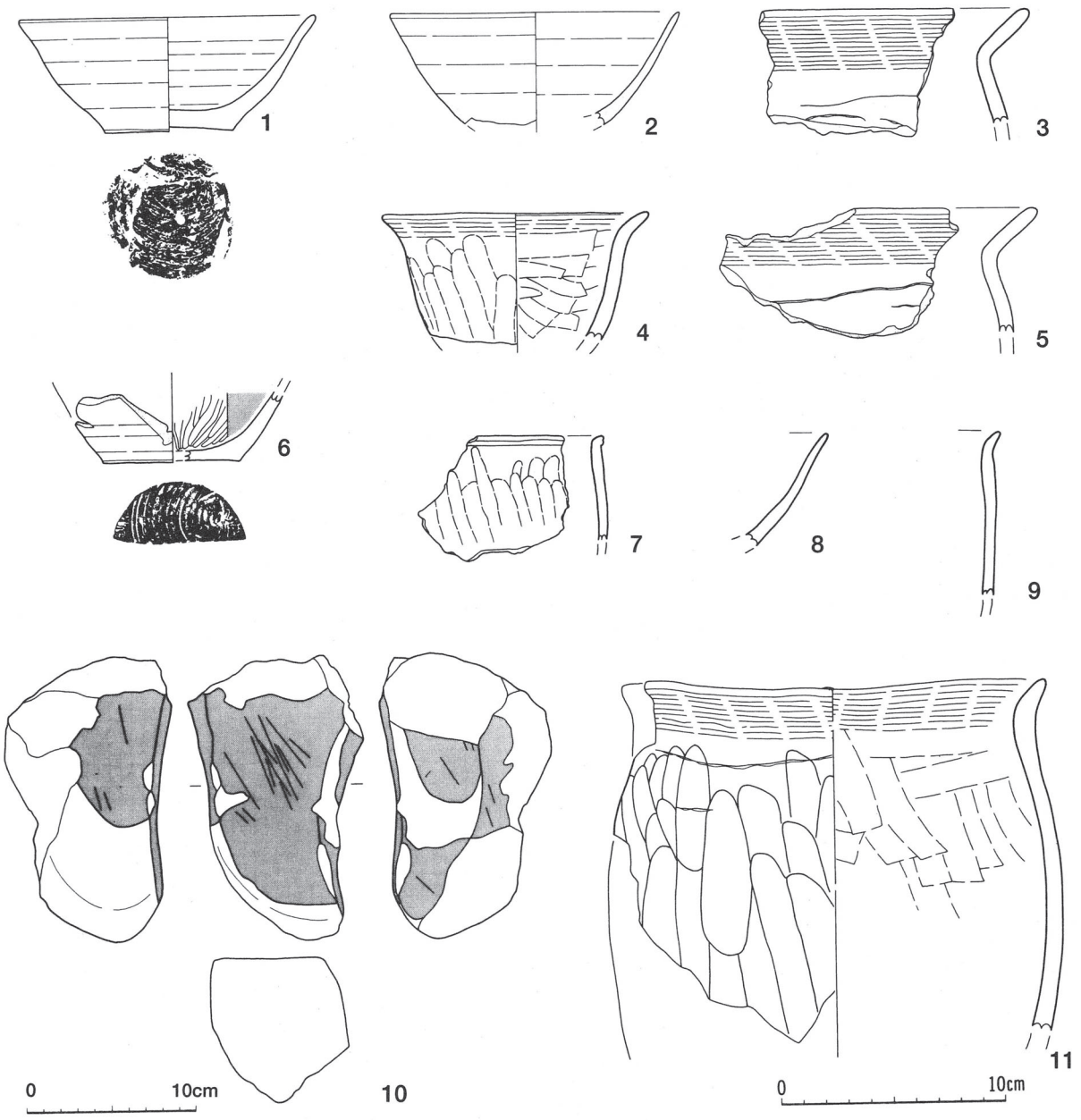
Pit 3

第１層　極暗褐色土　7.5YR2/3　炭化物・焼土粒少量　ローム粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　粘土粒混入
第３層　にぶい黄橙色土　10YR7/3　焼土粒多量　粘土粒・炭化物微量
第４層　褐色土　7.5YR4/4

Pit 4

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム少量

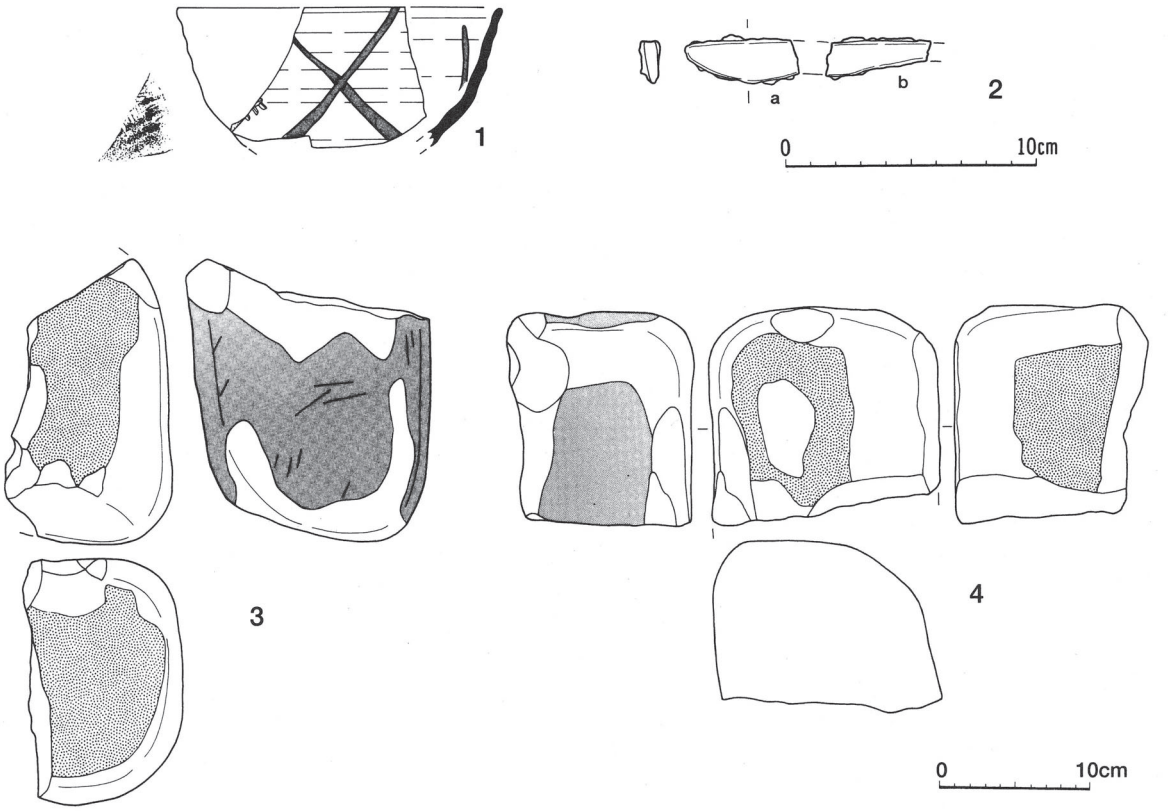
図279　第395号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	Pit7フク土	—	(5.1)	(5.8)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	
2	土師器	坏	Pit 7 フク土	(13.0)	(5.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
3	土師器	甕	フク土	(19.0)	(5.7)	—	ヨコナデ	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面輪積痕
4	土師器	鉢	フク土	(12.0)	(5.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
5	土師器	甕	フク土	(20.0)	(5.7)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	輪積痕
6	土師器	坏	フク土	—	(3.0)	(6.2)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理
7	土師器	甕	フク土	(10.0)	(5.6)	—	ナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
8	土師器	坏	Pit 3 フク土	(12.0)	(5.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
9	土師器	甕	フク土	(14.0)	(7.4)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
11	土師器	甕	Pit 1 フク土	19.0	(16.3)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	輪積痕

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	石質	分類	備考
10	Pit7フク土	16.3	9.9	8.6	1,585	流	砥石	

図280　第395号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	須恵器	坏	フク土	(13.0)	(5.7)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外面 刻書 内外面 火だすき痕

図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
2-a	フク土	4.6	2.0	0.9	11.1	刀子	2-b
2-b	フク土	4.2	1.5	0.8	4.8	刀子	2-a

図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
3	フク土	19.0	11.3	16.7	4,680	安	台石・砥石	黒褐色物質付着
4	フク土	14.0	15.1	10.8	4,700	石安	台石・砥石	被熱黒褐色物質付着

図281　第395号竪穴住居跡出土遺物（２）

第396号（Ａ）竪穴住居跡（図282～図287）

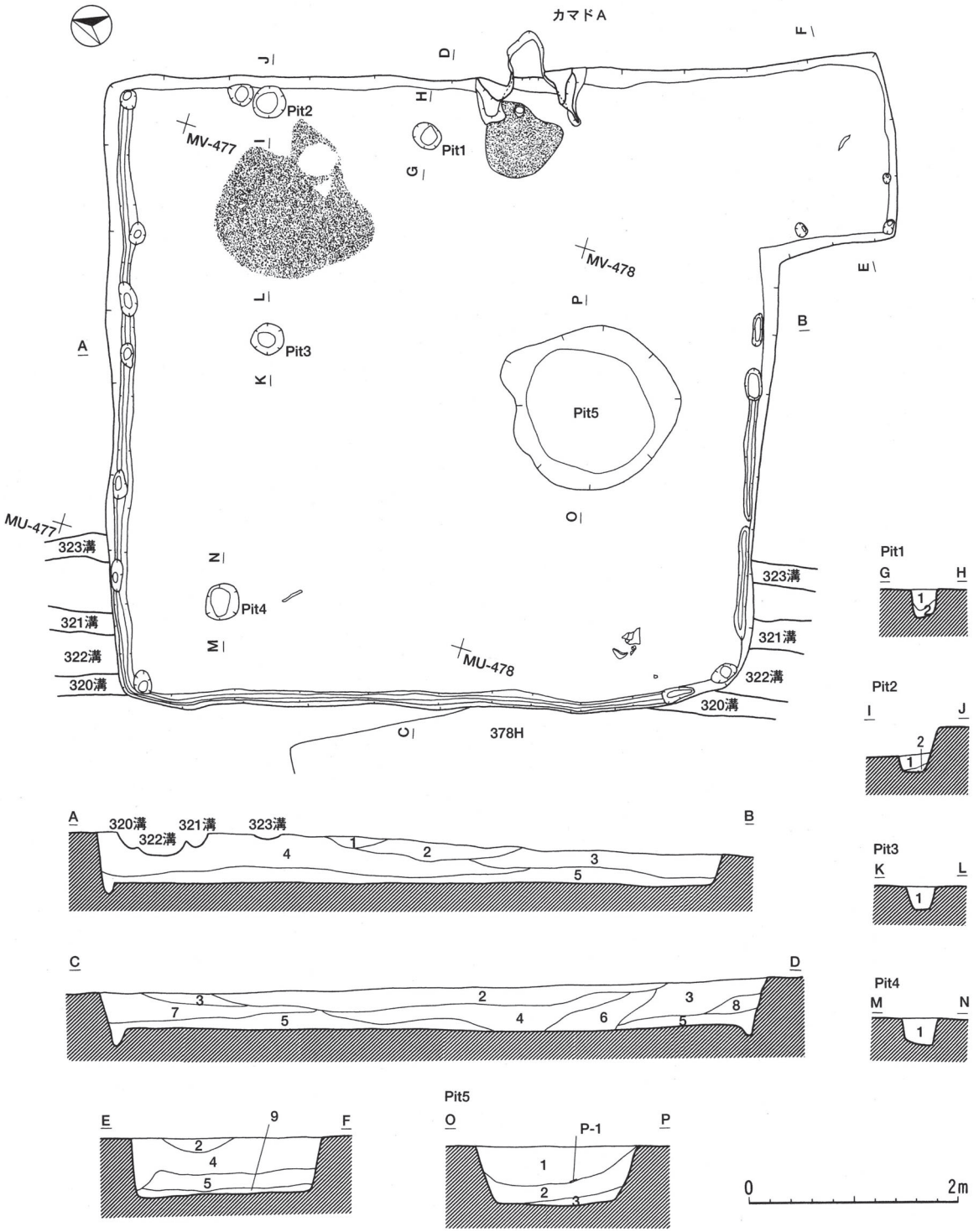
［位　置］　ＭＴ～ＭＶ－476～478グリッドに位置する。

［重　複］　第320号・第321号・第322号・第323号溝、第378号住居跡と重複し、本住居跡は第320号・第321号・第322号・第323号溝より古く、第378号住居跡より新しい。また本住居跡は、第396号（Ｂ）住居跡を拡張したものと考える。

［平面形・規模］　東壁７ｍ45cm、西壁５ｍ96cm、南壁５ｍ96cm、北壁５ｍ95cmで、南東隅に張り出しをもつ方形である。床面積は37.99㎡で、主軸方位はＮ－71°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁18～30cm、西壁38cm、南壁41cm、北壁33cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅７～15cm、深さ２～19cmの周溝が北壁、西壁、南壁の一部に断片的に検出された。



第396号（A）住居跡

第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・ローム粒・焼土粒極微量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量　焼土粒・炭化物極微量
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物・焼土粒微量　軽石微量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量
第5層	黒色土	10YR1.7/1	炭化物層　焼土粒・ローム粒微量
第6層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒・炭化物極微量
第7層	褐色土	10YR4/6	炭化物・ローム粒・焼土粒微量
第8層	黒色土	10YR2/1	L.B.混入
第9層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒中量

図282　第396号(A)竪穴住居跡（1）

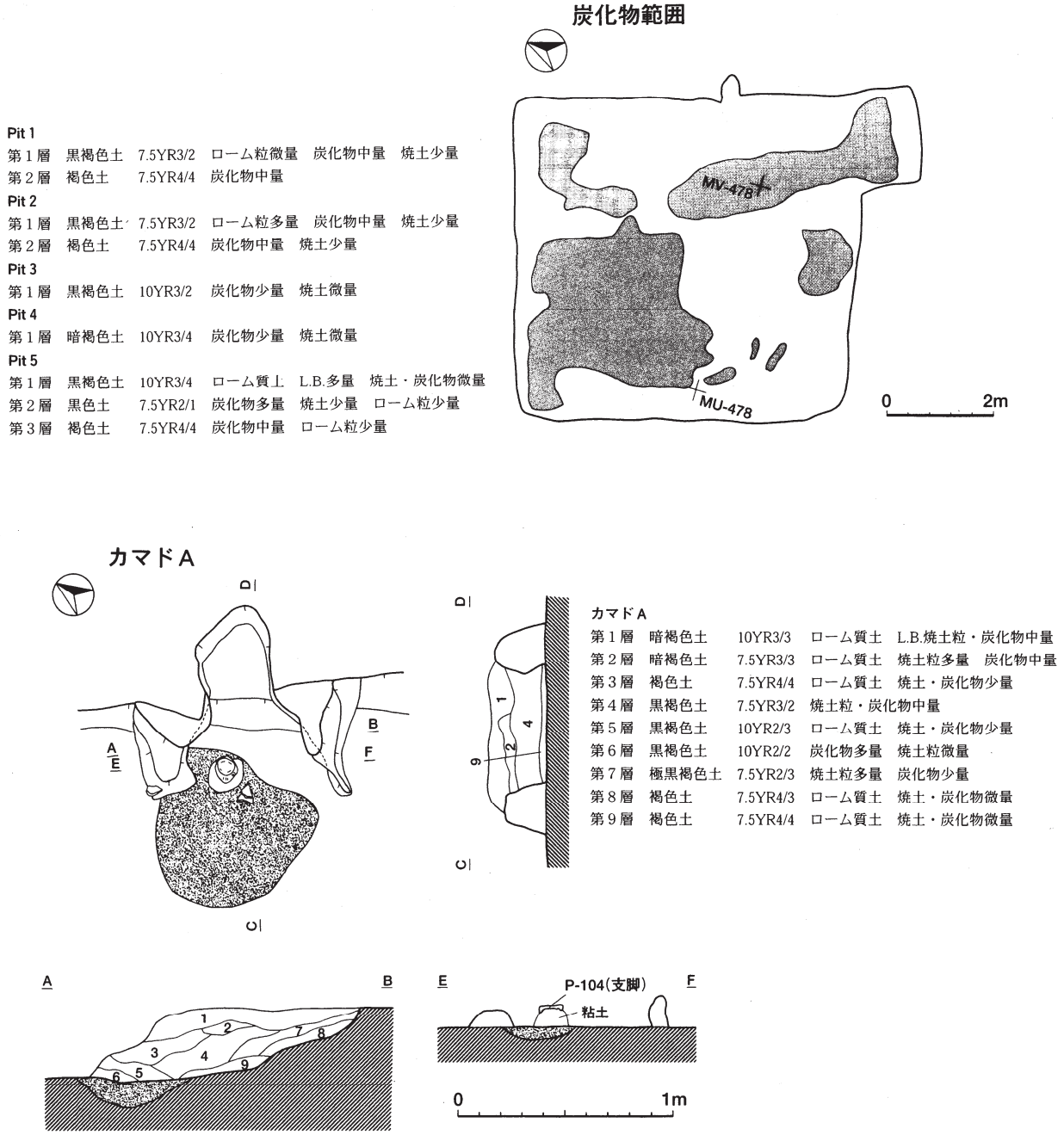


図283　第396号(A)竪穴住居跡（２）

［ピット］　検出されたピットは18個である。柱穴は、ピット２（39cm）、ピット３（36cm）、ピット４（41cm）と考える。

［カマド］　東壁南側に構築されている。火床面の上に高さ８cm、幅15cmの粘土を盛り、その上に土師器底部を伏せた状態で乗せ、支脚としていた。煙道は半地下式で、住居跡外に40cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［その他の施設］　南東隅に南壁177cm、西壁114cm、東壁126cmの張り出しを検出した。また、張り出しの西壁に、径12cmのピット18と径14cmのピット19、南壁に、径10cmのピット17を検出し、張り出し部分の柱穴と考える。南壁中央から北側に、長軸176cm、短軸156cm、深さ58cmのピット５を検出し

た。

［堆積土］　堆積土は９層に分層され、５層は炭化物層である。床面のほぼ全面から炭化材が検出されたことから、焼失家屋と考える。

［出土遺物］　覆土から、土師器の甕、坏、埚や須恵器の甕、壺、が出土している。また、床面及び床直から土師器の埚や砥石、刀子が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第396号（Ｂ）竪穴住居跡（図282～図287）

［位　置］　ＭＴ～ＭＶ－476～478グリッドに位置する。

［重　複］　第396号（Ａ）住居跡は本住居跡を拡張したものと考える。

［平面形・規模］　西壁５ｍ55cm、南壁５ｍ20cm、北壁５ｍ57cm、東壁は、一部のみを検出し、その残存部分は3mで、方形と推定する。床面積は29.54㎡で、主軸方位はＮ－71°－Ｅである。

［壁・床面］　残存する壁高東壁12cm、西壁14cm、南壁16cm、北壁12cmで、床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅９～28cm、深さ１～11cmの周溝が西壁・南壁・北壁の一部に検出された。

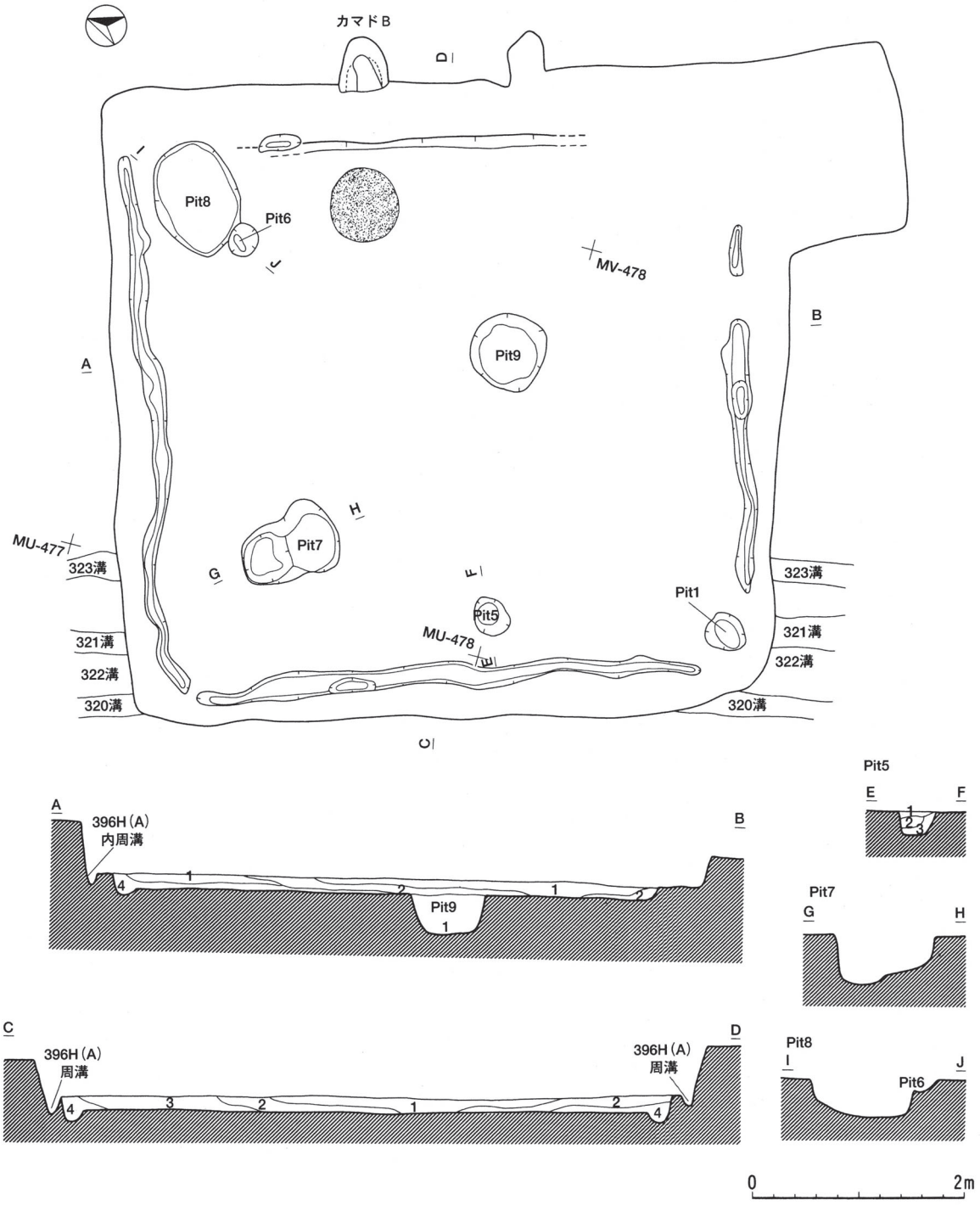
［ピット］　検出されたピットは９個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　東壁北側に構築されている。火床面と煙道のみが残存する。煙道は半地下式で、住居跡外に45cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。焚き口から礫、土師器が出土している。

［堆積土］　堆積土は４層に分層され、２層に炭化物が多量に混入している。

［時　期］　重複関係から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第396号（B）住居跡

第１層　褐色土　7.5YR4/4　ローム粒極微量
第２層　黒褐色土　7.5YR3/2　焼土粒中量　炭化物多量　ローム粒少量
第３層　褐色土　7.5YR4/4　ローム粒極微量
第４層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物中量　焼土粒極微量

Pit 9

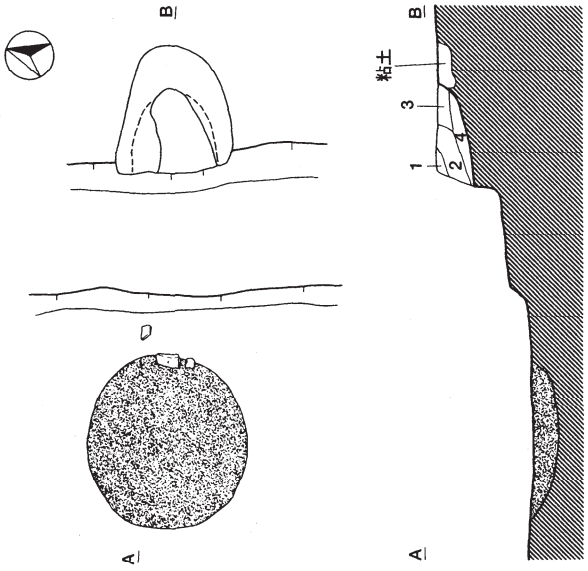
第１層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物少量

Pit 5

第１層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物中量　焼土粒微量
第２層　褐色土　7.5YR4/3　炭化物中量　焼土粒極微量
第３層　褐色土　7.5YR4/3　炭化物微量　焼土粒極微量

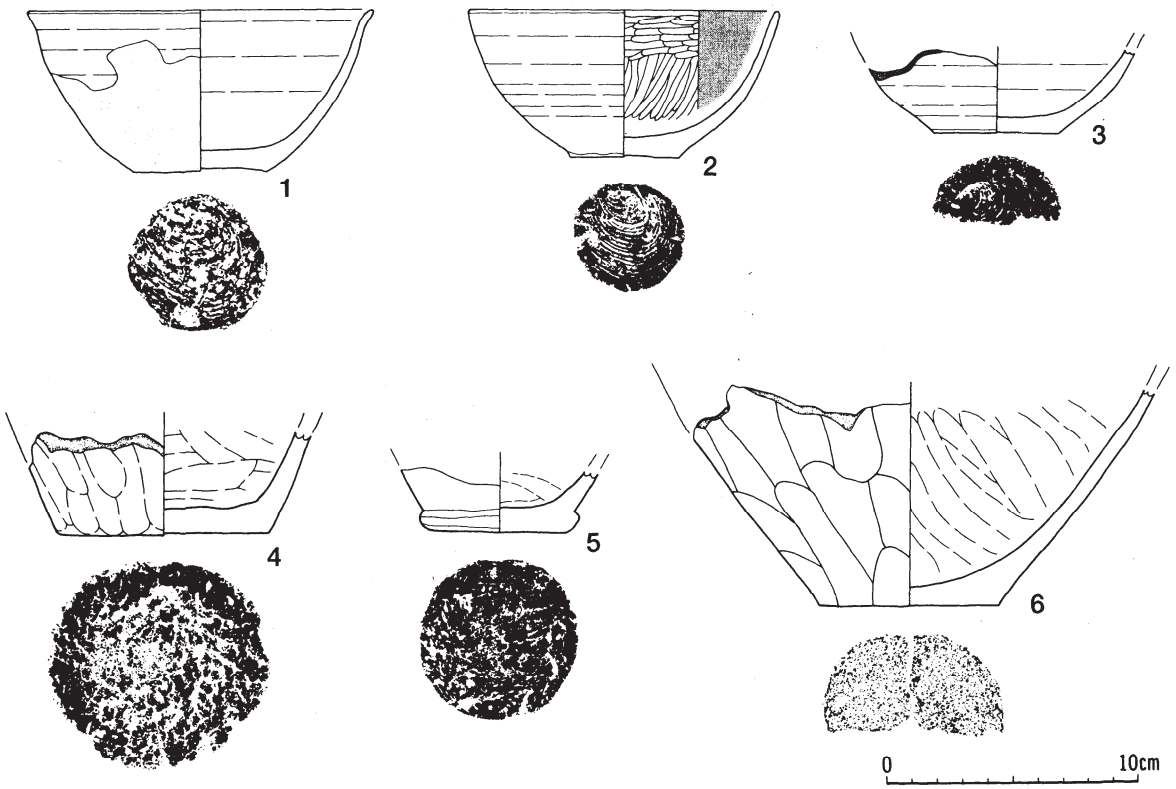
図284　第396号(B)竪穴住居跡（１）

カマドB



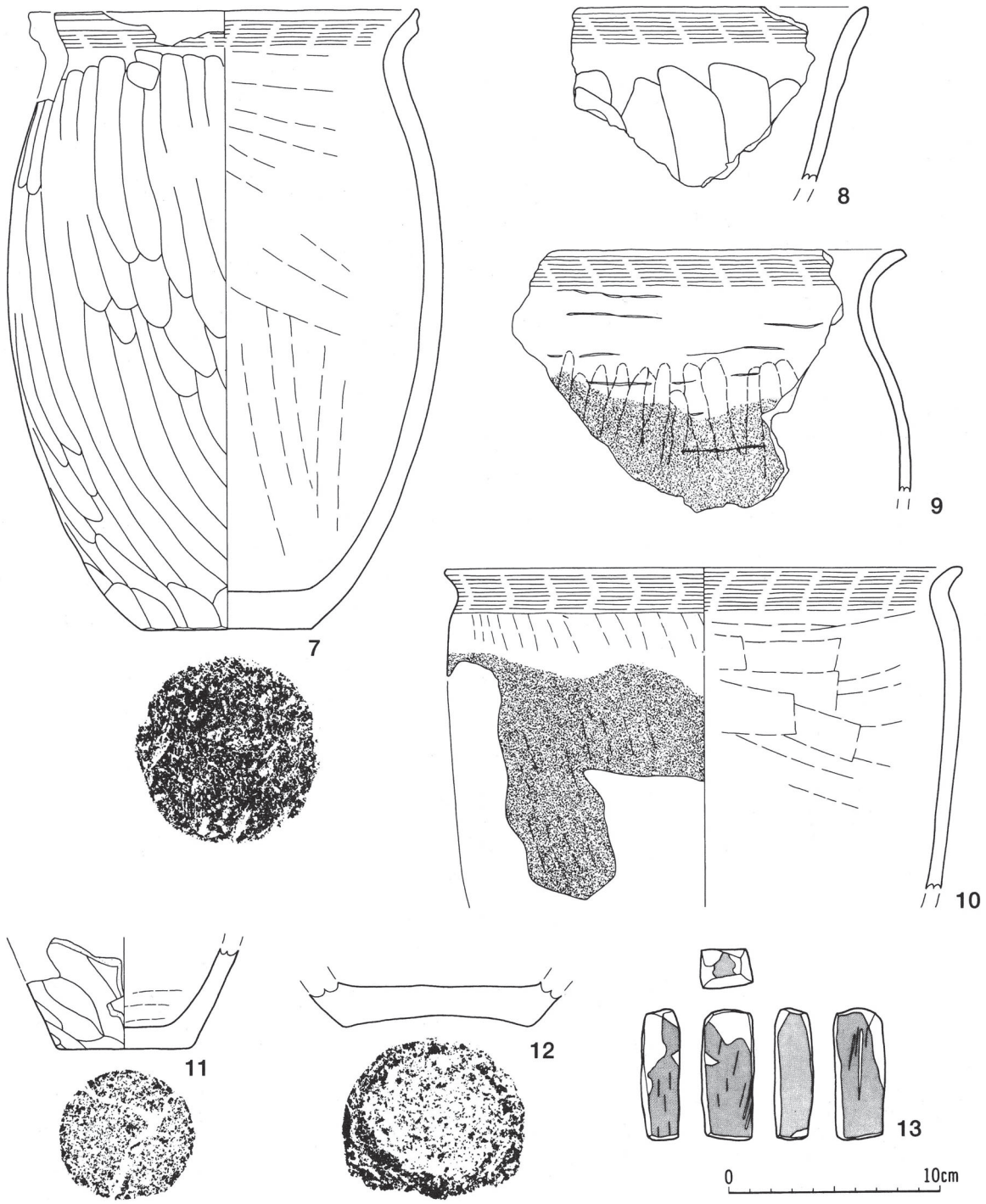
カマドB
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物・焼土粒混入
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・炭化物・焼土粒混入
第３層　暗褐色土　10YR3/3　明黄褐色土（10YR6/6）混入　炭化物・焼土粒
第４層　黒褐色土　10YR3/2　黄褐色土（10YR5/6）混入　炭化物・焼土粒混入

0　1m



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	カマド フク土	14.0	6.5	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡ	P-101、火熱による剥落
2	土師器	坏	フク土	12.6	5.9	4.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	糸切り	BⅠb	内面黒色処理
3	土師器	坏	フク土	—	(3.5)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り →ヘラナデ	BⅡ	
4	土師器	甕	カマド フク土	—	(4.1)	8.6	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-104
5	土師器	甕	フク土	—	(2.6)	5.2	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
6	土師器	甕	フク土	—	(8.8)	(7.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-5

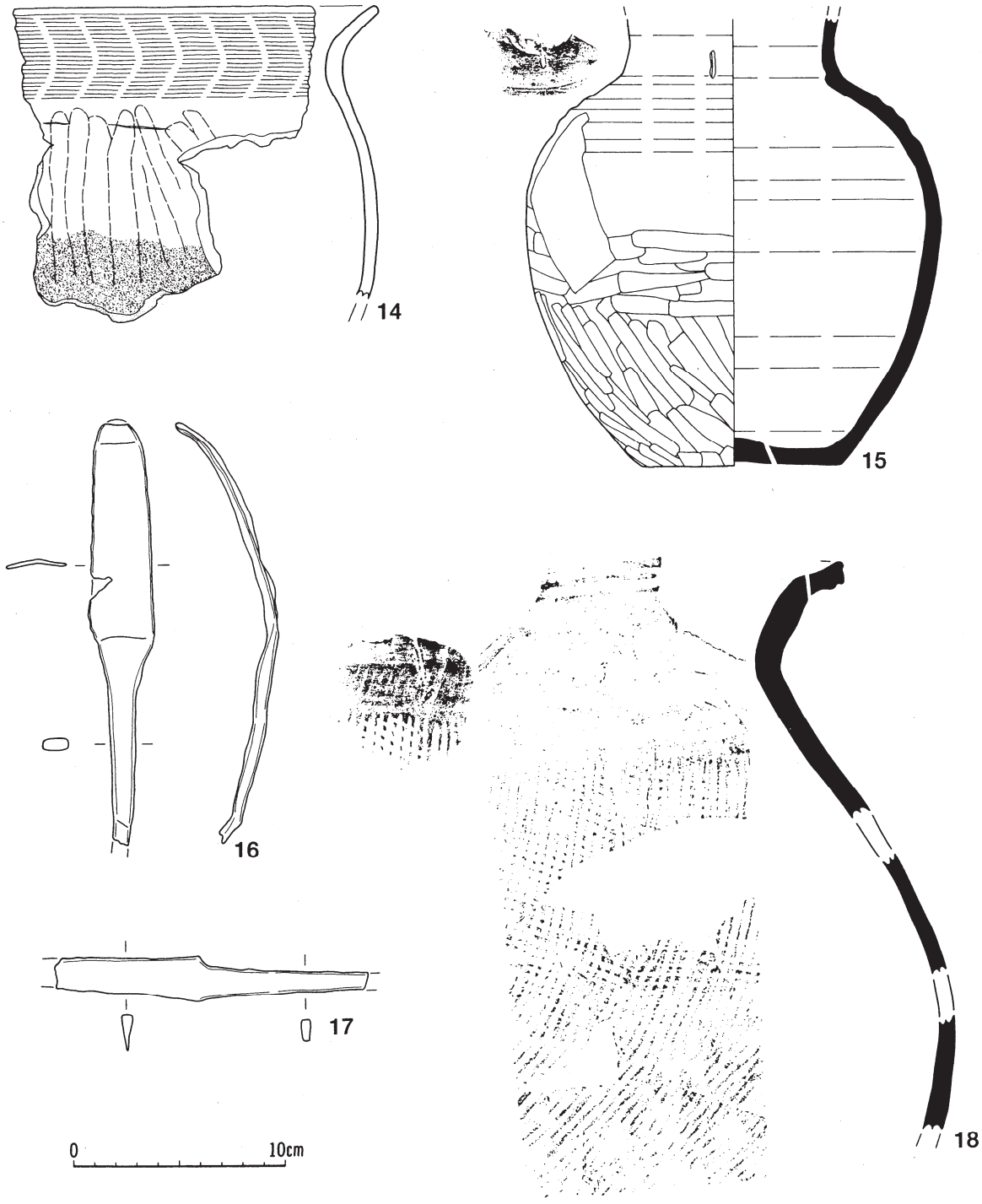
図285　第396号(B)竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
7	土師器	塝	底面	18.6	29.3	8.0	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A I e	P-2 P-3
8	土師器	塝	フク土	(30.0)	(8.5)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	
9	土師器	甕	フク土	(22.4)	(11.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 外面粘度付着
10	土師器	甕	カマド フク土	(24.4)	(15.6)	—	ヨコナデ	ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着
11	土師器	甕	フク土	—	(5.3)	6.6	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ?	砂底	A	
12	土師器	甕	カマド フク土	—	—	(9.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底 →ナデツケ	A	P-105

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
13	床直	6.1	2.4	1.8	40	流	砥石	被熱炭化物付着

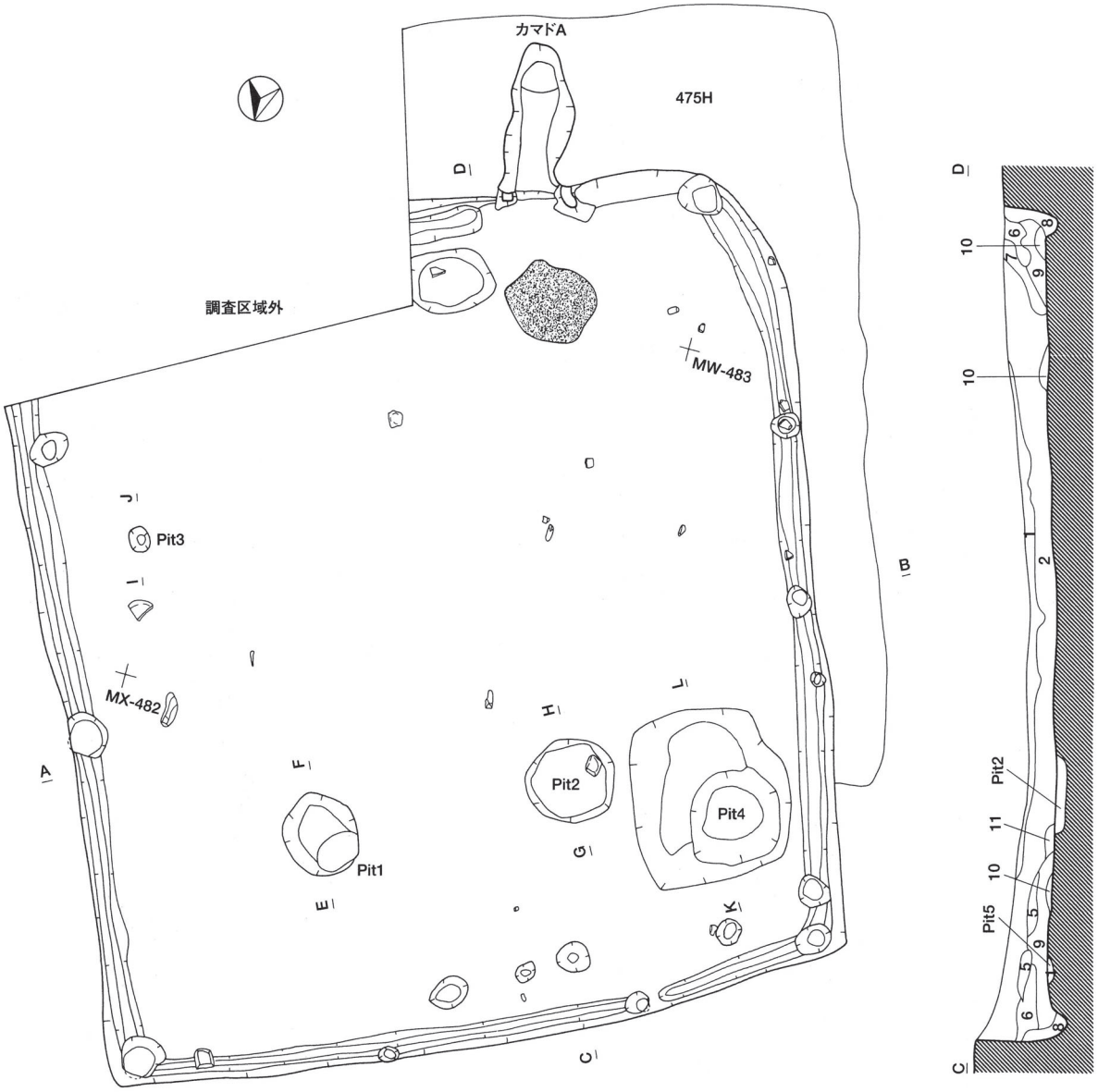
図286　第396号竪穴住居跡・出土遺物（2）

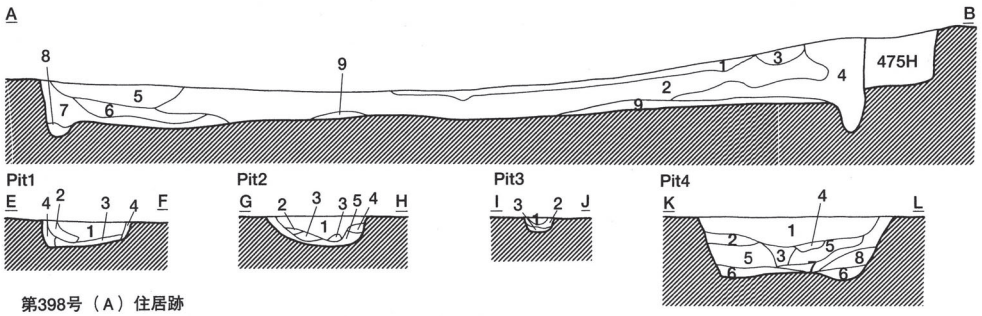


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
14	土師器	甕	フク土	(24.0)	(14.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕、粘度付着 P-103
15	須恵器	壺	フク土	—	(21.2)	(9.5)	—	ロクロ	縦ケズリ→横ケズリ	—	ロクロ	ロクロ	切離し後ヘラケズリ	—	外面刻書
18	須恵器	甕	フク土	—	(26.6)	—	ロクロ	平行タタキ目	—	ロクロ	あて具痕	—	—	—	外面刻書

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
16	フク土	20.2	2.9	0.2	30.1	鉋	Fe-1
17	床直	14.9	1.7	0.5	39.3	刀子	Fe-1

図287　第396号竪穴住居跡・出土遺物（3）



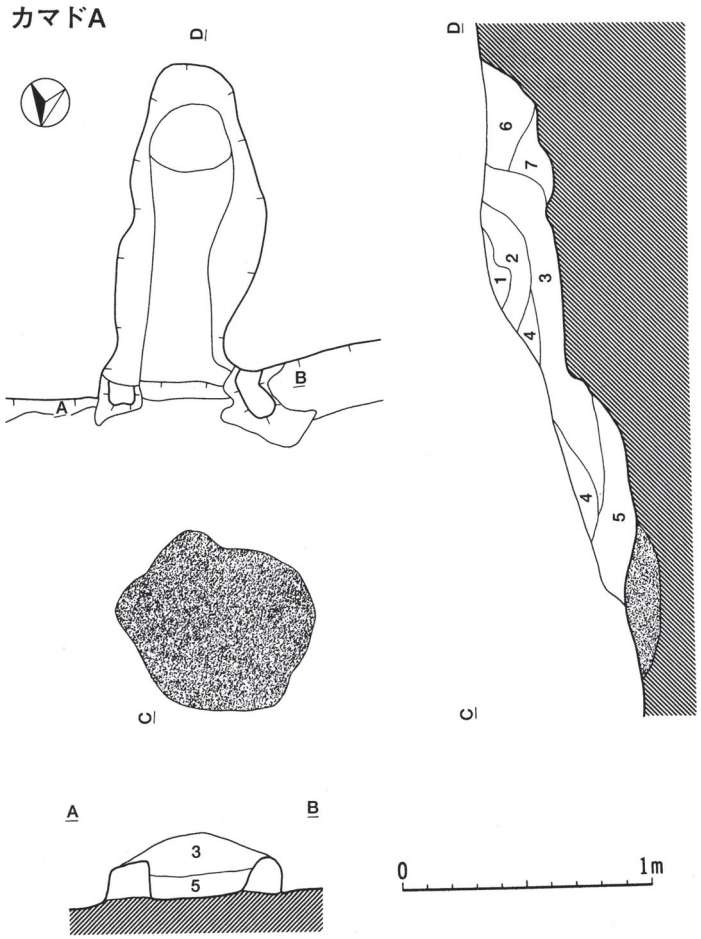


第398号（A）住居跡

第１層	黒色土	10YR1.7/1	焼土粒・ローム粒微量
第２層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土粒・ローム粒少量
第３層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土粒・炭化物・ローム粒微量
第４層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒微量
第５層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒少量
第６層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒微量
第７層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒少量　ローム粒微量
第８層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒微量　炭化物・ローム粒少量
第９層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒・炭化物・ローム粒微量
第10層	明褐色土	10YR6/6	焼土・炭化物微量
第11層	黒褐色土	10YR3/1	焼土・炭化物・ローム粒微量

0　2m

図288　第398号(A)竪穴住居跡（１）



カマドA

第１層	明赤褐色土	5YR5/8	焼土
第２層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物微量　焼土少量
第３層	褐色土	10YR4/4	焼土・炭化物・ローム粒微量
第４層	暗褐色土	10YR3/2	焼土・炭化物微量
第５層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土・L.B.微量
第６層	黒褐色土	10YR2/3	焼土・炭化物微量
第７層	黒褐色土	10YR2/2	焼土・炭化物微量

第398号（Ａ）住居跡

Pit 1

第１層	黒褐色土	10YR2/3	黄褐色土（10YR5/8）混入　焼土粒多量　炭化物少量
第２層	黄褐色土	10YR5/8	暗褐色土（10YR3/4）混入　炭化物・焼土粒極微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	明褐色土（7.5YR5/8）混入　炭化物微量
第４層	褐色土	10YR4/6	

Pit 2

第１層	明褐色土	7.5YR5/6	明赤褐色土（5YR3/6）混入
第２層	暗赤褐色土	5YR3/6	明褐色土（7.5YR5/6）混入
第３層	赤褐色土	5YR4/8	焼土層
第４層	にぶい赤褐色土	5YR4/4	焼土粒少量
第５層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量

Pit 3

第１層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土（10YR3/4）混入　ローム粒少量　炭化物微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第３層	褐色土	7.5YR4/6	焼土粒微量

Pit 4

第１層	にぶい黄褐色土	10YR5/8	L.B.・焼土粒微量　炭化物微量
第２層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土（10YR3/3）混入　炭化物少量　焼土粒微量
第３層	黄褐色土	10YR5/6	焼土粒中量　炭化物微量
第４層	褐色土	10YR4/4	にぶい黄褐色土（10YR5/8）混入　L.B.・焼土粒少量　炭化物極微量
第５層	褐色土	10YR4/6	にぶい黄褐色土（10YR5/8）混入　L.B.少量　焼土粒微量　炭化物極微量
第６層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物中量　L.B.・ローム粒・　焼土粒少量
第７層	褐色土	10YR4/6	L.B.中量　焼土粒微量　炭化物極微量
第８層	褐色土	10YR4/4	黒褐色土（10YR2/3）混入　L.B.少量　炭化物・焼土粒微量

Pit 5

第１層	褐色土	10YR4/4	焼土粒少量　炭化物微量

図289　第398号(A)竪穴住居跡（２）

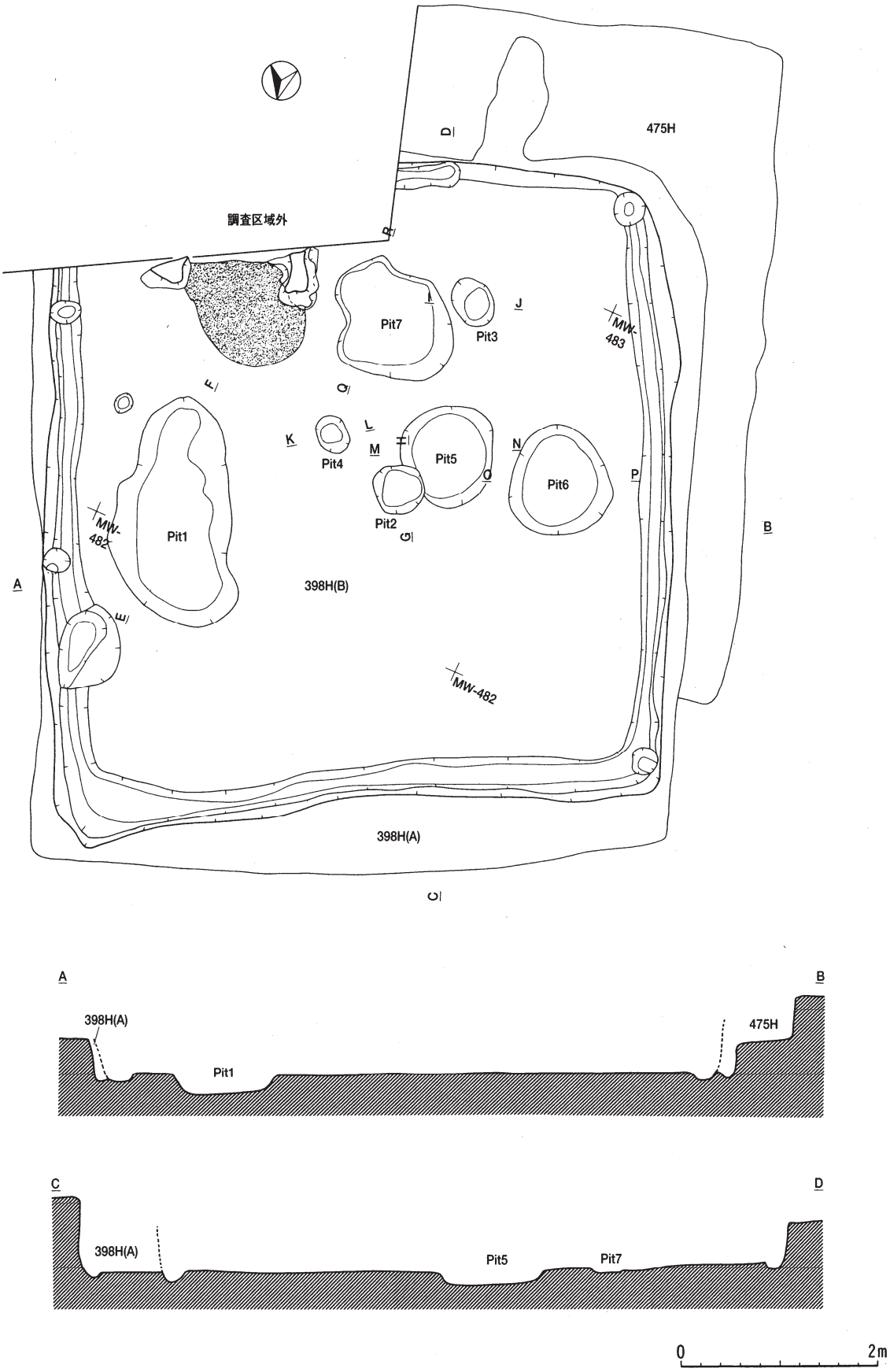
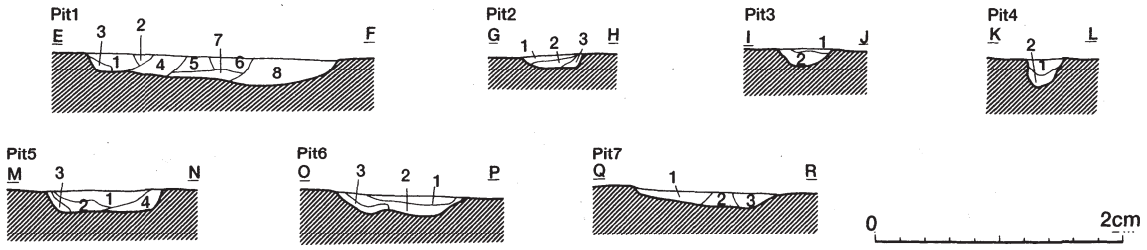


図290　第398号(B)竪穴住居跡（１）



第398号（B）住居跡

Pit 1

第1層	にぶい黄褐色土	10YR5/8	L.B.・焼土少量　炭化物微量
第2層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土（10YR4/4）混入 炭化物少量　焼土微量
第3層	黄褐色土	10YR5/6	焼土中量　炭化物微量
第4層	褐色土	10R4/4	焼土中量　炭化物極微量　L.B.少量
第5層	褐色土	10YR4/6	焼土微量　炭化物極微量　L.B.少量
第6層	暗褐色土	10YR3/4	焼土・ローム粒・L.B.少量 炭化物中量
第7層	褐色土	10YR7/6	L.B.中量　炭化物極微量　焼土微量
第8層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土微量 黒褐色土・L.B.少量

Pit 2

第1層	明褐色土	7.5YR5/6	暗赤褐色土（5YR3/6）中量
第2層	明赤褐色土	5YR3/6	明褐色土（7.5YR5/6）少量
第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量　焼土少量

Pit 3

第1層	黄褐色土	10YR5/6	炭化物極微量　にぶい黄褐色土 （10YR7/3）混入
第2層	褐色土	10YR4/4	

Pit 4

第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土少量
第2層	褐色土	10YR4/6	

Pit 5

第1層	褐色土	10YR4/6	炭化物・焼土少量
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物・焼土粒少量
第3層	明褐色土	7.5YR5/6	
第4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物少量　焼土微量

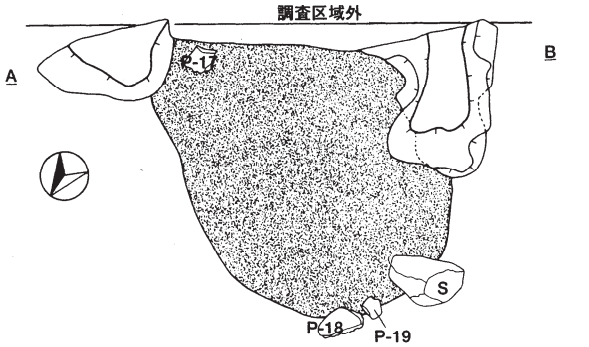
Pit 6

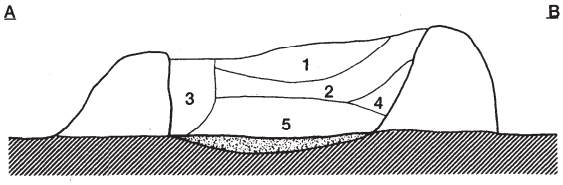
第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量　L.B.少量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒少量
第3層	褐色土	7.5YR4/	焼土微量

Pit 7

第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物少量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土少量
第3層	褐色土	10YR4/6	焼土微量

カマドB





カマドB

第1層	明赤褐色土	5YR5/8	焼土
第2層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物微量　焼土少量
第3層	褐色土	10YR4/4	焼土・炭化物・ローム粒微量
第4層	暗褐色土	10YR3/2	焼土・炭化物微量
第5層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土・L.B.微量

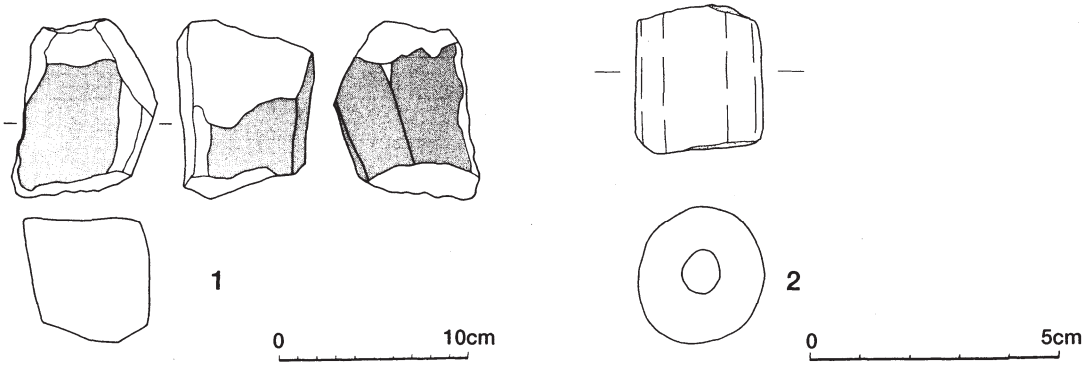
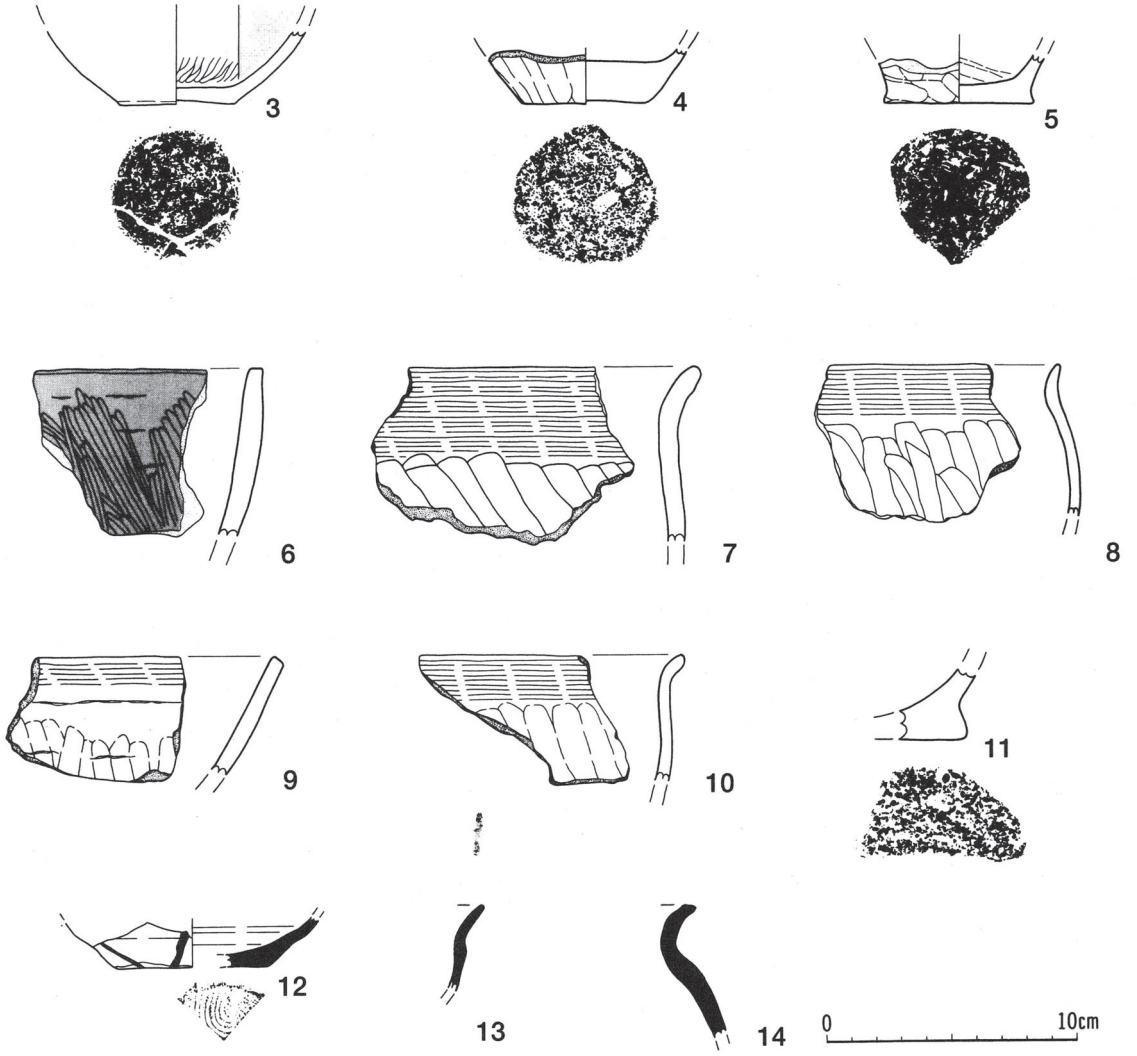


図291　第398号(B)竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
3	土師器	坏	床面	—	(3.1)	4.4	—	—	不明	—	—	ヘラミガキ	糸切り	BⅠ	P-2 内面黒色処理、外面磨滅
4	土師器	甕	床面	—	(2.2)	(5.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
5	土師器	甕	フク土	—	(2.0)	(6.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
6	土師器	堝?	フク土	(32.0)	(6.7)	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	内外面黒色処理 外面輪積痕
7	土師器	甕	5層	(20.0)	(6.9)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-6
8	土師器	甕	フク土	(15.0)	(5.9)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	不明	ヘラナデ	—	—	A	
9	土師器	堝?	床下Pit2 フク土	(22.0)	(5.4)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面輪積痕
10	土師器	甕	床下Pit3 フク土	(20.0)	(5.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
11	土師器	甕	フク土	—	(2.8)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	不明	砂底	A	
12	須恵器	坏	床直	—	(1.9)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	外面火だすき痕 P-10
13	須恵器	坏	フク土	—	(3.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
14	須恵器	甕	フク土	—	(5.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
1	床面直上	9.1	6.9	6.4	532	安	砥石	S-10

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	特徴	備考
2	2層	(2.8)	2.7	2.8	19.2	縦にせん孔	

図292　第398号竪穴住居跡出土遺物（2）

第398号（A）竪穴住居跡（図288～図293）

［位　置］　MV～MX－481～483グリッドに位置する。

［重　複］　第475号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。また本住居跡は第398号（B）住居跡を拡張したものである。

［平面形・規模］　東壁6m、西壁6m85cm、南壁2m70cm、北壁6m50cmである。南東側が調査区外にかかっているが、平面形は方形と推定される。床面積は42.49㎡で、主軸方位はN－162°－Eである。

［壁・床面］　壁高は、東壁40cm、西壁32cm、南壁38cm、北壁33cmである。床面は中央部分がややくぼむ。

［周　溝］　幅11～27cm、深さ3～12cmの周溝がほぼ一巡すると推定される。

［ピット］　検出されたピットは20個である。柱穴は、ピット10（27cm）、ピット11（32cm）、ピット14（29cm）、ピット18（28cm）と考える。

［カマド］　南壁西側に構築されている。煙道は半地下式で、住居跡外に132cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［その他の施設］北壁東側から南寄りに、長軸72cm、短軸62cm、深さ20cmのピット1、北壁西側から南寄りに、径78cm、深さ24cmのピット2、北西隅付近に、長軸150cm、短軸136cm、深さ44cmのピット4、南壁西側に、径54cmのピット7を検出した。

［堆積土］　堆積土は11層に分層される。

［出土遺物］　床面及び床面直上から、土師器の甕、坏や須恵器の坏が出土している。また、覆土から土師器の甕、埚や須恵器の小型甕、坏などが出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第398号（B）竪穴住居跡（図288～図293）

［位　置］　MB・MC－294・295グリッドに位置する。

［重　複］　第398号（A）住居跡は本住居跡を拡張したものである。

［平面形・規模］　東壁5m90cm、西壁6m20cm、南壁2m70cm、北壁6m13cmで、方形と推定される。床面積は36.12㎡で、主軸方位はN－151°－Eである。

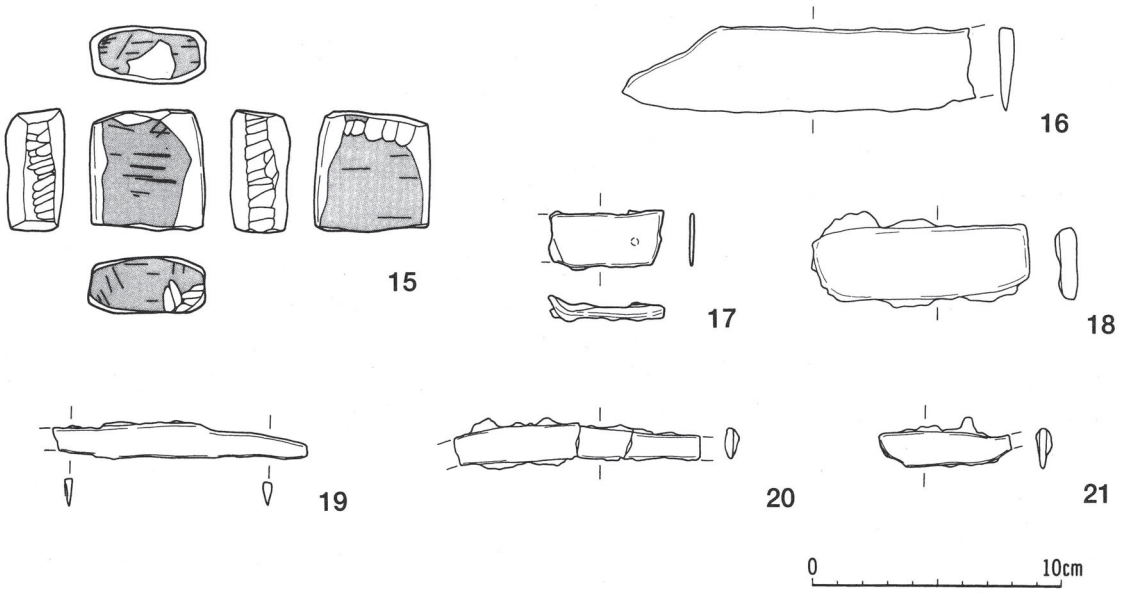
［壁・床面］　拡張のため、壁は残存しない。

［周　溝］　幅15～44cm、深さ2～16cmの周溝がほぼ一巡すると推定される。

［ピット］　検出されたピットは13個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁東側に構築されているが、調査区外にかかり煙道は未調査のため、不明である。焚き口から礫が出土していることから、礫を芯材として転用し本体を構築していたと推定する。

［その他の施設］　東壁中央に、長軸232cm、短軸126cm、深さ22cmのピット1、中央から西寄りに、長軸104cm、短軸94cm、深さ16cmのピット5、西壁中央に、径110cm、深さ16cmのピット6、南壁西側から北寄りに、長軸126cm、短軸108cm、深さ12cmのピット7を検出した。



図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
15	フク土	4.8	4.6	2.3	76	流	砥石	炭化物付着

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
16	フク土	13.9	3.3	0.6	89.2	刀	Fe-1
17	フク土	4.7	2.4	0.2	6.9	お引金	
18	床直	8.6	2.9	1.0	80.4	板状	Fe-2
19	フク土	10.2	1.1	0.3	12.7	刀子	
20	床直	9.8	1.2	0.6	15.5	刀子	Fe-1
21	フク土	5.2	1.6	0.6	6.9	刀子	

図293　第398号竪穴住居跡出土遺物（３）

［出土遺物］　床面直上から刀子、板状の鉄製品が出土しているほか、覆土からお引金、刀、刀子などが出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第399号竪穴住居跡（図225）

［位　置］　ＭＴ－477・478グリッドに位置する。

［重　複］　第378号・第396号・第400号住居跡と重複し、本住居跡は第378号・第396号住居跡より古く、第400号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　西側が調査区外にかかり、南側が第378号住居跡に、東側が第396号住居跡に切られている。残存する東壁４ｍ82cm、北壁２ｍ14cmである。

［壁・床面］　壁高は、北壁24cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　調査区外にかかり、未調査のため不明である。

［堆積土］　堆積土は５層に分層される。

［時　期］　時期は不明である。

（相馬良仁）

第400号竪穴住居跡（図226）

［位　置］　ＭＳ・ＭＴ－475～477グリッドに位置する。

［重　複］　第379号・第399号住居跡と重複し、本住居跡は第399号住居跡より古く、第379号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　東壁５ｍ52cm、西側が調査区外にかかり、調査可能な南壁２ｍ52cm、北壁１ｍ94cmで床面積12.02㎡である。平面形及び主軸方位は不明である。

［壁・床面］　壁高は、東壁32cm、南壁34cm、北壁40cmである。床面は平坦である。

［周　溝］　幅６～18cm、深さ２～７cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは２つである。

［カマド］　検出されなかった。

［堆積土］　堆積土は、９層に分層される。

［時　期］　時期は不明である。

（相馬良仁）

第401号竪穴住居跡（図294・図295）

［位　置］　ＮＪ・ＮＫ－447・448グリッドに位置する。

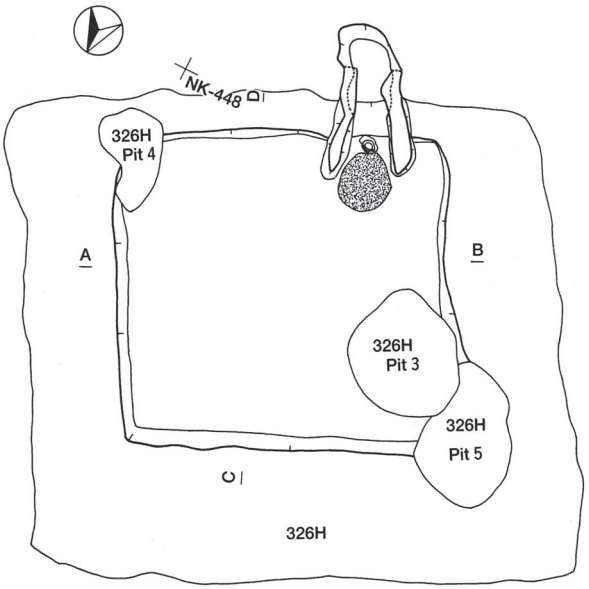
［重　複］　第326号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

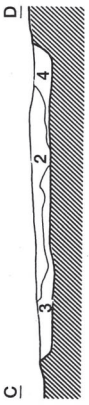
［平面形・規模］　第326号住居跡により削平され、東壁（２ｍ18cm）、西壁（２ｍ50cm）、南壁１ｍ46cm、北壁２ｍ２cmで、ほぼ方形である。床面積は㎡で、主軸方位はＮ－154°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁10cm、西壁16cm、南壁16cm、北壁10cmで緩やかに立ち上がる。床面は、やや起伏を持ち、北側がくぼむ。

［周　溝］　検出されなかった。

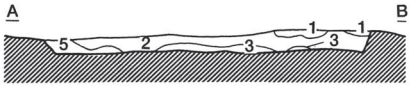
［ピット］　検出されなかった。

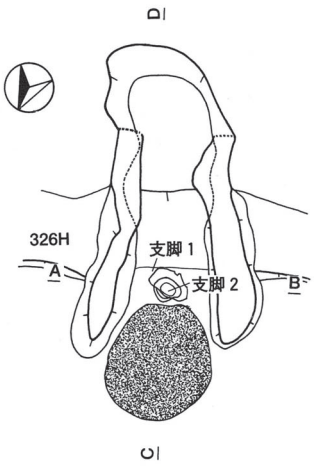


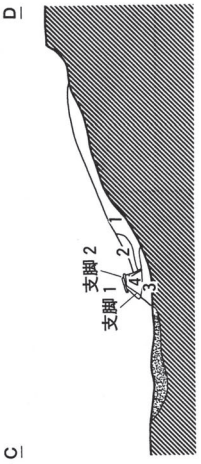


第401号住居跡

第１層　褐色土　10YR4/4　炭化物・焼土粒微量　ローム粒中量
第２層　黄褐色土　10YR5/6　ローム層
第３層　褐色土　10YR4/6　焼土粒少量　炭化物微量
第４層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量
第５層　褐色土　10YR4/6

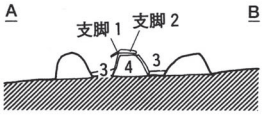


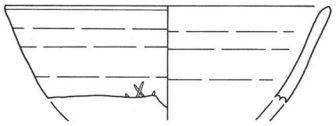




カマド

第１層　黄褐色土　10YR5/6　砂粒混入　炭化物・焼土粒微量
第２層　暗赤褐色土　5YR3/6　炭化物・焼土粒微量
第３層　褐色土　10YR4/6　焼土粒多量　灰微量
第４層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒中量　パミス少量　ローム粒微量





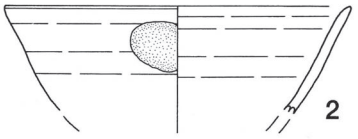
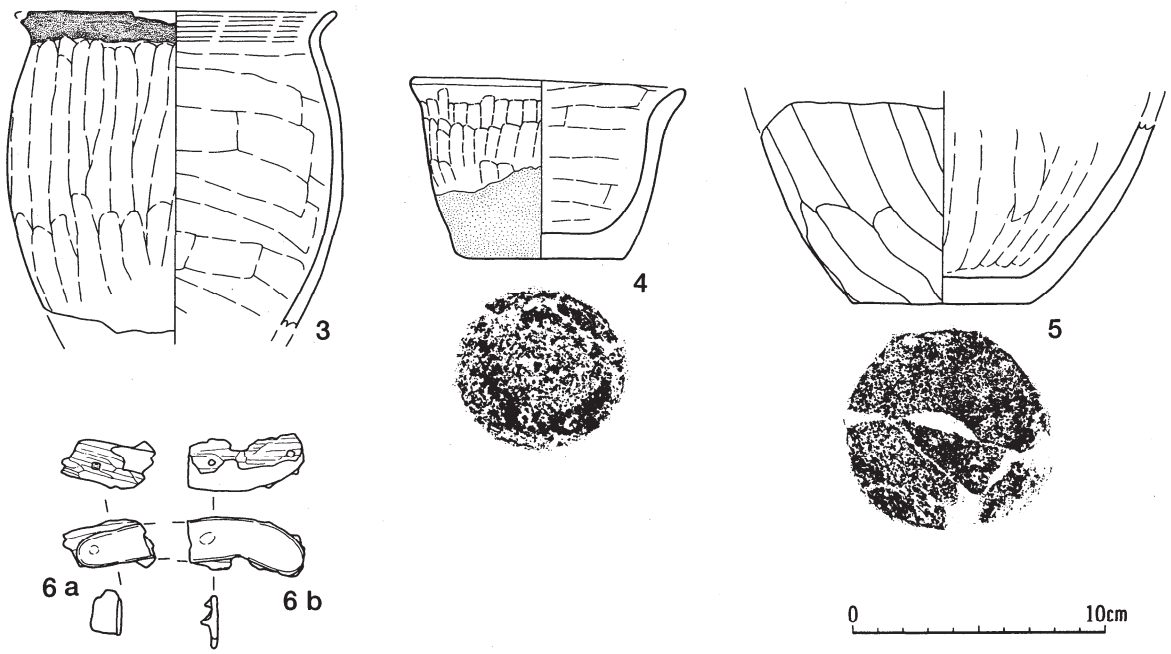


図294　第401号竪穴住居跡・出土遺物（１）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フク土	(13.0)	(4.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	刻書「父」
2	土師器	坏	フク土	14.0	(4.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-1
3	土師器	甕	Pit 3 床面	(13.0)	(13.6)	—	剥落	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅡ	P-5
4	土師器	鉢	カマド床面	10.8	7.2	6.4	ヘラナデ	ヘラナデ	不明	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A	外面剥落
5	土師器	甕	カマド床面	—	(8.0)	7.2	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底→ナデ?	A	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
6 a	フク土	3.6	1.8	1.2	4.9	芋引金	Fa-1　木質部残存
6 b	フク土	4.6	2.1	0.6	6.1	芋引金	Fa-1　木質部残存

図295　第401号竪穴住居跡出土遺物（2）

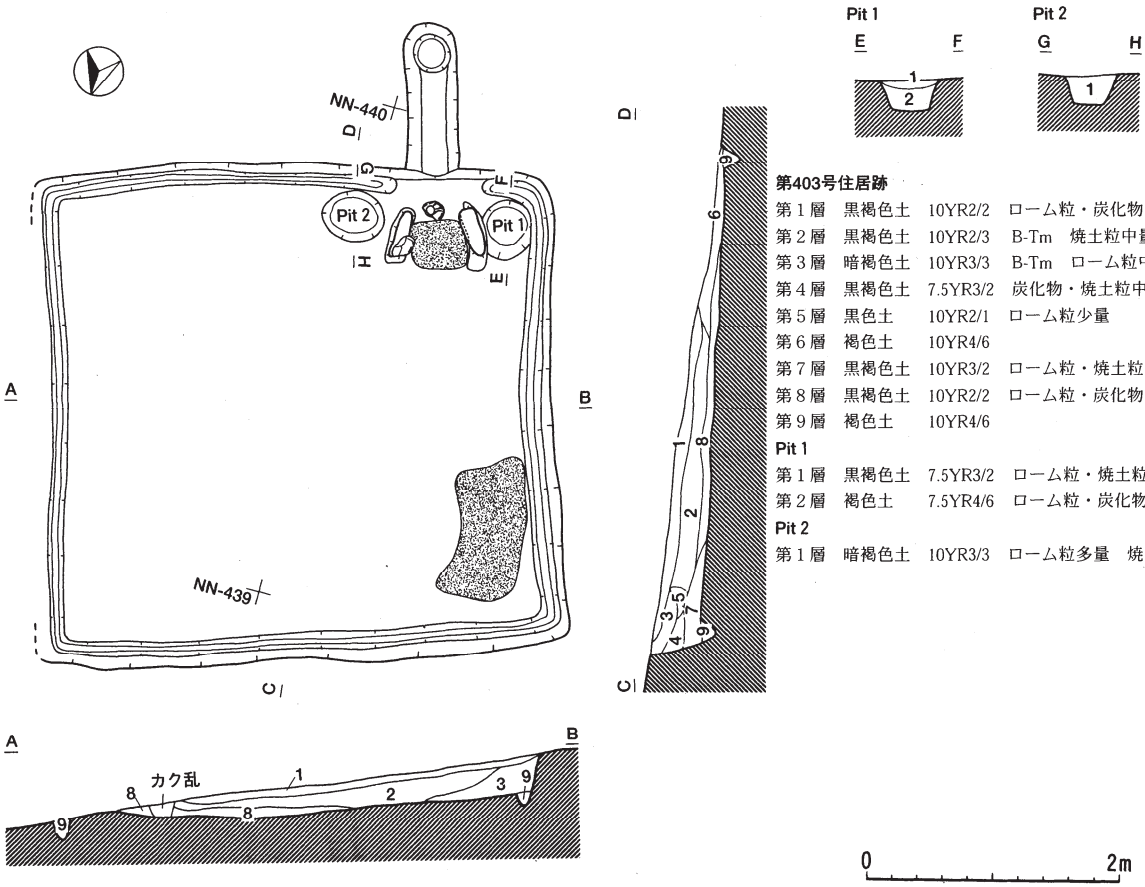
［カマド］　カマドは、南壁西側に構築されている。袖部は粘土で築き、芯材は使われていない。焚き口部には、土師器を伏せた状態で置いた上に土師器の底部を重ねて置き、支脚としていた。 煙道は半地下式で、住居跡外に58cmほど延びる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は５層に分層される。

［出土遺物］覆土から土師器の坏や甕が、カマド床面から刻書土器（図294－１）が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀中葉に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）



第403号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　B-Tm　焼土粒中量　ローム粒・炭化物少量
第３層　暗褐色土　10YR3/3　B-Tm　ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量
第４層　黒褐色土　7.5YR3/2　炭化物・焼土粒中量
第５層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量
第６層　褐色土　10YR4/6
第７層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・焼土粒中量　炭化物少量
第８層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物・焼土粒少量・To-a 微量
第９層　褐色土　10YR4/6

Pit 1

第１層　黒褐色土　7.5YR3/2　ローム粒・焼土粒中量　炭化物少量
第２層　褐色土　7.5YR4/6　ローム粒・炭化物・焼土粒少量

Pit 2

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量　焼土粒少量

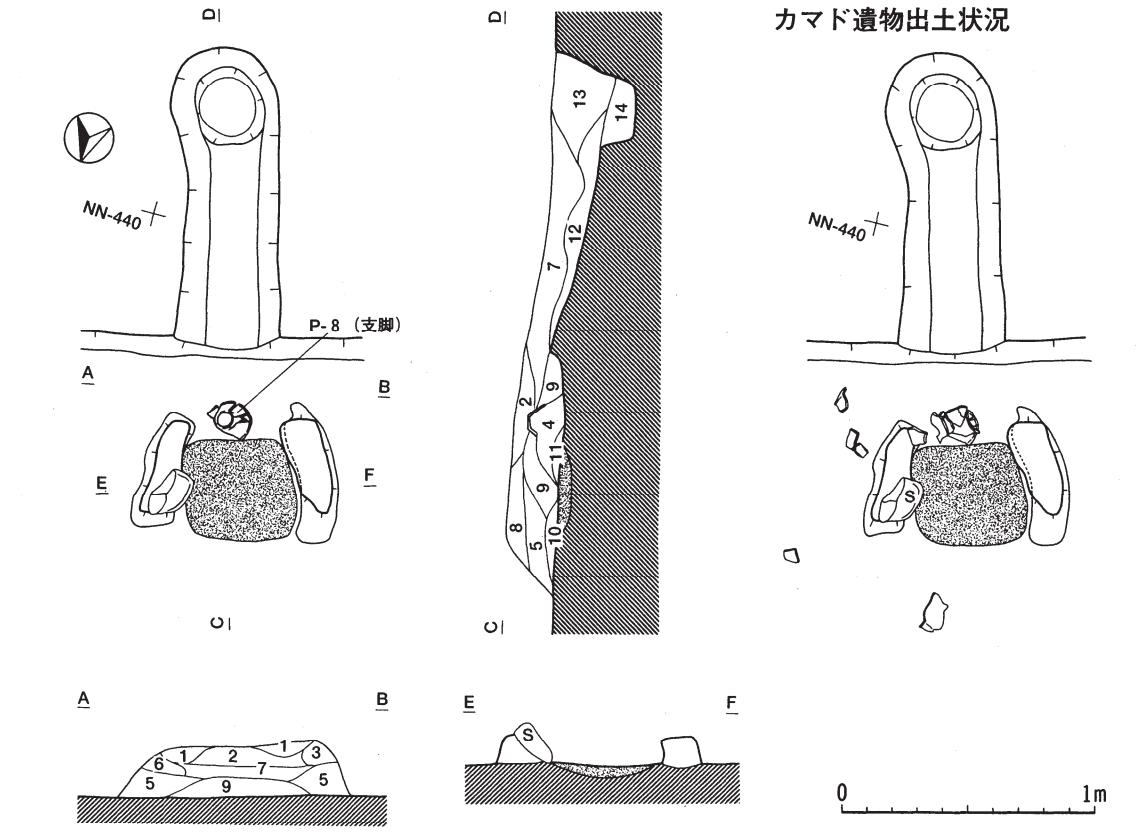
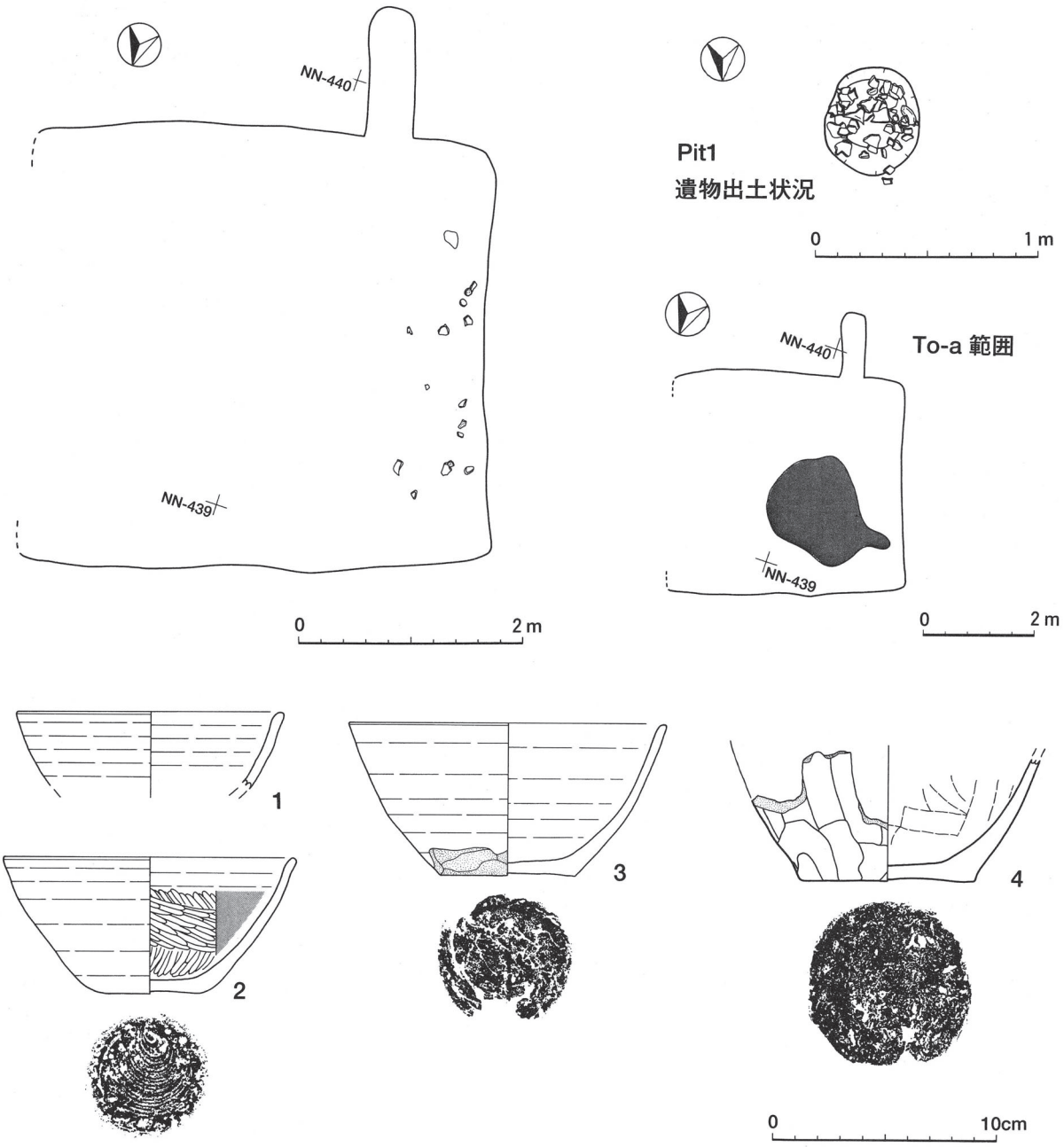


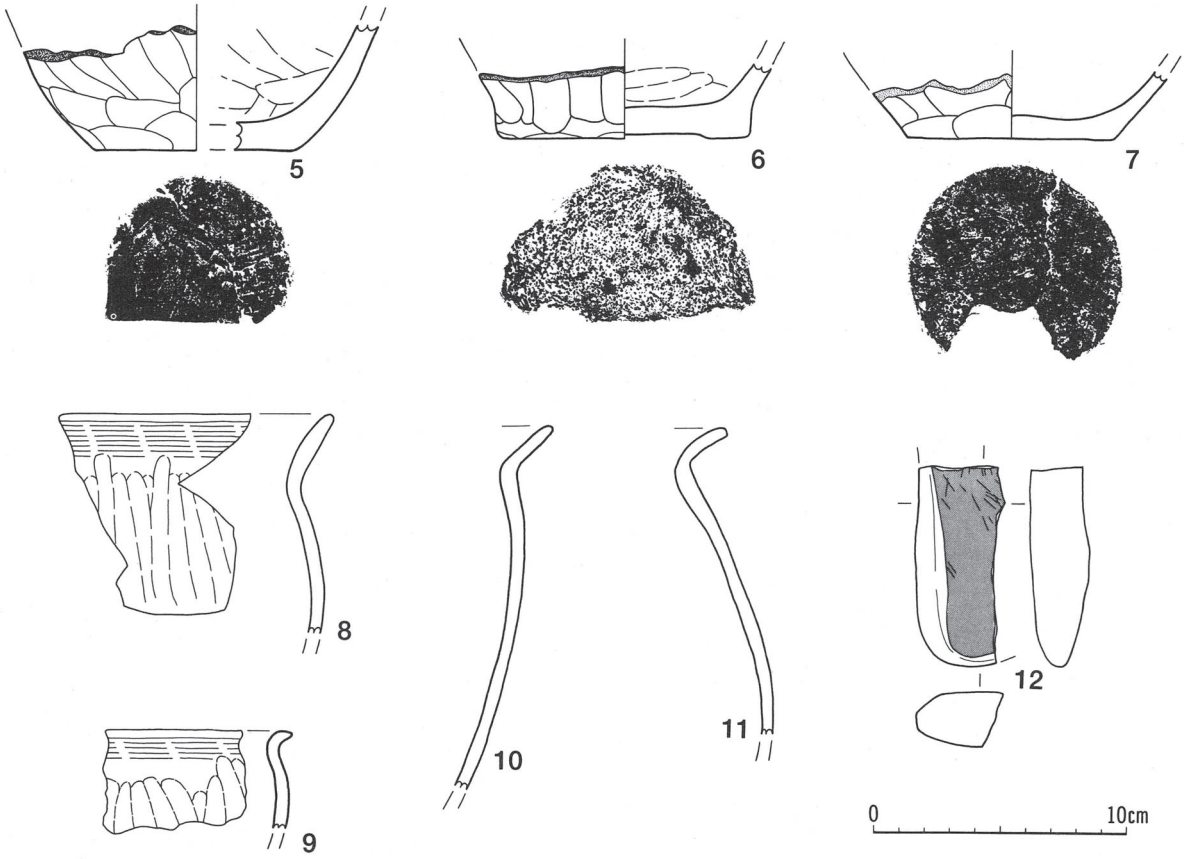
図296　第403号竪穴住居跡（１）

カマド
第１層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒中量
第２層　明褐色土　5YR5/6　炭化物微量
第３層　黒褐色土　10YR2/2
第４層　黒褐色土　7.5YR3/4　焼土粒中量　ローム粒・炭化物少量
第５層　褐色土　10YR4/6　炭化物微量
第６層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量　炭化物少量
第７層　黒色土　7.5YR3/1　To-a　ローム粒・焼土粒中量　炭化物少量
第８層　黒褐色土　7.5YR2/2　炭化物中量　ローム粒・焼土粒少量
第９層　褐色土　7.5YR4/6　炭化物・焼土粒少量　ローム粒微量
第10層　黒褐色土　7.5YR2/2　焼土粒多量　炭化物微量
第11層　明褐色土　7.5YR5/8
第12層　黒褐色土　10YR3/2　褐色土（10YR4/4）混入　ローム粒少量
第13層　黒褐色土　10YR2/2　To-a　褐色土（10YR4/4）混入　ローム粒少量
第14層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(12.0)	(3.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
2	土師器	坏	フク土	(13.2)	6.1	4.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠb	内面黒色処理
3	土師器	坏	カマド フク土	(14.2)	6.8	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り →ヘラナデ?	BⅡb	P-8（支脚）
4	土師器	甕	Pit 1 フク土	—	(5.7)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-23 P-31 P-27

図297　第403号竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
5	土師器	甕	フク土	—	(4.7)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
6	土師器	甕	フク土	—	(3.1)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-4
7	土師器	甕	Pit1 フク土	—	(2.7)	(8.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	不明	ナデツケ	A	P-42
8	土師器	甕	Pit1 フク土	(13.0)	(8.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-20.P-15. 28 .30
9	土師器	甕	カマド フク土	(11.0)	(4.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-9
10	土師器	甕	カマド 床直	(20.0)	(14.5)	—	不明	不明	—	不明	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着P-1
11	土師器	甕	Pit1 フク土 カマド フク土	(21.0)	(11.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着P-1

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
12	Pit 1 フク土	7.9	3.3	2.2	90	流	砥石	S-1

図298　第403号竪穴住居跡出土遺物（2）

第403号竪穴住居跡（図296～図298）

［位　置］　調査区北東部のＮＭ・ＮＮ－438～440グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　斜面のため東側が削平されているが西壁３m75cm、南壁（４ｍ５cm）、北壁（４m15cm）を測り残存部分からほぼ方形と考えられる。床面積は約14.85㎡で、主軸方位はＮ－165°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、西壁30cm、南壁12cm、北壁42cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられ、北西隅に焼土が検出されている。

［周　溝］　幅８～18cm、深さ５～17cmの周溝がカマド部分を除いて一巡する。

［ピット］　検出されたピットはカマドの両脇のピット１（29cm）、ピット２（31cm）である。柱穴とは考えられず、用途などについては不明である。

［カマド］　南壁西側に粘土を用いて構築されている。焚口部には、土師器の坏を支脚として転用してる。煙道部の上部は、削平されており、住居跡外に110cmほど延び、煙道底面は、煙出部に向かって緩やかに下がり、煙出部でピット（深さ65cm）につながり、急に立ち上がる。煙出部をもつ構造から煙道部は地下式と思われる。

［堆積土］　堆積土は９層に分層され、２層・３層・８層にＴｏ－ａ火山灰が混入している。

［出土遺物］　覆土から土師器の坏、甕などのほか砥石が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

第404号竪穴住居跡（図299・図300）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ－438・439グリッドに位置する。

［重　複］　第405号・第407号住居跡、第327号溝と重複し、本住居跡は、第407号住居跡、第327号溝より古い。第405号住居跡との新旧関係は不明である。

［平面形・規模］　本住居跡は、第407号住居跡、第327号溝に削平され、東壁（1m48cm）、西壁２m30cm、南壁２m22cmで、平面形は不明である。床面積は4.56㎡である。

［壁・床面］　壁高は、西壁52cm、南壁34cmでやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　南壁東側に構築されているが、火床面と煙道が残存するのみである。煙道は、残存する覆土が浅く、構築は不明である。住居跡外に50cmほどのびる。

［堆積土］　堆積土は２層に分層される。

［出土遺物］カマド覆土から須恵器の壺が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）

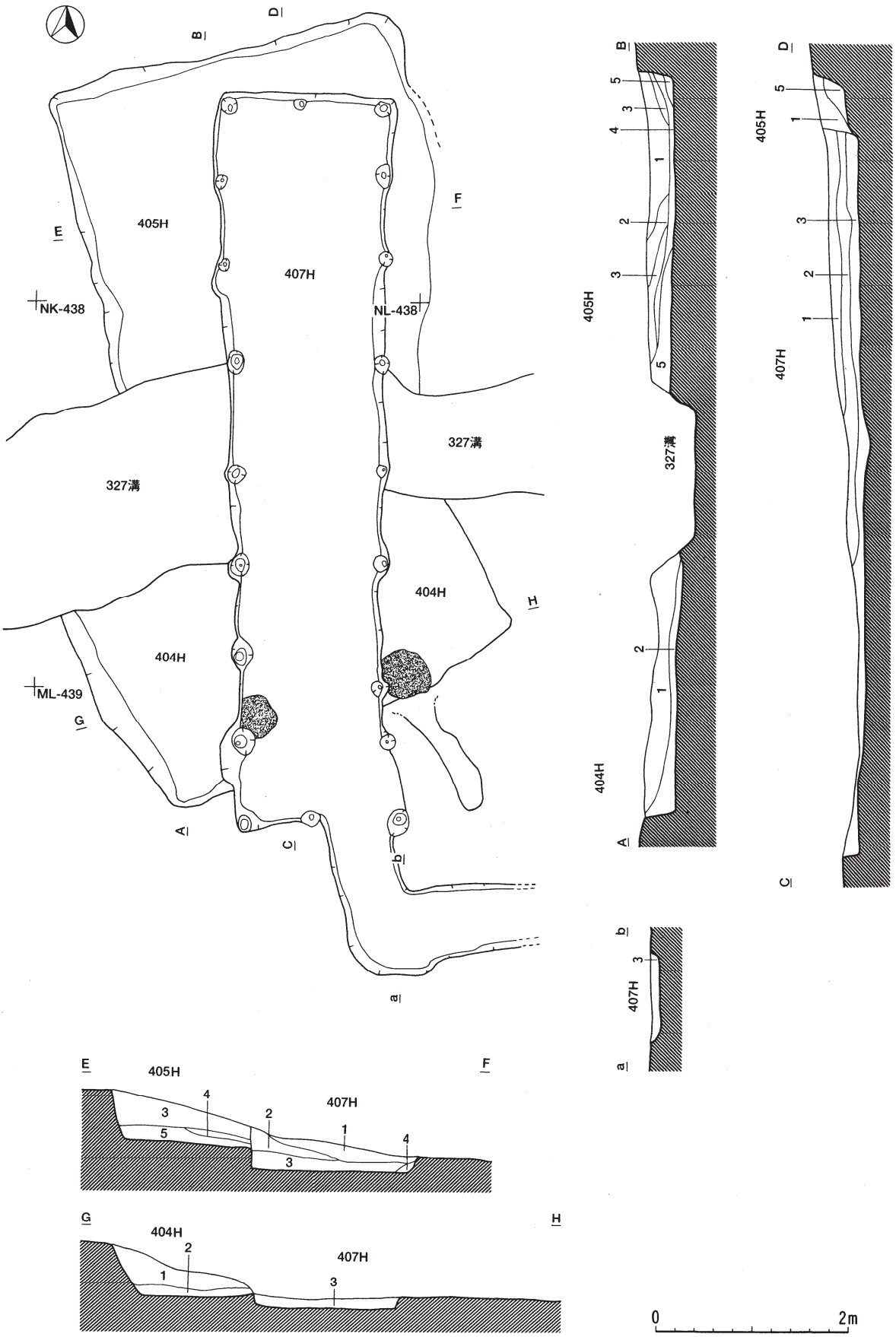
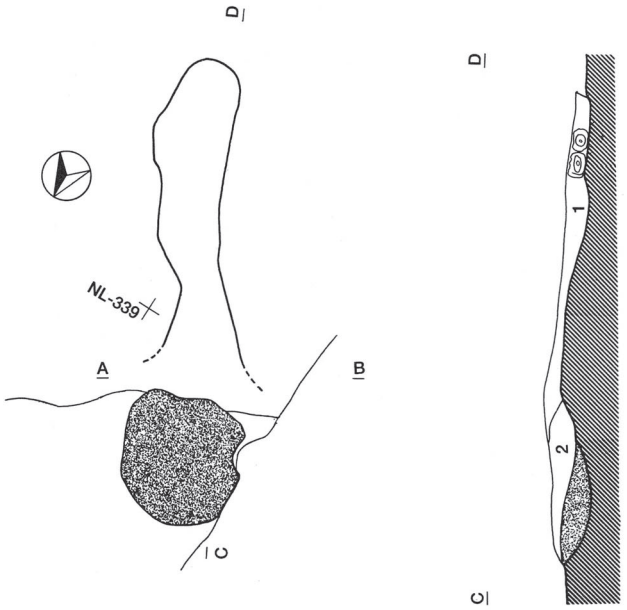
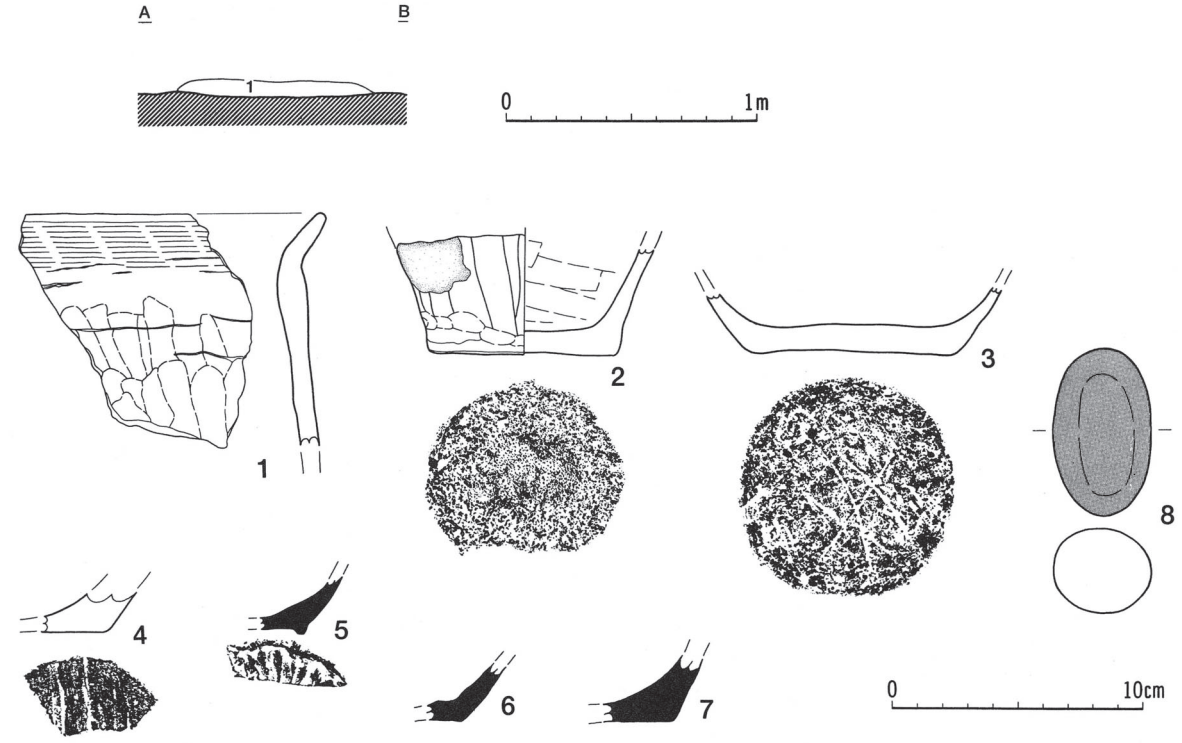


図299　第404号・第405号・第407号竪穴住居跡（1）



第404号住居跡
第1層　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト中量　炭化物
第2層　灰黄褐色土　10YR4/2　シルト少量　粘土ブロック　焼土粒・炭化物微量
カマド
第1層　黒褐色土　7.5YR3/2　ローム粒　焼土　炭化物微量
第2層　橙色土　7.5YR6/6　シルトブロック　小礫
第3層　褐灰色土　10YR4/1　炭化物　ローム粒
第4層　暗赤褐色土　5YR3/3　焼土　炭化物微量
第405号住居跡
第1層　褐灰色土　7.5YR4/1　炭化物　礫
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　シルト少量　シルトブロック
第3層　褐灰色土　10YR4/1　粘土ブロック
第4層　黒褐色土　10YR3/1　粘土ブロック　炭化物
第5層　黒色土　10YR2/1　炭化物
第6層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　粘土
第407号住居跡
第1層　褐灰色土　7.5YR4/1　粘土　炭化物
第2層　褐灰色土　7.5YR4/2　粘質シルト　粘土　炭化物
第3層　黒褐色土　7.5YR3/2　シルト　粘土



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フク土	(21.0)	(9.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕P-3　404H
2	土師器	甕	床直	—	(4.7)	7.4	—	—	ヘラナデ ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底 →ナデ	A	P-2　405H
3	土師器	甕	フク土	—	(2.7)	8.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底 →ナデツケ?	A	P-1　刻書　405H
4	土師器	甕	フク土	—	(1.6)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	405H
5	須恵器	壷	カマド フク土	—	(2.2)	—	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	菊花文	—	404H
6	須恵器	壷	フク土	—	(2.3)	—	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切離し後 ヘラケズリ	—	404H
7	須恵器	壷	カマド フク土	—	(2.6)	—	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切離し後 ヘラケズリ	—	404H

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
8	フク土	6.7	3.9	3.4	94	凝	磨石	S-1　404H

図300　第404号竪穴住居跡（2）・第404号・第405号出土遺物

第405号竪穴住居跡（図299）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ－437・438グリッドに位置する。

［重　複］　第404号・第407号住居跡、第327号溝と重複し、本住居跡は、第407号住居跡、第327号溝より古い。第404号住居跡との新旧関係は不明である。

［平面形・規模］　北壁３ｍ42cm、南側が第327号溝に切られ、第407号住居跡が、本住居跡を南北に切っている。また、東側の大半が削平されている。残存する東壁86cm、西壁３ｍ12cmで平面形は不明である。床面積は6.22㎡である。

［壁・床面］　壁高は、西壁52cm、北壁38cmでやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　確認されなかった。

［堆積土］　堆積土は５層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土師器の壺が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）

第407号竪穴住居跡（図299・図300）

［位　置］　ＮＫ－439グリッドに位置する。

［重　複］　第404号・第405号住居跡、第327号溝と重複し、本住居跡が最も新しい。

［平面形・規模］　東壁７ｍ58cm、西壁７ｍ68cm、南壁１ｍ78cm、北壁１ｍ80cmで、長方形である。

［壁・床面］　壁高は、東壁14～18cm、西壁12～44cm、南壁18cm、北壁36cmで垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　壁の周りに、径35cm～50cm、深さ25cm～30cmの壁柱穴が20個検出された。

［カマド］　確認されなかった。

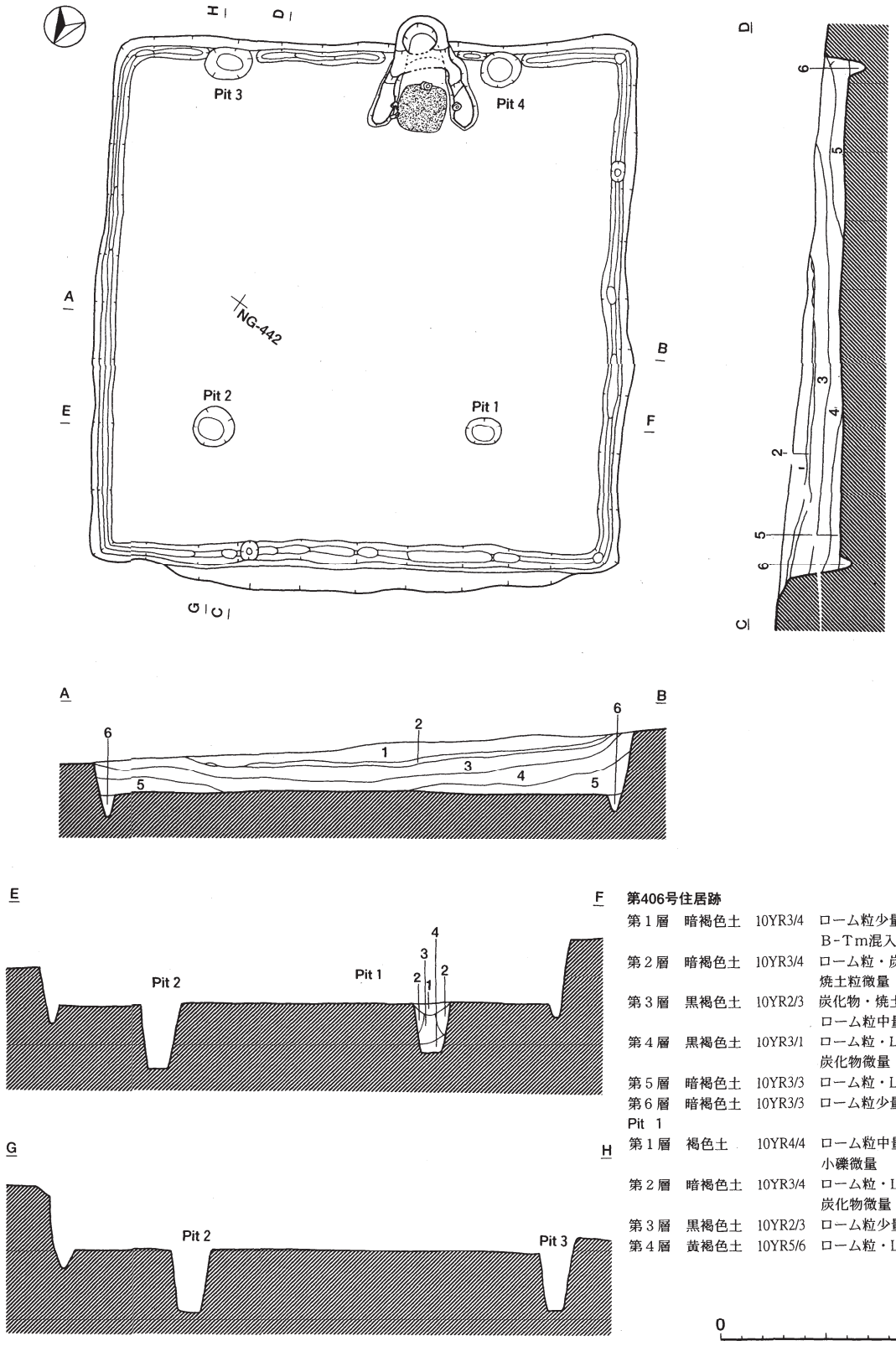
［その他の施設］　南壁東側から、幅68～88cm、深さ10cmの溝が東側へのびる。

［堆積土］　堆積土は３層に分層される。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

［時　期］　時期は不明である。

（齋藤由美子）



第406号住居跡

第1層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量　炭化物・焼土粒微量 B-Tm混入
第2層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・炭化物 焼土粒微量　B-Tm混入
第3層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・焼土粒・To-a混入 ローム粒中量
第4層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒・L.B.少量 炭化物微量　To-a混入
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・L.B.・小礫少量
第6層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量　炭化物微量
Pit 1			
第1層	褐色土	10YR4/4	ローム粒中量　炭化物 小礫微量
第2層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・L.B.少量 炭化物微量
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量　炭化物微量
第4層	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒・L.B.少量

0　2m

図301　第406号竪穴住居跡（1）

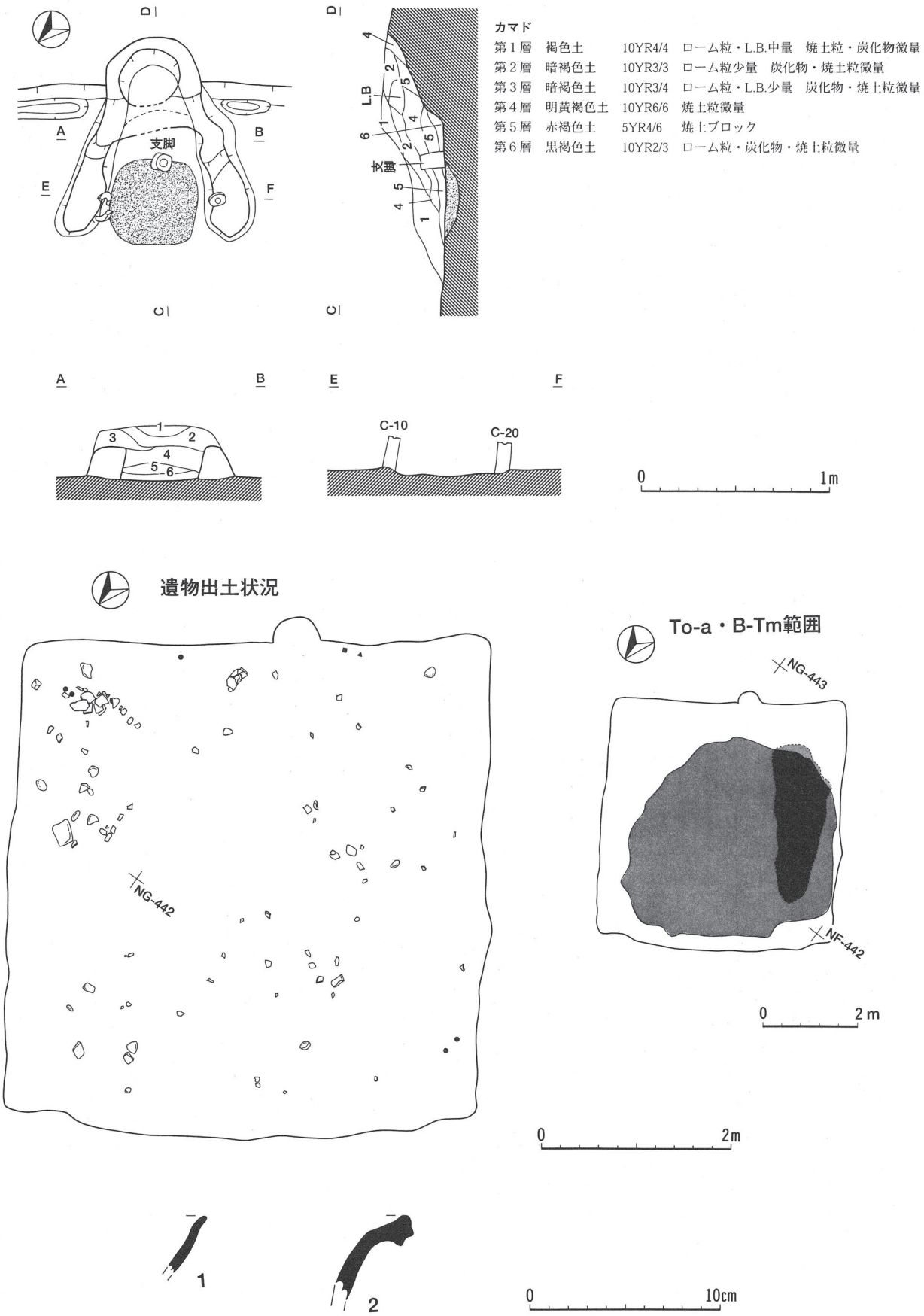
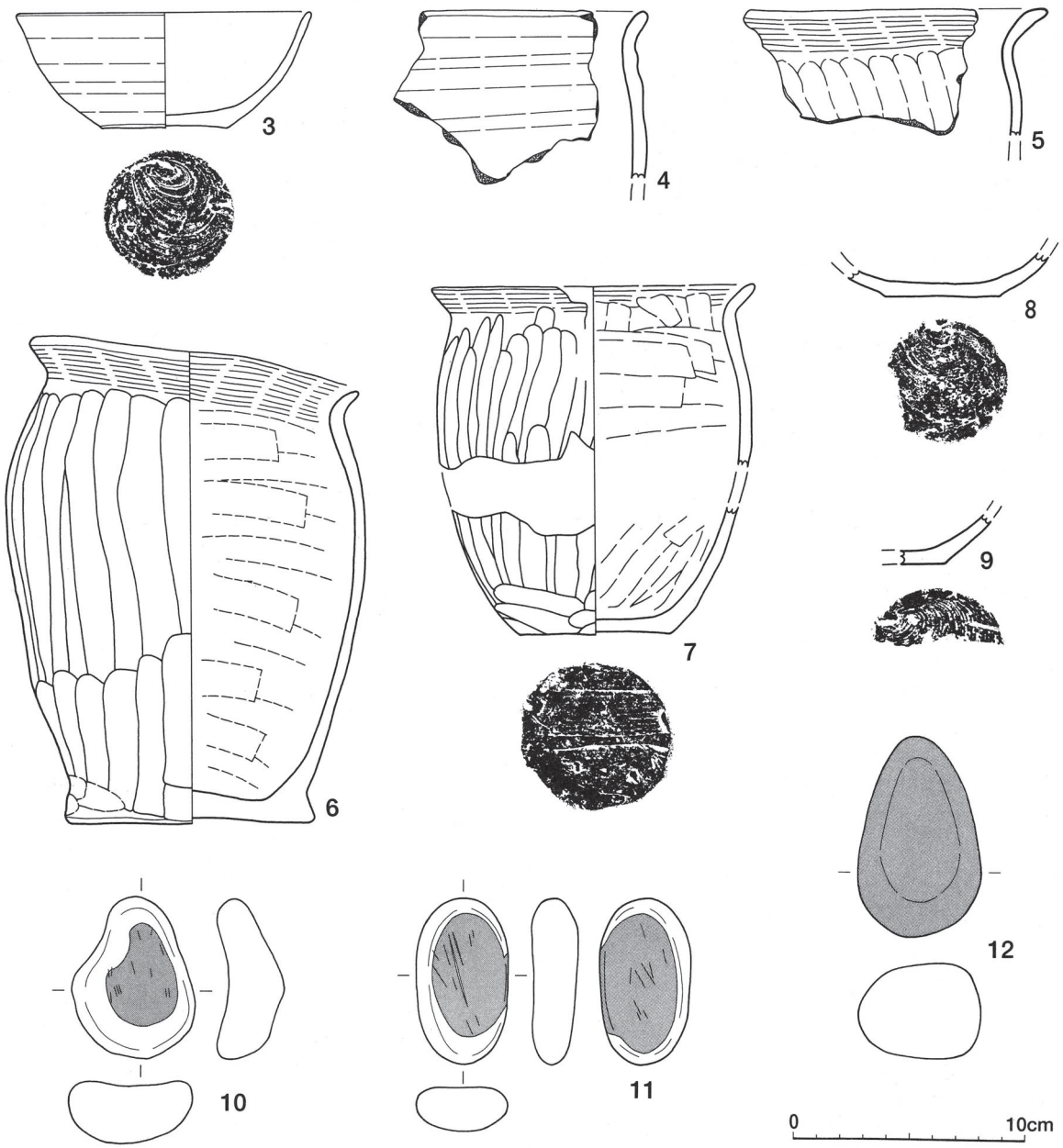


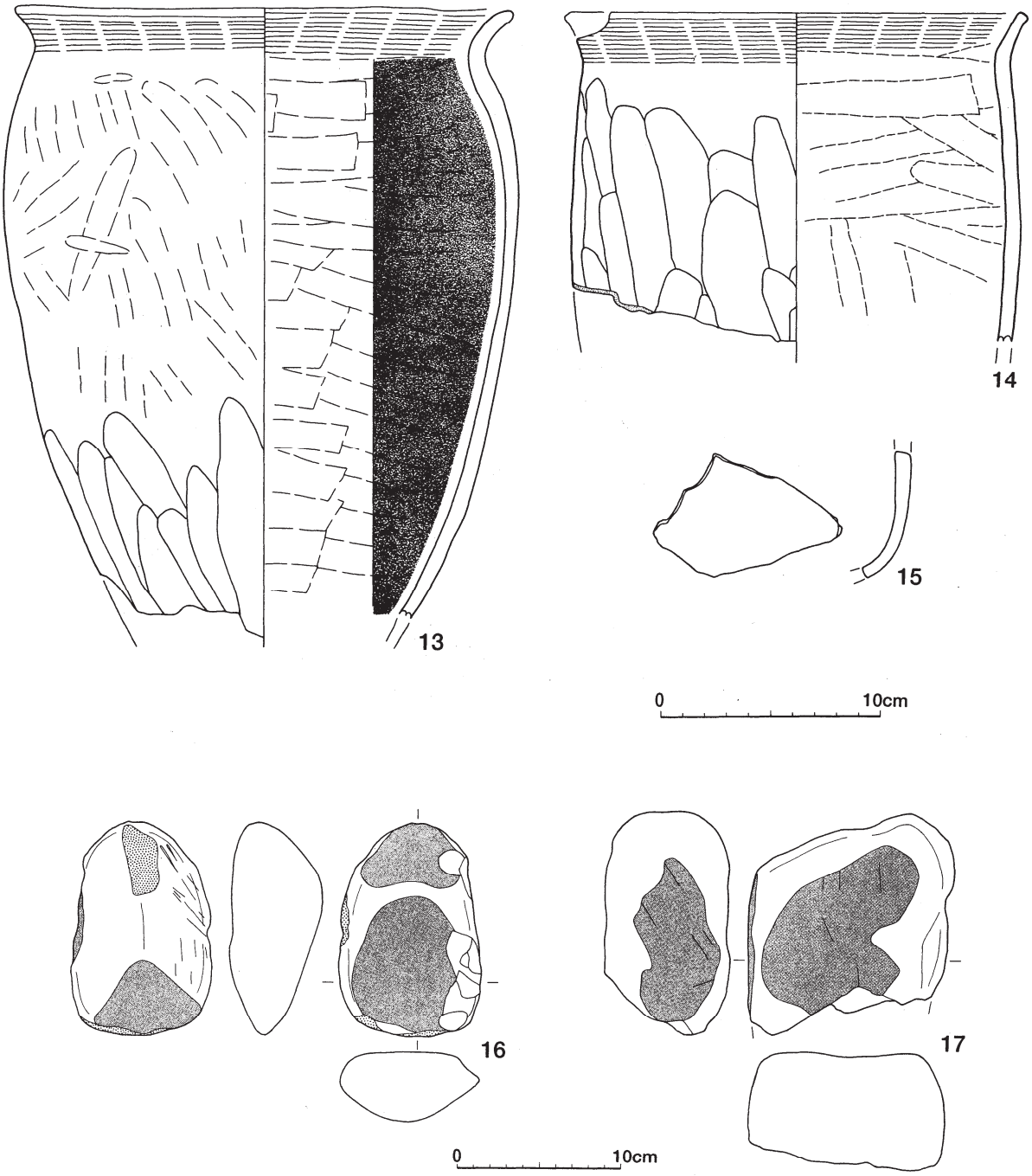
図302　第406号竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調節	分類	備考
1	須恵器	坏	フク土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
2	須恵器	甕	フク土	—	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
3	土師器	坏	カマドフク土	(12.8)	5.0	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	不明	不明	不明	回転糸切り	BⅡ	P-？
4	土師器	甕	Pit1フク土	(16.2)	(7.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-26
5	土師器	甕	床面	(22.0)	(5.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-33
6	土師器	甕	床面 Pitフク土	14.0	21.0	10.8	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラナデ ヘラケズリ	砂底	AⅡe	P-44、54
7	土師器	甕	カマドフク土 床直	14.0	15.0	6.6	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ？	AⅡe	P-53、13、29、31
8	土師器	坏	床面 フク土	—	(4.4)	5.5	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-35
9	土師器	坏	フク土	—	(2.3)	(5.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-1

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
10	フク土	6.9	5.3	2.5	90	流	砥石	S-2
11	床直	7.2	3.9	1.9	75	流	砥石	S-25
12	床直	8.6	5.4	4.2	240	流	砥石	S-6

図303　第406号竪穴住居跡出土遺物（2）

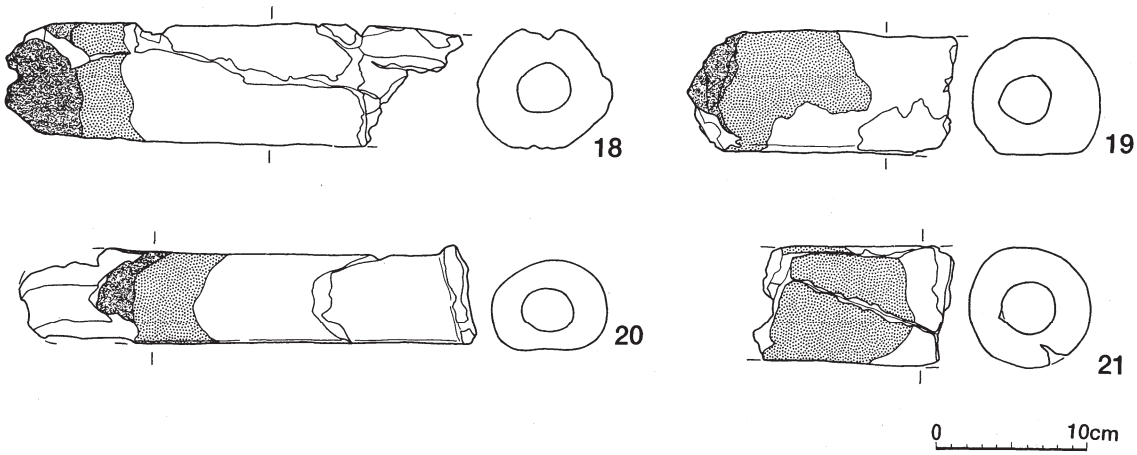


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
13	土師器	甕	フク土 床直	23.0	(29.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ ナデ	ヘラケズリ	—	A I	P-26 内面黒色処理
14	土師器	甕	床直	(21.4)	(15.1)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-12、55、56

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
16	床面	13.0	8.5	4.2	660	流	砥石	S-15
17	床直	11.6	12.0	7.1	1,640	流	砥石	S-5

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
15	フク土	8.6	5.7	0.7	105.4	鍋?	Fe-6

図304　第406号竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
18	カマドフク土	(30.2)	(7.9)×9.0	3.3	(1,300)	B	ナデ	羽口-13
19	カマドフク土	(17.9)	7.8×8.6	3.2	(980)	B	ナデ	羽口-20
20	床面 カマドフク土	30.2	6.0×7.7	2.9×3.5	(880)	C	ナデ	羽口-6・羽口-7・羽口-10
21	カマドフク土	(13.1)	7.9×8.2	3.5	(688)	B	ナデ	羽口-14・支脚

図305　第406号竪穴住居跡出土遺物（4）

第406号竪穴住居跡（図301～図305）

［位　置］　調査区北側ＮＥ～ＮＧ－441～443グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁４ｍ94cm、西壁５ｍ６cm、南壁４ｍ92cm、北壁５ｍのほぼ方形である。床面積は約23.71㎡で、主軸方位はＮ－145°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁35cm、西壁60cm、南壁25cm、北壁55cmで床面から急に立ち上がる。床面は平坦で堅く締まっている。

［周　溝］　幅10～21cm、深さ５～20cmの周溝が一巡する。周溝内には、ピット（深さ15～34cm）が検出されている。

［ピット］　検出されたピットは４個でいずれも柱穴と思われる。ピット１（49cm）、ピット２（60cm）、ピット３（51cm）、ピット４（59cm）で４本の柱のうちカマド寄りの２本が壁側に位置している。

［カマド］　南壁中央のやや西寄りに、羽口を芯材として転用し、粘土を用いて本体を構築している。焚口部に、羽口を支脚としている。煙道は半地下式で、住居跡外に30cmほど延びる。煙道底面は、煙出部に向かってやや急に立ち上がる。

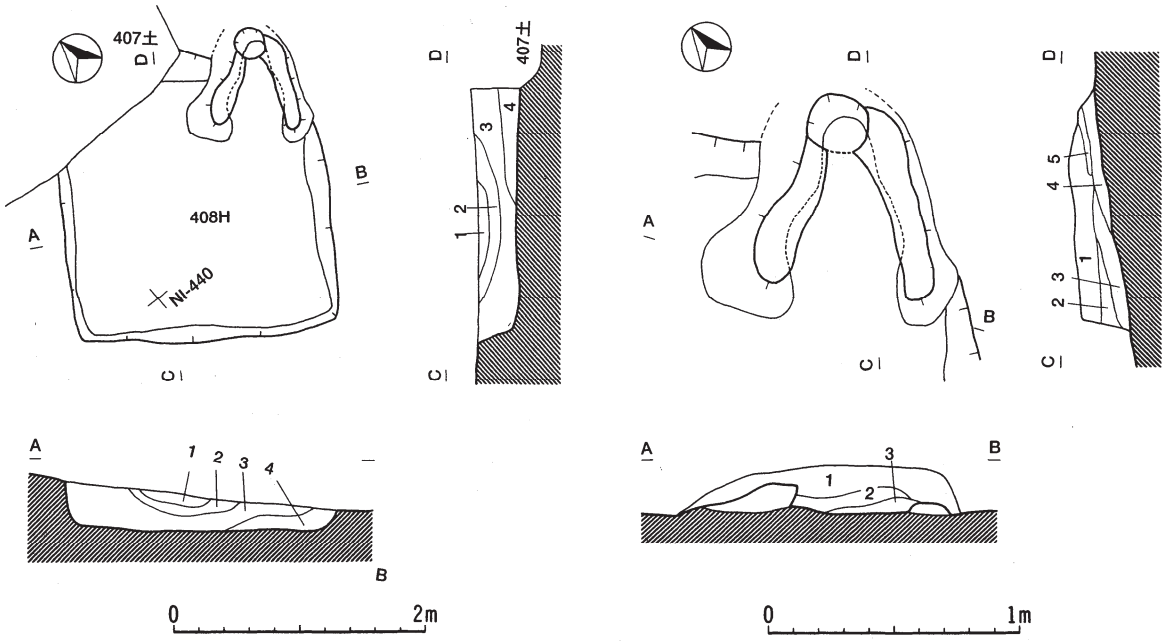
［その他の施設］　北壁に長さ３ｍ60cm、幅20cm、深さ５～12cmのテラス状の施設を検出した。用途などについては不明である。

［堆積土］　堆積土は６層に分層される。１層にＢ－Ｔｍ火山灰が、３層・４層にＴｏ－ａ火山灰がブロック状に混入している。

［出土遺物］　覆土から、多量の遺物が出土し（図302）、土師器の坏、甕などのほか砥石がみられる。

［時　期］火山灰の堆積状況や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）



遺物出土状況

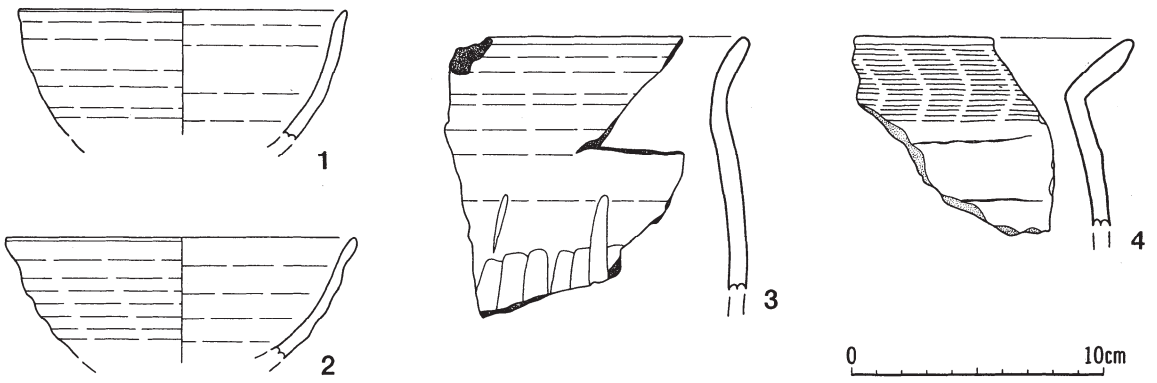
第408号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR3/2　粘土　焼土　炭化物
第２層　黒褐色土　10YR3/1　粘土ブロック　炭化物
第３層　黒褐色土　10YR3/1　焼土粒　粘土粒　To-a火山灰
第４層　灰黄褐色土　10YR4/2　焼土

カマド

第１層　黒褐色土　10YR3/2　粘土
第２層　灰黄褐色土　10YR4/2　粘土　焼土粒
第３層　にぶい黄褐色土　5YR4/4　粘土
第４層　灰黄褐色土　10YR4/2
第５層　褐色土　10YR4/4

0　2m



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	カマド3層	(14.0)	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-24
2	土師器	坏	カマド フク土	(14.8)	(4.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-16
3	土師器	甕	カマド3層	(24.0)	(10.8)	—	ロクロ	ヘラケズリ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-13 輪積痕
4	土師器	甕	カマド3層 カマド2層	(17.0)	(7.1)	—	ヨコナデ	ナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-12、P-14 輪積痕

図306　第408号竪穴住居跡・出土遺物

第408号竪穴住居跡（図306）

［位　置］　ＮＨ・ＮＩ－439・440グリッドに位置する。

［重　複］　第407号土坑と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］東壁２ｍ20cm、南壁２ｍ６cm、北西隅が第407号土坑に切られており、残存する西壁１ｍ36cm、北壁86cmで、平面形は不整方形と推定する。床面積は、3.48㎡で、主軸方位はＮ－149°－Ｗである。

［壁・床面］壁高は、東壁32cm、西壁16cm、南壁30cmでやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

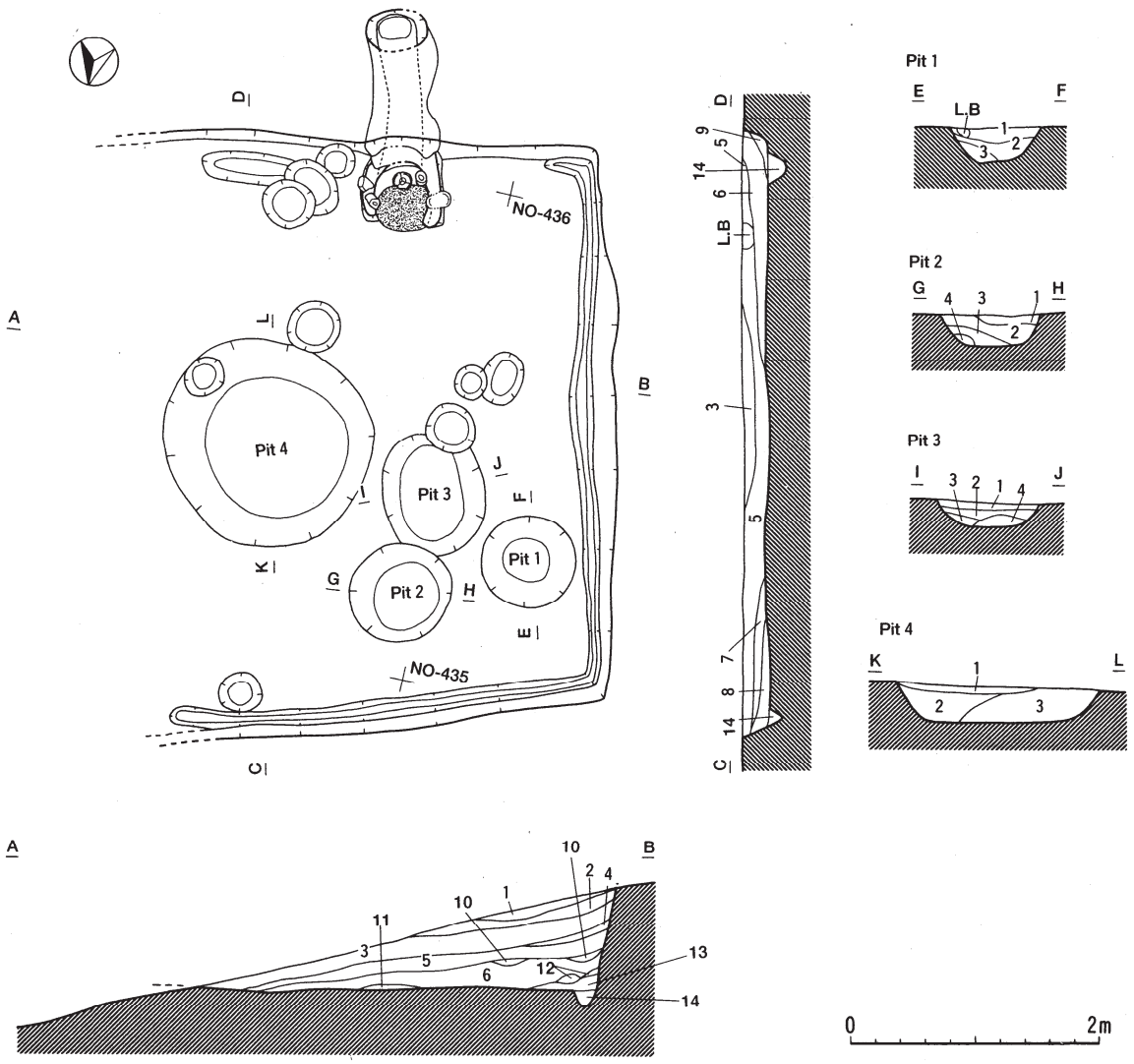
［カマド］　北東隅に構築されており、煙出しに一部が削平されている。本体は芯材を使わず、粘土で築かれている。煙道は半地下式で、住居跡外に157cmほど延びる。煙道底面は煙出部向かってに緩やかに立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は５層に分層され、３層にＴｏ－ａ火山灰が含まれている。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕や坏が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）



第409号住居跡

第１層	黒色土	10YR2/1	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量　炭化物・焼土粒微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第４層	黒色土	10YR2/1	焼土粒中量　ローム粒・炭化物少量
第５層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量　焼土粒少量　炭化物微量
第６層	暗褐色土	10YR3/3	褐色土(10YR4/4)混入　ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量
第７層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物少量
第８層	黒褐色土	10YR3/2	褐色土(10YR4/6)混入　ローム粒中量
第９層	黒褐色土	7.5YR2/2	褐色土(10YR4/4)混入 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第10層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物中量　焼土粒少量
第11層	暗褐色土	10YR3/3	褐色土(10YR4/6)混入　ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量
第14層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物中量　ローム粒・焼土粒少量

Pit 1

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第２層	黒色土	10YR2/1	ローム粒中量　炭化物少量
第３層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量　炭化物少量

Pit 2

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量　炭化物少量
第２層	黒色土	10YR2/1	ローム粒・炭化物中量
第３層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量
第４層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒少量

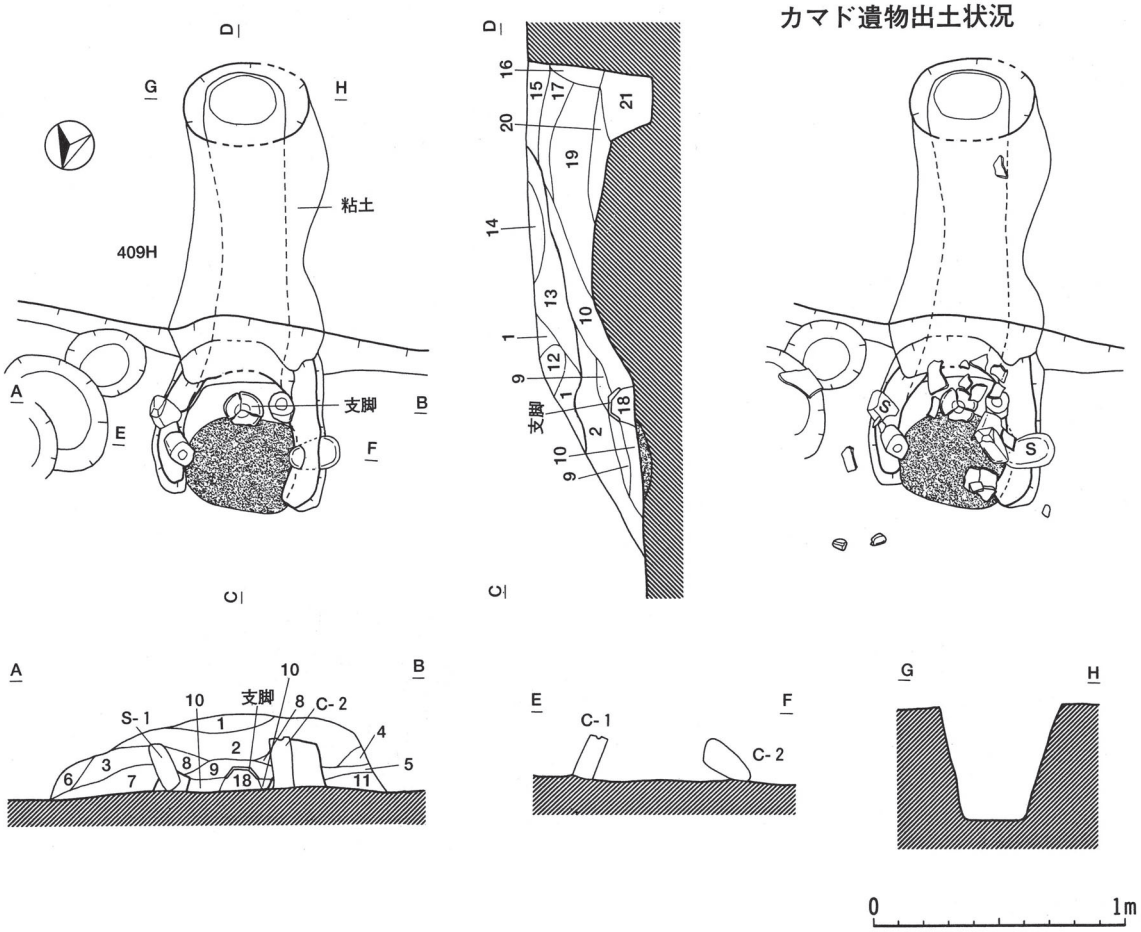
Pit 3

第１層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒・炭化物中量
第２層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物多量　ローム粒少量
第３層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物少量
第４層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒中量　ローム粒少量

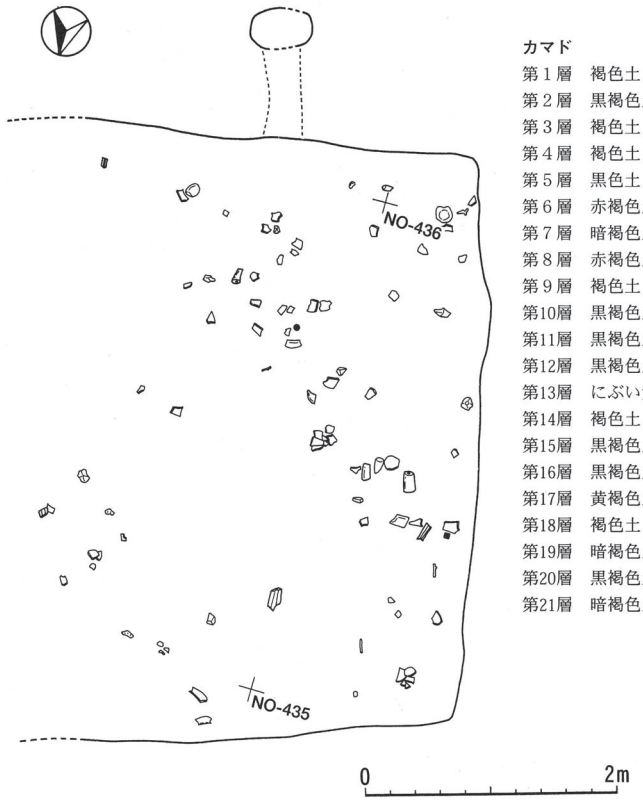
Pit 4

第１層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)混入　ローム粒少量　炭化物少量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	L.B.多量　ローム粒・炭化物中量　焼土粒少量
第３層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量

図307　第409号竪穴住居跡（１）



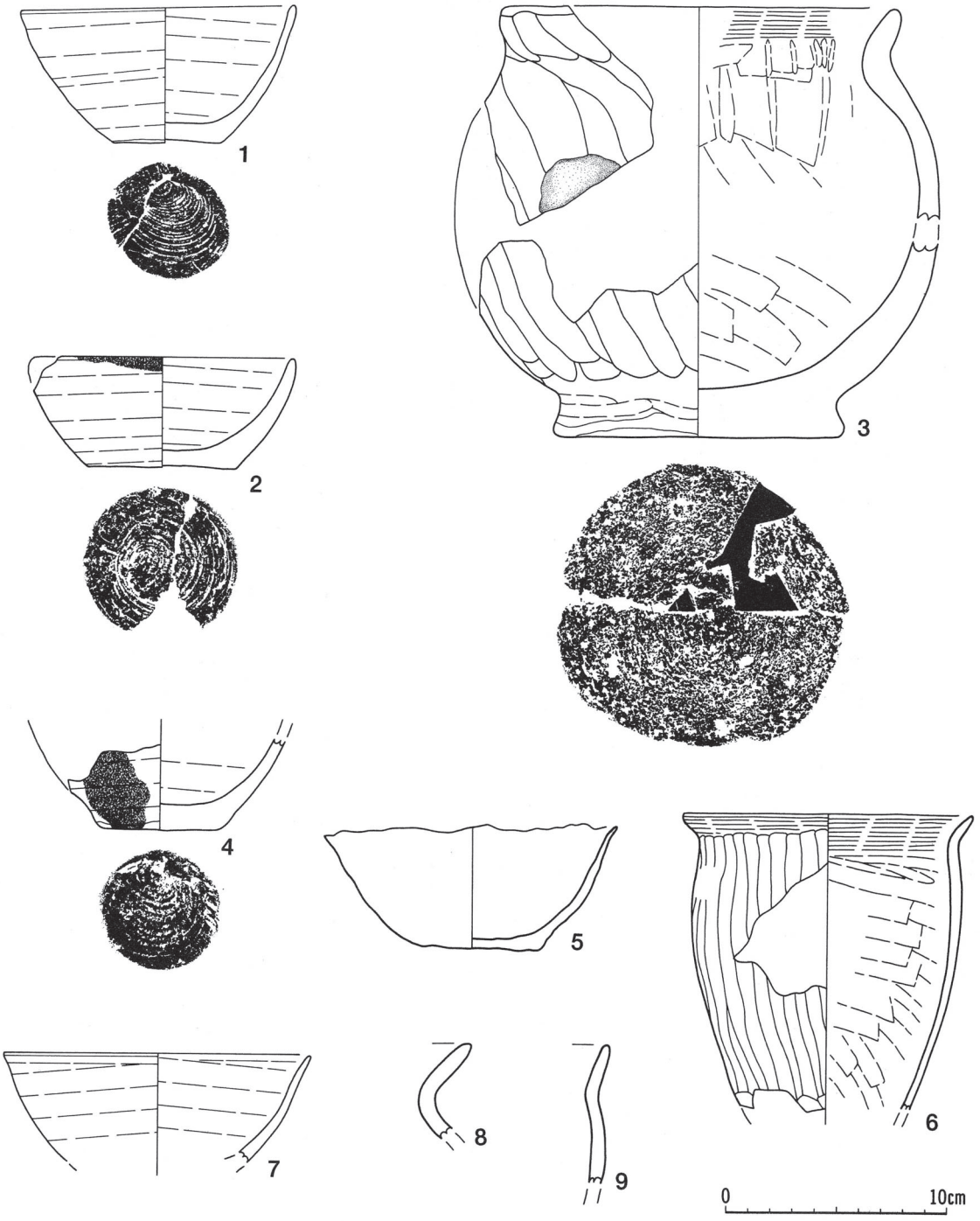
遺物出土状況



カマド

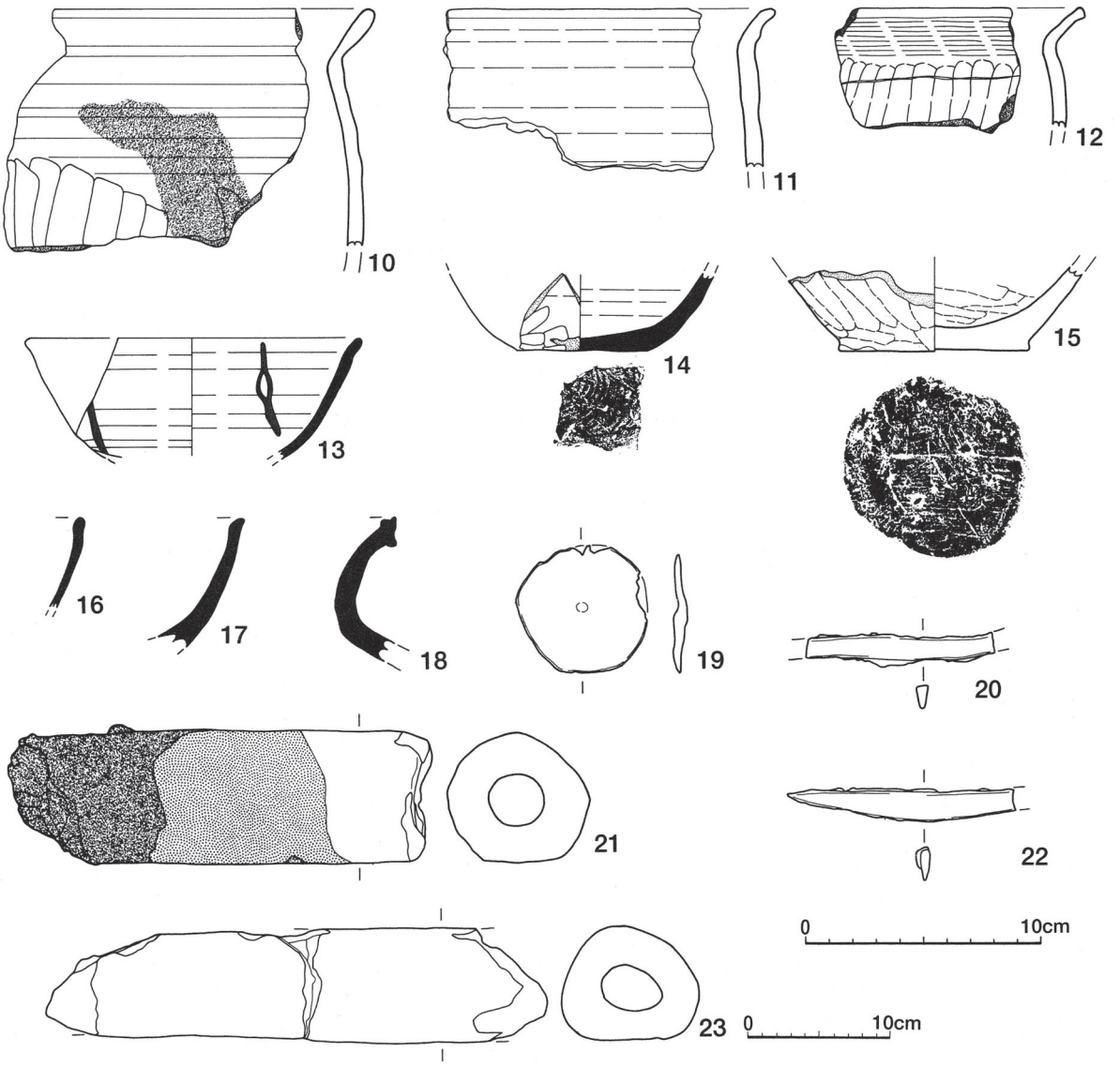
第１層	褐色土	10YR4/4	ローム粒少量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	暗褐色土(10YR3/3)混入　ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第３層	褐色土	7.5YR4/4	暗褐色土(10YR3/3)混入　炭化物・焼土粒少量
第４層	褐色土	10YR4/4	ローム粒少量
第５層	黒色土	10YR2/1	ローム粒微量
第６層	赤褐色土	5YR4/6	褐色土(7.5YR4/4)混入　焼土粒少量
第７層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土粒少量
第８層	赤褐色土	5YR4/8	にぶい赤褐色土(5YR4/4)混入
第９層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第10層	黒褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土粒微量
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第13層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土粒少量
第14層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第15層	黒褐色土	7.5YR3/2	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第16層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第17層	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒少量
第18層	褐色土	7.5YR4/6	炭化物少量
第19層	暗褐色土	7.5YR3/3	褐色土(7.5YR4/6)混入　焼土粒多量　炭化物少量
第20層	黒褐色土	7.5YR2/2	炭化物・焼土粒少量
第21層	暗褐色土	7.5YR3/2	炭化物中量　ローム粒少量

図308　第409号竪穴住居跡（２）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調節	分類	備考
1	土師器	坏	Pit3 フク土	12.5	6.3	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	P-32、37
2	土師器	坏	フク土	(12.0)	5.0	6.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	外面スス付着 P-18、33
3	土師器	甕	フク土 床直	(18.4)	(19.5)	13.0	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラナデ ナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	AⅡe	P-23、31、32
4	土師器	坏	フク土	—	(4.5)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	外面スス状炭化物付着 P-21
5	土師器	坏	カマド フク土	(13.3)	(5.5)	(6.0)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	—	火熱による剥落 P-1
6	土師器	甕	床直	(13.2)	(13.5)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅡ	P-24
7	土師器	坏	フク土	(14.0)	(4.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
8	土師器	甕	床直	(22.0)	(4.4)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-27
9	土師器	甕	フク土	(22.0)	(6.9)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	P-11

図309　第409号竪穴住居跡出土遺物（1）

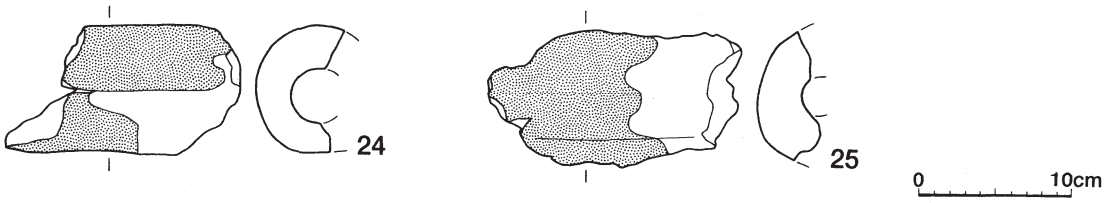


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
10	土師器	甕	カマドフク土	(21.0)	(10.3)	—	ロクロ	ロクロ ヘラケズリ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	外面粘土付着 P-13
11	土師器	甕	フク土	(18.0)	(6.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-10
12	土師器	甕	床直	(20.0)	(4.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-28
13	須恵器	坏	フク土	(14.0)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ			—	外・内面　火だすき痕 P-2
14	須恵器	坏	フク土	—	(3.3)	(5.6)	—	—	ロクロ→ケズリ	—	—	ロクロ	—	—	
15	土師器	甕	フク土	—	(3.6)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ユビナデ	回転糸切	A	P-22
16	須恵器	坏	フク土	—	(3.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	ナデツケ	—	内面　火だすき痕
17	須恵器	坏	フク土	—	(5.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	
18	須恵器	甕	フク土	—	(6.1)	—	ロクロ	タタキ目	—	ロクロ	当具	—	—	—	P-17

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
19	フク土	5.2	5.0	0.5	27.4	紡錘車	Fe-9
20	フク土	7.9	1.0	0.5	7.2	刀子	Fe-3
21	フク土	9.6	1.4	0.6	10.7	刀子	Fe-8

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
22	カマドソデ	30.0	9.2×10.2	3.6×4.0	2,360	B	ナデ、ケズリ	羽口-1（芯材）
23	カマドソデ	(35.4)	8.1×9.7	3.2×4.1	(2,170)	C		羽口-2、3

図310　第409号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
24	フク土	(17.5)	8.4×(6.0)	－	(454)	B	ナデ	羽口-3、8
25	フク土	(17.0)	8.5×(4.3)	－	(460)	B	ナデ、指痕	羽口-2

図311　第409号竪穴住居跡出土遺物（3）

第409号竪穴住居跡（図307～図311）

［位　置］　調査区北東部のＮＮ・ＮＯ－434～436グリッドに位置する。

［重　複］　第317号溝と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　斜面のため東側が削平されており、西壁4m50cm、南壁（3m50cm）、北壁（3m20cm）で、平面形は不明である。残存部分の床面積は約（18.69㎡）で、主軸方位はＮ－166°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、西壁84cm、南壁20cm、北壁24cmで床面からほぼ垂直に立ち上がると思われる。床面は、やや起伏がみられる。

［周　溝］　幅9～26cm、深さ6～18cmの周溝が西壁に、南壁と北壁は一部に検出された。南壁の周溝は壁面から10cmほど離れている。

［ピット］　ピットが９個検出されたが、いずれも柱穴とは考えられない。ピット４は住居跡中央に、径170cm、深さ30cmの円形である。

［カマド］　南壁西側に羽口と礫を芯材として、粘土を用いて本体を構築している。焚口部には土師器の坏を伏せて支脚としている。煙道は地山を掘り粘土で覆った地下式で、住居跡外に100cmほど延び、煙道底面は、中央付近までは緩やかに上り、その後煙出部に向けて緩やかに下り、煙出部でピット（深さ97cm）につながり、ほぼ垂直に立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は14層に分層され、黒褐色主体で、焼土粒が全体的に含まれている。

［出土遺物］　覆土から多量の遺物が出土し（図308）、土師器や須恵器の坏、甕などのほか鉄製の紡錘車や刀子がみられる。

［時　期］　出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

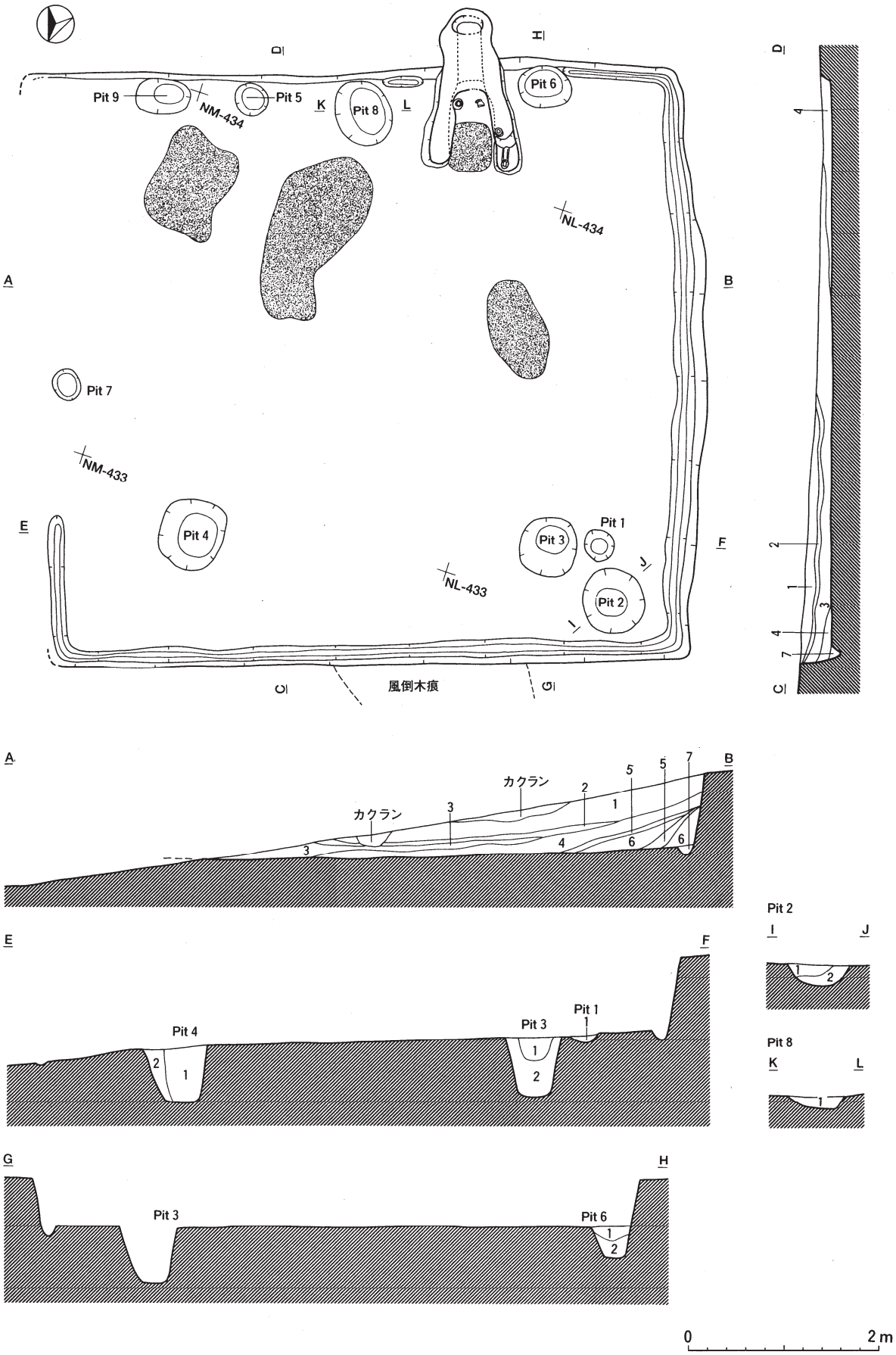


図312　第410号竪穴住居跡（1）

第410号竪穴住居跡（図312～図316）

［位　置］　調査区北東部のＮＫ～ＮＭ－432～434グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　斜面のため東側が削平されてが、東壁（６ｍ10cm）、西壁６ｍ12cm、南壁（６ｍ78cm）、北壁は（６ｍ60cm）で、残存部分からほぼ方形と思われる。床面積は約（41.50㎡）で、主軸方位はＮ－161°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、西壁81cm、南壁45cm、北壁55cmで、床面から急に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、カマド寄りに床面の焼けている部分がみられる。

［周　溝］　幅８～24cm、深さ２～10cmの周溝が西壁と南壁に、東壁と北壁には一部に検出された。

［ピット］　検出されたピットは９個で、そのうち柱穴と考えられるものは、ピット３（56cm）、ピット４（58cm）、ピット６（36cm）、ピット９（54cm）である。また、カマド脇のピット８（長軸72cm、短軸56cm、深さ14cm）から土師器などが出土している。

［カマド］　南壁西側に羽口を芯材にして粘土を用いて構築している。焚口部には、土師器の甕と礫を支脚としている。煙道は半地下式で、住居跡外に60cmほど延びる。煙道底面は、煙出部の向かって緩やかに立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は７層に分層され、２層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。

［出土遺物］　床面から多量の遺物が出土し（図314）、土師器や須恵器の坏、甕などのほか砥石がみられる。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

第410号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒混入　炭化物・焼土粒少量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　B-Tm　炭化物・焼土粒微量
第３層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒多量　炭化物・焼土粒少量
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物・焼土粒微量
第５層　褐色土　10YR4/4　ローム層
第６層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量　焼土粒微量
第７層　褐色土　10YR4/6　炭化物・焼土粒中量

Pit 1

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・炭化物微量

Pit 2

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒混入　炭化物微量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物多量　ローム粒少量

Pit 3

第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物微量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量　炭化物微量

Pit 4

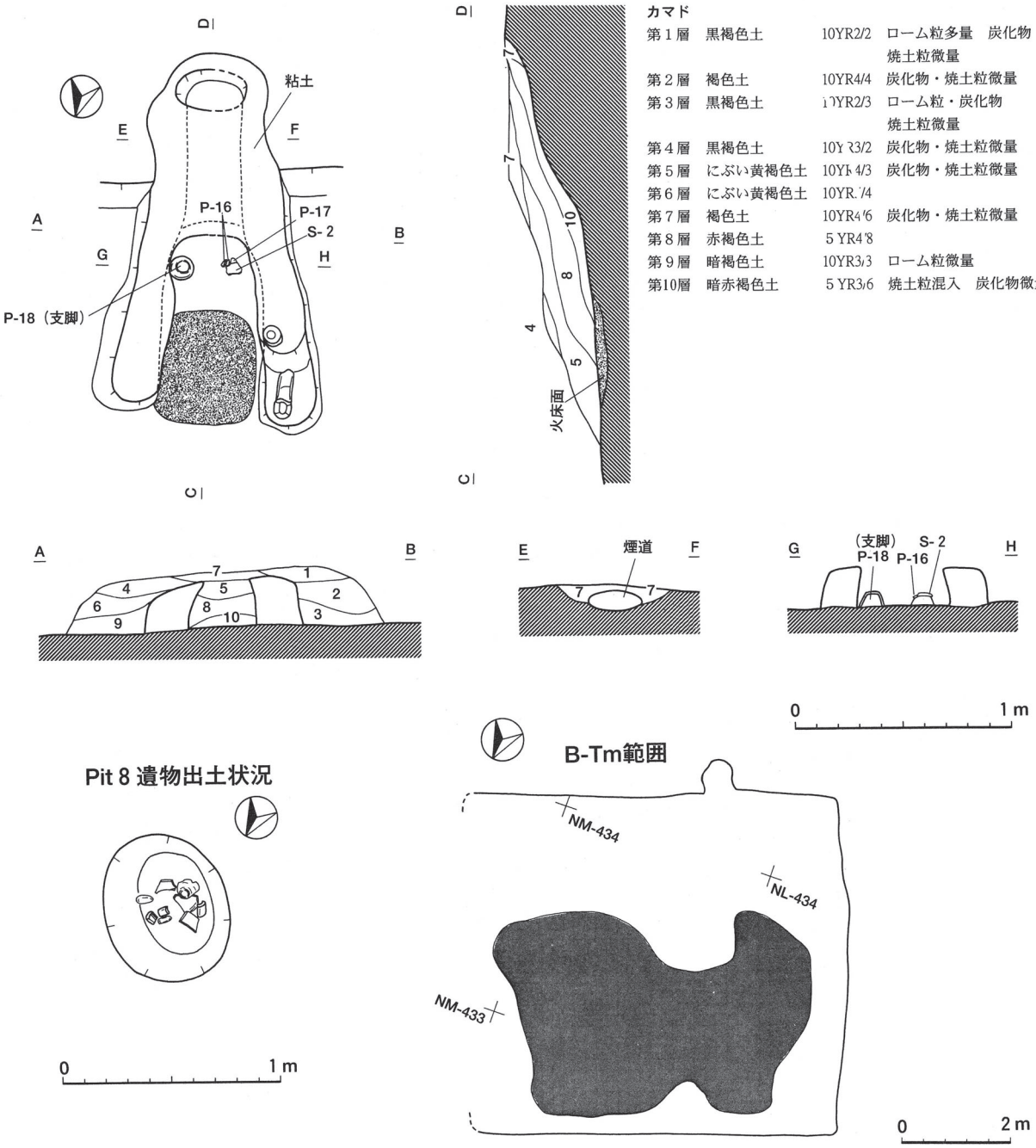
第１層　暗褐色土　10YR3/3　To-a混入　ローム粒多量
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量

Pit 6

第１層　褐色土　10YR4/4　焼土・炭微量
第２層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　焼土・炭中量　パミス微量

Pit 8

第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量

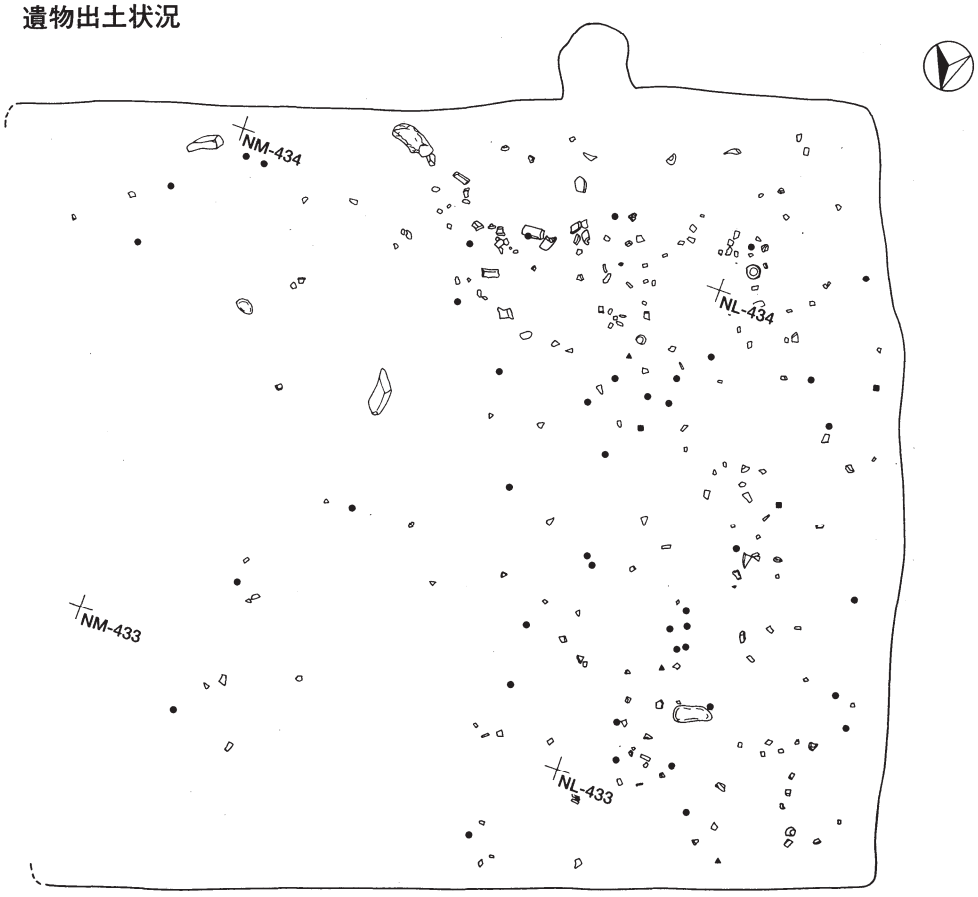


カマド

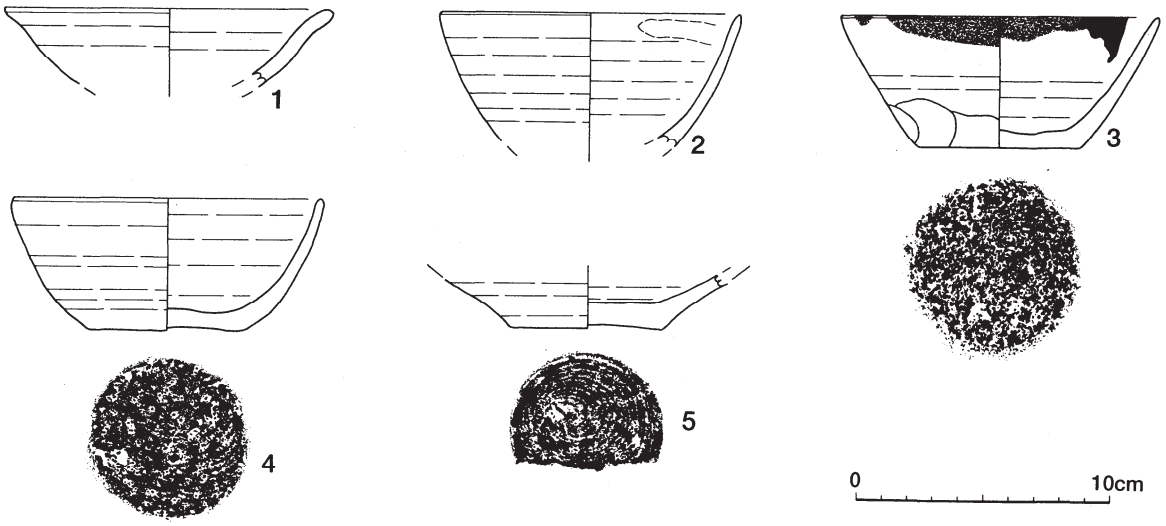
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒多量　炭化物　焼土粒微量
第２層　褐色土　10YR4/4　炭化物・焼土粒微量
第３層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物　焼土粒微量
第４層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物・焼土粒微量
第５層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　炭化物・焼土粒微量
第６層　にぶい黄褐色土　10YR7/4
第７層　褐色土　10YR4/6　炭化物・焼土粒微量
第８層　赤褐色土　5YR4/8
第９層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量
第10層　暗赤褐色土　5YR3/6　焼土粒混入　炭化物微量

図313　第410号竪穴住居跡（２）

遺物出土状況



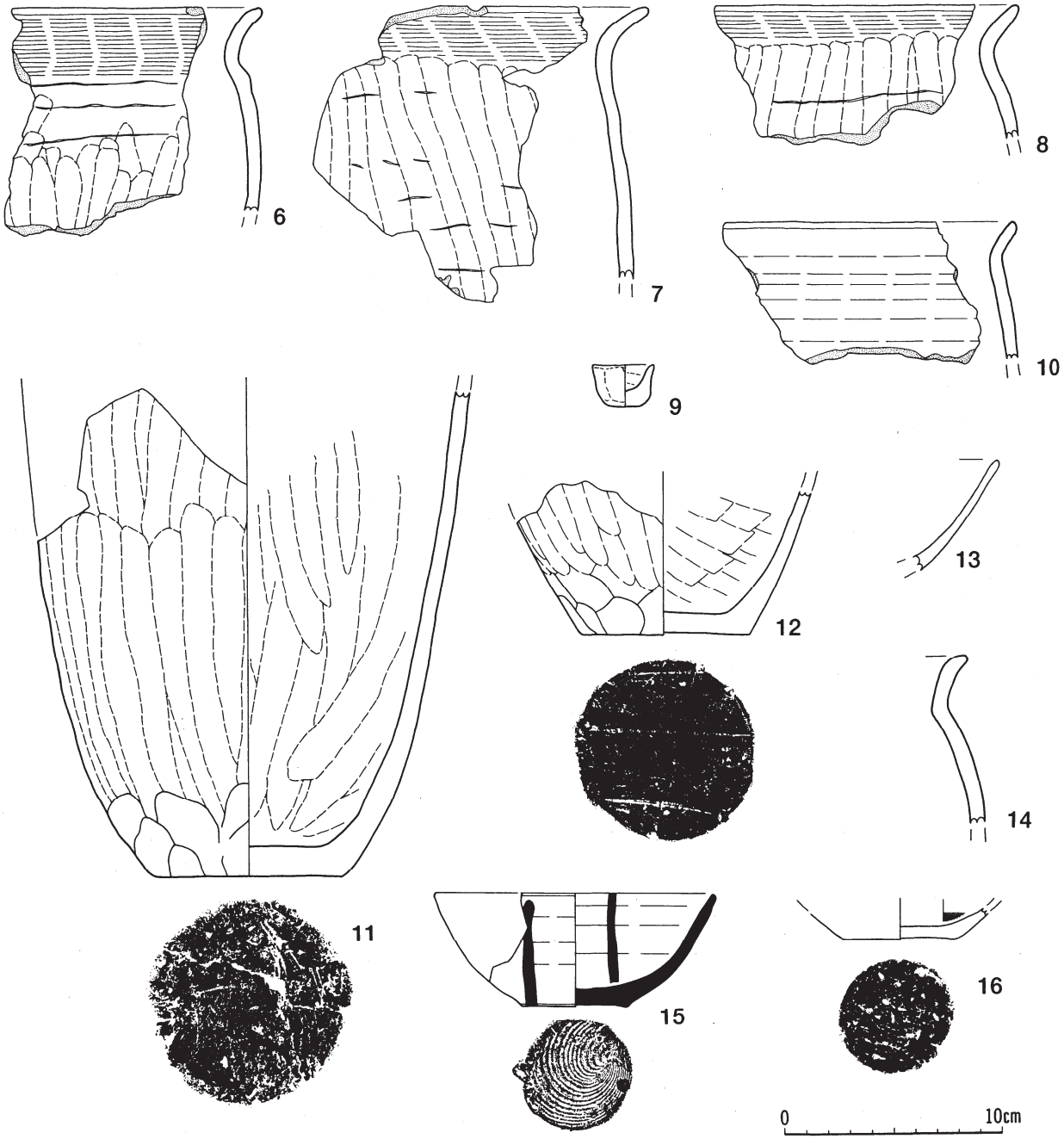
0　2m



0　10cm

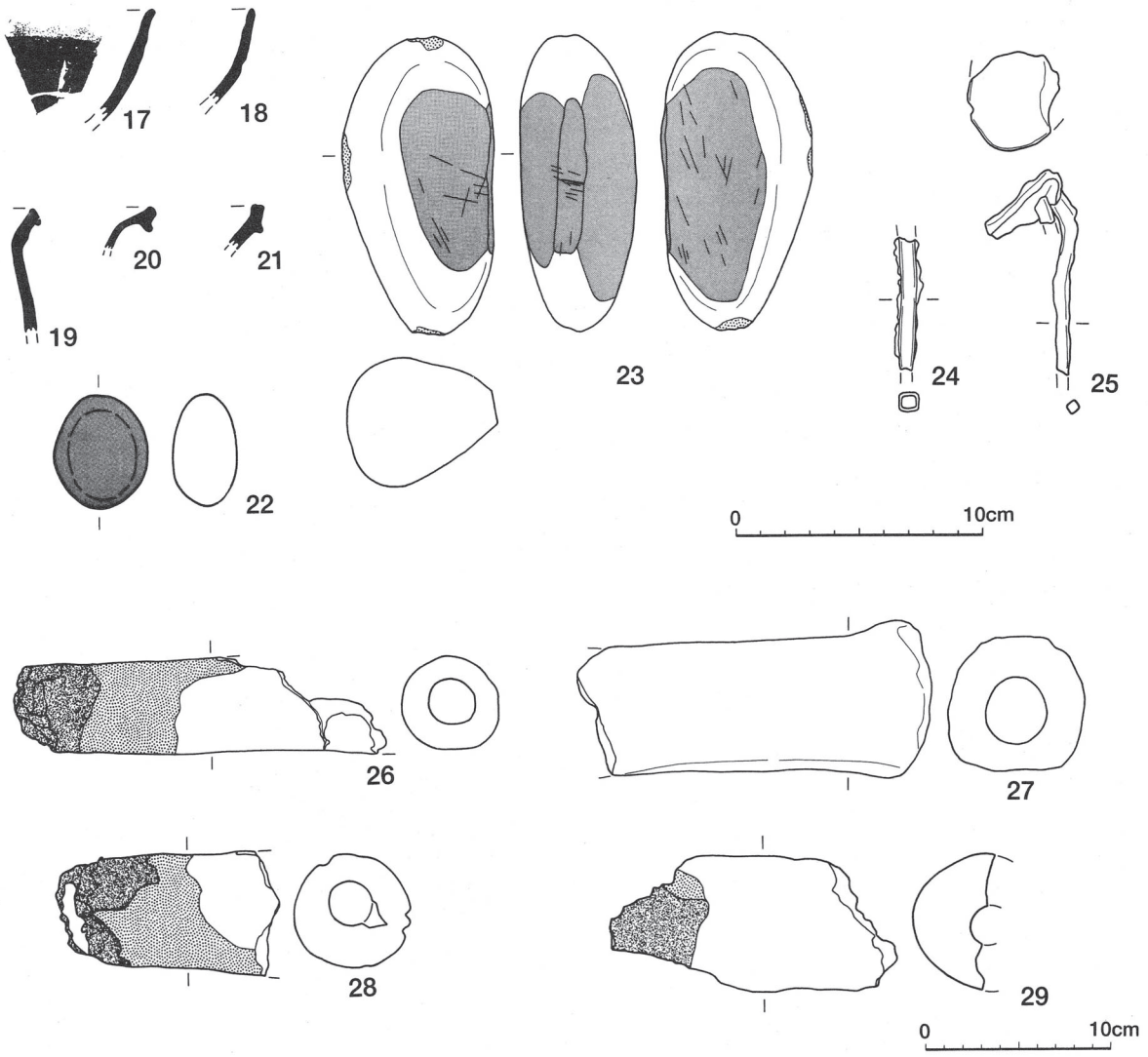
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	床直	(13.0)	(3.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-3
2	土師器	坏	床面	(12.0)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-119
3	土師器	坏	床面	12.4	5.2	6.4	ロクロ	ロクロ	ヘラケズリ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	不明	BⅡa	スス状炭化物付着 灯明Ⅲ? P-34
4	土師器	坏	床面	—	(5.3)	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡb	P-18
5	土師器	坏	カマドフク土	—	(2.1)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り	BⅡ	P-1

図314　第410号竪穴住居跡（3）・出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
6	土師器	甕	フク土	(18.0)	(10.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-84
7	土師器	甕	床直	(16.0)	(13.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-19、12、38
8	土師器	甕	Pit 8 フク土	(16.0)	(6.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-4
9	土師器	小型土器	床直	2.9	1.8	1.8	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	
10	土師器	甕	床直	(20.0)	(6.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-33
11	土師器	甕	フク土	—	(22.5)	8.6	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	AⅠ	P-69、110
12	土師器	甕	カマド床面	—	(7.1)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り	A	P-18（支脚）
13	土師器	坏	フク土	(13.0)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-38
14	土師器	甕	フク土	(23.6)	(7.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-86
15	須恵器	坏	Pit 8	(12.8)	5.2	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切	—	外内面火だすき痕
16	土師器	坏	フク土	—	(1.5)	(5.2)	—	—	不明	—	—	不明	糸切り	BⅠ?	内面黒色処理? P-116

図315　第410号竪穴住居跡出土遺物（2）



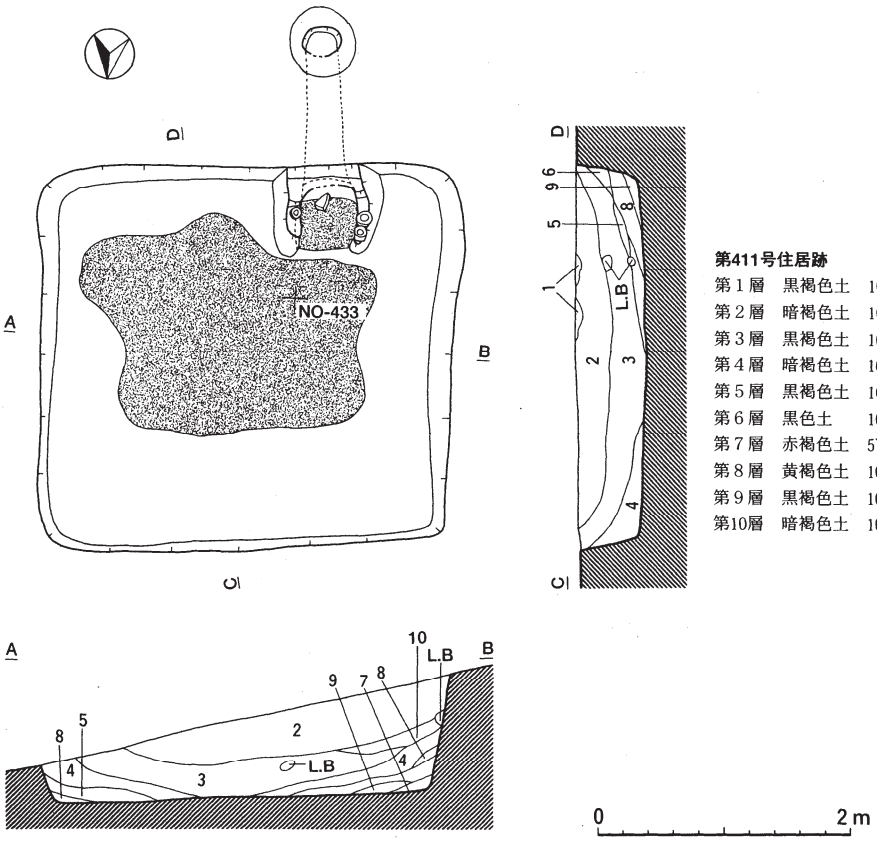
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
17	須恵器	坏	フク土	—	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	外面刻書 P106 外内面火だすき痕
18	須恵器	坏	フク土	—	(3.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-46
19	須恵器	甕	フク土	—	(5.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-88
20	須恵器	壷	床直	—	(1.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-1
21	須恵器	壷	フク土	—	(1.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	石質	分類	備考
22	床直	4.6	3.9	2.6	50	凝	磨石	S-1 炭化物付着
23	カマド床面	12.2	6.2	5.0	395	流	砥石	S-1 炭化物付着

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
24	フク土	5.4	0.8	0.8	5.4	棒状	Fe-1
25	フク土	8.4	3.1	0.6	32.5	紡錘車	Fe-1

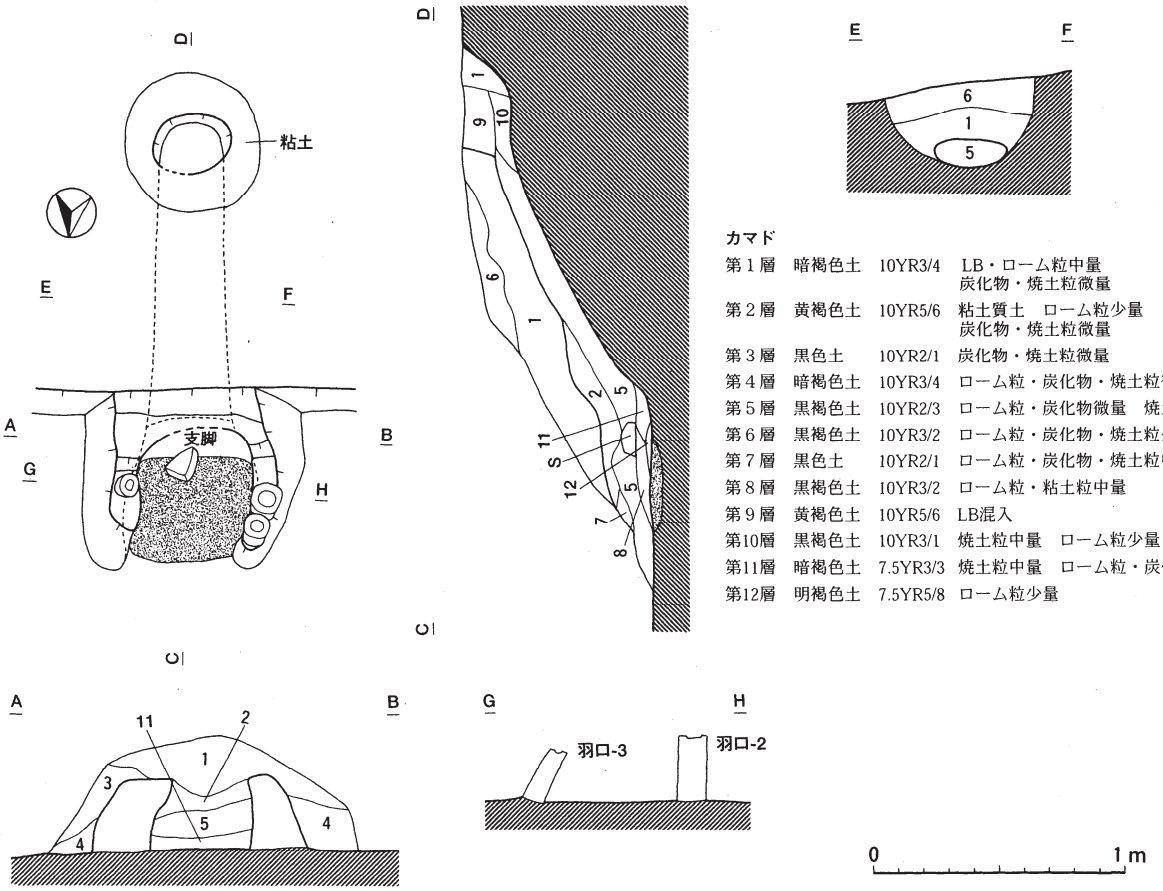
図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
26	カマド芯材	(25.3)	6.3×6.6	3.1	(722)	B	ナデ	羽口-8（芯材）
27	カマド 床面	(24.1)	9.3	4.6	(1,762)	D_2	ナデ	羽口-7
28	フク土	(15.2)	7.6×7.9	3.0	(710)	A	ナデ	羽口-5、10、11
29	カマド 床面	(19.5)	(9.2)×(5.7)	—	(606)	不明	ナデ	羽口-2

図316　第410号竪穴住居跡出土遺物（3）



第411号住居跡

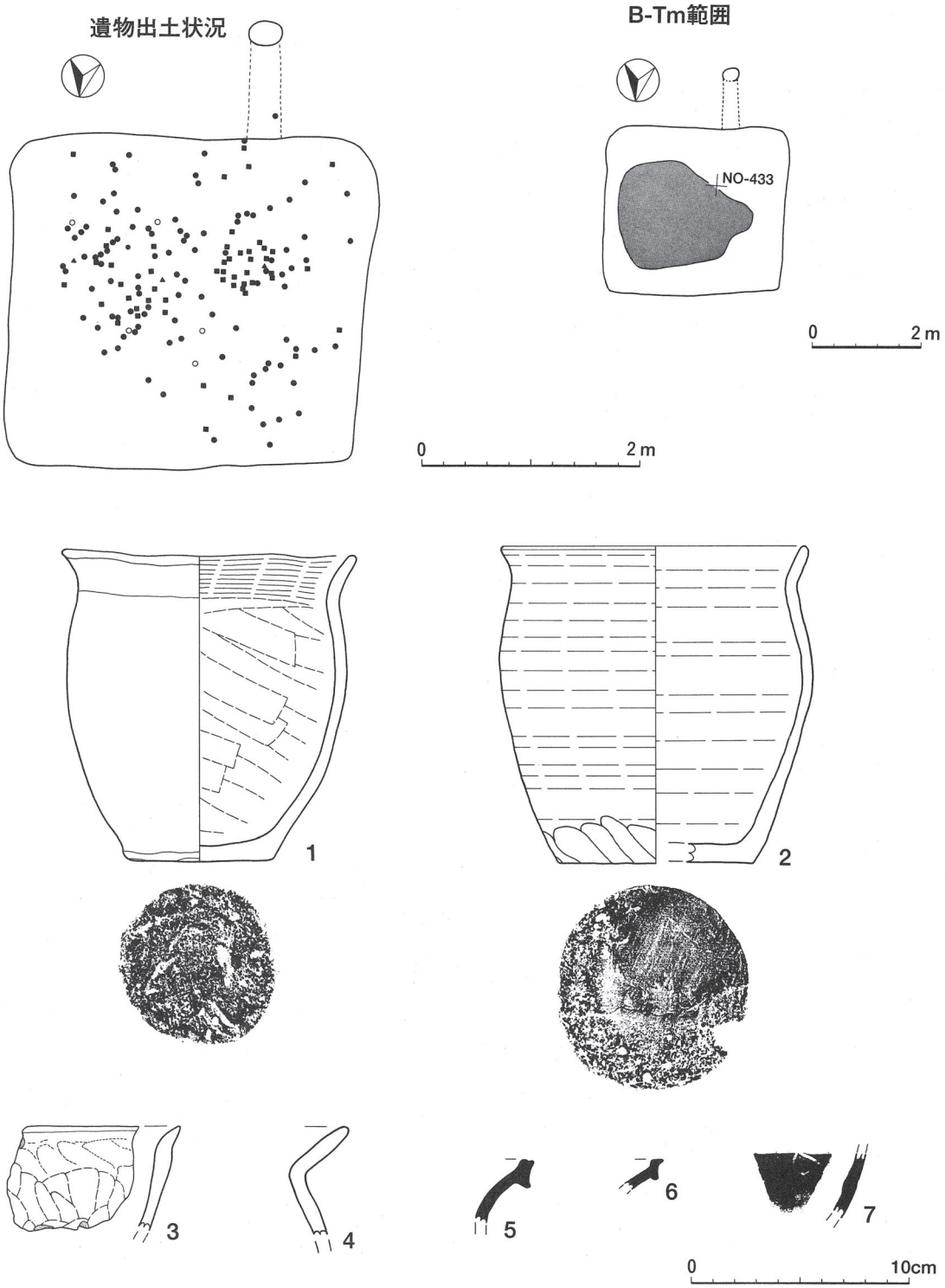
第1層	黒褐色土	10YR2/2	B-Tm混入
第2層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・炭化物少量
第3層	黒褐色土	10YR2/3	LB・ローム粒少量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量
第5層	黒褐色土	10YR2/2	
第6層	黒色土	10YR2/1	炭化材層
第7層	赤褐色土	5YR4/8	焼土層
第8層	黄褐色土	10YR5/8	粘土質土　パミス少量
第9層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第10層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量



カマド

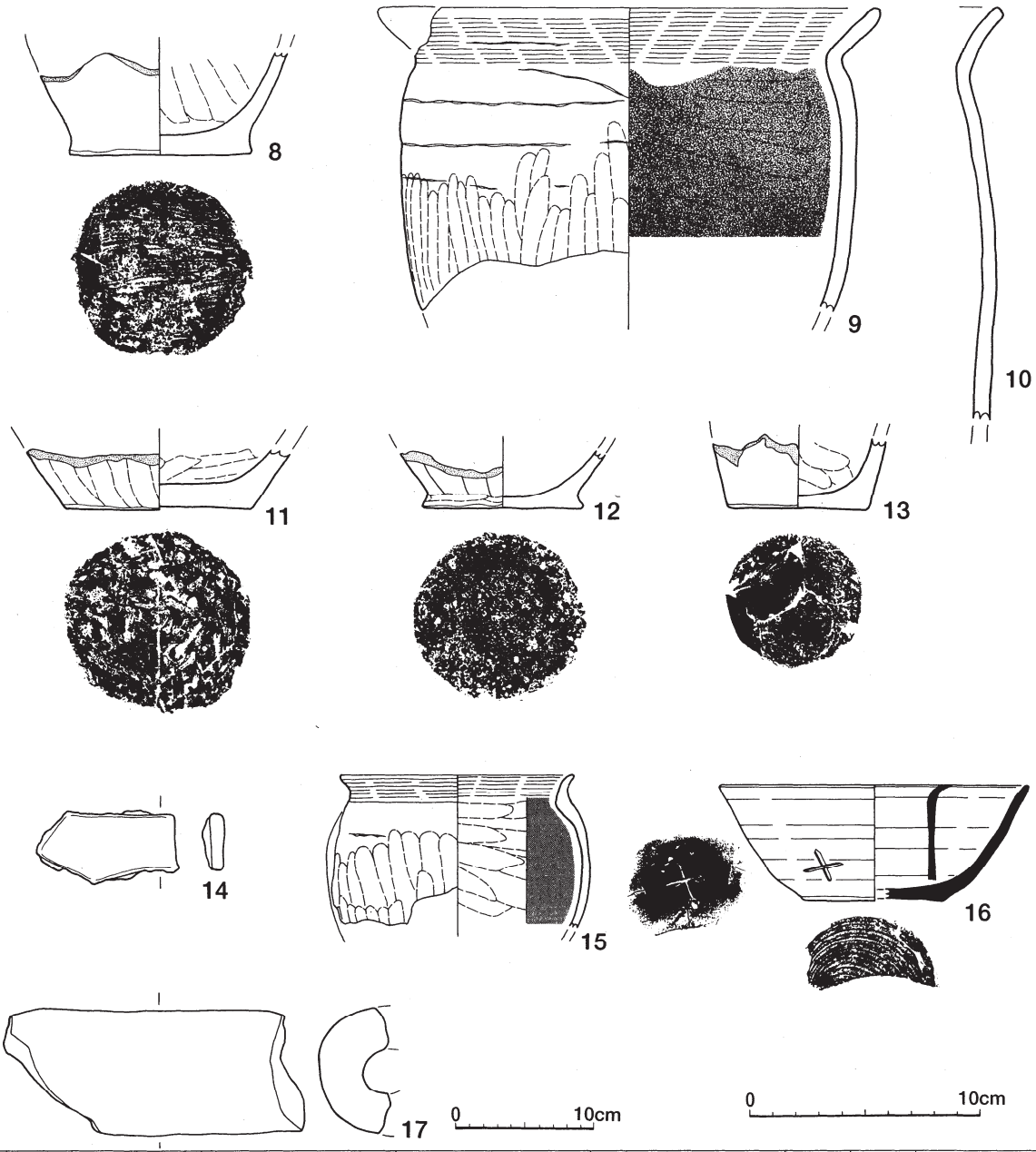
第1層	暗褐色土	10YR3/4	LB・ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
第2層	黄褐色土	10YR5/6	粘土質土　ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
第3層	黒色土	10YR2/1	炭化物・焼土粒微量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物微量　焼土粒少量
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第7層	黒色土	10YR2/1	ローム粒・炭化物・焼土粒中量
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・粘土粒中量
第9層	黄褐色土	10YR5/6	LB混入
第10層	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒中量　ローム粒少量
第11層	暗褐色土	7.5YR3/3	焼土粒中量　ローム粒・炭化物少量
第12層	明褐色土	7.5YR5/8	ローム粒少量

図317　第411号竪穴住居跡（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	カマド フク土	(13.6)	14.3	6.8	不明	不明	不明	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	AⅡe	P-5
2	土師器	甕	フク土 床面	14.2	14.5	(9.0)	ロクロ	ロクロ	ヘラケズリ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ナデツケ	BⅡ	P-79、109、30
3	土師器	鍋	フク土	(10.0)	(4.8)	—	ユビ圧痕	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	P-97
4	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-3
5	須恵器	壺	フク土	—	(2.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
6	須恵器	壺	フク土	—	(1.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	自然釉
7	須恵器	坏	確認面	—	(2.9)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面刻書 火だすき痕

図318　第411号竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）

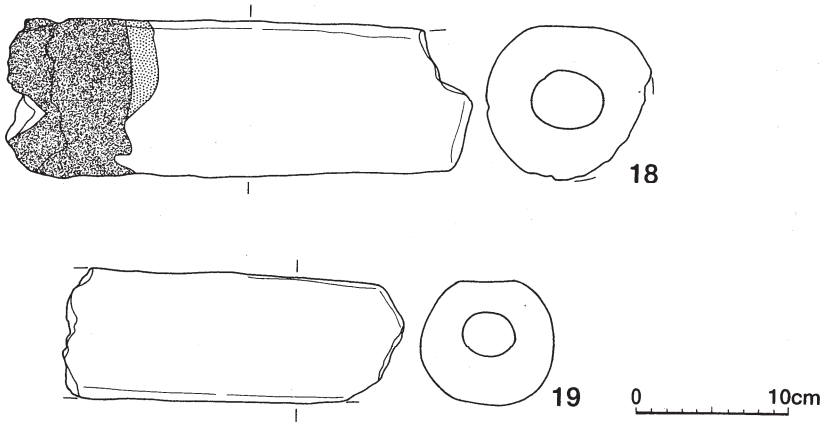


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
8	土師器	甕	カマド フク土	—	4.4	8.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-7
9	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(13.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-9
10	土師器	甕	カマド フク土	(24.0)	(18.0)	—	不明	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-4
11	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	8.2	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り →ヘラナデ	A	P-86
12	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	7.0	—	—	ヘラナデ ヘラケズリ	—	—	不明	ナデツケ	A	
13	土師器	鉢	フク土	—	(3.2)	6.0	—	—	ナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
15	土師器	甕	フク土	(10.2)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅢ	P-103 内面黒色処理
16	須恵器	坏	フク土	(13.4)	5.1	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	—	外面刻書 P-71、72、73、74

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
14	フク土	6.2	3.1	1.5	33.2	板状	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
17	カマド芯材	(21.8)	(9.1)×(5.2)	—	(768)	不明	ナデ	羽口-1　砂粒多量

図319　第411号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
18	カマド芯材	30.9	10.2×(10.4)	3.9×4.8	(2,260)	B	ナデ	羽口-2　砂粒多量
19	カマド芯材	(22.6)	8.3×8.9	3.0×3.6	(1,637)	D2	ナデ	羽口-3

図320　第411号竪穴住居跡出土遺物（3）

第411号竪穴住居跡（図317～図320）

［位　置］　調査区北東部のＮＮ・ＮＯ―432・433グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁３ｍ８cm、西壁が２ｍ98cm、南壁３ｍ30cm、北壁３ｍ20cmのほぼ方形である。床面積は約8.52㎡で、主軸方位はＮ－176°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁32cm、西壁84cm、南壁47cm、北壁49cmで床面から急に立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で焼土が拡がる。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

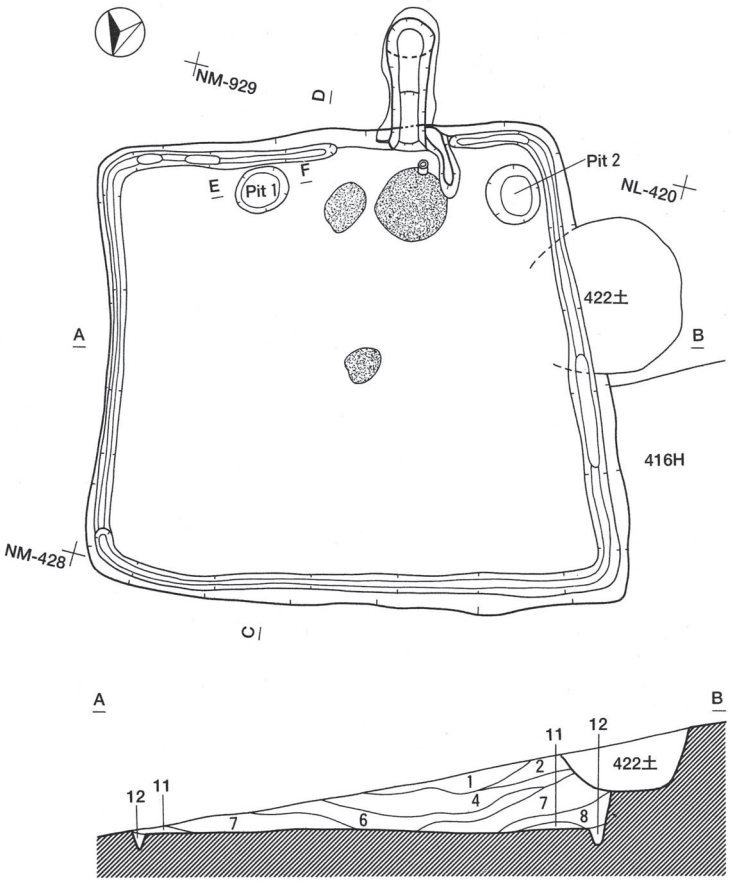
［カマド］　南壁西側に羽口を芯材として粘土で用いて構築している。焚口部には礫を支脚としている。煙道は地山を掘り下げ粘土で上部を覆う地下式で、住居跡外に120cmほど延びる。煙道底面は、煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

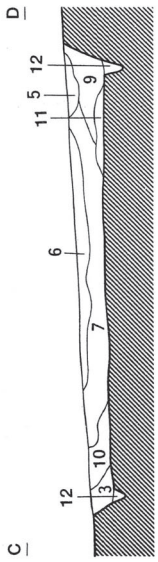
［堆積土］　堆積土は10層である。１層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入し、７層は焼土層である。

［出土遺物］　覆土から多量の遺物が出土している（図318）。土師器や須恵器の坏、甕などがみられる。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

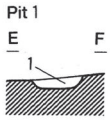
（中嶋友文）

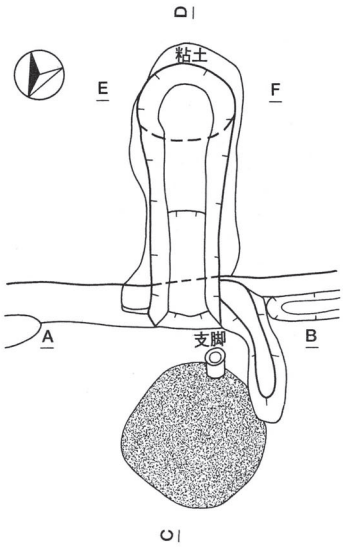


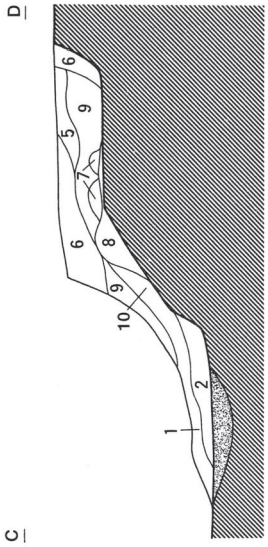


第413号住居跡

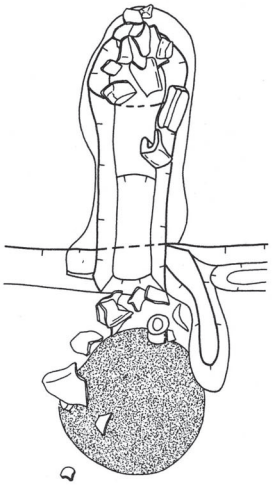
第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒 炭化物微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒 炭化物・ 焼土粒微量
第３層	明黄褐色土	10YR6/6	
第４層	黒褐色土	10YR2/3	B-Tm混入 ローム粒中量・ 炭化物微量
第５層	暗褐色土	10YR3/4	B-Tm混入 炭化物微量
第６層	暗褐色土	10YR3/3	B-Tm混入 ローム粒・ 炭化物微量
第７層	暗褐色土	10YR3/4	B-Tm混入 炭化物 焼土粒微量
第８層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量 炭化物微量
第９層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒 炭化物微量
第10層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒中量 炭化物微量
第11層	にぶい黄褐色	10YR5/4	粘土
第12層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量 炭化物微量

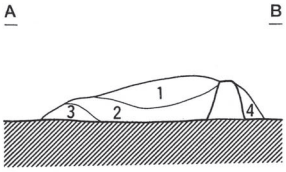


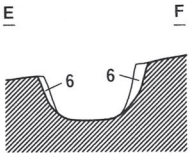




カマド遺物出土状況







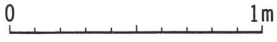
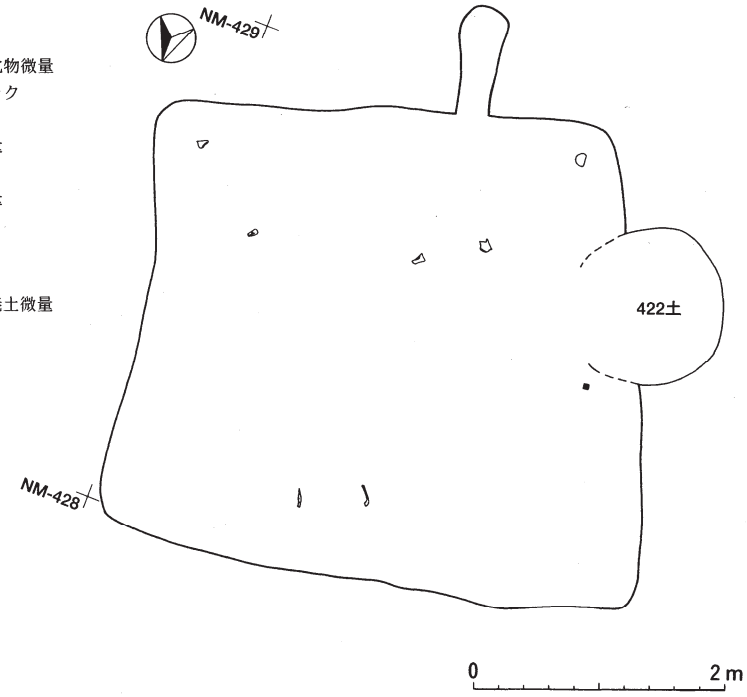


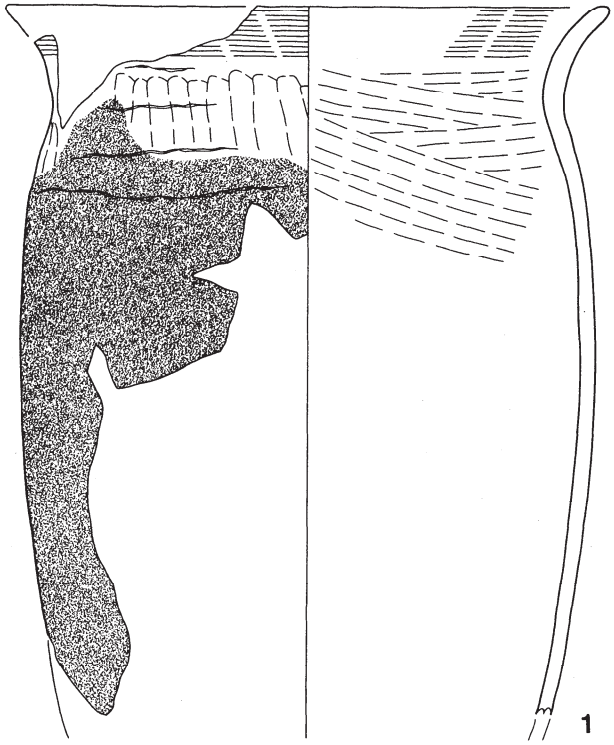
図321　第413号竪穴住居跡（１）

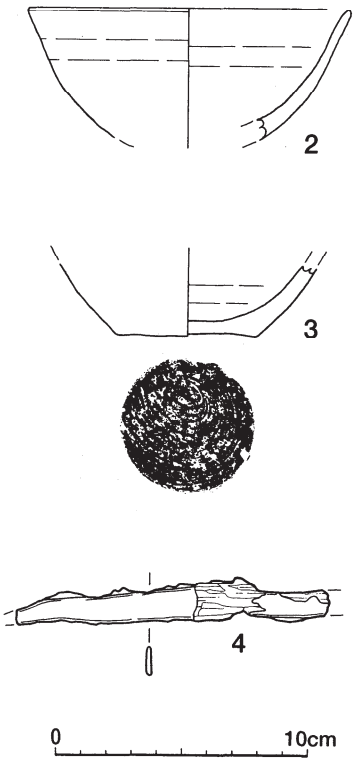
遺物出土状況

カマド

第１層	褐色土	7.5YR4/4	焼土・炭化物微量
第２層	暗赤褐色土	5YR3/4	焼土ブロック
第３層	にぶい褐色土	10YR4/3	粘土
第４層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物微量
第５層	褐色土	10YR4/4	
第６層	明褐色土	7.5YR5/6	炭化物微量
第７層	暗褐色土	10YR3/3	焼土微量
第８層	暗褐色土	10YR3/4	
第９層	赤褐色土	5YR4/6	
第10層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土微量



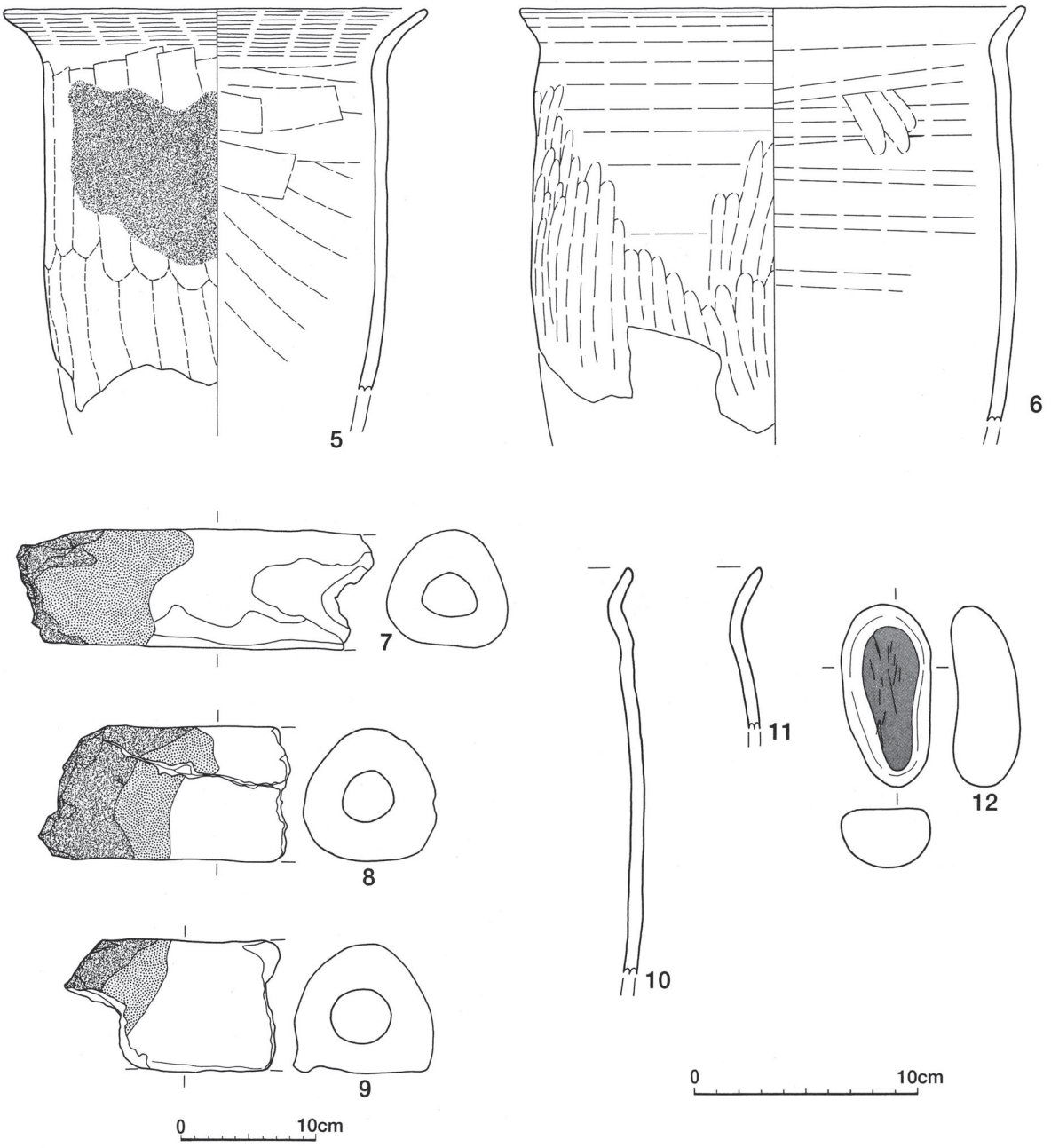




図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	カマドフク土	(24.0)	(28.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P-4、13 外面粘土付着 P-10 輪積痕
2	土師器	坏	床直	(13.0)	(5.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	BⅡ	P-3
3	土師器	坏	カマドフク土	—	(2.8)	5.4	—	—	不明	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-7

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
4	床直	12.4	1.2	0.2	18.2	刀子	木質部残存

図322　第413号竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）

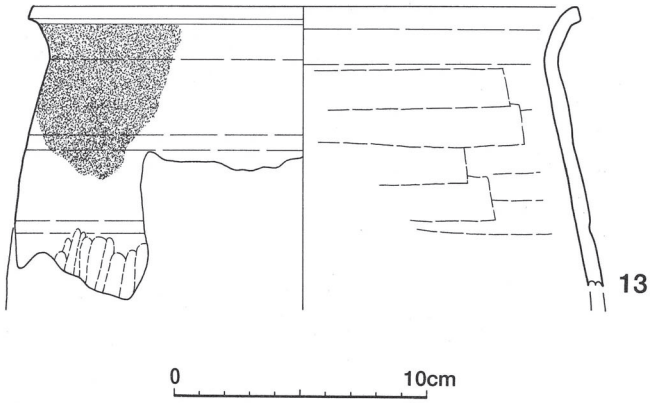


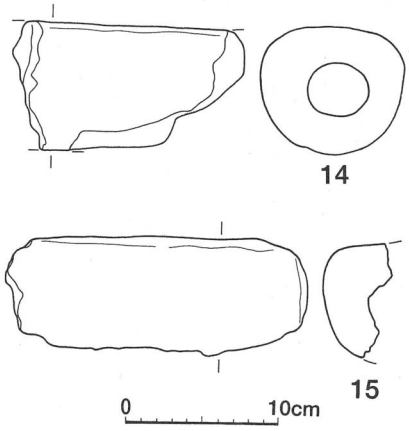
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
5	土師器	甕	カマド フク土	(19.0)	(17.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	外面粘土付着 P-2
6	土師器	甕	カマド 11層	(22.6)	(19.0)	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	—	B I	P-1-1、P-1-2、P-1-3
7	土師器	甕	カマド 11層	(20.0)	(18.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	A	P-1-4
8	土師器	甕	カマド フク土	(20.0)	(7.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕　P-6

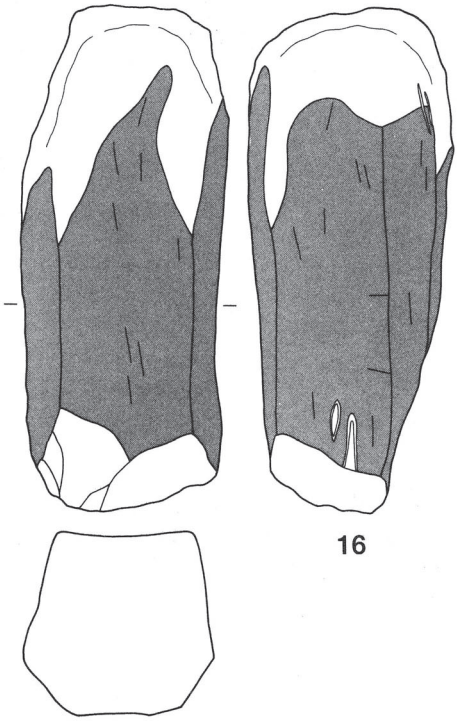
図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
12	床直	8.1	4.0	2.6	10.0	細凝	砥石	S-1

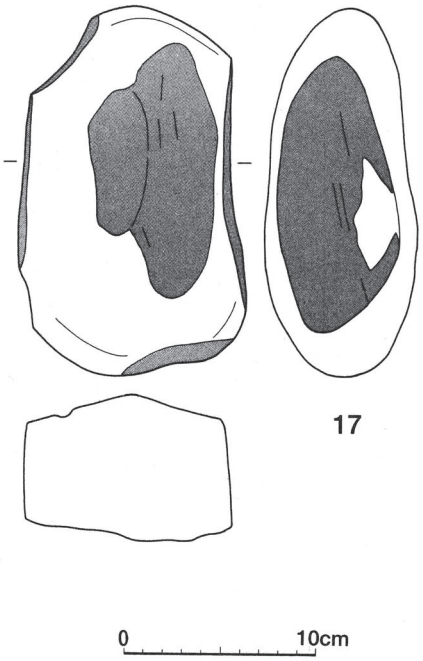
図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
7	カマド床直	(26.6)	8.6×9.0	3.3×4.0	(1,680)	D1	ナデ	羽口-1
8	カマド床直	(18.5)	9.9×10.1	3.8	(1,560)	B	ナデ	支脚
9	フク土	(16.0)	9.6×10.6	4.1	(922)	C	ナデ	羽口-4

図323　第413号竪穴住居跡出土遺物（2）









図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
13	土師器	甕	カマドフク土	(21.6)	(11.6)	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	B	P-1 外面粘土付着 P-3

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	石質	分類	備考
16	床直	23.5	10.1	9.5	3,875	安	砥石	S-2
17	カマド11層	19.9	11.3	7.7	2,272	流	砥石	S-1

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
14	カマドフク土	(15.4)	8.4×9.6	3.5×4.1	(880)	B	—	羽口-1
15	カマドフク土	(19.9)	(7.5)×(4.6)	—	(640)	B	ナデ、指痕	羽口-3

図324　第413号竪穴住居跡出土遺物（3）

第413号竪穴住居跡（図321～図324）

［位　置］　調査区北東部のＮＬ－428グリッドに位置する。

［重　複］　第416号住居跡、第422号土坑と重複し、本住居跡は、第422号土坑より古く、第416号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　東壁は３ｍ50cm、西壁が３ｍ83cm、南壁は３ｍ65cm、北壁は４ｍ35cmで北西隅が張り出す不正方形である。床面積は約13.54㎡で、主軸方位はＮ－162°－Ｅである。

［壁・床面］　斜面のため東側は削平されているが西壁89cm、南壁30cm、北壁27cmを測り、急に立ち上がる。床面は平坦でカマド脇と住居跡中央に焼土がみられる。

［周　溝］　幅９～21m、深さ５～29cmの周溝が一巡する。

［ピット］　検出されたピットはカマドの両脇のピット１（17cm）とピット２（16cm）で、いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に粘土を用いて構築されている。焚口部に羽口を置き支脚とし、ソデ部は西側のみ検出した。煙道は半地下式で、住居跡外の90cmほど延びる。煙道底面は、中央付近までやや急に上がり、その後、煙出部にまで水平に進み急に立ち上がる。煙出部から土師器や羽口などの遺物が出土している。

［堆積土］　堆積土は12層に分層される。４層から７層にＢ－Ｔｍ火山灰が堆積している。

［出土遺物］　カマドから土師器の坏、甕などのほか床直から鉄製の刀子が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

第415号竪穴住居跡（図325・図326）

［位　置］　調査区北東部のＮＭ～ＮＯ－441～443グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　斜面のため南側と東側が削平され、残存する部分は、西壁４ｍ80cm、北壁５ｍ10cmである。平面形及び規模は不明である。

［壁・床面］　壁高は、西壁20cm、北壁26cmを測り、床面からやや急に立ち上がる。床面は、やや起伏がみられ、中央部分にやや堅い貼床がみられる。

［周　溝］　幅12～18cm、深さ10cmの周溝を北壁と西壁寄りに検出している。

［ピット］　ピットは、11個検出した。いずれも柱穴（深さ20～55cm）と考えられるが配置などについては、不明である。

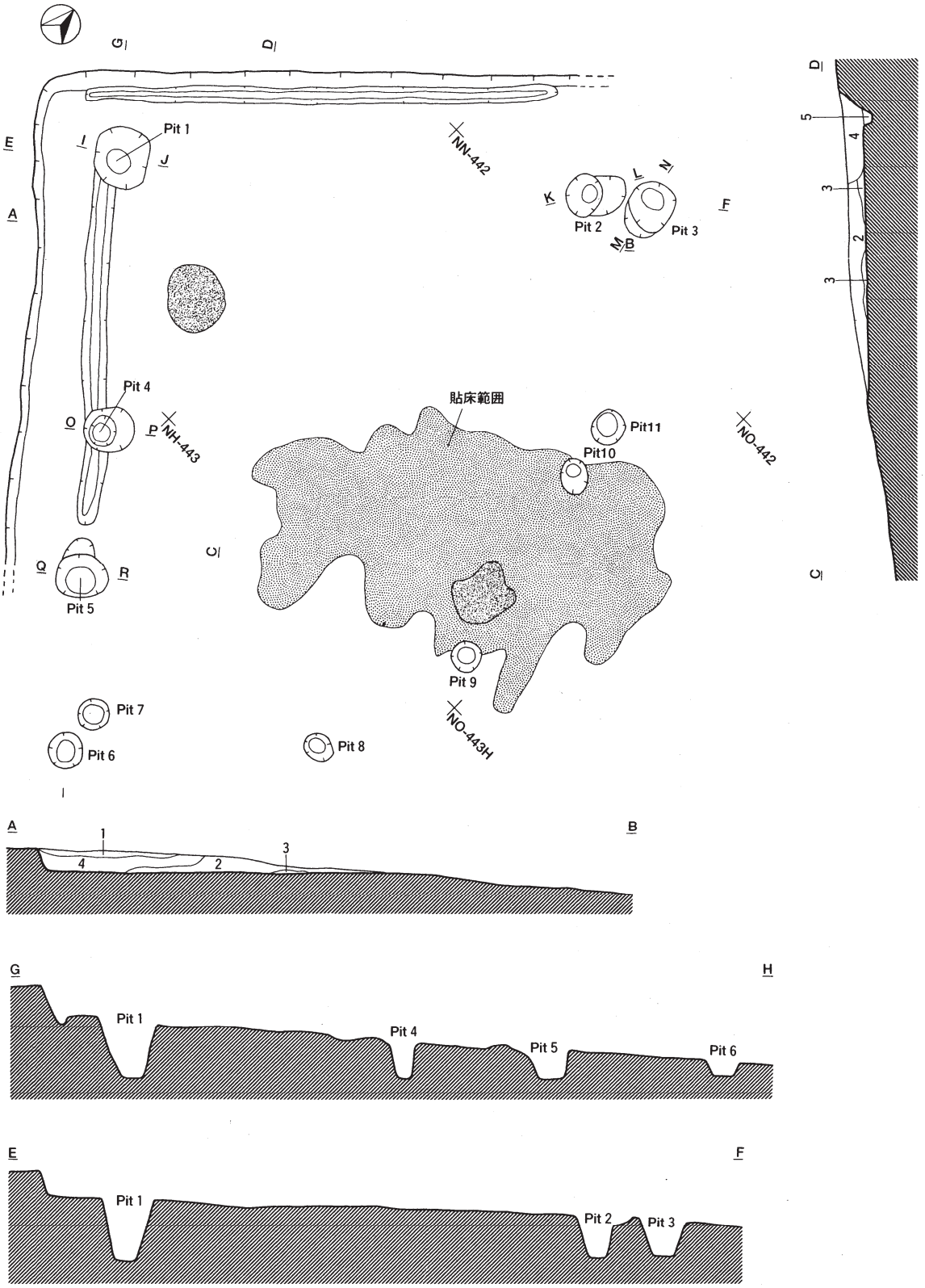
［カマド］　検出されなかったが床面に焼土が検出され、火床面の可能性が考えられる。

［堆積土］　堆積土は、５層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土師器の坏などが出土している。

［時　期］　出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

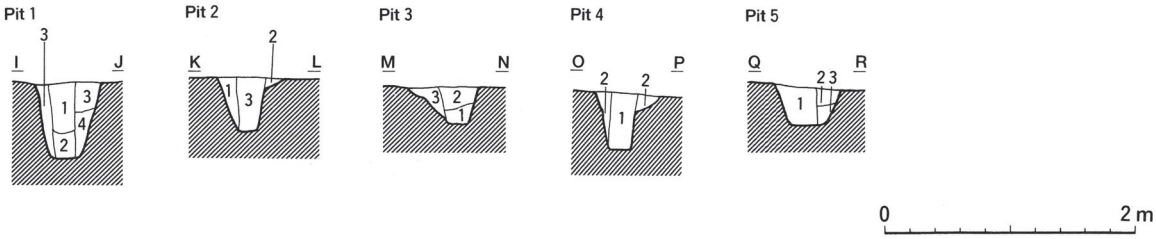


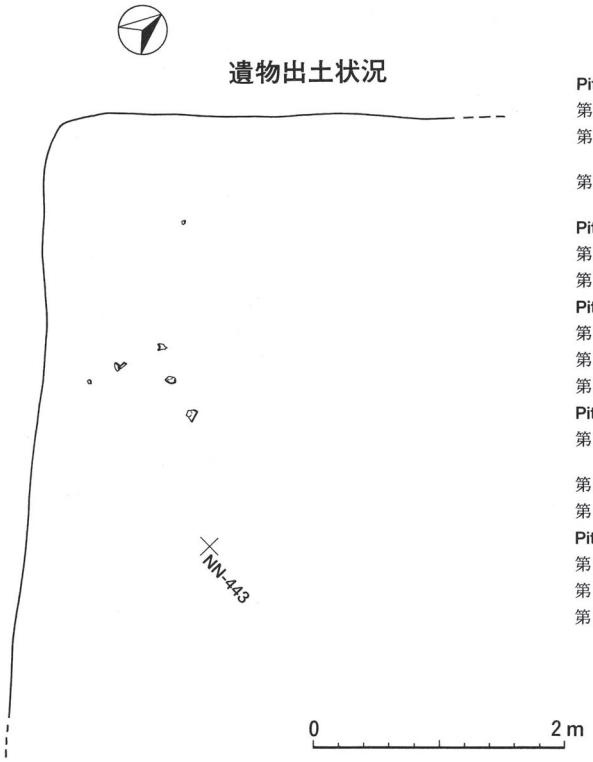
第415号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/2　LB・パミス・炭化物・焼土粒微量
第２層　暗褐色土　10YR3/3　粘土粒少量　パミス・炭化物微量
第３層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第４層　赤褐色土　5YR4/8　焼土粒微量
第５層　黒褐色土　10YR3/2

0　2 m

図325　第415号竪穴住居跡（１）





Pit 1

第１層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・パミス・焼土粒微量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	暗褐色土（10YR3/4）混入 ローム粒・粘土粒微量
第３層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土（10YR4/4）混入 粘土粒少量

Pit 2

第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量　パミス微量
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物微量

Pit 3

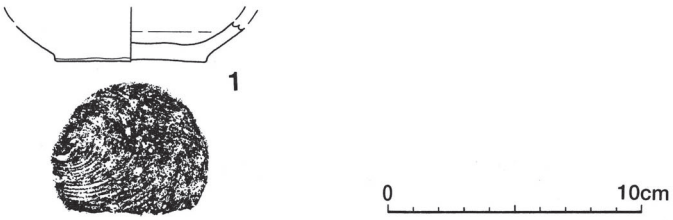
第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒・粘土粒微量
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物微量

Pit 4

第１層	黒色土	10YR2/1	ローム粒・パミス・炭化物・ 焼土粒微量
第２層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・パミス微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物微量

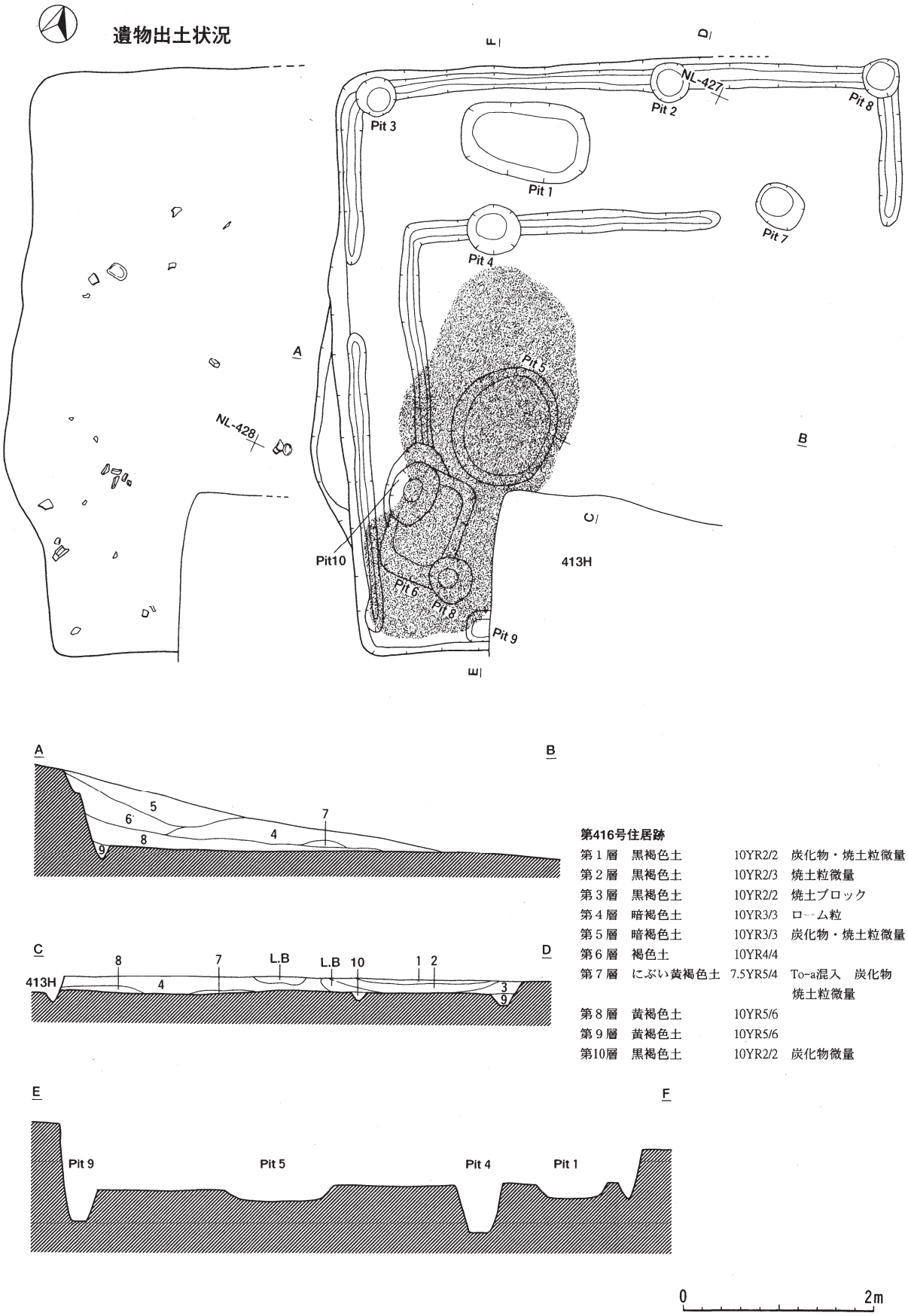
Pit 5

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物微量
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・粘土ブロック微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	LB・炭化物・焼土粒微量



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計　測　値（cm）			外　面　調　整			内　面　調　整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	—	(1.6)	(6.0)	—	—	不明	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-4

図326　第415号竪穴住居跡（２）・出土遺物



第416号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物・焼土粒微量
第２層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	焼土ブロック
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒
第５層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒微量
第６層	褐色土	10YR4/4	
第７層	にぶい黄褐色土	7.5YR5/4	To-a混入　炭化物 焼土粒微量
第８層	黄褐色土	10YR5/6	
第９層	黄褐色土	10YR5/6	
第10層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物微量

図327　第416号竪穴住居跡

第416号竪穴住居跡（図327・図328）

［位　置］　調査区北東部のＮＫ～ＮＬ－426～428グリッドに位置する。

［重　複］　第413号住居跡と重複し、本住居跡が古い。また、本住居跡は拡張された可能性が高い。

［平面形・規模］　住居跡に切られていることと斜面のために東側と南側が削平されているが、残存する西壁６ｍ20cm、北壁（５ｍ90cm）を測り、平面形はほぼ方形と考えられる。床面積及び主軸方位は不明である。

［壁・床面］　壁高は西壁76cm、南壁70cm、北壁45cmで、南北壁は垂直に、西壁はやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられ、南西隅に焼土が拡がる。

［周　溝］　幅12～24cm、深さ10～16cmの周溝が南壁を除いて残存する壁に沿ってみられる。また、周溝の内側に幅16～25cm、深さ８～15cmの周溝が検出され、拡張前の周溝と考えられる。

［ピット］　検出されたピットは11個で、そのうち柱穴は、ピット４（52cm）、ピット７（14cm）、ピット９（35cm）と考えられ、もう１つの柱穴は、重複している第413号住居跡によって壊されている。その他のピットについては用途など不明である。

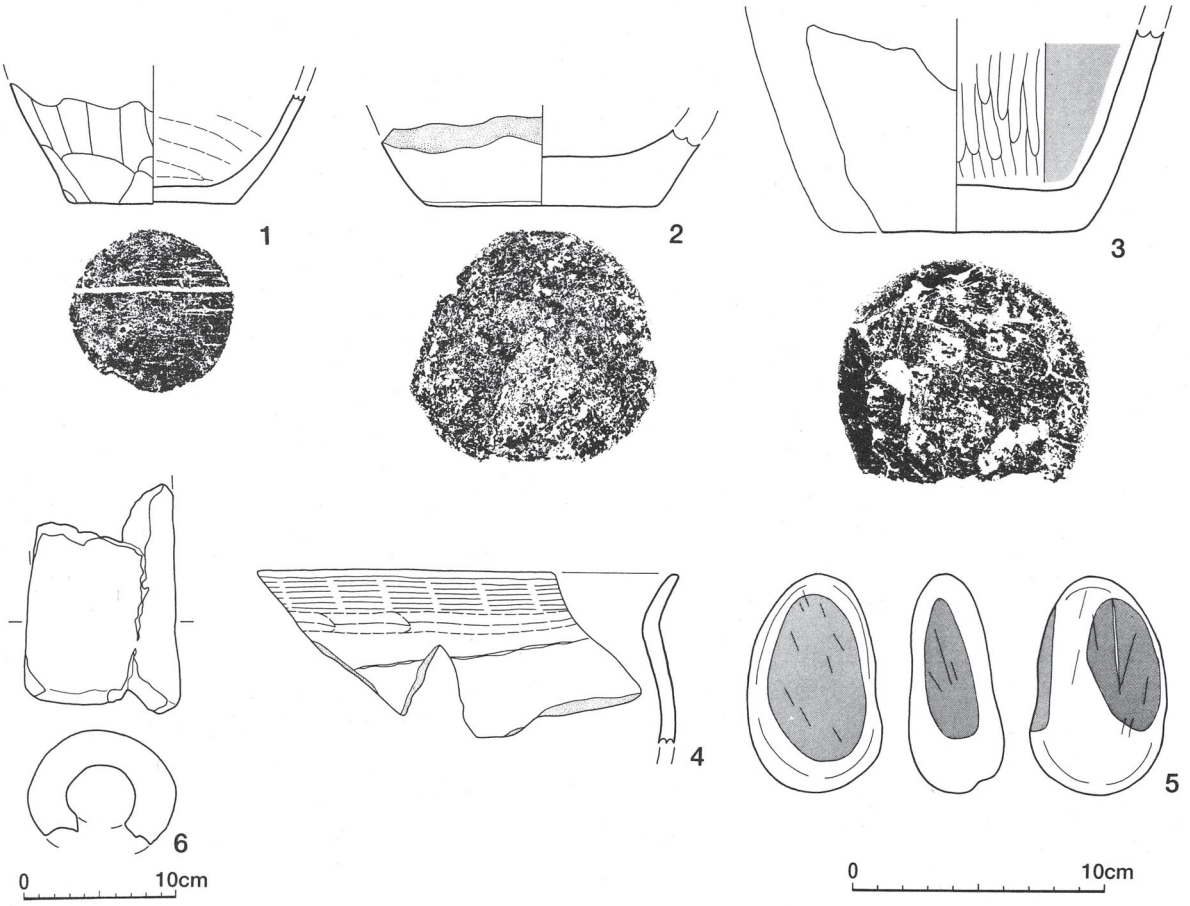
［カマド］　検出されなかった。

［堆積土］　堆積土は10層に分層され、７層にＴｏ－ａ火山灰が混入している。

［出土遺物］　床直から土師器の甕などのほか、ピット５から羽口が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	床直	—	(4.8)	6.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り	A	P-1
2	土師器	甕	床直	—	(3.6)	9.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ?	ナデツケ	A	P-2
3	土師器	甕	床直	—	(8.2)	10.0	—	—	不明	—	—	ヘラミガキ	ナデツケ	A	内面黒色処理
4	土師器	甕	フク土	(20.0)	(6.6)	—	ヨコナデ ヘラナデ	ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕、P-5

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	石質	分類	備考
5	フク土	8.7	5.1	3.2	180	凝	砥石	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
6	床直	(15.2)	9.7×(7.5)	—	(650)	不明		羽口-3

図328　第416号竪穴住居跡出土遺物

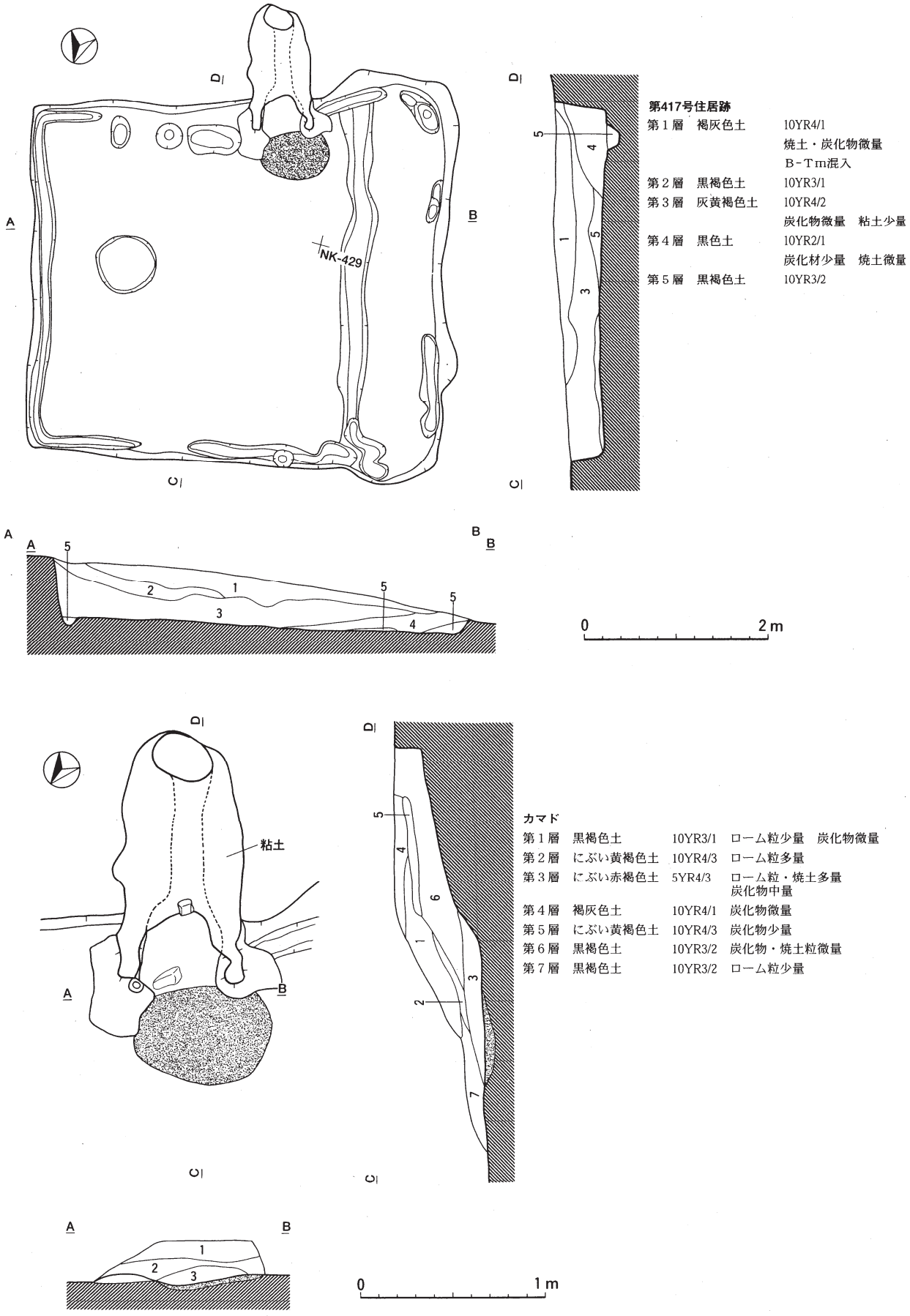
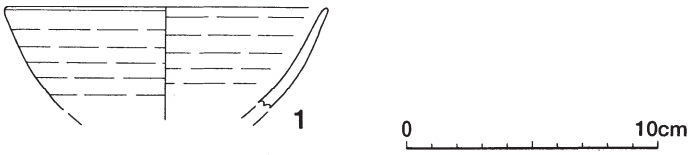


図329　第417号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(12.8)	(4.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-1

図330　第417号竪穴住居跡出土遺物

第417号竪穴住居跡（図329・図330）

［位　置］　ＮＩ・ＮＪ－428・429グリッドに位置する。

［重　複］　確認されなかった。

［平面形・規模］　東壁３m60cm、西壁４ｍ２cm、南壁４m38cm、北壁４m36cmであり、南西隅がやや広がる不整長方形である。床面積は．m²で、主軸方位はＮ－161°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁18cm、西壁67cm、南壁40～64cm、北壁43cmである。床面は西側へ緩く傾く。

［周　溝］　幅12～20cm、深さ８cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　ピットは３個検出された。東壁中央に、長軸64cm、短軸62cmのピット（ピット２）を検出した。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に構築されている。羽口を芯材としてこの上に粘土を覆って本体を築いている。煙道は、床面から12cm上の壁を削って構築した半地下式で、住居跡外に102cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

［その他の施設］　西側に、南北に掘り込まれた幅16～34cmの溝が検出された。

［堆積土］　堆積土は７層に分層され、１層にＢ－Tm火山灰が堆積している。

［出土遺物］　覆土から土師器の坏が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）

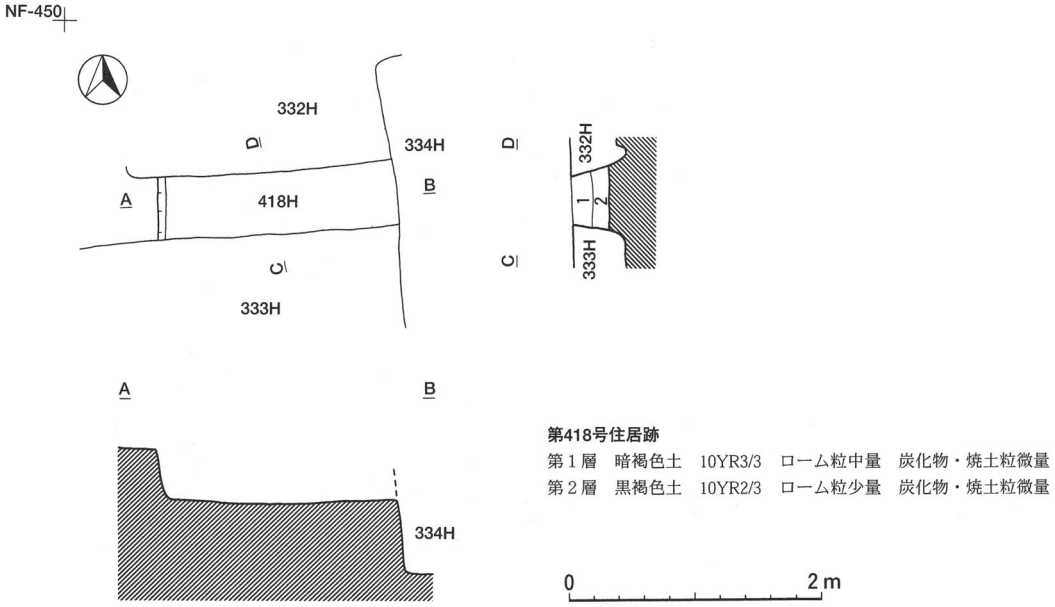


図331　第418号竪穴住居跡

第418号竪穴住居跡（図331）

［位　置］　調査区中央部のＮＦ・ＮＧ－450・451グリッドに位置する。

［重　複］　第332号・第333号・第334号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

［平面形］　重複しているため平面形及び主軸方位は不明である。

［壁・床面］　一部残存する西壁の壁高は、31cmでやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

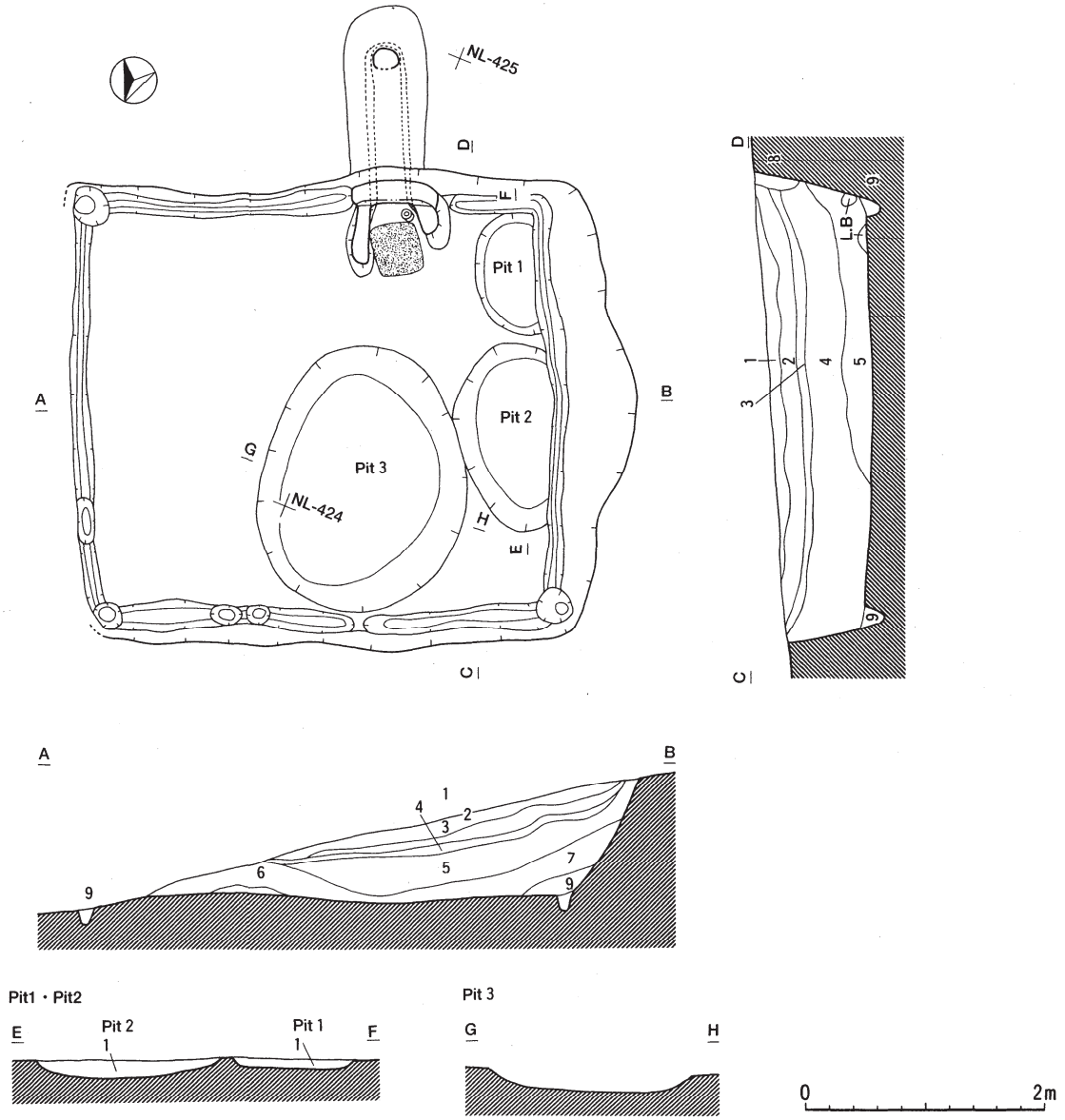
［カマド］　検出されなかった。

［堆積土］　堆積土は２層に分層される。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

［時　期］　重複関係から、９世紀前半に構築したと考えられる。

（中嶋友文）



第419号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR2/1	ローム数・炭化物・焼土粒微量
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム数・炭化物・焼土粒微量 B-Tm微量
第３層	暗褐色土	10YR3/4	ローム数・炭化物・焼土粒微量 B-Tm少量
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量　炭化物・焼土粒微量
第５層	褐色土	10YR4/6	ローム粒・L.B.中量　炭化物微量
第６層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・L.B.・炭化物・焼土粒微量
第７層	黄褐色土	10YR5/8	暗褐色土少量　粘土質土
第８層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒
第９層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物微量

Pit 1

第１層	明褐色土	7.5YR5/6	焼土粒中量・ローム粒・L.B.少量

Pit 2

第１層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	炭化物・焼土粒中量・ローム粒・L.B.中量

カマド

第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第３層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土粒微量・粘土質土
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第５層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒・炭化物微量　焼土粒少量
第６層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・炭化物微量　焼土粒少量
第７層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量　B-Tm少量
第８層	褐色土	7.5YR4/6	ローム出土　焼土微量
第９層	褐色土	10YR4/6	焼土粒中量　ローム粒少量
第10層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土・粘土微量

図332　第419号竪穴住居跡（１）

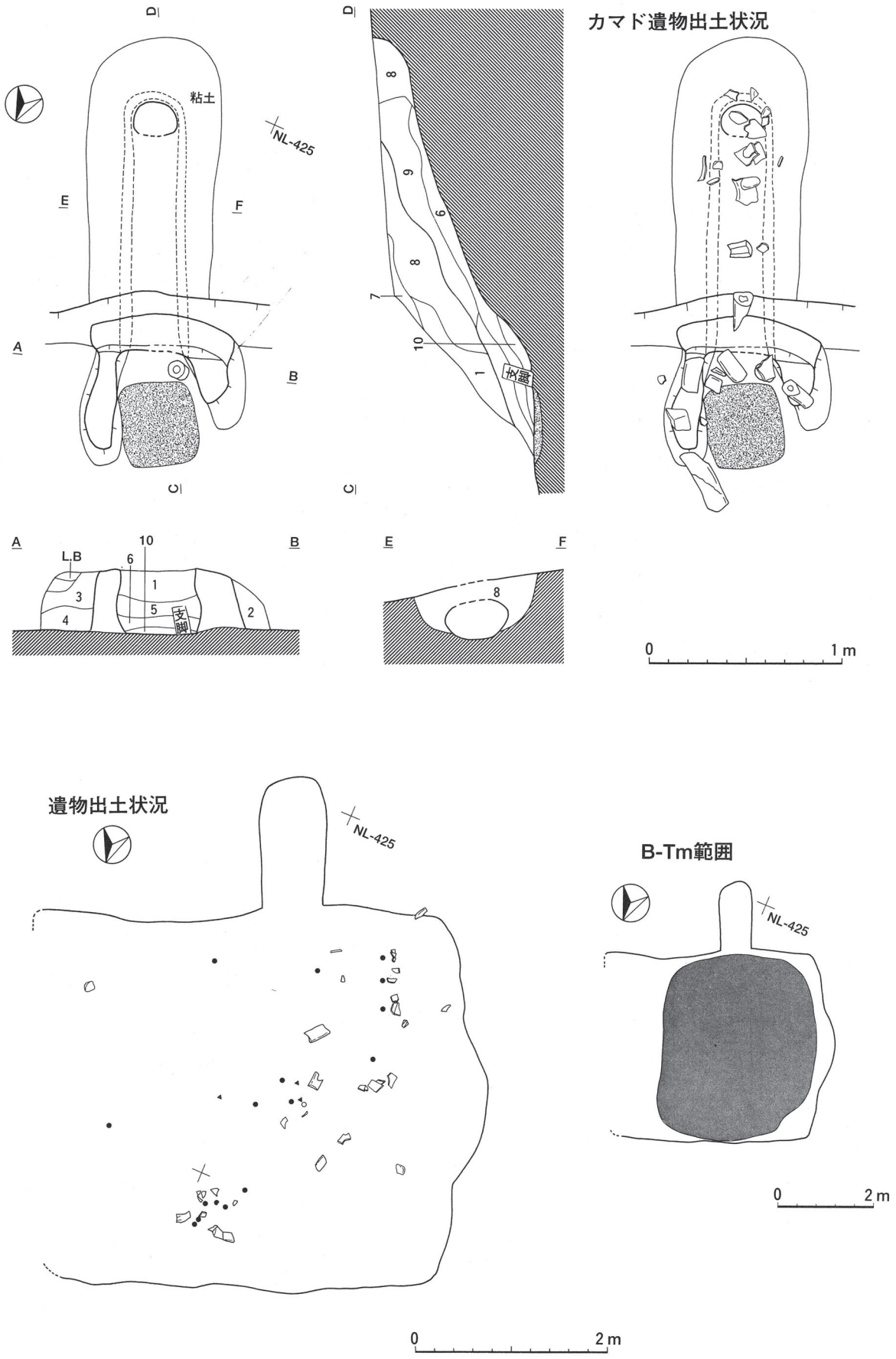
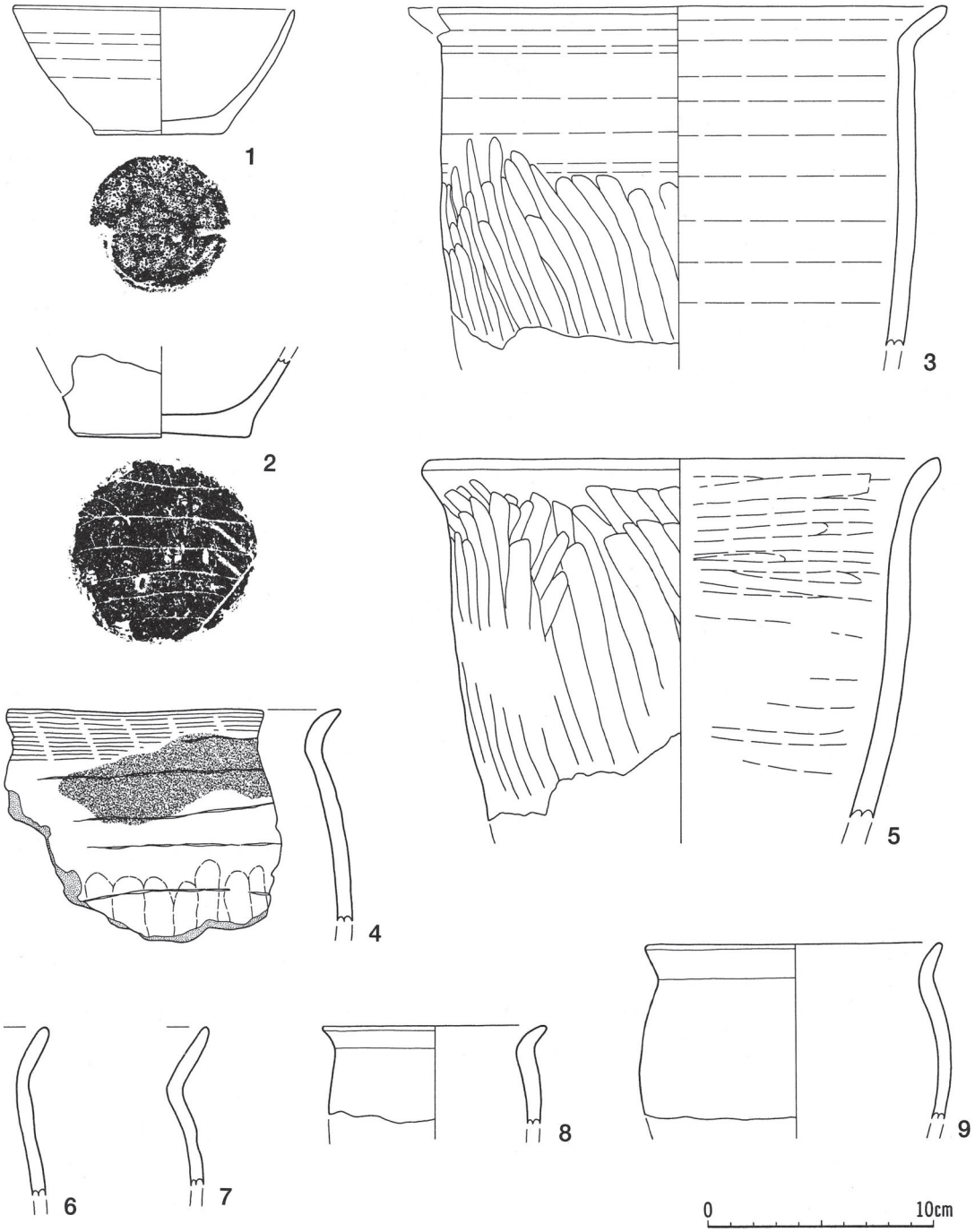
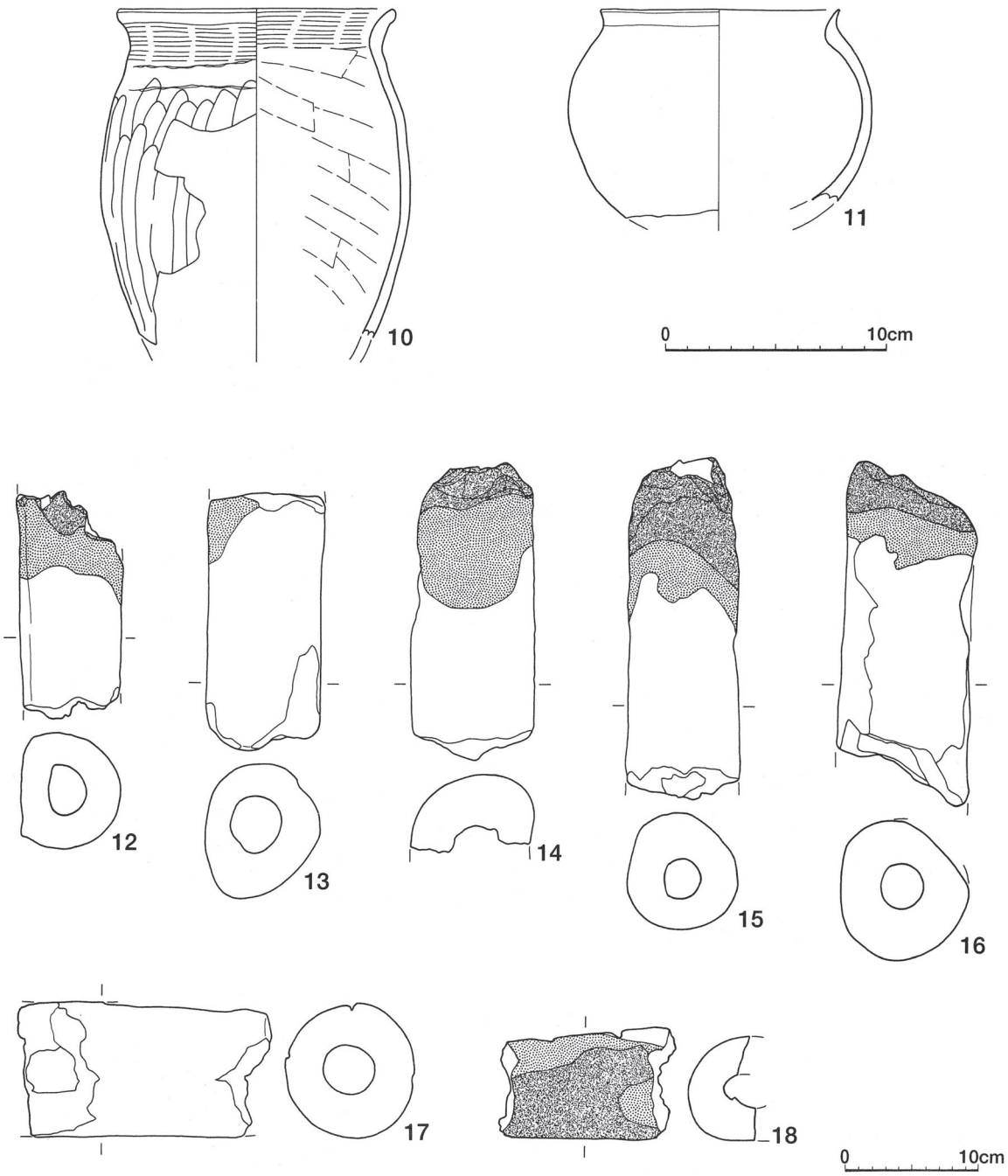


図333　第419号竪穴住居跡（2）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	カマド フク土	12.5	5.8	5.8	ロクロ	ロクロ	不明	不明	不明	不明	糸切り	BⅡb	P-5.8.20
2	土師器	甕	B-Tm下	—	(3.7)	8.0	—	—	不明	—	—	不明	木葉痕	A	P-10
3	土師器	甕	カマド フク土	(24.0)	(15.1)	—	ロクロ	ロクロ ヘラケズリ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅠ	P-11
4	土師器	甕	カマド フク土	(18.0)	(10.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕、粘土付着 P-6
5	土師器	甕	B-Tm下	(23.0)	(16.0)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-4.6
6	土師器	甕	Pit2 フク土	(18.0)	(6.5)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
7	土師器	甕	フク土	(20.0)	(6.9)	—	ヨコナデ	不明	—	不明	不明	—	—	A?	輪積痕
8	土師器	甕	Pit2 フク土	(10.0)	(4.3)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
9	土師器	甕	Pit2 フク土	(13.2)	(7.7)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	P-1

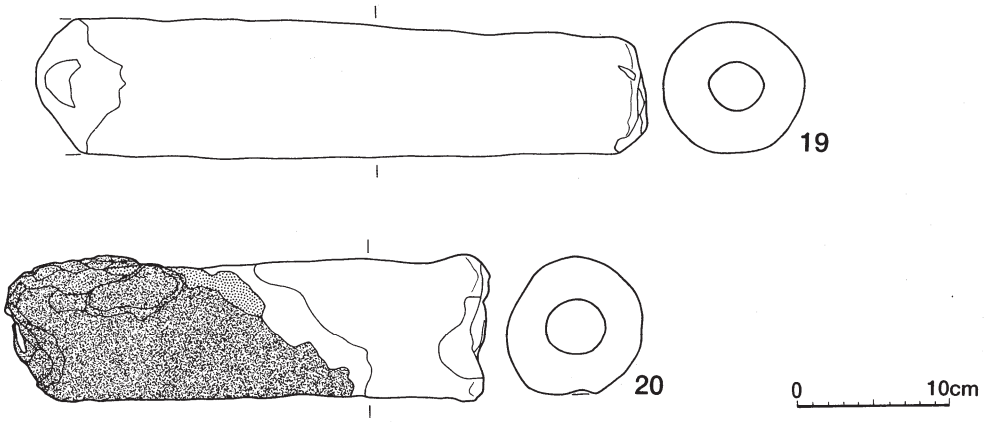
図334　第419号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
10	土師器	甕	カマドフク土	(12.8)	(15.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-20
11	土師器	甕	Pit1フク土	11.0	(9.4)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	P-1、2

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
12	床直	(17.1)	7.5×8.7	2.9×3.6	(855)	C	ナデ	羽口-9
13	カマドフク土	(19.4)	8.7×10.0	3.9×4.4	(1,690)	C	指痕	羽口-6
14	カマドフク土	(22.5)	9.3×(5.4)	—	(1,040)	C	ケズリ後、ナデ	羽口-9
15	カマドフク土	(25.7)	8.4×8.7	2.8	(1,705)	B	ケズリ後、ナデ	羽口-8
16	カマドフク土	(26.0)	9.8×10.3	3.3	(1,890)	B		羽口-7、砂粒多量
17	カマドフク土	(19.2)	10.1×9.8	3.6	(1,150)	A	ナデ	C-5
18	カマドフク土	(13.4)	(7.9)×(5.2)	—	(465)	B	ナデ	C-4

図335　第419号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
19	床直・床面	(40.6)	8.7×9.4	3.4	(3,306)	B	ヘラキズ ナデ 指痕	羽口-6.11
20	カマドフク土	32.1	9.0	3.7	2,506	B		C-1.砂粒多量

図336　第419号竪穴住居跡出土遺物（３）

第419号竪穴住居跡（図332～図336）

［位　置］　調査区北東部のＮＫ・ＮＬ－423～425グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　斜面のため東側が削平されているが東壁（３ｍ80cm）、西壁３ｍ85cm、南壁４ｍ30cm、北壁４ｍ10cmを測り、床面積は、約15.26㎡で、主軸方位はＮ－159°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、西壁94cm、南壁92cm、北壁66cmで、床面からやや急に立ち上がる。床面は緩やかな起伏がみられる。

［周　溝］　幅12～27cm、深さ５～24cmの周溝がカマド部分を除いて、一巡する。周溝内には小ピットがみられる。

［ピット］　検出したピットは３個で、いずれも柱穴とは考えられない。

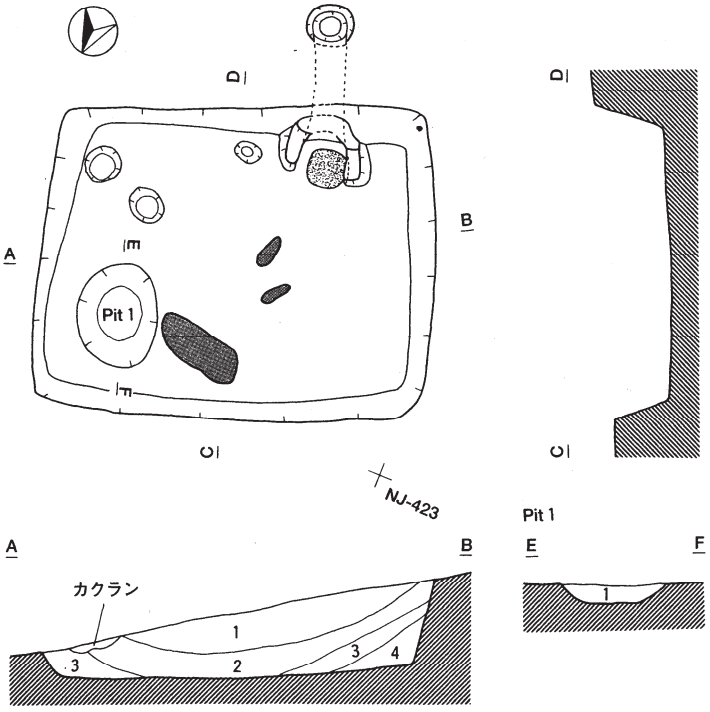
［カマド］　南壁西側に羽口を芯材にして粘土を用いて構築されている。焚口部にも羽口を置いて支脚としている。煙道は上面を粘土で覆った地下式で、住居跡外に110cmほど延びる。煙道底面は、煙出部に向かって緩やかに上がり、煙出部で立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は９層に分層され、２層・３層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入する。

［出土遺物］　カマドから土師器の甕などが出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

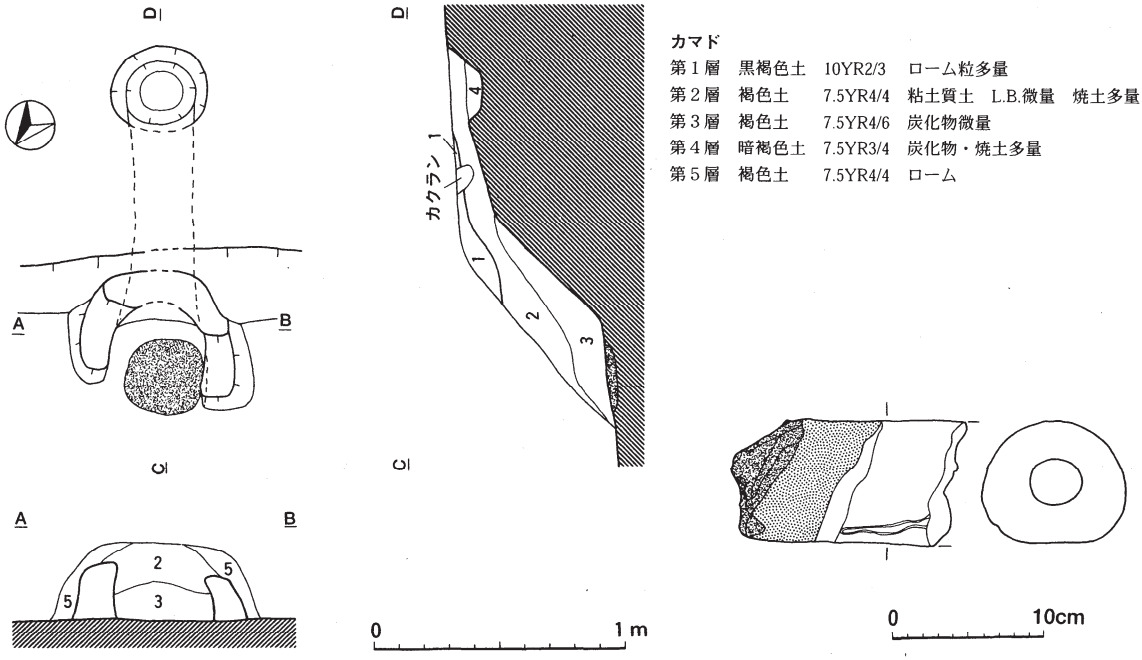


第421号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR2/3	焼土・炭化物・ローム粒 L.B.微量　To-a混入
第２層	暗褐色土	10YR3/4	L.B.中量　ローム多量
第３層	褐色土	10YR4/6	ローム・L.B.多量
第４層	黒色土	10YR2/1	炭化物・ローム粒中量

Pit 1

第１層	褐色土	10YR4/4



カマド

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒多量
第２層	褐色土	7.5YR4/4	粘土質土　L.B.微量　焼土多量
第３層	褐色土	7.5YR4/6	炭化物微量
第４層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土多量
第５層	褐色土	7.5YR4/4	ローム

図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
1	フク土	(15.0)	8.0×9.6	3.1	(1,021)	B		羽口-1　砂粒多

図337　第421号竪穴住居跡・出土遺物

第421号竪穴住居跡（図337）

［位　置］　調査区北東部のＮＩ・ＮＪ－424グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁２ｍ40cm、西壁２ｍ50cm、南壁２ｍ90cm、北壁３ｍ５cmの長方形である。床面積は約5.72㎡で、主軸方位はＮ－157°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁27cm、西壁70cm、南壁44cm、北壁44cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、北壁寄りに炭化材が検出されている。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　ピットが４個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に粘土を用いて構築している。煙道は上面を粘土で覆った地下式で、住居跡外に70cmほど延びる。煙道底面は、中央付近までやや急に上がりその後水平に進み、煙出部でピット（深さ12cm）つながり、急に立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は、４層に分層され、１層にＴｏ－ａ火山灰が混入している。

［出土遺物］　覆土から土師器の破片と羽口が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

第451号竪穴住居跡（図338～図340）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ－469・470グリッドに位置する。

［重　複］　第452号住居跡、第307号溝と重複し、本住居跡は第307号溝より古く、第452号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　東壁４ｍ10cm、西壁４ｍ７cm、南壁４ｍ17cm、北壁４ｍ30cmの方形である。床面積は16.85㎡で、主軸方位はＮ－160°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁34cm、西壁58cm、南壁44cm、北壁26cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅11～16cm、深さ２～４cmの周溝が西壁の一部に断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは９個である。いずれも柱穴とは考えられない。

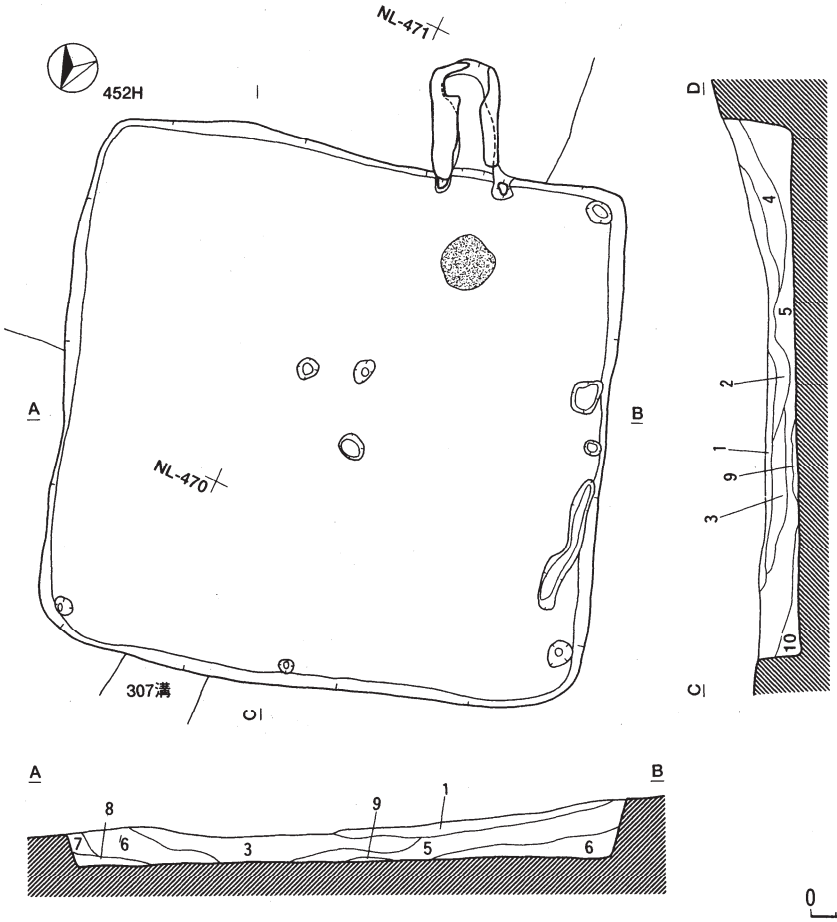
［カマド］　南壁西側に構築されている。芯材を使わず、粘土で本体を構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に90cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

［堆積土］　堆積土は10層に分層され、９層に焼土が多量に混入している。

［出土遺物］　覆土から、土師器の甕や須恵器の甕、坏、壺のほかに砥石が出土している。

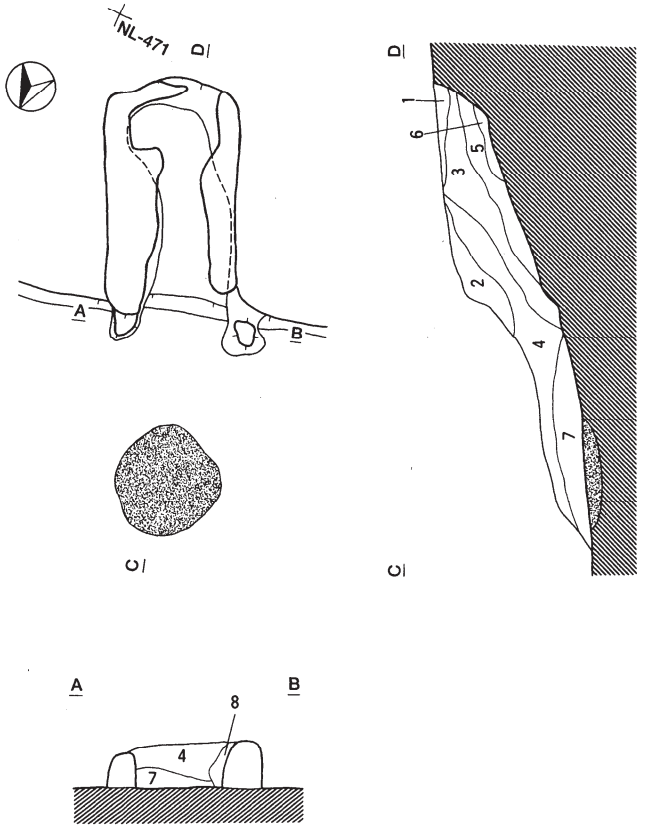
［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第451号住居跡

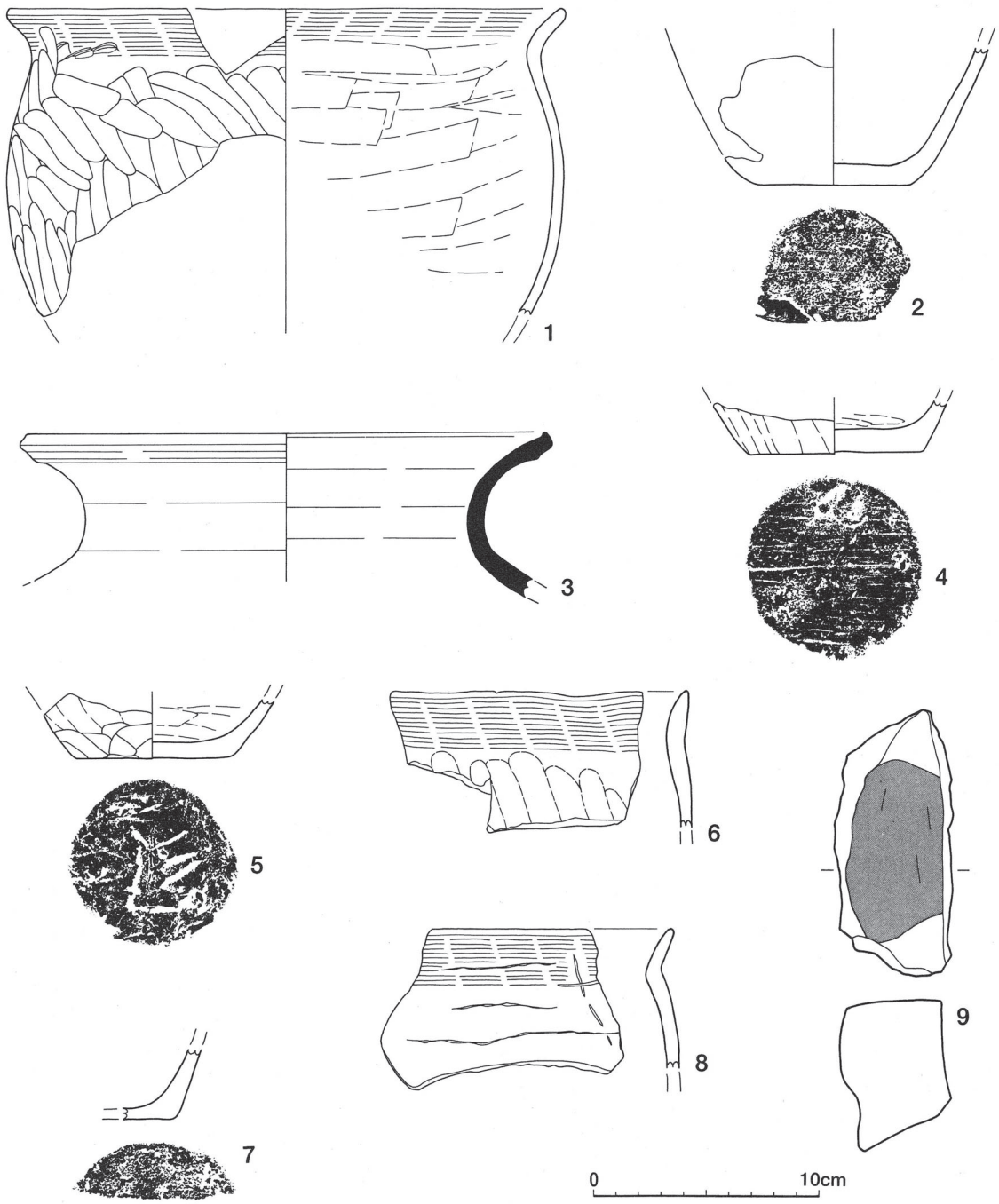
第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物微量
第２層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第３層	暗褐色土	7.5YR3/4	ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量
第４層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・焼土粒少量
第５層	極暗褐色土	7.5YR2/3	焼土粒少量
第６層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第７層	褐色土	7.5YR4/6	ローム粒・焼土粒少量
第８層	極暗褐色土	7.5YR2/3	ローム粒・炭化物少量
第９層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量　L.B中量　焼土粒多量
第10層	褐色土	10YR4/4	L.B多量　炭化物・焼土粒微量



カマド

第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒・炭化物極微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物微量
第３層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土粒・炭化物極微量
第４層	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒・炭化物・L.B微量
第５層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物・L.B少量
第６層	褐色土	10YR4/4	焼土粒・炭化物・L.B少量
第７層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒極微量
第８層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒極微量

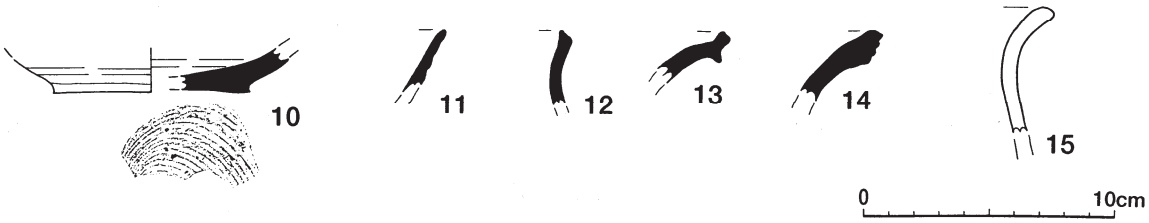
図338　第451号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	カマド フク土	(25.0)	(13.7)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-105
2	土師器	甕	フク土	—	(5.8)	7.0	—	—	不明	—	—	不明	ナデツケ	A	磨滅
3	須恵器	甕	フク土	(23.0)	(7.3)	—	ロクロ	肩部 平行タタキ目	—	ロクロ	肩部 あて具痕	—	—	—	内面繊維付着
4	土師器	甕	フク土	—	(2.5)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り	A	
5	土師器	甕	カマド 3層	—	(2.9)	7.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-102
6	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(6.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
7	土師器	甕	フク土	—	(3.4)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	輪積痕
8	土師器	甕	カマド フク土	(20.0)	(7.2)	—	ヨコナデ	ナデ？	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	刻書？ 輪積痕

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
9	フク土	11.9	5.1	5.9	600	凝	砥石	

図339　第451号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	須恵器	甕？	フク土	―	(1.7)	(7.8)	―	―	ロクロ	―	―	ロクロ	回転糸切り	―	
11	須恵器	坏	フク土	―	(2.1)	―	ロクロ	―	―	ロクロ	―	―	―	―	
12	須恵器	甕	フク土	―	(2.9)	―	ロクロ	―	―	ロクロ	―	―	―	―	
13	須恵器	壷	フク土	―	(2.0)	―	ロクロ	―	―	ロクロ	―	―	―	―	
14	須恵器	甕	フク土	―	(2.7)	―	ロクロ	―	―	ロクロ	―	―	―	―	
15	土師器	甕	フク土	(19.0)	(5.3)	―	ヨコナデ	―	―	不明	―	―	―	A	

図340　第451号竪穴住居跡出土遺物（２）

第452号竪穴住居跡（図341・図342）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ－470・471グリッドに位置する。

［重　複］　第451号・第482号住居跡、第307号溝と重複し、本住居跡は第451号住居跡、第307号溝より古く、第482号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　東壁４ｍ74cm、南壁４ｍ20cm、北壁と西壁が第451号住居跡に切られており、残存する西壁２ｍ10cm、北壁１ｍ４cmで、方形と推定する。主軸方位はＮ－82°－Ｅで、床面積は、12.3㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁34cm、西壁74cm、南壁54cm、北壁12cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅５～19cm、深さ７～20cmの周溝が断面的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは７個である。柱穴とは考えられない。

［カマド］　東壁北側に構築されている。焚口には、礫が置かれ支脚としている。芯材を使わずに、粘土でソデを構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に12cmのびる。

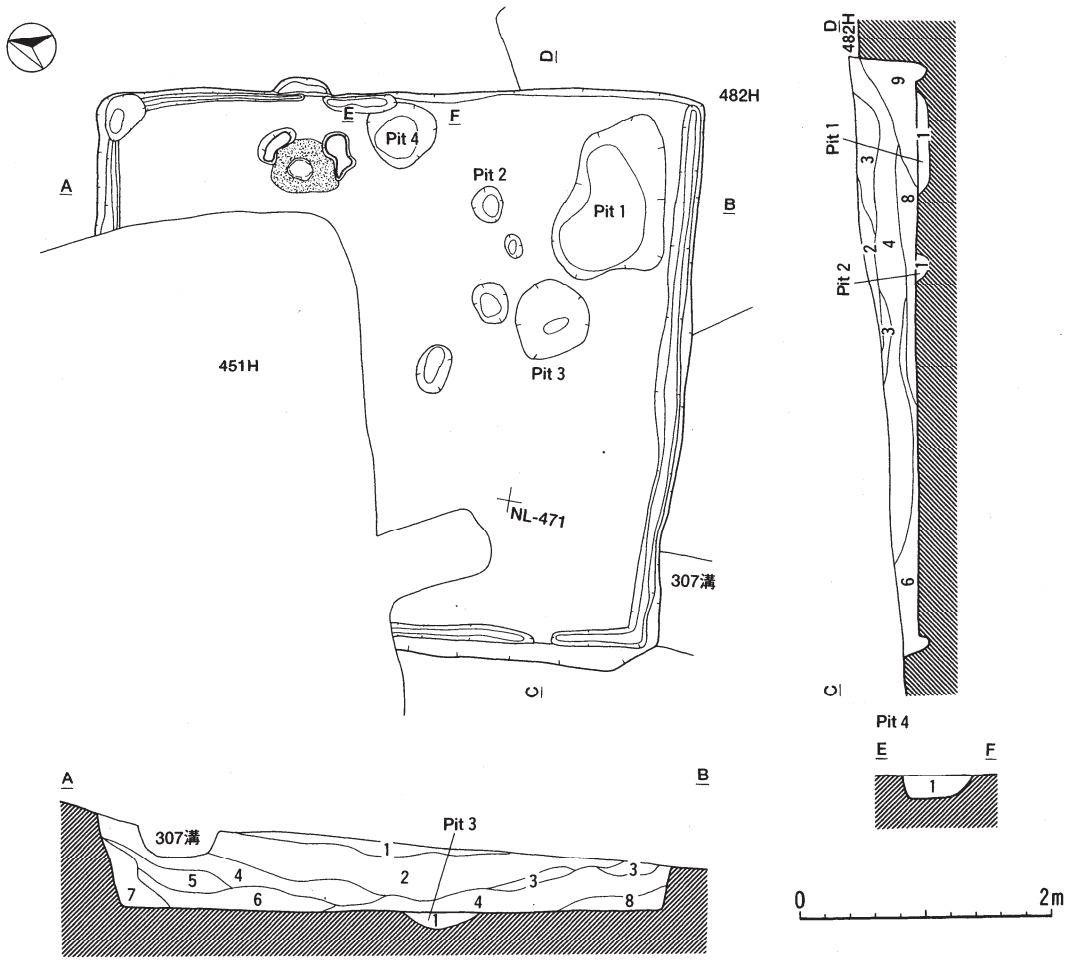
［その他の施設］　南東隅に、140、74cm、深さ10cmのピット１、南壁中央やや北側に、長軸60cm、短軸58cm、深さ12cmのピット３、カマド南側に、長軸54cm、短軸52cm、深さ18cmのピット４を検出した。

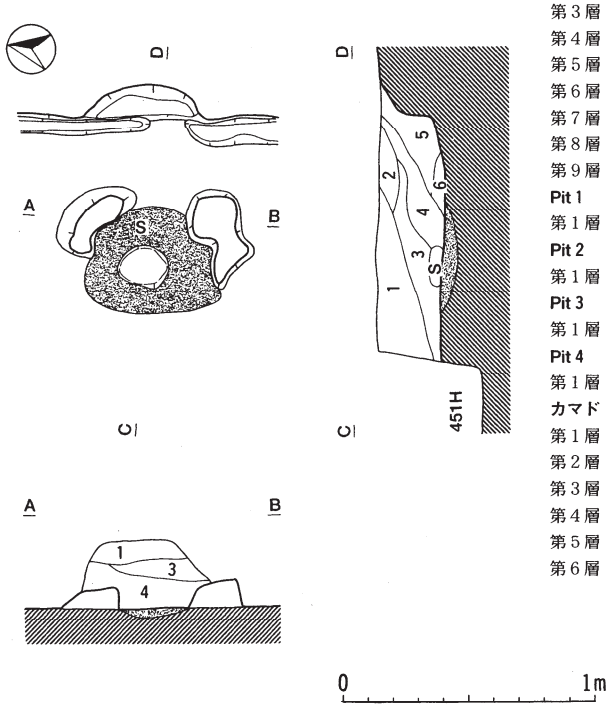
［堆積土］　堆積土は９層に分層され、２層に焼土、炭化物が多量に混入している。

［出土遺物］　覆土から、土師器の甕や土製紡錘車、砥石などが出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

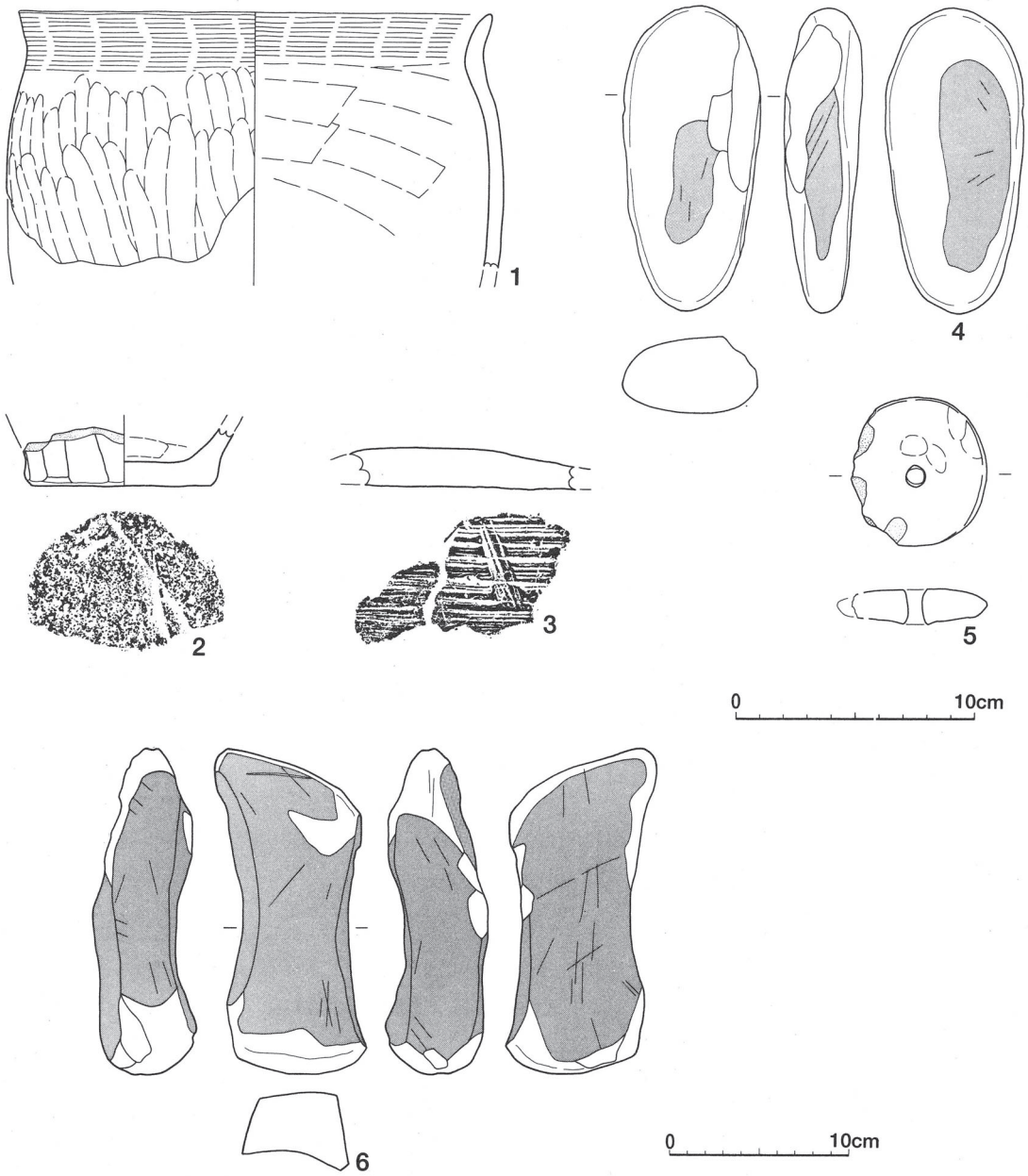




第452号住居跡

第１層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒・焼土粒極微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物多量
第３層	褐色土	7.5YR4/6	粘土層
第４層	褐色土	7.5YR4/3	
第５層	黒褐色土	10YR3/2	粘土ブロック（10YR3/3）混入
第６層	褐色土	7.5YR4/6	粘土混入
第７層	黒褐色土	10YR2/3	
第８層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量
第９層	褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物中量
Pit 1			
第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
Pit 2			
第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・炭化物少量
Pit 3			
第１層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量　炭化物少量
Pit 4			
第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
カマド			
第１層	黒褐色土	10YR3/2	粘土ブロック　焼土粒微量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量
第３層	黒褐色土	7.5YR2/2	ローム粒　焼土粒粒
第４層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒少量
第５層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒中量
第６層	黒色土	7.5YR2/1	ローム粒少量

図341　第452号竪穴住居跡

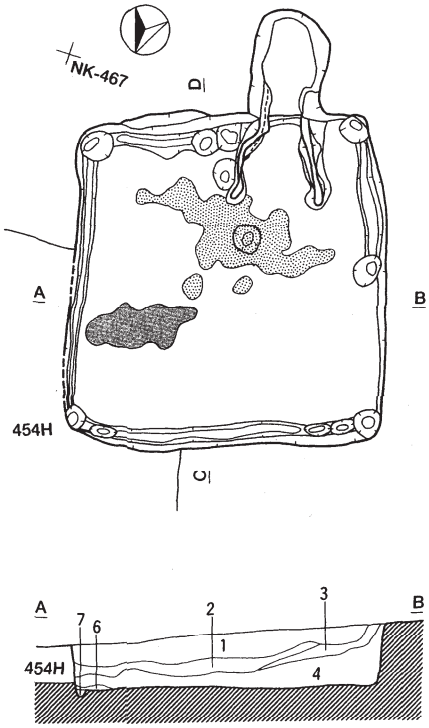


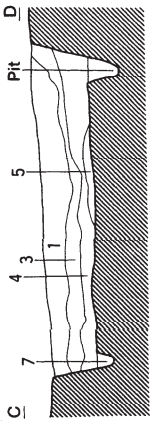
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フク土	(20.0)	(11.7)	―	ヨコナデ	ヘラナデ	―	ヨコナデ	ヘラナデ	―	―	A	P-60
2	土師器	甕	ピット1 フク土	―	(2.5)	―	―	―	ヘラナデ	―	―	ヘラナデ	砂底 ヘラナデ	A	
3	土師器	甕	フク土	―	―	―	―	―	不明	―	―	不明	板目底	A	製塩土器

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
4	フク土	12.8	5.7	3.3	308	凝	砥石	炭化物付着
6	Pit 1 フク土	17.2	7.4	4.1	912	凝	砥石	

図版番号	種類	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	特徴	備考
5	土製紡錘車	フク土		6.3	1.3	52.0		

図342　第452号竪穴住居跡出土遺物

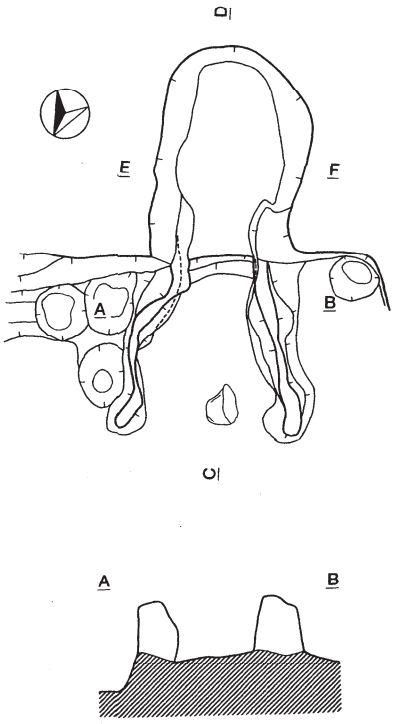


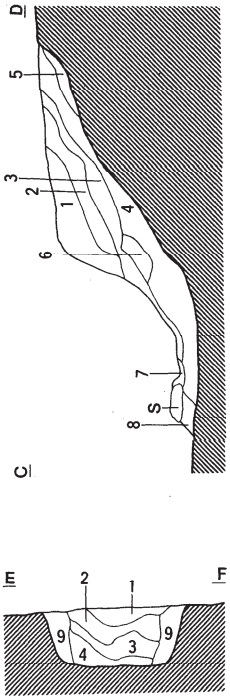


第453号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量 褐色土（10YR4/6）混入
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量　焼土粒少量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量 褐色土（10YR4/6）混入
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量 褐色土（10YR4/6）混入
第５層	黒色土	10YR1.7/1	粘土粒多量　炭化物・ 焼土粒少量
第６層	褐色土	10YR4/6	ローム粒微量
第７層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	明黄褐色土（10YR6/8）・ 褐色土（10YR4/4）混入

0　2m



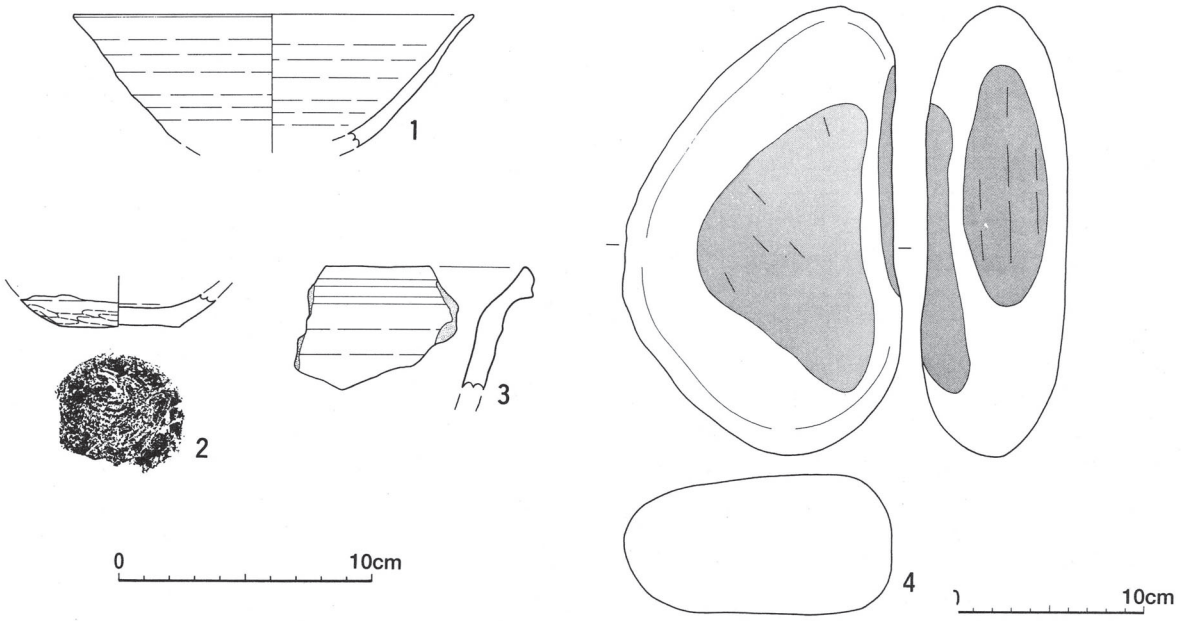


カマド

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量　炭化物微量
第２層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	焼土粒少量　粘土質土
第３層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物・ 焼土粒微量
第４層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・炭化物・ 焼土粒中量
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物微量
第６層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	焼土粒微量 黒褐色土（10YR2/3）混入
第７層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒・粘土粒微量
第８層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物中量　焼土粒少量
第９層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒微量 暗褐色土（10YR3/3）混入

0　1m

図343　第453号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	床直	16.0	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	BⅡ	P-3
2	土師器	坏	フク土	—	(1.2)	4.8	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ロクロ	糸切り？	BⅡ	
3	土師器	塝	フク土	(30.0)	(4.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	石質	分類	備考
4	カマドフク土	23.7	14.2	7.4	3,775	安	磨石	S-2

図344　第453号竪穴住居跡出土遺物

第453号竪穴住居跡（図343・図344）

［位　置］　ＮＪ－467・468グリッドに位置する。

［重　複］　第454号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］　東壁２ｍ42cm、西壁２ｍ60cm、南壁２ｍ30cm、北壁２ｍ50cmのほぼ方形である。床面積は5.96㎡である。主軸方位はＮ－159°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁30cm、西壁50cm、南壁44cm、北壁36cmである。掘り方を踏みしめた床面で、ほぼ平坦である。

［周　溝］　幅５～20cm、深さ９～13cmの周溝が西壁北側を除いて一巡する。

［ピット］　ピットは９つ検出された。周溝内の径16～26cm、深さ26～40cmの円形のピットが柱穴と考えられる。

［カマド］　南壁西側に構築されている。袖は粘土で築かれている。煙道は半地下式で、住居外に１ｍ70cmのびる。煙道底面は煙出し方向に向かって緩やかに上昇する。

［その他の施設］　住居ほぼ中央に径22cm、深さ15cmの円形のピット、カマド袖脇に径16～26cm、深さ13～26cmの不整円形のピットが３つ検出された。

［堆積土］　堆積土は７層に分層される。黒褐色土を主体とし、堆積土全体にはローム粒が混入する。

［出土遺物］　土師器の坏・甕、砥石が出土している。

［時　期］　出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

第454号竪穴住居跡（図345）

［位　置］　ＮＪ・ＮＫ－465・466グリッドに位置する。

［重　複］　第453号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　西壁と南壁の一部は第453号住居跡との重複により残存しない。東壁２m80cm、北壁２m40cmで、西壁１m60cm、南壁１m35cmが残存する。南北に長い長方形と考えられる。床面積は5.20㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁13cm、西壁30cm、南壁22cm、北壁８cmである。床面は黒褐色土と褐色土の混入する掘り方を踏みしめたもので、ほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは１つで、柱穴とは考えられない。

［カマド］　検出されなかった。

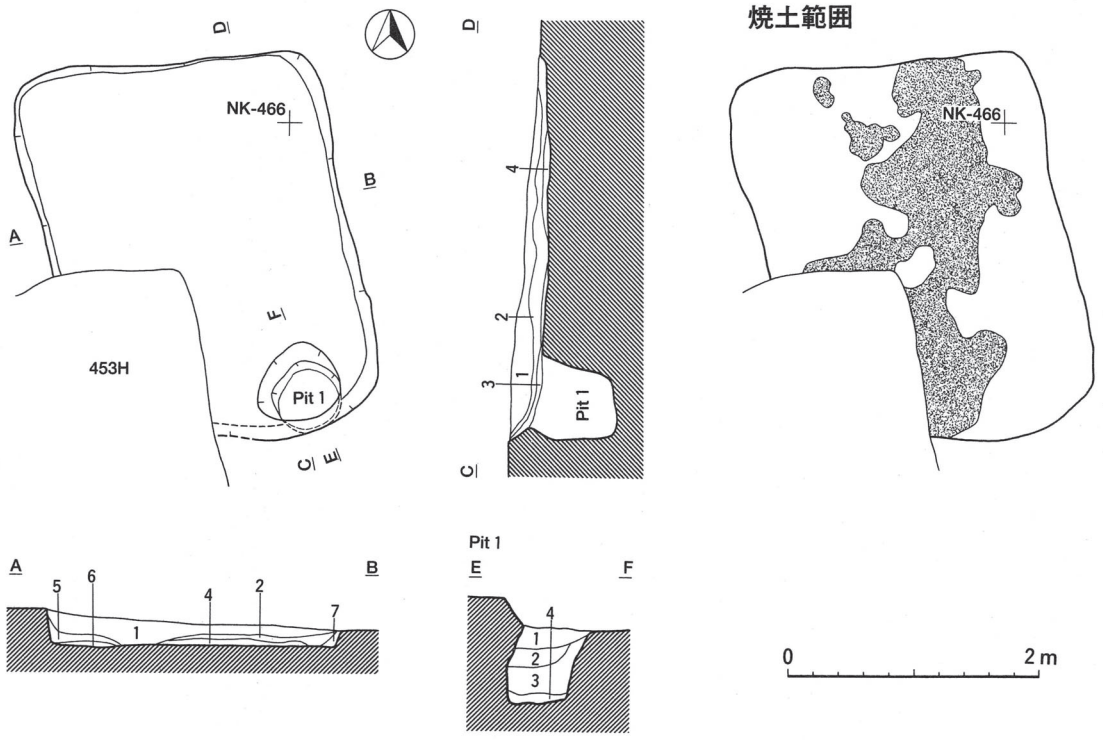
［その他の施設］　南壁直下に65×59cm、深さ54cmの不整な楕円形のピット１が検出された。

［堆積土］　堆積土は９層に分層され、暗褐色土を主体とする。４層には焼土が多量に含まれる。

［出土遺物］　土師器の甕、羽口が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀後半以前に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

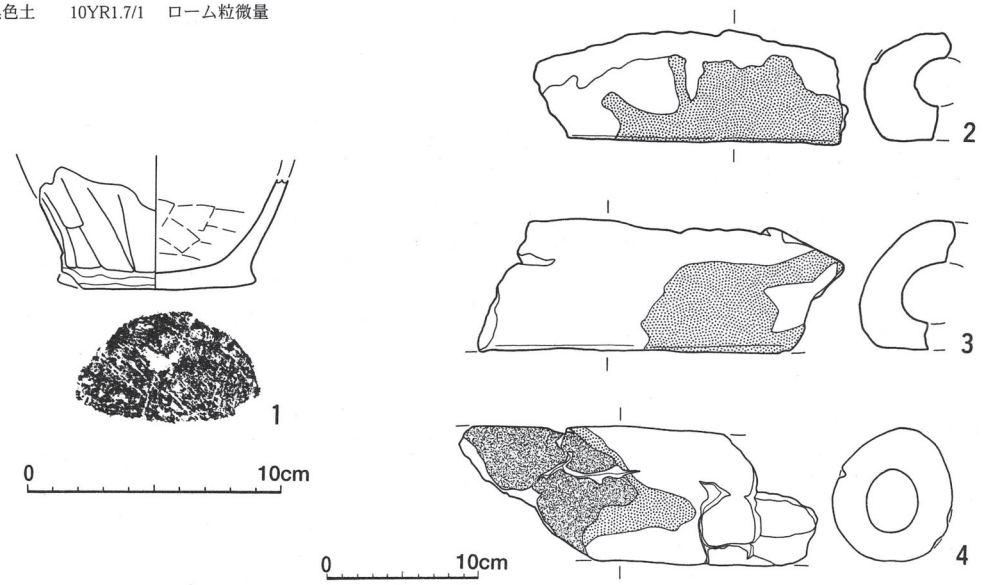


第454号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・焼土粒微量
第4層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒多量
第5層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土（10YR3/1）・明黄褐色土（10YR6/6）混入
第6層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒極微量
第7層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒微量

Pit 1

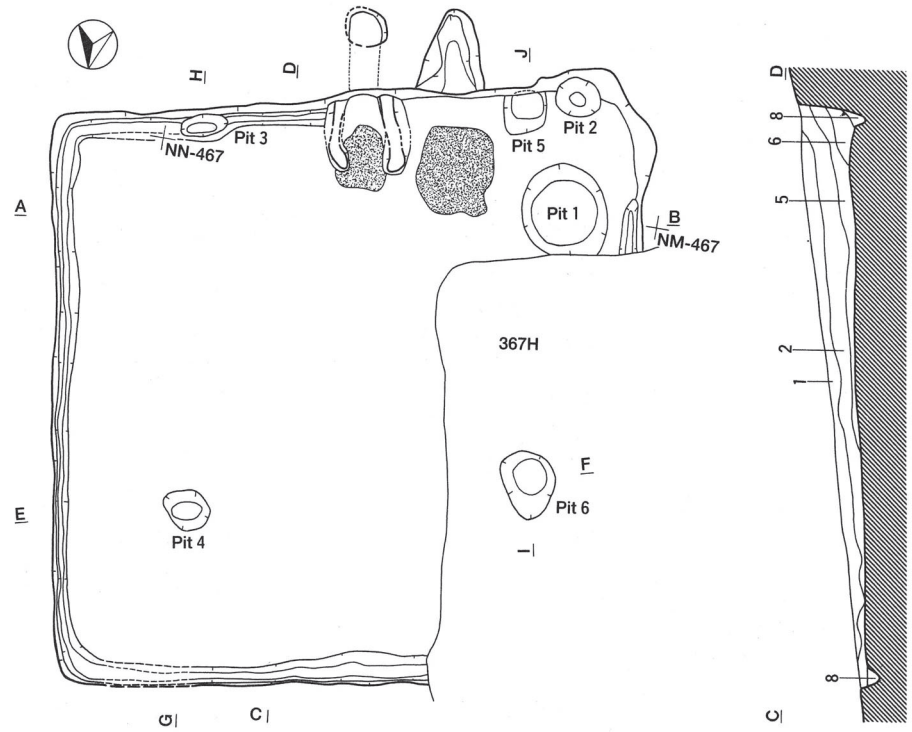
第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第2層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒中量
第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量　黒褐色土（10YR3/1）混入
第4層	黄褐色土	10YR4/6	炭化物極微量

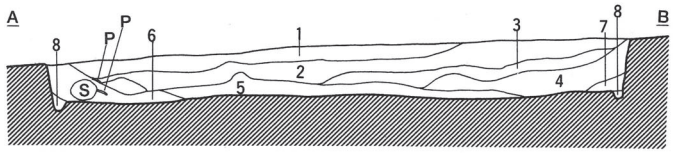


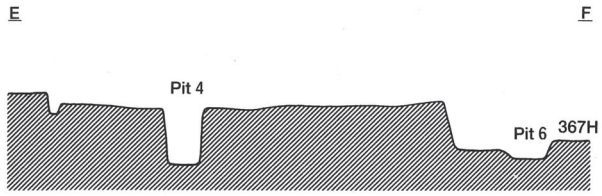
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	―	(4.8)	(7.8)	―	―	ヘラケズリ	―	―	ヘラナデ	ヘラナデ	A	

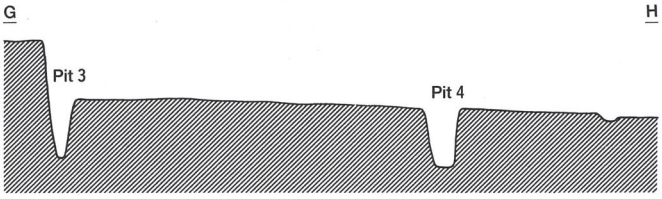
図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
2	フク土	(20.8)	(7.2)×(5.8)	―	(705)	C	―	羽口－2
3	4層	(24.1)	(8.5)×(6.4)	―	(832)	C	ナデ	羽口－1、4
4	フク土	(23.7)	8.8×7.9	4.2×3.5	(992)	B	―	羽口－2　砂粒多

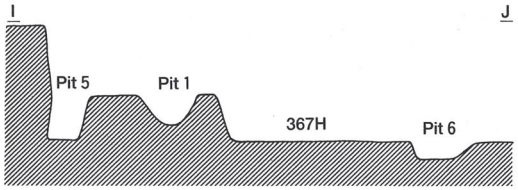
図345　第454号竪穴住居跡・出土遺物











第455号住居跡

第１層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒中量 焼土粒少量	炭化物・
第２層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	焼土粒少量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量	焼土粒微量
第４層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量 焼土粒微量	炭化物・
第５層	黒褐色土	10YR2/2	粘土粒中量 焼土粒微量	炭化物・
第６層	褐色土	7.5YR4/4	粘土粒微量	
第７層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒少量	焼土粒微量
第８層	黒褐色土	10YR3/3	粘土粒少量 焼土粒微量	炭化物・

0　2 m

図346　第455号竪穴住居跡（１）

第455号竪穴住居跡（図346～図349）

［位　置］　ＮＭ・ＮＮ－465～467グリッドに位置する。

［重　複］　第367号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　第367号住居跡との重複により西壁と北壁の一部は残存しない。東壁４ｍ50cm、南壁４ｍ55cmで、西壁１ｍ50cm、北壁２ｍ90cmが残存する。ほぼ方形と考えられる。床面積は15.89㎡である。主軸方位はＮ－166°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁13cm、西壁40cm、南壁34cm、北壁６cmである。床面はほぼ平坦で、粘土と黒褐色土が混入する貼床が施される。

［周　溝］　幅７～24cm、深さ２～12cmの周溝がほぼ一巡する。

［ピット］　検出されたピットは５つで、このうちピット３～５と第367号住居跡の貼床下から検出されたピット６が本住居跡の主柱穴と考えられる。ピット３は37×17cm、深さ45cmの楕円形、ピット４は39×31cm、深さ44cmの楕円形、ピット５は一辺35cm、深さ33cmの方形である。ピット６は55×41cmの不整な楕円形で、検出面からの深さは13cmである。

［カマド］　南壁やや西側およびほぼ中央に２つのカマドが構築されている。ほぼ中央のカマドＢは袖に芯材を用いず、粘土で築かれている。煙道は地下式で、住居外に65cmのびる。煙道底面は煙出し方向に向かってやや上昇する。西側に位置するカマドＢは袖は残存せず、火床面のみが検出された。煙道は半地下式で、住居外に70cmのびる。煙道底面は煙出し方向に急勾配で上昇する。カマドＡがカマドＢより新しい。

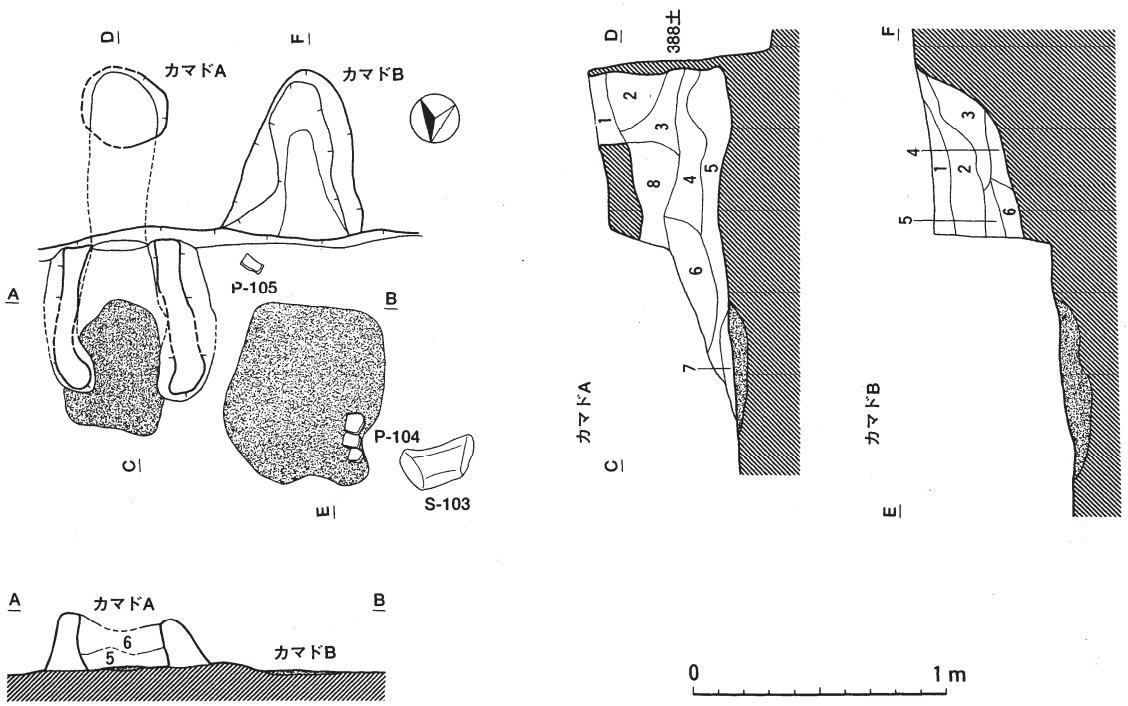
［その他の施設］　住居南西隅に72×68cm、深さ12cmのピット１、カマドＢの西側、住居の南西隅に焼土が堆積した36×30cm、深さ12cmのピット２が検出された。ピットおよび周辺からは土師器・礫・羽口が出土している。

［堆積土］　８層に分層される。黒褐色土・暗褐色土を主体とし、堆積土全体には粘土が混入する。自然堆積である。

［出土遺物］　土師器の甕、砥石が出土している。

［時　期］　重複関係と出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）



カマドA

第１層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	焼土粒中量
第２層	褐色土	10YR4/4	粘土層	
第３層	暗褐色土	10YR3/4	粘土粒多量	ローム粒少量
第４層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	焼土粒少量
第５層	暗褐色土	7.5YR3/3	粘土粒多量	焼土粒中量
第６層	褐色土	7.5YR4/4	粘土粒多量	焼土粒少量
第７層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒多量	
第８層	褐色土	7.5YR4/6	粘土ブロック層	

カマドB

第１層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量	焼土粒少量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒中量	粘土粒少量
第３層	褐色土	10YR4/4	焼土粒少量	粘土資土
第４層	褐色土	10YR4/6	粘土質土	
第５層	黄褐色土	10YR5/6	ロームブロック層	
第６層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒多量	

遺物出土状況

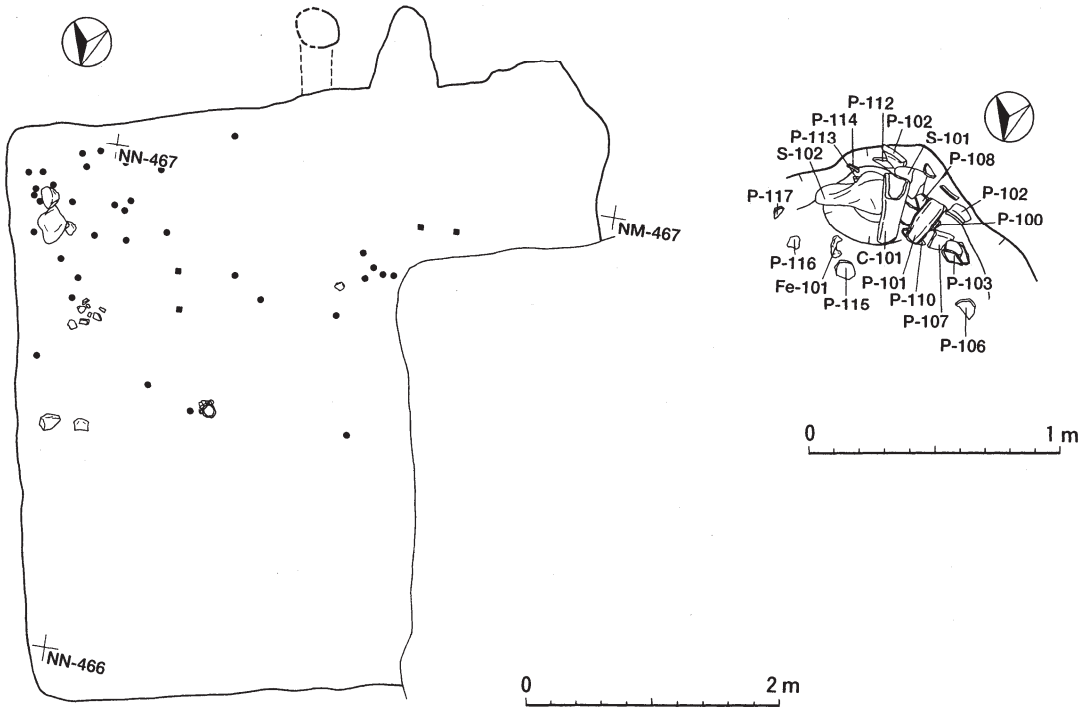
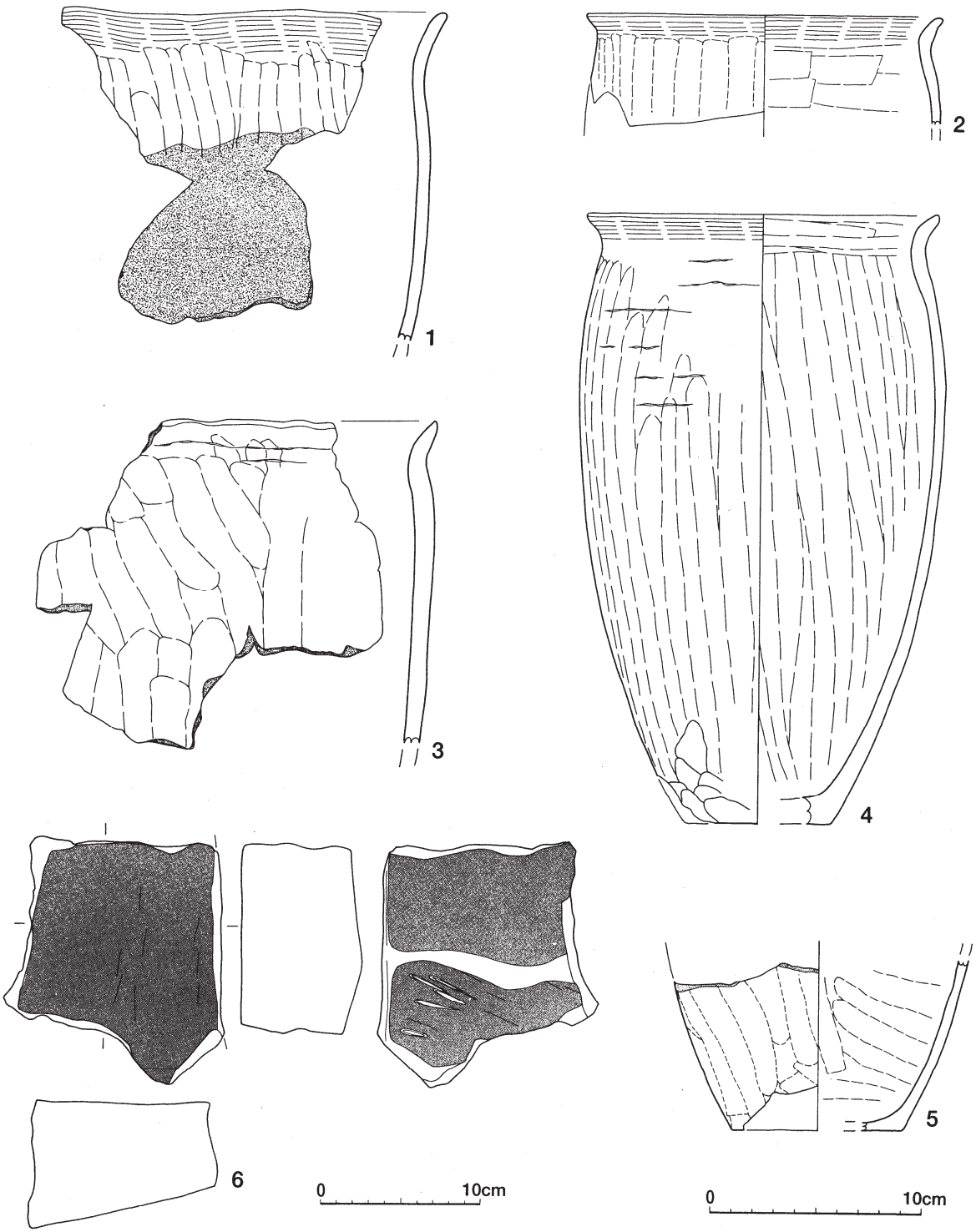


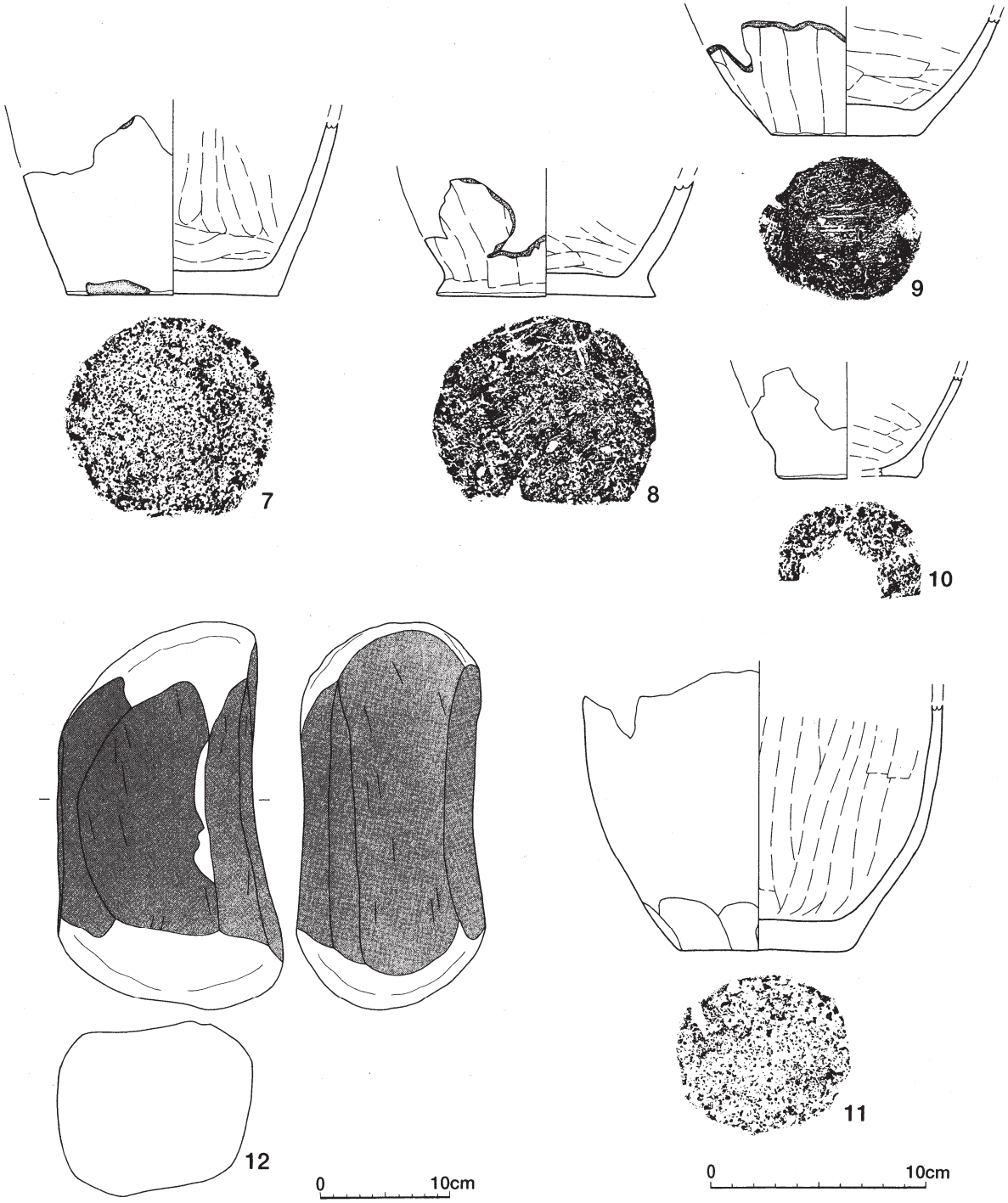
図347　第455号竪穴住居跡（２）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フク土	(22.0)	(15.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着 P1、2、3
2	土師器	甕	床面 周溝フク土	(17.0)	(5.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P－1、27
3	土師器	甕	フク土	(21.0)	(15.4)	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面輪積痕 P－4、104
4	土師器	甕	フク土・床面 焼土フク土	(17.0)	(29.0)	(7.0)	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘナラデ	ナデツケ?	A Ie	外面輪積痕 P－101、107、25
5	土師器	甕	鮏床下ピットフク土 カマドフク土	—	(8.6)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
6	フク土	15.6	13.7	7.8	2,.408	石安	砥石	S-101、被熱

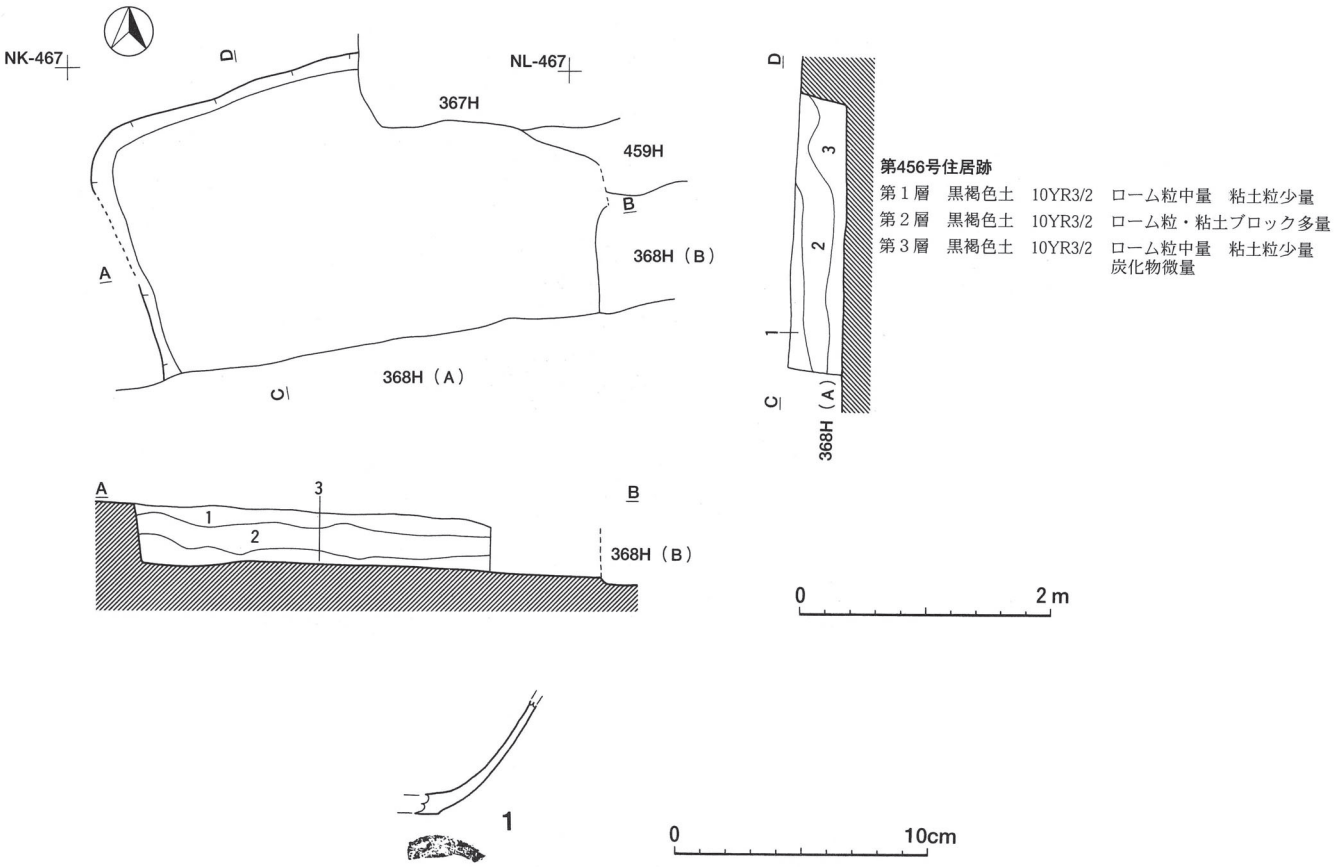
図348　第455号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
7	土師器	甕	フク土	—	(8.3)	(9.6)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P−14. 103
8	土師器	甕	床直	—	(5.4)	10.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P−6
9	土師器	甕	床直	—	(5.4)	7.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P−24
10	土師器	甕	? ピット火床面	—	(5.2)	(6.6)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
11	土師器	甕	貼床下ピットフク土 カマドAフク土	—	(8.6)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
12	フク土	30.2	17.6	12.7	8,600	安	砥石	S−103

図349　第455号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	―	(4.4)	―	―	ロクロ	ロクロ	―	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡ	

図350　第456号竪穴住居跡・出土遺物

第456号竪穴住居跡（図350）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ-466・467グリッドに位置する。

［重　複］　第367号・第368号・第464号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

［平面形・規模］　重複により東壁・南壁は残存せず、西壁２ｍ、北壁４ｍ30cmが残存する。床面積は6.66㎡である。

［壁・床面］　壁高は西壁46cm、北壁36cmである。床面は黒色土と粘土が混入する貼床が施され、ほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　検出されなかった。

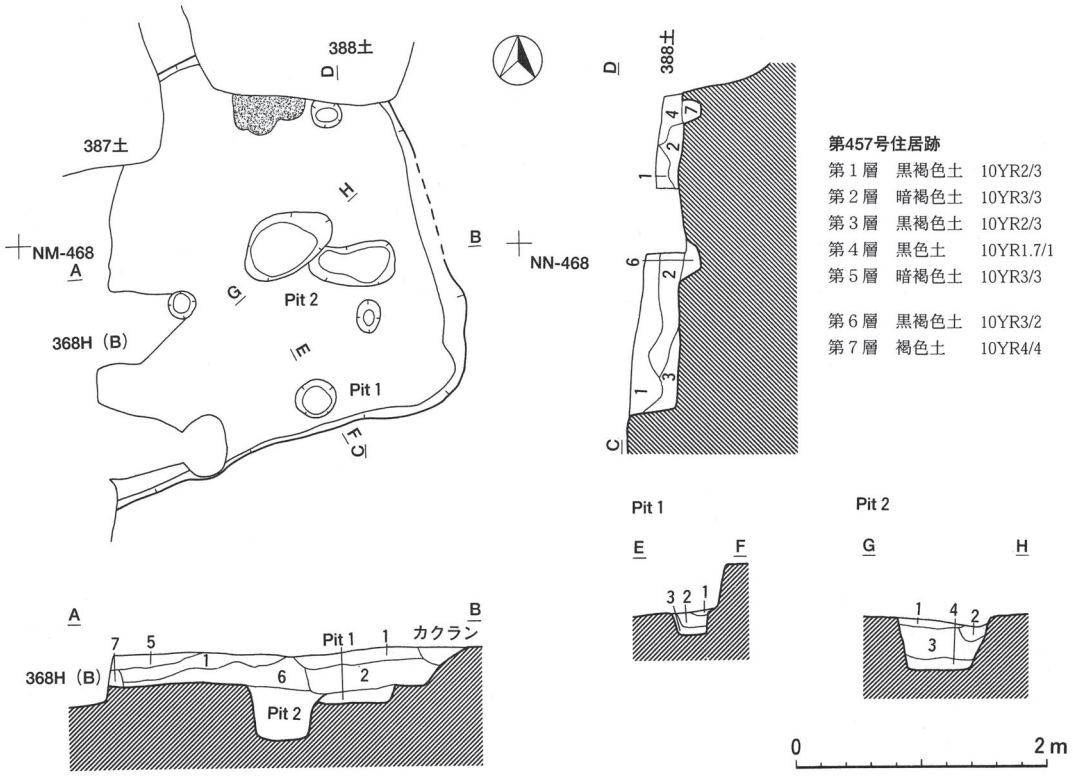
［その他の施設］　検出されなかった。

［堆積土］　３層に分層され、堆積土全体にローム粒を多く含む。人為堆積と考えられる。

［出土遺物］　土師器の坏が出土している。

［時　期］　重複関係から10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）



第457号住居跡

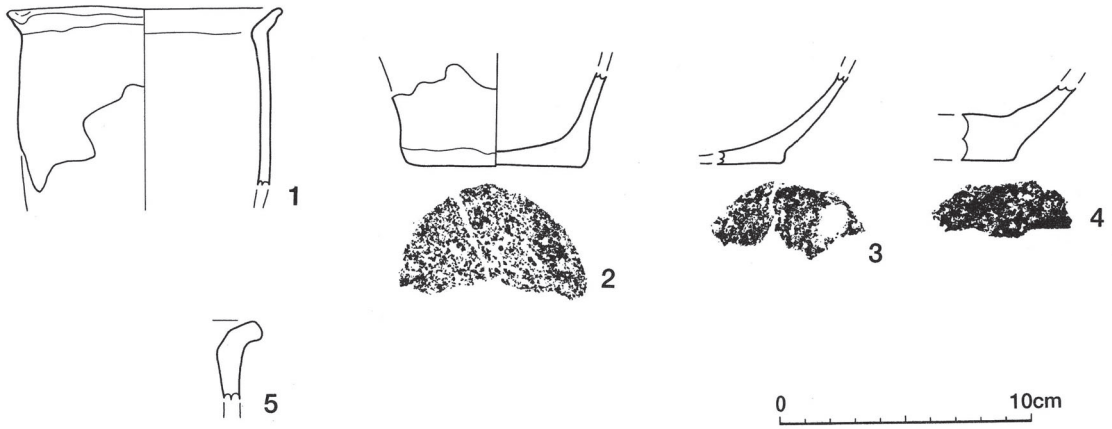
第１層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒少量　炭化物微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量　焼土粒微量
第３層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物微量
第４層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒・焼土粒微量
第５層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒中量　炭化物少量 ローム粒微量
第６層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒中量　炭化物少量
第７層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量　粘土質土

Pit 1

第１層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土粒少量
第２層	褐色土	10YR4/4	炭化物少量　粘土質土
第３層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土粒微量

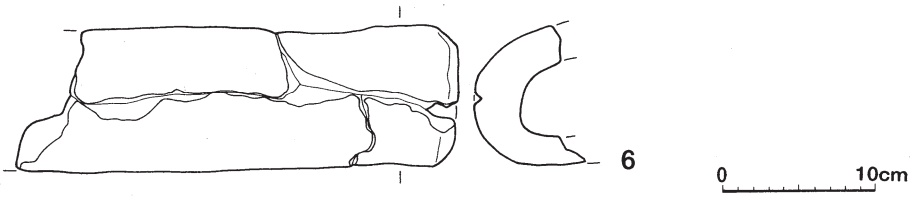
Pit 2

第１層	褐色土	10YR4/6	ローム粒極微量
第２層	黒褐色土	10YR2/3	粘土粒中量　焼土粒極微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第４層	赤褐色土	2.5YR4/8	炭化物微量 褐色土（10YR4/6）混入



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	ピット２４層	11.0	(7.2)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	磨滅
2	土師器	甕	フク土	—	(4.0)	(7.0)	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A?	磨滅
3	土師器	甕	フク土	—	(3.5)	(6.0)	—	—	不明	—	—	不明	砂底?	A?	磨滅
4	土師器	甕	フク土	—	(3.0)	(6.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ?	A	
5	土師器	甕	フク土				ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	

図351　第457号竪穴住居跡・出土遺物（１）



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ(g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
6	床直 床面	(29.2)	(9.1)×(7.4)	―	(1,290)	C	ケズリ、指痕	羽口－1、2

図352　第457号竪穴住居跡出土遺物（2）

第457号竪穴住居跡（図351・図352）

［位　置］　NM－467・468グリッドに位置する。

［重　複］　第464号住居跡、第388号・第390号土坑と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　第464号住居跡、第388号・第390号土坑との重複により、東壁と南壁の一部が残存するのみである。東壁3m25cm、南壁3m20cmが残存する。ほぼ方形であると考えられる。床面積は6.12㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁20cm、南壁38cmである。床面は地山粘土を堅く踏みしめており、ほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは5つであるが、いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　検出されなかった。住居北壁東側の床面に焼土が検出され、火床面と考えられる。

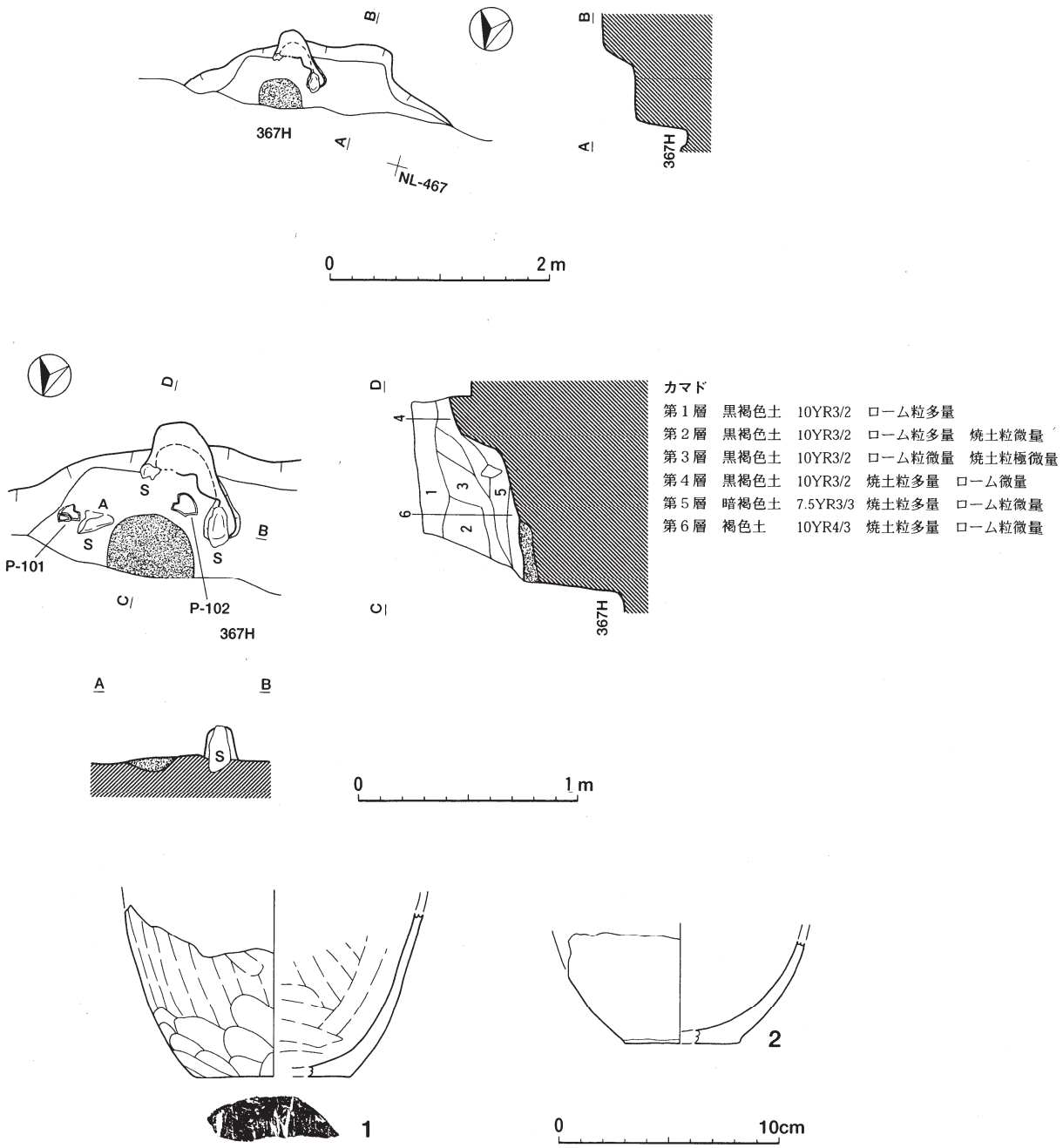
［その他の施設］　南壁ほぼ中央に径30cm、深さ19cmの円形のピット1、住居ほぼ中央に76×46cm、深さ44cmのピット2、東壁ほぼ中央に68×35cm、深さ15cmの不整な楕円形のピット3が検出された。ピット2の堆積土には焼土が混入し、土師器・羽口が出土している。

［堆積土］　7層に分層される。黒褐色土・暗褐色土を主体とし、堆積土全体に焼土・炭化物が含まれる。

［出土遺物］　土師器の甕、羽口が出土している。

［時　期］　重複関係から、10世紀前半と考えられる。

（田中珠美）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド フク土	―	(7.8)	(7.0)	―	―	ヘラナデ ヘラケズリ	―	―	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P－101
2	土師器	甕	フク土	―	(5.0)	(5.2)	―	―	不明	―	―	不明	糸切り？	A?	

図353　第459号竪穴住居跡・出土遺物

第459号竪穴住居跡（図353）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ－467グリッドに位置する。

［重　複］　第367号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　重複のため、南壁の一部とカマドが検出されたのみである。南壁が１m80cm残存する。床面積は0.69㎡である。

［壁・床面］　南壁の壁高は30cmである。床面は重複によりほとんど残らないが、地山粘土を床面としていたと推定される。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　南壁に構築されている。袖は芯材に礫を用い、粘土で覆って築いている。煙道は半地下式で、住居外に14cmのびる。煙道底面は煙出し方向に向かって緩やかに上昇する。

［その他の施設］　検出されなかった。

［出土遺物］　土師器の甕が出土している。

［時　期］　重複関係と出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

第460号竪穴住居跡（図354～図357）

［位　置］　ＮＢ～ＮＤ－464・465グリッドに位置する。

［重　複］　第461号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］　東壁５m18cm、西壁５m20cm、南壁４m55cm、北壁４m40cmの南北にやや長い長方形を呈する。床面積は23.3㎡である。主軸方位はＮ－73°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁26cm、西壁62cm、南壁50cm、北壁31cmである。黒褐色土とロームが混入する貼床が南壁中央部を除いて施される。貼床がない部分は黒褐色土を床面としており、あまり堅緻ではない。出入り口等の施設があったと考えられる。

［周　溝］　幅９～24cm、深さ１～29cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　ピットは６つ検出されたが、柱穴とは考えられない。

［カマド］　東壁南側に構築される。袖は粘土で築かれている。煙道は半地下式で、住居外に34cmのびる。

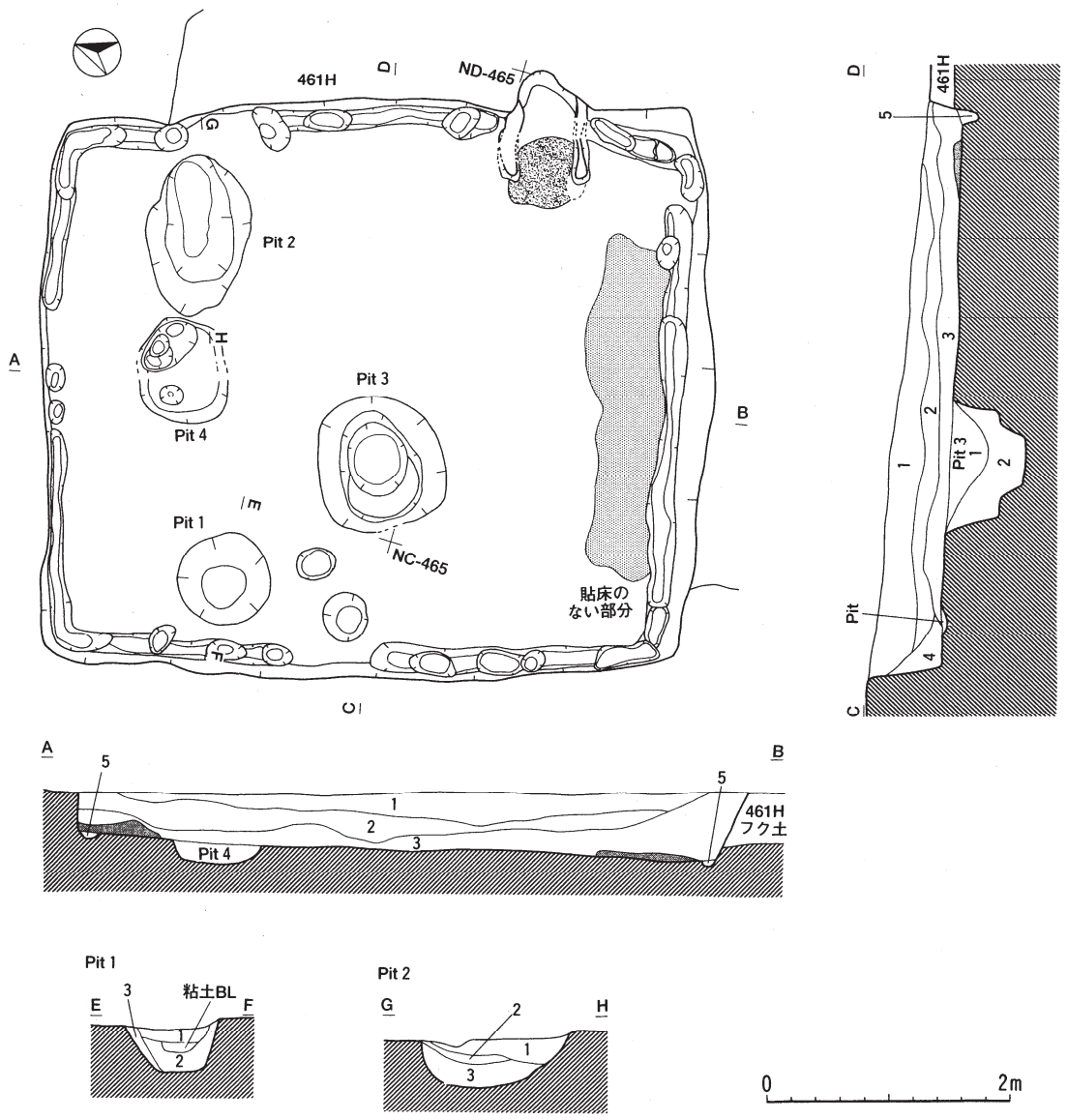
［その他の施設］　北西隅に径68cm、深さ46cmの円形のピット１、北東隅に１m34cm×86cm、深さ28cmの楕円形のピット２、ほぼ中央に径１m10cm、深さ67cmの円形のピット３、北側中央に86×72cm、深さ19cmの方形のピット４が検出された。

［堆積土］　５層に分層される。床面で多量の炭化材が出土しており、焼失家屋と考えられる。

［出土遺物］　土師器の甕、須恵器の坏・壷、砥石、刀子・紡錘車・棒状鉄製品が出土している。

［時　期］　出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）



第460号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒中量　炭化物・焼土粒少量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量　炭化物少量　焼土粒微量
第３層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物・焼土粒多量　粘土粒中量
第４層	黒褐色土	10YR2/2	粘土粒中量　炭化物少量
第５層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量　炭化物少量

Pit 1

第１層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物多量　粘土粒中量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量
第３層	明褐色土	7.5YR5/6	粘土粒多量

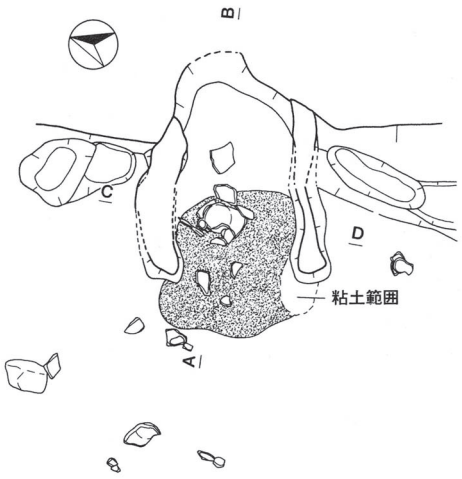
Pit 2

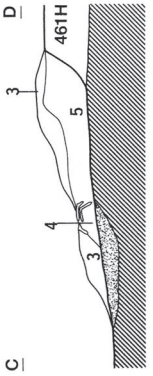
第１層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量　炭化物・焼土粒少量
第２層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒多量
第３層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量　炭化物少量

Pit 3

第１層	褐色土	7.5YR4/4	
第２層	黒褐色土	7.5YR3/2	炭化物微量

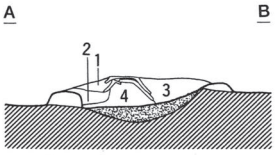
図354　第460号竪穴住居跡（１）

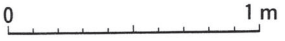


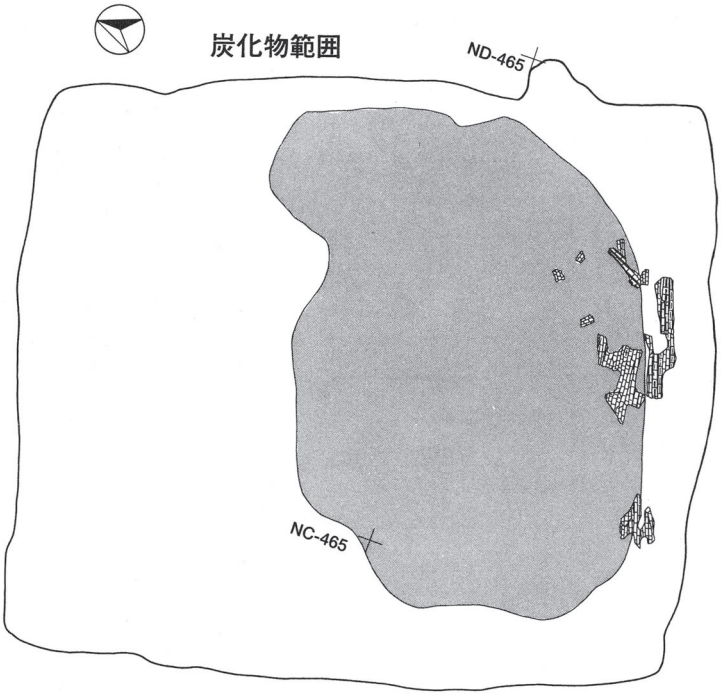


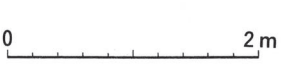
カマド

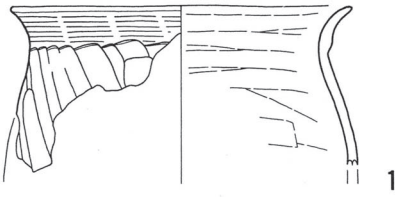
第1層	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒中量　粘土粒少量
第2層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒・焼土粒微量
第3層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒多量
第4層	赤褐色土	5YR4/6	焼土層
第5層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒・焼土粒中量











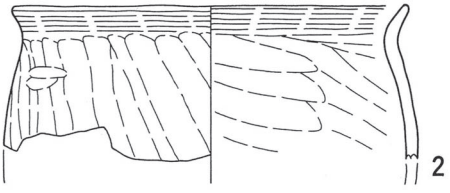
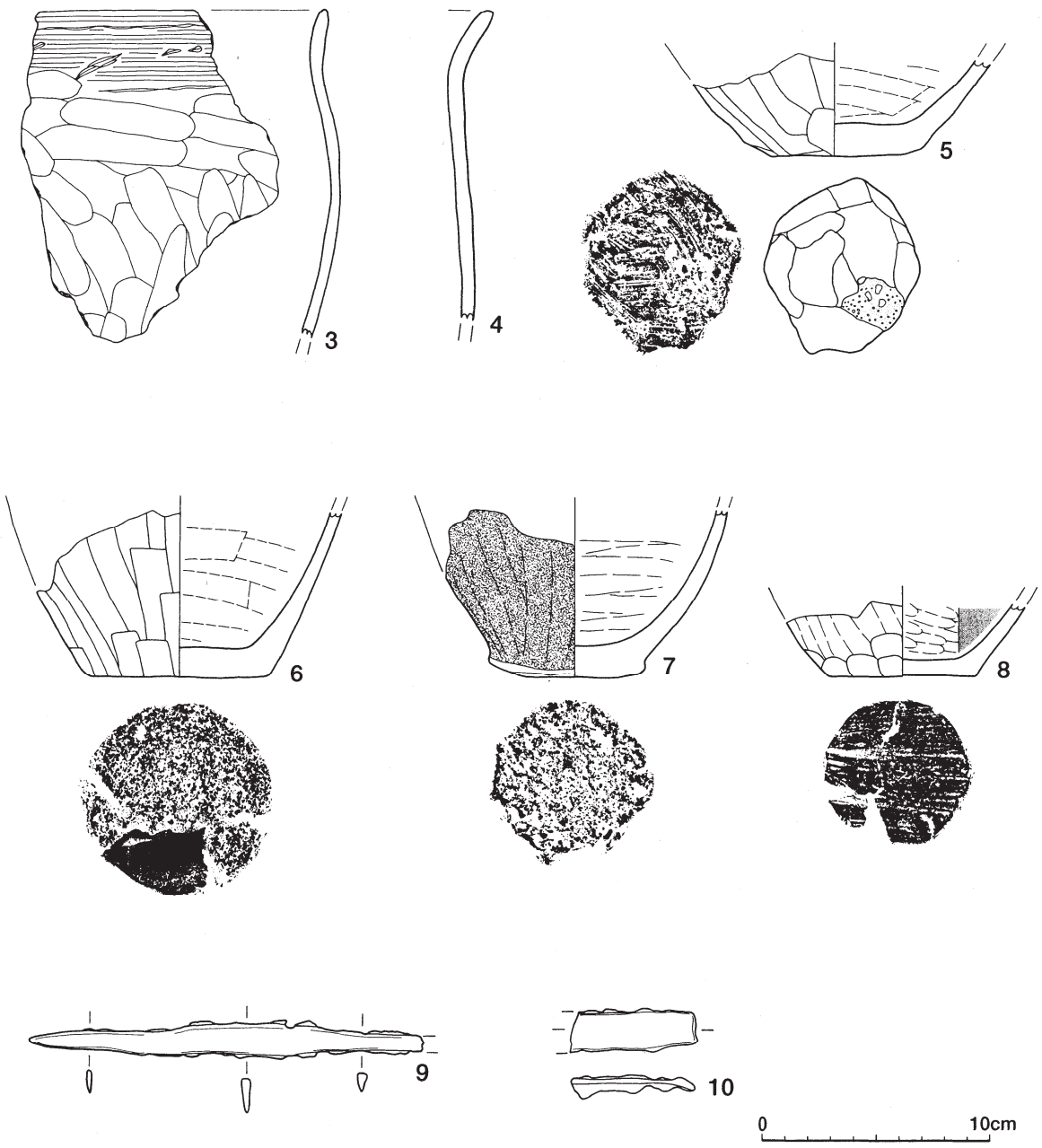


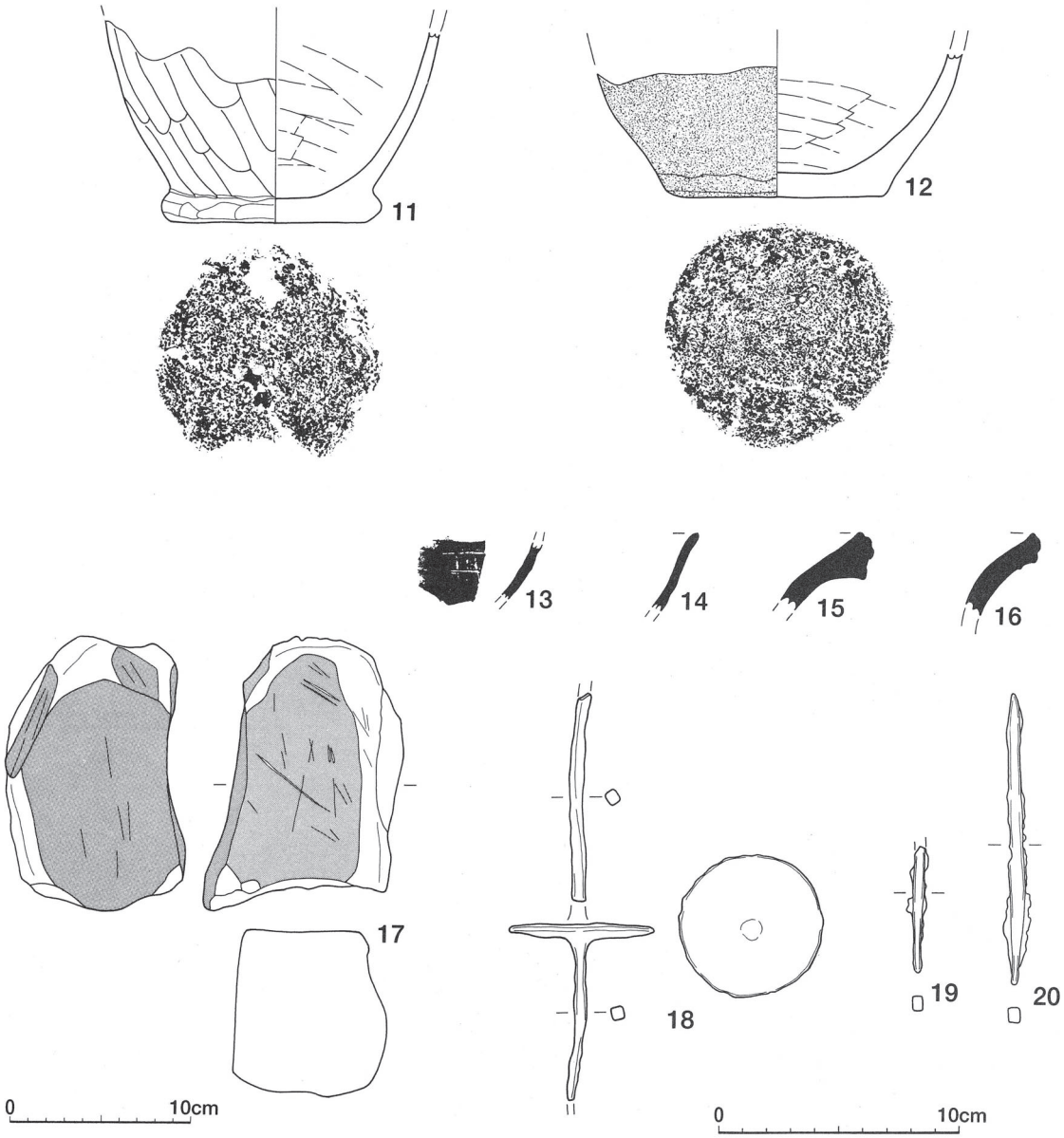
図355　第460号竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	カマド火床面	(13.6)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	P−114、116
2	土師器	甕	フク土	(15.8)	(6.1)		ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
3	土師器	甕	カマド フク土	(22.0)	(14.7)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	—	A	P−103、112 輪積痕
4	土師器	甕	フク土	—	(15.0)	(21.6)	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	不明	不明	—	—	A	P−3
5	土師器	甕	フク土	—	(4.5)	7.8	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底 →ヘラケズリ	A	
6	土師器	甕	カマド火床面	—	(7.4)	8.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P−113
7	土師器	甕	フク土	—	(7.4)	7.0	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	砂底	A	外面粘土付着
8	土師器	甕	フク土	—	(3.3)	6.4	—	—	ヘラナデ ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	胎土黒色? (黒色処理?)

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
9	床直	17.4	1.5	0.4	17.1	小刀	Fe−3
10	床直	5.7	0.8	1.0	16.2	板状	Fe−2

図356　第460号竪穴住居跡出土遺物（2）

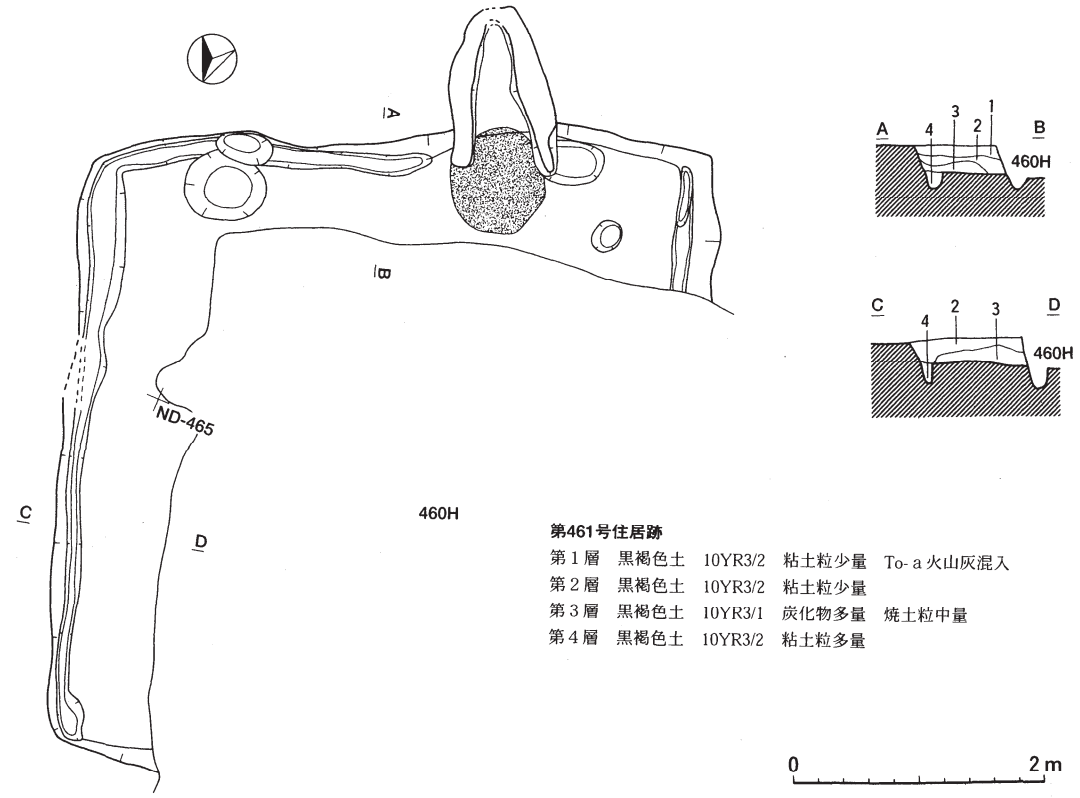


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
11	土師器	甕	カマド火床面	—	(8.4)	8.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P－115
12	土師器	甕	カマド フク土	—	(5.4)	8.6	—	—	ナデ？	—	—	ヘラナデ	砂底 →ナデ	A	外面粘土付着 P－107
13	須恵器	坏	フク土	—	(2.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—		—	外面刻書
14	須恵器	坏	フク土	—	(3.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—		—	内面火たすき痕
15	須恵器	甕	フク土	—	(3.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—		—	自然釉　P－5
16	須恵器	壺	フク土	—	(3.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—		—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
17	床直	14.0	9.1	9.2	2,072	凝	砥石	炭化物付着

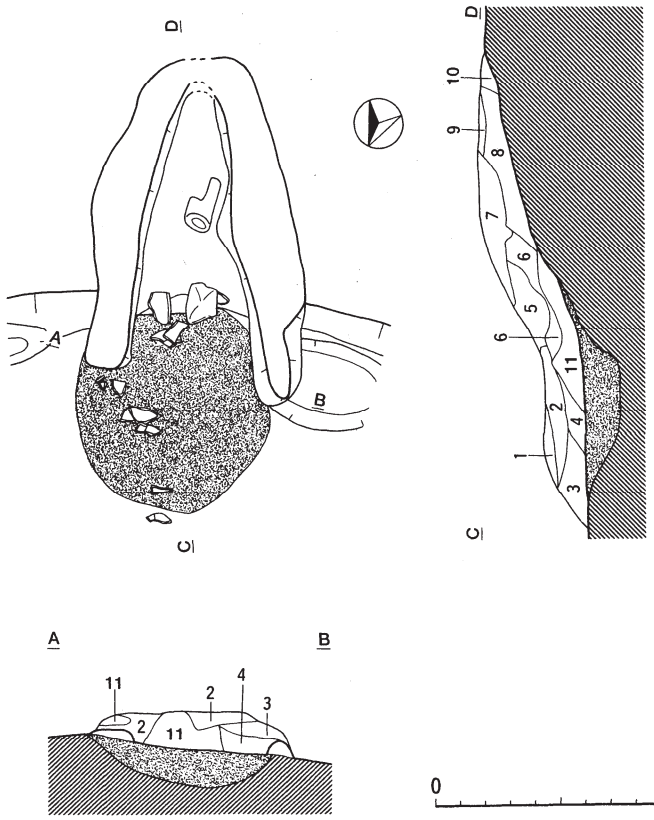
図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
18	フク土	15.4	6.1	0.6	40.1	紡錘車	Fe－1
19	フク土	5.2	0.5	0.6	2.2	棒状	
20	フク土	12.1	0.5	0.4	12.0	棒状	Fe－101

図357　第460号竪穴住居跡出土遺物（3）



第461号住居跡

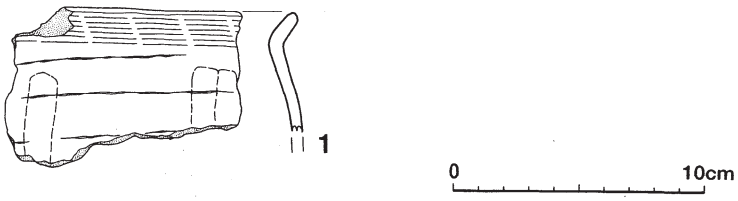
第１層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒少量　To-ａ火山灰混入
第２層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒少量
第３層　黒褐色土　10YR3/1　炭化物多量　焼土粒中量
第４層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒多量



カマド

第１層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒少量　粘土粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・焼土粒多量
第３層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量
第４層　黒褐色土　10YR3/1　粘土粒・焼土粒多量
第５層　褐色土　7.5YR4/4　焼土粒多量　粘土質土
第６層　黒褐色土　10YR2/2　粘土粒・炭化物・焼土粒多量
第７層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・焼土粒中量
第８層　褐色土　7.5YR4/6　焼土粒多量
第９層　褐色土　7.5YR4/6　焼土層
第10層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒中量　焼土粒少量
第11層　赤褐色土　5YR4/6　焼土層　しまりあり

図358　第461号竪穴住居跡



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計　測　値（cm）			外　面　調　整			内　面　調　整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(20.0)	(6.4)	―	ヨコナデ	ヘラナデ	―	ヨコナデ	ヘラナデ	―	―	A	輪積痕

図359　第461号竪穴住居跡出土遺物

第461号竪穴住居跡（図358・図359）

［位　置］　ＮＣ・ＮＤ－464・465グリッドに位置する。

［重　複］　第460号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　第460号住居跡との重複により、西壁と北壁の大部分は残存しない。東壁４ｍ66cm、南壁４ｍ96cmである。床面積は7.17㎡である。主軸方位はＮ－157°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁12cm、南壁24cmである。床面は、ほぼ平坦で黒褐色土とロームが混入した貼床が施される。

［周　溝］　幅９～30cm、深さ２～20cmの周溝がほぼ一巡する。

［ピット］　ピットは３つ検出され、このうちピット１・ピット２が柱穴の可能性がある。ピット１は46×34cm、深さ37cmの楕円形、ピット２は64×56cm、深さ29cmの楕円形である。

［カマド］　南壁ほぼ中央に構築される。袖は粘土で築かれている。煙道は半地下式で、住居外に１ｍのびる。煙道底面は煙出し方向に向かって緩やかに上昇する。

［その他の施設］　検出されなかった。

［堆積土］　４層に分層され、１層には十和田ａ火山灰が微量混入する。自然堆積と考えられる。

［出土遺物］　土師器の甕が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係・出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

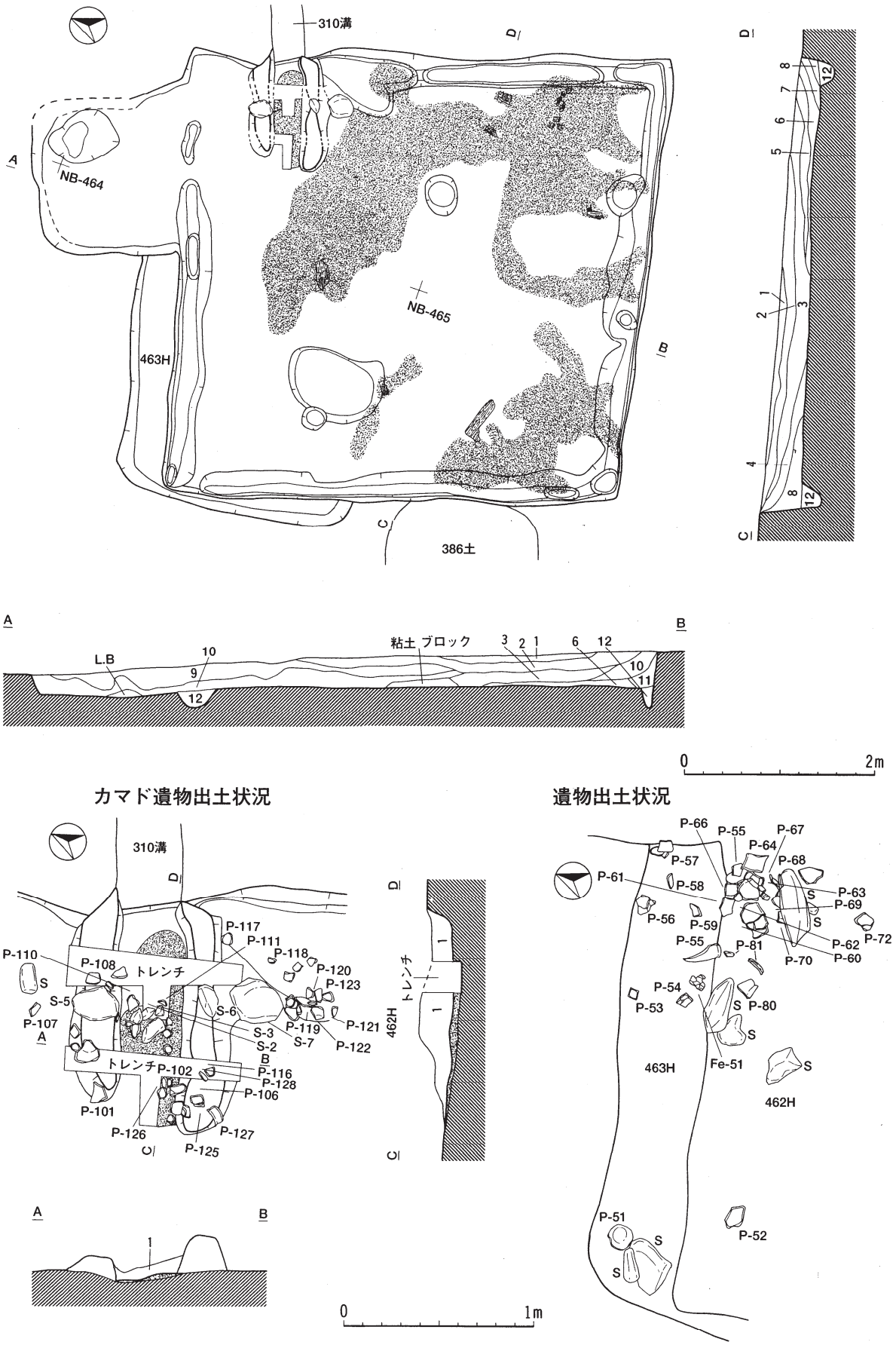


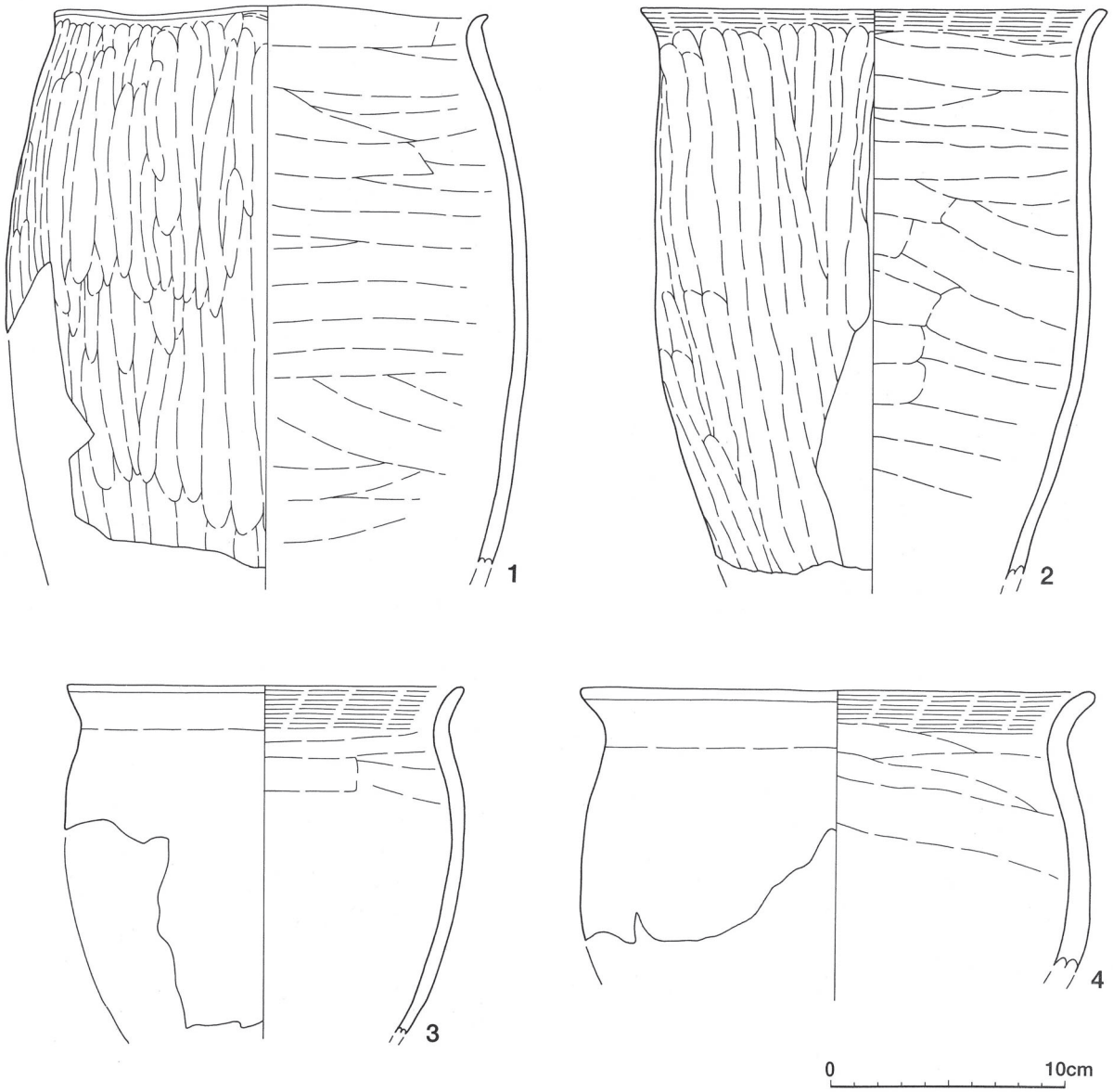
図360　第462号・第463号竪穴住居跡（1）

第462号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒多量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　粘土粒少量　焼土粒微量
第３層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒多量　炭化物少量
第４層　黒褐色土　10YR3/1　粘土粒・炭化物少量
第５層　暗褐色土　10YR3/3　粘土粒多量
第６層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒多量　炭化物少量
第７層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　粘土粒多量
第８層　暗褐色土　10YR3/3　粘土粒多量
第９層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒中量　炭化物・焼土粒少量
第10層　黒褐色土　10YR2/2　粘土粒微量
第11層　黒褐色土　10YR2/2　粘土粒微量
第12層　黒褐色土　10YR3/1　粘土粒多量　炭化物少量

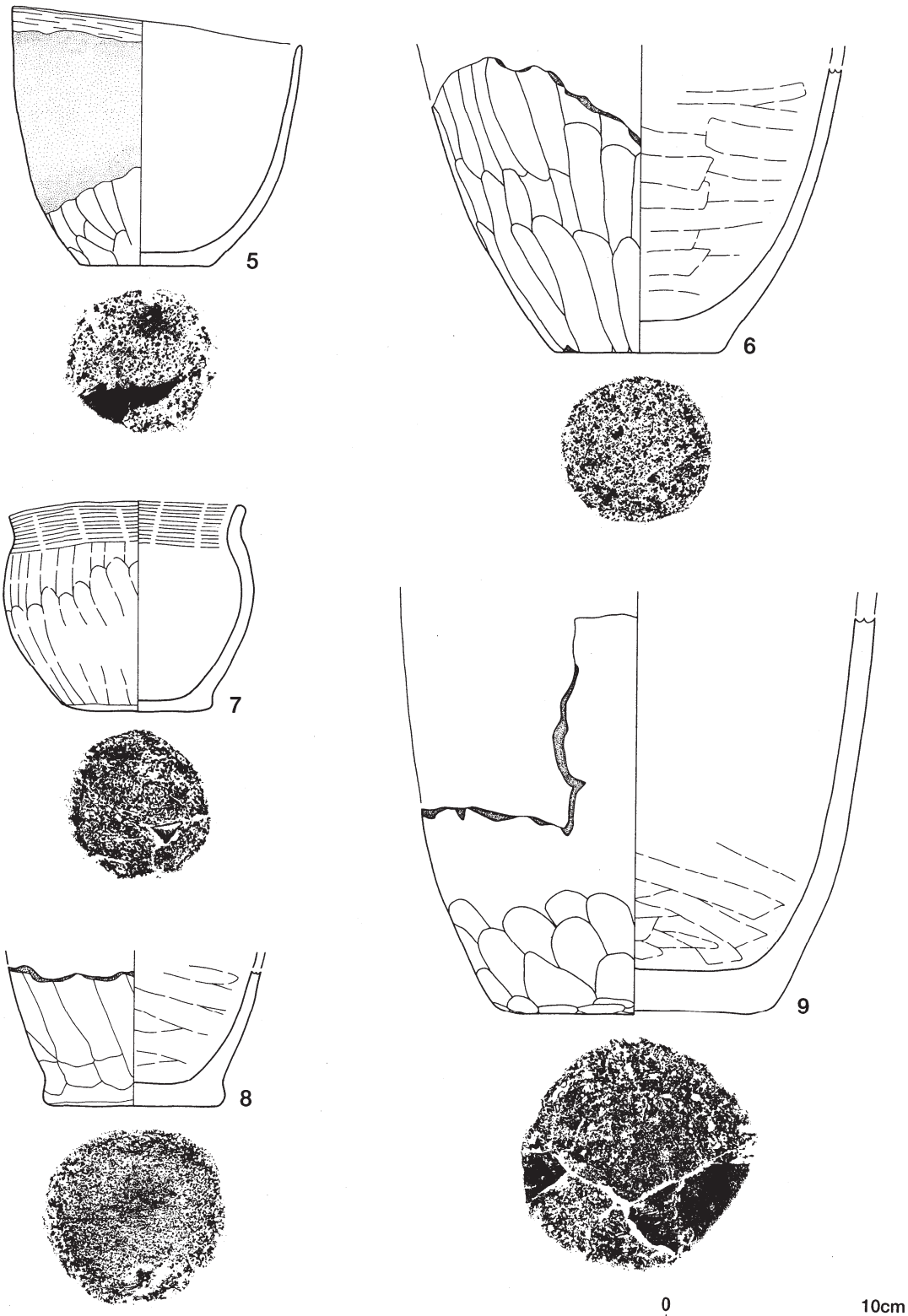
カマド

第１層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒少量　焼土粒微量



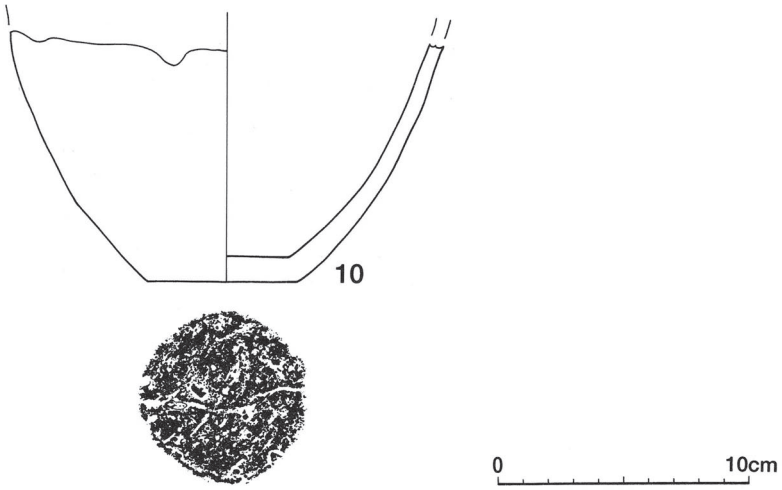
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	18.6	(24.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P−64、73、60、55
2	土師器	甕	フク土	(20.0)	(24.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P−56、66、5
3	土師器	甕	カマド フク土	(17.0)	(14.8)	—	不明	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P−9、76、62、68、73
4	土師器	甕	床直	(22.0)	(11.9)	—	不明	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P−2

図361　第462号竪穴住居跡（２）・出土遺物（１）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
5	土師器	鉢	カマド フク土	13.6	12.1	6.2	ヨコナデ?	不明	ヘラケズリ	不明	不明	不明	砂底	AⅡ	P−124、65、115、125 内外面剥落
6	土師器	甕	フク土	—	(13.8)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P−59、78、66、69、71、63、68
7	土師器	鉢	カマド フク土	11.2	9.8	6.5	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	不明 (磨滅)	不明 (磨滅)	砂底 →ナデツケ	AⅠ	P−127、115、121、119
8	土師器	甕	フク土	—	(7.6)	8.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P−79
9	土師器	甕	床直 カマドフク土	—	(18.8)	(13.0)	—	不明	ヘラケズリ	—	不明	ヘラナデ	ナデツケ	A	P−3、1、122、144

図362　第462号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計　測　値（cm）			外　面　調　整			内　面　調　整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	フク土	―	(10.0)	6.0	―	不明	不明	―	不明	不明	ヘラナデ	A	P－54、57、58、62

図363　第462号竪穴住居跡出土遺物（３）

第462号竪穴住居跡（図360～図363）

［位　置］　ＮＡ・ＮＢ－463～465グリッドに位置する。

［重　複］　第463号住居跡、第386号土坑、第310号溝と重複し、第463号住居跡、第386号土坑より新しく、第310号溝より古い。

［平面形・規模］　東壁６ｍ70cm、西壁４ｍ85cm、南壁４ｍ65cm、北壁４ｍ65cmである。床面積は24.50㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁18cm、西壁48cm、南壁30cmである。床面は地山粘土を堅く踏みしめた床面である。

［周　溝］　幅11～41cm、深さ７～29cmの周溝がほぼ一巡する。

［ピット］　ピットは５つ検出されたが、いずれも浅く、柱穴とは考えられない。

［カマド］　住居東壁北側に構築されている。礫を芯材とし、粘土で覆って築かれている。煙道は第310号溝との重複により残存しない。

［その他の施設］　住居北側に北壁１ｍ45cm、東壁１ｍ55cm、西壁１ｍ30cmの張り出しをもつ。調査時は第387号土坑としていたが、堆積土が類似しており、セクション面で壁の立ち上がりを確認できなかった点、床面が同じで、掘り方をもつ点、住居の周溝が土坑の部分では検出されなかった点などから住居の張り出しとした。

［堆積土］　12層に分層され、６層には焼土が多量に含まれる。全体的に粘土が混入する。

［出土遺物］　流れ込みと考えられる土師器・礫が多量に出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

第463号竪穴住居跡（図360）

［位　置］　ＮＡ－464・465グリッドに位置する。

［重　複］　第462号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　第462号住居跡との重複により北壁２ｍ45cm、西壁２ｍ36cmが残存する。床面積は1.05㎡である。

［壁・床面］　壁高は、西壁35cm、北壁16cmである。地山を床面とし、ほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　検出されなかった。

［その他の施設］　検出されなかった。

［堆積土］　堆積土は１層で、第462号住居跡の堆積土との区別はつかなかった。

［時　期］　重複関係から、９世紀後半から10世紀前半以前に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

第471号（Ａ）竪穴住居跡（図364～図371）

［位　置］　ＮＥ・ＮＦ－471～474グリッドに位置する。

［重　複］　第370号住居跡、第２号畝状遺構と重複し、本住居跡は第２号畝状遺構より古く、第370号住居跡より新しい。また本住居跡は、第471号（Ｂ）住居跡を拡張したものである。

［平面形・規模］　東壁７ｍ10cm、西壁７ｍ22cm、南壁７ｍ40cm、北壁７ｍ10cmの方形である。床面積は39.57㎡で、主軸方位はＮ－71°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁18cm、西壁60cm、南壁64cm、北壁46cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅10～28cm、深さ３～19cmの周溝が東壁、西壁、南壁の一部に断片的に検出された。

［ピット］　検出されなかった。

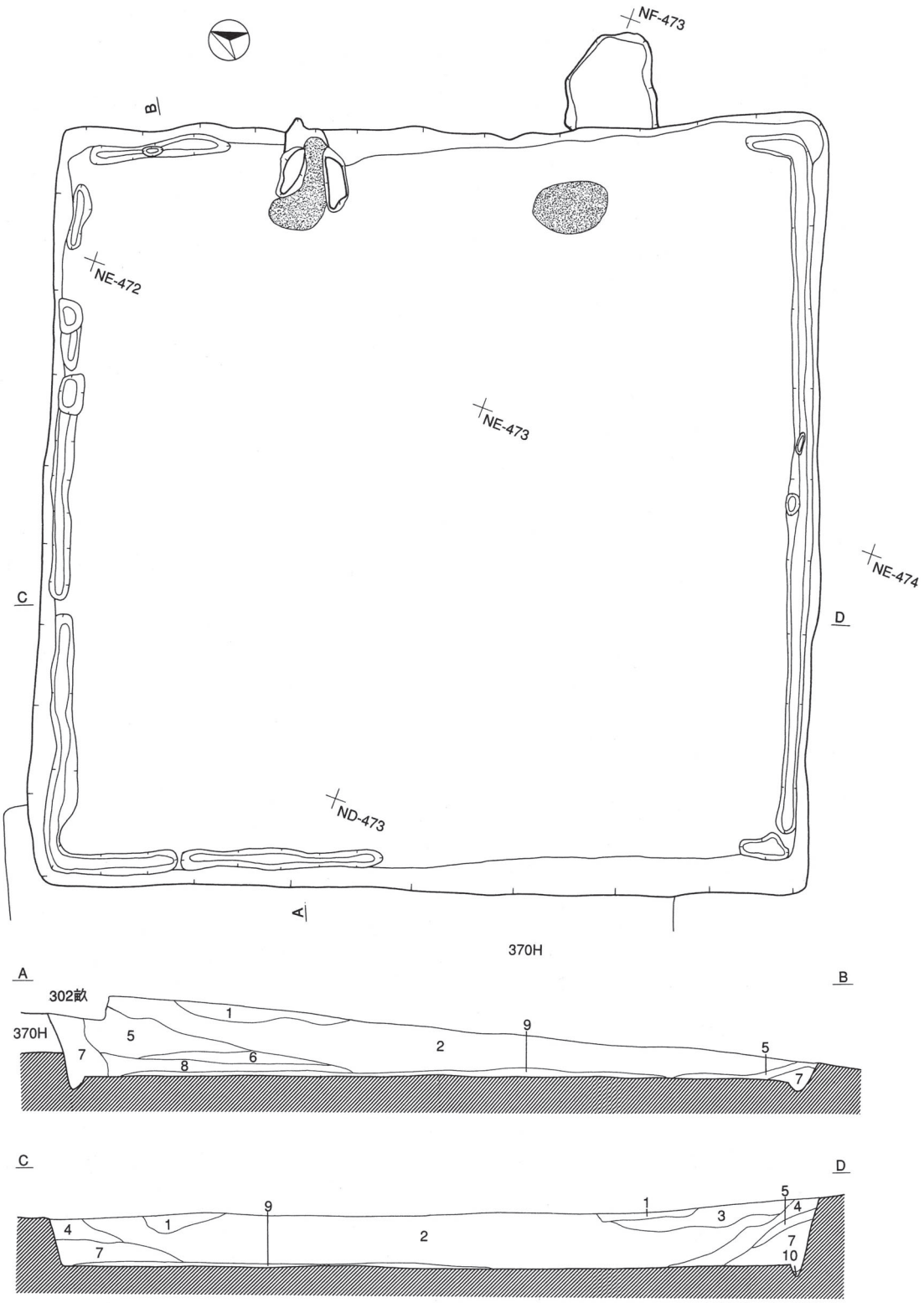
［カマド］　東壁北側に構築されている。煙道は半地下式で、住居跡外に15cmのびる。煙道底面は煙出し方向にやや急勾配に立ち上がる。カマド周辺から、芯材に使われたと思われる礫、土師器が出土している。

［堆積土］　堆積土は10に分層される。

［出土遺物］　土師器の甕、坏、小型土器や須恵器の壺、鉢のほかに、鋤先や刀子、小刀、釣針などの鉄製品、砥石、磨石が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第471号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/2　にぶい黄橙色土(10YR7/4)・ローム粒・炭化物混入
第２層　褐色土　7.5YR6/4
第３層　黒褐色土　10YR3/2　にぶい黄橙色土(10YR6/4)・ローム粒混入
第４層　黒褐色土　10YR3/2　明黄褐色土(10YR7/6)　炭化物混入
第５層　黒褐色土　10YR2/2　にぶい褐色土(7.5YR5/4)・L.B・炭化物混入
第６層　暗褐色土　10YR3/3　明黄褐色土(10YR7/6)・黒褐色土(10YR3/2)・粘土粒混入
第７層　暗褐色土　10YR3/3　にぶい褐色土(7.5YR6/4)混入
第８層　黒褐色土　10YR2/2　明黄褐色土(10YR7/6)・にぶい褐色土（7.5YR5/4）・焼土粒混入
第９層　黒褐色土　10YR2/2　にぶい褐色土(7.5YR5/4)混入
第10層　黒褐色土　10YR2/2　明黄褐色土(10YR7/6)・炭化物混入

図364　第471号(A)竪穴住居跡

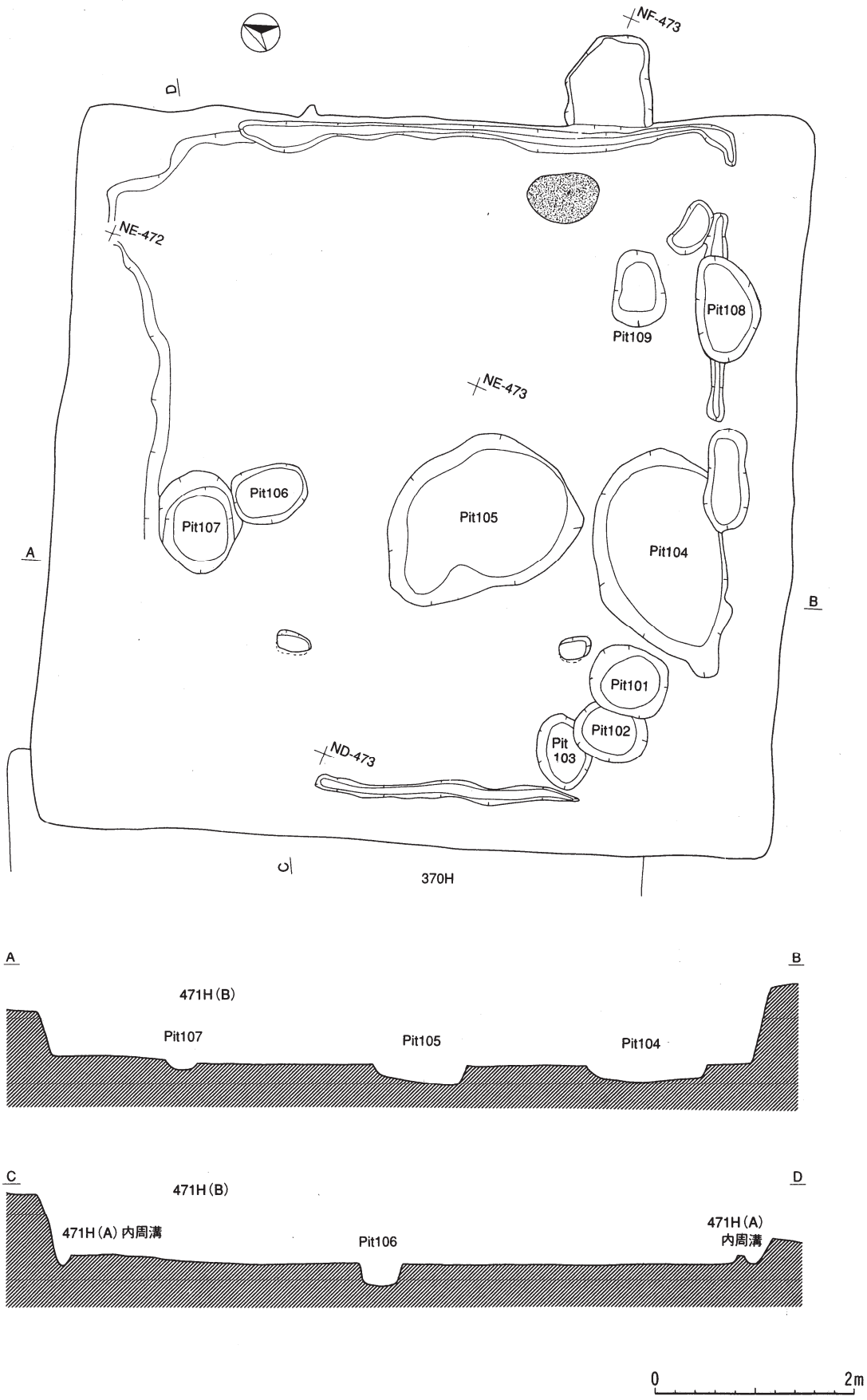


図365　第471号(B)竪穴住居跡

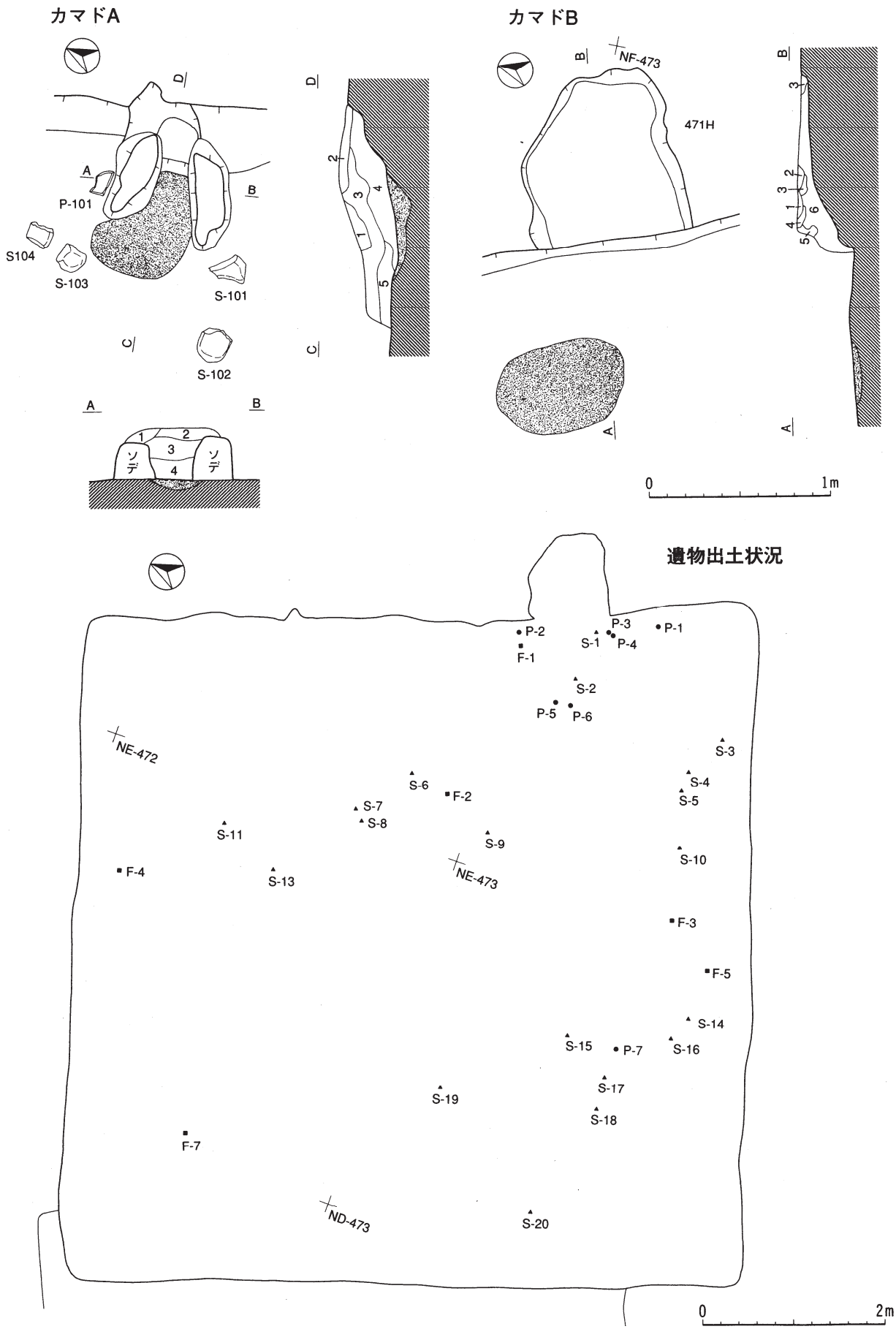


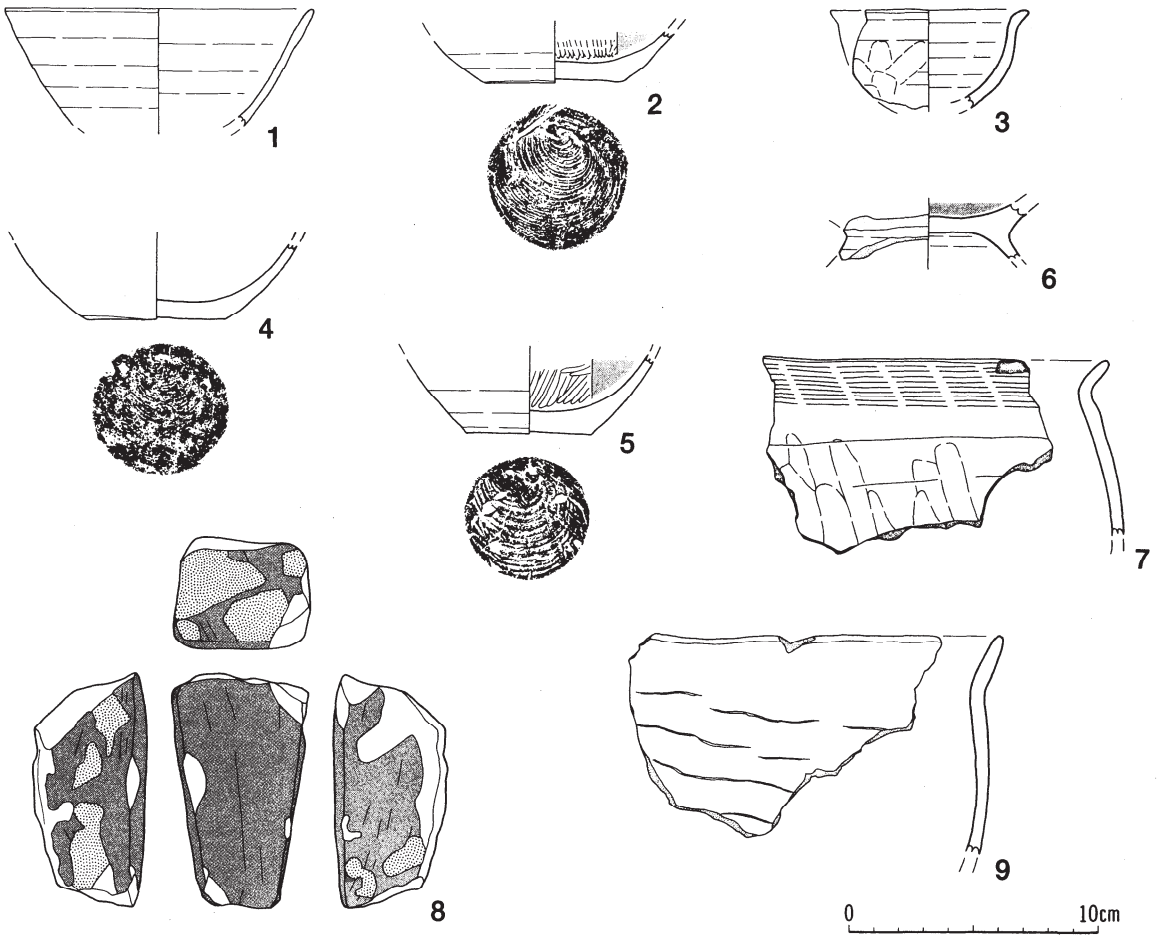
図366　第471号（A）・（B）竪穴住居跡（２）

カマドA

第1層	暗褐色土	10YR3/4	ローム質土　炭化物・焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒多量
第3層	黒褐色土	10YR2/2	L.B少量　焼土粒微量
第4層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒多量　炭化物少量
第5層	褐色土	10YR4/4	ローム質土　炭化物・焼土粒少量

カマドB

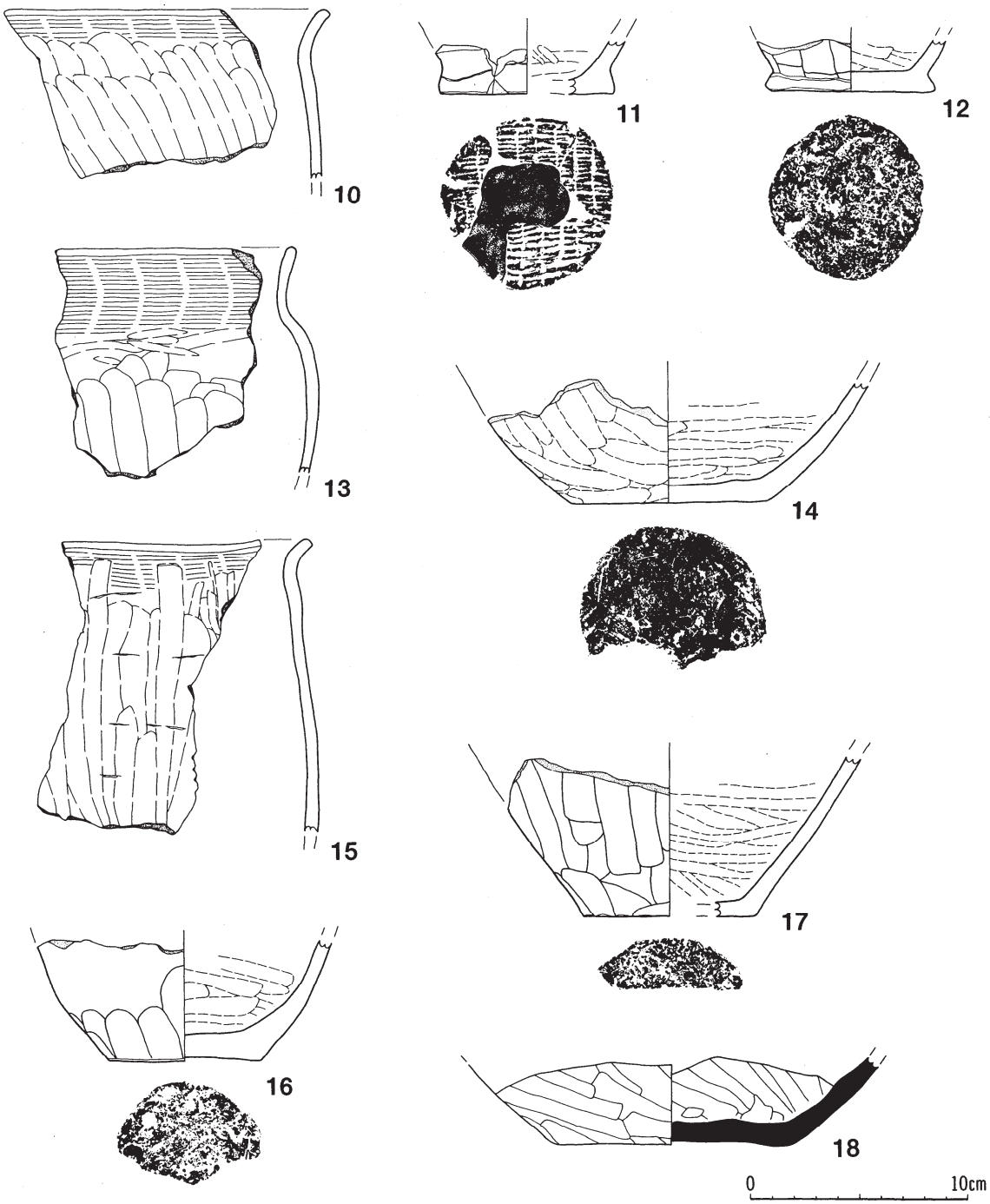
第1層	黒褐色土	10YR3/2	明黄褐色土(10YR7/6)炭化物・焼土粒混入
第2層	にぶい褐色土	10YR5/4	黒褐色土(10YR2/3)混入　焼土粒微量
第3層	明赤褐色土	5YR5/6	焼土層　黒褐色土(10YR3/2)混入
第4層	明黄褐色土	10YR7/6	黒褐色土(10YR3/2)混入　粘土粒微量
第5層	橙色土	5YR6/6	黒褐色土(10YR3/2)混入
第6層	黒褐色土	10YR3/2	明黄褐色土(10YR7/6)混入 ローム粒・炭化物・焼土粒混入



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フク土	(12.4)	(4.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
2	土師器	坏	(B)床直	—	(1.9)	5.6	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理 P-4
3	土師器	小型土器	貼床	(8.0)	(4.0)	—	—	—	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	
4	土師器	坏	(B)フク土	—	(3.0)	—	—	—	不明	—	—	不明	糸切り？	B？	
5	土師器	坏	フク土	—	(3.3)	—	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り→ヘラナデ	BⅠ	内面黒色処理
6	土師器	高台付坏	フク土	—	(2.2)	—	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り→高台取付	—	内面黒色処理
7	土師器	甕	カマドフク土	(21.0)	(7.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
9	土師器	甕	フク土	(21.0)	(8.2)	—	ナデ？	ナデ？	—	不明	不明	—	—	A	輪積痕

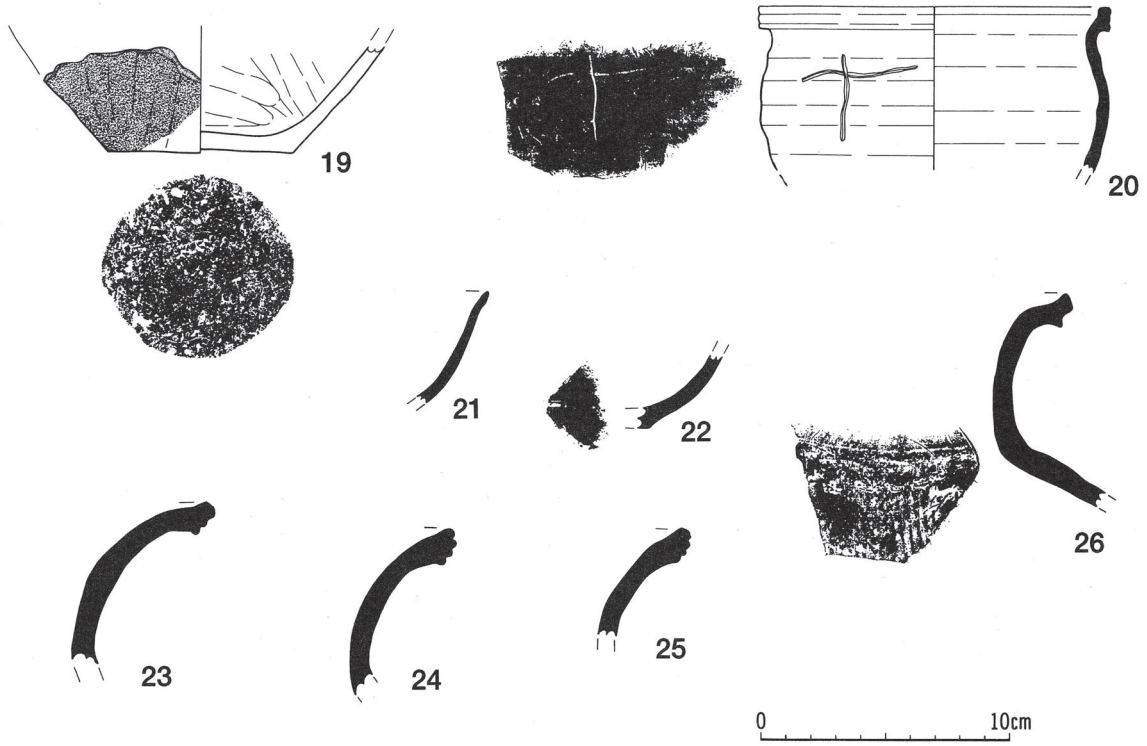
図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
8	フク土	9.1	5.2	4.4	280	凝	砥石	炭化物付着

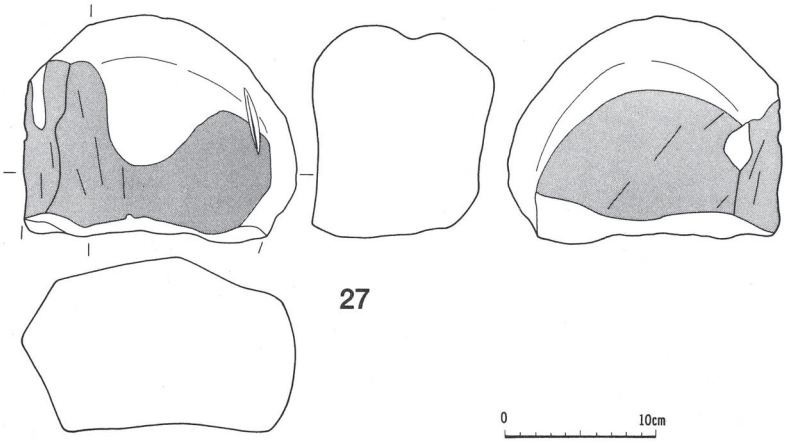
図367　第471号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	床面	(18.0)	(7.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-3
11	土師器	甕	フク土	—	(2.3)	(8.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	薦編み痕	A	輪積痕
12	土師器	甕	フク土	—	(2.4)	7.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	底面
13	土師器	甕	フク土	(22.0)	(10.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
14	土師器	甕	フク土	—	(5.7)	9.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
15	土師器	甕	フク土	(23.0)	(13.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
16	土師器	甕	フク土	—	(5.6)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底 →ナデツケ	A	
17	土師器	甕	フク土	—	(7.3)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
18	須恵器	壺	フク土	—	(4.1)	(10.8)	—	—	ケズリ	—	—	ケズリ	切離後 ヘラナデ	—	

図368　第471号竪穴住居跡出土遺物（2）

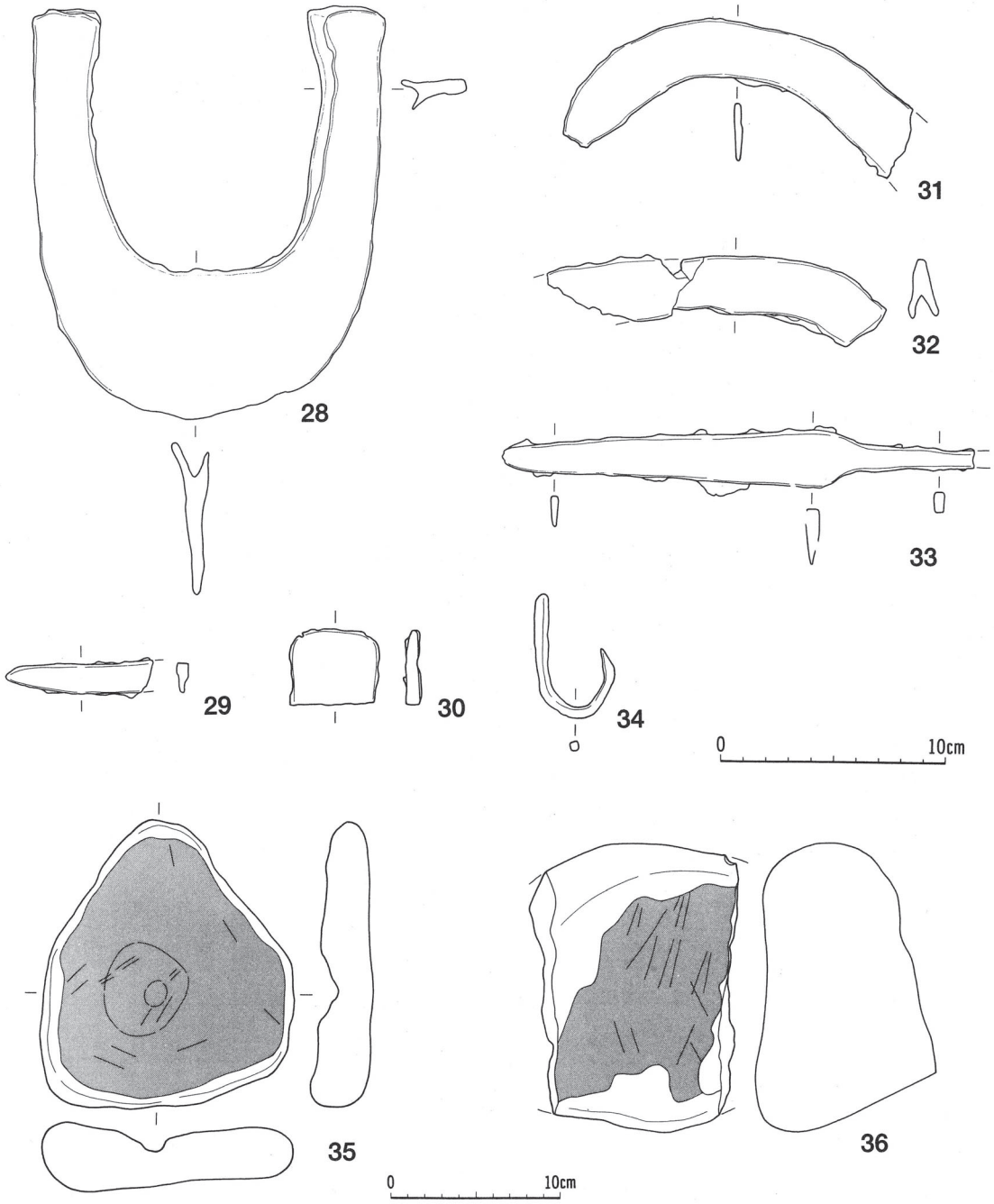




図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
19	土師器	甕	フク土	—	(4.2)	7.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	外面スス状炭化物付着
20	須恵器	鉢	フク土	(14.0)	(6.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外面刻書
21	須恵器	坏	フク土	—	(4.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	471H(B) 外面火だすき痕
22	須恵器	坏	フク土	—	(2.8)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	切離後 ヘラナデ 回転糸切り	—	外面刻書
23	須恵器	甕	床直	—	(6.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-3
24	須恵器	甕	フク土	—	(6.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
25	須恵器	甕	フク土	—	(4.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
26	須恵器	甕	フク土	—	(8.5)	—	ロクロ	頸部ロクロ 肩部平行タタキ目	—	ロクロ	頸部ロクロ 肩部あて具	—	—	—	自然釉

図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
27	カマド床直	18.3	14.5	11.1	3927	安	砥石	S-103

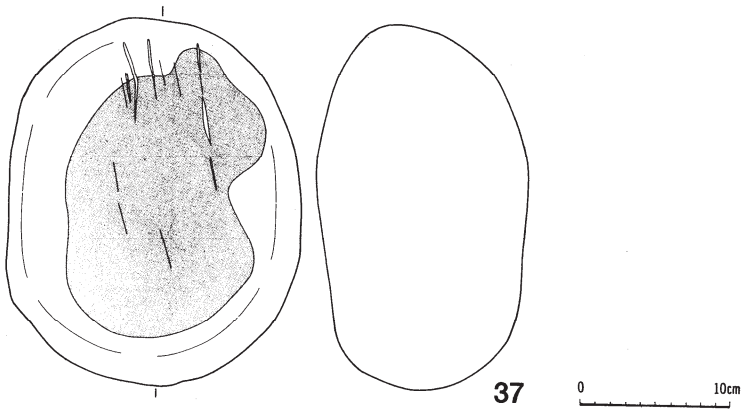
図369　第471号竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	種　類	備　　考
		長さ	幅	厚さ			
28	床面	18.4	6.8	1.0	498.5	鋤（鍬）先	Fe-5
29	フク土	6.4	1.3	0.6	7.4	刀子	
30	フク土	4.0	3.3	0.7	18.8	板状	
31	フク土	15.6	2.6	0.3	39.0	鎌	Fe-1
32	フク土	11.4	2.6	0.9	65.0	鋤（鍬）先	Fe-2
33	フク土	21.1	2.5	0.7	54.7	小刀	Fe-4
34	Pit1フク土	5.5	0.4	0.5	6.1	釣針	Fe-5

図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	石　質	分　類	備　　考
		長さ	幅	厚さ				
35	フク土	16.8	14.9	3.9	1110	凝	磨石	炭化物付着
36	カマド床直	11.4	17.0	10.6	3042	凝	砥石	S-104

図370　第471号竪穴住居跡出土遺物（4）



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
37	床面	24.5	19.5	14.2	6595	安	砥石	S-4

図371　第471号竪穴住居跡出土遺物（５）

第471号（Ｂ）竪穴住居跡（図364～図371）

［位　置］　ＮＣ～ＮＥ－471～473グリッドに位置する。

［重　複］　第471号（Ａ）住居跡は、本住居跡を拡張したものである。

［平面形・規模］　東壁の周溝のほかは、断片的に壁または周溝を検出した。東壁６ｍ10cm、西壁２ｍ68cm、南壁３ｍ22cm、北壁３ｍ62cmである。平面形は不明である。主軸方位はＮ－68°－Ｅで、床面積は、39.57㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁32cm、南壁54cm、北壁45cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅７～31cm、深さ１～21cmの周溝が東壁、西壁・南壁の一部に断片的に検出された。

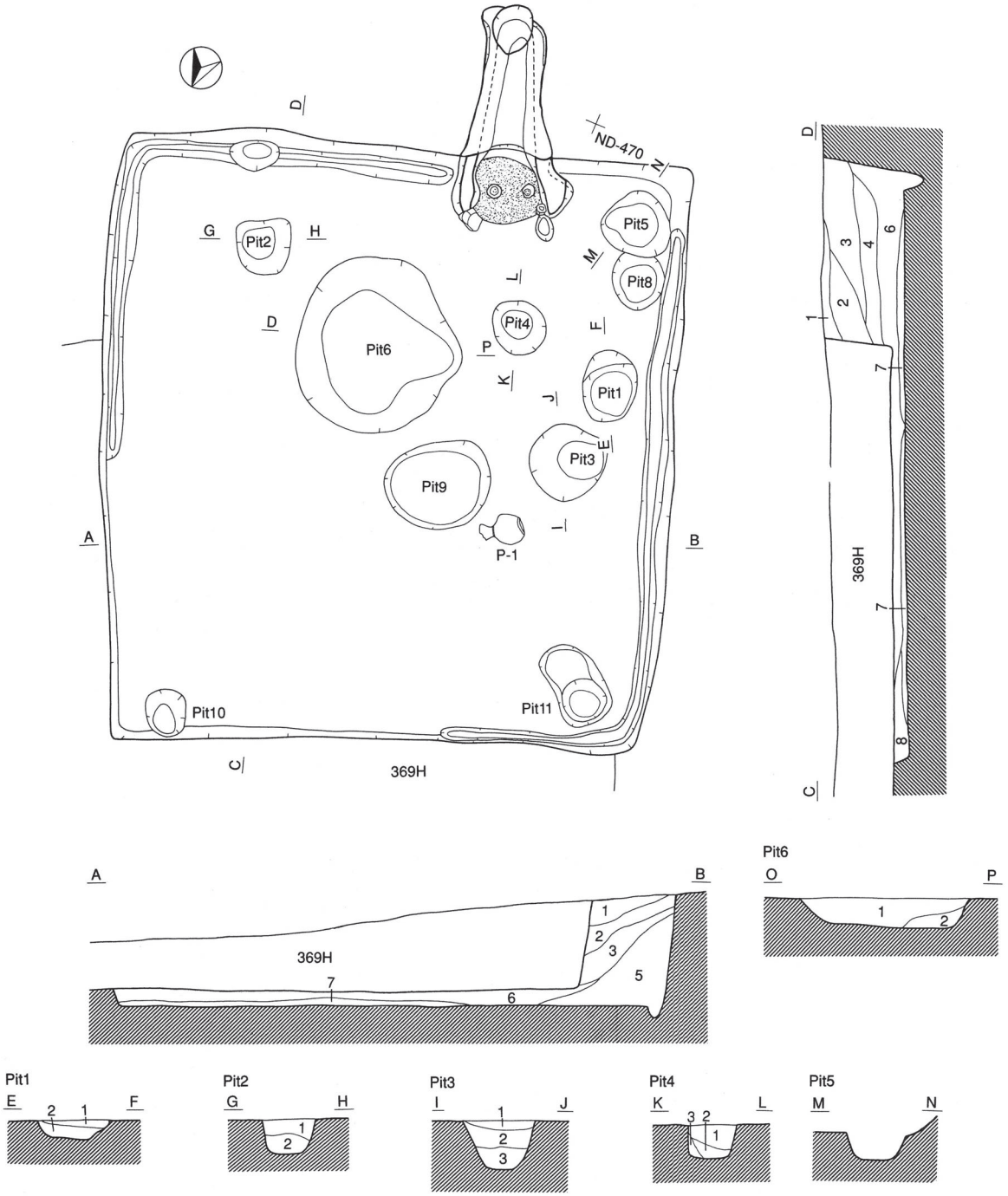
［ピット］　検出されたピットは７個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　東壁南側に構築されており、火床面と煙道のみ残存する。煙道は半地下式で、住居跡外に92cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。焚き口周辺から芯材に使われたと思われる礫が出土している。

［その他の施設］　中央やや南側に、長軸234cm、短軸128cm、深さ16cmのピット４、南壁西側に、長軸204cm、短軸144cm、深さ20cmのピット５を検出した。用途等については不明である。

［時　期］　重複関係から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第473号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物・焼土粒混入
第２層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土粒混入
第３層	褐色土	10YR4/4	黒色土(10YR2/1)　炭化物・焼土粒混入
第４層	黄褐色土	10YR5/6	黒褐色土(10YR3/2)・明褐色土(7.5YR5/6)・炭化物・焼土粒混入
第５層	にぶい黄褐色	10YR5/4	黒褐色土(10YR3/2)・明褐色土(7.5YR5/6)・炭化物混入
第６層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒・炭化物微量
第７層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物少量　焼土粒微量　Ｔｏ－ａ混入
第８層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土粒微量

図372　第473号竪穴住居跡（１）

第473号竪穴住居跡（図372～図378）

［位　置］　ＮＣ・ＮＥ－468・470グリッドに位置する。

［重　複］　第369号・第495号住居跡と重複し、本住居跡は第369号住居跡より古く、第495号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　東壁５ｍ60cm、西壁５ｍ45cm、南壁５ｍ30cm、北壁４ｍ90cmの方形である。床面積は27.40㎡で、主軸方位はＮ－163°－Ｅである。

［壁・床面］　北側が第369号住居跡に切られている。壁高は、東壁16cm、西壁102cm、南壁78cm、北壁14cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅６～21cm、深さ９～37cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは６個である。柱穴は、ピット２（31cm）、ピット５（25cm）、ピット10（26cm）、ピット11（20cm）と考える。

［カマド］　南壁西側に構築されている。羽口と礫を芯材として用い、粘土を覆って本体を築いている。焚口には土師器の坏が２個伏せた状態で置かれ、支脚としていた。２つの支脚は、間隔が19cm、火床面から約９cm上に底部が置かれるように設置されている。煙道は半地下式で、住居跡外に140cmのびる。煙道底面は煙出し方向に急勾配に立ち上がる。

［その他の施設］　西壁南側に、長軸66cm、短軸50cm、深さ18cmのピット１、西壁中央に、長軸74cm、短軸72cm、深さ46cmのピット３、カマドの北側に、長軸54cm、短軸48cm、深さ32cmのピット４、中央から南寄りに、長軸162cm、短軸154cm、深さ26cmのピット６、中央付近に、長軸98cm、短軸80cmのピット９を検出した。

［堆積土］　堆積土は８層に分層され、７層にＴｏ－ａ火山灰が混入する。床面南側一帯に炭化材が検出されたことから、焼失家屋と考える。

［出土遺物］　土師器の甕、坏、堝、小型土器や須恵器の坏、壺、鉢、長頸壺のほかに、羽口、刀などが出土している。特に長頸壺は、床面からほぼ完形の状態で出土した。また、床面から炭化したトチの実が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

Pit 1

第１層	にぶい黄褐色	7.5YR5/4	粘土質土　炭化物・焼土粒混入
第２層	黒色土	10YR2/1	ローム粒　炭化物微量　しまりなし

Pit 2

第１層	黄褐色土	10YR5/6	粘土質土　黒褐色土(10YR2/2)混入 炭化物・焼土粒微量
第２層	黒褐色土	10YR3/2	黒色土(10YR2/1)・明黄褐色土(10YR6/6) 炭化物混入

Pit 3

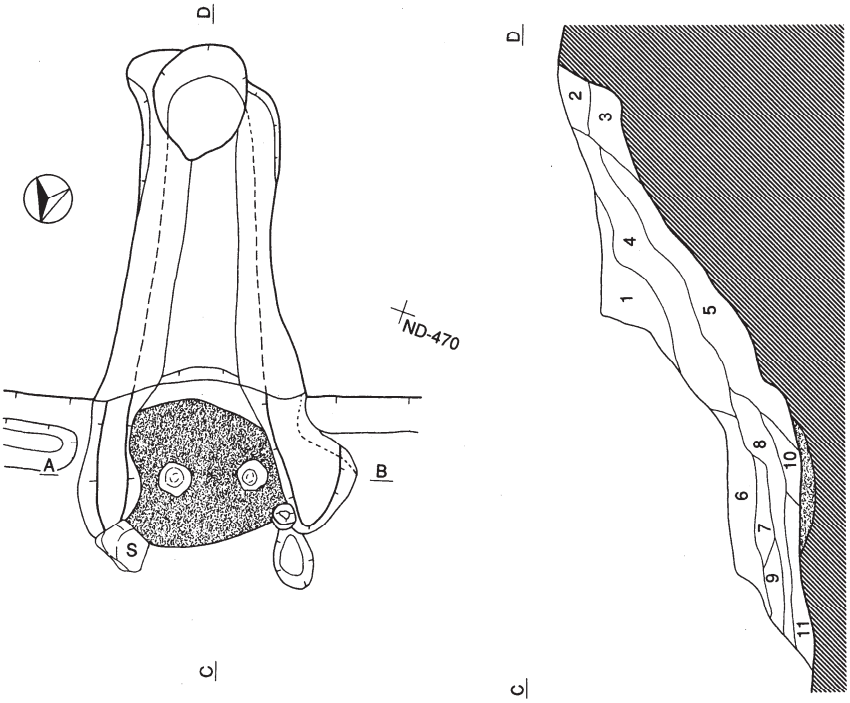
第１層	黒褐色土	10YR3/2	黒色土(10YR2/1)・にぶい黄褐色土(10YR5/4) 炭化物混入
第２層	褐色土	10YR4/4	
第３層	褐色土	10YR4/4	

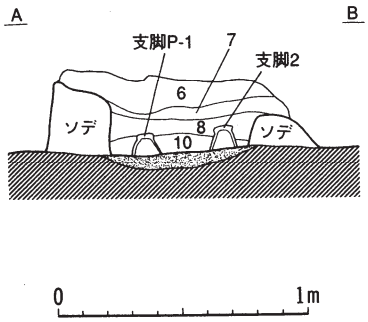
Pit 4

第１層			炭化物層　焼土粒少量
第２層	にぶい黄褐色	10YR5/4	暗褐色土(10YR3/3)混入　炭化物 焼土粒中量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	にぶい黄褐色土(10YR5/4)混入 炭化物・焼土粒多量

Pit 6

第１層	黒褐色土	10YR3/2	明黄褐色土(10YR6/6)混入 炭化物・焼土粒少量
第２層	暗褐色土	7.5YR3/3	明黄褐色土(10YR6/6)混入 焼土粒少量

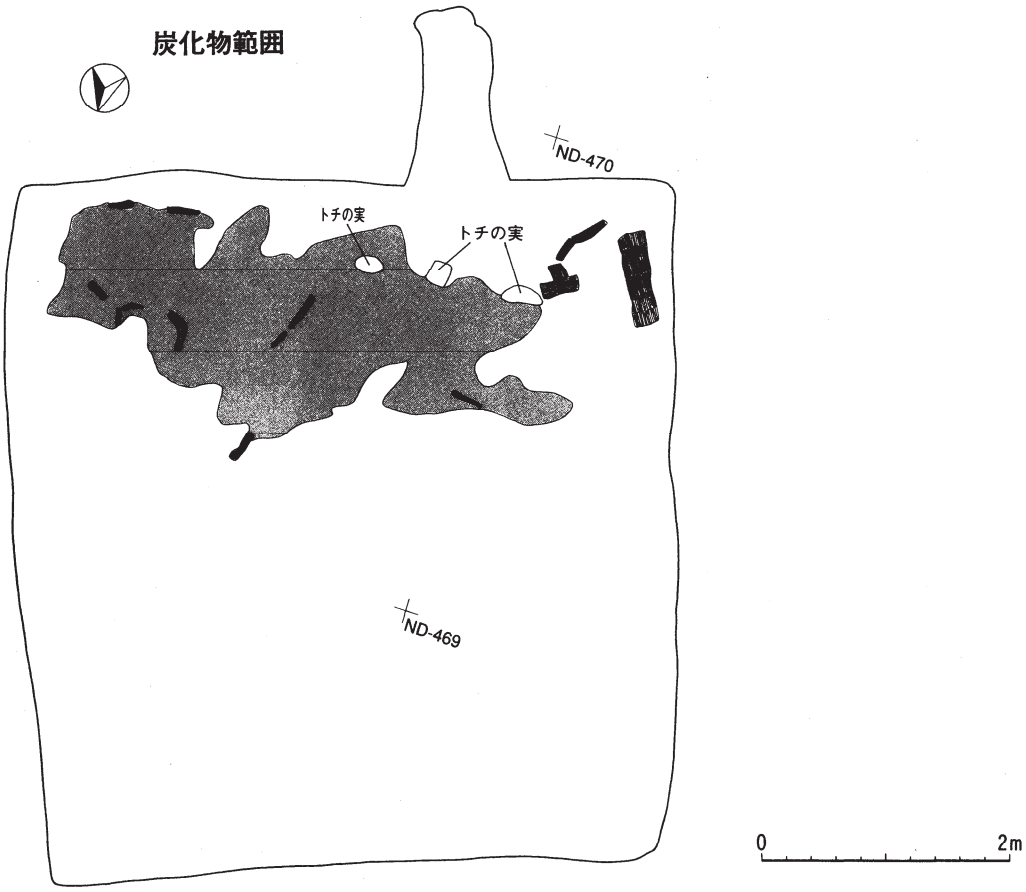


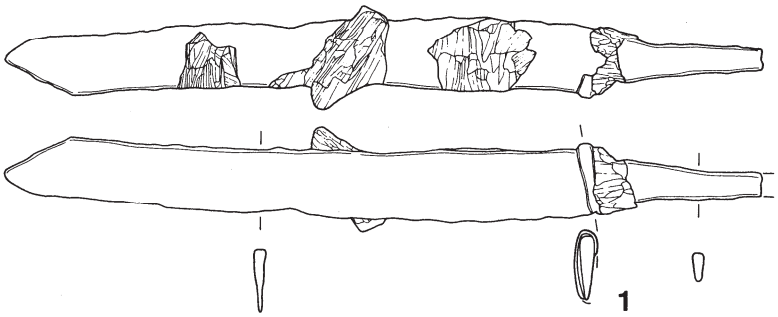


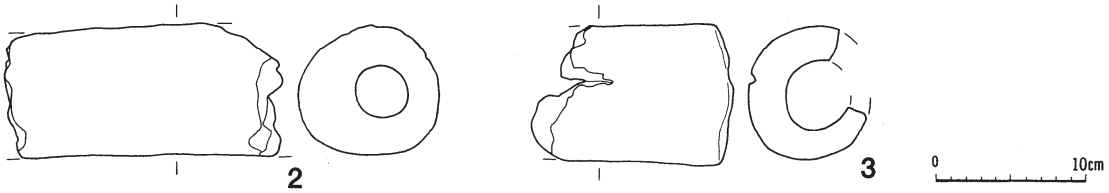
カマド

第１層	黒褐色土	10YR2/3	L.B　軽石・焼土粒少量
第２層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土ブロック多量
第３層	黒褐色土	7.5YR2/1	焼土ブロック中量
第４層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土粒中量
第５層	黄褐色土	10YR5/8	粘性あり
第６層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物・焼土粒混入　しまりなし
第７層	黒色土	10YR1.7/1	炭化物・焼土粒多量
第８層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒・炭化物・焼土粒多量
第９層	黒褐色土	7.5YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒混入
第10層	赤褐色土	5YR4/8	
第11層	黒色土	10YR2/1	炭化物・焼土粒混入　しまりなし

図373　第473号竪穴住居跡（２）



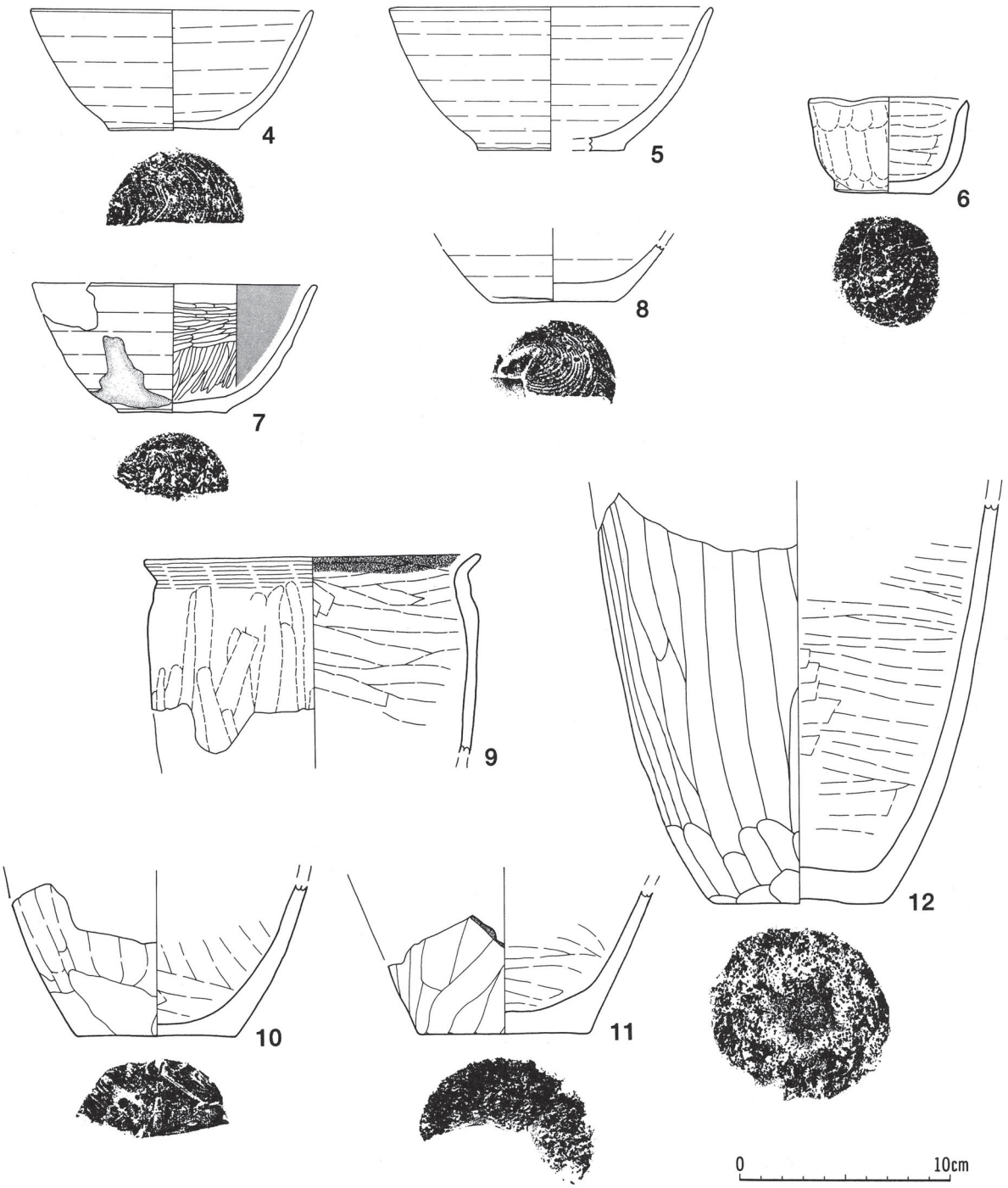




図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
1	フク土	40.5	3.4	0.6	206.3	刀	木質部残存

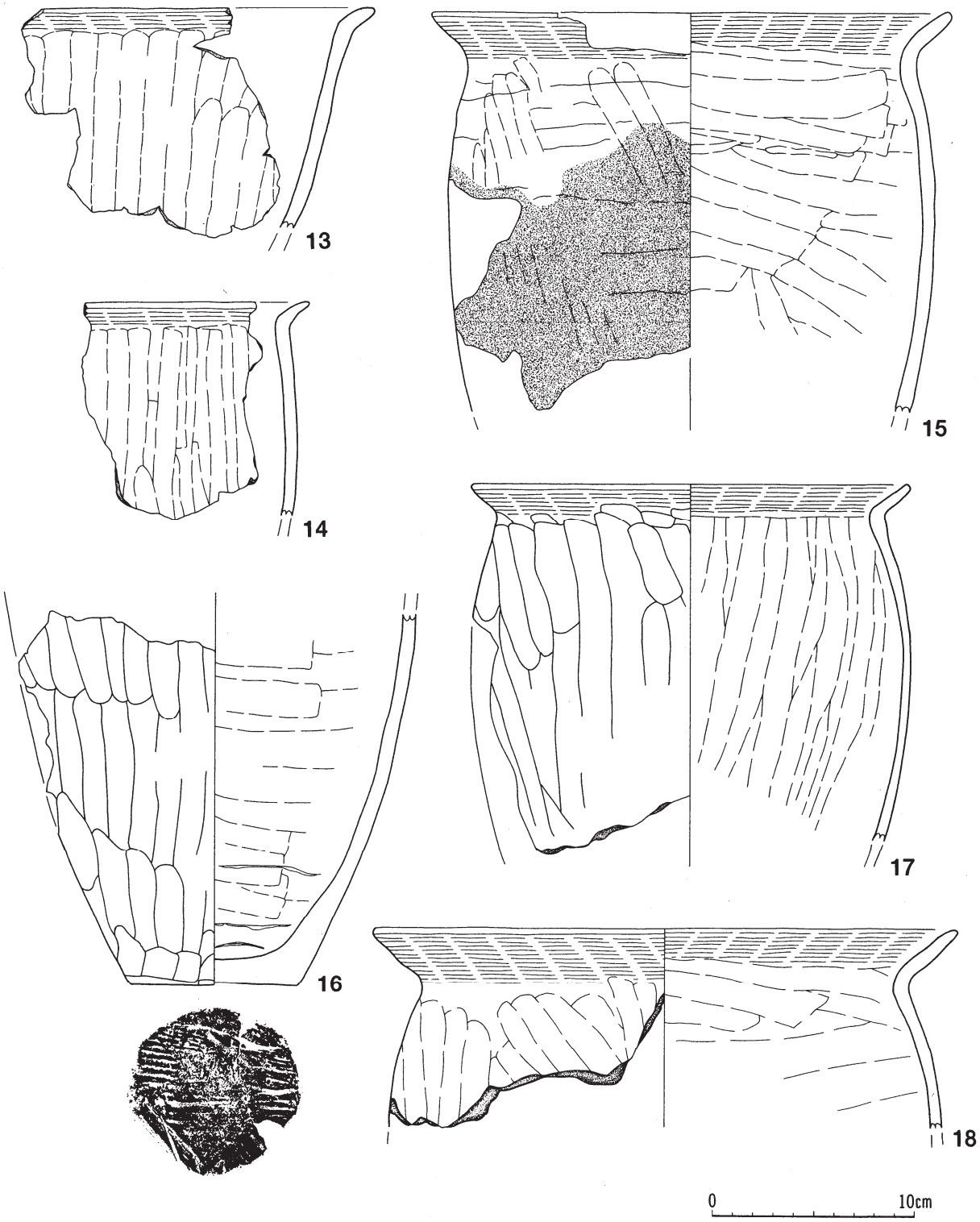
図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
2	フク土	(18.5)	8.6×9.5	3.5	(1330)	B	ナデ	
3	カマド芯材	(13.4)	8.9×(7.9)	―	(530)	不明	―	

図374　第473号竪穴住居跡（3）・出土遺物（1）



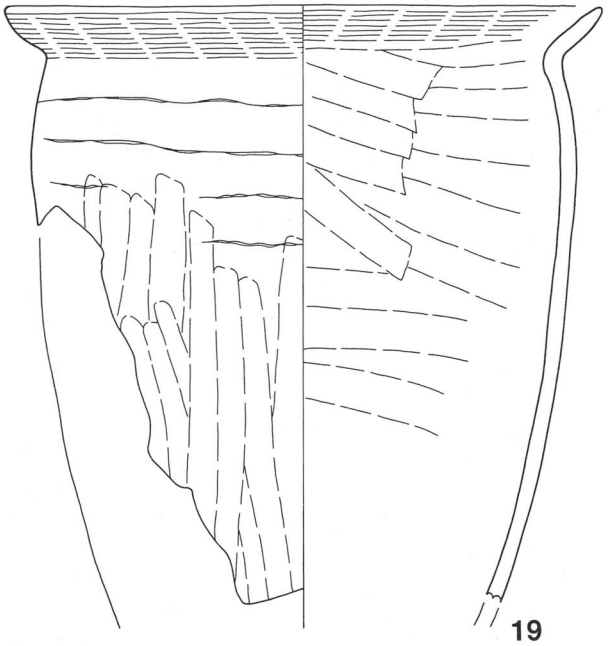
図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
4	土師器	坏	Pit6 フク土	(13.6)	(5.8)	(6.2)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	
5	土師器	坏	Pit8 フク土	(15.4)	(6.8)	(7.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り？	BⅡb	
6	土師器	小型土器	Pit12 フク土	7.6	4.5	4.2	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	—	
7	土師器	坏	Pit11 フク土	(13.6)	6.1	(5.2)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠb	内面黒色処理
8	土師器	坏	床直	—	(2.7)	6.2	—	—	ロクロ	—	—			BⅡ	
9	土師器	甕	Pit8フク土 火床面下	(16.0)	(9.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	内面スス状炭火物付着
10	土師器	甕	9層、Pit1フク土	—	(8.1)	(7.6)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-112, 116
11	土師器	甕	Pit4、8層 Pit7、Pit11 フク土	—	(6.6)	8.2	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底 →ナデツケ	A	P-201
12	土師器	甕	8層、9層 カマドフク土	—	(19.5)	8.2	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A	P-103, 105, 106, 108 109, 111, 120支脚

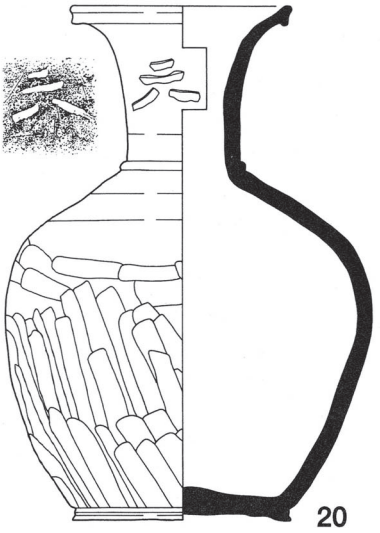
図375　第473号竪穴住居跡出土遺物（2）

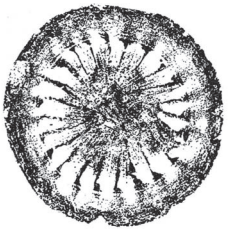


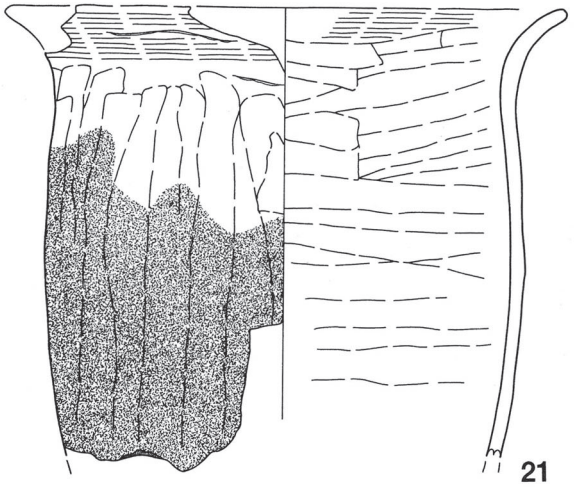
図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
13	土師器	塝	床面	(28.0)	(11.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	P-11, 12, 13
14	土師器	甕	カマド9層	(21.0)	(10.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-118
15	土師器	甕	カマドフク土 カマド煙道部	(26.0)	(19.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-114, 102 輪積痕，粘土付着
16	土師器	甕	カマド9層	—	(18.5)	8.2	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-110, 114 P-119支脚
17	土師器	甕	Pit8 フク土	22.0	(18.4)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
18	土師器	甕	Pit4 フク土	29.0	(10.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

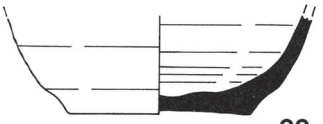
図376　第473号竪穴住居跡出土遺物（3）

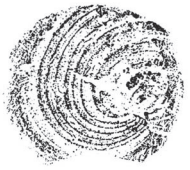


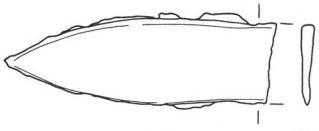


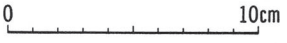








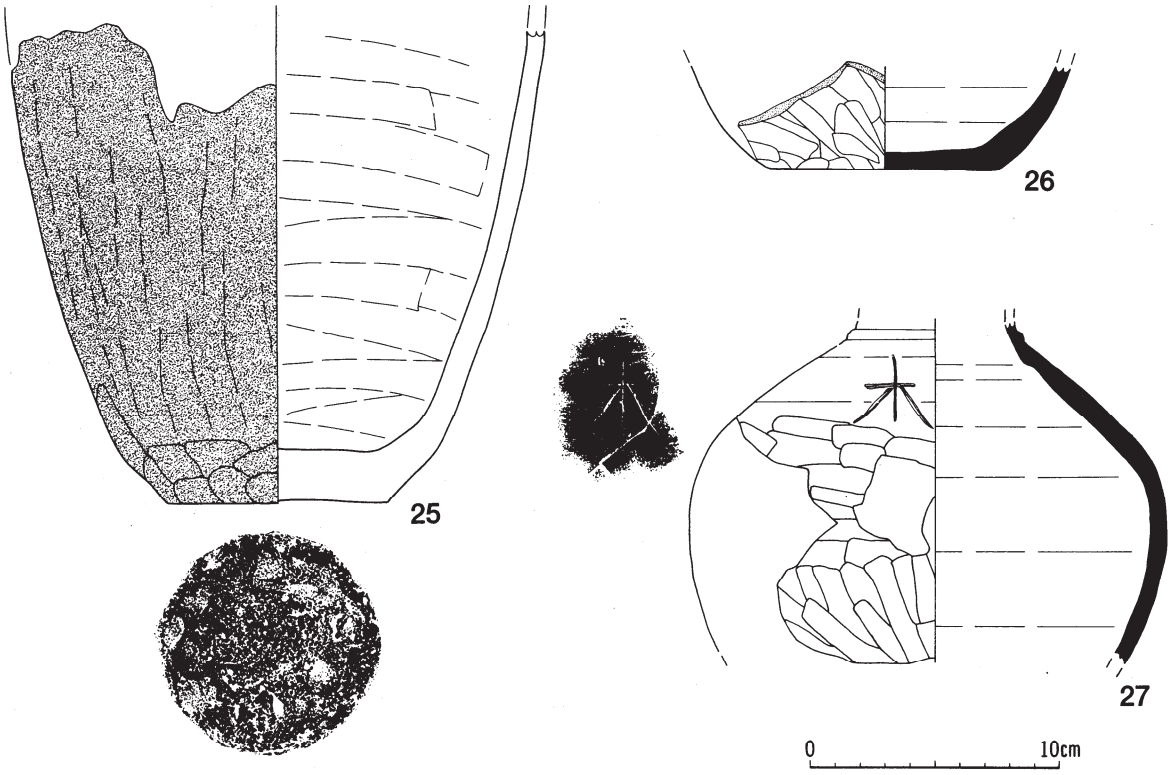




図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
19	土師器	甕	カマド・9層床面	(24.0)	(24.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P-102, 113 P-17 輪積痕
20	須恵器	長頸壺	床面	(9.0)	20.5	8.8	ロクロ	ロクロ	ケズリ	—	—	—	菊花文	—	刻書
21	土師器	甕	床面	(22.6)	(18.6)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-, 106, 107, 101 輪積痕、粘土付着
22	須恵器	鉢	Pit1フク土	—	(3.9)	7.2	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	A	
24	須恵器	甕	Pit1フク土	—	(6.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—		A	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	種類	備考
23	Pit6フク土	11.4	3.8	0.5	73.8	刀	

図377　第473号竪穴住居跡出土遺物（4）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
25	土師器	甕	床面	—	(19.3)	9.0	—	ヘラナデ?	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-5, 9, 11, 14, 15, 13 外面粘土付着
26	須恵器	壺	フク土	—	(4.2)	(9.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切離後ヘラケズリ	—	
27	須恵器	長頸壺	床直	—	(13.8)	—	—	肩部ロクロ 胴ケズリ	ケズリ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	外面刻書 肩部隆帯

図378　第473号竪穴住居跡出土遺物（5）

第475号竪穴住居跡（図379）

［位　置］　MV・MW－482・483グリッドに位置する。

［重　複］　第398号住居跡、第322号溝と重複し、本住居跡が最も古い。

［平面形・規模］　西壁6m46cm、南東部分が調査区外にかかり、また、本住居跡の大半を第398号住居跡に切られている。残存する南壁3m68cm、北壁36cmである。平面形、主軸方位は不明である。床面積は7.33㎡である。

［壁・床面］　壁高は、西壁48cm、南壁12cmである。床面は起伏を持ち、東側にやや傾斜する。

［周　溝］　幅12～30cm、深さ1～13cmの周溝が南壁から西壁にかけて断片的に検出された。

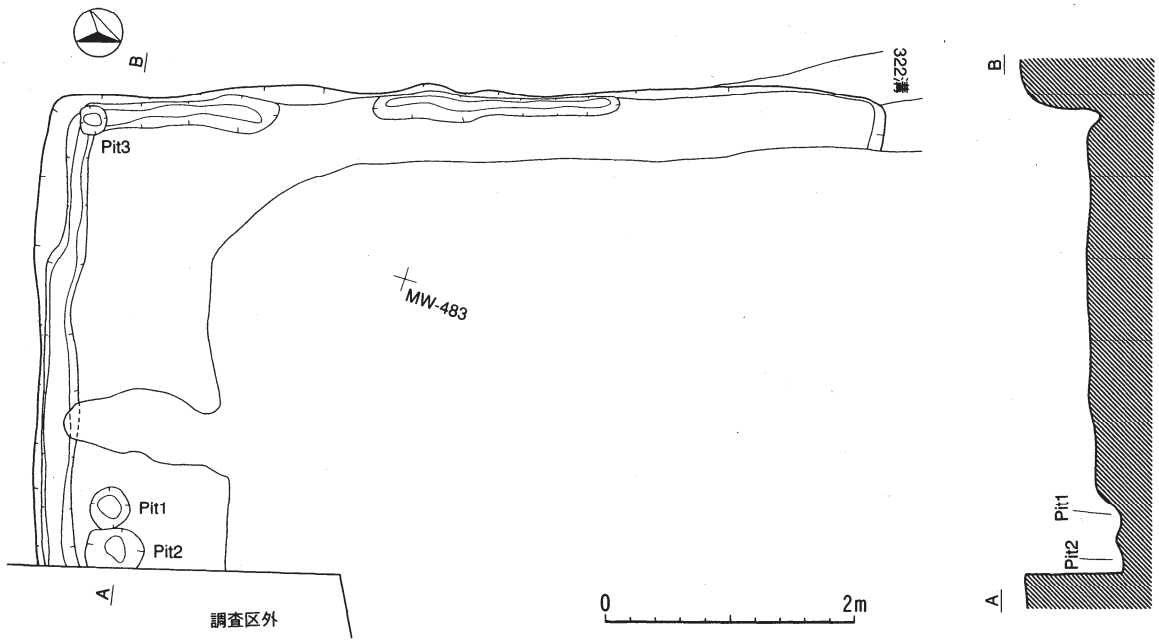
［ピット］　検出されたピットは3個である。いずれも柱穴とは考えられない。

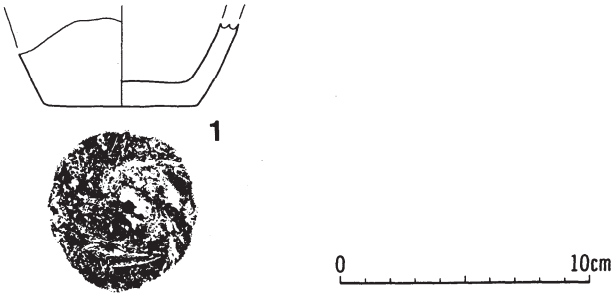
［カマド］　検出されなかった。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕が出土している。

［時　期］　時期は不明である。

（相馬良仁）





図版番号	種　類	器　種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	―	(3.8)	6.0	―	―	不明	―	―	不明	ヘラナデ	A?	

図379　第475号竪穴住居跡・出土遺物

第476号竪穴住居跡（図380～図383）

［位　置］　ＮＦ～ＮＨ－474・475グリッドに位置する。

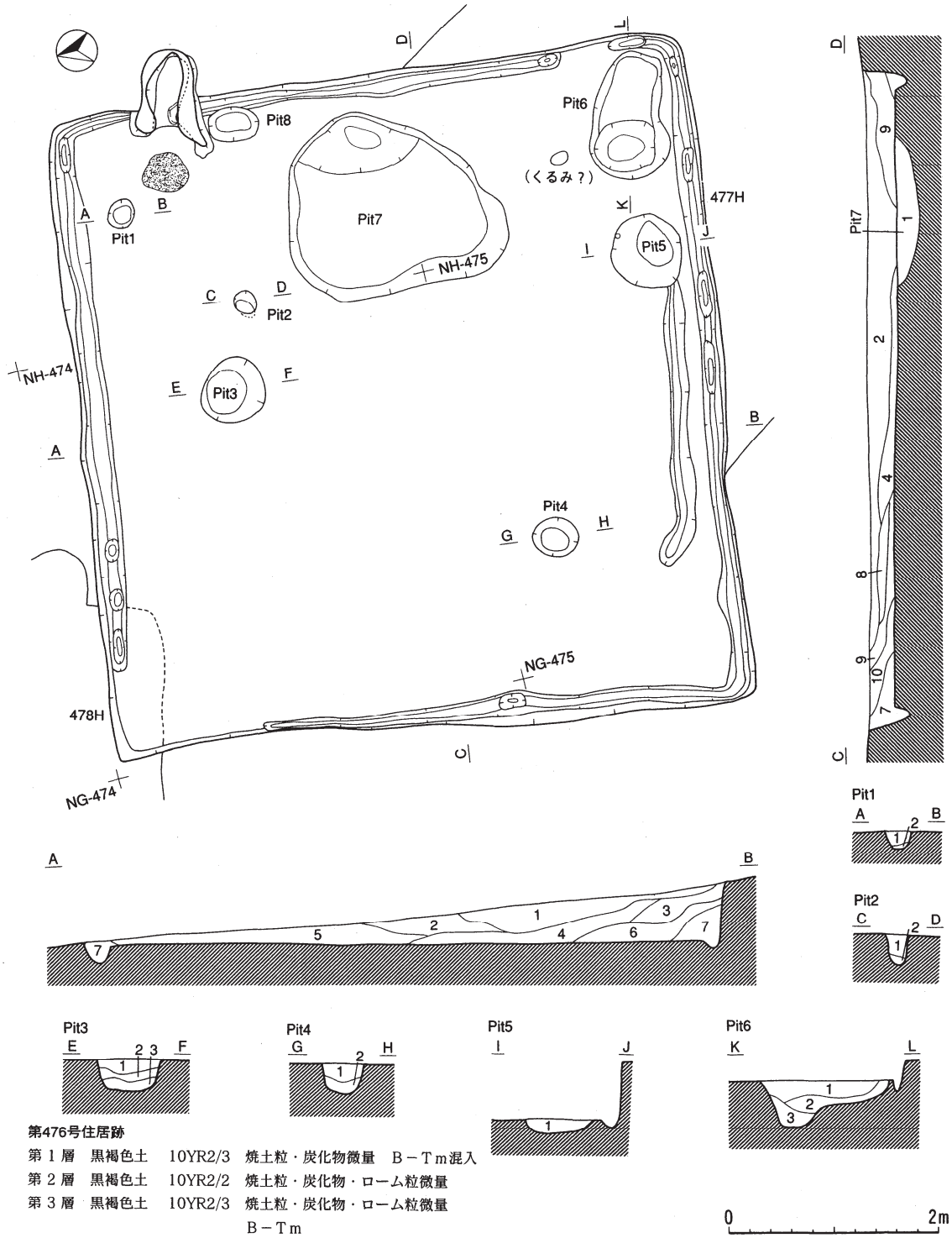
［重　複］　第477号住居跡、第478号住居跡と重複し、本住居跡は第477号住居跡より古く、第478号住居跡より新しい。

［平面形・規模］　東壁６ｍ12cm、西壁６ｍ15cm、南壁６ｍ38cm、北壁６ｍ10cmの方形である。床面積は37.51㎡で、主軸方位はＮ－97°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁35cm、西壁36cm、南壁16cm、北壁19cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅６～26cm、深さ３～21cmの周溝がほぼ一巡する。

［ピット］　検出されたピットは６個である。いずれも柱穴とは考えられない。



第476号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒・炭化物微量　Ｂ－Ｔｍ混入
第２層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒・炭化物・ローム粒微量
第３層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒・炭化物・ローム粒微量 Ｂ－Ｔｍ
第４層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒・炭化物少量　Ｂ－Ｔｍ混入
第５層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒・炭化物微量　Ｌ.Ｂ中量
第６層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒微量　Ｂ－Ｔｍ混入
第７層	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒・炭化物微量　Ｌ.Ｂ少量
第８層	黒色土	10YR2/1	焼土粒・炭化物少量　Ｂ－Ｔｍ混入
第９層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒・炭化物微量　Ｌ.Ｂ少量 Ｂ－Ｔｍ混入
第10層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量　Ｌ.Ｂ少量

図380　第476号竪穴住居跡（１）

Pit1
第１層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量
第２層　暗褐色土　10YR3/3　褐色土(10YR4/6)混入

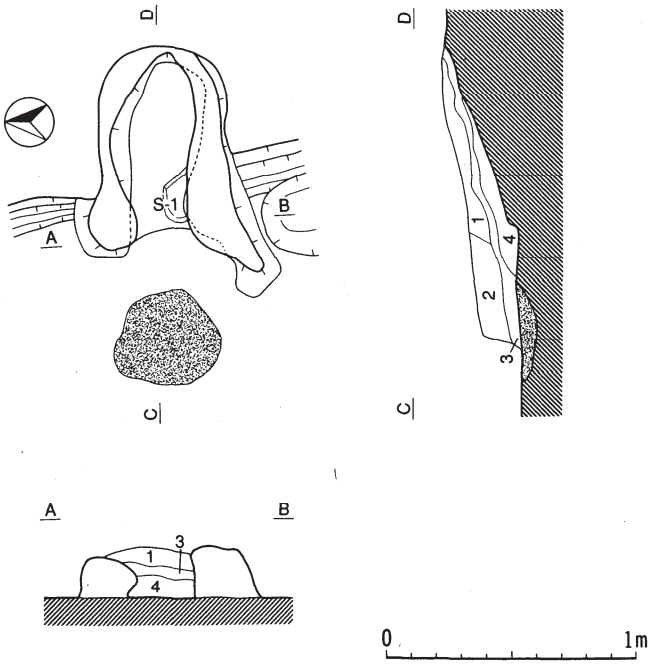
Pit5
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量

Pit3
第１層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒・焼土粒中量
第２層　褐色土　10YR4/4　ローム粒多量　炭化物中量
第３層　褐色土　10YR4/6　ローム粒多量　焼土粒中量

Pit4
第１層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物少量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量

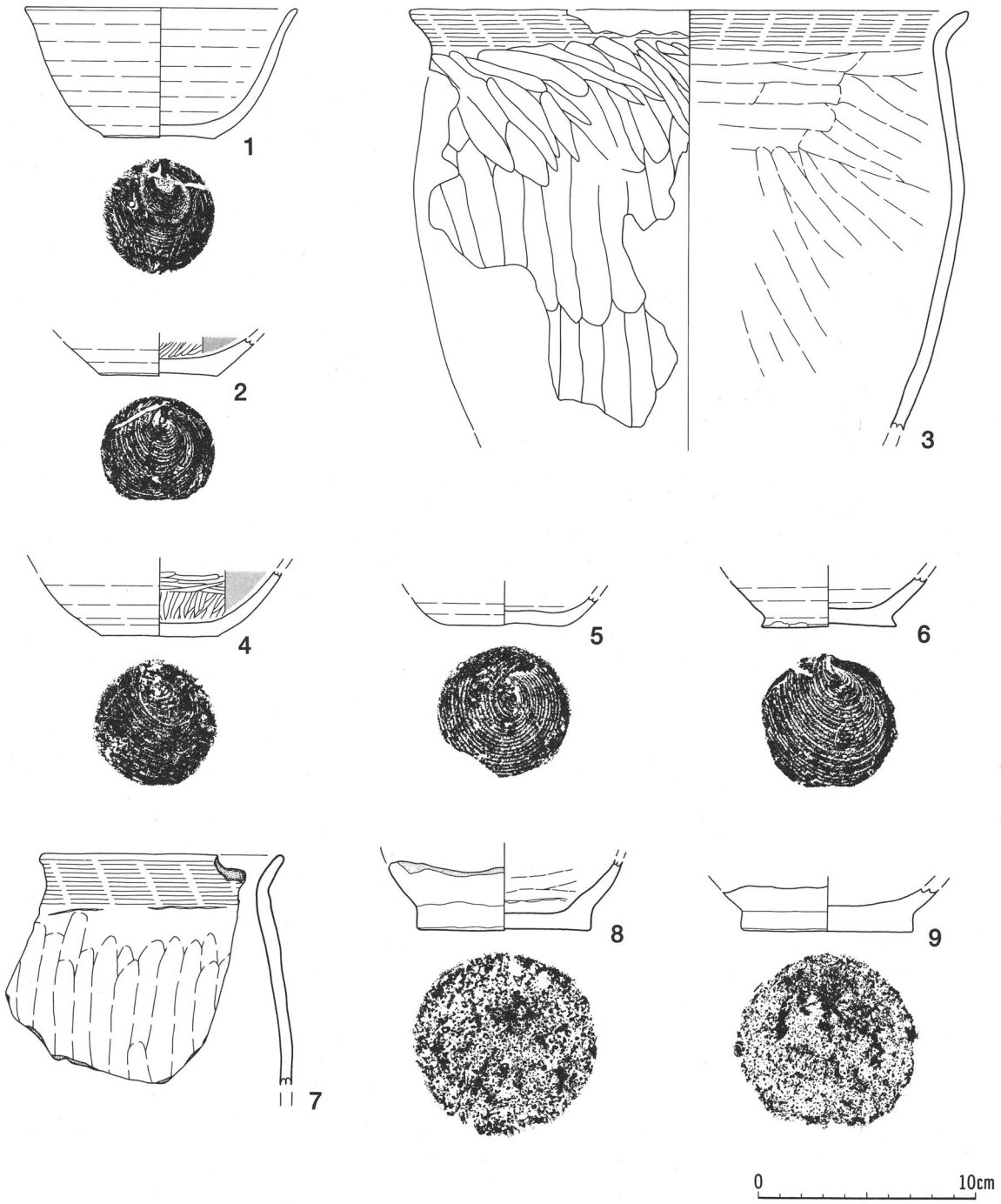
Pit2
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量

Pit6
第１層　黒褐色土　10YR2/3　褐色土(7.5YR4/4)混入
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量
第３層　黄褐色土　10YR5/6　ローム粒少量



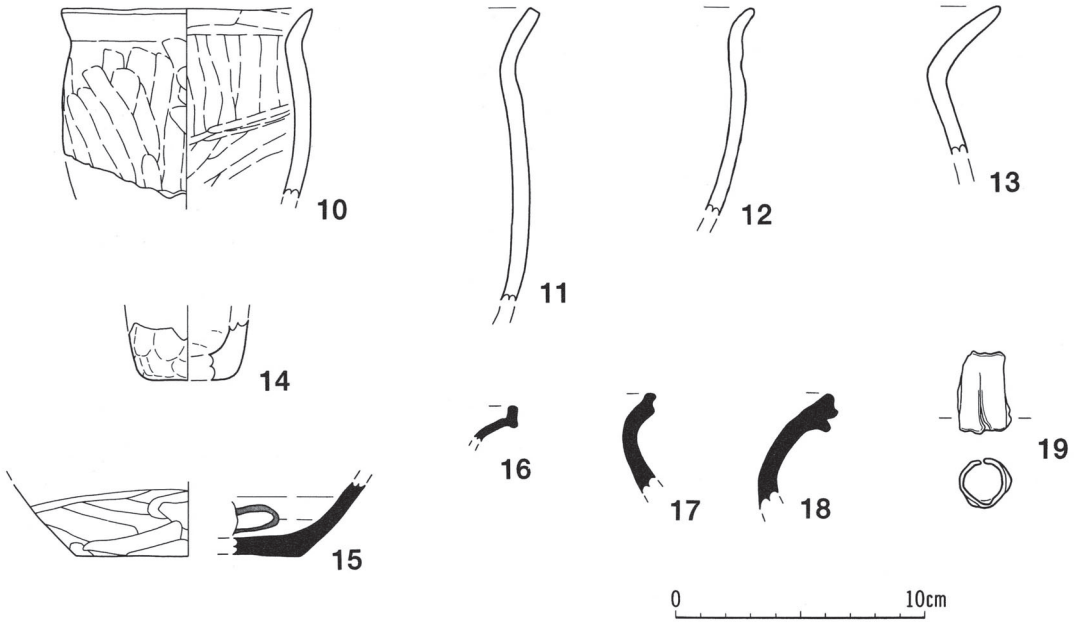
カマド
第１層　暗褐色土　10YR3/3
　焼土ブロック・浮石・ローム粒混入
第２層　暗褐色土　10YR3/2
　焼土ブロック・ローム細粒混入
第３層　褐色土　7.5YR4/4
　ローム粒・炭化物微量
第４層　黒色土　10YR2/2
　焼土ブロック・Ｂ－Ｔｍ混入

図381　第476号竪穴住居跡（２）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	Pit6底面	12.6	6.0	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	P-2
2	土師器	坏	フク土	—	(1.7)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理
3	土師器	甕	カマドフク土底面	(24.0)	(19.8)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
4	土師器	坏	フク土	—	(3.0)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理
5	土師器	坏	フク土	—	(1.4)	5.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
6	土師器	坏?	フク土	—	(2.2)	6.2	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
7	土師器	甕	フク土	(19.0)	(10.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
8	土師器	甕	Pit7底面	—	(3.2)	8.0	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-1
9	土師器	甕	フク土	—	(2.0)	8.0	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A?	

図382　第476号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種　類	器　種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	フク土	(10.0)	(7.6)	—	不明	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	AⅢ	
11	土師器	甕	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	(20.0)	(10.6)	—	ヨコナデ	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪積痕　P-4
12	土師器	甕	フク土	(14.0)	(8.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
13	土師器	甕	フク土	(30.0)	(6.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
14	土師器	小型土器	フク土	—	(2.3)	(3.0)	—	—	ユビ圧痕	—	—	ナデ	ナデツケ	—	
15	須恵器	壺	床面	—	(3.0)	(9.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	—	—	内面火襷痕　P-1
16	須恵器	壺	Pit7 フク土	—	(1.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
17	須恵器	甕	フク土	—	(4.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	自然釉
18	須恵器	甕	フク土	—	(4.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面火襷痕、繊維付着

図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	種　類	備　考
		長さ	幅	厚さ			
19	フク土	3.2	2.2	2.0	10.5	筒状	

図383　第476号竪穴住居跡出土遺物（2）

［カマド］　東壁北側に構築されている。礫を芯材として用い、粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に50cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

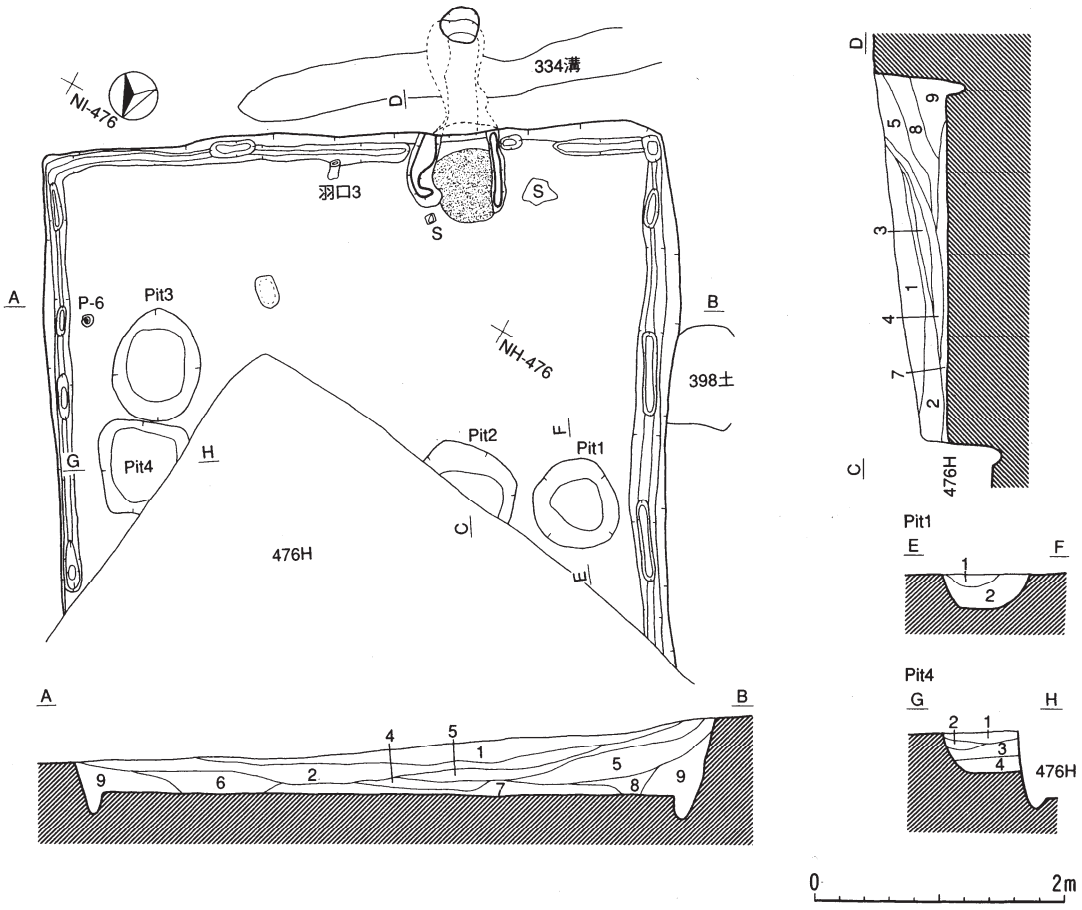
［その他の施設］　南東隅に、長軸120cm、短軸66cm、深さ42cmのピット６、東壁中央付近に、長軸208cm、短軸198cm、深さ22cmのピット７を検出した。

［堆積土］　堆積土は10層に分層され、１、３、４、６、８、９層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。南西付近に広がる焼土を検出した。

［出土遺物］　覆土から、土師器の甕、坏、小型土器や須恵器の甕のほかに、筒状の鉄製品が、また床面からは須恵器の壺が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第477号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒・炭化物・小礫微量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物微量　ローム少量　焼土ブロック混入
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・焼土粒・炭化物微量
第４層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒・炭化物少量
第５層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・焼土粒微量　L.B少量
第６層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・焼土粒・炭化物微量
第７層　黒色土　10YR2/1　焼土粒・炭化物少量
第８層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・焼土粒・炭化物中量
第９層　黒褐色土　10YR3/2　粘土粒・ローム粒混入

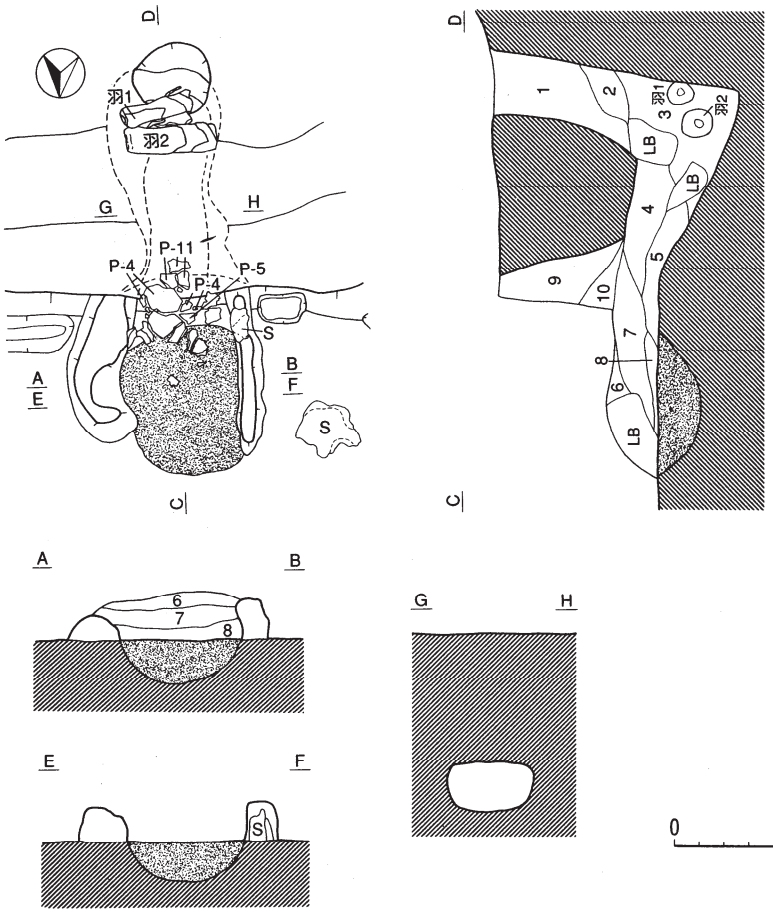
Pit1

第１層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物微量　焼土ブロック中量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・焼土粒微量　L.B中量

Pit4

第１層　褐色土　10YR4/6　ローム粒・炭化物少量　砂礫多量
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム細粒　焼土粒・炭化物少量
第３層　暗褐色土　7.5YR3/4　L.B微量　焼土粒・炭化物中量
第４層　褐色土　10YR4/4　ローム粒・炭化物・焼土粒微量

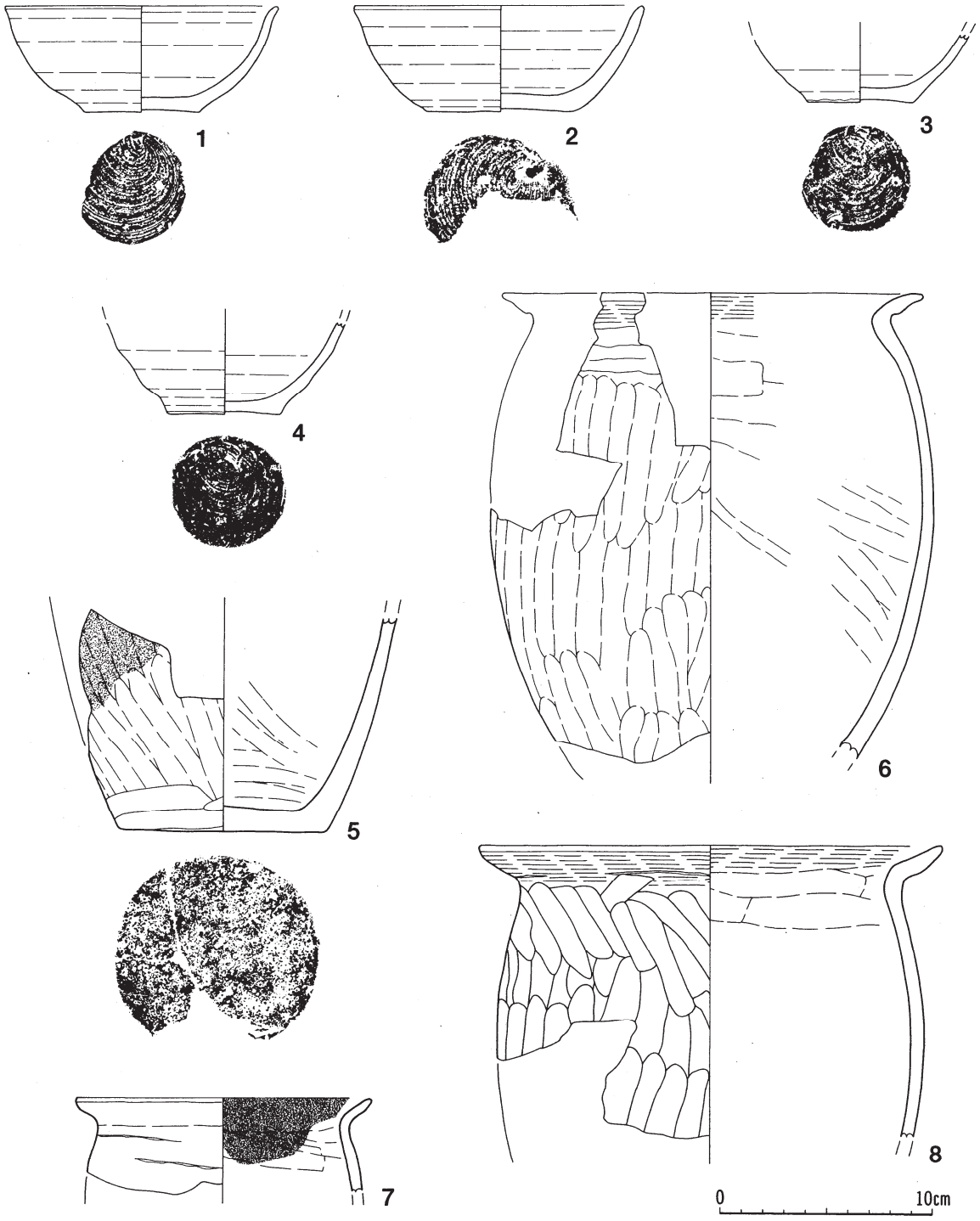
図384　第477号竪穴住居跡（１）



カマド
第１層　黒褐色土　7.5YR3/2
焼土細粒・焼土ブロック少量
第２層　暗褐色土　10YR3/3
ローム質土　焼土ブロック混入
第３層　極暗褐色土　7.5YR2/3
焼土ブロック多量
第４層　褐色土　7.5YR4/4
ローム粒混入
第５層　暗褐色土　7.5YR3/3
焼土細粒中量　L.B多量
第６層　黒褐色土　10YR2/2
ローム粒・焼土粒少量
第７層　黄褐色土　10YR5/6
L.B・焼土ブロック
第８層　褐色土　7.5YR4/4
ローム質土　L.B焼土粒多量
第９層　黒褐色土　10YR2/3
焼土粒・炭化物微量
第10層　褐色土　7.5YR4/4
ローム質土　焼土ブロック少量

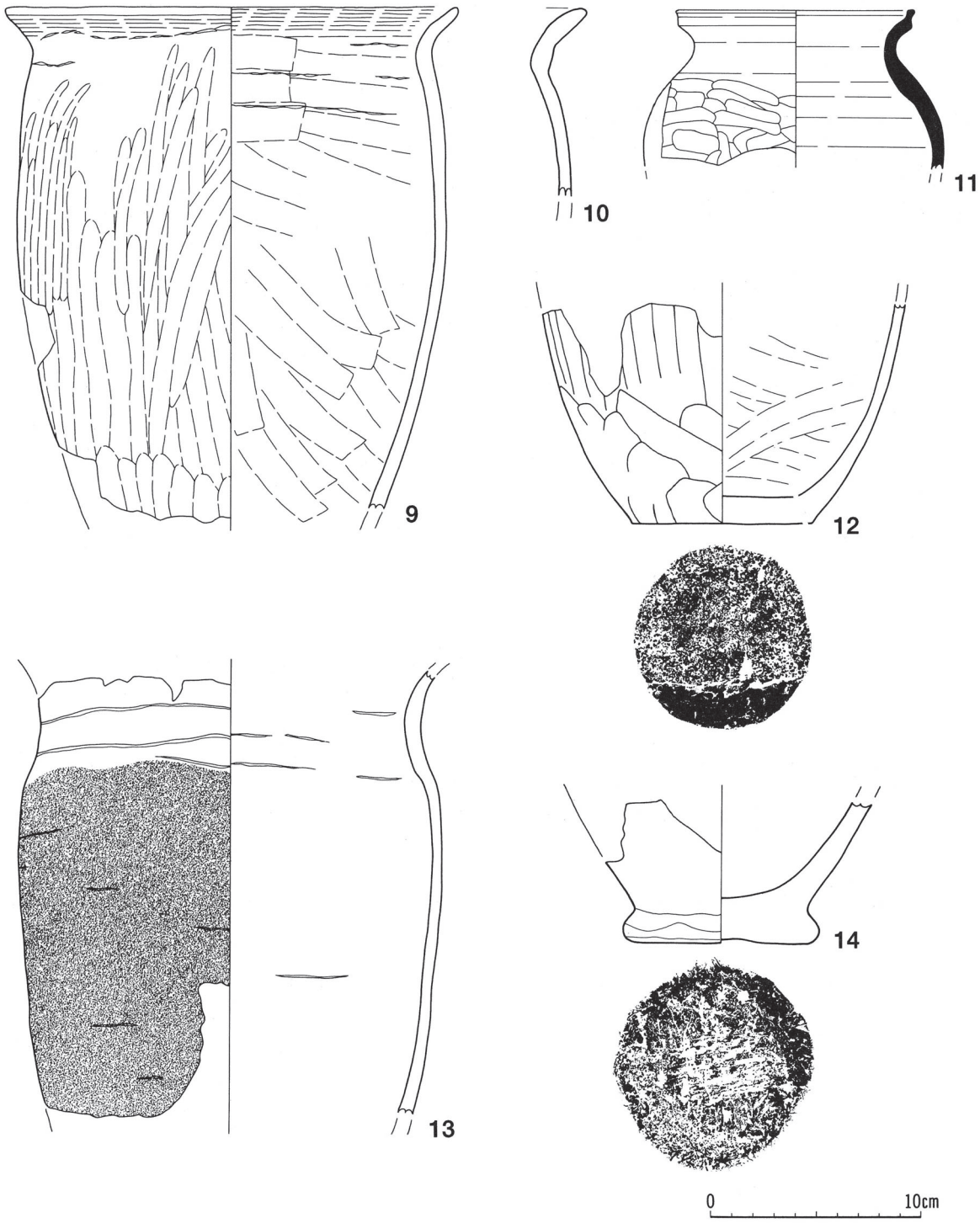
炭化材・焼土炭範囲

図385　第477号竪穴住居跡（２）



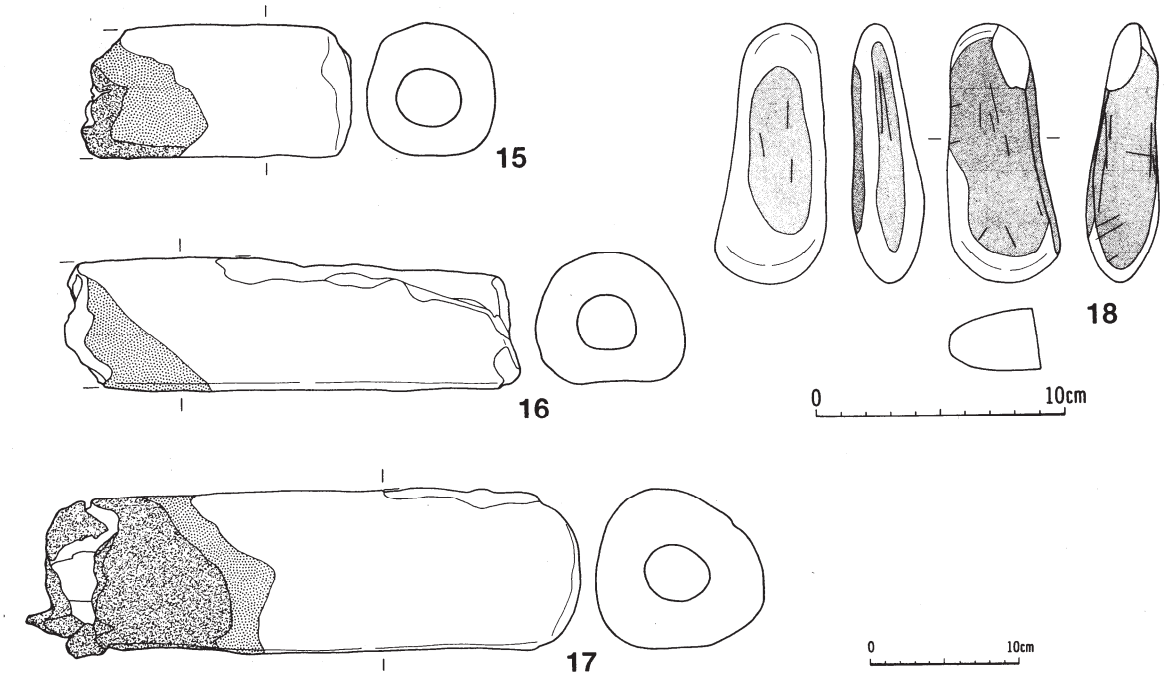
図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フク土	(13.0)	5.4	(5.4)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	
2	土師器	坏	フク土	—	5.4	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	P-8
3	土師器	坏	フク土	—	(3.2)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
4	土師器	坏	床直	—	(4.4)	(5.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
5	土師器	甕	フク土	—	(10.4)	9.8	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ?	ヘラナデ	砂底→ナデツケ	A	外面粘土付着
6	土師器	甕	カマドフク土 床面	(20.0)	(22.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P-6, 7, 8, 10, 11 輪積痕
7	土師器	坏	フク土	(14.1)	(6.1)	—	ナデ?	ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
8	土師器	甕	フク土	22.0	(13.8)	—	ナデ?	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図386　第477号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
9	土師器	甕	カマドフク土床面	21.6	(24.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	P-12 輪積痕
10	土師器	甕	カマドフク土床面	(24.0)	(9.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-6 輪積痕
11	須恵器	甕	フク土	(11.2)	(7.5)		ロクロ	ケズリ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	
12	土師器	甕	フク土	—	(10.5)	(8.6)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底→ナデツケ	A	
13	土師器	甕	カマドフク土床面	—	(21.2)	—	—	不明	—	—	不明	—	—	AI	P-4 輪積痕，外面
14	土師器	甕	床面	—	(7.1)	9.2	—	—	不明	—	—	不明	砂底→ナデツケ	A	P-48

図387　第477号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
18	カマドフク土	10.4	4.4	2.5	140	凝	砥石	S-1

図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	石質	調整	備考
		長さ	外径	内径				
15	床面	(18.1)	8.8×8.6	3.9×4.4	(1200)	B	—	
16	カマド煙道部	(30.1)	8.8×9.9	—	(2100)	C	—	羽口-1　砂粒多量
17	カマド煙道部	37.1	10.6×11.3	3.8×4.4	4270	C	—	羽口-2　砂粒多量

図388　第477号竪穴住居跡出土遺物（3）

第477号竪穴住居跡（図384～図388）

［位　置］　ＮＧ・ＮＨ－475・476グリッドに位置する。

［重　複］　第476号住居跡、第398号土坑、第334号溝と重複し、本住居跡は第398号土坑より新しく、第476号住居跡、第334号溝より古い。

［平面形・規模］　南壁５ｍ、北側が第476号住居跡に切られ、煙道が第334号溝に切られている。残存する東壁３ｍ70cm、西壁４ｍ40cmであり、残存部分から方形と推定する。床面積は13.55㎡で、主軸方位はＮ－148°－Ｅである。

［壁・床面］壁高は、東壁40cm、西壁50cm、南壁60cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅９～16cm、深さ６～32cmの周溝が一巡すると推定する。

［ピット］　検出されたピットは４個である。柱穴はピット１（24cm）、ピット４（30cm）と考える。

［カマド］　南壁西側に構築されている。礫を芯材として転用し、この上に粘土を覆って本体を築いている。煙道は地下式で、住居跡外に101cmのびる。煙道底面煙出し方向に緩やかに下降する。ソデ付近から芯材に転用したと思われる礫が、煙出し底面付近からも芯材に転用したと思われる羽口が出土した。また、焚き口から土師器が出土している。

［その他の施設］　西壁中央に、径82cmのピット２、東壁西側付近に、長軸90cm、短軸70cmのピット３を検出した。

［堆積土］　堆積土は９層に分層される。中央付近に広がる焼土を検出した。

［出土遺物］土師器の甕、坏や羽口、砥石が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第478号竪穴住居跡（図389・図390）

［位　置］　ＮＦ・ＮＧ－473・474に位置する。

［重　複］　第476号住居跡、第397号土坑と重複し、本住居跡は第397号土坑より新しく、第476号住居跡より古い。

［平面形・規模］　南東側が第476号住居跡に切られる。東壁３ｍ62cm、西壁３ｍ72cm、南壁３ｍ46cm、北壁３ｍ58cmの北西隅が丸い方形である。床面積は11.62㎡で、主軸方位はＮ－106°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁24cm、西壁29～60cm、南壁51cm、北壁23cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅10～26cm、深さ２～23cmの周溝が東壁中央付近を除きほぼ一巡する。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　東壁南側に構築されている。煙道と火床面のみを検出した。煙道は半地下式で、住居跡外に54cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。

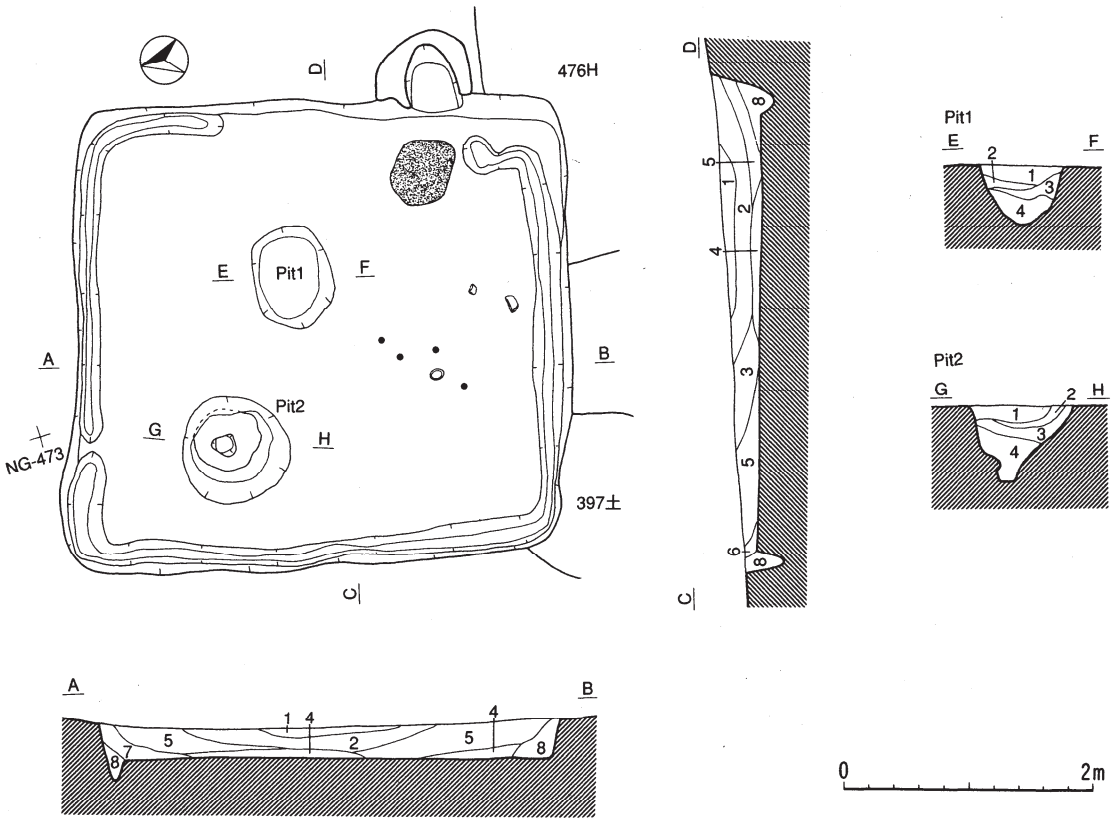
［その他の施設］　中央からやや東寄りに、長軸84cm、短軸64cm、深さ46cmのピット１を検出した。１層にＴｏ－ａ火山灰が混入している。西壁北側から東寄りに、径88cm、深さ60cmの円形のピット２を検出し、１、３層にＴｏ－ａ火山灰が混入している。ピット２は、ほぼ中央に径15cm、深さ16cmの落ち込みがあり、形態から「ロクロピット」と考えられる。

［堆積土］　堆積土は８層に分層され、１～５、７層にＴｏ－ａ火山灰が混入している。

［出土遺物］　覆土から、土師器の坏や砥石が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築された土師器の製作に関わる遺構と考えられる。

（相馬良仁）



第478号住居跡

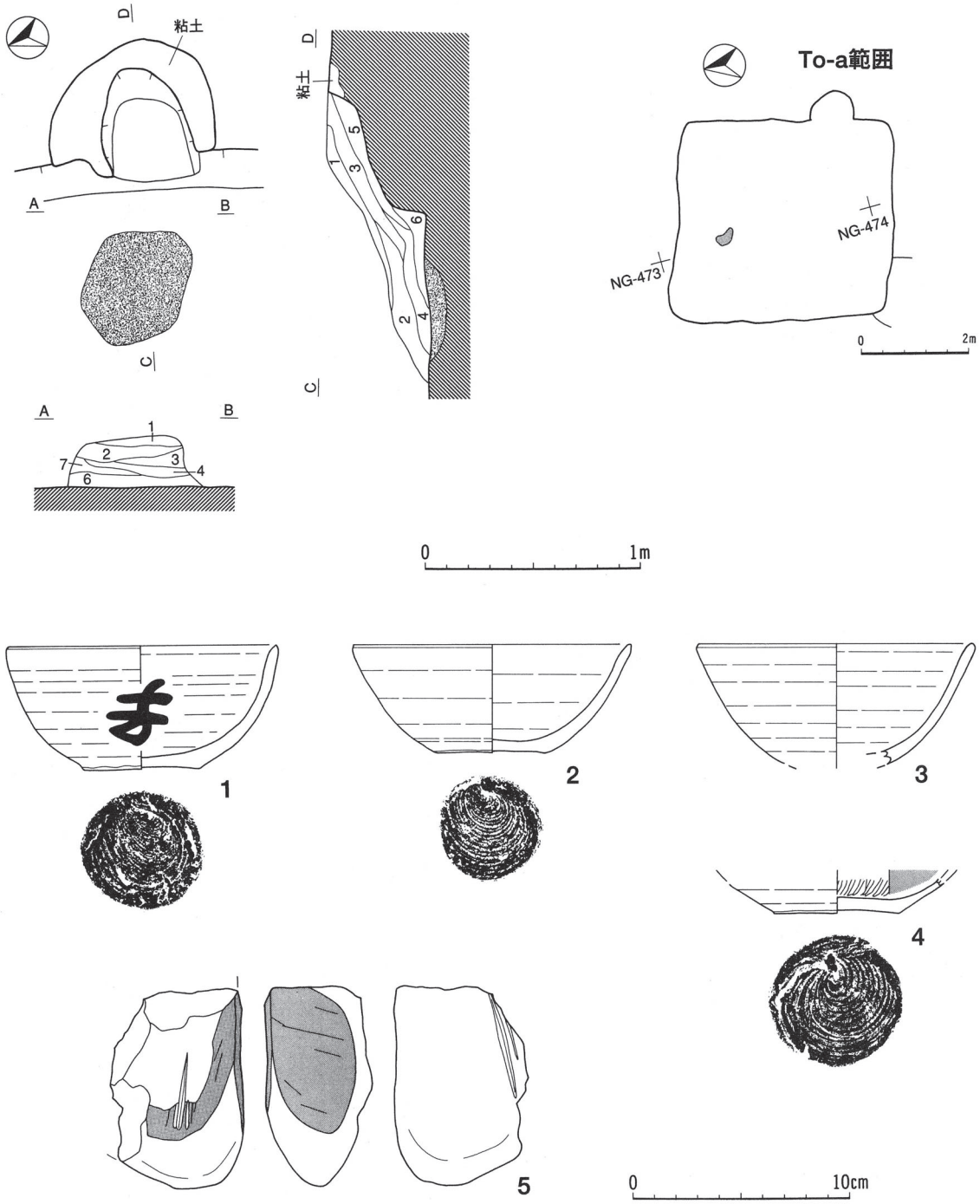
第１層　黒色土　10YR2/1　Ｔｏ－ａ混入
第２層　黒褐色土　10YR2/2　Ｔｏ－ａ混入　ローム粒中量
第３層　黒褐色土　10YR2/2　Ｔｏ－ａ混入　黒色土(10YR2/1)混入　ローム粒中量
第４層　黒褐色土　10YR2/2　Ｔｏ－ａ混入　ローム粒少量
第５層　褐色土　10YR4/6　Ｔｏ－ａ混入　黒褐色土(10YR2/3)混入
第６層　黒色土　10YR1.7/1
第７層　暗褐色土　10YR3/4　Ｔｏ－ａ混入　ローム粒中量
第８層　暗褐色土　10YR3/4　にぶい黄褐色土(7.5YR5/4)混入　ローム粒中量　炭化物少量

Pit1
第１層　黒褐色土　10YR2/2　Ｔｏ－ａ混入　ローム粒・炭化物・焼土粒混入
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量　炭化物・焼土粒少量
第３層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒・炭化物少量
第４層　黄褐色土　10YR5/8　黒色土(10YR2/1)混入

Pit2
第１層　黒色土　10YR1.7/1　Ｔｏ－ａ混入
第２層　黒色土　10YR2/1
第３層　暗褐色土　10YR3/3　Ｔｏ－ａ混入　黄褐色土(10YR4/6)混入　ローム粒中量　炭化物少量
第４層　黒褐色土　10YR2/2　褐色土(10YR4/6)混入　ローム粒・炭化物少量

カマド
第１層　黒褐色土　10YR2/3　焼土ブロック少量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　焼土ブロック少量
第３層　褐色土　10YR4/6　ローム層
第４層　黒色土　10YR2/1　Ｔｏ－ａ混入　ロームブロック多量　炭化物少量
第５層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒・焼土粒混入　炭化物少量
第６層　黒褐色土　7.5YR3/2　焼土粒混入
第７層　褐色土　10YR4/4

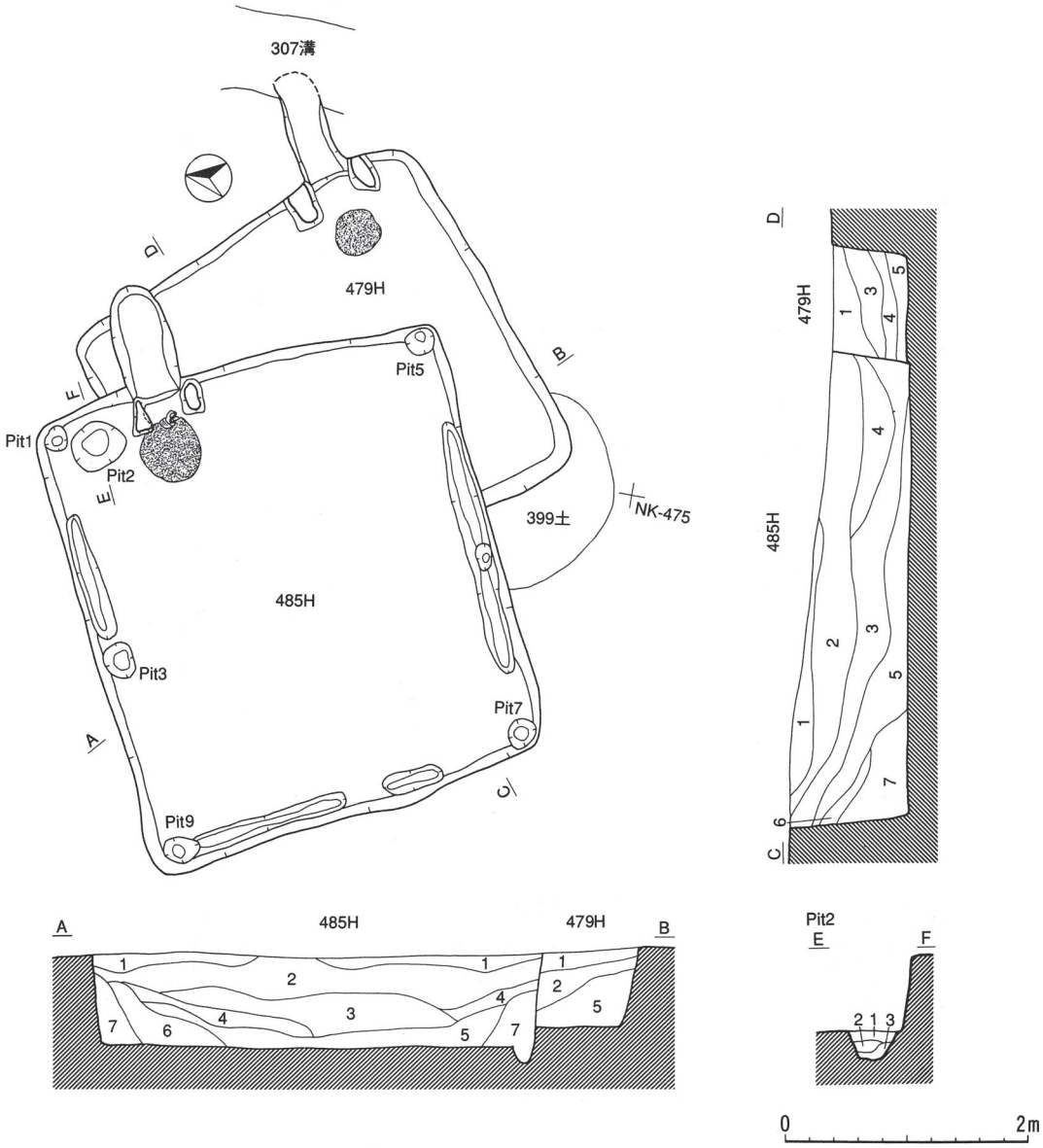
図389　第478号竪穴住居跡（１）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フク土	12.6	5.7	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	P-6 墨書
2	土師器	坏	フク土	(13.0)	5.0	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	P-4
3	土師器	坏	フク土	(13.0)	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-3
4	土師器	坏	フク土	—	(1.6)	5.8	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅠ	内面黒色処理 P-2

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
5	フク土	9.2	5.7	4.6	312	凝	砥石	S-1

図390　第478号竪穴住居跡（2）・出土遺物



第479号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物微量
第２層　褐色土　7.5YR4/6　ローム層
第３層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒混入
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第５層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒混入

Pit2

第１層　褐色土　7.5YR4/4　焼土粒微量
第２層　暗褐色土　7.5YR3/3
第３層　褐色土　7.5YR4/6

第485号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・焼土粒極微量
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量　炭化物・焼土粒微量
第３層　黒褐色土　10YR3/2
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量　粘土粒少量　炭化物微量
第５層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒混入
第６層　暗褐色土　10YR3/3　L.B中量
第７層　暗褐色土　10YR3/3　L.B混入

図391　第479号・第485号竪穴住居跡（１）

第479号竪穴住居跡（図391～図394）

［位　置］　ＮＪ・ＮＫ－473・474グリッドに位置する。

［重　複］　第485号住居跡、第399号土坑、第307号溝と重複し、本住居跡は第399号土坑より新しく、第485号住居跡、第307号溝より古い。

［平面形・規模］　東壁２ｍ80cm、北壁３ｍ16cm、西側が第485号住居跡に切られ、煙道が第307号溝に切られる。残存する南壁82cm、西壁46cmで、方形と推定する。主軸方位はＮ－51°－Ｅで、床面積は3.67㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁66cm、南壁62cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　北壁東側に構築されている。芯材を使わず、粘土を覆って本体を構築する。煙道は半地下式で、住居跡外に88cmのびる。煙道底面は残存部分から、煙出し方向に緩やかに立ち上がると推定する。

［堆積土］　堆積土は５層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第485号竪穴住居跡（図391～図394）

［位　置］　ＮＪ・ＮＫ－473・474グリッドに位置する。

［重　複］　第479号住居跡、第399号土坑と重複し、本住居跡が最も新しい。

［平面形・規模］　東壁３ｍ36cm、西壁３ｍ24cm、南壁３ｍ48cm、北壁３ｍ70cmの方形である。床面積は11.08㎡で、主軸方位はＮ－68°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁８～60cm、西壁82cm、南壁８～86cm、北壁64cmである。床面は平坦である。

［周　溝］　幅12～22cm、深さ１～９cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは７個である。柱穴はピット１（36cm）、ピット３（32cm）、ピット４（21cm）、ピット５（22cm）、ピット６（15cm）、ピット７（18cm）と考える。

［カマド］　東壁北側に構築されている。焚口には、土師器の坏を伏せた状態で置き、支脚としている。煙道は半地下式で、住居跡外に83cmのびる。煙道底面は煙出し方向にやや急勾配に立ち上がる。

［その他の施設］　カマドの北側に、長軸46cm、短軸36cm、深さ24cmのピット２を検出した。

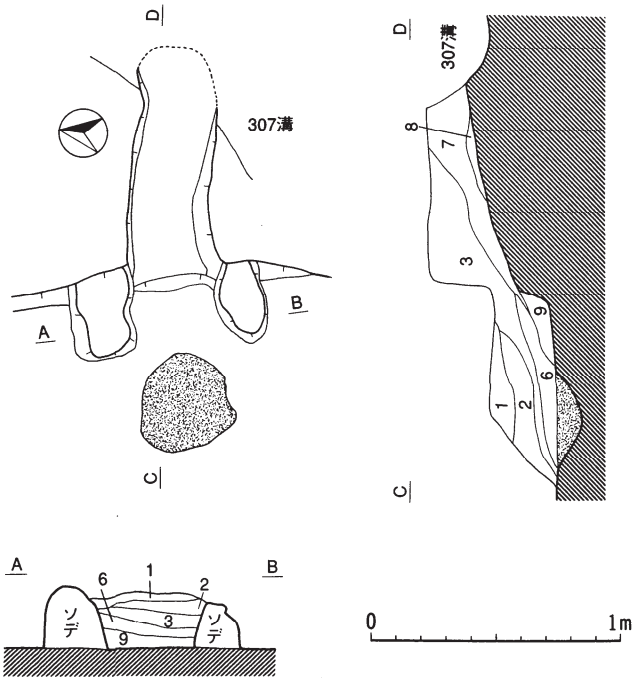
［堆積土］　堆積土は７層に分層される。

［出土遺物］　土師器の甕、坏や須恵器の甕、鉢が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

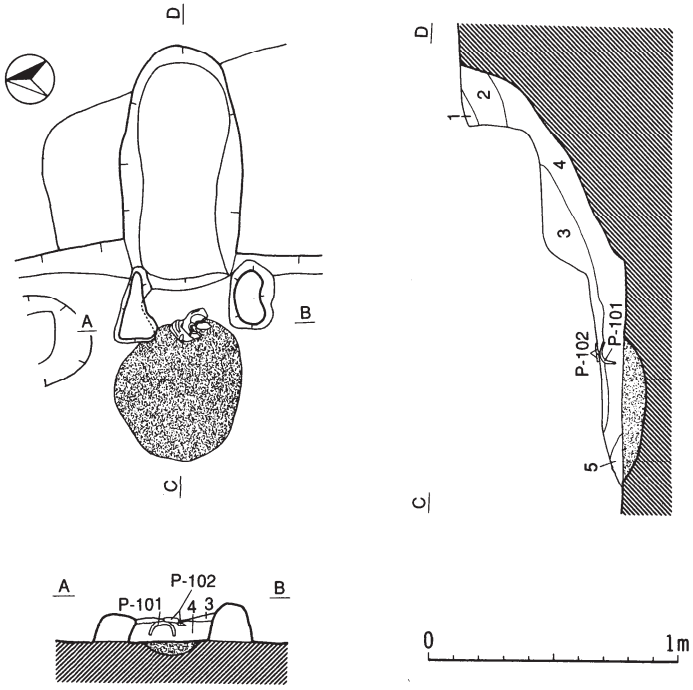
479Hカマド



479Hカマド

第１層	褐色土	7.5YR4/6	炭化物微量	
第２層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物少量	焼土粒微量
第３層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物微量	
第４層	黒褐色土	7.5YR2/2	炭化物微量	
第５層	褐色土	7.5YR4/6		
第６層	赤褐色土	5YR4/6	焼土粒中量	
第７層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒中量	
第８層	褐色土	7.5YR4/6		
第９層	褐色土	7.5YR4/6		

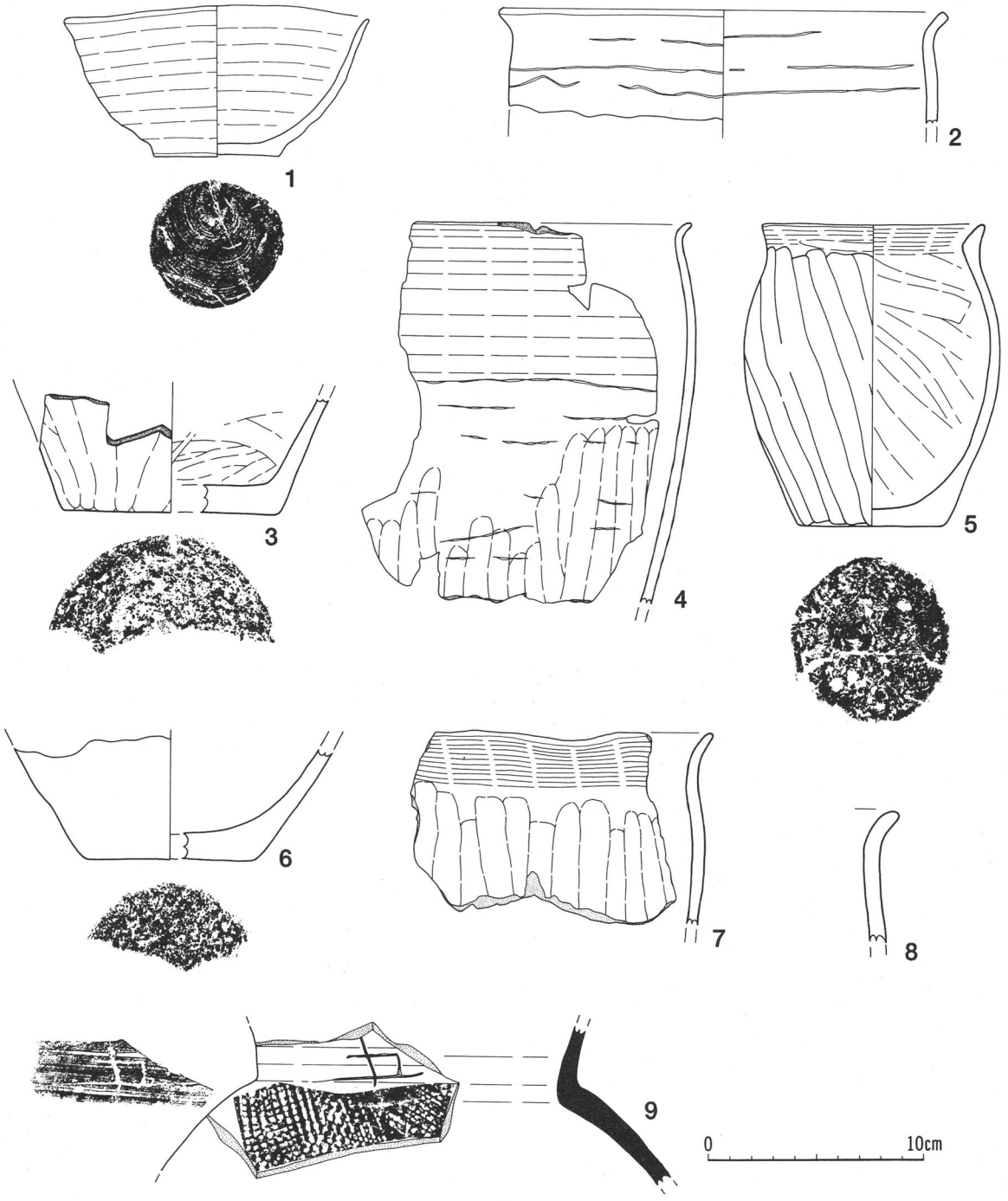
485Hカマド



485Hカマド

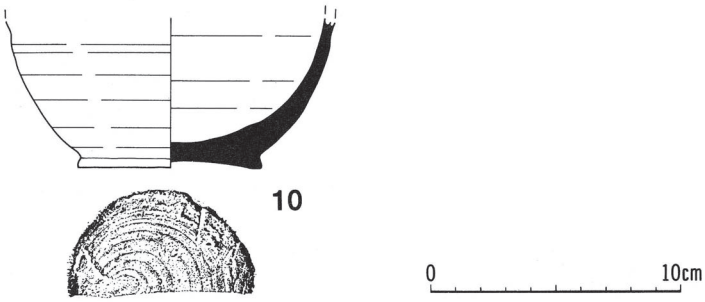
第１層	黒褐色土	10YR2/2		
第２層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒微量	炭化物極微量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒極微量	
第４層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒中量	
第５層	黒色土	7.5YR2/1	焼土粒少量	炭化物微量

図392　第479号・第485号竪穴住居跡（２）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	14.2	7.0	5.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	485H
2	土師器	甕	フク土	(21.0)	(5.1)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪積痕，磨滅 485H
3	土師器	甕	フク土	—	(5.4)	(10.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	485H
4	土師器	甕	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	(22.0)	(17.6)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	不明	不明	—	—	B	輪積痕 479H
5	土師器	甕	フク土	(10.4)	14.0	7.0	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	AⅡe	485H
6	土師器	甕	フク土	—	(6.7)	(8.0)	—	—	不明	—	—	不明	不明	A	磨滅 485H
7	土師器	甕	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	(20.0)	(8.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	479H
8	土師器	甕	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	(18.0)	(6.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	479H
9	須恵器	甕	フク土	—	(7.2)	—	—	頸部ロクロ 肩部平行タタキ目	—	—	頸部ロクロ 肩部あて具痕	—	—	—	外面刻書 485H

図393　第479号・第485号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	須恵器	鉢	フク土	―	(6.0)	7.4	―	―	ロクロ	―	―	ロクロ	回転糸切り	―	485H

図394　第479号・第485号竪穴住居跡出土遺物（２）

第480号竪穴住居跡（図395～図397）

［位　置］　ＮＮ・ＮＯ－469・470グリッドに位置する。

［重　複］　第490号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］　東壁３ｍ36cm、西壁３ｍ52cm、南壁３ｍ60cm、北壁３ｍ62cmで南西隅がやや突き出す方形である。床面積は13.78㎡で、主軸方位はＮ－178°－Ｓである。

［壁・床面］　壁高は、東壁12cm、西壁78cm、南壁66cm、北壁48cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは３個である。柱穴はピット１（22cm）、ピット２（23cm）と考える。

［カマド］　東壁北側に構築されている。礫を芯材として転用し、粘土を覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に61cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道から芯材に使われたと思われる礫が多量に出土した。

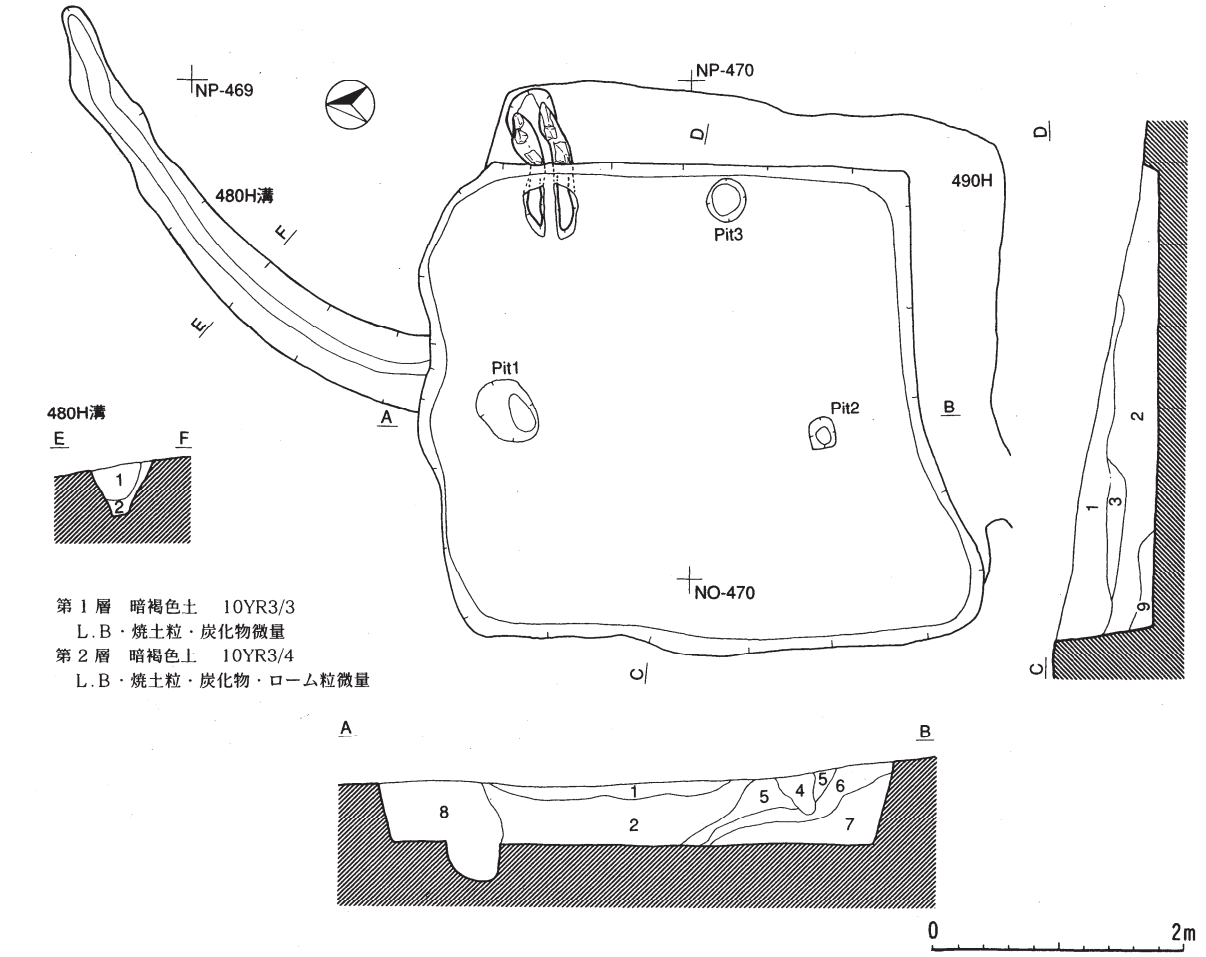
［その他の施設］　北壁中央から北東方向に、幅20～62cm、深さ40cm、長さ４ｍ50cmの溝を検出した。排水溝として使われたと考える。

［堆積土］　堆積土は９層に分層される。

［出土遺物］　土師器の甕や須恵器の坏、壺が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第480号住居跡

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　焼土粒・炭化物中量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物微量　焼土粒少量　ローム粒中量
第３層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒少量　炭化物・ローム粒中量
第４層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒・炭化物微量　ローム粒中量
第５層　褐色土　10YR4/4　焼土粒中量　L.B混入
第６層　暗褐色土　10YR3/3　焼土微量　炭化物・ローム粒中量
第７層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒・炭化物微量　ローム粒少量
第８層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒少量　炭化物・ローム粒中量
第９層　褐色土　10YR4/4　ローム粒多量

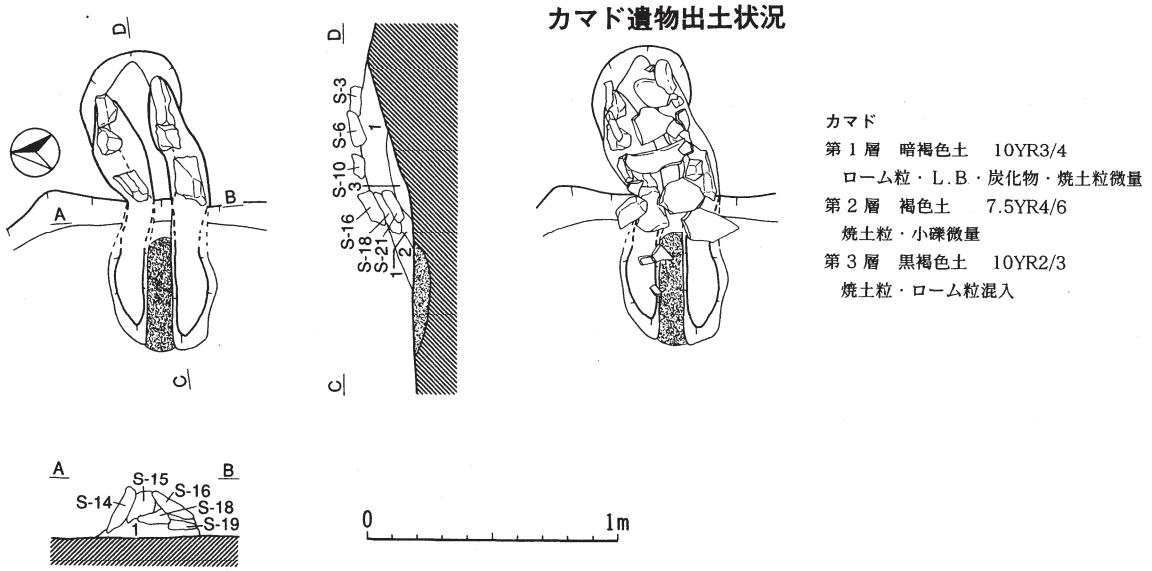
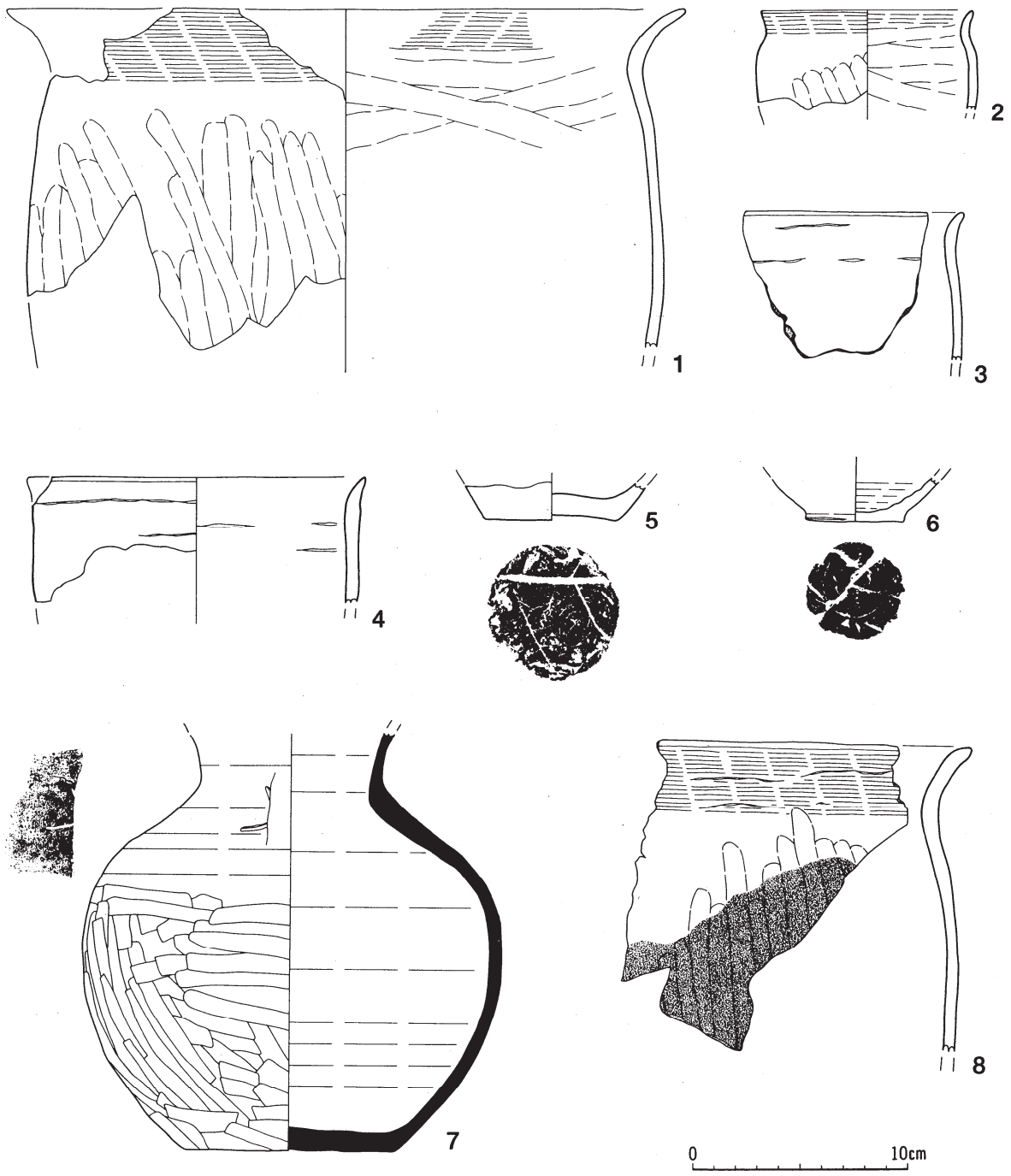
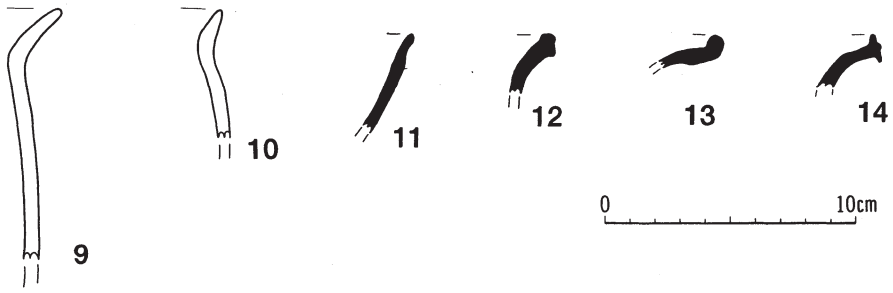


図395　第480号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(32.0)	(16.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
2	土師器	甕	フク土	(10.0)	(4.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
3	土師器	甕	フク土	(16.0)	6.6	—	不明	不明	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	—	—	A	輪積痕
4	土師器	甕	フク土	(16.0)	(5.9)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪積痕
5	土師器	甕	フク土	—	(1.8)	6.4	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	木葉痕	A	
6	土師器	甕?	フク土	—	(2.0)	4.6	—	—	不明	—	—	ロクロ	回転糸切り	B	
7	須恵器	壺	床直	—	(19.5)	10.0	—	頸~肩部ロクロ	ケズリ	—	ロクロ	ロクロ	切離後ヘラナデ	—	外面刻書
8	土師器	甕	フク土	(21.0)	14.3	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕，スス状炭化物付着

図396　第480号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
9	土師器	甕	フク土	(20.0)	(10.0)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	
10	土師器	甕	フク土	(15.0)	(5.2)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	内面輪積痕
11	須恵器	坏	フク土	—	(4.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
12	須恵器	壺	フク土	—	(2.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
13	須恵器	壺	フク土	—	(1.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
14	須恵器	壺	フク土	—	(2.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図397　第480号竪穴住居跡出土遺物（2）

第482号竪穴住居跡（図398・図399）

［位　置］　ＮＬ・ＮＭ－471グリッドに位置する。

［重　複］　第452号・第492号・第494号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

［平面形・規模］　南２ｍ78cm、東側が削平され、北側が第452号住居跡に、煙道が第492号住居跡に切られている。残存する西壁２ｍ54cm、北壁60cmで方形と推定される。主軸方位はＮ－143°－Ｅで、床面積は6.71㎡である。

［壁・床面］　壁高は、西壁41cm、南壁10cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅８～12cm、深さ３～12cmの周溝が西壁の一部に検出された。

［ピット］　検出されたピットは３個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に構築されている。焚き口には土師器を伏せた状態に置き、支脚としていた。煙道は、残存部分から地下式と推定する。煙道底面は煙出し方向に緩やかに下降する。

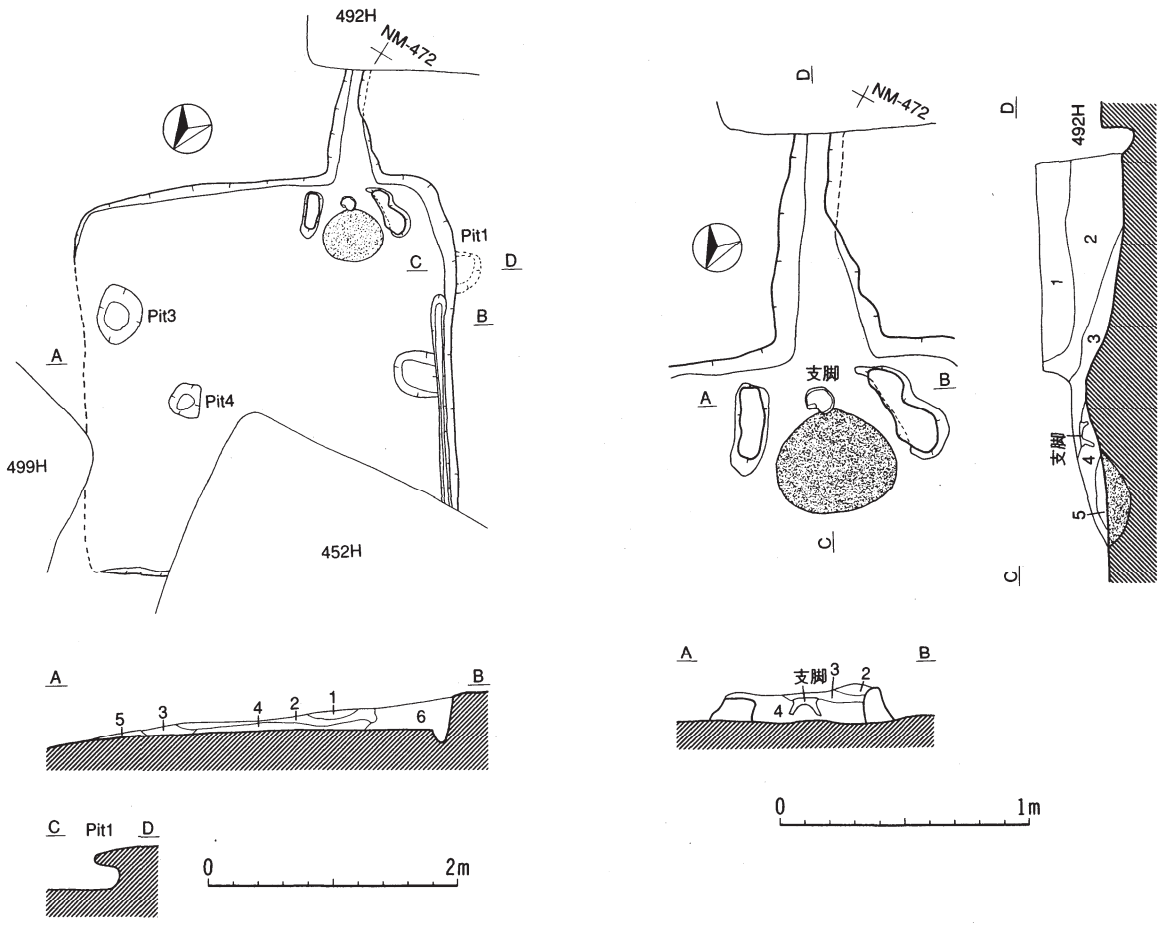
［その他の施設］　西壁南側に、径36cmで西壁を24cm掘り込んだピット１を検出した。

［堆積土］　堆積土は６層に分層され、５層に焼土が大量に混入している。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

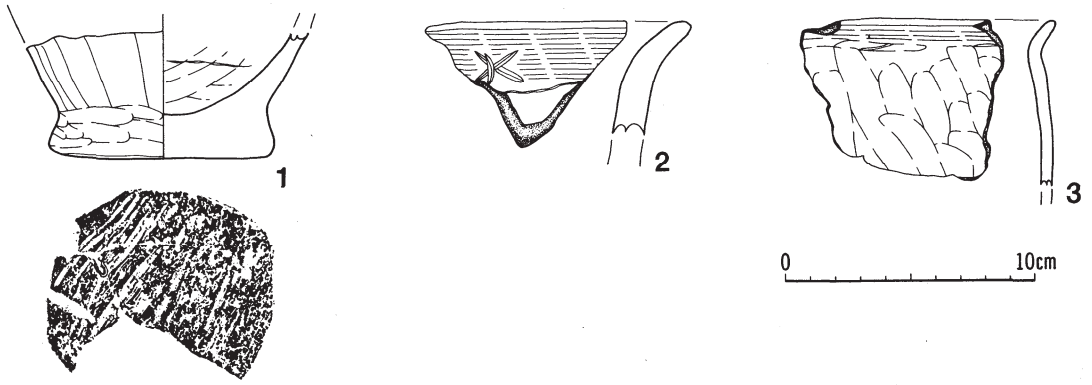


第482号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物微量
第３層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒・炭化物少量　ローム粒中量
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・焼土粒・炭化物微量
第５層　褐色土　7.5YR4/4　ローム粒・焼土多量
第６層　黒褐色土　7.5YR2/2　ローム粒・焼土粒中量

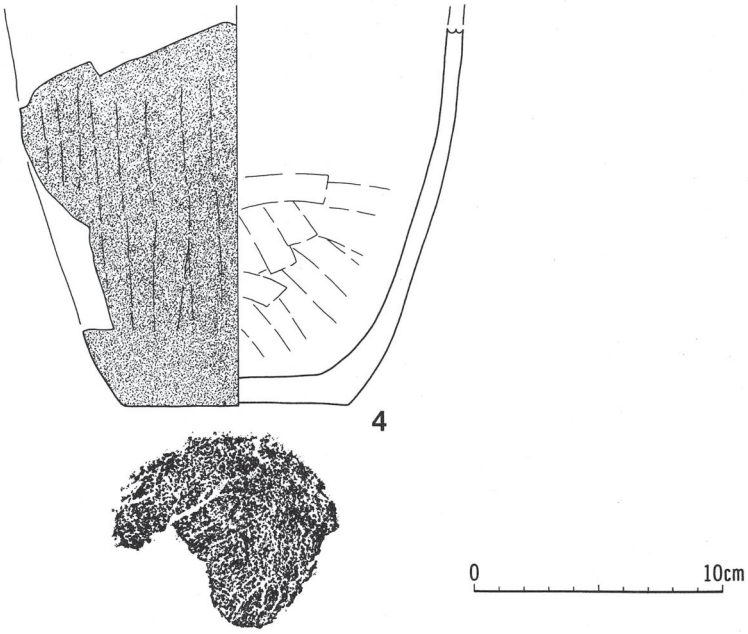
カマド

第１層　暗褐色土　7.5YR3/3　ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第２層　暗褐色土　7.5YR2/3　ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第３層　黒褐色土　7.5YR2/2　ローム粒・炭化物少量　焼土粒中量
第４層　黒褐色土　7.5YR3/2　ローム粒少量　焼土粒中量
第５層　極暗赤褐色土　5YR2/4　ローム粒・焼土粒中量



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	―	(5.1)	9.0	―	―	ヘラナデ ヘラケズリ	―	―	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-101 内面輪積痕支脚
2	土師器	甕	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	(22.0)	(5.0)	―	ヨコナデ	―	―	ヨコナデ	―	―	―	A	刻書 輪積痕
3	土師器	甕	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	(19.0)	(6.4)	―	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラケズリ	―	―	ヘラナデ	―	―	A	

図398　第482号竪穴住居跡出土遺物（１）



図版番号	種　類	器　種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分　類	備　考
				口　径	器　高	底　径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
4	土師器	甕	カマドフク土 Pit1フク土	―	(15.4)	9.0	―	―	ヘラナデ	―	―	ヘラナデ	ナデツケ	A	外面粘土付着

図399　第482号竪穴住居跡出土遺物（２）

第483号竪穴住居跡（図400）

［位　置］　ＮＤ・ＮＥ－478グリッドに位置する。

［重　複］　第499号土坑、第334号溝と重複し、本住居跡は第499号土坑より新しく、第334号溝より古い。

［平面形・規模］　北壁２ｍ46cm、南側が調査区外にかかり、東壁が第334号溝に切られている。残存する東壁94cm、西壁２ｍ24cmである。床面積は4.6㎡である。平面形及び主軸方位は不明である。

［壁・床面］　壁高は、東壁34cm、西壁30cm、北壁10cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは２個である。柱穴は、ピット３（24cm）で、その他は調査区外にあると考えられる。

［カマド］　検出されなかった。

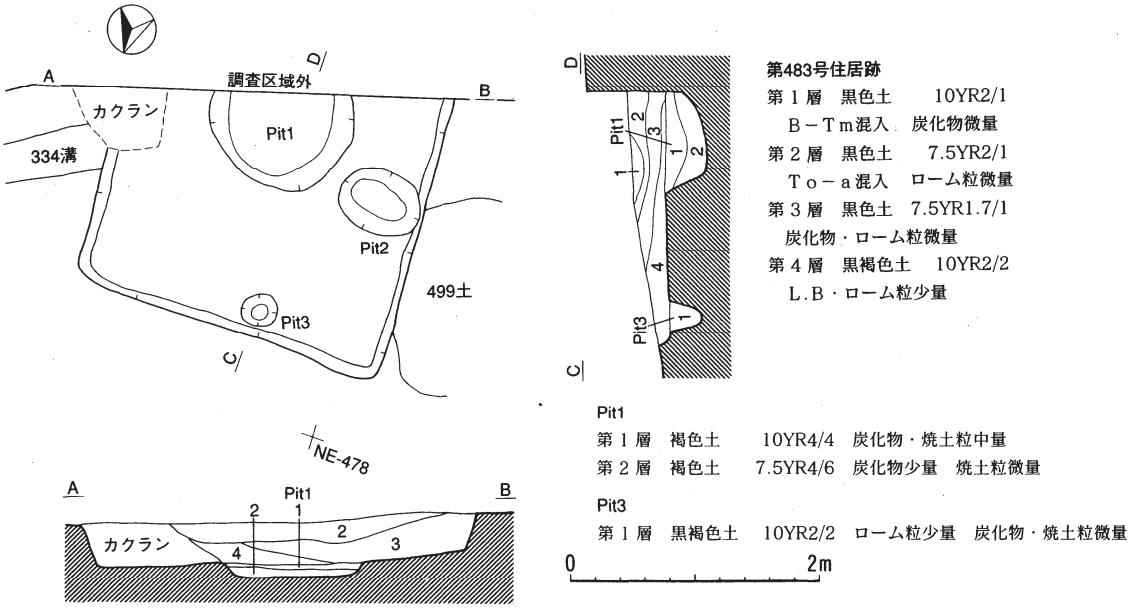
［その他の施設］　北壁中央から南寄りに、径118cm、深さ32cmのピット１を検出した。

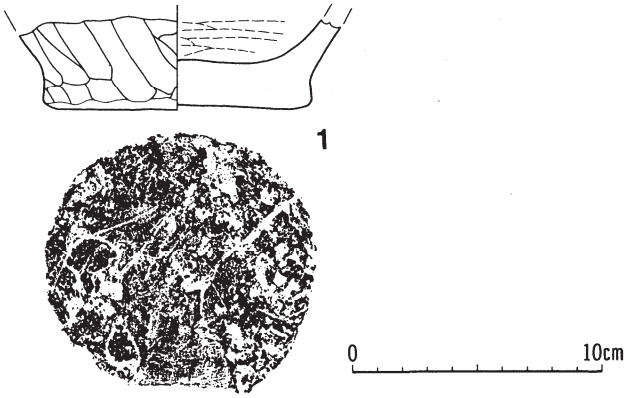
［堆積土］　堆積土は４層に分層され、１層にＢ－Ｔｍ火山灰、２層にＴｏ－ａ火山灰が混入している。

［出土遺物］　覆土から、土師器の甕が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

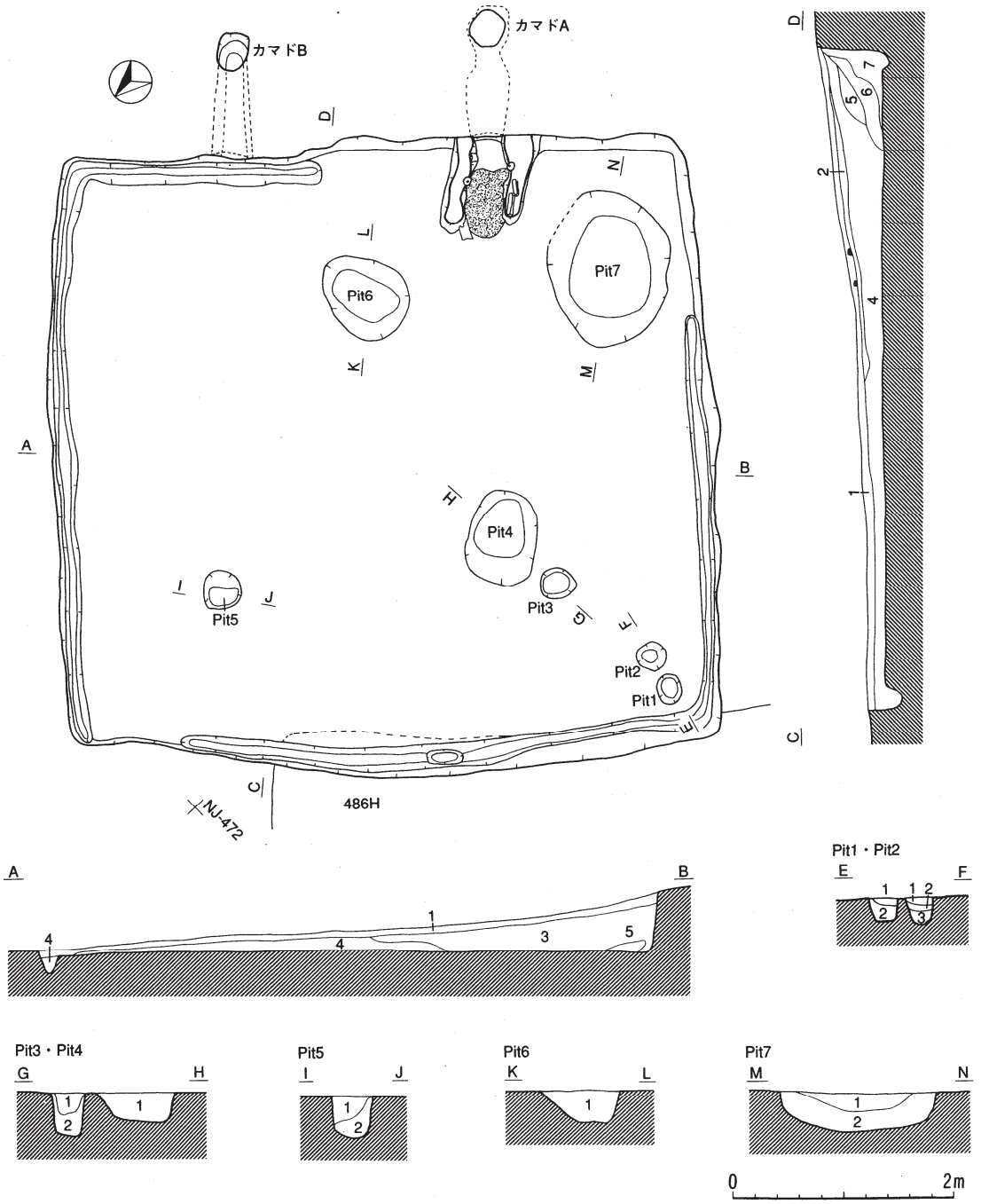
（相馬良仁）





図版番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	―	(3.7)	11.0	―	―	ヘラケズリ	―	―	ヘラナデ	ナデツケ	A	

図400　第483号竪穴住居跡・出土遺物



第484号住居跡

第１層　暗褐色土　10YR3/3　Ｂ－Ｔｍ混入　ローム粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　Ｂ－Ｔｍ混入　ローム粒微量
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第５層　黒褐色土　10YR2/3　粘土粒中量　炭化物微量
第６層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・焼土粒極微量
第７層　暗褐色土　10YR3/3

Pit1

第１層　黒褐色土　10YR3/2　焼土ブロック混入　炭化物微量
第２層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物・焼土粒微量

Pit2

第１層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物・焼土粒微量
第２層　褐色土　7.5YR4/4　ローム質土　焼土粒少量
第３層　暗褐色土　7.5YR3/4　ローム質土　炭化物・焼土粒中量

Pit3

第１層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物・焼土粒微量
第２層　褐色土　7.5YR4/4　ローム質土

Pit4

第１層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物・焼土粒微量

Pit5

第１層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物・焼土粒微量
第２層　褐色土　10YR4/4　黒褐色土(10YR3/2)混入

Pit6

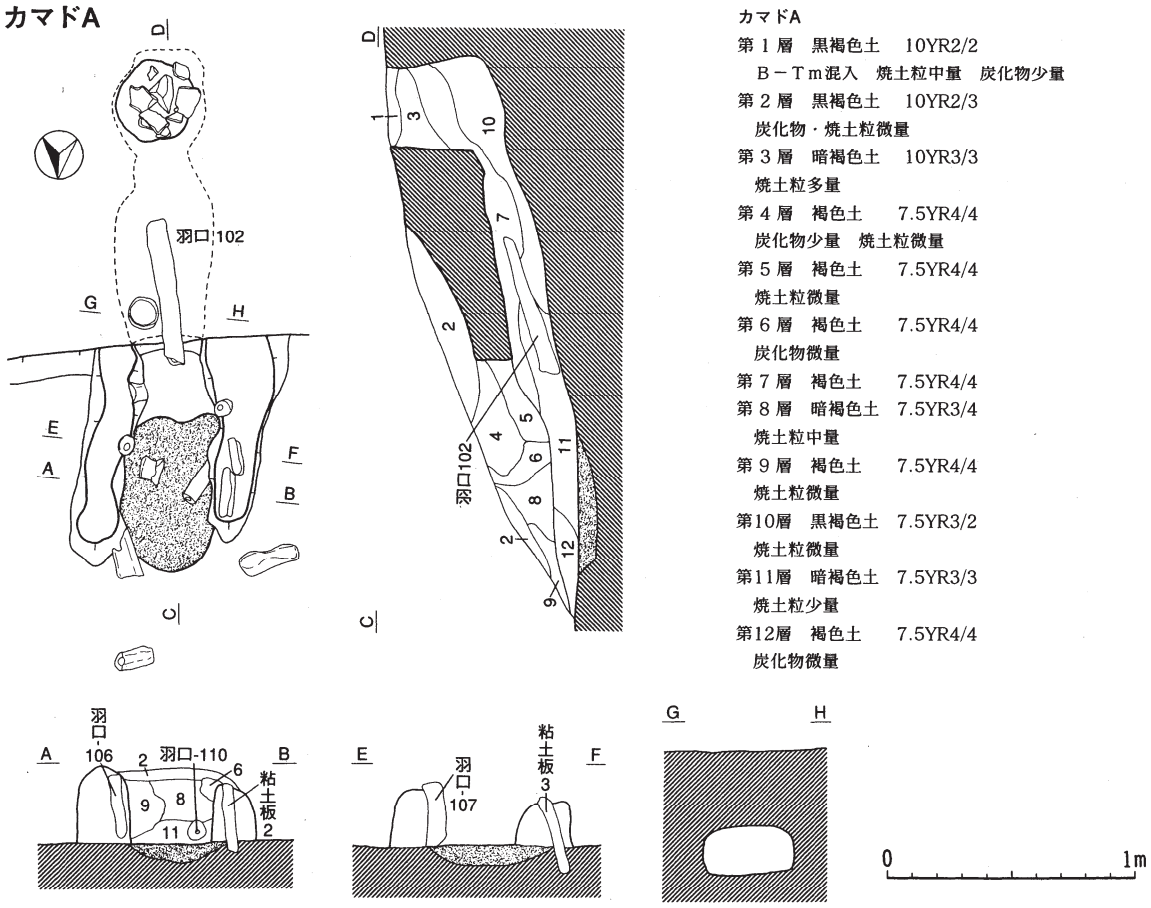
第１層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物・焼土粒微量

Pit7

第１層　黄褐色土　10YR5/6　焼土粒少量
第２層　褐色土　10YR4/6　焼土粒微量

図401　第484号竪穴住居跡（１）

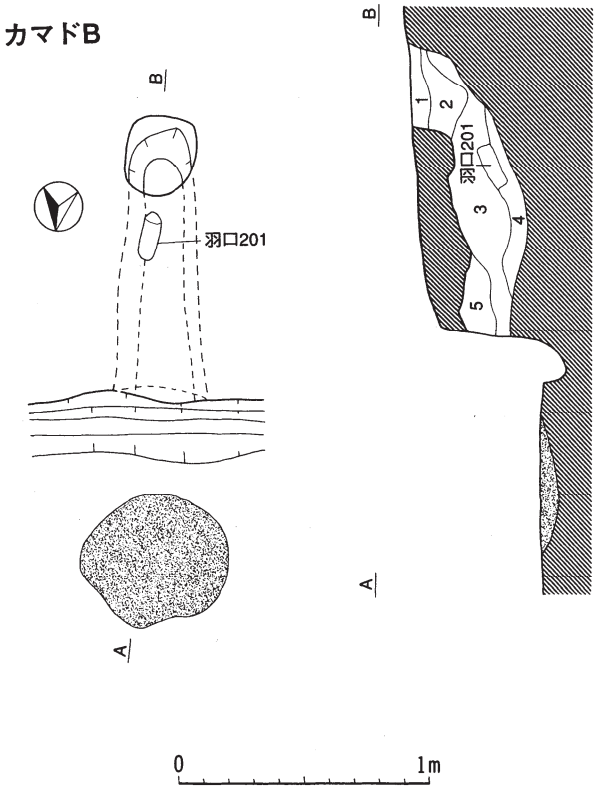
カマドA



カマドA

第１層　黒褐色土　10YR2/2
　Ｂ－Ｔｍ混入　焼土粒中量　炭化物少量
第２層　黒褐色土　10YR2/3
　炭化物・焼土粒微量
第３層　暗褐色土　10YR3/3
　焼土粒多量
第４層　褐色土　7.5YR4/4
　炭化物少量　焼土粒微量
第５層　褐色土　7.5YR4/4
　焼土粒微量
第６層　褐色土　7.5YR4/4
　炭化物微量
第７層　褐色土　7.5YR4/4
第８層　暗褐色土　7.5YR3/4
　焼土粒中量
第９層　褐色土　7.5YR4/4
　焼土粒微量
第10層　黒褐色土　7.5YR3/2
　焼土粒微量
第11層　暗褐色土　7.5YR3/3
　焼土粒少量
第12層　褐色土　7.5YR4/4
　炭化物微量

カマドB



カマドB

第１層　黒褐色土　7.5YR5/6
第２層　褐色土　7.5YR4/4
第３層　褐色土　7.5YR4/4　焼土粒少量
第４層　明褐色土　7.5YR5/6　焼土粒少量
第５層　褐色土　7.5YR4/4　焼土粒微量

図402　第484号竪穴住居跡（２）

第484号竪穴住居跡（図401～図407）

［位　置］　ＮＩ～ＮＫ－471～473に位置する。

［重　複］　第486号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］　東壁５ｍ65cm、西壁５ｍ88cm、南壁５ｍ45cm、北壁５ｍ30cmの北側中央がややふくらむ方形である。床面積は31.49㎡で、主軸方位はＮ－132°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁33cm、西壁64cm、南壁43cm、北壁26cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅８～23cm、深さ６～19cmの周溝が断片的に検出された。

［ピット］　検出されたピットは４個である。柱穴はピット３（36cm）、ピット５（36cm）と考える。

［カマド］　カマドは２つ検出された。南壁西側に構築されたものをカマドＡ、南壁東側に構築されたものをカマドＢとした。検出状況から、カマドＡが新しい。カマドＡは羽口、焼成粘土板を芯材として転用し、この上に粘土を覆って本体を構築している。特にソデからは、羽口を床面に立てた状態に置き、周りを粘土で覆って構築したソデと床面を掘り込み、焼成粘土板を埋め込んで周りを粘土で覆って構築したソデが確認された。煙道は地下式で、住居跡外に119cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道から芯材に転用されたと思われる羽口と土師器が、焚き口周辺からも芯材に転用されたと思われる礫が出土し。また、煙出しから土師器が多量に出土した。カマドＢは煙道と火床面のみ残存する。煙道は地下式で住居跡外に113cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道から芯材に転用されたと思われる羽口が出土した。

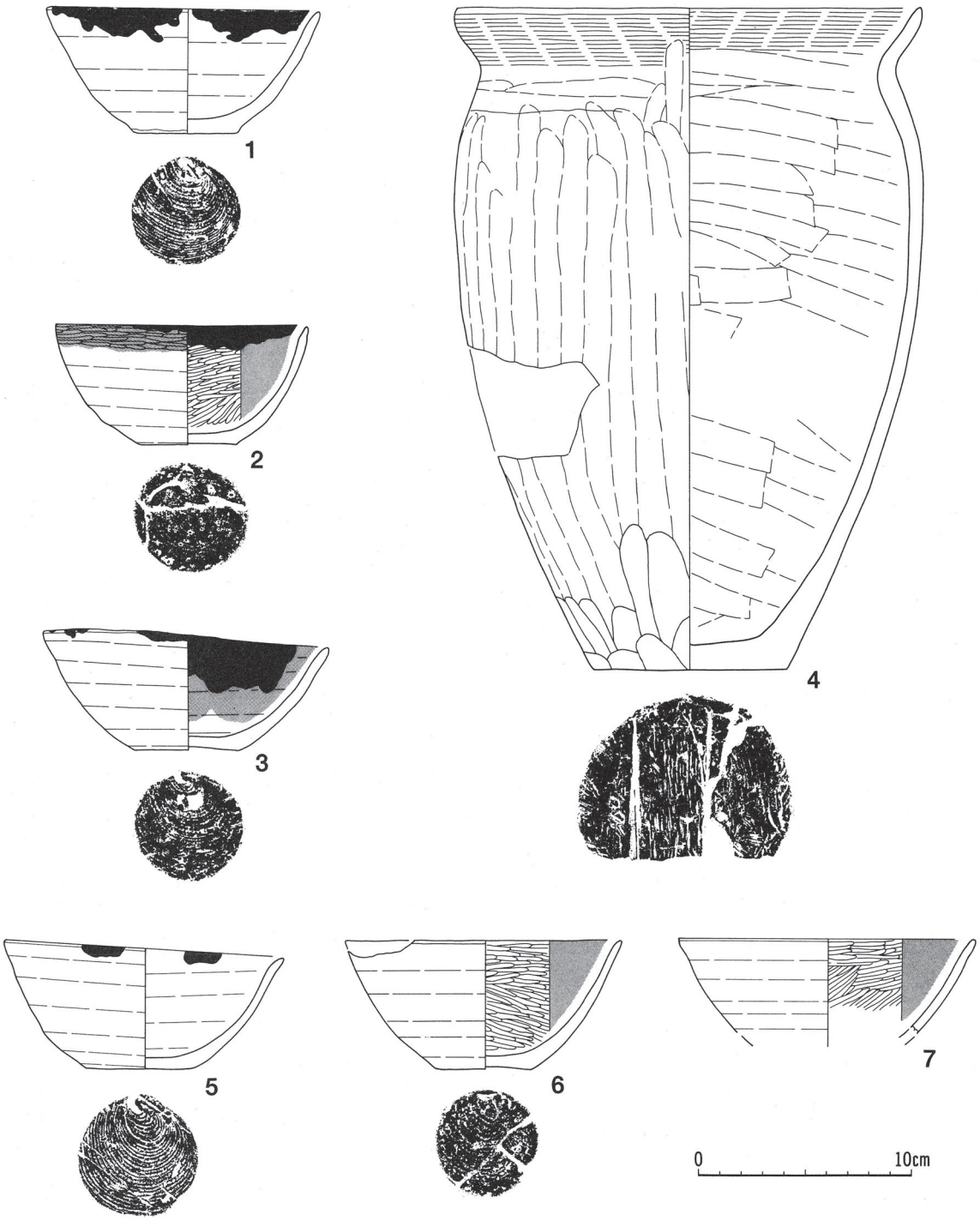
［その他の施設］中央から北西寄りに、長軸84cm、短軸42cm、深さ26cmのピット４、中央から南寄りに、長軸86cm、短軸68cm、深さ28cmのピット６、南西隅に、長軸142cm、短軸110cm、深さ34cmのピット７を検出した。

［堆積土］　堆積土は７層に分層され、１、２層にＢ－Ｔｍ火山灰が混入している。

［出土遺物］　土師器の甕、坏、高台付坏や須恵器の坏のほかに、羽口、砥石、焼成粘土板が出土している。

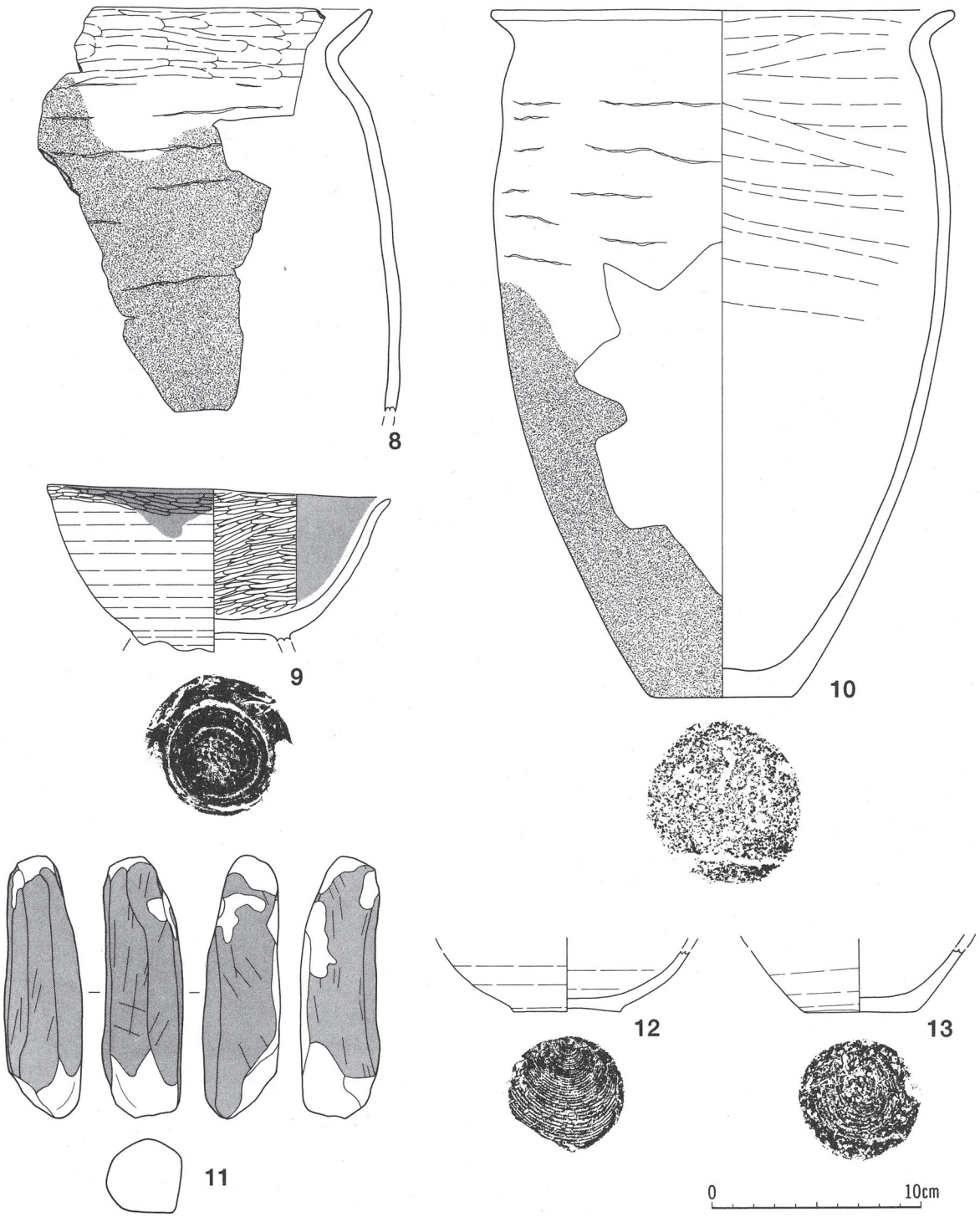
［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	12.8	5.9	4.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	内外面タール付着 P-111 灯明皿
2	土師器	坏	フク土	11.8	5.7	4.6	ヘラミガキ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	糸切り	BⅠb	内外面黒色処理灯明皿 内外面タール状炭化物付着 P-9
3	土師器	坏	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	13.4	5.7	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	タール状炭化物付着 P-113 灯明皿
4	土師器	甕	貼床	22.0	31.0	9.0	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	AⅠb	P-2, P-3 輪積痕
5	土師器	坏	ｶﾏﾄﾞﾌｸ土	13.2	6.0	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	内外面タール付着 P-112 灯明皿
6	土師器	坏	床面	(13.0)	6.0	4.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	糸切り	BⅠb	内面黒色処理
7	土師器	坏	床面	(14.0)	(4.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	BⅠ	P-11 内面黒色処理

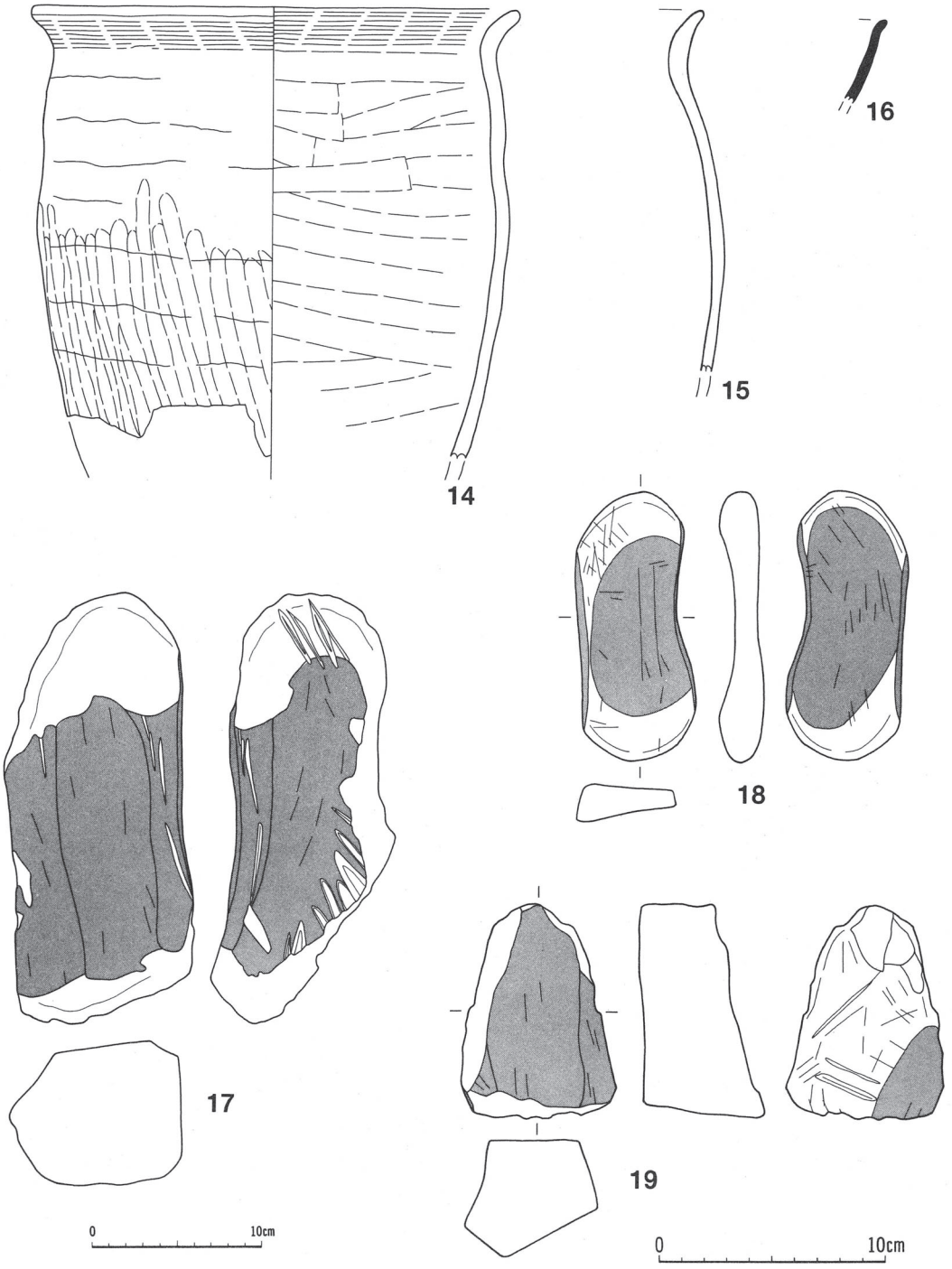
図403　第484号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
8	土師器	甕	床面	(20.0)	(19.0)	—	ヘラナデ	ナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-8 胎土黒色 粘土付着、輪積痕
9	土師器	高台付坏	Pit3フク土 床直	16.5	(8.0)	—	ヘラミガキ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	糸切り	—	P-1 内外面黒色処理
10	土師器	甕	カマドフク土 床面	(22.0)	31.3	7.0	不明(磨滅)	不明(磨滅)	不明(磨滅)	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	AⅠd	P-3、17 輪積痕、粘土付着
12	土師器	坏	フク土	—	(2.9)	5.2	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
13	土師器	坏	フク土	—	(3.0)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	不明	糸切り→ナデ	BⅡ	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
11	フク土	12.4	3.7	3.5	240	凝	砥石	

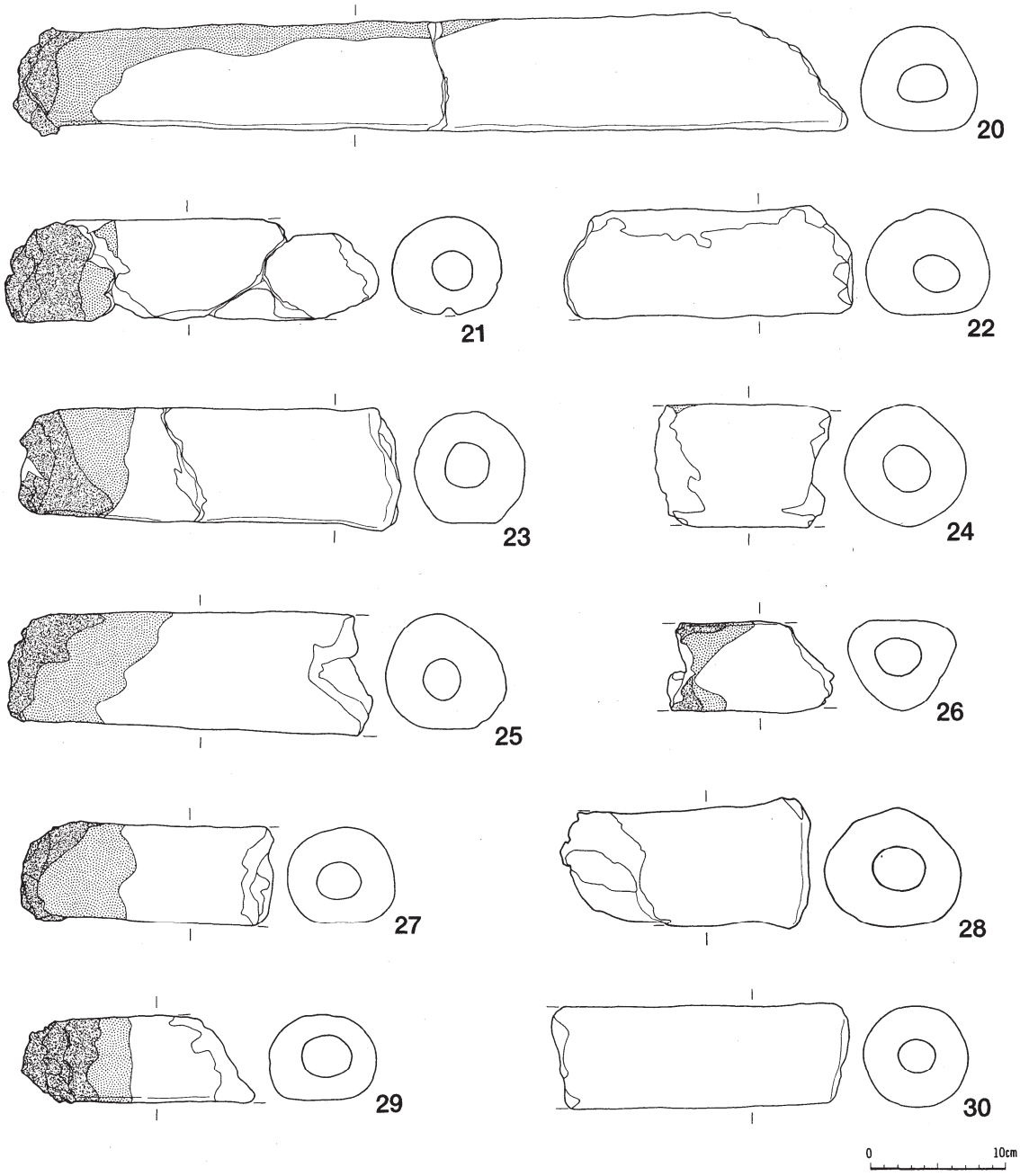
図404　第484号竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	カマドフク土	22.0	(20.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-103, 104, 105, 106 輪積痕（大）
15	土師器	甕	カマドフク土	(22.0)	(16.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着
16	須恵器	坏	床面	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外面、火だすき痕

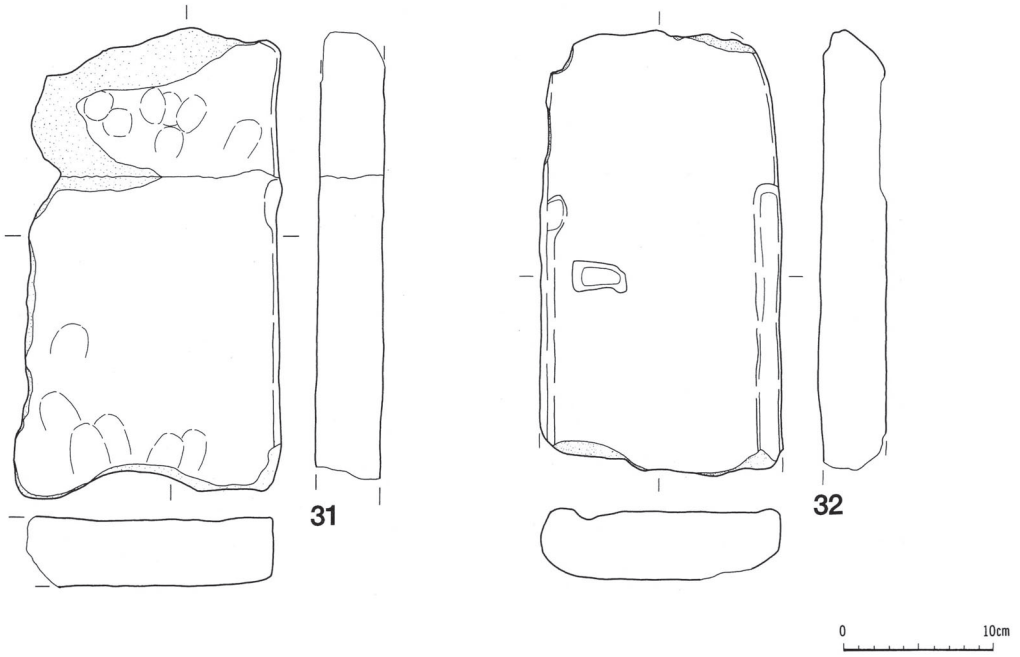
図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
17	カマドフク土	24.7	10.6	8.2	2230	安	砥石	S-101
18	フク土	11.9	4.4	1.0	150	細凝	砥石	炭化物付着
19	フク土	9.4	5.9	5.1	365	細凝	砥石	

図405　第484号竪穴住居跡出土遺物（3）



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
20	カマド煙道部	(61.3)	7.8×8.6	2.8×3.7	(4100)	C	ナデ	羽口-102
21	カマド床面	(27.6)	(7.3)×8.2	3.1	(1070)	不明	ナデ	羽口-104　砂粒多量
22	カマドフク土	(21.5)	7.8×9.2	2.7×3.3	(1430)	C	ナデ	羽口-108
23	カマドフク土	28.2	8.3	3.4	1740	B		羽口-106　砂粒多量
24	カマドフク土	(13.0)	9.0	3.7×3.2	(800)	B	ナデ	羽口-109　砂粒多量
25	カマドフク土	(27.1)	8.6×9.0	3.0	(1680)	B	ナデ	羽口-111　砂粒多量
26	カマドフク土	(12.5)	6.8×8.1	2.8×3.5	(392)	D_1		羽口-105　砂粒多量
27	カマド煙道	(18.7)	7.1×8.0	2.7×3.3	(950)	B	ナデ	羽口-201
28	カマドフク土	(18.6)	8.9×10.2	3.4×4.0	(1210)	B	ナデ	羽口-107　砂粒多量
29	カマド床直	(17.3)	6.4×8.0	3.1×3.6	(620)	C	ナデ	羽口-103
30	カマドフク土	(22.1)	7.5×7.8	2.5	(1285)	B	ナデ	羽口-110

図406　第484号竪穴住居跡出土遺物（4）



図版番号	種　類	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	特　徴	備　　考
			長さ	幅	厚さ			
31	焼成粘土板	カマド芯材	(30.8)	(16.8)	4.5	2595		C-2
32	焼成粘土板	カマド芯材	(29.4)	15.6	4.5	2700		C-3

図407　第484号竪穴住居跡出土遺物（５）

第486号竪穴住居跡（図408～図410）

［位　置］　ＮＨ・ＮＩ－471～473グリッドに位置する。

［重　複］　第484号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　南側が第484号住居跡に切られている。東壁５ｍ、西壁５ｍ10cm、南壁５ｍ47cm、北壁５ｍ32cmの方形と考えられる。主軸方位はＮ－133°－Ｅで、床面積は26.96㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁20～43cm、西壁61cm、南壁26cm、北壁58cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅12～29cm、深さ８～38cmの周溝がほぼ一巡する。

［ピット］　検出されたピットは７個である。柱穴はピット２（36cm）、ピット３（24cm）、ピット９（57cm）、ピット10（45cm）と考える。

［カマド］　南壁西側に構築されている。煙道が第484号住居跡に切られている。煙道は半地下式である。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がると推定する。

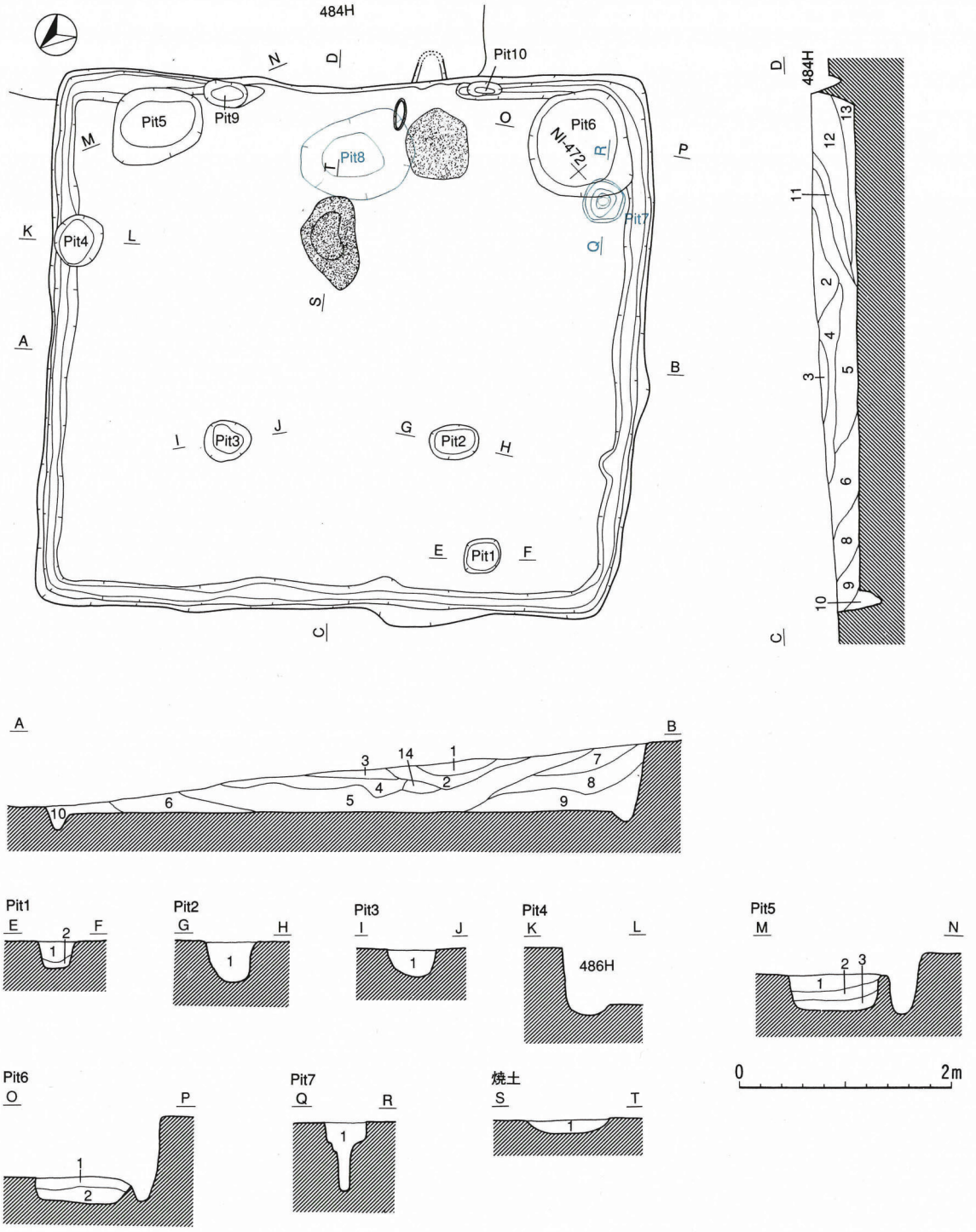
［その他の施設］　南東隅付近に、長軸94cm、短軸72cm、深さ34cmのピット５、南東隅に、長軸98cm、短軸94cm、深さ24cmのピット６を検出した。西壁南側の貼り床下から、長軸42cm、短軸36cm、深さ64cmのピット７を検出した。ピット７は、中央に径10cm、深さ36cmの落ち込みがあり、形態から「ロクロピット」と考えられる。またピット上部にはテラスを持っている。南壁中央から北寄りに、長軸88cm、短軸50cmの焼土を検出し、火床面と考える。

［堆積土］　堆積土は14層に分層され、１、３、７、９層にＴｏ－ａ火山灰が混入している。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕、坏、堝、小型土器や須恵器の壺が、床直からは刀子が、床面からは砥石が出土している。

［時　期］　火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築された土師器の製作に関わる遺構と考えられる。

（相馬良仁）



第486号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR2/2　Ｔｏ－ａ混入　ローム粒少量
第２層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量
第３層　黒褐色土　10YR2/3　Ｔｏ－ａ混入　ローム粒少量
第４層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量
第５層　黒褐色土　10YR2/3　L.B・ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第６層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第７層　暗褐色土　10YR3/3　Ｔｏ－ａ混入
第８層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第９層　黒褐色土　10YR3/2　Ｔｏ－ａ混入　ローム粒・炭化物少量
第10層　黒褐色土　10YR3/1　にぶい橙色土(7.5YR6/4)混入　炭化物少量
第11層　明黄褐色土　10YR6/8　黒褐色土(10YR3/2)混入
第12層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量
第13層　黒褐色土　10YR3/2　橙色土(7.5YR6/8)混入　ローム粒中量
第14層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物・焼土微量　ローム・小礫多量

図408　第486号竪穴住居跡（１）

Pit1
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量　炭化物微量
第2層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒少量

Pit2
第1層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒・炭化物少量

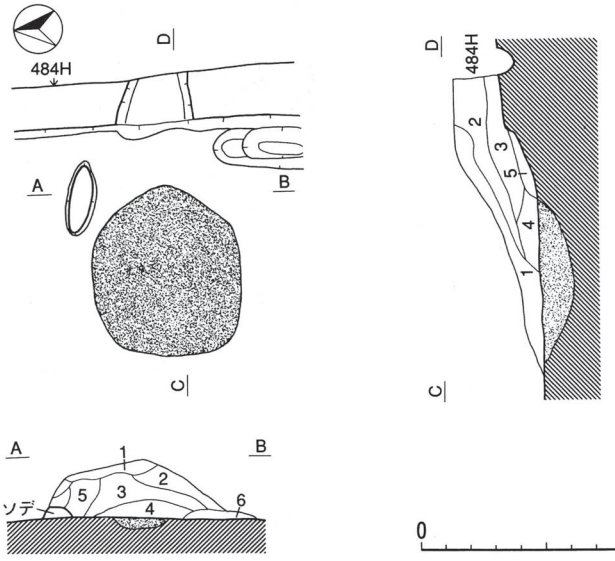
Pit3
第1層　暗褐色土　10YR3/3　黒色土(10YR1.7/1)混入　ローム粒少量

Pit5
第1層　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒微量　炭化物・ローム粒少量
第2層　暗赤褐色土　5YR3/6　ローム粒少量
第3層　褐色土　10YR4/6　焼土粒微量

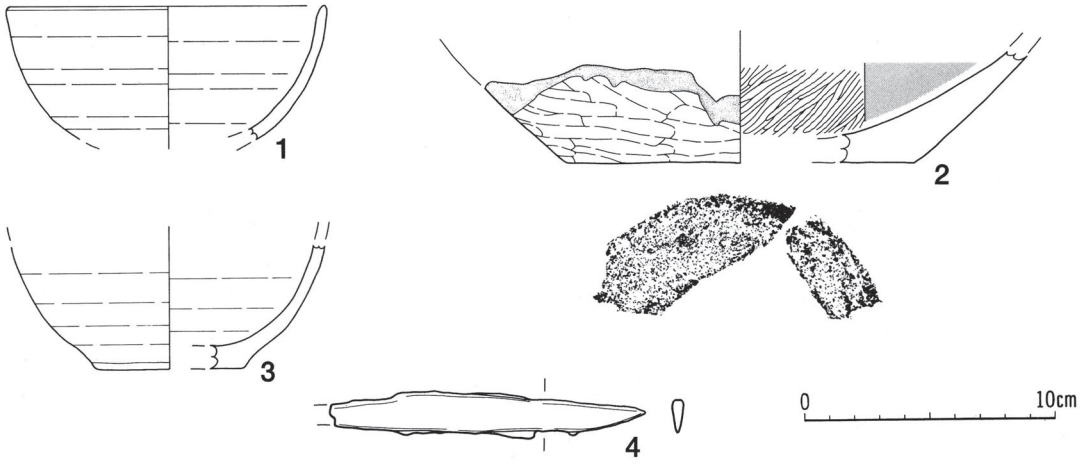
Pit6
第1層　褐色土　7.5YR4/6　ローム粒少量　焼土粒多量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　焼土粒少量

床下Pit7
第1層　黄褐色土　10YR5/8　黒色土(10YR1.7/1)混入

焼土
第1層　赤褐色土　2.5YR5/8　明赤褐色土(2.5YR5/8)混入



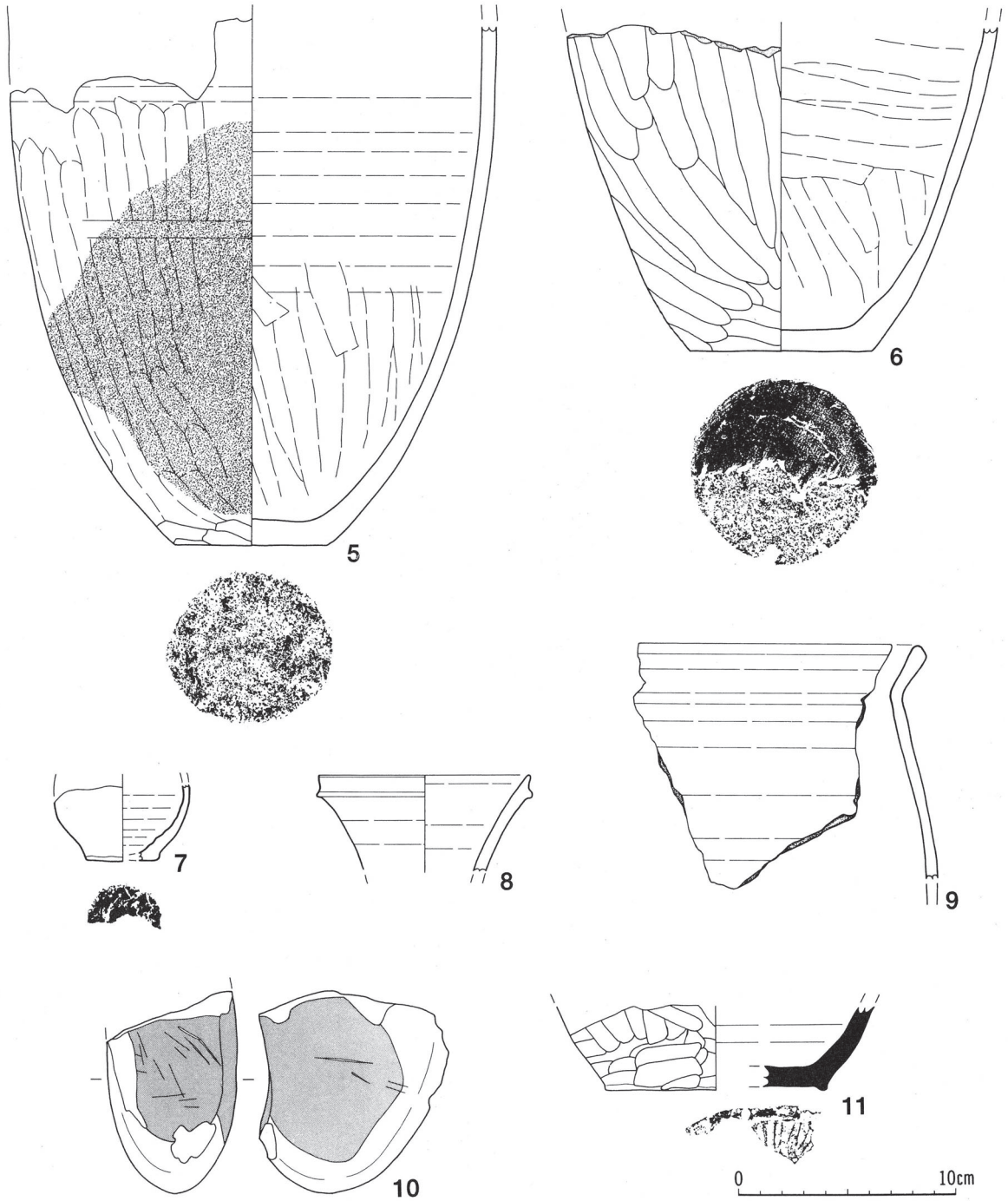
カマド
第1層　黒褐色土　10YR2/3　黒色土(10YR1.7/1)混入　ローム粒少量　焼土粒微量
第2層　暗褐色土　10YR3/3　明黄褐色土(10YR6/8)混入
第3層　褐色土　7.5YR4/4　焼土粒中量
第4層　橙色土　7.5YR6/6
第5層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第6層　暗褐色土　7.5YR2/3　暗褐色土(7.5YR3/4)混入　焼土粒中量



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	カマドフク土 フク土	(13.0)	(5.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	
2	土師器	塝	フク土	—	(4.8)	(14.8)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラミガキ	砂底	—	内面黒色処理
3	土師器	坏	フク土	—	(5.0)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	

図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
4	床直	12.6	1.3	0.5	23.5	刀子	

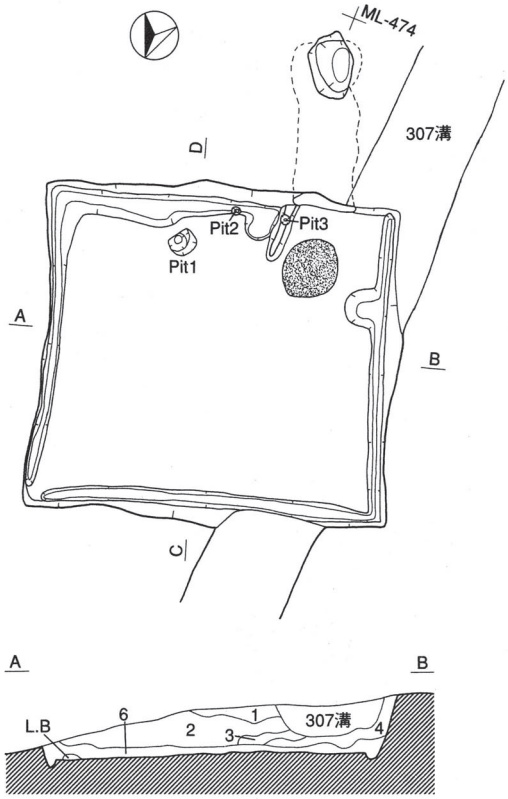
図409　第486号竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）

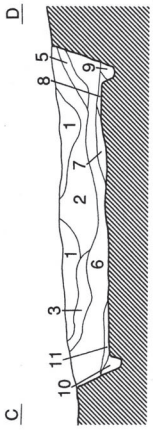


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
5	土師器	甕	床面 カマドフク土	—	(24.4)	(7.0)	—	ロクロ ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ロクロ	ヘラナデ	砂底 →ナデツケ	BⅠ	P-1
6	土師器	甕	カマドフク土	—	(15.1)	(8.4)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底 →ナデツケ	A	
7	土師器	小型土器	床面	—	(3.4)	(3.4)	—	ナデ	ナデ	—	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ	—	
8	土師器	壷?	フク土	(9.8)	(4.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
9	土師器	甕	フク土	(21.0)	(10.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
11	須恵器	壷	貼床下	—	(3.8)	(10.2)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	菊花文	—	

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
10	床面	8.4	6.0	8.0	530	凝	砥石	S-2

図410　第486号竪穴住居跡出土遺物（2）

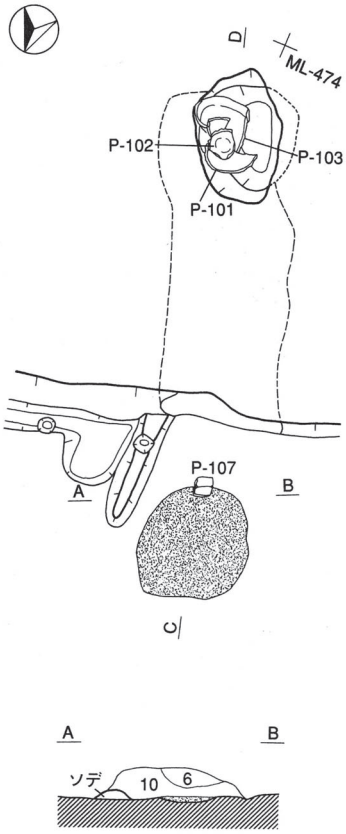


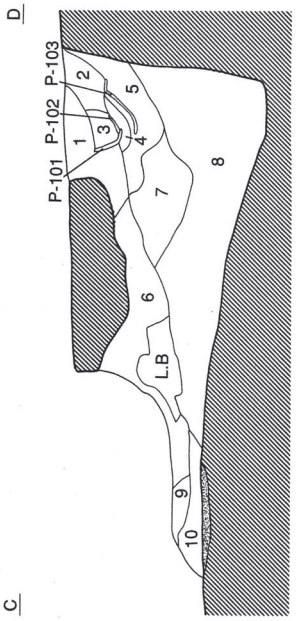


第488号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR3/2
　ローム粒微量　炭化物・焼土粒少量
第２層　黒褐色土　10YR3/2
　粘土ブロック混入
第３層　黒褐色土　10YR3/2
第４層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
　炭化物微量
第５層　黒褐色土　10YR2/2
　焼土粒・ローム細粒微量
第６層　黒褐色土　10YR2/3
　焼土粒・炭化物少量
第７層　褐色土　7.5YR4/4
　ローム質土　焼土細粒微量
第８層　赤褐色土　5YR4/6
　焼土層
第９層　褐色土　7.5YR4/4
　ローム質土　焼土粒少量
第10層　暗褐色土　10YR3/4
第11層　明褐色土　7.5YR5/6
　粘土層

0　2m



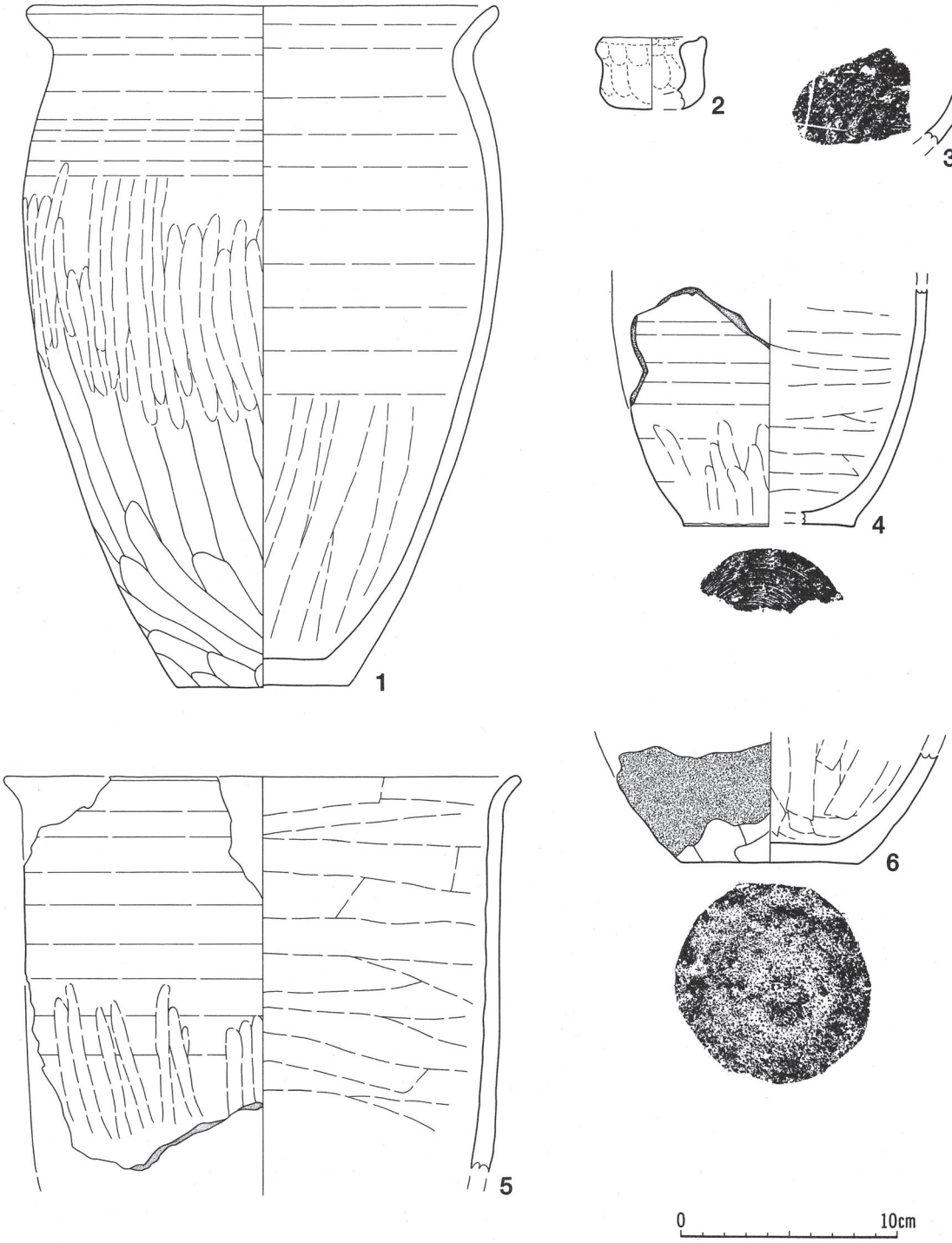


カマド

第１層　黒褐色土　7.5YR3/2　焼土粒少量
第２層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒少量
第３層　極暗褐色土　7.5YR2/3　焼土粒多量
第４層　褐色土　7.5YR4/4　L.B多量
第５層　暗褐色土　7.5YR3/3　L.B微量　焼土粒中量
第６層　黒褐色土　10YR2/2　L.B・焼土粒少量
第７層　黄褐色土　10YR5/6　L.B少量
第８層　褐色土　7.5YR4/4　L.B・焼土粒多量
第９層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒少量　炭化物微量
第10層　褐色土　7.5YR4/4　焼土粒少量

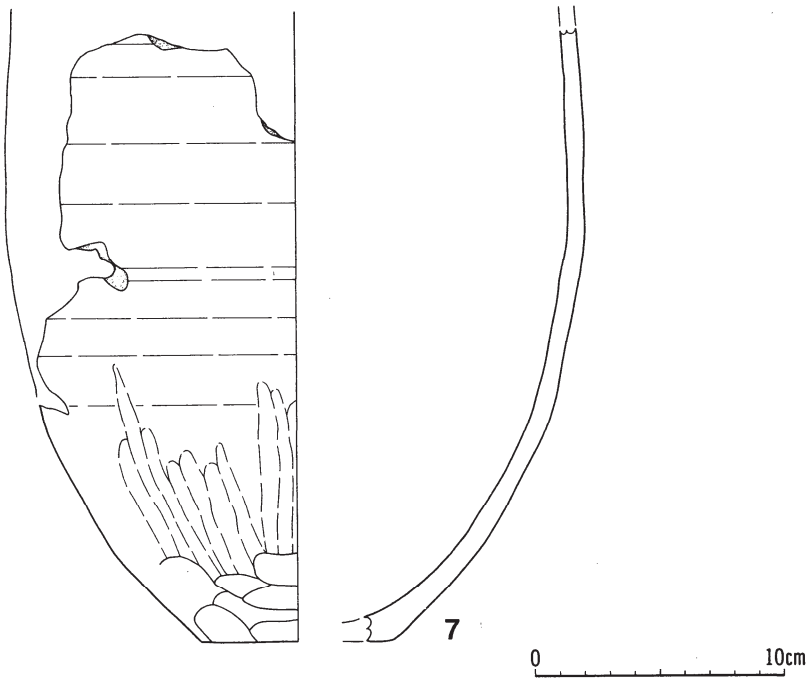
0　1m

図411　第488号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド煙道 カマドフク土	22.0	31.5	8.0	ロクロ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	BⅠ	P-103, 101
2	土師器	小型土器	フク土	(5.0)	(3.4)	(3.4)	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ナデツケ	—	
3	土師器	坏	フク土	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	BⅡ	刻書
4	土師器	甕	カマドフク土	—	(10.9)	(8.0)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	回転糸切り	B	
5	土師器	甕	カマドフク土	(22.0)	(17.2)	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B	P-106
6	土師器	甕	カマド煙道 フク土	—	(5.9)	(8.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底 →ナデツケ	A	P-102

図412　第488号竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	土師器	甕	カマド10層火床面	―	(24.5)	(7.6)	―	ロクロヘラナデ	ヘラケズリ	―	不明	不明	ナデツケ?	BⅠ	P-104, 107

図413　第488号竪穴住居跡出土遺物（2）

第488号竪穴住居跡（図411～図413）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ－472・473グリッドに位置する。

［重　複］　第313号溝と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　第313号溝に西壁を切られており、東壁２ｍ60cm、西壁２ｍ52cm、南壁２ｍ84cm、北壁２ｍ92cmで、方形と推定する。主軸方位はＮ－161°－Ｅで、床面積は5.59㎡である。

［壁・床面］　壁高は、東壁14cm、西壁54cm、南壁16～51cm、北壁38cmである。床面はやや起伏があり、北側に緩やかに傾斜する。

［周　溝］　幅８～24cm、深さ３～23cmの周溝がほぼ一巡する。

［ピット］　検出されたピットは３個である。

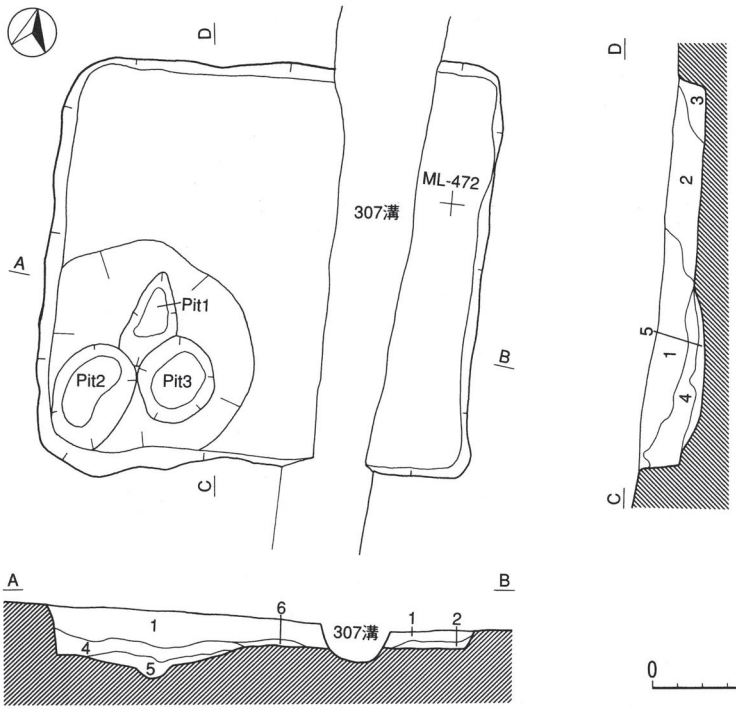
［カマド］　カマドは、南壁西側に構築されている。ソデは東側のみを検出した。煙道は地下式で、住居跡外に134cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに下降する。煙出しから土師器が出土した。

［堆積土］　堆積土は11層に分層され、８層は焼土層である。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕、小型土器が出土している。

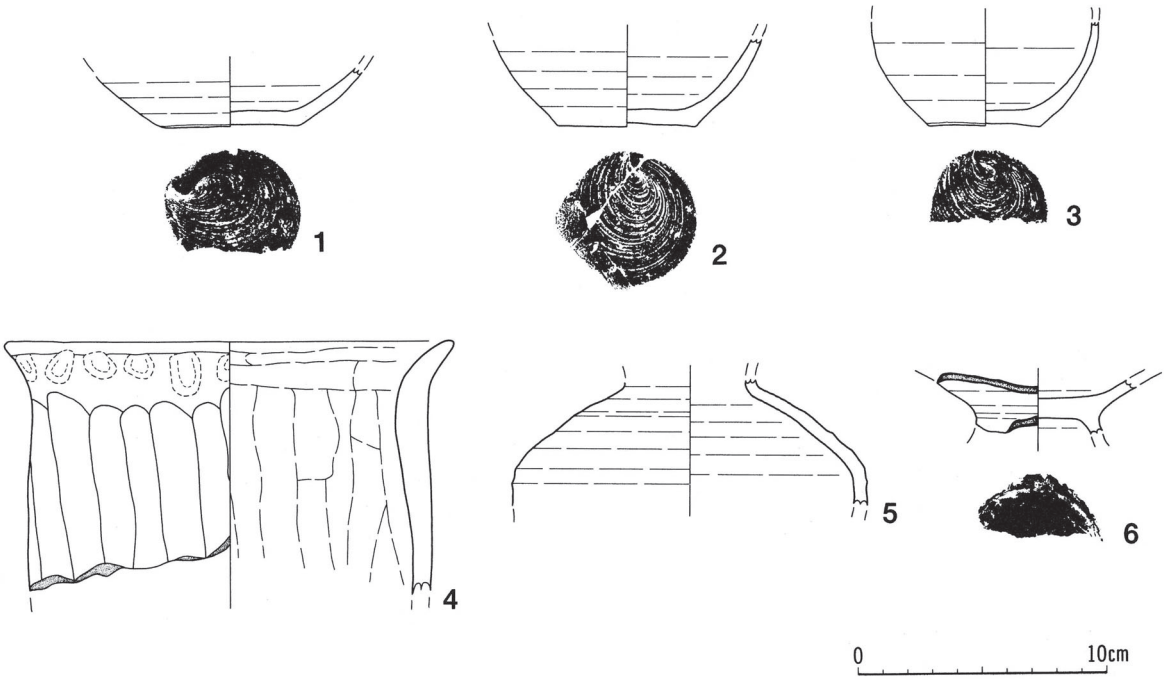
［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



第489号住居跡

第１層　黒色土　10YR2/1
　ローム粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/2
　炭化物・ローム粒微量
第３層　黒褐色土　10YR2/3
　ローム粒微量
第４層　黒褐色土　10YR2/2
　ローム粒微量　炭化物中量
第５層　黒褐色土　10YR2/3
　ローム粒微量
第６層　暗褐色土　10YR3/4



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	床直	—	(2.4)	(5.4)	—	—	ロクロ？ユビナデ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
2	土師器	坏	床直	—	(3.5)	5.4	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
3	土師器	壺？	床直	—	(4.1)	4.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B	
4	土師器	甕	フク土	18.0	(10.0)	—	ユビ圧痕	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
5	土師器	壺	床直	—	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	B	
6	土師器	高台付坏	床直	—	(2.4)	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	糸切り後高台取付	—	

図414　第489号竪穴住居跡・出土遺物

第489号竪穴住居跡（図414）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ－471・472グリッドに位置する。

［重　複］　第307号溝と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　東壁３ｍ60cm、西壁２ｍ92cm、北壁東側と南壁東側を第307号溝に切られている。残存する南壁２ｍ64cm、北壁２ｍ38cmで、南壁西側がふくらむ方形である。床面積は10.18㎡で、主軸方位は不明である。

［壁・床面］　壁高は、東壁14cm、西壁24～57cm、南壁20～58cm、北壁７～22cmである。床面は北側に緩やかに傾斜する。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　検出されなかった。

［その他の施設］北西隅に、長軸168cm、短軸162cm、深さ10～16cmの窪地を検出した。北西隅に、長軸78cm、短軸38cmのピット１、長軸84cm、短軸62cmのピット２、径62cmのピット３を検出した。

［堆積土］　堆積土は７層に分層される。

［出土遺物］　床直から、土師器の甕、坏、高台付坏、壺が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

第490号竪穴住居跡（図415・図416）

［位　置］　ＮＮ・ＮＯ－469・470グリッドに位置する。

［重　複］　第480号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　第480号住居跡に、大半を切られている。残存する東壁３ｍ94cm、西壁３ｍ88cm、南壁３ｍ78cm、北壁４ｍ20cmのほぼ方形である。床面積は14.4㎡で、主軸方位はＮ－180°－Ｓである。

［壁・床面］　壁高は、東壁６cm、西壁88cm、南壁72cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅６～24cm、深さ３～16cmの周溝がほぼ一巡する。

［ピット］　検出されたピットは２個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　南壁西側に構築されている。煙道と火床面のみ残存する。煙道は半地下式で、住居跡外に99cmのびる。煙道底面は、やや起伏を持ちながら、煙出し方向に急勾配に立ち上がる。

［その他の施設］　南東隅に、径36cmのピット１、西壁南側に、径80cmのピット２を検出した。

［出土遺物］　土師器の甕や羽口、砥石が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

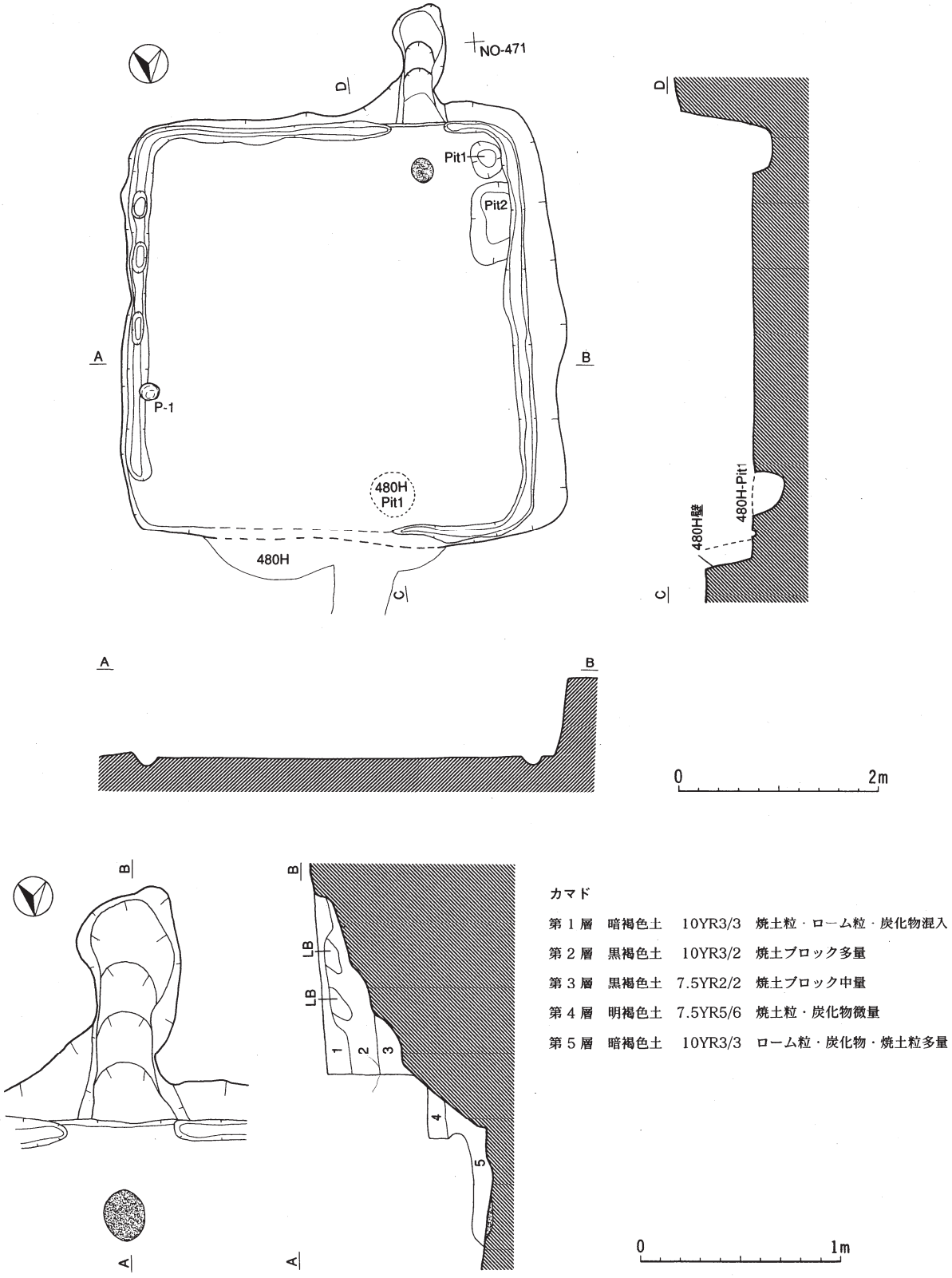
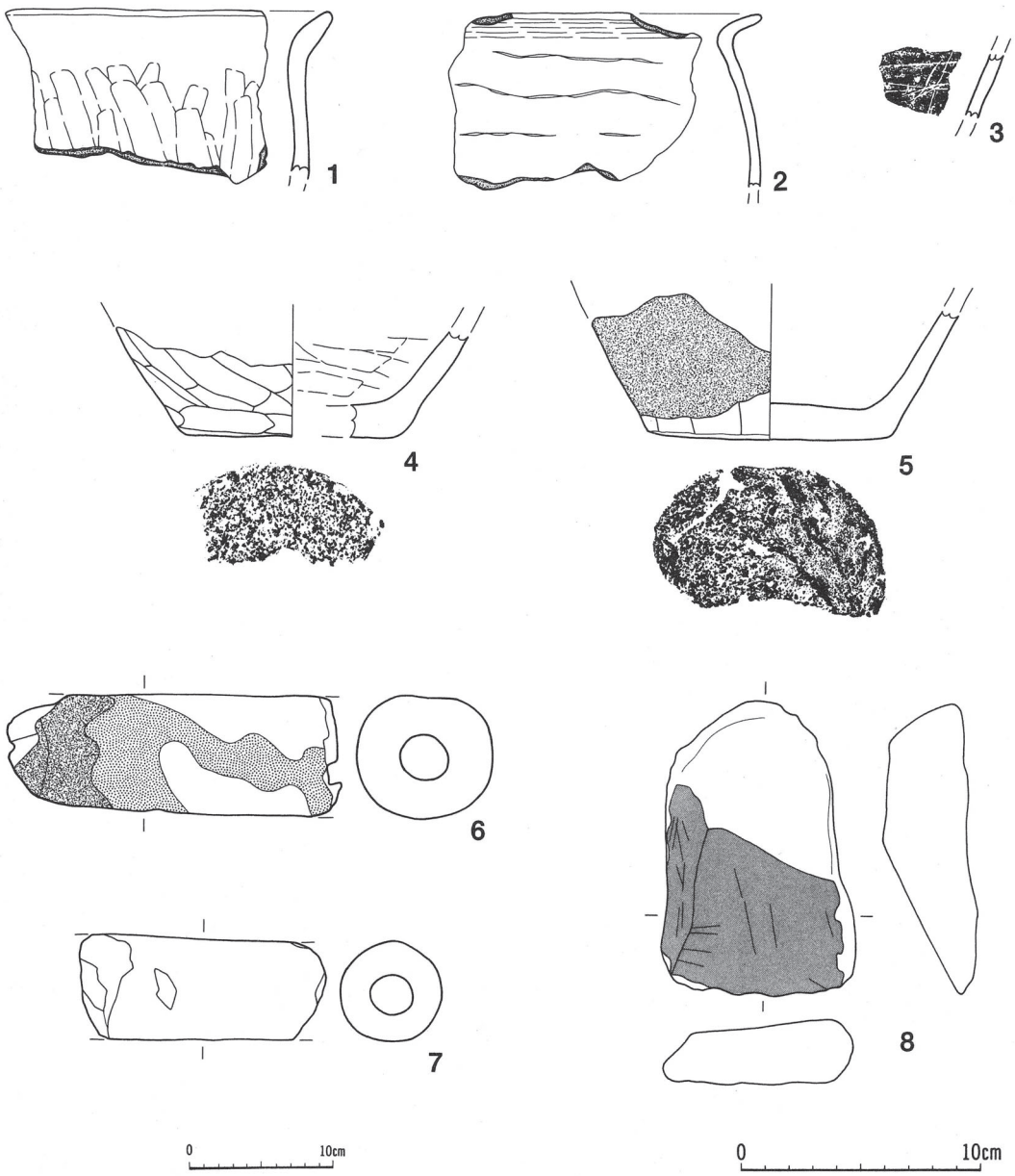


図415　第490号竪穴住居跡

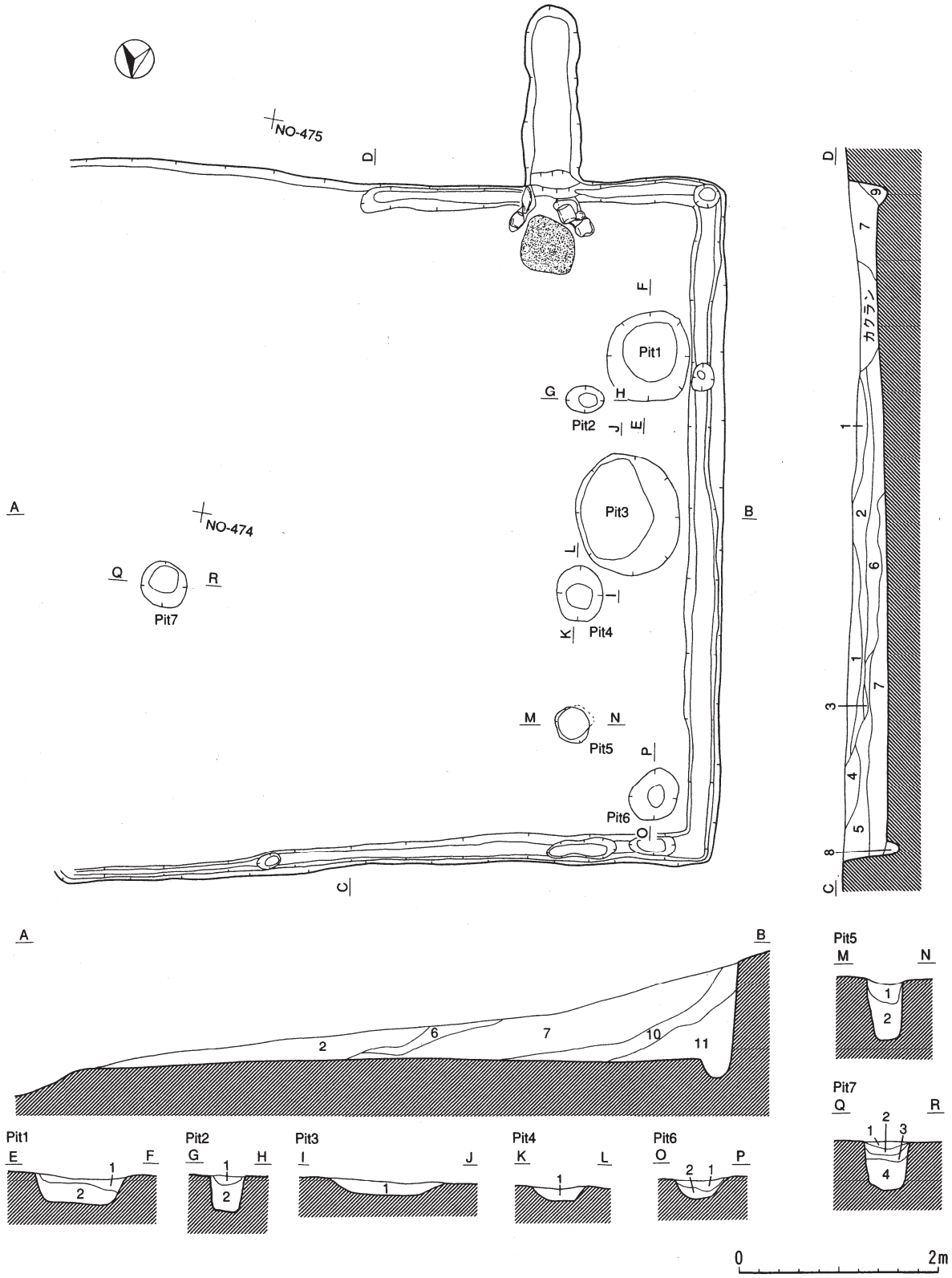


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フク土	(22.0)	(6.9)	—	ナデ?	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
2	土師器	甕	フク土	(22.0)	(7.2)	—	ヨコナデ	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪積痕、磨滅
3	土師器	坏?	フク土	—	—	—	—	不明	—	—	不明	—	—	B?	刻書
4	土師器	甕	フク土	—	(4.5)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
5	土師器	甕	床直	—	(6.0)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	不明	ナデツケ	A	粘土付着、磨滅 P-4

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	備考
8	フク土	12.1	8.0	2.7	4.9	流	砥石	炭化物付着

図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	外径	内径	重さ(g)	分類	調整	備考
6	床直	(23.0)	8.6×9.5	3.2	(1280)	B	ナデ	羽口-2
7	床直	(17.1)	7.1	2.8×3.0	(730)	B	ナデ	羽口-2

図416　第490号竪穴住居跡出土遺物



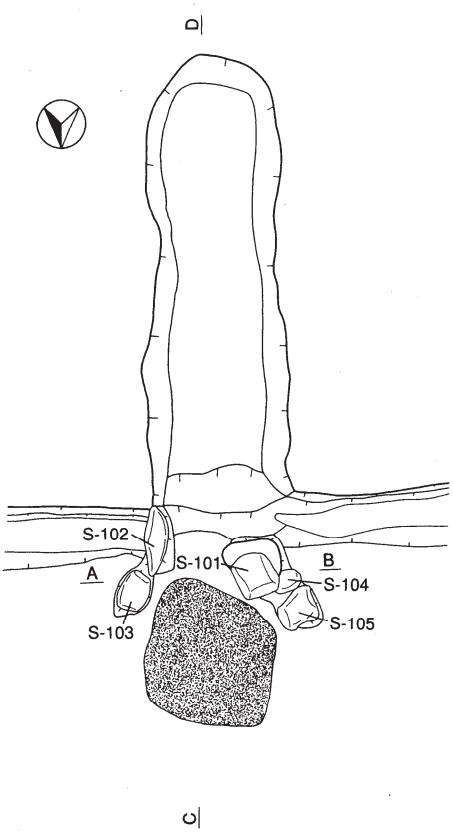
第491号住居跡

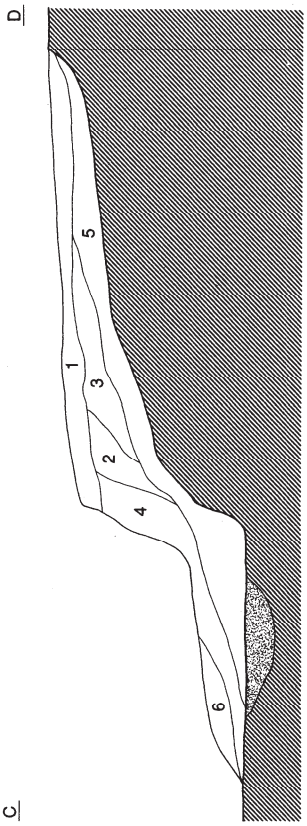
第１層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・焼土粒中量
第２層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒・焼土粒少量　炭化物微量
第３層	褐色土	10YR4/4	ローム質土　粘土粒少量
第４層	褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第５層	褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第６層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	L.B・粘土ブロック多量
第７層	黒褐色土	10YR2/3	暗褐色土(10YR3/3)混入 L.B・炭化物・焼土粒少量
第８層	暗褐色土	7.5YR3/4	L.B微量
第９層	褐色土	7.5YR4/6	ローム層
第10層	黒褐色土	10YR2/2	L.B少量　炭化物・焼土粒微量
第11層	暗褐色土	10YR3/3	L.B混入

図417　第491号竪穴住居跡（１）

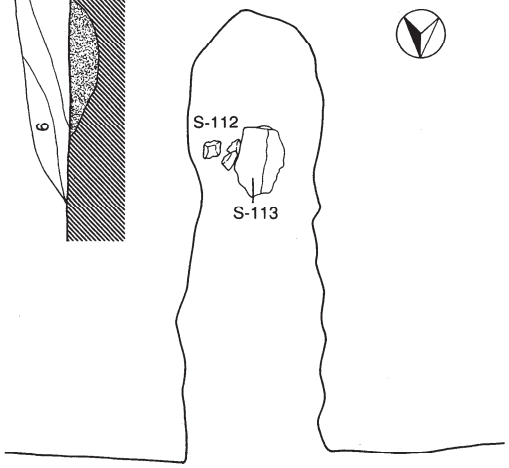
Pit1
第１層　褐色土　7.5YR4/6
第２層　暗褐色土　7.5YR3/3　炭化物・焼土粒微量
Pit2
第１層　黒色土　7.5YR2/1
第２層　褐色土　7.5YR4/6
Pit3
第１層　暗褐色土　10YR3/4　焼土粒少量　炭化物微量
Pit4
第１層　黒褐色土　10YR2/1　炭化物少量
Pit5
第１層　黒色土　7.5YR2/1
第２層　褐色土　7.5YR4/6

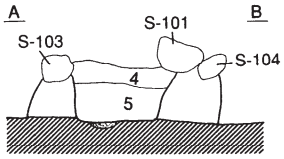
Pit6
第１層　褐色土　7.5YR4/4
第２層　褐色土　7.5YR4/6　炭化物微量
Pit7
第１層　黒褐色土　7.5YR2/2　炭化物微量
第２層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物微量
第３層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物微量
第４層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物微量



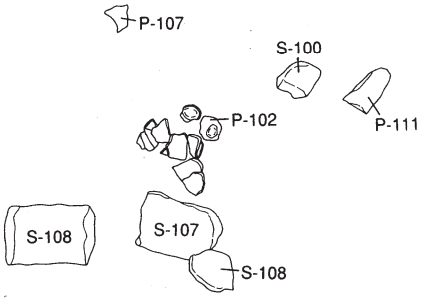


カマド遺物出土状況





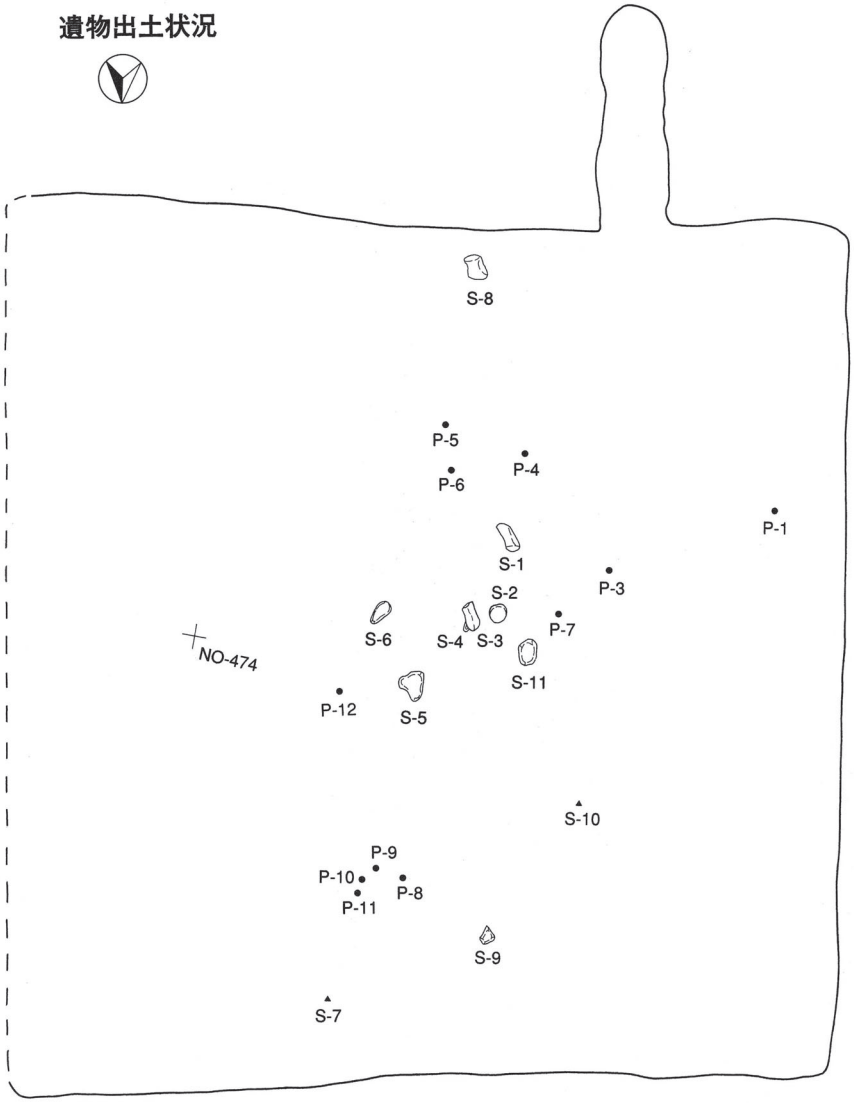
0　1m

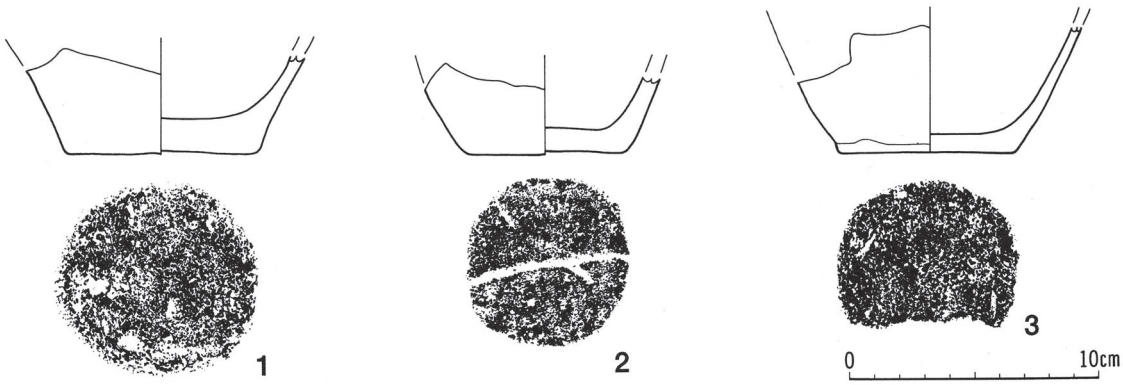


0　1m

カマド
第１層　黒褐色土　7.5YR2/2　被熱したL.B中量
第２層　褐色土　10YR4/4　被熱したL.B少量　焼土粒微量
第３層　褐色土　7.5YR4/6　しまりなし
第４層　褐色土　7.5YR4/4　ローム層
第５層　黒褐色土　10YR2/2　焼土ブロック多量
第６層　暗褐色土　10YR3/3　ローム質土

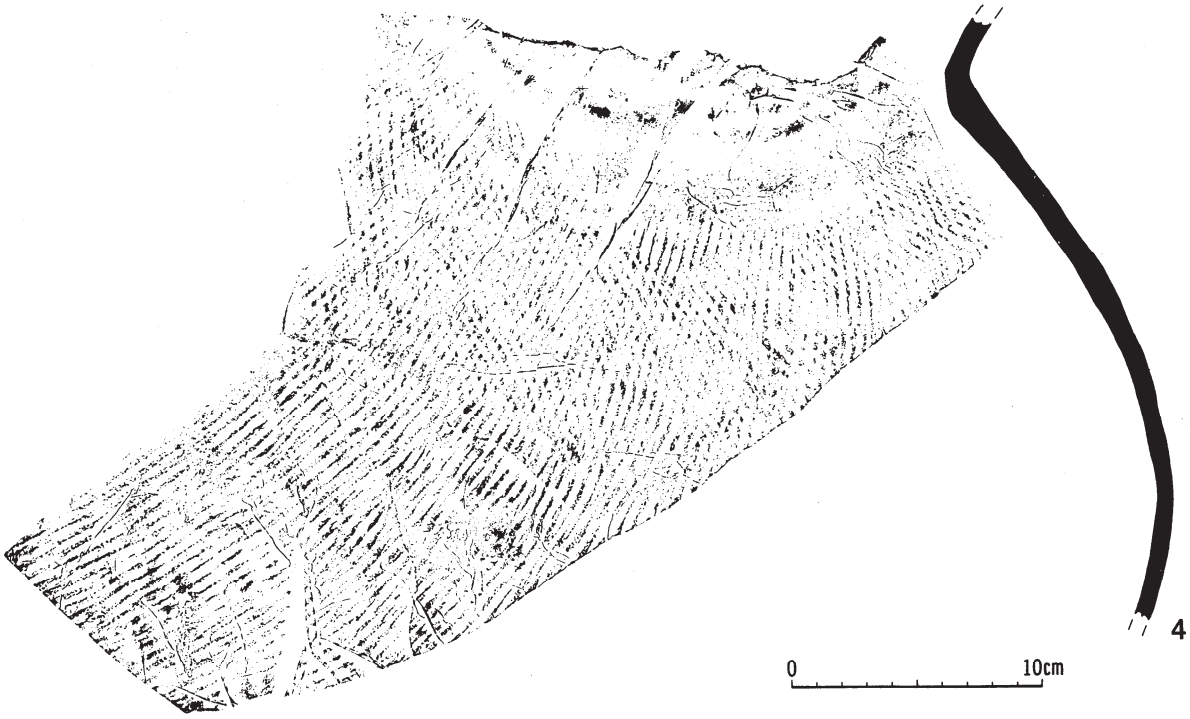
図418　第491号竪穴住居跡（２）





図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマドフク土	—	(4.0)	8.0	—	—	不明	—	—	不明	ナデツケ	A?	磨滅 P-102
2	土師器	甕	貼床	—	(3.0)	6.0	—	—	不明	—	—	不明	ナデツケ	A?	磨滅
3	土師器	甕	Pit1フク土	—	(5.1)	7.0	—	—	不明	—	—	不明	ナデツケ	A?	磨滅 P-1

図419　第491号竪穴住居跡（3）・出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
4	須恵器	甕	カマドフク土 粘床下 Pit11	—	(22.2)	—	頸ロクロ	肩ヘラナデ 胴平行タタキ目	—	頸ロクロ	肩上部棒状当具 胴～胴当具のヘラナデ	—	—	—	

図420　第491号竪穴住居跡出土遺物（2）

第491号竪穴住居跡（図417～図421）

［位　置］　NM～NO－473～475グリッドに位置する。

［重　複］　確認されなかった。

［平面形・規模］　東側が削平されており、残存する西壁6m81cm、南壁6m80cm、北壁6m62cmで、方形と推定する。床面積は45.11㎡で、主軸方位はN－172°－Sである。

［壁・床面］　壁高は、西壁96cm、南壁38cm、北壁44cmである。床面は、南側に緩やかに上昇する。

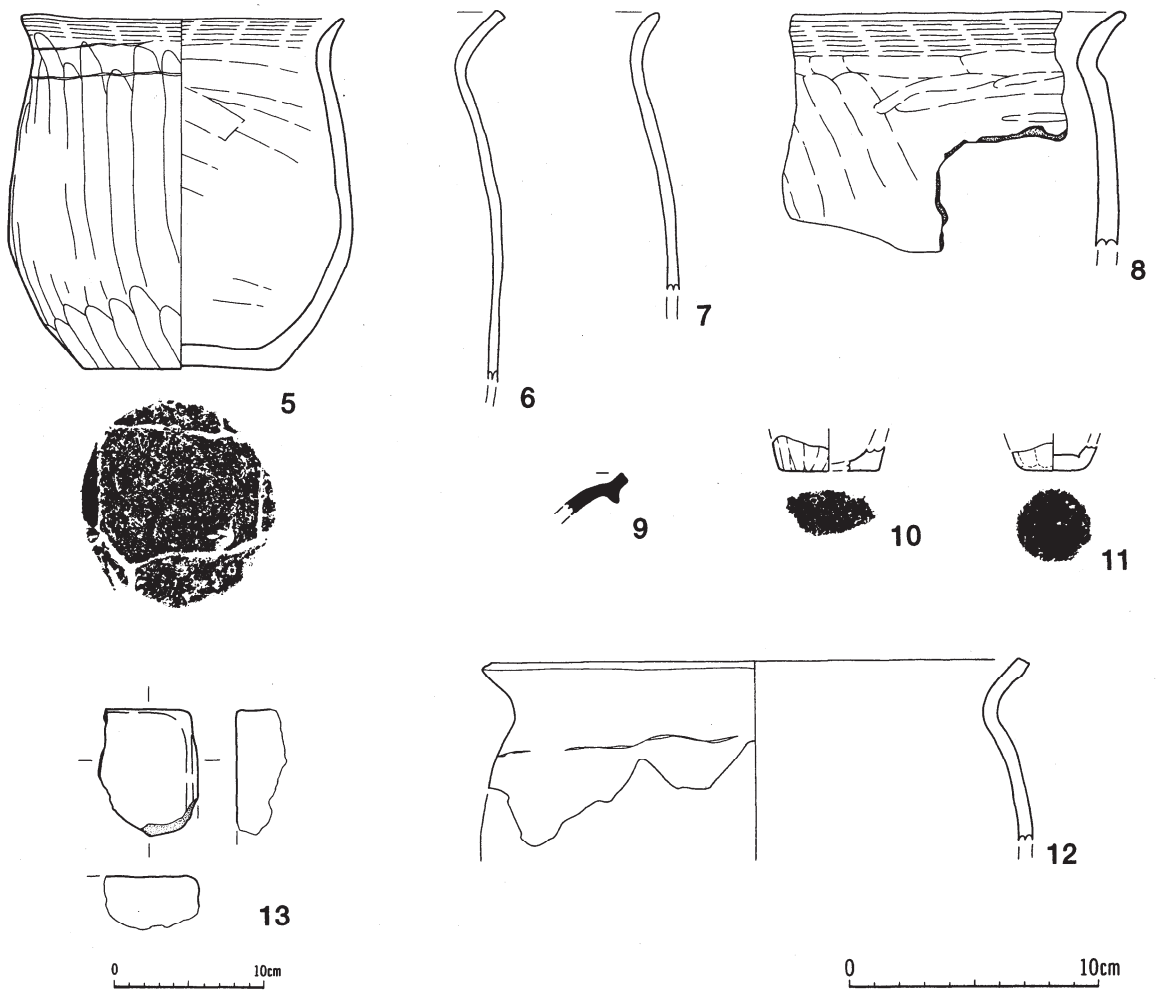
［周　溝］　幅10～34cm、深さ13～39cmの周溝が西壁・北壁と南壁の一部に検出された。

［ピット］　検出されたピットは5個であり、柱穴は、ピット2（36cm）、ピット5（54cm）、ピット7（48cm）と考える。

［カマド］　南壁西側に構築されている。礫を芯材として転用し、粘土を覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に172cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに立ち上がる。煙道と焚き口周辺から、芯材に使われたと思われる礫や土師器が出土した。

［その他の施設］　西壁南側に、径88cm、深さ24cmのピット1、西壁中央に、長軸124cm、短軸104cm、深さ10cmのピット3を検出した。

［堆積土］　堆積土は11層に分層される。



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
5	土師器	甕	カマドフク土	(13.0)	14.2	8.0	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底→ナデツケ	AⅡe	輪積痕、P-106
6	土師器	甕	カマドフク土	22.0	14.3	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	輪積痕、P-106
7	土師器	甕	カマドフク土	(16.0)	(11.3)	—	不明	不明	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	磨滅、P-107
8	土師器	甕	カマドフク土	(24.0)	(9.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	不明	不明	—	—	A	P-103
9	須恵器	壺	貼床下	—	(1.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
10	土師器	小型土器	貼床	—	(1.4)	(4.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	不明	ナデツケ	—	
11	土師器	小型土器	フク土	—	(1.1)	2.4	—	—	ユビ圧痕	—	—	不明	ナデツケ	—	輪積痕
12	土師器	甕	カマドフク土	(22.0)	(7.4)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	輪積痕、P-105

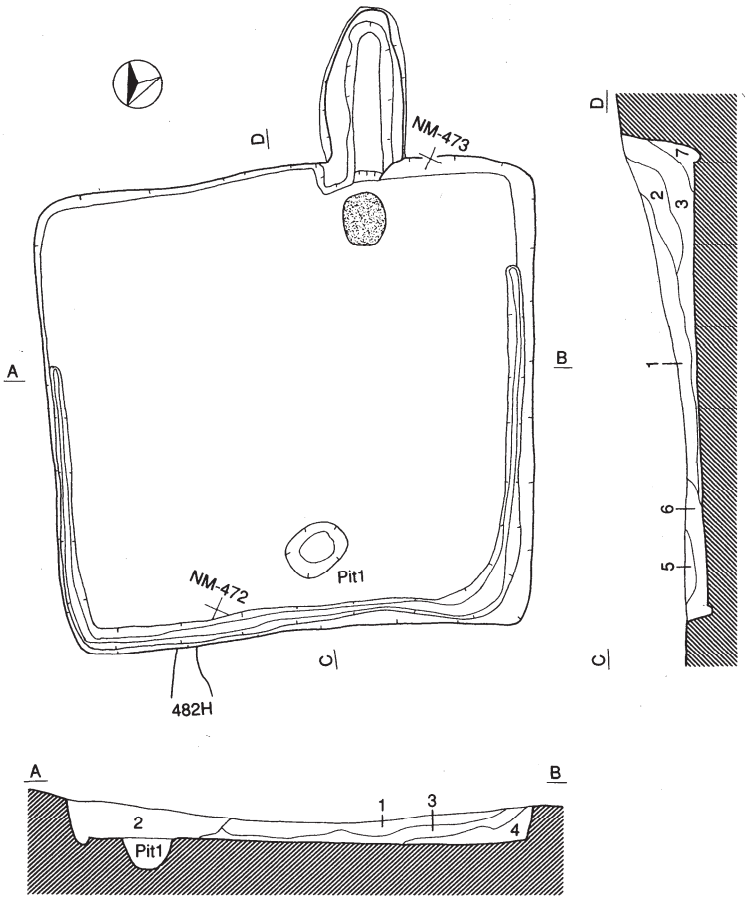
図版番号	種類	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
13	焼成粘土板	フク土	(14.3)	(7.4)	(3.8)	169		

図421　第491号竪穴住居跡出土遺物（3）

［出土遺物］　覆土から土師器の甕、小型土器や須恵器の甕、壺のほかに焼成粘土板が出土している。

［時　期］　出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

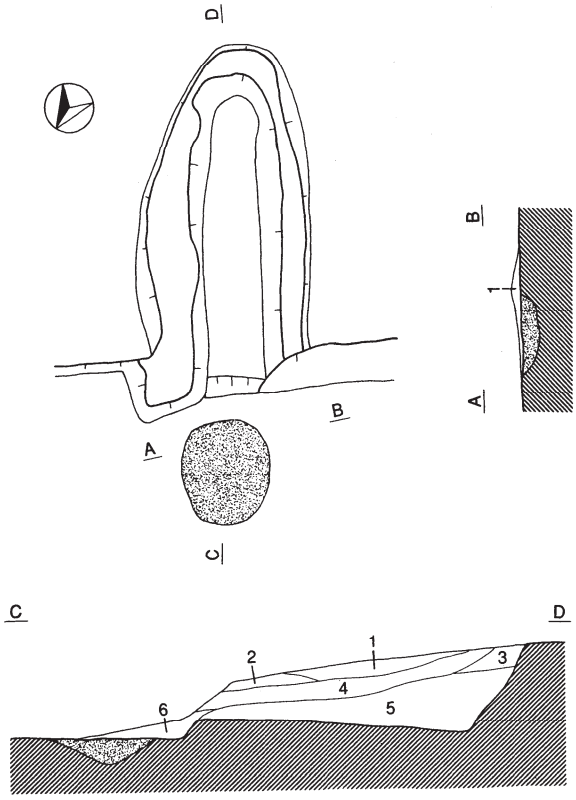
（相馬良仁）



第492号住居跡

第１層　黒褐色土　10YR3/2
粘土粒・炭化物微量
第２層　黒褐色土　10YR3/2
粘土粒・炭化物微量
第３層　暗褐色土　10YR3/3
粘土粒多量
第４層　暗褐色土　10YR3/4
粘土粒微量
第５層　黒褐色土　10YR2/3
焼土粒・炭化物微量　粘土粒混入
第６層　暗褐色土　10YR3/2
焼土粒・炭化物微量　粘土粒混入
第７層　黒褐色土　10YR2/3
焼土粒・炭化物微量　粘土粒混入

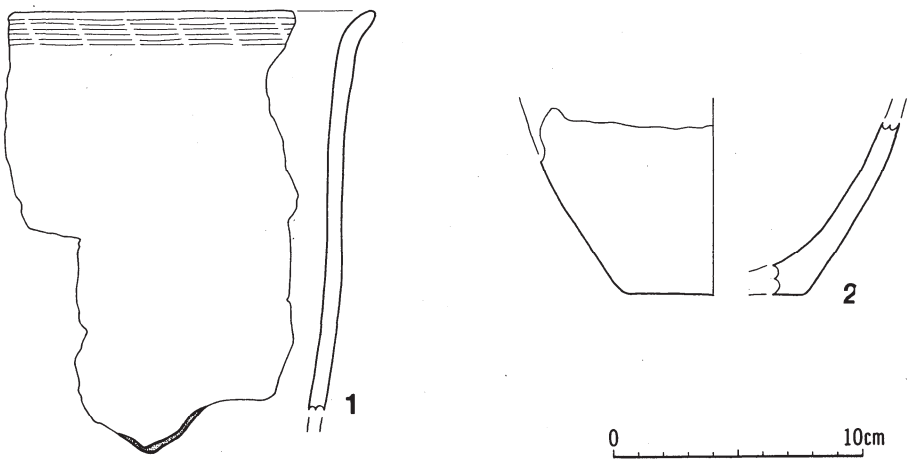
Pit1
第１層　暗褐色土　10YR3/4
ローム粒中量　炭化物少量



カマド

第１層　黒褐色土　10YR3/2　L.B・焼土粒少量　炭化物微量
第２層　褐色土　10YR4/4　ローム質土
第３層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒・焼土粒少量
第４層　黒褐色土　7.5YR2/1　焼土粒多量
第５層　暗褐色土　10YR3/3　ローム質土
第６層　暗褐色土　7.5YR4/4　焼土粒多量

図422　第492号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(25.0)	(17.0)	—	ヨコナデ	不明	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
2	土師器	甕	フク土	—	(7.2)	(7.6)	—	—	不明	—	—	不明	砂底	A?	磨滅

図423　第492号竪穴住居跡出土遺物

第492号竪穴住居跡（図422・図423）

［位　置］　ＮＬ・ＮＭ－471～473グリッドに位置する。

［重　複］　第482号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］　東壁３ｍ42cm、西壁３ｍ54cm、南壁３ｍ88cm、北壁３ｍ42cmの方形である。床面積は12.13㎡で、主軸方位はＮ－152°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁16cm、西壁56cm、南壁28cm、北壁30cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　幅6～28cm、深さ２～16cmの周溝が東壁、西壁、北壁の一部にコの字形に検出された。

［ピット］　検出されたピットは1個である。

［カマド］　南壁西側に構築されている。ソデから煙道にかけて粘土で覆って構築している。残存部分から煙道は地下式と推定され、住居跡外に123cmのびる。煙道底面は煙出し方向に緩やかに下降する。

［堆積土］　堆積土は7層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕が出土している。

［時　期］　出土遺物から、９世紀後半～10世紀前半に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）

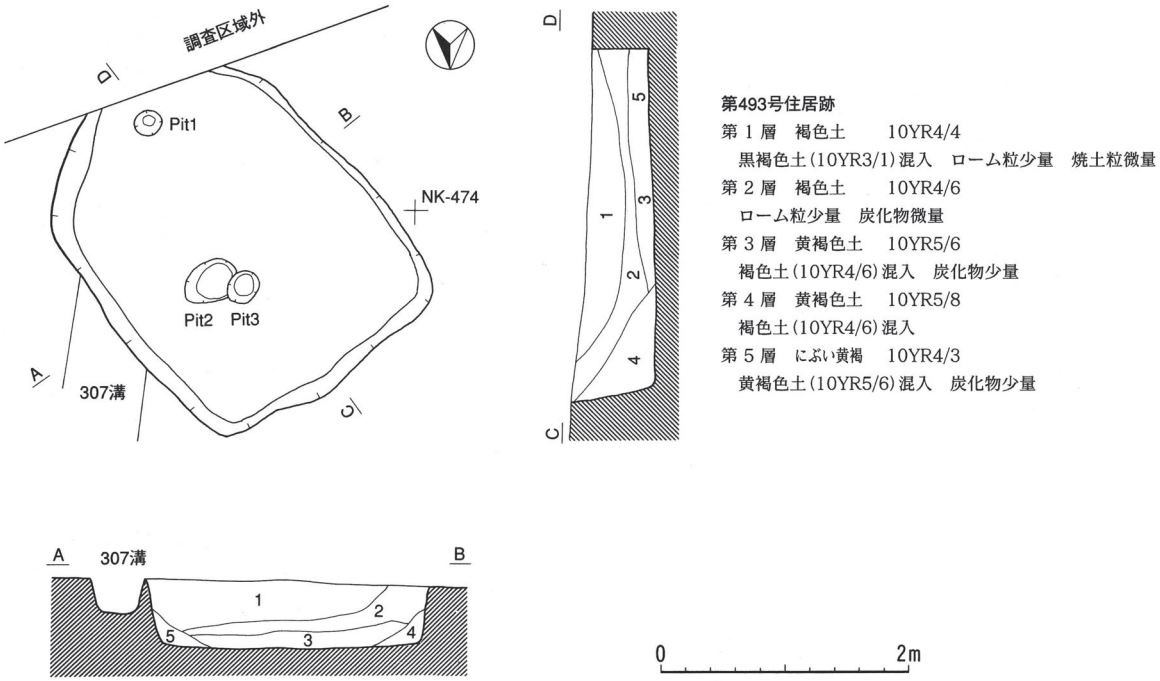


図424　第493号竪穴住居跡

第493号竪穴住居跡（図424）

［位　置］　ＮＫ・ＮＬ－475・476グリッドに位置する。

［重　複］　第307号溝と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　北壁２ｍ6cm、南側が調査区外にかかり、東壁が第307号溝に切られている。残存する東壁２ｍ12cm、西壁２ｍ20cm、南壁96cmで南側が広がる長方形と推定する。床面積は5.03㎡で、主軸方位は不明である。

［壁・床面］　壁高は、東壁56cm、西壁48cm、北壁68cmである。床面はほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

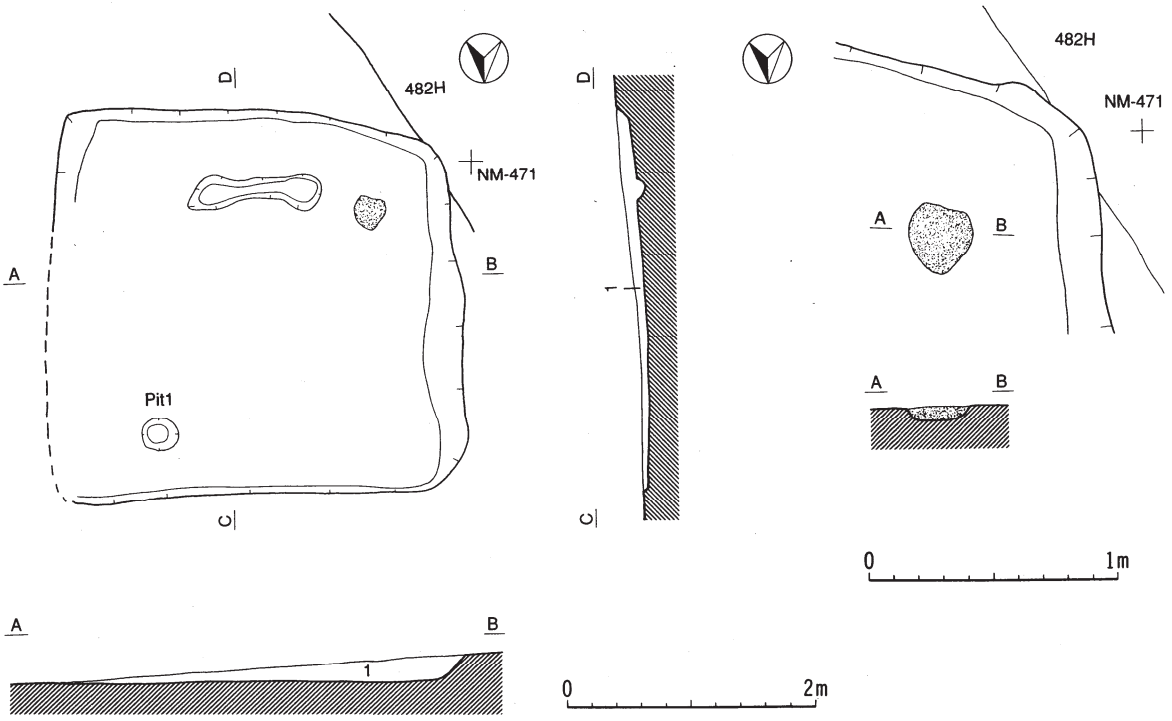
［ピット］　検出されたピットは３個である。いずれも柱穴とは考えられない。

［カマド］　検出されなかった。

［堆積土］　堆積土は５層に分層される。

［時　期］　時期は不明である。

（相馬良仁）



第494号住居跡
第１層　暗褐色土　10YR3/3　L.B・焼土粒・炭化物微量

図425　第494号竪穴住居跡

第494号竪穴住居跡（図425）

［位　置］　ＮＭ－470・471グリッドに位置する。

［重　複］　第482号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

［平面形・規模］　東壁の大半が削平されている。東壁96cm、西壁２m66cm、南壁３ｍ２cm、北壁３ｍ２cmの方形と推定される。床面積は8.48㎡で、主軸方位は不明である。

［壁・床面］　西壁20cm、南壁10cm、北壁２cmである。床面は北側に緩やかに傾斜する。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されたピットは１個である。

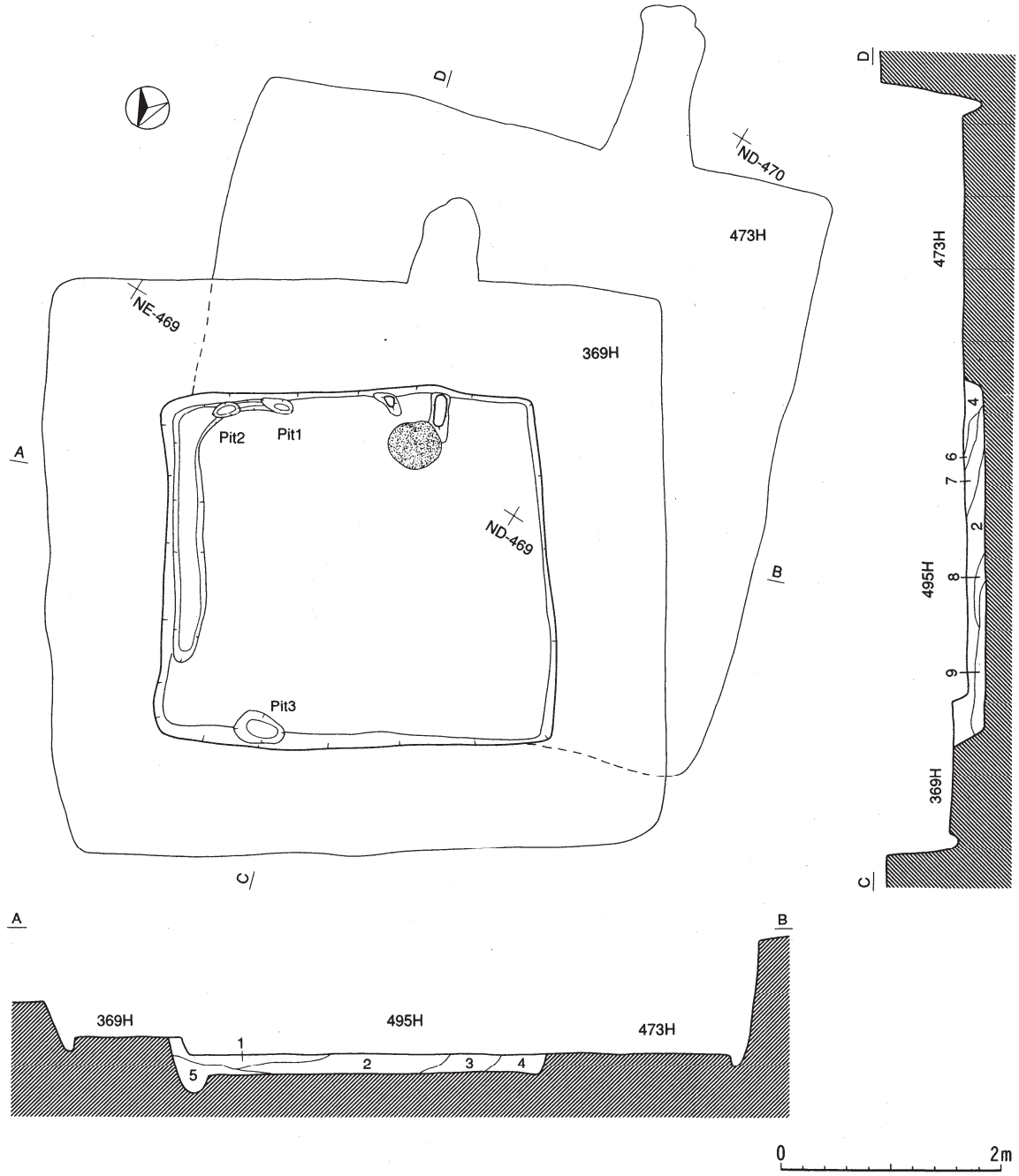
［カマド］　南西隅付近に火床面のみ確認された。

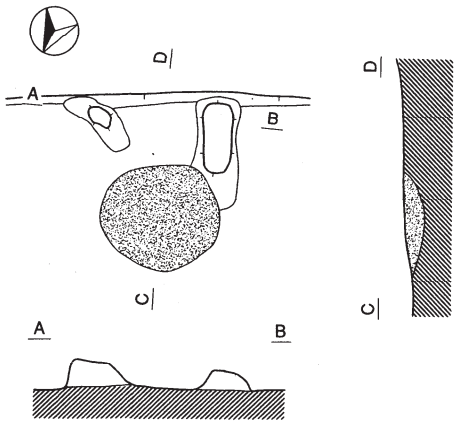
［その他の施設］　南壁から70～74cm西側に、幅16～28cm、長さ１ｍ８cmの溝を検出したが用途などについては不明である。

［堆積土］　堆積土は１層に分層される。

［時　期］　時期は不明である。

（相馬良仁）



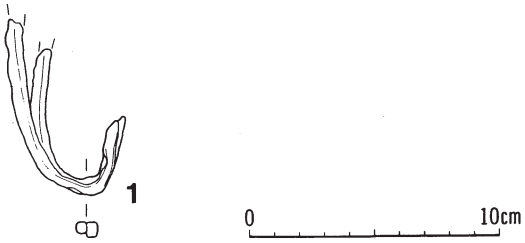


第495号住居跡

第１層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量　焼土粒・炭化物微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	L.B・焼土粒微量
第３層	黒褐色土	10YR3/2	L.B少量　焼土粒・炭化物微量
第４層	黒褐色土	10YR3/2	L.B・焼土粒・炭化物微量
第５層	暗褐色土	10YR3/3	L.B・焼土粒・炭化物微量
第６層	黒褐色土	10YR3/3	焼土粒・炭化物微量
第７層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物微量
第８層	黄褐色土	10YR5/6	炭化物微量
第９層	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒・炭化物微量

0　1m

図426　第495号竪穴住居跡



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	種　類	備　　考
		長さ	幅	厚さ			
1	床直	7.2	0.9	0.6	16.8	釣針？	2個体

図427　第495号竪穴住居跡出土遺物

第495号竪穴住居跡（図426・図427）

［位　置］　ＮＣ・ＮＤ－468・469グリッドに位置する。

［重　複］　第369号・第473号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

［平面形・規模］　東壁３ｍ８cm、西壁３ｍ14cm、南壁３ｍ36cm、北壁３ｍ60cmの方形である。床面積は10.24㎡で、主軸方位はＮ－149°－Ｅである。

［壁・床面］　本住居跡は、第473号住居跡に切られているため、床面から16cm上の部分は残存しない。残存する壁高は、東壁36cm、西壁18cm、南壁18cm、北壁40cmである。床面は平坦である。

［周　溝］　幅10～28cm、深さ11～17cmの周溝が、東壁、南壁の一部に検出された。

［ピット］　検出されたピットは３個である。いずれも柱穴とは考えられない。

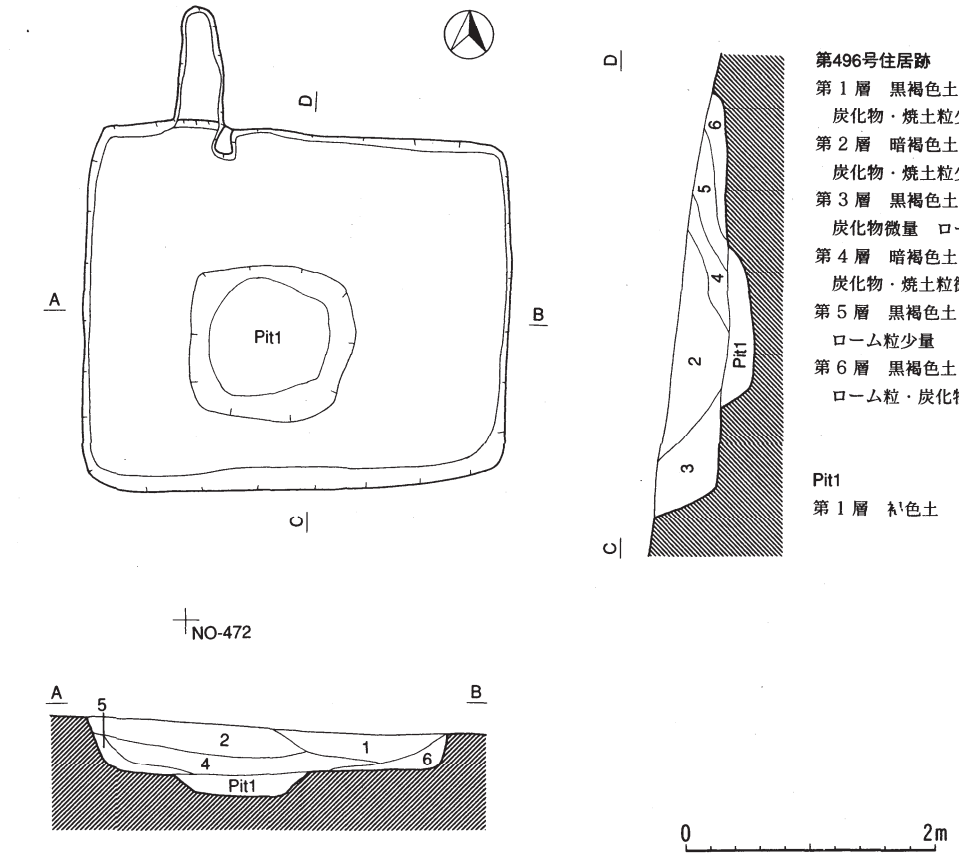
［カマド］　南壁西側に構築されている。火床面とソデのみ検出した。

［堆積土］　堆積土は層に９分層される。

［出土遺物］　床直から鉄製品が出土している。

［時　期］　重複関係や出土遺物から、９世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

（相馬良仁）



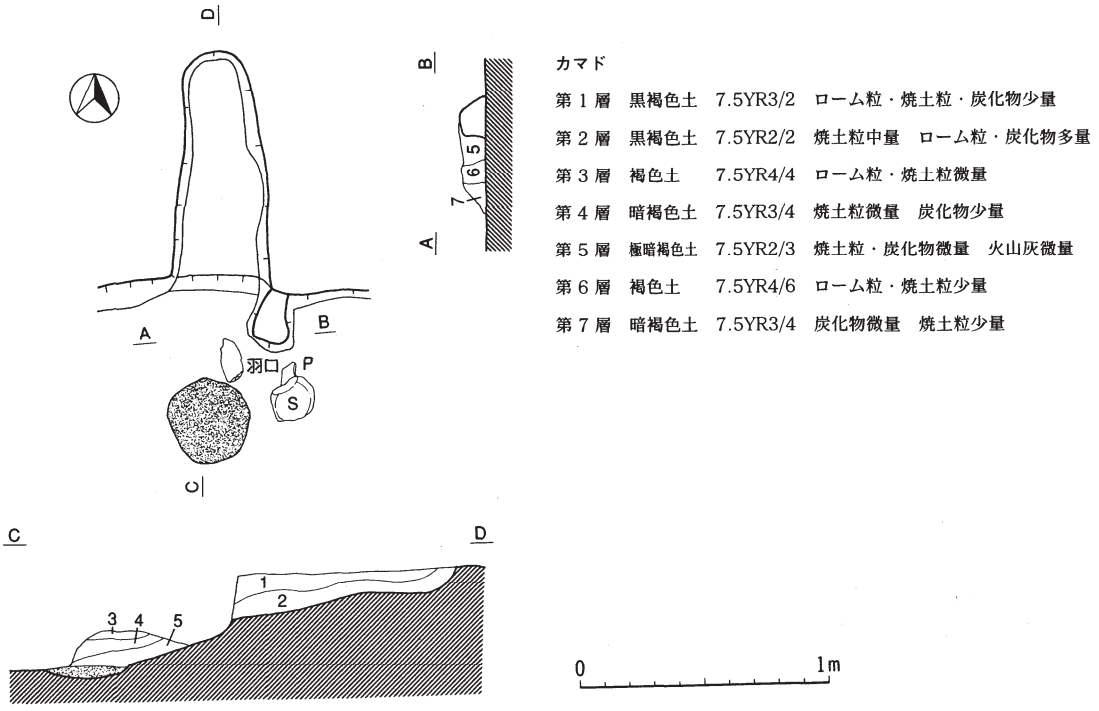
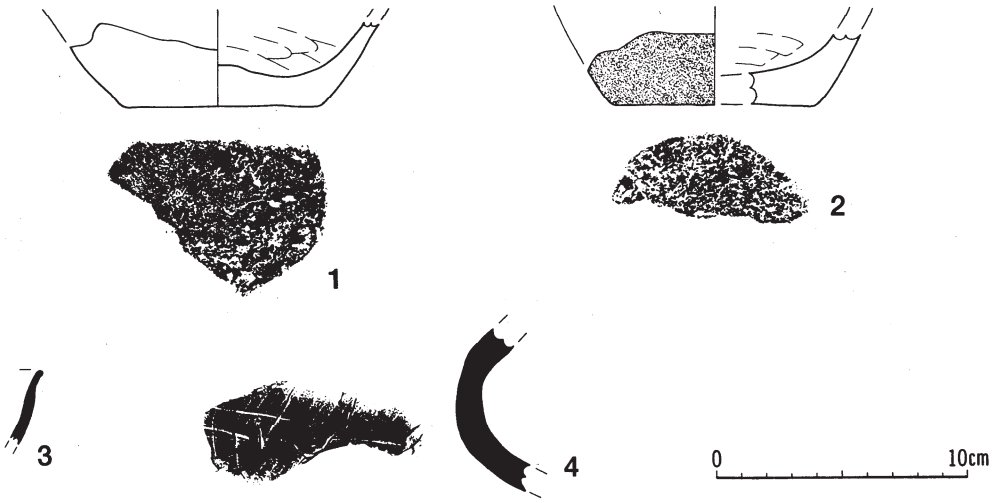


図428　第496号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	—	(3.4)	(10.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
2	土師器	甕	フク土	—	(2.9)	(8.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	砂底→ナデツケ	A	粘土付着
3	須恵器	坏	フク土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
4	須恵器	甕	フク土	—	(6.6)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラナデ	—	—	—	外面刻書

図429　第496号竪穴住居跡出土遺物

第496号竪穴住居跡（図428・図429）

［位　置］　ＮＮ・ＮＯ－470・471グリッドに位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁２ｍ50cm、西壁２ｍ76cm、南壁３ｍ24cm、北壁３ｍ12cmの方形である。床面積は8.61㎡で、主軸方位はＮ－３°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁11cm、西壁50cm、南壁40cm、北壁28cmである。床面はやや起伏がある。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　検出されなかった。

［カマド］　北壁西側に構築されている。ソデは東側のみ検出された。煙道は半地下式で、住居跡外に94cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに立ち上がる。焚き口から礫、羽口、土師器が出土したことから、これらを芯材として転用していたと考える。

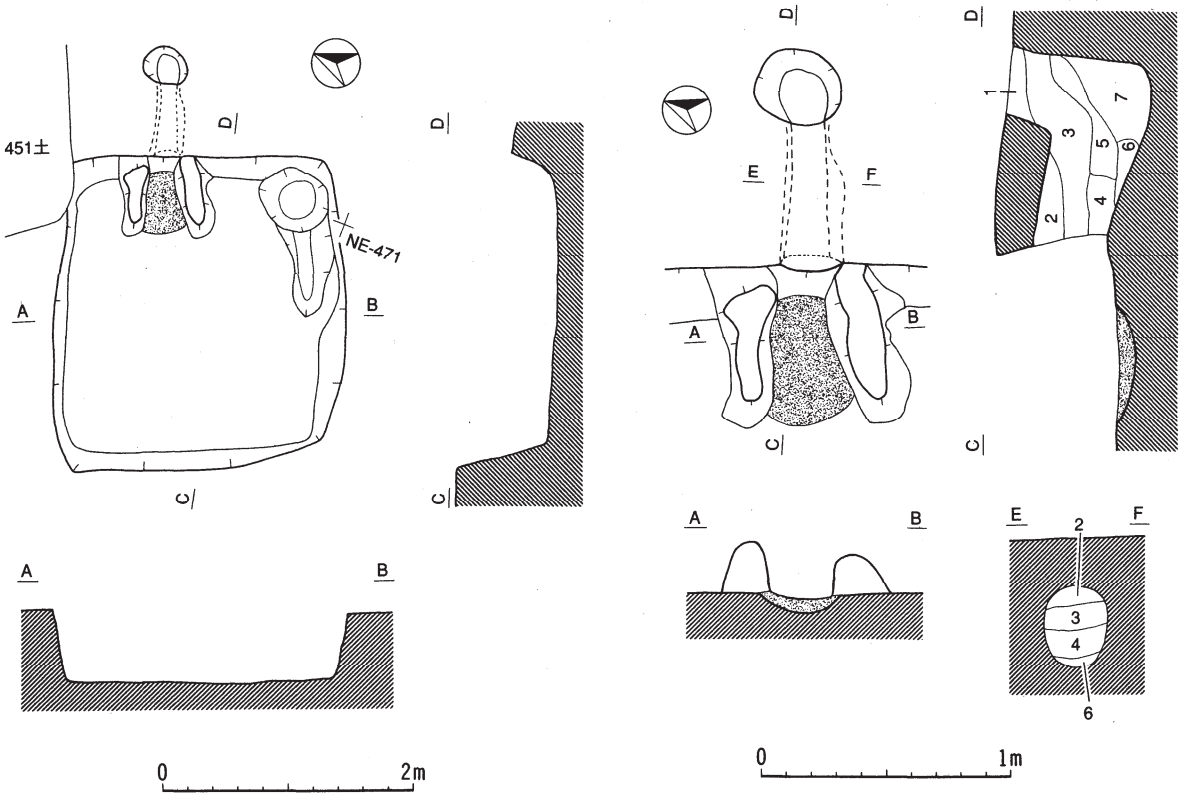
［その他の施設］　中央付近に、長軸132cm、短軸124cm、深さ24cmのピットを検出した。用途などについては不明である。

［堆積土］　堆積土は６層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土師器の甕や須恵器の甕、坏が出土している。

［時　期］　時期は不明である。

（相馬良仁）



カマド

第１層　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒・炭化物微量

第２層　暗褐色土　10YR3/3　軽石少量

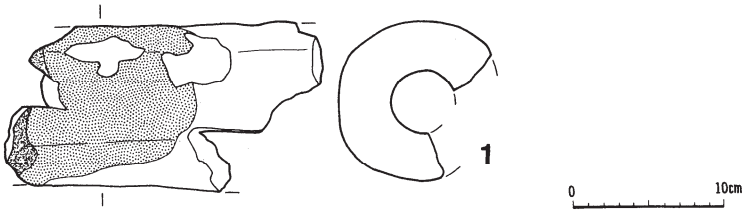
第３層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒・炭化物微量

第４層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量

第５層　褐色土　7.5YR4/4　ローム粒・焼土粒少量

第６層　褐色土　7.5YR4/6　ローム粒・焼土粒少量　炭化物多量

第７層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒多量　焼土粒・炭化物微量



図版番号	出土層位	計測値（cm）			重さ（g）	分類	調整	備　考
		長さ	外径	内径				
1	フク土	(21.4)	10.6×(10.2)	―	(1,260)	B	ナデ	

図430　第497号竪穴住居跡・出土遺物

第497号竪穴住居跡（図430）

［位　置］　ＮＤ・ＮＥ－470・471グリッドに位置する。

［重　複］　第451号土坑と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　西壁２ｍ４cm、南壁２ｍ28cm、北東隅を第451号土坑に切られている。東壁２ｍ２cm、北壁２ｍ10cmの方形である。床面積は4.49㎡で、主軸方位はＮ－70°－Ｅである。

［壁・床面］壁高は、東壁32cm、西壁74cm、南壁54cm、北壁60cmである。床面は東側がくぼむ。

［周　溝］　幅10～42cm、深さ６～10cmの周溝が南壁の一部に検出された。

［ピット］　検出されたピットは１個である。

［カマド］　東壁北側に構築されている。煙道は地下式で、住居跡外に87cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に緩やかに下降する。

［出土遺物］　覆土から土師器の羽口が出土している。

［時　期］　時期は不明である。

（相馬良仁）

青森県埋蔵文化財調査報告書　第264集

野　木　遺　跡　Ⅱ（第２分冊）

青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告

発行年月日　平成11年３月31日
発　　行　青森県教育委員会
〒030－0801
青森市新町２丁目３番１号
電話0177－22－1111（代表）
編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038－0042
青森市新城字天田内152－15
電話0177－88－5701　FAX. 0177－88－5702
印 刷 所　青森コロニー印刷
〒030－0943
青森市幸畑字松元62－3
電話0177－38－2021　FAX. 0177－38－6753

活彩あおもり
―輝くあおもり新時代―